

2023年度
大学院公共政策研究科
講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9001】 行政学基礎 [林 嶺那] 春学期後半/Spring(2nd half)	1
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9002】 比較行政研究 [申 龍徹] 秋学期前半/Fall(1st half)	2
【X9070】 NPO論 [柏木 宏] 春学期前半/Spring(1st half)	3
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9003】 公共哲学基礎 [宮川 裕二] 秋学期前半/Fall(1st half)....	5
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9005】 政策学基礎 [瀧元 初姫] 春学期前半/Spring(1st half)...	6
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9006】 現代政治分析研究 [白鳥 浩] 春学期前半/Spring(1st half)	7
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9007】 公共政策とジャーナリズム [白鳥 浩] 春学期後半/Spring(2nd half).....	8
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9009】 財政学基礎 [其田 茂樹] 春学期後半/Spring(2nd half) ..	9
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9010】 経済学基礎 [芦谷 典子] 春学期前半/Spring(1st half)...	10
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9011】 環境哲学・倫理学 [吉永 明弘] 秋学期後半/Fall(2nd half)	12
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9012】 環境法基礎 [永野 秀雄、立松 美也子、野村 撰雄] 春学期前半/Spring(1st half)	13
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9013】 地球環境学基礎 [塚本 直也] 春学期後半/Spring(2nd half)	15
国際政治学専攻_ 選択必修科目 (基礎理論) 【X9014】 国際政治学基礎 [大中 真] 春学期授業/Spring	16
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9016】 サステナビリティ研究入門 [杉戸 信彦、杉野 誠、高田 雅之、高橋 五月、松本 倫明、湯澤 規子、吉永 明弘] 春学期前半/Spring(1st half).....	17
【X9069】 市民社会ガバナンス論 [柏木 宏] 春学期後半/Spring(2nd half).....	18
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9018】 SDGs への招待 [小島 聡、(一社) SDGs 市民社会ネットワーク (新田英理子、長島美紀)] 秋学期前半/Fall(1st half).....	19
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9017】 公共政策と持続可能な社会づくり [林 嶺那、加藤 寛之、杉崎 和久、谷本 有美子、土山 希美枝、中筋 直哉、瀧元 初姫] 秋学期後半/Fall(2nd half)	20
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9019】 政策法務論 [神崎 一郎] 春学期後半/Spring(2nd half) ..	21
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9020】 立法学研究 [神崎 一郎] 春学期前半/Spring(1st half)...	23
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9021】 政策評価論 [南島 和久] 春学期後半/Spring(2nd half) ..	25
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9022】 社会調査法1 [竹元 秀樹] 春学期前半/Spring(1st half)	27
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9023】 社会調査法2 [中筋 直哉] 春学期後半/Spring(2nd half)	28
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9024】 社会調査法3 [見田 朱子] 秋学期前半/Fall(1st half)....	29
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9025】 社会調査法4 [見田 朱子] 秋学期後半/Fall(2nd half)...	31
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9026】 社会調査法5 [竹元 秀樹] 秋学期前半/Fall(1st half)....	33
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9027】 社会調査法6 [竹元 秀樹] 秋学期後半/Fall(2nd half)...	34
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9028】 社会調査法7 [見田 朱子] 春学期前半/Spring(1st half)	35
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9029】 社会調査法8 [竹元 秀樹] 春学期後半/Spring(2nd half)	37
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9030】 政策分析評価技法 [阿部 一知] 春学期後半/Spring(2nd half)	38
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9032】 数理モデル概論 [松本 倫明] 秋学期後半/Fall(2nd half)	39
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9033】 地域コンサルティング論 [佐谷 和江] 春学期前半/Spring(1st half).....	40
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9034】 ファシリテーション演習 [徳田 太郎] 春学期後半/Spring(2nd half).....	42
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9036】 政策研究概論 (外国語) ※韓国語 [申 龍徹] 春学期後半/Spring(2nd half)	44
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9037】 政策研究概論 (外国語) ※中国語 [毛 桂榮] 春学期授業/Spring	45
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9038】 公共政策論文技法1 [白鳥 浩、塚崎 裕子、笹地 真理] 春学期前半/Spring(1st half)	47

公共政策学専攻_(修士課程) 研究科共通科目【X9055】学術的文章作成演習 [渊元 初姫、西谷内 博美、中筋 直哉、宮川 路子、林 嶺那] 春学期前半/Spring(1st half).....	49
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9040】政策学研究 [渊元 初姫] 春学期後半/Spring(2nd half).....	50
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9041】行政学事例研究の方法 [林 嶺那] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	51
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9044】自治体議会論 [鍵屋 一] 春学期後半/Spring(2nd half).....	52
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9045】公務員制度研究 [森谷 明浩] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	53
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9046】都市政策概論 [杉崎 和久] 春学期後半/Spring(2nd half).....	54
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9047】都市政策事例研究 [杉崎 和久] 秋学期前半/Fall(1st half).....	55
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9048】政策過程研究 [土山 希美枝] 秋学期前半/Fall(1st half).....	56
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9049】自治体福祉政策論 [鏡 論] 秋学期前半/Fall(1st half).....	57
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9050】行政法事例研究 [牧瀬 稔、橘田 誠] 春学期後半/Spring(2nd half).....	59
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9051】コミュニティ制度論 [西谷内 博美] 春学期後半/Spring(2nd half).....	60
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9053】地方自治論 [土山 希美枝] 春学期前半/Spring(1st half).....	61
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9054】自治体経営論 [谷本 有美子] 春学期後半/Spring(2nd half).....	62
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9057】防災危機管理研究 [鍵屋 一] 春学期前半/Spring(1st half).....	64
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9058】雇用労働政策研究 [濱口 桂一郎] 秋学期前半/Fall(1st half).....	65
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9059】政策過程事例研究 [鄭 智允] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	66
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9060】政策開発実践論 [清水 英弥、富澤 守、高橋 良一、藤原 大] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	67
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9062】公共政策実践論 1 (公共政策研究の基礎) [青木 隆、鈴木 良祐] 春学期前半/Spring(1st half).....	68
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9063】公共政策実践論 2 (政府・行政の役割) [宇佐美 淳、栗田 昌之、折田 朋美] 春学期後半/Spring(2nd half).....	70
公共政策学専攻_(修士課程) 公共マネジメントコース専門科目【X9064】公共政策実践論 3 (地方自治研究) [渡部 朋宏、伊藤 哲也、小西 真樹] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	72
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9065】ガバナンス研究 [芦立 秀朗] 春学期前半/Spring(1st half).....	74
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9066】リージョナリズムと非政府組織 [大芝 亮] 秋学期集中/Intensive(Fall).....	75
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9067】企業論 [加藤 寛之] 春学期授業/Spring.....	76
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9068】グローバル企業戦略論 [多田 和美] 春学期後半/Spring(2nd half).....	78
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9073】市民社会とコミュニティ [渊元 初姫] 秋学期前半/Fall(1st half).....	79
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9074】都市ガバナンス論 [植木 豊] 秋学期前半/Fall(1st half).....	80
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9075】まちづくり研究 [野口 和雄] 秋学期授業/Fall.....	81
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9076】文化政策研究 [松本 茂章] 春学期前半/Spring(1st half).....	83
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9077】シンクタンク論 [蒔田 純] 秋学期集中/Intensive(Fall).....	85
公共政策学専攻_(修士課程) 政策研究コース専門科目【X9078】行政法研究 [天本 哲史] 秋学期前半/Fall(1st half).....	87

公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目【X9081】ジェンダー政策研究 [中野 洋恵] 春学期後半/Spring(2nd half).....	88
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目【X9082】公共哲学研究 [宮川 裕二] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	90
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目【X9083】イノベーション政策論 [糸久 正人] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	91
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目【X9084】外交政策論 [宮本 悟] 春学期後半/Spring(2nd half).....	93
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目【X9085】国際環境政策の社会学 [島田 昭仁] 春学期授業/Spring.....	95
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目【X9086】地球環境生態学 [鞠子 茂] 春学期集中/Intensive(Spring).....	96
公共政策学専攻_ (修士課程) 政策研究コース専門科目【X9088】比較公共政策論 [桐谷 仁] 春学期後半/Spring(2nd half).....	97
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9100】論文研究指導 1 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring.....	99
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9101】論文研究指導 1 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall.....	100
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9102】論文研究指導 1 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring.....	101
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9128】論文研究指導 2 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring.....	102
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9103】論文研究指導 1 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall.....	103
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9129】論文研究指導 2 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall.....	104
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9104】論文研究指導 1 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring.....	105
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9105】論文研究指導 1 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall.....	107
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9106】論文研究指導 1 A [林 嶺那] 春学期授業/Spring.....	109
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9107】論文研究指導 1 B [林 嶺那] 秋学期授業/Fall.....	110
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9108】論文研究指導 1 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring.....	111
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9109】論文研究指導 1 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall.....	112
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9110】論文研究指導 1 A [渊元 初姫] 春学期授業/Spring.....	113
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9111】論文研究指導 1 B [渊元 初姫] 秋学期授業/Fall.....	114
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9112】論文研究指導 1 A [糸久 正人] 春学期授業/Spring.....	115
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9113】論文研究指導 1 B [糸久 正人] 秋学期授業/Fall.....	116
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9114】論文研究指導 1 A [加藤 寛之] 春学期授業/Spring.....	117
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9115】論文研究指導 1 B [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall.....	118
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9116】論文研究指導 1 A [白鳥 浩] 春学期授業/Spring.....	119
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9117】論文研究指導 1 B [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall.....	120
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9120】論文研究指導 1 A [多田 和美] 春学期授業/Spring.....	121
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9121】論文研究指導 1 B [多田 和美] 秋学期授業/Fall.....	122
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9122】論文研究指導 1 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring.....	123
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9123】論文研究指導 1 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall.....	124
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9124】論文研究指導 1 A [中筋 直哉] 春学期授業/Spring.....	125
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9125】論文研究指導 1 B [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall.....	126
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9126】論文研究指導 2 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring.....	127
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9127】論文研究指導 2 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall.....	128
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9130】論文研究指導 2 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring.....	129
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9131】論文研究指導 2 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall.....	130
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9134】論文研究指導 2 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring.....	131
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9135】論文研究指導 2 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall.....	132
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9136】論文研究指導 2 A [渊元 初姫] 春学期授業/Spring.....	133
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9137】論文研究指導 2 B [渊元 初姫] 秋学期授業/Fall.....	134
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9140】論文研究指導 2 A [糸久 正人] 春学期授業/Spring.....	135
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9141】論文研究指導 2 B [糸久 正人] 秋学期授業/Fall.....	136
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9144】論文研究指導 2 A [白鳥 浩] 春学期授業/Spring.....	137
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9145】論文研究指導 2 B [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall.....	138
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9148】論文研究指導 2 A [多田 和美] 春学期授業/Spring.....	139
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9149】論文研究指導 2 B [多田 和美] 秋学期授業/Fall.....	140
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9150】論文研究指導 2 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring.....	141
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9151】論文研究指導 2 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall.....	142
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9152】論文研究指導 2 A [中筋 直哉] 春学期授業/Spring.....	143
公共政策学専攻_ (修士課程) 研究指導科目【X9153】論文研究指導 2 B [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall.....	144
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目)【X9300】公共政策学特殊研究 1 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring.....	145

公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9301】 公共政策学特殊研究 1 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall.....	146
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9302】 公共政策学特殊研究 1 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring.....	147
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9303】 公共政策学特殊研究 1 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall.....	148
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9304】 公共政策学特殊研究 1 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring.....	149
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9305】 公共政策学特殊研究 1 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall.....	150
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9306】 公共政策学特殊研究 1 A [林 嶺那] 春学期授業/Spring.....	151
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9307】 公共政策学特殊研究 1 B [林 嶺那] 秋学期授業/Fall.....	152
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9308】 公共政策学特殊研究 1 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring.....	153
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9309】 公共政策学特殊研究 1 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall.....	154
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9310】 公共政策学特殊研究 1 A [糸久 正人] 春学期授業/Spring.....	155
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9311】 公共政策学特殊研究 1 B [糸久 正人] 秋学期授業/Fall.....	156
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9312】 公共政策学特殊研究 1 A [加藤 寛之] 春学期授業/Spring.....	157
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9313】 公共政策学特殊研究 1 B [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall.....	158
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9314】 公共政策学特殊研究 1 A [白鳥 浩] 春学期授業/Spring.....	159
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9315】 公共政策学特殊研究 1 B [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall.....	160
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9318】 公共政策学特殊研究 1 A [多田 和美] 春学期授業/Spring.....	161
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9319】 公共政策学特殊研究 1 B [多田 和美] 秋学期授業/Fall.....	162
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9320】 公共政策学特殊研究 1 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring.....	163
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9321】 公共政策学特殊研究 1 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall.....	164
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9322】 公共政策学特殊研究 1 A [中筋 直哉] 春学期授業/Spring.....	165
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9323】 公共政策学特殊研究 1 B [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall.....	166
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9326】 公共政策学特殊研究 2 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring.....	167
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9327】 公共政策学特殊研究 2 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall.....	168
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9328】 公共政策学特殊研究 2 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring.....	169
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9329】 公共政策学特殊研究 2 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall.....	170
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9332】 公共政策学特殊研究 2 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring.....	171
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9333】 公共政策学特殊研究 2 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall.....	172
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9348】 公共政策学特殊研究 2 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring.....	173

公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9349】 公共政策学特殊研究 2 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	174
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9350】 公共政策学特殊研究 2 A [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	175
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9351】 公共政策学特殊研究 2 B [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	176
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9324】 公共政策学特殊研究 2 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	177
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9352】 公共政策学特殊研究 3 A [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	178
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9325】 公共政策学特殊研究 2 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	179
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9353】 公共政策学特殊研究 3 B [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	180
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9354】 公共政策学特殊研究 3 A [土山 希美枝] 春学期授業/Spring	181
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9355】 公共政策学特殊研究 3 B [土山 希美枝] 秋学期授業/Fall	182
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9356】 公共政策学特殊研究 3 A [名和田 是彦] 春学期授業/Spring	183
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9357】 公共政策学特殊研究 3 B [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall	184
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9358】 公共政策学特殊研究 3 A [林 嶺那] 春学期授業/Spring	185
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9359】 公共政策学特殊研究 3 B [林 嶺那] 秋学期授業/Fall	186
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9360】 公共政策学特殊研究 3 A [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring	187
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9361】 公共政策学特殊研究 3 B [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall	188
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9362】 公共政策学特殊研究 3 A [瀧元 初姫] 春学期授業/Spring	189
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9363】 公共政策学特殊研究 3 B [瀧元 初姫] 秋学期授業/Fall	190
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9366】 公共政策学特殊研究 3 A [糸久 正人] 春学期授業/Spring	191
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9367】 公共政策学特殊研究 3 B [糸久 正人] 秋学期授業/Fall	192
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9368】 公共政策学特殊研究 3 A [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	193
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9369】 公共政策学特殊研究 3 B [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	194
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9370】 公共政策学特殊研究 3 A [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	195
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9371】 公共政策学特殊研究 3 B [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall	196
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9376】 公共政策学特殊研究 3 A [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	197
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9377】 公共政策学特殊研究 3 B [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	198
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9378】 公共政策学特殊研究 3 A [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	199
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9379】 公共政策学特殊研究 3 B [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	200
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9400】 公共政策ワークショップ (公共) 1 A [瀧元 初姫] 春学期授業/Spring	201

公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9401】 公共政策ワークショップ (公共) 1 B [淵元 初姫] 秋学期授業/Fall.....	202
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9402】 公共政策ワークショップ (公共) 2 A [淵元 初姫] 春学期授業/Spring	203
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9403】 公共政策ワークショップ (公共) 2 B [淵元 初姫] 秋学期授業/Fall.....	204
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9404】 公共政策ワークショップ (公共) 3 A [淵元 初姫] 春学期授業/Spring	205
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9405】 公共政策ワークショップ (公共) 3 B [淵元 初姫] 秋学期授業/Fall.....	206
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9406】 公共政策ワークショップ (政策研究) 1 A [加藤 寛之、中筋 直哉] 春学期授業/Spring.....	207
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9407】 公共政策ワークショップ (政策研究) 1 B [加藤 寛之、中筋 直哉] 秋学期授業/Fall.....	208
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9408】 公共政策ワークショップ (政策研究) 2 A [加藤 寛之、中筋 直哉] 春学期授業/Spring.....	209
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9409】 公共政策ワークショップ (政策研究) 2 B [加藤 寛之、中筋 直哉] 秋学期授業/Fall.....	210
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9410】 公共政策ワークショップ (政策研究) 3 A [加藤 寛之、中筋 直哉] 春学期授業/Spring.....	211
公共政策学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (ワークショップ科目) 【X9411】 公共政策ワークショップ (政策研究) 3 B [加藤 寛之、中筋 直哉] 秋学期授業/Fall.....	212
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9500】 行政学基礎 [林 嶺那] 春学期後半/Spring(2nd half).....	213
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9501】 比較行政研究 [申 龍徹] 秋学期前半/Fall(1st half)	214
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9502】 公共哲学基礎 [宮川 裕二] 秋学期前半/Fall(1st half).....	215
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9503】 政策学基礎 [淵元 初姫] 春学期前半/Spring(1st half).....	216
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9504】 現代政治分析研究 [白鳥 浩] 春学期前半/Spring(1st half).....	217
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9505】 公共政策とジャーナリズム [白鳥 浩] 春学期後半/Spring(2nd half).....	218
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9507】 財政学基礎 [其田 茂樹] 春学期後半/Spring(2nd half).....	219
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9508】 経済学基礎 [芦谷 典子] 春学期前半/Spring(1st half).....	220
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9509】 環境哲学・倫理学 [吉永 明弘] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	222
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9510】 環境法基礎 [永野 秀雄、立松 美也子、野村 撰雄] 春学期前半/Spring(1st half).....	223
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9511】 地球環境学基礎 [塚本 直也] 春学期後半/Spring(2nd half).....	225
国際政治学専攻_ 選択必修科目 (基礎理論) 【X9512】 国際政治学基礎 [大中 真] 春学期授業/Spring	226
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9514】 サステナビリティ研究入門 [杉戸 信彦、杉野 誠、高田 雅之、高橋 五月、松本 倫明、湯澤 規子、吉永 明弘] 春学期前半/Spring(1st half).....	227
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9515】 公共政策と持続可能な社会づくり [林 嶺那、加藤 寛之、杉崎 和久、谷本 有美子、土山 希美枝、中筋 直哉、淵元 初姫] 秋学期後半/Fall(2nd half) .	228
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9516】 S D G s への招待 [小島 聡、(一社) SDGs 市民社会ネットワーク (新田英理子、長島美紀)] 秋学期前半/Fall(1st half).....	229
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9517】 政策法務論 [神崎 一郎] 春学期後半/Spring(2nd half).....	230
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9518】 立法学研究 [神崎 一郎] 春学期前半/Spring(1st half).....	232
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9519】 政策評価論 [南島 和久] 春学期後半/Spring(2nd half).....	234

サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9520】 社会調査法 1 [竹元 秀樹] 春学期前半/Spring(1st half).....	236
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9521】 社会調査法 2 [中筋 直哉] 春学期後半/Spring(2nd half).....	237
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9522】 社会調査法 3 [見田 朱子] 秋学期前半/Fall(1st half).....	238
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9523】 社会調査法 4 [見田 朱子] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	240
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9524】 社会調査法 5 [竹元 秀樹] 秋学期前半/Fall(1st half).....	242
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9525】 社会調査法 6 [竹元 秀樹] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	243
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9526】 社会調査法 7 [見田 朱子] 春学期前半/Spring(1st half).....	244
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9527】 社会調査法 8 [竹元 秀樹] 春学期後半/Spring(2nd half).....	246
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9528】 政策分析評価技法 [阿部 一知] 春学期後半/Spring(2nd half).....	247
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9530】 数理モデル概論 [松本 倫明] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	248
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9531】 地域コンサルティング論 [佐谷 和江] 春学期前半/Spring(1st half).....	249
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9532】 ファシリテーション演習 [徳田 太郎] 春学期後半/Spring(2nd half).....	251
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9533】 政策研究概論 (外国語) ※韓国語 [申 龍徹] 春学期後半/Spring(2nd half).....	253
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9534】 政策研究概論 (外国語) ※中国語 [毛 桂榮] 春学期授業/Spring.....	254
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9535】 公共政策論文技法 1 [白鳥 浩、塚崎 裕子、笹米地 真理] 春学期前半/Spring(1st half).....	256
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9538】 環境私法 [永野 秀雄] 秋学期前半/Fall(1st half).....	258
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9539】 環境政策法務と条例 [朝賀 広伸] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	259
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9540】 国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	261
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9543】 外交政策論 [宮本 悟] 春学期後半/Spring(2nd half).....	262
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9544】 環境ガバナンスⅡ [野村 慎雄] 秋学期前半/Fall(1st half).....	264
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9545】 環境社会論 [藤田 研二郎] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	265
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9546】 地域環境文化研究 [梶 裕史] 春学期前半/Spring(1st half).....	267
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9551】 サステイナビリティ学事例研究Ⅰ [辻 英史] 春学期後半/Spring(2nd half).....	268
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9553】 環境経営論 [金藤 正直] 春学期授業/Spring.....	270
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9554】 サステイナビリティ・レポート [八木 裕之] 秋学期前半/Fall(1st half).....	272
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9555】 環境経済論 [杉野 誠] 春学期前半/Spring(1st half).....	274
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9557】 環境と知的財産権 [中里 妃沙子] 春学期後半/Spring(2nd half).....	276
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9559】 環境ガバナンスⅢ [湯澤 規子] 秋学期前半/Fall(1st half).....	278

サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9560】 グローバル環境経営論 [白鳥和彦] 秋学期前半/Fall(1st half).....	279
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9561】 開発経済論 [山田 英嗣] 秋学期前半/Fall(1st half).....	280
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9562】 国際環境協力論 [藤倉 良] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	282
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9563】 社会開発論 [新村 恵美] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	283
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9564】 国際協力フィールドスタディ [岡松 暁子] 秋学期集中/Intensive(Fall).....	284
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9566】 ヒューマン・エコロジー [高橋 五月] 秋学期前半/Fall(1st half).....	285
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9568】 国際環境政策の社会学 [島田 昭仁] 春学期授業/Spring.....	286
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9569】 環境工学の基礎 [浦野 真弥] 春学期前半/Spring(1st half).....	287
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9571】 公衆衛生研究 [宮川 路子] 春学期前半/Spring(1st half).....	289
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9573】 大気人間環境論 [北川 徹哉] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	290
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9575】 地球環境生態学 [鞠子 茂] 春学期集中/Intensive(Spring).....	291
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) サステイナビリティ学専攻専門科目 【X9576】 サステイナビリティ学事例研究Ⅱ [杉戸 信彦] 春学期後半/Spring(2nd half).....	292
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究科共通科目 【X9578】 学術的文章作成演習 [淵元 初姫、西谷内 博美、中筋 直哉、宮川 路子、林 嶺那] 春学期前半/Spring(1st half).....	293
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9601】 論文研究指導 1 B [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall.....	294
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9602】 論文研究指導 1 A [金藤 正直] 春学期授業/Spring.....	295
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9603】 論文研究指導 1 B [金藤 正直] 秋学期授業/Fall.....	296
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9604】 論文研究指導 1 A [北川 徹哉] 春学期授業/Spring.....	297
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9605】 論文研究指導 1 B [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall.....	298
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9606】 論文研究指導 1 A [小島 聡] 春学期授業/Spring.....	299
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9607】 論文研究指導 1 B [小島 聡] 秋学期授業/Fall.....	300
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9608】 論文研究指導 1 A [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring.....	301
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9609】 論文研究指導 1 B [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall.....	302
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9610】 論文研究指導 1 A [杉野 誠] 春学期授業/Spring.....	303
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9611】 論文研究指導 1 B [杉野 誠] 秋学期授業/Fall.....	304
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9612】 論文研究指導 1 A [高田 雅之] 春学期授業/Spring.....	305
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9613】 論文研究指導 1 B [高田 雅之] 秋学期授業/Fall.....	306
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9614】 論文研究指導 1 A [高橋 五月] 春学期授業/Spring.....	307
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9615】 論文研究指導 1 B [高橋 五月] 秋学期授業/Fall.....	308
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9618】 論文研究指導 1 A [辻 英史] 春学期授業/Spring.....	309
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9619】 論文研究指導 1 B [辻 英史] 秋学期授業/Fall.....	310
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9620】 論文研究指導 1 A [永野 秀雄] 春学期授業/Spring.....	311
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9621】 論文研究指導 1 B [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall.....	312
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9622】 論文研究指導 1 A [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring.....	313
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9722】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring.....	314
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9723】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall.....	315
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9623】 論文研究指導 1 B [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall.....	316
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9624】 論文研究指導 1 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring.....	317
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9625】 論文研究指導 1 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall.....	318
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9626】 論文研究指導 1 A [松本 倫明] 春学期授業/Spring.....	319
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9627】 論文研究指導 1 B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall.....	320
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9628】 論文研究指導 1 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring.....	321
サステイナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9629】 論文研究指導 1 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall.....	322

サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9630】 論文研究指導 1 A [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	323
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9631】 論文研究指導 1 B [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	324
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9632】 論文研究指導 1 A [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	325
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9633】 論文研究指導 1 B [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	326
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9634】 論文研究指導 1 A [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	327
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9635】 論文研究指導 1 B [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	328
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9636】 論文研究指導 1 A [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	329
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9637】 論文研究指導 1 B [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	330
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9638】 論文研究指導 2 A [金藤 正直] 春学期授業/Spring	331
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9639】 論文研究指導 2 B [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	332
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9640】 論文研究指導 2 A [小島 聡] 春学期授業/Spring	333
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9641】 論文研究指導 2 B [小島 聡] 秋学期授業/Fall	334
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9642】 論文研究指導 2 A [高田 雅之] 春学期授業/Spring	335
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9643】 論文研究指導 2 B [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	336
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9648】 論文研究指導 2 A [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	337
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9649】 論文研究指導 2 B [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	338
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9650】 論文研究指導 2 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring	339
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9651】 論文研究指導 2 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	340
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9652】 論文研究指導 2 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring	341
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9653】 論文研究指導 2 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	342
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9656】 論文研究指導 2 A [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	343
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9657】 論文研究指導 2 B [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	344
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9658】 論文研究指導 2 A [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	345
サステナビリティ学専攻_ (修士課程) 研究指導科目 【X9659】 論文研究指導 2 B [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	346
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9701】 サステナビリティ特殊研究 1 B [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	347
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9702】 サステナビリティ特殊研究 1 A [金藤 正直] 春学期授業/Spring	348
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9703】 サステナビリティ特殊研究 1 B [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	349
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9704】 サステナビリティ特殊研究 1 A [北川 徹哉] 春学期授業/Spring	350
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9705】 サステナビリティ特殊研究 1 B [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	351
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9706】 サステナビリティ特殊研究 1 A [小島 聡] 春学期授業/Spring	352
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9707】 サステナビリティ特殊研究 1 B [小島 聡] 秋学期授業/Fall	353
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9708】 サステナビリティ特殊研究 1 A [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	354
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9709】 サステナビリティ特殊研究 1 B [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	355
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9710】 サステナビリティ特殊研究 1 A [杉野 誠] 春学期授業/Spring	356
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9711】 サステナビリティ特殊研究 1 B [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	357
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9712】 サステナビリティ特殊研究 1 A [高田 雅之] 春学期授業/Spring	358
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9713】 サステナビリティ特殊研究 1 B [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	359
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9714】 サステナビリティ特殊研究 1 A [高橋 五月] 春学期授業/Spring	360
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9715】 サステナビリティ特殊研究 1 B [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	361
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9718】 サステナビリティ特殊研究 1 A [辻 英史] 春学期授業/Spring	362

サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9719】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [辻 英史] 秋学期授業/Fall.....	363
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9720】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [永野 秀雄] 春学期授業/Spring.....	364
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9721】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall.....	365
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9724】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring.....	366
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9725】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall.....	367
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9726】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [松本 倫明] 春学期授業/Spring.....	368
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9727】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall.....	369
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9728】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring.....	370
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9729】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall.....	371
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9730】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [湯澤 規子] 春学期授業/Spring.....	372
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9731】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall.....	373
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9732】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [吉永 明弘] 春学期授業/Spring.....	374
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9733】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall.....	375
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9734】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring.....	376
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9735】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall.....	377
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9736】 サステイナビリティ特殊研究 1 A [渡邊 誠] 春学期授業/Spring.....	378
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9737】 サステイナビリティ特殊研究 1 B [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall.....	379
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9744】 サステイナビリティ特殊研究 3 A [金藤 正直] 春学期授業/Spring.....	380
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9745】 サステイナビリティ特殊研究 3 B [金藤 正直] 秋学期授業/Fall.....	381
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9750】 サステイナビリティ特殊研究 3 A [宮川 路子] 春学期授業/Spring.....	382
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9751】 サステイナビリティ特殊研究 3 B [宮川 路子] 秋学期授業/Fall.....	383
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9752】 サステイナビリティ特殊研究 2 A [金藤 正直] 春学期授業/Spring.....	384
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9753】 サステイナビリティ特殊研究 2 B [金藤 正直] 秋学期授業/Fall.....	385
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9748】 サステイナビリティ特殊研究 3 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring.....	386
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9754】 サステイナビリティ特殊研究 2 A [藤倉 良] 春学期授業/Spring.....	387
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9749】 サステイナビリティ特殊研究 3 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall.....	388
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9755】 サステイナビリティ特殊研究 2 B [藤倉 良] 秋学期授業/Fall.....	389
サステイナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9756】 サステイナビリティ特殊研究 2 A [吉永 明弘] 春学期授業/Spring.....	390

サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9757】 サステナビリティ特殊研究 2 B [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	391
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9758】 サステナビリティ特殊研究 3 A [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	392
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 必修科目 (研究指導科目) 【X9759】 サステナビリティ特殊研究 3 B [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall.....	393
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9800】 環境法基礎 D [永野 秀雄、立松 美也子、野村 撰雄] 春学期前半/Spring(1st half).....	394
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9801】 地球環境学基礎 D [塚本 直也] 春学期後半/Spring(2nd half)	396
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9804】 数理モデル概論 D [松本 倫明] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	397
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9805】 環境社会論 D [藤田 研二郎] 秋 学期後半/Fall(2nd half)	398
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9806】 環境経営論 D [金藤 正直] 春学 期授業/Spring	400
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9808】 環境私法 D [永野 秀雄] 秋学期 前半/Fall(1st half).....	402
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9811】 大気人間環境論 D [北川 徹哉] 秋学期後半/Fall(2nd half).....	403
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9812】 環境工学の基礎 D [浦野 真弥] 春学期前半/Spring(1st half)	404
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9814】 環境経済論 D [杉野 誠] 春学期 前半/Spring(1st half)	406
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9816】 公衆衛生研究 D [宮川 路子] 春 学期前半/Spring(1st half)	408
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9819】 国際環境法 D [岡松 暁子] 秋学 期後半/Fall(2nd half)	410
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9820】 国際環境協力論 D [藤倉 良] 秋 学期後半/Fall(2nd half)	411
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9821】 国際協力フィールドスタディ D [岡 松 暁子] 秋学期集中/Intensive(Fall)	412
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9822】 ヒューマン・エコロジー D [高橋 五月] 秋学期前半/Fall(1st half).....	413
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9823】 サステナビリティ学事例研究 D I [辻 英史] 春学期後半/Spring(2nd half).....	414
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9824】 サステナビリティ学事例研究 D II [杉戸 信彦] 春学期後半/Spring(2nd half)	416
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9827】 環境ガバナンス D II [野村 撰 雄] 秋学期前半/Fall(1st half).....	417
サステナビリティ学専攻_ (博士後期課程) 選択必修科目 (専門科目) 【X9828】 環境ガバナンス D III [湯澤 規 子] 秋学期前半/Fall(1st half).....	418

POL500P1 - 002

行政学基礎

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

【到達目標】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「行政学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解 60 分、論文報告資料準備 120 分で、合計 180 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 4290 円
曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 2970 円

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーの提出（50%）

論文の報告（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

行政や政策に関するニュースを見る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500P1 - 003

比較行政研究

申 龍徹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較行政研究の学際的理解及び比較研究手法の習得

【到達目標】

- ①比較行政研究の理論展開を分析することにより、比較行政研究の理論的背景を理解できる（比較行政運動の展開）。
- ② OECD 加盟国における多様な行政現象の中から事例分析を行い、国際比較の方法論を体系的に習得できる（主要国の行政システムの展開と特徴）。
- ③実際の行政活動の改善に役立つ政策案が提案できる専門能力の習得ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「比較行政研究」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

国際化の深化という現代社会の行政現象を分析する上で欠かせない比較行政研究を研究対象とするこの授業は、講義と発表で進める。講義では、比較行政研究の学際的な発展過程について理解を深めるとともに、OECD 加盟国の行政制度及び行政過程、個別行政の特徴に関する国際比較を通じて、現在の行政課題に対する政策対案の作成を可能とする政策形成能力の向上を目指す。前半は講義を中心に、後半は受講者の発表と討論で構成する。発表では、受講者が設定したテーマ（行政課題）に対し、国内や OECD 諸国との事例の比較・分析を通じて、もっとも有効と思われる対案の作成を目指す。原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	授業の概要説明	個人課題の設定、発表スケジュールの調整
2 回目	比較行政の概念と歴史的展開及び比較行政と発展行政の理論統合	形成期、沈滞期、転換期、跳躍期の比較行政研究 比較行政研究と発展行政論の関係、理論的統合
3 回目	行政システムの国際比較 A	英米独仏の行政システムの比較分析
4 回目	行政システムの国際比較 B	北欧諸国の行政システムの比較分析
5 回目	行政システムの国際比較 C	NICs の行政システム及び日韓の行政システムの比較分析
6 回目	比較行政研究事例分析 A	受講者の事例発表・討論
7 回目	比較行政研究事例分析 B	受講者の事例発表・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前に講義レジュメ及び参考資料などをアップする。

- ・ Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
- ・ Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【参考書】

特に限定しないが、主に参考している資料は、以下の通り。

- ・ Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
- ・ Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【成績評価の方法と基準】

質問力（25%）、調査力（25%）、構成力（25%）、プレゼンテーション（25%）の 4 つによる絶対評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者には関心のあるテーマの発表が課題として課されるので、事前準備が必要です。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 行政学、比較行政

<研究テーマ> 自治行政の国際比較

<主要研究業績>

『現代日本の公務員人事—政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』（執筆分担、第一法規、2019）

『公務員制度改革という時代』（執筆分担、敬文堂、2017）

『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）

『アジアの中の日本官僚：歴史と現在』（執筆分担、勉誠出版、2010）

『韓国行政・自治入門』（単著、公人社、2006）

『自治体経営改革』（執筆分担、公人社、2006）

【Outline (in English)】

Interdisciplinary understanding of comparative administrative research and acquisition of comparative research method

Understand the theoretical development of comparative administrative research and understand the theoretical background of comparative administrative research (development of comparative administrative movement)

Required reading references

Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%).

SOC500P1 - 207

NPO論

柏木 宏

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO（民間非営利組織）は、サービス活動の提供による社会・地域問題への対応と、社会変革に向けたアドボカシー活動の両輪によって成り立っている。これらの活動により、NPOは、市民セクターの形成・発展の中心的な役割を担うとともに、市民社会を構築するための重要なツールとして機能している。日本におけるNPOは、1998年のNPO法成立によって具体化、顕在化したといえるが、「NPOの先進国、アメリカ」では、1世紀以上前から生成し、1960年代以降、急速に発展している。本授業では、NPOに関する基本的な概念の整理、こうした日米におけるNPOの歴史的背景や意義、現状と課題などについて理解することを目的とする。

【到達目標】

上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、日米を中心としたNPOに関する歴史や制度、社会的な役割、企業や行政との協働を含めた活動の形態などについて基本的な知識を幅広く獲得することができる。また、日本だけでなく、アメリカをはじめとした世界全体におけるコロナ禍の現状や課題を含めた、NPOの今日的課題や意義について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「NPO論1」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「NPO論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻市民社会ガバナンスコースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

連帯社会インスティテュート「NPO論（現状と課題）I」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連している。

【授業の進め方と方法】

・教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。

・学生の発表
講義への理解度を確保するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジюмеに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。

・授業の形式
授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスコード等を学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOに関する知識や関心を聞き、今後の授業に反映させる。
第2回	非営利と公益の概念整理	NPOにとって最も重要といえる「非営利」と「公益」というふたつの概念を整理、理解する。
第3回	ボランティア活動とNPO	ボランティア活動とNPO活動の同質性と異質性、また関係性について検討、理解する。
第4回	NPO法の成立とその後	阪神淡路大震災後のボランティア活動の広がり、その影響もあり1998年に成立したNPO法の背景と成立過程、法の概要を整理するとともに、同法の成立後のNPOの発展や税制優遇制度の導入など、同法に関連した重要な動きやコロナ禍にNPOが直面した課題などを概観する。

第5回	世界のNPO	ジョンズ・ホプキンス大学の調査をベースに、世界のNPOを概観する。
第6回	アメリカのNPO	世界最大のNPOセクターをもつアメリカで、NPOがどのように発展し、制度が築かれてきたのかについて考える。そのうえで、コロナ禍を含めたアメリカのNPOセクターの現状について最新のデータを用いて把握するとともに、課題についても検討する。
第7回	授業のふりかえり	第2回から6回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、フィードバックを受ける。
第8回	レポートのアウトラインの発表	NPOのサービス活動とアドボカシー活動が、どのように関連して展開され、NPOのサービスの充実や社会課題に関する政策の形成に寄与しているのか、理論的に検討する。
第9回	NPOのサービス活動	日本とアメリカにおけるNPOのサービス活動とアドボカシー活動について、その実態について事例を含め、検討、理解する。
第10回	NPOのアドボカシー活動	NPOと行政・企業との関係の理論的な枠組みを検討する。
第11回	NPOの協働に関する理論の検討	日米においてNPOと行政・企業の間で、どのように協働が展開されているのか、事例を含め、検討する。
第12回	NPO協働に関する事例研究	第9回から12回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第13回	授業のふりかえり	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPOの社会的役割や現状、課題などについて、議論する。
第14回	レポートの発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】

柏木宏編著『コロナ禍における日米のNPO』明石書店、2020年。
その他、受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50%、「ふりかえり」とレポート50%。
レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン授業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援システム利用できる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

NPO論、NPOマネジメント

<研究テーマ>

日米のNPO、社会運動

<主要研究業績>

- ・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991年
- ・『企業経営と人権』解放出版社、1993年
- ・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994年
- ・『災害ボランティアとNPO』共編著、朝日新聞社、1995年
- ・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996年
- ・『NPOインターンシップの魅力』共編著、アルク、1998年
- ・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999年
- ・『NPOマネジメントハンドブック』明石書店、2004年
- ・『指定管理者制度とNPO』明石書店、2007年
- ・『NPOと政治』明石書店、2008年
- ・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011年
- ・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013年
- ・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017年
- ・『未来を切り拓く女性たちのNPO活動』共著、明石書店、2019年
- ・『コロナ禍における日米のNPO』編著、明石書店、2020年

【Outline (in English)】

Nonprofit organizations (NPOs) have two primary roles; to deal with social and community problems by providing services and to advocate these problems to solve them. By these works, NPOs take a leading role in developing civil society. NPOs in Japan were recognized in 1998 through the law promoting nonprofit activities. In the US, NPOs started more than a century ago and have developed rapidly since the 1960s. This class analyzes their significance and examines the history and current situations in the US and Japan.

PHL500P1 - 004

公共哲学基礎

宮川 裕二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの相関について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻「公共哲学基礎」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的講義／文献講読 ：坂本後掲書序章・第1章	導入的講義、「社会思想とは何か」、「マキアヴェリの社会思想」
第2回	文献講読：坂本後掲書 第2章・第3章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第3回	文献講読：坂本後掲書 第4章・第5章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第4回	文献講読：坂本後掲書 第6章・第7章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想——保守から改革へ」
第5回	文献講読：坂本後掲書 第8章・第9章	「近代自由主義の批判と継承——後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第6回	文献講読：坂本後掲書 第10章・第11章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第7回	文献講読：坂本後掲書 第12章・第13章・ 終章	「『全体主義』批判の社会思想——フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベラリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共政策の政治社会学

<研究テーマ>

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

<主要研究業績>

『日本の「新しい公共（空間）」政策言説：新自由主義統治性の視座からの再定位（仮題）』（風行社、2023年近刊）

『統治性研究を用いた現代日本の実証的研究に関する一考察』（『唯物論研究年誌』第27号、2022年）

『「新自由主義ガバナンス」論による『地方創生』実施スキーム分析』（『唯物論研究年誌』第23号、2018年）

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.

(Learning Objectives) The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20%).

POL500P1 - 006

政策学基礎

渊元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

【到達目標】

政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第 2 回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第 3 回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第 4 回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第 5 回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第 6 回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第 7 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 8 回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第 9 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 10 回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。

第 11 回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。

第 12 回 政策をめぐる価値の対立 政策がめざすべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。

第 13 回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。

第 14 回 まとめ 講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
 <主要研究業績>
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』 pp.81-118、日本評論社
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』 pp.203-26、明石書店
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』 pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500P1 - 007

現代政治分析研究

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治の総合的理解を目指す。

【到達目標】

同上。詳細は【授業の進め方と方法】に記載。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①現代政治の今日的展開の姿を主に研究者を志望とする学生を対象とし、デモクラシーの視点及び脱冷戦時代の視点から分析し、現代政治分析の理念と手法を明らかにする
- ②具体的には、国際・国内・地域社会における公的課題の解決に向けて、自治体と住民・市民組織との新たな関係の再構築
- ③国際・国内のガバナンスの理念に立脚した政治システムと機構の改革方向
- ④冷戦後の構造変化と政府の新たなあり方などの課題を具体的に考え、そのための仕組みや政策のあり方を設計することを目的とする
- ⑤さらに、将来のデモクラシーについて履修した学生諸君と共に考える
- ⑥対面により講義を行う。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	現代政治分析とは	同左
第2回	現代政治学の基礎	同左
第3回	政治学の基礎概念	同左
第4回	政治学の理論	同左
第5回	現代日本政治の基礎	同左
第6回	現代日本政治の変動	同左
第7回	日本政治の現在	同左
第8回	日本政治の構造	同左
第9回	構造的視座による理解	同左
第10回	国際的視座の中の日本	同左
第11回	国民国家の国際化	同左
第12回	比較の中の日本政治	同左
第13回	多様なデモクラシー	同左
第14回	日本政治の理論的解明	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜指示。

【参考書】

- ①白鳥浩『都市対地方の日本政治』芦書房、2009年

【成績評価の方法と基準】

試験、レポートと講義への積極性による総合評価（100%）。(講義への貢献度50%、期末50%を目安とする)。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to attain student's understanding of modern politics. In order to reach that goal, it is needed to study modern politics in a systematic way. It starts out from clarification of the definitions of important notions which appears on literatures of political science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and decision-making process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL500P1 - 008

公共政策とジャーナリズム

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における政策とジャーナリズムの総合的理解。

【到達目標】

本講座の目的は、「新聞が行っている報道、論説、提言などの実際を現役記者等が紹介し、新聞メディアの機能、影響力、課題について解説・分析することで、大学院生の視野を広げ、新聞など活字文化への関心を高める」こととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義は読売新聞特別講座である。第一線のジャーナリストをお招きし、新聞社の調査、分析と報道の実際と、論説提言のあり方を学ぶ。講義は、毎回異なるジャーナリストのオムニバス講義によって行う。以下は予想される講義のトピックであるが、変更もありうる。また講義計画は対面を中心とするが、講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	新聞とジャーナリズム	同左
(2)	政治とジャーナリズム	同左
(3)	安全保障政策とジャーナリズム	同左
(4)	外交政策とジャーナリズム	同左
(5)	社会保障政策とジャーナリズム	同左
(6)	医療政策とジャーナリズム	同左
(7)	経済政策とジャーナリズム	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義当日の読売新聞朝刊を必ず持参して、講義に臨む事。

【参考書】

講義時に適時指示。

【成績評価の方法と基準】

出席、毎回の講義で課される課題への取り組み、毎回の感想文、さらにレポートなどを総合的に考慮して評価（100%）。（講義への貢献度 50%、期末 50%を目安）。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course offers advanced understanding of the public policy on each policy fields, international politics, domestic politics, public administration, local government, international economy and so on. Lecturers are all distinguished journalists from the Yomiuri Shinbun, Yomiuri News Paper Company.

The goals of this course are to realize relationship between journalism and policy process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

ECN500P1 - 010

財政学基礎

其田 茂樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、財政学全般の概要と日本の財政制度の理解に重点を置く。政策の遂行や評価において密接に関係する財政であるため、これらの理解は研究の進展に資するものと思われる。

【到達目標】

受講者自身の研究に対して財政の理論や制度を位置づけながら研究の進捗を図ること、日本の財政制度の持つ課題を認識し、自らの見解を形成・確立することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面授業で行う予定である。受講者数にもよるが、授業計画に従い財政学の基本的な素養を確認しつつ、受講者各自の問題意識と財政との関連等について授業内で報告を求める予定である。受講者の疑問点などは授業内で質疑の時間を設けるとともに、その場での回答が難しい場合は、後日対応する。なお、受講者の要望を反映して授業計画等は柔軟に見直す予定である。可能な限り初回の授業への参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの内容について共有し、授業の進め方や授業計画に関する意見交換を行う。
第2回	財政と財政学	各自の研究テーマや問題関心を確認しつつ財政との関係を意識してみる。
第3回	市場の失敗と政府の失敗	財政運営を行う政府の必要性について経済学的に考察する。
第4回	予算と予算原則	予算に関する理論と日本の制度を理解する。
第5回	経費論	経費に関する理論と日本における運用の特質を理解する。
第6回	租税論	租税理論や租税原則を学ぶ。
第7回	日本の主な税目	所得税、法人税、消費税について理解を深める。
第8回	公債論	公債に関する理論、制度を学ぶ。
第9回	財政投融资	財政投融资制度の概要を理解する。
第10回	国と地方の財政関係	税収や歳出における国と地方の関係を理解する。
第11回	国庫支出金	国から地方への財源移転のうち、原則として用途が特定された国庫支出金を理解する。
第12回	地方交付税	一般補助金としての性格をもつ地方交付税の重要性を理解する。
第13回	口頭報告	各自の問題意識と財政の関係等をまとめてみる。

第14回 まとめ

報告に対する受講者相互の質疑等をおこないつつ授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。学術書・専門書による学習もさることながら、財政や地域経済にまつわる報道等についても各授業計画に掲げた項目に応じて目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

1. 佐藤進・関口浩『新版財政学入門』同文館出版、2019年
 2. 佐々木伯朗編『財政学制度と組織を学ぶ』有斐閣、2019年
 3. 高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020年
- その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

口頭報告の内容（70%）、平常点（30%）による。平常点の内訳は、授業内でのコメント（15%）、相互討論への参画（15%）で評価する。口頭報告の機会は、原則として最終回に用意する予定であるが、初回や途中の授業における発言等も加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業による受講者相互のコミュニケーションへの期待が大きいと考えていたが、意外に、ハイフレックスの授業を求める声も多かった。第1回の授業において意見交換しつつ柔軟に対応する必要性を感じた。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、都合によりオンライン参加等になる場合には必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

受講者の研究内容や関心に応じて授業の進め方や授業計画は柔軟に対応する予定である。すなわち、授業計画における授業形態は対面としてあるが、受講者が参加しやすい形態を柔軟に検討する。そのため、第1回・第2回の授業には特に積極的にご参加いただきたい。一方で、担当者の都合でオンラインに変更されることがある旨、ご留意いただきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
財政学、地方財政論、経済政策論
<研究テーマ>
国と地方の財政関係、地方税における法定外税と超過課税、公共交通政策と財政
<主要研究業績>
『自治から考える自治体DX』（編者）公人の友社、2021年
『国税森林環境税』（共著）公人の友社、2021年
『生活を支える社会のしくみを考える』（共著）日本経済評論社、2019年
『地方自治論（第2版）』2018年、弘文堂 など

【Outline (in English)】

This course focuses on an overview of Public Finance and fiscal system in Japan.

In addition to reference books, you need to be interested in the websites and press of ministries and agencies to understand the administrative and financial system of Japan.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Research presentation:70%,Partipation&Contribution:30%.

ECN500P1 - 011

経済学基礎

芦谷 典子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎の部分は、ミクロ経済学とマクロ経済学の二つから構成されます。このうちミクロ経済学は、個々の経済主体、消費者や企業の行動を分析する学問です。消費者と企業が会おう場である市場についての分析も対象で、国をまたいだ取引である貿易も、ミクロ経済学の対象です。これに対して、マクロ経済学は、ひとつの国の経済活動の成果、パフォーマンスを分析する学問です。どのような政策を実行すれば、結果として国民の所得が増えるのか、失業が減るのか、物価が安定するのかといった、暮らし直結の政策論議も含まれるので、マクロ経済学の方が、より身近に感じられる受講生がいらっしゃるかもしれません。これらを踏まえ、いくつかのトピックを選びながら、講義形式で授業を進行してゆきます。

【到達目標】

①経済学の基礎を理解し、②それを使って現実の経済状況を把握し、③求められる政策が何かについて考える力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義1時間、受講者によるディスカッション1時間、振り返り1時間を基礎に、1日（2回分）の授業で1つのトピックを完結します。受講者の希望に応じて、eラーニングを取り入れますが、希望の場合は教科書の購入が必要になります。準備時間1~2時間以内の宿題を各日出题し、予習復習および期末試験の代替とします。講義資料は配布を基本としますが、復習時は教科書の熟読を推奨します。宿題の作成にあたっては、教科書は特に必要ありません。代わりに参照できる文献を適宜紹介し、宿題の作成方法について講義の最後に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方/自己紹介/研究テーマ・関心領域の紹介
第2回	経済学の原理と方法	経済学の原理と実践；経済学の方法と問い；最適化；需要と供給、均衡
第3回	ミクロ経済学の基礎1	消費者と生産者、需要曲線、供給曲線、需要の価格弾力性、長期競争均衡
第4回	ミクロ経済学の基礎2	市場の構造、完全競争、産業間の資源配分、公平性と効率性
第5回	マクロ経済学の基礎1	経済全体の俯瞰、国民経済計算、GDPでは測定されないもの、実質と名目
第6回	マクロ経済学の基礎2	所得、失業、物価、景気、金融市場
第7回	貿易1	生産可能曲線、絶対優位、比較優位
第8回	貿易2	国際貿易、貿易体制、保護貿易
第9回	国際金融1	国際貿易と国際金融、経常収支、金融収支

第10回	国際金融2	為替相場制度、外国為替市場、為替レートと輸出
第11回	開発経済1	経済成長のパターン、不平等、貧困
第12回	開発経済2	経済制度と経済発展、対外援助
第13回	経済政策1	財政政策
第14回	経済政策2	金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習・宿題に要する時間は各回毎に2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』 東洋経済新報社、2020年
『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』 東洋経済新報社、2019年
※購入は不要です。ただしeラーニングの活用希望者は購入が必要です。eラーニングの実施の有無については、初回の講義で受講生の希望を伺います。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①平常授業の活動状況：60%
②宿題：40%

【学生の意見等からの気づき】

社会人受講生が多い傾向にあることから、欠席時にもフォローがしやすくやるように、講義は1日（2回分）に1トピックを完結する方法で実施します。本年度は講義を主体とする進行になりますが、日頃の疑問や仕事に生かせる考え方、論文に生かせる考え方など、受講者の間の楽しみにもなる意見交換を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

非対面 zoom 授業へのアクセスが可能な PC の準備が必要です。また、zoom アプリのインストールが必要です。

【その他の重要事項】

初回および最終回は対面、その他は非対面 zoom によるリアルタイム・オンライン授業となります。アクセス先は講義ページに掲載します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済理論および経済統計
<研究テーマ> 不動産と国際経済（金融、貿易、開発、環境、補償）
<主要研究業績> "The Modified Phillips Curve as a Possible Answer to Japanese Deflation," *Advances in Economics and Business*, 5 (10), 2017; "Determinants of Potential Seller/Lessee Benefits in Sale-Leaseback Transactions," *International Real Estate Review*, 18 (1), 2015; "Perfect' Real Estate Liquidity and Adjustment Paths to Long-run Equilibrium," *Journal of International Economic Studies*, 27 (5), 2013; "The Robustness of Cartels Facilitated by Anti-dumping Regulations," *Australian Economic Papers*, 43 (3), 2004 ほか。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This economics lecture introduces basic theories on microeconomics and macroeconomics. Microeconomics views individual actors of the economy, such as consumers, households and firms and the market economics of larger scale producers. Cross-border transaction is considered trade, as we know, and it can also be explained using microeconomic theory. Through the study of macroeconomics theory, on the other hand, we take an overall look at the economy starting with measuring economic performance, followed by learning the model of circular flow. Everyday issues like unemployment, inflation, and salaries are usually seen as key targets of economic policies, and therefore seem familiar to us, and thus a good choice for the focus of our lecture. So, at least one current economic issue will be discussed in each lecture to illustrate what we study in the class.

【Learning Objectives】

This lecture has three objectives as follows and we will approach them cumulatively, building on the concepts one by one.

1. First objective - to understand the basic concepts of Economics
2. Second objective - to utilize them to analyze real economic issues
3. Third objective - to derive the appropriate policy to tackle these issues

【Learning activities outside of classroom】

As a review each class, students will be asked to write an answer to a question to submit by the next lecture. For this you will be given reference and other study materials including lecture notes at the end of each lecture. Students will be asked to read through the reference and find related issues including business issues around you to discuss in class. Your answers and corresponding activities will be graded as a replacement of the final exam.

【Grading Criteria /Policy】

This lecture puts more weight on the in-class activities, up to 60%. The remainder of your grade will be allocated to what you study at home prior to the every lecture, consisting of 40% of the total grade.

Class participation and in-class contribution: 60%

Reports and assigned tasks: 40%

PHL500P1 - 013

環境哲学・倫理学

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者は環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握する。あわせて発表を行い、自身の問題意識を他者に伝えることができる。

【到達目標】

受講者は、環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの考えを文章で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で行う。環境哲学・倫理学の文献の解説と、参加者による発表を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
第2回	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
第3回	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
第4回	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
第5回	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
第6回	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
第7回	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
第8回	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
第9回	意見交換会（1）	授業内容に関する意見交換を行う
第10回	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
第11回	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
第12回	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
第13回	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
第14回	意見交換会（2）	授業内容に関する意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【成績評価の方法と基準】

授業内の意見交換での発言（20%）と期末の書評レポート（80%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やすことにしました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境倫理学

<研究テーマ>都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire environmental reading and presentation. At the end of the course, students are expected to writing a book review. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following book review : 80%,in class contribution: 20%.

LAW500P1 - 014

環境法基礎

永野 秀雄、立松 美也子、野村 撰雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の皆さんは、本授業で、環境問題に関する民法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶことができます。授業は、皆さんが、法律の素人であることを前提にして授業を行います。

【到達目標】

環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。

最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特質を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における紛争解決の仕組み、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ検討し、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。

また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウィルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1） （永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2） （永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1）（野村撰雄）	環境行政法の展開
8	環境行政法（2）（野村撰雄）	公害規制法
9	環境行政法（3）（野村撰雄）	自然保護法

10	環境行政法（4）（野村撰雄）	環境行政訴訟・行政組織
11	国際環境法（1）（立松美也子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（2）（立松美也子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（3）（立松美也子）	国際環境条約と国内法
14	国際環境法（4）（立松美也子）	判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。プリントを適宜配布する。

【参考書】

北村喜宣『環境法（第5版）』（有斐閣ストゥディア、2020年）。
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度 30%、期末レポート 70%。

評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【担当教員の専門分野等】

永野 秀雄

<専門領域>日米比較法（特に、環境法、労働法、先端技術法）

<研究テーマ>「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」

<主要研究業績>（環境関連のもの）

①単著「電磁波訴訟の判例と理論—米国の現状と日本の展望」（三和書籍、2008年）。

②「気候変動と企業統治」鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉—社会科学からのアプローチ』（文真堂、2008年）171-184頁。

③「米国における高レベル放射性廃棄物の処分と問題点」人間環境論集6巻2号（2006年）1-21頁。

野村撰雄

<専門領域>

環境法・海事法

<研究テーマ>

地球温暖化、海洋環境法、環境条約の国内実施

<主要研究業績>

①『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）。

②「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究14号（2022年）1頁以下。

③「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年）175頁以下。

立松美也子

<専門領域>国際法（国際人権法、条約法、国際環境法）

<研究テーマ> 国際法の履行確保、国内実施、難民、出入国管理

<主要研究業績>

（共著） Chapter8 人権を国際的に保護する、Chapter10 国境を越えるモノ、サービス、資本、Chapter11 地球規模の環境問題に取り組む 加藤信行、植木俊哉、森川幸一、真山全、酒井啓巨、立松美也子編『ビジュアルテキスト国際法第3版』（有斐閣、2022年）。

単著

「難民をめぐる国際制度：UNHCRと難民条約」国際法外交雑誌117巻3号（2018年）。

「環境問題と少数者を文化を享受する権利—ボマ対ヘルー事件（自由権規約委員会2009年3月27日見解）」国際人権21号122-124頁、（2010年）。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.

< Learning Objectives >

The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.

< Learning Activities outside of Classroom >

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P1 - 015

地球環境学基礎

塚本 直也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心しつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】

以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
 人口増加と減少パターンの発生理由。
 オゾンホールが南極上空にできる理由。
 温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。
 日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。
 生物多様性を保全しなければならない理由。
 資源のもつ意味。
 淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	地球環境問題をとりまく諸状況
第 2 回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第 3 回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウイーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第 4 回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第 5 回	気候変動②	I P C C、国際社会、国際交渉、パリ協定
第 6 回	気候変動③	緩和策と適応策
第 7 回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第 8 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源
第 9 回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第 10 回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題
第 11 回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第 12 回	エネルギー資源①	化石燃料
第 13 回	エネルギー資源②	原子力、新エネルギー

第 14 回 金属資源

ベースメタル、レアメタル、リサイクル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文科系のための環境科学入門』 有斐閣

【参考書】

斎藤幸平 『人新生の「資本論」』 集英社

【成績評価の方法と基準】

最終回に行う試験(70%)またはレポート(70%)と平時の授業への貢献(質問、意見の発表)(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【担当教員の専門分野等】

環境科学全般
 サステナビリティ学
 国際環境交渉
 援助プロジェクトの環境セーフガード
 気候変動
 廃棄物管理

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource problems such as energy and freshwater. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the final exam (100%) or report (100%).

POL500P1 - 016

国際政治学基礎

大中 真

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、政治学「国際政治の基礎理論1」、公共政策学・サステイナビリティ学「国際政治学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学（国際関係論）とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻で国際秩序が大きく動揺していると言われますが、今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。同時に、学生による授業内発表を推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学への誘い	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	国際社会論	英国学派の国際関係論を手掛かりに、我々の生きる国際社会の特質を考えます。
3	西欧国際体系	「ウェストファリアの神話」を考えつつ、西欧国際体系の特徴を探ります。
4	東アジア国際体系	華夷秩序を中心とした東アジアの国際体系を考察します。
5	イスラーム国際体系	イスラーム世界における国際体系の思想を考えます。
6	国際関係思想	国際関係を理解するための思想類型を提示します。
7	ナショナリズム	近代以降の国際関係を動かしてきたナショナリズムについて考えます。
8	外交	外交の基本概念と実践について解説を加えます。
9	国際法	国際法の基礎と国際政治との関連に重点を置いて解説します。
10	国際連合	国際連合の基本的構造と機能について考察します。
11	戦争論	人類の歴史の中で戦争はどのように変遷してきたか、探究します。
12	冷戦とポスト冷戦の国際関係	冷戦を知らずして現在の国際関係を理解することはできません。

- | | | |
|----|-------------|----------------------------------|
| 13 | 現在の国際政治の諸問題 | ロシアのウクライナ軍事侵攻など、現在の国際問題について考えます。 |
| 14 | 学習のまとめ | 半期の学習を振り返り、まとめます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに2時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細は、講義内で紹介します。

E. H. カー『危機の二十年—理想と現実』原彬久訳（岩波文庫、2011年）
 ジョセフ・S. ナイ『国際紛争—理論と歴史、原書第10版』田中明彦、村田晃嗣訳（有斐閣、2017年）

中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013年）

バリー・ブザン『英国学派入門—国際社会論へのアプローチ』大中真、佐藤誠、池田丈佑、佐藤史郎ほか訳（日本経済評論社、2017年）
 ヘドリー・ブル『国際社会論—アナーキカル・ソサイエティ』臼杵英一訳（岩波書店、2000年）

マーティン・ホワイト『国際理論—三つの伝統』佐藤誠、安藤次男、龍澤邦彦、大中真、佐藤千鶴子訳（日本経済評論社、2007年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義終了後に小テストを行います。（50%）

また最後に学期末試験を行います。（50%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業の最後に電子小テストを実施します。スマートフォンでも構いませんが、ノート型パソコンの用意を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics / international relations. The impact of Russian aggression against Ukraine is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

SES500P1 - 018

サステナビリティ研究入門

杉戸 信彦、杉野 誠、高田 雅之、高橋 五月、松本 倫明、湯澤 規子、吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義はサステナビリティと関連する問題を研究するための学際的なアプローチを学ぶための入門コースである。学生は、今後のサステナビリティ研究の出発点として、サステナビリティ学専攻を構成する様々な研究分野の基本概念と方法論の概要を理解する。また、これらの分野において、サステナビリティという概念がどのように扱われているかを理解することを目的としている。

【到達目標】

学生はサステナビリティ研究を行っていく上での出発点として、サステナビリティ学専攻を構成するさまざまな研究領域において、その基礎概念や方法論について概観を得るとともに、それらの領域においてサステナビリティの概念はどのように扱われているのかについて理解する。講義は7名の教員がオムニバス方式で担当する。学生はこの講義を2年連続して受講することにより、本専攻に所属する専任教員全員の講義を受けることが可能となり、サステナビリティ学における幅広い基礎知識を身に付け、多角的な視野を持つことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

サステナビリティ学専攻の専任教員が各1回、合計7回を担当するオムニバス形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：サステナビリティとは何か（吉永）	サステナビリティとはどのような概念なのかを説明する。
第2回	自然資源の持続可能な利用（高田）	持続可能な自然資源利用について、生物多様性との関わりから現状の課題を考える。
第3回	海と人のサステナビリティ（高橋）	海と人との共存について、文化人類学的な視点から課題と可能性について考察する。
第4回	気候変動対策としての政策オプション（杉野）	カーボンプライシングが持続可能な社会構築にどのような役割を果たすかを考察する。
第5回	食と農のサステナビリティ研究（湯澤）	私たちが生きていくうえで欠かせない「食」をめぐる諸課題について考える。
第6回	地球惑星科学から考えるサステナビリティ（松本）	地球の歴史における地球環境の不可逆な進化を考え、サステナビリティについて考察する。
第7回	ハザードとレジリエンスー地震・土地条件を中心にー総括（杉戸）	自然災害リスクを考慮したサステナビリティとは何かを考える。授業内容についてのディスカッション・レポート課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

その都度教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業最終回に提示するテーマからひとつを選択し、それにもとづくレポートを作成する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

"Introduction to Sustainability Studies" is an introductory course to learn interdisciplinary approaches to study sustainability and related issues. As a starting point for future research on sustainability, students will gain an overview of the basic concepts and methodologies of the various research areas that make up Major in Sustainability Studies. In addition, students will gain an understanding of how the concept of sustainability is treated in these fields. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Choose one of the themes presented in the last class and write a final report based on the theme (100%).

市民社会ガバナンス論

柏木 宏

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO 論Ⅰを NPO に関する歴史や制度、現状と課題などの概論、入門編とすると、NPO 論Ⅱは NPO をどのように運営していくのかを示す、マネジメント編として位置づけることができる。したがって、NPO のマネジメントの基本である、ヒト、カネ、プランを中心に、具体的な手法を提示し、議論、NPO の運営能力の基本を獲得する。なお、以上の点について、コロナ禍において、NPO のマネジメントに生じた変化を含めた考察も行う。

【到達目標】

上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、NPO マネジメントの基礎となる、ヒューマンリソース、資金、プランニングなどを中心に、マネジメント手法を理解することで、NPO の運営状況の分析や経営を担う基礎的な知識と能力を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政治学専攻「NPO 論2」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

公共政策学専攻「市民社会ガバナンス論」においては、ディプロマポリシーのうち、公共政策学公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究（市民社会ガバナンス）コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

連帯社会インスティテュート「NPO 論（現状と課題）Ⅱ」においては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連、特に「DP1」に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。
・学生の発表

講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。
・オフィス・アワー

講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。

・授業の形式

授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、Zoom の ID・パスコード等については、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生の NPO マネジメントの知識や関心聞き、今後の授業に反映させる。
第2回	NPO マネジメントの特色	NPO のマネジメントが企業や行政のマネジメントとどう異なるかについて検討することを通じて、その特色を理解する。
第3回	ヒューマンリソースのマネジメント 1	NPO が活用するヒューマンリソースは、ボランティアとスタッフ、理事に大別できる。この三者がどのように連携することで、効果的な組織運営が可能になるか考える。
第4回	ヒューマンリソースのマネジメント 2	ボランティアとスタッフ、理事のそれぞれに対するマネジメントの手法について考える。
第5回	資金のマネジメント 1	NPO の事業の受益者の多くは、十分な支払い能力がない。このため、NPO は、ファンドレイジングが必要となる。ファンドレイジングをどのように行うか、考える。

第6回	資金のマネジメント 2	ファンドレイジングで獲得した資金も含め、適切な財務管理を行う必要がある。これらの意義や手法について検討する。
第7回	授業のふりかえり	第2回から6回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる
第8回	レポートのアウトラインの発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、教員や学生からフィードバックを受ける。
第9回	プログラムプランニング	NPO の実態は、個々の事業、すなわちプログラムである。これをいかに企画し、実施していくのかについて検討する。変化の激しい現代において、NPO も内外の変化に対応していかなければ、継続、発展はできない。このため、組織の内外環境を分析し、優先順位をつけて運営を進めるための戦略計画について検討する。
第10回	戦略計画	組織は、設立しなければ機能しない。営利であれば株式会社、非営利であれば NPO 法人や一般社団・財団など法人格の取得を行うことになる。ここでは、NPO 法人の設立について考える。NPO においても、設立から時間が経過すると、世代交代の問題が出てくる。営利企業との比較も含め、これらを進める手法を検討する。
第11回	NPO の設立	第9回から12回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第12回	NPO の世代交代	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPO の運営方法や運営の現状、課題などについて、議論する。
第13回	授業のふりかえり	
第14回	レポートの発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

柏木宏著『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004年。

【参考書】

柏木宏編著『コロナ禍における日米の NPO』明石書店、2020年。
柏木宏『未来を切り拓く女性たちの NPO 活動』共著、明石書店、2019年
受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50%、「ふりかえり」とレポート50%。

レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

前述のように、対面授業を予定しているが、オンライン授業になった場合は、必要な PC や Wi-Fi 設備などを用意したうえで、Zoom を利用できる環境の準備が求められる。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

NPO 論、NPO マネジメント

<研究テーマ>

日米の NPO、社会運動

<主要研究業績>

- ・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991年
- ・『企業経営と人権』解放出版社、1993年
- ・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994年
- ・『災害ボランティアと NPO』共編著、朝日新聞社、1995年
- ・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996年
- ・『NPO インターシッパの魅力』共編著、アルク、1998年
- ・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999年
- ・『NPO マネジメントハンドブック』明石書店、2004年
- ・『指定管理者制度と NPO』明石書店、2007年
- ・『NPO と政治』明石書店、2008年
- ・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011年
- ・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013年
- ・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017年
- ・『未来を切り拓く女性たちの NPO 活動』共著、明石書店、2019年
- ・『コロナ禍における日米の NPO』編著、明石書店、2020年

【Outline (in English)】

This class focuses on how to manage a nonprofit organization. By learning management of its human resources, financial resources, and planning methods, students could obtain basic knowledge and skills to manage a nonprofit organization.

SES500P2-018

SDGsへの招待

小島 聡、(一社)SDGs市民社会ネットワーク(新田英理子、長島美紀)

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」(以下SDGs)について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGsについての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。SDGs Plus 履修証明プログラムの入り口として設置されているものである。なお、この科目は(一社)SDGs市民社会ネットワークとの連携科目として開講する。

【到達目標】

グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだSDGsについては、主に国際機関、政府やNGO/NPOが主体的に活動するものと思われる。しかしSDGsでは、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ受講生として、①SDGsに関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、②SDGsにあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、SDGsに関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者のSDGsや現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー(講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの)の記入と提出が求められる。

同時に可能な範囲で参加者によるアクティブラーニングの要素を取り入れ、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。

最終回には各受講者にショートプレゼンテーションを実施してもらう予定である。

なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとSDGs総論	講義の目的、進め方等の説明。講義の全体像の確認。SDGsの動向に関する解説
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	プレゼンテーションと総括	受講者によるショートプレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント(資料)が配布される。

【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点(参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など)40%、プレゼンテーション30%、期末レポート30%の総合評価による。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン実施の経験も踏まえ、参加者のコミュニケーションのバリエーションや方法の工夫に努める。

【その他の重要事項】

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および研究科ウェブサイトで見られる。

【実務経験のある教員による授業】

財団法人における行政研究等の実務及び自治体行政のコンサルティングの経験者と、SDGsの専門組織である社団法人の理事が協働で、コーディネーターを担当する。

【Outline(in English)】

【Course Outline】

This course is to introduce and give basic understandings of the Sustainable Development Goals, which is internationally agreed goals and strategies toward sustainable societies. Each class will consist of lecture, discussion among participants and guest speaker's lectures.

【Learning Objectives】

The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the SDGs recognize the importance of the private sector and citizens as key players. As students learning about sustainable society, the goals of this lecture are (1) to have a basic knowledge of the SDGs and be able to explain them to others, and (2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that they can see the various issues listed in the SDGs as their own.

【Learning Activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a composite evaluation of 40% contribution points (attitude toward participation, content of comment papers, comments made in class, etc.), 30% presentation, and 30% final report.

POL500P1 - 017

公共政策と持続可能な社会づくり

林 嶺那、加藤 寛之、杉崎 和久、谷本 有美子、土山 希美枝、中筋 直哉、淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科が運営している SDGs Plus 履修証明プログラムを強化するために、公共政策学専攻が提供している入門的科目である。公共政策研究の立場からいくつかの主要な分野を選び、専攻の教員によるオムニバス形式で構成する。

【到達目標】

SDGs に関連するさまざまな政治的活動、行政施策、経済活動、市民運動を、いくつかの分野に即して理解し、それぞれの受講者が SDGs について体系的なイメージを獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う。回によっては、外部講師を招いての講義や対談形式を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入的説明、及び「原子力と持続可能な社会づくり」	林嶺那教授担当。この科目に関する導入を簡単にしたあと、「原子力と持続可能な社会づくり」について考える。福島第一原子力発電所事故の傷跡が未だ癒えない中、ウクライナ戦争に端を発するエネルギー危機に伴い原子力に対する注目が高まっている。原子力は持続可能な社会づくりに貢献できるのか。エネルギー経済研究所或いは日本原子力研究開発機構等の原子力の専門家を招き、受講者とのディスカッションも交えて、この問題について皆さんと一緒に考えていきたい。
第 2 回	「原子力と持続可能な社会づくり」・続き	同上
第 3 回	「都市型社会の政策主体とその関係性」	土山希美枝教授担当。公共政策を展開する主体は市民社会セクター、政府セクター、企業セクターとセクターをこえて存在し、その主体間関係が重要視されている。各主体の特徴、境界領域での新しいとりくみを取りあげ、論じる。
第 4 回	「都市型社会の政策主体とその関係性」・続き	同上
第 5 回	「コミュニティ政策と多様な地域づくり」	淵元初姫教授担当。地域社会における人と人とのつながりの再構築は、現代における政策課題のひとつです。本講義では、コミュニティ政策の視点から、このつながりづくりに関する様々な取り組みを検討し、多様な地域づくりの現状と展望を考えていきます。

第 6 回 「コミュニティ政策と多様な地域づくり」・

続き

第 7 回 「都市計画」

同上

杉崎和久教授担当。都市計画制度は、限られた都市空間において、機能的な都市活動と健康で文化的な都市生活を確保するために、土地利用の適正な制限を行う仕組みです。講義では、基本となる都市計画法の概要と成熟型社会における課題について解説します。

第 8 回 「都市計画」・続き

同上

第 9 回 「まちづくりと地域社会学」

中筋直哉教授担当。持続可能なまちづくりに対して社会学はどのように貢献できるか。日本の地域社会学の主要な成果を紹介しつつ、その生かし方をめぐって議論したい。前半 1 時間は講義、後半は 1 時間はディスカッション形式で実施する。

第 10 回 「まちづくりと地域社会学」・続き

同上

第 11 回 「農山村地域の環境と自治の持続可能性」

谷本有美子准教授担当。農山村地域の環境に関わる取組を題材に、諸外国の例も交えてゲストスピーカーからの問題提起を受け、日本の自治の持続可能性や都市と農山村との関係形成のあり方について、討議を行う。

第 12 回 「農山村地域の環境と自治の持続可能性」・

同上

続き

第 13 回 「産業組織」

加藤寛之教授担当。現代の企業組織と SDGs の関わりを考える。

第 14 回 「産業組織」・続き

同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

各回の担当者から、事前に、または講義中に、指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の討論への参加状況（20%）と期末レポート（80%）により成績を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

新設科目なので該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to the SGDs Plus Certificate Program from a viewpoint of the public policy studies in various fields.

Students are expected to understand the outline of political, administrative, economic, social activities related to SGDA.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end report (80%), and in-class contribution (20%).

LAW500P1 - 051

政策法務論

神崎 一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

特に 2000 年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

【授業目的】

現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
- ②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
- ③本講義の最後の 2 回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1. はじめに～「政策法務」とは？ 2. 自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府と GHQ の攻防	1. GHQ 民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2. 日本側草案の起草～民政局案との対比 3. チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1. 基本法・基本条例の法規規範的性格の稀薄性 2. 法体系上の位置づけ 3. 自治基本条例の意義 4. 民主的契機としての住民投票 5. 議会基本条例の意義

7-8	条例論	1. 条例の定義 2. 条例の類型 3. 法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1. 分権改革前の判例 2. 比例原則 3. 分権改革後の判例 4. 違憲審査基準論と合理性の基準 5. 合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
神崎一郎『「政策法務」試論～自治体と国のパララックス (1)(2)』（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % ・立法演習 40 % ・報告 30 % 。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学
<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論
<主要研究業績>
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】

Course outline;
Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.
Learning Objectives;
To get an idea of "policy legal affairs".
To understand the key points of drafting ordinances.
Grading Criteria/Policy;

The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.

Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

LAW500P1 - 052

立法学研究

神崎 一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和 21 年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。

【授業目的】

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

【到達目標】

- ・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
- ・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
- ・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
 - ②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせる。
 - ③本講義の最大の特徴は、最後の 2 回に行う立法演習である。講義において会得した発想法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
- ※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1. 序論～立法学とは 2. 現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など

3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1. 内閣による法案提出プロセス 2. 政党内の意思決定システム 3. 議員立法のプロセスの特徴 4. 民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1. 国会審議過程の現状と課題 2. 内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3. ねじれ国会下における立法傾向 4. ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1. 「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法 41 条の解釈まで 2. 現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3. 「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方 第 2 版』有斐閣（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。

なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
- ②「『政策法務』試論～自治体と国のバララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】

Course outline;

Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.

Learning Objectives;

To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.

To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.

Grading Criteria/Policy;

The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.

The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500P1 - 053

政策評価論

南島 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方について議論する。その際、歴史を踏まえた理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウントビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

オンラインにて行う予定である。授業は1回2コマで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形式での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系的、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価

- 第5回 業績測定と自治体①：事務事業評価、総合計画の評価
自治体評価がどのように組み込まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。
- 第6回 業績測定と自治体②：計画と評価、マニフェストと評価
自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。
- 第7回 業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。
- 第8回 業績測定と独立行政法人②：地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価とその課題について議論する。
- 第9回 国の府省の評価①：中央省庁等改革と評価、総務省の行政評価局調査、政策評価法
政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。
- 第10回 国の府省の評価②：国の府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
- 第11回 アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。
- 第12回 アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。
- 第13回 評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。
- 第14回 評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020年。

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』晃洋書房、2020年。
馬場健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。
山谷清志監修、大島巖、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021年。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、**najima ■ policy. ryukoku.ac.jp**（「■」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、政策学

<研究テーマ>政策評価の制度運用

<主要研究業績>『政策評価の行政学』（単著、晃洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、晃洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、晃洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、晃洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、晃洋書房）など

【Outline (in English)】

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

SOC500P1 - 054

社会調査法 1

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 社会調査法の入門科目として、社会調査の基本的な事項を学ぶ。
2. 社会調査の全体像、社会調査の歴史的経緯について概説する。
3. 社会調査の様々な手法について検討する。
4. 質的調査と量的調査双方の基本事項を理解する。
5. 調査倫理など調査に伴う問題を学ぶ。

【到達目標】

1. 社会調査の基本事項、歴史を簡潔に説明できる。
2. 量的調査と質的調査の相違を識別できる。
3. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に調査を始めることができる。
4. 倫理違反といった概念について具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

社会調査の基本事項を理解し、全体像を把握するために、次のように授業を進めていく。

1. 社会調査の歴史的経緯を学びつつ、様々な社会調査の手法を説明する。
2. 質・量双方の調査研究の特性について、調査の企画・実施、成果の発表に至るまでの流れを具体的に解説する。
3. 調査倫理の問題を踏まえつつ、社会調査の意義についての理解を促す。

授業は原則対面で実施する講義形式によって進められるが、必要に応じて、グループ討議などの形式をとることがある。授業への学生の積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会調査の基本的な考え方 1	・社会調査の諸定義と目的 ・社会調査の諸類型
第 2 回	社会調査の基本的な考え方 2	・量的調査と質的調査 ・成果の公表
第 3 回	社会調査の歴史 1	・社会調査の源流：人口調査、貧困調査 ・民族誌の系譜：文化人類学、シカゴ学派社会学
第 4 回	社会調査の歴史 2	・日本の社会調査：国勢調査、都市及び農村調査、SSM 調査等
第 5 回	社会調査の設計 1	・社会調査の全過程：着想から成果の公表まで ・問いと対象の設定
第 6 回	社会調査の設計 2	・調査・分析手法の選択 ・手法による手順の違い：研究における「仮説」の位置
第 7 回	量的調査の方法と実例 1	量的調査のステップ：仮説の操作化、調査票の作成、サンプリング、実施、データの入力と分析

第 8 回	量的調査の方法と実例 2	・実例に基づく量的調査実施過程の追体験
第 9 回	質的調査の方法と実例 1	・質的調査のステップ：関連資料の収集、参与観察、聞き取り調査の実施、データの整理と分析
第 10 回	質的調査の方法と実例 2	・実例に基づく質的調査実施過程の追体験
第 11 回	理論と調査との関係 1	・理論命題と理論枠組 ・先行理論の位置づけ
第 12 回	理論と調査との関係 2	・認識の深まりと問いの洗練
第 13 回	調査倫理	・調査者と被調査者との関係 ・学問としての倫理、調査における倫理
第 14 回	調査の社会的意義	・社会調査と価値判断の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成と社会調査との関係性、たとえば論文作成において社会調査はどのような位置づけにあり、どのような役割を果たしているかなどについて、より理解が深まるように授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 2～8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014 年、新曜社。
共著『よくわかる都市社会学』2013 年、ミネルヴァ書房。
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質的なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号、2021 年。

【Outline (in English)】

This course deal with basic matters of social research. It also enhances the development of students' skill in considering various methods of social research.

By the end of the course, students should be able to explain basic matters of social research, especially about the difference of quantitative and qualitative research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P1 - 055

社会調査法2

中筋 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の社会調査法のうち、統計学の応用による、大人数の社会意識や集合行動の構造の解明を目的とするサーベイ型の調査法について概説する。まずこの調査法の成立の歴史的経緯と基本的な論点を踏まえた上で、調査計画から結果の統計解析までのプロセスを概観するとともに、その時々を生じる実践的課題について詳論する。さらに、社会意識調査を政策形成に活用する方途についても考察したい。

【到達目標】

サーベイ型の社会調査に関する基本的知識、特に調査の計画から報告書の作成までの一連の流れを理解し、知識として習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施（予定）。実習的な作業をとまなう、各回2時限の連続講義。課題やレポートについては事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論 1	社会科学的認識と計量的社会調査の関係について
2	概論 2	近代日本における計量的社会調査の展開と課題
3	調査の設計 1	調査票調査の企画・設計（質問文案をレポートとして提出）
4	調査の設計 2	質問文と選択肢の構成（調査票作成作業を実習形式で行う）
5	サンプリング 1	サンプリングの統計学的基礎
6	サンプリング 2	サンプリングの種類と実施上の問題
7	調査の実際 1	計量的社会調査における調査者と被調査者の関係
8	調査の実際 2	調査票の配布・回収をめぐる諸問題
9	データの集計と整理 1	コーディングとデータクリーニングの方法
10	データの集計と整理 2	コーディングから度数分布表作成までの過程（仮想的な調査データを用いて実習形式で行う）
11	調査データの読み方	基本統計量とデータ分布の概説
12	展開的講義	政策形成と社会意識調査
13	まとめ 1	社会調査を政策形成に活用する方途について（講義）
14	まとめ 2	社会調査を政策形成に活用する方途について（討論）別途レポート提出および筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示した課題を指示された期日までに自宅で用意し、提出すること。授業終了後参考書を入手・熟読して、重要箇所を復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 30 %、課題提出 15 % ×2 回、筆記試験 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

最近の現場での社会調査の応用についての批評的講義を増やす

【学生が準備すべき機器他】

各自自宅でパソコンを使用した作業が必要。学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 地域社会学

〈研究テーマ〉 地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉『よくわかる都市社会学』（2013、ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005、新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline) This lecture aims to study basic methods of social research by statistical sampling and questionnaires. (Learning Objectives) The goals of this lecture are understanding the basics of social research by statistical sampling and questionnaires. (Learning activities outside of classroom) Writing reports and Reading directed books. (Grading Criteria / Policy) Positivity to classwork: 30%, Reports: 15%*2, Final Exam: 40%

SOC500P1 - 056

社会調査法3

見田 朱子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学における統計データの利用法。

「統計データ」を読み、書（描）き、利用するための基本概念や方法を理解する。具体的には、統計資料の整理の仕方、基本的な統計量の読み方、図表の読み方、作成方法について。また、変数間の関係を記述する方法やその読み取り方についても解説するので身に付けてほしい。

さらに「非統計（質的）データ」を読むときの基本事項の学習を踏まえ、社会調査におけるデータ活用方法についての理解を促す。技術的には、Excel および無料の統計ソフト R 等を用いた実習を通じてデータ分析の実践的理解を深める。

【到達目標】

統計データの形式を整えたり、変数を操作化することができる。
統計データの情報を要約することができる。
統計ソフトを用いて変数間の相関や連関を調べることができる。
統計ソフトを用いて推定や仮説検定を行うことができる。
統計データをグラフや表によって可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC 操作の可能な学習室を利用予定。
「社会統計」と「社会調査」の仕組みを根本的に理解するための講義を行う。また Excel や統計ソフト R の技術的な習得が一つの重要な目標であるため、PC 操作の実習は必須である。発表や課題提出は社会調査の結果報告に欠かせないため、Word や PowerPoint 等の扱い方を含めた、基本的なレポート（論文）の書き方についても指導する。

クラスの親睦を深め、具体的なテーマに接するため、授業内発表の機会も設ける予定である。また、リアクションペーパーではなく、都度の質問や対話やメールでの補足を受け付ける予定。

成績は、受講人数にもよるが、授業内での小課題と発表、レポートによる予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	1 統計データの基本事項 2 統計データの基本概念	・統計データの目的と種類 ・社会（学）理論とデータとの関係 ・測定と変数の種類 ・記述統計と推測統計 ・データの解釈
第 2 回	3 統計資料の整理 4 度数分布	・統計資料の整理 ・データファイルの作成 ・2 次資料と公開データ・単純集計と度数分布表 ・図の種類 ・相対度数による表示の機能と問題

第 3 回	5 分布と統計量 1 6 分布と統計量 2	・平均 ・分散 ・標準偏差 ・中央値 ・分位数 ・標準化 ・（標準）正規分布
第 4 回	7 検定の基礎知識 8 クロス表 1	・母集団と標本データ ・仮説 ・独立変数と従属変数 ・因果関係 ・クロス表の作成と読み取りの一般原則 ・DK と NA ・情報の圧縮
第 5 回	9 クロス表 2 10 相関 1	・関連性の読み取り：オッズ比とリスク比 ・第 3 変数とエラボレーション ・散布図 ・相関係数
第 6 回	11 相関 2 12 復習と補足	・相関関係と因果関係 ・擬似相関 ・結果の解釈と提示の方法 ・作図のオプション
第 7 回	13 非統計データについて 14 総括	・「量のデータ」への変換と利用の方法 ・テキスト（化）データの扱い方 ・社会調査の基本事項に関するまとめと成績評価に関わる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉野勇『入門・社会統計学: 2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社、2017 年。（データ資料を利用します。web 上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布する予定。初回授業では未購入で構いません。）

【参考書】

G.W. ボーンシュテット / D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。
石川淳志他編、1998、『見えないものを見る力—社会調査という認識』八千代出版
『入門・社会統計学』サポートウェブ (<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>)
R Tips (<http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html>)
他（授業中に適宜紹介）

【成績評価の方法と基準】

課題提出によって評価。
課題は、複数回ある小課題（合計 40%）、期末の発表（30%）および期末レポート課題（30%）を指す。
ただし、オンライン授業の取入れなどによって「小課題」や「発表」の内容や方法に変更が有り得る。
また、授業期間中の授業貢献度（クラス全体の理解を助ける質問や意欲的な取り組みなど）を 10-20% 程度取り入れる場合がある。
※出席が 2/3 に満たない場合は無条件に「不可」となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向性のある授業を心がけたい。
また授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや授業システム等を利用予定。
必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコン等の演算機器が必要になる。自宅に用意できない場合は登校して学習する必要が出てくる。

【その他の重要事項】

社会調査士資格認定のためのカリキュラム「C」科目に相当する。オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。

その他の機会については初回授業でお知らせする。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 社会意識、比較社会学

＜研究テーマ＞ 「幸福」の社会学

＜主要研究業績＞

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series — World Values Survey (世界価値観調査)を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

【Outline (in English)】

Learning how to use statistical data in social science research: Beginner level.

Understand basic concepts and methods for reading, writing and drawing statistical data. Specifically, how to organize statistical data, how to read basic statistics, and how to understand and create tables and graphs. Then, also we learn how to know and describe (and read) relationships between variables. Furthermore, based on the learning about basic non-statistical (qualitative) data, encourage understanding of "data" analysis in social survey research.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on tasks: assignments 40%,presentation 30% and end-term report 30%. Maybe in-class contribution also will be considered (20% max.and in case, assignments 30% and presentation 20%).

*We use Windows PC; Excel and statistical package "R".

SOC500P1 - 057

社会調査法 4

見田 朱子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の、あるいはオリジナルに収集されたデータセットについて、基礎的な統計処理を経てレポートを作成するまでのスキルを身につけることを目的とする。

主な内容は、既存の統計調査の検討、学術的調査と実務的調査の違い、統計の理論的背景、R の使用方法などである。あわせて、数値データの解釈に必要な現代社会の諸相についての知識も得る。大きな前提として、本講義は社会調査について学ぶ中にある。したがって、「社会調査」というもののあり方や、その中での定量的調査・分析の位置づけといったものの理解もうながす目的もつ。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の4点である。

- ①定量的社会調査の基礎知識を得る
- ②定量的社会調査をとまなう学術論文を理解できるようになる
- ③自身の論文作成において定量的社会調査を活用できるようになる
- ④行政、ビジネス等の実務においても定量的社会調査を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC 操作の可能な学習室を利用予定。

2 コマ連続のクラスだが、1 コマずつ別の単元で区切る場合と、連続して1つの単元に取り組む場合、あるいは前半と後半を講義と実習に振り分けることなどがある。講義もだが、特に実習は遅刻や欠席によって進行についていけなくなるので留意されたい。

リアクションペーパーを兼ねた小課題、期末にはレポートと発表を兼ねた課題を出す予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	イントロダクション 社会調査と社会統計学の歴史
第2回	統計ソフト R の扱い方	R の紹介と基本的な使い方 復習を兼ねて、基本統計量の算出などを確認。
第3回	確率論の基礎	確率分布の考え方 正規分布の意味と性質
第4回	R 実習 1	基本操作方法～確率と確率分布に関するコマンド
第5回	統計的（量的）分析の基本	データセットの取り扱いとデータクレンジングについて
第6回	R 実習 2	データ操作の基本・データ取得～データクレンジング
第7回	分布と確率	正規分布の意味と性質～二項分布
第8回	R 実習 3	表の作成と解説 正規分布曲線をはじめとしたグラフィックの基本（図の作成）
第9回	統計的検定の基礎	推測統計と、帰無仮説の考え方

第10回	検定の手順	検定の手順を確認しつつ、R を使って例題を解き、結果を解釈し文章化する。
第11回	各種の検定 独立性の検定 2群間の差の検定	検定の種類外観 カイ二乗検定と t 検定
第12回	R 実習	カイ二乗検定と t 検定
第13回	回帰分析	回帰分析の考え方と手順
第14回	R 実習 まとめ	回帰分析の実習 成績評価にかかわるまとめ作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習は Windows パソコンで無料の統計ソフト R を使用して行う。このため、特別なスキルは必要ないが、エクセルやワードをごく一般的なレベルで使える程度のスキルが必要である。できれば R を予めダウンロードしておくこと。またパソコンスキルに自信のない受講者は事前に Windows パソコンに十分に慣れておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しないが、下記の書籍を適宜参照すると理解の助けとなる。この書籍の公開データなどを利用してもらう予定である。また、R の操作方法については Web 上に公開されている参考ページなどを交えて適宜紹介する。

杉野勇『入門・社会統計学：2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社、2017 年。

【参考書】

石川淳志他編 1998、『見えないものを見る力——社会調査という認識』八千代出版。

G.W. ボーンシュテット／D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。

【成績評価の方法と基準】

実習的な小課題 30 %

授業中の理解・貢献状況 10 %

期末レポート・発表 60 %

ただし、受講人数やオンライン回の活用状況などによって、評価の方法や内容は変更になることもありうる（このような場合には受講生への確認と周知をする）。

【学生の意見等からの気づき】

・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。エクセルが一応使えるというレベルを念頭においている。

・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。

・社会調査法1～3（特に3）は、必須ではないが既習であることが望ましい。例年、「3」より先に本講「4」を履修したいという相談がある。履修予定等さまざまな事情はあるだろうから、できる限り対応したいと思うが、理解度としてはやはり難しいところがあると感じている。「3」からは積み重ねの関連性が非常に高い科目なので、非常な努力の覚悟が必要になる。履修相談に来るのは構わない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Windows）および周辺機器。Mac や Linux でも履修可能だが、授業は Windows を前提として行う。iPad 等のタブレット端末は使用できない。

Excel もしくはこれと同等に使用できる表計算ソフト。ただし Excel 以外のソフトを使用する場合、それに合わせた特別な指導や補助はできない。

できれば R をインストールしておくこと（講義予定の教室 PC にはインストール済み。初回授業で案内予定）。

【その他の重要事項】

・本講義の受講前に、社会調査法の1～3あるいはそれに相当する内容を受講済みであることが望ましい。カリキュラム上はこれらの受講順は強制されることはないし、相談にも応じるが、特に社会調査法3（記述統計）からの積み重ねがないと相当に難しいだろうと忠告する（例えるなら、四則計算を学ばずに面積や体積の計算方法を学ぼうとするようなもの）。

・質問等はメール（akiko.mita.86@hosei.ac.jp）でも受け付ける。

・講義開始後、授業内容にかかわる質問はクラス全体で共有したい。そのため極力「その場で」の質問を推奨し、メール等でいただいた質問もプライバシーの問題等がない範囲で公開の回答とする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会意識、比較社会学

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series — World Values Survey (世界価値観調査)を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

【Outline (in English)】

This course introduces the skill of quantitative research data.

We will study about technics to analyze statistical data and social research plan. At the end of the course, participants are expected to understand the difference between academic and practical research, theoretical background of social statistics, and be able to analyze statistical data using R.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on assignments 30%,end-term report and presentation 60% and in-class contribution 10%.

SOC500P1 - 058

社会調査法5

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的な調査と分析の方法についてより深く学び、基本的な質的調査計画が設計できることを目指す。そのために、さまざまな質的データの収集と分析の具体的方法について理解を深め、実践に役立つ知識を身に付ける。とくにフィールドワークに必要な技法や倫理的な問題についての知識を習得する。

【到達目標】

1. 質的調査におけるデータ収集の基本手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析について、各手法の利点と問題点を説明できる。
2. 質的調査の分析技法である、インタビュー分析、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、内容分析、ビジュアルデータ分析について、各技法の内容を説明できる。
3. 質的調査の実施に向け、基本的な調査計画が設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

1. まず、質的調査の考え方や設計の仕方について解説する。
2. つぎに、フィールドワークの基本的な質的調査手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析の各項目について、事例を使って具体的な解説を行い、質的データの収集・分析方法について理解を深める。
3. さらに、分析結果の提示（論文・報告書の発表）を念頭におき、被調査者との関係など倫理的な問題についての理解を促す。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論 1：社会調査の全体像	・社会調査と質的調査の定義／目的 ・質的調査と量的調査の定義／種類／特徴
2	総論 2：方法論的スタンスの識別	・方法論的スタンス（個人主義／集団主義）の自己把握と客観性問題
3	総論 3：質的研究の意義と特性	・質的研究の現代的特徴と意義 ・帰納的研究および「中範囲の理論」の重要性
4	質的調査の設計—調査研究のプロセス	・質的調査のプロセス ・「問い」「仮説」の設定の重要性と問題点 ・先行研究との関連性
5	フィールドワーク 1—社会的生活の記述	・質的調査におけるフィールドワークの流れ ・フィールドワークの論点
6	フィールドワーク 2—事例の俯瞰的把握	・先行研究事例の構造とプロセス ・事例の評価と限界

7	質的データの収集 1—聞き取り調査	・聞き取り調査の意義と限界 ・インタビューの種類 ・聞き取り調査のプロセス
8	質的データの収集 2—参与観察	・参与観察の利点と問題点 ・「問い」の設定時期
9	質的データの収集 3—ドキュメント分析	・ドキュメント分析の様々な材料 ・分析によって明らかにされるものの
10	質的調査の分析技法	・カテゴリー分析の特徴と理論的背景 ・シークエンス分析の特徴と理論的背景
11	質的データの分析 1—ライフヒストリー分析	・ライフヒストリー分析の特徴と意義 ・先行研究の解説
12	質的データの分析 2—内容分析	・内容分析の特性と具体例 ・会話分析の内容と先端的意義
13	調査結果のまとめ方と発表での活用	・論文／報告書の作成 ・発表での活用事例の検証
14	調査倫理—成果の公表とその問題	・調査倫理規定 ・プライバシー保護 ・被調査者保護をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

学界の現代的潮流のなかでの質的調査の位置づけと重要性について、より理解が深まるように授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・6・8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about specific methods of collecting and analyzing qualitative data.
By the end of the course, students should be able to explain specific methods of qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P1 - 059

社会調査法 6

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する調査の方法論と有機的に結びついたかたちで、調査をデザインしてデータを収集／分析する思考法を実践的に習得する。とくに調査企画・設計のプロセスに軸をおいた、量的調査と質的調査の両面からの実習体験を通じて、さまざまな社会調査手法の利点／欠点、意義／限界について理解する。そして最終的に、受講者が各自の問題関心に対して、マルチメソッド法や混合研究法の方法論に基づいて調査デザインが立案できる構想力を習得する。

【到達目標】

1. 社会調査の実施に向け、社会データを収集／分析するための実践的な思考法を身につけている。
2. 量的調査の基本的な企画・設計ができ、それに基づいて比較的簡単な量的分析とグラフ作成を行える。
3. 社会調査の方法論的立場を認識して、質的調査の基本的な企画・設計ができる。
4. 受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

1. 総論として、社会学および政策科学の社会調査について、そして社会調査のプロセス・諸類型・倫理について解説する。
2. グループワークによる実習を中心に、量的調査の基本的な企画・設計と簡単な量的分析を行う。
3. グループワークおよび個別単位での実習を中心に、質的調査の基本的な企画・設計と方法論的立場の違う質的先行研究の分析を行う。
4. 受講者各自の問題関心に対して、マルチメソッド的な調査デザインを構想する。

授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で開催する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論 1：社会学・政策科学と社会調査	・調査背景、調査目的、意義と限界
2	総論 2：社会調査のプロセス	・企画から報告書の作成まで
3	総論 3：社会調査の諸類型	・データの収集と分析
4	総論 4：社会調査の倫理と真正性	・量的調査／質的調査、混合研究法、デジタル・サーベイ
5	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計 1	・ラポールの構築 ・調査に特有の倫理
6	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計 2	・調査テーマの設定 ・仮説構成 ・サンプリングの対象・方法 ・調査票の作成 ・ワーディング、プリテスト ・企画・設計内容の発表

7	調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析 1	・調査データの整理 ・度数分布表・ヒストグラム・円グラフの作成
8	調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析 2	・クロス集計分析 ・分析結果の発表
9	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計 1	・データの収集方法 ・聞き取り調査 ・社会構造主義／構築主義
10	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計 2	・ライフストーリー分析 ・会話分析 ・企画／設計策定結果の発表
11	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較 1	・研究目的の相違 ・先行研究の批判的視点 ・調査手法の組合せと限界
12	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較 2	・方法論的個人主義／集団主義 ・参与観察の利点 ・マルチメソッド法の効用
13	マルチメソッド的な方法による社会調査デザインの構想 1	・混合研究法の方法論の特徴と意義の把握
14	マルチメソッド的な方法による社会調査デザインの構想 2	・マルチメソッド法・混合研究法の方法論に基づく調査デザインの実践的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

社会調査の企画・設計時に、マルチメソッド法や混合研究法の手法を活用して立案できるように注力していく。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回目の講義時に確認する。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・5・8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014 年、新曜社。
共著『よくわかる都市社会学』2013 年、ミネルヴァ書房。
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロニングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号、2021 年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about planning and design of social research by practical training.
By the end of the course, students should be able to make a research plan based on each student's interests in problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P1 - 061

社会調査法7

見田 朱子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、定量的社会調査の結果をデータとして用いる多変量解析の技術を学ぶものである。しかし、昨今、統計パッケージの普及によって、複雑な統計解析も容易に行えるようになってきた反面、それぞれの統計手法の基礎や特徴を理解しないまま分析がされることも少なくない。本講義では、技術そのものとしての習得と同程度あるいはそれ以上に、その技術が社会調査のなかでどのように利用されるのか、社会調査結果の分析と考察の過程にどのように位置づけられるのかといった理解を重視する。

具体的には、統計学の基礎を確認しつつ、まずは分散分析と線形回帰モデルの学習を通じて、交互作用項を中心とした多変量解析の基本的な考え方を学ぶ。さらに線形回帰モデルとの差異に注目しながら、ロジスティック回帰分析について学習する。また、探索的分析手法としてクラスター分析、主成分分析、因子分析を紹介し、その概要を学習する。

これらの分析手法は、統計パッケージ R による実習を通じて、実践的に修得することが目指される。またその際には、統計パッケージの単なる使用方法の習得ではなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解することに重点を置く。

【到達目標】

本講義の目標は、線形回帰モデルなどの学習を通じて、多変量解析の基本的な考え方を修得することである。座学と実習を通じて各分析手法の考え方や仮定について理解し、自ら説明できるようになることが目標である。それと同時に、統計パッケージ R を用いた実習によって、実際に分析するための技術の修得も目指す。

また、本講義はあくまでも社会調査の一環としてあることを前提とし、社会調査の中で、またその結果を分析・考察・発表する過程において、これらの技術がどのように利用できるか、できないかを理解することも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講では、対面の講義と実習を通じて多変量解析の考え方や仮定について学習する。各回の授業は講義とともに適宜統計パッケージの操作実習をはさむことで理解を深める形でおこなう予定である。表計算ソフト Excel のほか、統計ソフトとしては無料の R を用いる。R については基本的な操作方法から確認するので初見でも構わないが、統計的（量的）分析については社会調査法3、4などで推測統計の基礎までは学んでいることが望ましい（必須ではない）。

履修人数にもよるが、都度の質問や対話やメール・学習支援システムの機能等によって補足をしていきたい。リアクションペーパーは対面の場合のみ予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多変量解析に向けた準備 1	社会学と多変量解析、R 紹介と復習を兼ねて、基本統計量の算出方法。標準化、共分散と相関係数について。

2	多変量解析に向けた準備 2	R の操作に慣れつつ、統計的推測と仮説検定、検定の全体図を確認。
3	分散分析	多変量解析の基本的な考え方。分散分析の基本。級内平均と級間平均、一元配置、多元配置、実習
4	線形回帰分析と最小二乗法（OLS）	線形回帰分析における仮定
5	基本統計量と OLS 推定量の関係	分散分析表の読み方や決定係数について学習
6	重回帰分析	統制・偏相関、多重共線性、修正済み決定係数、結果の t 検定・F 検定
7	実習と補足：分析の準備～結果の解釈	ダミー変数とその作り方、直接効果と間接効果、交互作用
8	ロジスティック回帰分析の基礎	オッズとロジット、回帰係数の解釈、回帰係数とモデルの検定
9	分析方法の整理	仮説検定のための分析と、探索的分析
10	クラスター分析	クラスター分析の紹介と基本的な方法
11	主成分分析と因子分析	考え方の基礎、主成分、潜在因子と観測因子、因子負荷量、寄与率
12	因子分析と主成分分析の実習	因子分析、主成分分析表の図示と解釈
13	データの選び方、分析方法の選択方法、補足	「データ」とは、どのように考えるべきなのか。選び方、利用の仕方
14	まとめ	まとめと成績評価にかかわる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉野勇『入門・社会統計学：2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社、2017 年。
（データ資料を利用します。web 上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布するので、初回授業では未購入で構いません。）

【参考書】

G.W. ボーンシュテット / D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。
石川淳志他編 1998、『見えないものを見る力—社会調査という認識』八千代出版。
盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。
『入門・社会統計学』サポートウェブ (<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>)
R Tips (<http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html>)
他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献と理解度（20 %）
課題（80 %）
授業への貢献と理解度とは、クラス全体の理解を促す質問、意欲的な取り組みなどを指す。
課題は授業期間中の複数回の小課題、および期末レポートとする。受講人数によっては、発表も取り入れる。
これらの内容は、オンライン回の有無等によっても変更の可能性がある。何らかの変更がある場合には必ず受講生に確認と周知をする。
※出席が 2/3 に満たない場合は自動的に「不可」となります。

【学生の意見等からの気づき】

・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向の授業を心がけたい。
・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。

【学生が準備すべき機器他】

実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや学習支援システム等を利用予定。
必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコンおよび周辺機器、Excel と R のインストールが必須となる。インターネット通信のできる環境も必要になる。自宅にこれらを準備できない場合は学校の設備を利用するために登校するなどの必要がある。

授業予定の教室には、R インストール済みのパソコンが準備される予定。各自のパソコンへの R のインストールは授業での案内後でもよい。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格認定のためのカリキュラム「I」科目に相当する。シラバス内容にある通り、多変量解析とその応用を扱う。社会調査法1～4あるいはそれ相当の内容を学習済みであることが望ましい。特に推測統計の基礎（社会調査法4相当）については理解していること、少なくとも履修済みのもので授業を進めるため、未履修あるいは同時並行して学習することは望ましくない。ただし、自信がない程度であれば本講を是非履修して、分析技術を実用的なものとしてほしい。

オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会意識、比較社会学

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series — World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

【Outline (in English)】

Advanced class: Social statistical analysis (multivariate data analysis)

We learn:

Interaction term through variance analysis and linear regression model, then logistic regression analysis, at last, exploratory analysis method – principal component analysis and factor analysis.

It is a practical class using a statistical package soft "R".

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution 20% and on tasks 80%; including assignments and end-term report, and maybe presentation (depends on class size).

SOC500P1 - 062

社会調査法 8

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査に関する基礎的理解を踏まえた上で、様々な質的データの分析法を疑似体験を通じて理解する。特にグループワークにより、インタビュー分析、アートベースリサーチ分析、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、混合研究法等における実践的な分析能力を、意識と感性の両レベルから習得する。

また、質的データの収集方法から分類化される、それぞれの質的調査手法の分析局面における限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てる能力を獲得する。

そして、最後に質的調査を行う上で重要な論点となりうることに付いて、実践的な観点から考察し議論する。

【到達目標】

1. 質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について概要を説明できる。
2. インタビュー分析、会話分析、内容分析、グラウンデッド・セオリー分析の特性を理解の上実践できる。
3. 質的データの分析結果を、中範囲の理論の構築へとつなげることができる。
4. 質的調査の各手法の限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

1. 総論として、質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について解説する。
2. グループワークによる実習を中心にして、フィールドワークの映像データやアートベースリサーチを活用しての質的分析を行う。
3. グループワークの実習を中心にして、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、マルチメソッド分析を行う。
4. 最後に、質的分析という研究作業の仕組みを実践的な観点から議論・総括する。

授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 1:質的調査とは何か	・社会調査／質的調査の意義・目的、量的調査との違い
第 2 回	総論 2:質的調査の調査技法—質的データの収集とプロセス	・フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析
第 3 回	総論 3:質的調査の分析法—質的データの分析と知見の抽出	・インタビュー分析、内容分析、ライフヒストリー分析、会話分析、アートベースリサーチ
第 4 回	総論 4:質的調査の倫理問題	・聞き取り調査でのラポール形成、参与観察での立ち位置
第 5 回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析 1	・聞き取り調査／参与観察の疑似体験、フィールドノートの作成、収集したデータの把握

第 6 回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析 2	・KJ 法によるデータの整理と分析、分析結果の発表と討論
第 7 回	アートベースリサーチを活用しての質的分析 1	・他者の語りをなぞる演技—意識レベルから感性レベルでの体験からの把握
第 8 回	アートベースリサーチを活用しての質的分析 2	・他者の語りをなぞる作画—作画意識の相対化から主体化への変容からの把握
第 9 回	質的研究の代表的論考を活用しての質的分析 1	・質的分析法の有効性と意義の考察—質的データと量的データの見せ方の工夫
第 10 回	質的研究の代表的論考を活用しての質的分析 2	・質的研究における調査事例の典型性と研究成果の普遍性の事後的獲得の理解
第 11 回	会話分析の実践	・社会構築主義に基づく論文—会話データから見えてくるもの
第 12 回	マルチメソッド分析の実践	・混合研究法による研究事例—研究デザインのデータから見えてくるもの
第 13 回	総合討論 1	・受講者各自の問題関心に基づく質的調査デザインの発表と討論
第 14 回	総合討論 2	・質的調査の分析における実践的課題と取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

質の高い論文作成のための質的研究の活用の仕方について、より理解が深まるように授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・5・6」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014 年、新曜社。

共著『よくわかる都市社会学』2013 年、ミネルヴァ書房。

直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号、2021 年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative research.

By the end of the course, students should be able to acquire the practical skills and knowledge in their qualitative research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end report(50%), short report(20%) and in class contribution(30%).

POL500P1 - 063

政策分析評価技法

阿部 一知

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 公的主体が実施する経済政策の効果について、経済学的な分析方法の枠組と手順を理解
- ② 日本あるいは海外の経済政策のいくつかの例を取り上げ、目的・効果の分析方法と結果を議論
- ③ 政策・プロジェクト評価手法の概略について理解

【到達目標】

公共経済学に基づいた政策評価の基本的枠組を入門的に理解する。代表的手法として費用便益分析の基本的考え方を学ぶ。政策評価の手順に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

全体 7 回程度の講義において、最初の 4 回程度は、公共的な政策の分析の枠組と手順について教科書に沿って紹介する。基本となるのは、厚生経済学を適用した公共経済学に基づいた理論である。また、その応用分野として、費用便益分析などのプロジェクト評価や、政策の評価手順などについても触れる。これらは講義と質疑を中心とする。

残り 3 回程度は、実際の政策を取り上げて、ディスカッションを行いながら事例研究する。具体事例は、学生の希望を取りながら選択する。原則として、1 週間前に材料を示すので、それに基づいた準備があることを前提に講義する。

講義は原則対面で行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。講義はオンラインで行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、政策分析の基本的な考え方	科目の全般的な内容、講義の進め方、教科書の説明。
第 2 回	分析の手順	ストーリー教科書第 1 章
第 3 回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明。政策決定モデルの紹介。ストーリー教科書第 2～3 章、第 6 章。
第 4 回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明（続き）政策決定モデルの紹介。ストーリー教科書第 2～3 章、第 6 章。
第 5 回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明。ストーリー教科書 8～10 章。
第 6 回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明（続き）ストーリー教科書 8～10 章。

第 7 回	政策分析の手順、公共選択、公共主体が政策を実施する根拠	公共選択理論の説明。ストーリー教科書 11～13 章。
第 8 回	事例研究の準備	事例研究のテーマ希望聴取など準備。
第 9 回	政策分析の手順など確認。	政策分析の手順（問題確定、選択肢提示、効果分析、評価）
第 10 回	事例研究 (1)	事例研究：具体的な政策（教員が提示）を取り上げて研究
第 11 回	事例研究 (2-1)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第 12 回	事例研究 (2-2)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第 13 回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。
第 14 回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。レポートの作成についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で、指示された資料・教科書該当ページを事前に読む。また、必要に応じて参考資料を参照する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ストーリー、ゼックハウザー「政策分析入門」 勁草書房

【参考書】

指定教科書よりも網羅的・体系的でないが、より新しい教科書として、バーダック「政策立案の技法」東洋経済新報社、を勧める（講義でも一部使用する）。その他の資料は、授業中に適宜指示する。配布できる資料は、ウェブで公開する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の参加（20％）と、レポート（80％）

【学生の意見等からの気づき】

事例研究をより幅広く行うため、課題の学生からの希望聴取を、第 2 回目から口頭でも行うこととした。

【担当教員の専門分野】

経済政策（貿易投資の経済効果、マクロ経済対策など）、応用経済学（応用計量経済モデルを含む）。研究者データベース参照 <https://ra-data.dendai.ac.jp/tduhp/KgApp?kyoinId=ymkkgkysggy>

【Outline (in English)】

【Course outline and Objectives】

The students are:

1. to understand the framework and procedures to analyze the economic effects of public policies,
2. to discuss several examples of economic policies in Japan and other countries, on their objectives and scope,
3. to understand policy/project evaluation methods.

As the goal, the students are to understand the basic framework of the policy evaluation, based on the public enconomics, including the cost-benefit analysis. In addition, the students are to be accustomed with the procedures of policy evaluation.

【Learning activities outside of classroom】

None

【Grading Criteria /Policy】

Participation in the class (20%), submission of a research report(80%)

COS500P1 - 065

数理モデル概論

松本 倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、コンピュータシミュレーションを用いた現状分析と将来予測のためのモデル化の手法について研究することを目的とする。

【到達目標】

はじめに代表的なシミュレーション事例を概観し、シミュレーションがどのように自然科学あるいは社会科学に寄与しているかを理解する。前半は、限りある資源（有限資源）のもとで人間社会や生態系の動向を、システムダイナミクスを用いて定量的にモデル化する。これを通して環境問題を考える上での基本的な概念を考察していく。後半は、新型コロナウイルス感染症と関連する SIR モデルを学び、シミュレーションがどのように社会に役立っているかを考える。前半は Excel、後半は Python を用いる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。

本授業は、講義とコンピュータ実習を織り交ぜながら進める。コンピュータ実習によって、受講生は授業を深く理解することができる。また高度な数学的知識は必要とはしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと環境モデル概論	本講義を受講するためのガイダンスを行う。環境モデルと環境シミュレーションを概観する。
第 2 回	システムダイナミクスによる環境モデル 1	人口爆発と指数関数的成長の数理モデル。
第 3 回	システムダイナミクスによる環境モデル 2	有限世界における成長の限界の数理モデルを用いた人口爆発モデル。
第 4 回	システムダイナミクスによる環境モデル 3	有限世界における成長の限界とフィードバックによる系の応答を考慮した人口爆発モデル。生態系モデル・COVID-19 への応用。
第 5 回	SIR モデル 1	Python の基本的な文法を学ぶ。
第 6 回	SIR モデル 2	Python のプログラミングを習得する。
第 7 回	SIR モデル 3	SIR モデルを計算し、新型コロナウイルス感染症への応用を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。資料を授業時に配布する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点ならびに討論への参加状況 60 %、実習課題 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では情報実習室を使用する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論天文学

<研究テーマ> 星形成、太陽圏と宇宙天気

<主要研究業績>

- ① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
- ② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
- ③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this course is to study modeling methods for analyzing the current situation and predicting the future using computer simulation.

(Learning Objectives) The introduction will review representative simulation cases to understand how simulation contributes to the natural or social sciences. The first half of the course will use system dynamics to quantitatively model trends in human society and ecosystems under limited resources (finite resources). Through this, the basic concepts of environmental issues will be discussed. In the second half, students will learn about novel coronavirus infections and the related SIR model, and consider how the simulations are useful to society. In the the first half of the course, the studnets will use Excel and in the second half, the studnets will use Python. (Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) The percentage of regular marks and participation in discussions will be 60%, and 40% for practical assignments.

SOS500P1 - 066

地域コンサルティング論

佐谷 和江

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①本講義では地域コンサルティングの具体的なケースについて、発意・背景、コンサルティングの過程、成果・課題を分析・評価して提示する。
- ②また、コンサルティングに関する手法の演習を行う。
- ③さらに、地域自治やローカルガバナンスという枠組みの中で、実現のための体制やシステムのあり方、その中で地域コンサルティングの位置づけなどについて、方向性を示す。

【到達目標】

- ①地域コンサルティングの理論や方法論を実践的に学び、それを踏まえて、他事例について説明することができる。
- ②基礎的な地域コンサルティング能力を習得することができる。加えて、コンサルティングという職種研究を通じてキャリアデザインの一助とすることができる。
- ③地域コンサルティングの位置づけやシステムのあり方について、討論を重ねる。その結果、ローカルガバナンスについての自説を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

コンサルティングとは、専門性を活かして、企業や行政などに対して外部から客観的に現状を把握し、問題点を指摘し、対策案を提示する業務を行うことである。地域コンサルティングは、自治体や住民に対して行うことが多い。ローカルガバナンスの主体である住民、NPO、行政、企業とは異なり、意志決定に参画するものではないが、それらに与える影響は小さくない。

本講義ではケーススタディや手法のスタディ・演習を行う中で、地域コンサルティングに関する理論や方法論を実践的に学ぶ。

授業形式（対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概論	授業の概要や地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを紹介する。手法としては「話し方」を学ぶ。
2	全市レベルの計画作成を支援するコンサルティング	練馬区や港区をケースに全市レベルの計画作成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション」を学ぶ。
3	地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティング	新宿区落合三世代モデル事業をケースに地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション・グラフィックス」を学ぶ。
4	地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティング	横浜市まち普請事業や川崎市の区民会議等をケースに地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ロールプレイング」を学ぶ。

- 5 地域活性化（コミュニティビジネス）のコンサルティング 墨田区玉の井地区をケースに地域活性化のためのコミュニティビジネスへのコンサルティングを学ぶ。手法としては「プロセス・デザイン」を学ぶ。
- 6 社会貢献する人材育成のコンサルティング 江戸川総合人生大学をケースに社会貢献する人材育成のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ワークショップのプログラム作成」を学ぶ。
- 7 講義の総括とレポート発表 これまでの講義の総括を行う。また、各自レポートを発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。

- 第2回：練馬区都市計画マスタープラン改定支援/12～15年度
<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/>
港区まちづくりマスタープラン改定支援/15～16年度
<https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html>
- 第3回：新宿区落合三世代モデル事業/06年度～08年度
<http://wp.3sedai.com/>
- 第4回：横浜市まち普請事業 左近山地区/07年度
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html>
- 第5回：墨田区玉の井地区/08～11年度
<https://teratama.tokyo/>
<http://ameblo.jp/tamanoicafe/>
- 第6回：江戸川総合人生大学/04年度～現在
<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】

- ①都市のイメージ/ケヴィン・リンチ/1960、翻訳1968、新版2007/岩波書店
- ②アメリカ大都市の死と生/ジェイン・ジェイコブス/1961、翻訳2010/鹿島出版会
- ③人間の街：公共空間のデザイン/ヤン・ゲール/2014/鹿島出版会
- ④都市計画とまちづくりがわかる本/2017/彰国社
- ⑤稼ぐまちが地方を変える 誰も言わなかった10の鉄則/木下 斉/2015/NHK出版新書

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：地域コンサルティングに関する理論や方法論を積極的に学んでいるか。

討論への参加40%：基礎的なコンサルティング能力の習得のための演習等に積極的に取り組んでいるか。

レポート・発表30%：地域コンサルティングの位置づけなどについて、具体的なケースを踏まえて方向性を検討し、発表してもらうが、その際、適切なケースを把握し、十分に考察を行っているか。

【学生の意見等からの気づき】

紹介する事例を更新するとともに、それぞれのケースにおいて、各主体の関わり方をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
都市計画、地域計画、コミュニティマネジメント
- <研究テーマ>
自治体の都市政策、コミュニティのエンパワーメント、地区計画制度
- <主要研究業績>
○「パンデミック×デジタル空間・グローバル社会」で続けるべきこと/2021/建築ジャーナル
- 都市計画の構造転換 整・開・保からマネジメントまで/2021/鹿島出版会

○ BIOCITY No.74 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザインー
世界をつなぐ 15 の原則 / 2018 /ブックエンド

【Outline (in English)】

● **Course outline**

① In this lecture, you will learn specific examples of regional consulting.

② We will also practice consulting methods.

③ In addition, we will discuss the structure of the system and the role of regional consulting within the framework of local autonomy and local governance.

● **Learning Objectives**

The first goal is to learn the theory and methodology of regional consulting in a practical manner and be able to explain about other cases based on this learning.

The second goal is to acquire basic regional consulting skills. In addition, students will be able to consider their own career design by researching the consulting profession.

The third goal is to discuss the positioning of regional consulting and how the system should be. As a result, students will be able to explain their own theory of local governance.

● **Learning activities outside of classroom**

You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.

The standard preparation and review time for this class is 2hours each.

● **Grading Criteria /Policy**

Ordinary points (30%)

Evaluate by actively learning theory and methodology

Participation in discussion (40 %)

Evaluate whether you are actively engaged in exercises for acquiring basic consulting skills

Report and presentation (30%)

The report will be considered based on specific cases of regional consulting. At that time, evaluate whether it is an appropriate case and whether it is sufficiently considered.

SOS500P1 - 067

ファシリテーション演習

徳田 太郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複雑化・多様化する社会における政策プロセスに必要なスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本科目においては、政策過程における参加や熟議の位置づけ、その中でのファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の合意形成や課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・政策過程における参加や協働の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、多様な人々の個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- 対面授業にて実施する。各回とも、講義と演習を織り交ぜながら進める。
- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
 - ・第2回：講義と質疑応答を中心に、政策過程と参加・熟議の関連を学習する。
 - ・第3～4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
 - ・第5回～第10回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
 - ・第11回～第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
 - ・第14回：まとめの講義を行う。
- *各回とも、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回 (1-前)	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第2回 (1-後)	政策過程と参加・熟議	政策過程におけるファシリテーションの位置づけを確認する（講義）

第3回 (2-前)	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第4回 (2-後)	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第5回 (3-前)	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第6回 (3-後)	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第7回 (4-前)	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第8回 (4-後)	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第9回 (5-前)	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第10回 (5-後)	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
第11回 (6-前)	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第12回 (6-後)	ファシリテーション実践①	参加型の場（ミーティング）の運営を体験する（演習）
第13回 (7-前)	ファシリテーション実践②	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第14回 (7-後)	まとめ	全体のまとめを行う（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にする。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理する。（予習・復習各120分程度）
- ・第5回～第10回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるように準備する。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめる。（予習・復習各120分程度）
- ・第11回～第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨む。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解する。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』（北樹出版、2021年、1,600円＋税、978-4-7793-0652-5）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、各回の振り返りシートの質と量（約50%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約50%）から、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でファシリテーター（進行役）を体験する機会を、より多く持てるように工夫する。

【その他の重要事項】

受講者同士の話しあいを中心とした体験型の授業です。受講希望者は、必ず第1回授業に出席してください。やむを得ない事情で第1回授業に出席できない場合には、事前にメールにて担当教員にご連絡ください（宛先：taro.tokuda.83@hosei.ac.jp、件名：法政大学大学院ファシリテーション演習）。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
- 政治理論（デモクラシー論）／ファシリテーション論
- <研究テーマ>
- 熟議デモクラシーの理論と実践／その中でのファシリテーションの位置づけ

<主要研究業績>

- ・「アイルランドの憲法改正における熟議と直接投票」『法學志林』118 卷 3-4 号、2020-2021 年
- ・「対話／熟議の場を生成するファシリテーション」『総合人間学』14 号、2020 年
- ・『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！ を生み出す 6 つのリテラシー』（分担執筆）北樹出版、2018 年

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets necessary for the policy process in an increasingly complex and diverse society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the position of participation and deliberation in the policy process, the significance of facilitation in this process, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered consensus building and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to participation and collaboration in the policy process.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of diverse people and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 50%, in class contribution: 50%.

POL501P1 - 068

政策研究概論（外国語）※韓国語

申 龍徹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における公共政策の仕組みと運用に関する理解

【到達目標】

この授業は、主に韓国からの留学生を対象とし、母語語（韓国語）により、日韓比較の視点から、日本の政治行政システムの基礎的な知識を説明し、日本の公共政策の制度的基盤や基本的な仕組みなどに関する基礎的知識の理解を目指す。この知識の活用により、より効果的な比較分析を行い、完成度の高い論文執筆ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、日本の政治行政に関する基礎的な知識の習得を目指し、政治体制・行政システム・地方自治制度・公務員制度・公共事業などテーマごとに基本的な仕組みと現況を説明し、受講者の質疑に回答する形式で進める。受講者の登録状況を勘案し、日本語と韓国語を兼用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
(1)	歴史	明治維新および戦後改革の内容を紹介し、その特徴を理解する
(2)	体制	日本国憲法の主な内容を紹介し、議院内閣制など政治体制の特徴を理解する
(3)	国会	国会の構成と政党制の内容を説明し、理解する
(4)	選挙	選挙制度の仕組みと現況（国・地方）について説明し、理解する
(5)	55年体制	55年体制による自民党の長期政権の形成と意思決定の特徴を説明し、理解する
(6)	行政	行政組織の構成と役割について事例を交えて説明し、理解する
(7)	行政改革 A	行政改革の歴史と内容を説明し、理解する
(8)	行政改革 B	省庁再編と行政改革の内容を紹介し、主な特徴を理解する
(9)	自治制度	地方自治法の構成内容と自治体改革の内容を説明し、理解する
(10)	地方分権	地方分権改革の内容と特徴について説明し、理解する
(11)	少子高齢化社会	少子高齢化の現況とその政策的対応について説明し、理解する
(12)	政策過程	公共政策の政策決定と執行のプロセスについて事例を交えて説明し、理解する
(13)	公共事業	公共事業の仕組みと内容、特徴について説明し、理解する

(14) 公務員制度 国家公務員・地方公務員の制度の主な内容と特徴について説明し、理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に限定しない。開講時に参考文献リストを配布する。毎回、レジюмеや参考資料を配布する。

【参考書】

特に限定しない。リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

質問力などの参加度（50%）と理解度（50%）による絶対評価

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントや資料による講義を基本に、受講者との質疑応答を交えながら進める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、比較行政

<研究テーマ> 自治行政の国際比較

<主要研究業績>

- ①『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）
- ②『韓国行政自治入門』（単著、公人社、2006）
- ③「日韓の地方公務員制度比較に関する予備的考察—＜民主性＞と＜能率性＞の交差」『法學志林』（105 - 1、法政大学、2007）
- ④「住民参加制度の日韓比較」『自治総研』（33-6、通号 344、地方自治総合研究所、2007）
- ⑤「市民活動の法制度と支援に関する日韓比較」『自治総研』（33 - 4、通号 342、地方自治総合研究所、2007）

【Outline (in English)】

Understanding of Japanese public policy mechanism and operation

POL502P1 - 068

政策研究概論（外国語）※中国語

毛 桂榮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策に関する基礎文献を中国語で講読することを中心に勉強し、院生が政策分析の基礎を修得できるように教授します。文献は、日本語、中国語、英語のものですが、履修者と相談しながら、適宜変更もします。しかし、基礎文献を理解することが大事で、じっくり資料を理解するように心がけていきます。なお、この科目は公共政策論を中国語を利用して勉強するものです。公共政策論の専門知識を勉強するようにカリキュラムを設定しており、中国語を勉強することを目的にした授業ではありません。この点に関しては、十分理解してください。

【到達目標】

以下の内容、提示する基礎文献を基本にじっくり「読解」します。資料・論文を要約した上で議論をする形で進めます。半年、基本文献15本以上を熟読するようにします。政策研究の手法を修得することを目指します。言葉・概念の問題だけではなく、社会科学における議論の仕方、論文の書き方も含めて、資料を利用して、解説し討論します。

ゼミの最終回（この予定は履修者の数により適宜調整）に関しては、学生が関心する政策課題を事例として、研究発表を行う予定にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本は、対面授業です。

- (1) 新型コロナウイルスの流行により、一部オンライン授業はあるが、本ゼミは、法政大学の方針に則り、「対面」を基本とする予定です。
- (2) もちろん、柔軟に「オンライン」も必要に応じて調整します。
- (3) また、ゼミの進め方は：基本文献の要約からスタートし、議論を深めていきます。資料の事前予習、また関連文献の復習・勉強も必要です。基本文献を中心に、関連する分野の研究資料なども、ある程度把握できるようにしていきます。最後は、各自の発表をもって基礎修得の確認をおこないます。
- (4) 勉強に関する質問は、(本システム、あるいはLINEを通じて)常時受付ます。また、ゼミでは質疑応答の時間も用意します。さらに、報告、提出するレポートに関しても、随時、コメントを返しますので、利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ。また大学院の勉強方法についても相談。	文献「若い大学院生へ」を事前配布、当日討論、勉強についての相談。学生のフィールドワークに関して相談も可能。
第2回	行政学の研究史、公共政策論の先行研究について	配布資料（システムにアップ）の講読を中心に議論：資料「行政学の歴史」など資料を配布、中国語資料もある。
第3回	行政学の歴史における公共政策研究	西尾行政学第4章、日本語と中国語を講読。資料は事前配付。

第4回	さらにもう一つ専門文献を読む	西尾『行政学の基礎概念』所収「行政と組織」論文など行政、政策と管理などの論文を読む。今村『組織と行政』も必要文献。
第5回	USA PA 歴史。英文資料を読む。	英文資料をもって勉強。公共政策研究の歴史も確認。
第6回	公共政策論研究の歴史、並びにガバナンス概念に関する英文資料一つ読解	資料「アメリカ公共政策論の台頭」を講読。また英文：Reflections on governance。状況に応じて、この勉強を2回に分けて進めることも可能
第7回	日本の行政学研究と教育	中国語資料「日本行政学史」（公開資料論文、毛）
第8回	日本の公共政策研究の歴史	「日本の公共政策研究」論文を読む。日本公共政策学会の機関誌に掲載された論文に関する分析論文、中国語論文も参照。
第9回	「公共性」概念の研究	論文「公共性」に関する論文、または、「公共政策とは何か」を読む。
第10回	decision theory 「非決定」、「権力の3つの顔」の概念	英文資料、日本語資料を講読。
第11回	政策形成における政治家と官僚	Bureaucrats and Politicians in Western...1981の終章を読む。また、毛「政府と行政」も参照。
第12回	官僚制の概念	資料「官僚制への視点」今村「行政学の基礎理論」所収を読む。西尾「新版・行政学」官僚制論2章も参照。
第13回	政策リサーチ手法	東大出版「政策リサーチ入門」の文章2つ：事例研究
第14回	学生の研究発表。フィールドワーク調査がある場合、結果を踏まえて	研究発表。学生が関心する課題について分析・発表。修士論文などの検討・相談も可能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西尾『行政学の基礎概念』（東大出版）。この本は、(毛が参加した)中国語訳があり、法政大学の図書館にも所蔵あります。一部資料は配布する予定です。また、今村『行政学の基礎理論』（三領書房）、秋吉ほか「公共政策学の基礎」（有斐閣、最新版）、伊藤修一郎「政策リサーチ入門」（東大出版）のほか、配布する資料を必ず読むこと。

【参考書】

日本公共政策学会の機関誌を読むこと

【成績評価の方法と基準】

授業での報告40%、討論60%を基本に、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

事前の予習をしない場合、内容理解に困難を来すことがあります。全員は、予習するようにしてほしい。相談により、講読の資料を適宜調整します。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料は、基本的にデータPDFの形式で渡します。本システムにアップした資料を確認してください。電子メールへの送信も可能ですが、別途相談の上、決めます。

【その他の重要事項】

- 1、授業の担当者は、本務校が法政大学ではないので、連絡は、maoquiron@gmail.comを利用します。必要があれば、ラインも利用します。
- 2、注意：新型コロナウイルスの流行もあり、以上の予定は、適宜変更をします。履修者と相談しながら、やっています。
- 3、少人数のクラスですので、読書の負担がかなりあります。
- 4、成績は、討論、報告などを踏まえて総合判断します。

【担当教員の専門分野等】

行政学、日本行政などを研究。著書「日本の行政改革」「比較の中の日中行政」があり、また「行政の概念」、「公務員の用語と概念」の論文（中国語、日本語）などがあります。最近は、中国の公務員制度などを研究中、複数論文を公表しています。論文のほとんどは、ネットで検索・入手可能です。参考にしてください。

【Outline (in English)】

This course introduces students the basic literatures and knowledge on public policy and policy analysis. The literatures are papers and books on Japanese, Chinese and English. This course will enhance students' skill in policy analysis.

Students will be expected to have completed the required assignments (read papers and prepare class report and so on) before each class meeting and then participate in discussions on each topic. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: (1)class reports 40%, (2) and in-class contribution (discussions) 60%.

BSP500P1 - 069

公共政策論文技法 1

白鳥 浩、塚崎 裕子、筈米地 真理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策科学の先端的研究の現場に触れる。

【到達目標】

政策科学分野における学術論文の作法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

博士号を取得した政策研究を行っている研究者による、先端的研究の紹介を中心として、政策科学が抱えている現代の問題をアカデミックに理解することを目指す本講義は、複数教員による分担講義として展開される。そこでは、現代の政策科学が抱える、アクチュアルな問題が提示される。学術的な価値の高い修士論文の執筆を目指す大学院生に、専門研究者レベルのスタンダードを明示することとなる。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	政策科学の最先端と政策へのアカデミックなアプローチ（白鳥）	政策科学の定義と歴史、政策と学術研究の関係
2	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析 1(筈米地)	問題提起と分析
3	理論的フレームワークとデータの収集 1(筈米地)	フレームワークの提示、データへのアクセス
4	分析結果と学会内での研究上の位置 1(筈米地)	分析の位置、研究の意義
5	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析 2(塚崎)	問題提起と分析
6	理論的フレームワークとデータの収集 2(塚崎)	フレームワークの提示、データへのアクセス
7	分析結果と学会内での研究上の位置 2(塚崎)	分析の位置、研究の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中適宜指示

【参考書】

講義中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

出席および毎回の講義への取り組み 30 %、レポート 70 %。レポートについては、各自の研究テーマの学術的価値を的確に表現できているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆過程でのテーマ設定、データの収集、その他の課題をより具体的に解説する。

【担当教員の専門分野等】

白鳥 浩

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッキンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

塚崎 裕子

<専門領域>労働政策、ジェンダー政策

<研究テーマ>外国人雇用、ダイバーシティと雇用、地方移住と雇用

<主要業績>

塚崎裕子 (2008) 「外国人専門職・技術職の雇用問題—職業キャリアの観点から」、明石書店

塚崎裕子 (2012) 「日本の職場風土と外国人高度人材のキャリア」、こころと文化・第 11 巻・第 2 号, pp.163-168

塚崎裕子 (2013) 「グローバル人材の多様性—国を問わず働く人材と二国間をつなぐ人材を中心に—」、日本労務学会誌・第 14 巻・第 2 号, pp.27-51

Yuko Tsukasaki, "Impact of Spousal Violence on Employment at the Post-Leaving Stage in Japan", *Violence and Victims*, forthcoming

【担当教員の専門分野】

筈米地真理

<専門領域>政策過程。国際政治。

<研究テーマ>国際化時代の東アジアの分析。

<主要研究業績>

筈米地真理『尖閣問題 政府見解はどう変遷したのか』柏書房、2020年。ほか。

【担当教員の専門分野】

塚崎 裕子

<専門領域>労働政策、ジェンダー政策

<研究テーマ>外国人雇用、ダイバーシティと雇用、移動とキャリア

<主要業績>

塚崎裕子 (2008) 「外国人専門職・技術職の雇用問題—職業キャリアの観点から」、明石書店

塚崎裕子 (2013) 「グローバル人材の多様性—国を問わず働く人材と二国間をつなぐ人材を中心に—」、『日本労務学会誌』第 14 巻・第 2 号, pp.27-51

塚崎裕子 (2020) 「キャリアによる国内人口移動の違いと世代効果」『人口問題研究』第 76 巻第 3 号, pp.375-393

Yuko Tsukasaki, "Impact of Spousal Violence on Employment at the Post-Leaving Stage in Japan", *Violence and Victims*, forthcoming

【Outline (in English)】

This course offers our Ph.D. holder's knowledge on tips to write a thesis. The lecture is mainly on the framework of writing academic paper.

The goals of this course are to realize relationship between theory, research, and thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 70%, and class contribution 30%.

SOS500P1 - 071

学術的文章作成演習

淵元 初姫、西谷内 博美、中筋 直哉、宮川 路子、林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文を執筆する上でのポイントとなる事項について、各専攻及びコースの教員によるオムニバス講義と修士論文執筆者（修了生）の報告という形式で展開します。修士論文の執筆に向けた心構えや作法のほか、身につけておくべき基本的なスキルについて学ぶことを目的とします。具体的には、学術的文章を作成するための考え方や社会調査の基礎、研究倫理に関する事柄などについて取り上げます。修士課程1年生のうちに履修することをお勧めしますが、2年次以上、また、博士後期課程在籍者の履修も可能です。

【到達目標】

- (1) 修士論文を執筆する上で求められる事柄について理解する。
- (2) 学術的文章とはどのようなものであるか理解する。
- (3) 文章をわかりやすく構成し、引用と出典の明記を適切に出来る。
- (4) 社会調査に関する基本的知識を習得する。
- (5) 責任ある研究活動を行うための研究倫理について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

公共マネジメントコース、政策研究コース、サステナビリティ学専攻の教員によりオムニバス形式で授業を行います。授業方式（対面またはオンライン）は各回によって異なります。Hoppi（授業支援システム）を通して事前にお知らせを致しますので各回の教員の指示に従ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：研究へのいざない（淵元）	講義の全体概要を示しながら修士論文の執筆に際して求められる基準や考え方について説明する。
第2回	修士論文の執筆に向けて（淵元）	研究テーマの選定や、先行研究の調査等について説明する
第3回	論文の定義と構成（西谷内）	論文の必須要素と基本的な構成を知識のレベルで学ぶ。
第4回	論証エクササイズ1（西谷内）	第3回で学んだ知識を元に、論証の技術練習をする。具体的には、マインドマップを用いて思考を整理する。
第5回	論証エクササイズ2（西谷内）	第4回に引き続きマインドマップを用いて、文章を組み立てる練習をする。
第6回	引用とスタイルガイド（西谷内）	引用の原理と基本ルールを学ぶ。特定のスタイルガイドに則して引用処理の練習をする。
第7回	修士論文の執筆に向けて（中筋）	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第8回	公共政策研究科修士課程修了者による報告（1）	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。
第9回	修士論文の執筆に向けて（宮川）	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第10回	公共政策研究科修士課程修了者による報告（2）	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。

第11回	修士論文の執筆に向けて（林）	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第12回	公共政策研究科修士課程修了者による報告（3）	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。
第13回	修士論文のプロポーザル（仮）に関する検討（淵元）	これまでの講義と報告に基づき、各自の研究における「問い」を明らかにし、それについて検討を加える
第14回	まとめ（淵元）	総括討論を行い、各自の課題を明確にする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。教員・テーマによっては、授業当日までに予め指示された課題を行うなどの準備学習が必要となります。また、授業中に課題を指示された場合は、期日までに提出してください。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定は特にありません。必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

参考書については必要に応じて授業内に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の質疑や討論における参加（30%） 課題の提出（30%）、期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

専攻やコースを超えた複数の教員や修了生から学ぶ機会のひとつとして活用されているようです。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppi（授業支援システム）およびオンライン講義（zoom）へ接続するインターネット環境が必要となります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

MA or PhD students in their first year are welcome to sign up to this course. Each lecture will provide students with an understanding of writing a Masters dissertation or PhD thesis. The course will be able to help students raise their academic related competency in writing. Upon completion of this course, students should be able to develop good academic practice. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Reaction paper 30%, Reporting paper 40%, Class contribution 30%

POL500P1 - 101

政策学研究

渊元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、政策過程研究の方法論のうち、実証的な政策研究に必要なものを取りあげ、修士課程での研究の中で活用できるよう、その特徴、適した分析対象、期待される分析結果などについて考察する。

【到達目標】

政策過程研究の主要な理論、枠組、モデルについて概要を把握し、研究テーマに応じた分析方法の的確な選択、応用ができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究一般におけるアプローチ方法について整理します。受講者は、個人の関心に沿って課題を設定し、政策研究の分析方法を応用して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実証的な政策研究とは何か。また、なぜ政策の分析に理論・モデル・フレームワークを用いる必要があるのかを論じる。
第 2 回	政策研究のフレームワーク	政策研究における理論・モデル・フレームワークの概念を整理し、現代の政策研究の枠組みがどのように展開してきたかを振り返る。
第 3 回	政策研究におけるモデルの基礎 1	アクターに着目したモデルについて学ぶ。
第 4 回	政策研究におけるモデルの基礎 2	方法論に着目したモデルについて学ぶ。
第 5 回	政策決定における合理性と不確実性	合理性とは何か、合理的な意思決定は可能か検討する。
第 6 回	政策決定と制度・利益・アイデア	政策決定における 3 つの「I」について学ぶ。
第 7 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策決定と 3 つの「I」に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 8 回	アリソンの 3 つのモデル	G. アリソンによる対外政策決定研究のための 3 つの概念レンズから学ぶ。
第 9 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、アリソンの 3 つのモデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 10 回	キングダンの政策の窓モデル	J. キングダンの政策の窓モデルから学ぶ。

第 11 回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、キングダンの政策の窓モデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。

第 12 回 政策とデータ 政策立案に際してその根拠となる政府統計について考える。

第 13 回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、政策とデータに関する論点など）について報告・質疑を行う。

第 14 回 まとめ 講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による課題報告については、少しテーマを絞ったほうがよいかと考えました。受講生の皆さんと相談しながら工夫したいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権<主要研究業績>
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

We now turn to more detail on how policies are actually made. The course will look at how policy agenda is set and how policy issues are constructed and framed. It will also explore how we can evaluate public policy. Important themes will include the role of ideas, institutions and interests in the policy-making process. The course will employ a number of case studies to give life to the theories and concepts explored. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500P1-128

行政学事例研究の方法

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について、体系書と実証研究を元に理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当ててを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

【到達目標】

行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第 3 回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第 4 回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第 5 回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第 6 回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第 7 回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第 8 回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第 9 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第 14 回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

King, G., Keohane, R. O., & Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.

Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.

Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL500P1 - 104

自治体議会論

鍵屋 一

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】

研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深掘りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにできる。学生は洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだすことができる。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第 3.4 回	各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第 5.6 回	各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第 7.8 回	各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第 9.10 回	自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第 11.12 回	自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第 13.14 回	災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のあるべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991 年、4,644 円
 なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】

江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等

自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】

討議への参加など平常点 70 %
 振り返りシート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自治体、防災
 <研究テーマ>自治体議会・議員の災害対策
 <主要研究業績>紀要論文、議員研修

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire the history and significance of the local council.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30 %、in class contribution: 70%

POL500P1 - 105

公務員制度研究

森谷 明浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治主導、官邸主導の下における政官関係の在り方が議論される今日の状況も踏まえつつ、日本の国家公務員制度について、国際比較（英米独仏）なども織り交ぜながら、その内容及び実態について考察する。

【到達目標】

日本の国家公務員制度の具体的内容及び制度の背景にある事情について理解を深めるとともに、国際比較の中における日本の国家公務員制度の特色などについても考察する。これらを踏まえ、今後の国家公務員制度の在るべき姿について自ら考える能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義は対面で行う。まず、日本の国家公務員制度の成り立ち、全体像について概観する。その上で、採用や昇任、人事評価の仕組み、給与制度の概要などいくつかの主要分野に関する現行制度や運用状況などについて説明するとともに、そのような制度設計に至った背景事情などの解説も行う。その中で、国際比較における日本の特色や近年の公務員制度改革の動向などについても言及していく。

各回の授業の前半では、教員がその回に取り上げる分野について解説を行い、後半では学生が取り上げたい個別のテーマを選んで、自らが考える問題点や今後考え得る方策などについて自由討議を行い、学生が今後更なる研究を進めるに当たっての視座を提供していくことを主眼とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	公務員制度の全体像及び成立過程	日本の公務員制度の全体像を示すとともに、国家公務員法の成立過程について学習する。
第2回	採用、昇進、人事評価	国家公務員の採用、昇進、人事評価について考えるほか、諸外国の幹部職員の任用などについても学習する。
第3回	給与	国家公務員の給与体系全般を説明するとともに、給与の決定過程について、諸外国との比較も交えながら学習する。
第4回	身分保障、服務・倫理・懲戒、公平審査	国家公務員の身分保障、服務・倫理や懲戒制度、不利益処分の救済制度である公平審査の仕組みなどについて学習する。
第5回	退職管理、高齢期雇用、研修	国家公務員の再就職に関わる問題をはじめとする退職管理の状況、高齢期の職員の活用の在り方（定年年齢の引上げなど）、研修制度について学習する。
第6回	勤務環境、非常勤職員制度	ワーク・ライフ・バランスの確保のための勤務環境関連の制度や非常勤職員制度について学習する。

第 13 回 公務員制度改革の動向 1990 年代以降の公務員制度改革の動向を概観し、最後のまとめとして、今後の公務員制度の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

村松岐夫編著「公務員人事改革—最新米・英・独・仏の動向を踏まえて—」（2018年学陽書房）
 村松岐夫編著「最新公務員制度改革」（2012年学陽書房）
 西尾勝著「行政学 [新版]」（2001年有斐閣）
 西尾隆著「公務員制」（行政学叢書⑩）（2018年東京大学出版会）
 森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（2015年学陽書房）
 人事院HP <https://www.jinji.go.jp/>
 内閣官房内閣人事局HP <https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/index.html>
 内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部HP <https://www.gyokaku.go.jp/koumuin/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上に立って議論に貢献しているか）
 小論文（レポート） 50 %（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

【学生の意見等からの気づき】

学生自らが問題点を発見し考察を深めることができるようにします。

【その他の重要事項】

中央人事行政機関である人事院に在職し、国家公務員の人事行政の制度及びその運用を実際に担当している。さらに内閣人事局などへの出向経験を通じ、人事院以外の角度からも人事行政に関わってきている。

これらを通じた経験や知見を紹介し、近年の公務員制度の動向や将来の在るべき公務員像などについても幅広く議論していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 公務員制度
 <研究テーマ> 近年における我が国の公務員制度の動向
 <主要研究業績>
 森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（2015年学陽書房）（共著）
 吉田耕三編著「公務員給与法精義第五次全訂版」（2018年学陽書房）（共著）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Japanese civil service system including international comparison(U.K.,U.S.A.,Germany and France). This course deals with detailed explanation of the Japanese civil system and its actual implementation. Your overall grade in this course will be decided based on the following
 Short reports: 50%,In-class contribution: 50%

POL500P1 - 108

都市政策概論

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、多様な主体が活動をする都市空間において、秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画の構造、現代的な課題を理解することを目的とする。

【到達目標】

秩序ある土地利用を制御する仕組みである都市計画法等の仕組みを理解した上で現代都市において表出さひているさまざまな課題の構造を把握した上で対応方を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

都市計画法など現在の都市における空間制御の仕組みを講義する。そして、受講生は身近な自治体における都市計画事例をとりあげ、授業の中で報告し、議論を行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「オンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／ 講義：都市計画法概要	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、都市計画法の概要を説明する。
2	講義：土地利用規制 1、2	用途地域を含めた土地利用規制全般と地区計画制度について説明する。
3	講義：市街地開発事業 ／都市施設	都市再開発事業や土地区画整理事業などの市街地開発事業、道路や公園などの都市施設について説明する。
4	講義：都市計画マスタープラン／人口減少 社会における都市計画	都市計画の方針となるマスタープランを説明する。また現代の都市計画における対応について説明する。
5	課題報告 1	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。
6	課題報告 2	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。
7	課題報告 3	担当者が事例報告をし、受講者間で意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

【参考書】

必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、担当課題の発表内容（40%）で行う。ただし、出席回数が過半数（4回）未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない（E評価）。

*なお、オンラインでの実施回については、議論に参加し、発言をすることで平常点に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。
リアル zoom によるオンライン講義、動画配信によるオンデマンド講義、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

【その他の重要事項】

この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせで行う。
第1回講義は zoom によるオンラインで行います。履修を希望される方は、第1回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要な ID 等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL500P1 - 109

都市政策事例研究

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な主体が活動をする都市空間において、適切な都市施設配置や秩序ある土地利用を制御する仕組みである近代都市計画は、都市における活動などが成長することを前提としたシステムである。しかし、都市の成長とともに生活空間の環境に変化を与えるなど新たな地域課題が生じることがある。市民によるまちづくり活動はこれらを顕在化させ、都市計画を変化させる役割を果たしてきた。本講義では、市民によるまちづくり活動の経緯、事例等を把握し、これらの活動の果たした役割を理解することを目的とする。

【到達目標】

この授業を通じて、都市空間において発生する生活場の変化に対して、市民が主体となるまちづくり活動を通じて、都市空間に関する新たな課題や価値が提起され、法定都市計画に変化を与える過程を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初は、市民まちづくりの具体的な事例紹介をオンラインで行う。その後、受講生が、分担して身近なまちづくりの事例を調査し、講義の中で報告し、議論を行う。また、必要に応じて教員は講評や話題提供を行う。

授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (まちづくりの展開過程)	授業の進め方、参考資料等についての説明を行う。また、市民によるまちづくり活動の展開過程について説明する。
第2回	市民まちづくりの事例紹介1	現代の都市空間に対する受講者の関心を共有する。
第3回	市民まちづくりの事例紹介2	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。
第4回	事例発表1	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。
第5回	事例発表2	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。
第6回	事例発表3	担当者が事例調査結果を発表し、受講者間で意見交換を行う。
第7回	総括議論	具体的な施策を踏まえて、今後必要となる対応について議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読する文献は、受講者の関心等を踏まえて、指定する。

【参考書】

必要に応じて、教員が参考資料の配布や参考文献の紹介をする。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、担当課題の発表（40%）で行う。ただし、出席回数が過半数（4回）未満、あるいは授業内での報告をしない場合には評価しない（E評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義に対応するための通信機器と通信環境。
リアル zoom によるオンライン講義、動画配信によるオンデマンド講義、学習支援システムを通じて資料・音声データを配布します。

【その他の重要事項】

この授業は対面授業とオンライン授業を組み合わせで行う。
第1回講義は zoom によるオンラインで行います。履修を希望される方は、第1回講義前に仮登録あるいは本登録をしてください。必要な ID 等は学習支援システムに登録しているメールアドレスに連絡いたします。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Normal point(60%), and report(40%).

POL500P1 - 110

政策過程研究

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。
都市型社会の構造と特質を知り、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。
この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学からとらえるための視角を養うこととなる。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。
・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理解する
・歴史的に形成されてきた政策類型をふまへ
・公共政策の過程の基礎を学び
・各自の研究対象とする政策分野をとらえる政策学の視角を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。
※初回開講時にはテキスト1章を読了して参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第1章）
第3回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第2章）
第4回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第3章）
第5回	政策の多元化	政府の三層化と政策（第4章）
第6回	日本と近代化	日本の政策を条件づける近代化を整理（第5章）
第7回	政策の主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第6章）
第8回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第7章）
第9回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第8章）
第10回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第9章）
第11回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第10章）
第12回	政策型思考と政策主体	政策型思考の「習熟」を学ぶ（第11章）
第13回	政策の決定	政策の決定とその過程（第12章）

第14回 総括

振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年。

【参考書】

石橋章市朗・佐野巨・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。
石

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

講義中、また講義後にコメントを集め、その内容を反映させている。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society). We'll learn the structure and characteristics of urban-type society, and understand the policy process.

It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.

Learning Objectives;

- Understand the characteristics of today's social structure ('Urban-type Society'), which is the premise for public policy.
- Understand the policy types that have been formed historically.
- Understand the basics of the process of public policy and gain a policy studying' perspective.

Learning activities outside of classroom;

- Completion of textbook and related papers/books

Grading Criteria /Policy

- Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)
- Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

SOW500P1 - 111

自治体福祉政策論

鏡 論

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会保障給付費は100兆円を超えている。国の予算においては、社会保障関係費として一般会計の4割近くを支弁している。自治体において、介護保険制度や高齢者福祉制度の運営が課題となっている。高齢者の生活を支える自治体政策を通して、これからの更なる高齢社会に向かう人々の暮らしに、どのような給付と負担の関係を構築する必要があるのかを考える。

今日の社会保障制度改革においては、給付の縮減を是とした改正が続いているが、安心できる暮らしを維持していく事が可能かを議論する。財源負担の在り方や世代間の給付と負担のバランス等を学ぶ。

【到達目標】

2000年に制度化された介護保険は、今や10兆円を超える規模の給付となり、この後もさらに拡大を続けようとしている。この介護保険制度を中心とした社会保障における給付と負担の形について研究をして、政策の在り方を理解する。

キーワードは次の通り。

- ・介護保険制度の課題と市町村対応
- ・地域包括ケアの課題
- ・介護予防日常生活支援事業の可能性
- ・介護と医療の連携の課題
- ・判断能力を欠く状況になった場合の意思決定
- ・成年後見制度の効果と課題

上記それぞれの項目について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業はリモート方式で実施する。また、次の各項目等について講義と院生の発表により研究する。

授業における質問やレポートにかかる解説は、質問等があった次の回の授業で対応する。

さらに、映像資料を用いた分かり易い説明を行う。

各項目については、以下の通り。

- ・日本の将来予測から社会保障のあり方について
- ・介護保険制度創設と自治体高齢者福祉行政の変化の理解
- ・措置制度から契約への変化が意味するものの理解
- ・2006年・2012年・2015年・2018年制度改革の課題
- ・介護予防と地域支援事業の課題把握
- ・在宅医療と地域包括ケアの機能と役割の理解
- ・一人暮らし高齢者・認知症高齢者支援の実態把握
- ・意思能力のない人の医療同意についての問題提起

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	(1) 社会変化と社会保障
第2回	& 高齢者を取りまく諸情報の整理と社会保障・自治体福祉政策	(2) 自治体福祉政策の必然性 (3) 2020年介護保険改正後の議論

第3回	3.4 介護保険制度(1) ☆介護保険制度の理念と課題 (介護保険によって自治体福祉政策がどのように変わったか)	発表 A (1) 措置から契約へ (2) 介護の社会化 (3) サービスの質の担保と効率 (民間サービスの参入と課題・ケアマネジメントの課題) (4) 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の策定 (5) 給付と負担・保険料決定の仕組み
第5回	5.6 介護保険制度(2) ☆介護保険改正のめざしたもの (介護保険における給付と負担)	発表 B (1) 介護保険と地方分権（三位一体改革の影響） (2) 介護予防・日常生活支援総合事業とは何か（地域支援事業創設） (3) 崩れた給付と負担のバランス (4) 自立支援介護とは何か
第7回	7.8 介護保険制度(3) ☆地域包括支援センターと介護予防の政策的効果	発表 C (1) 地域包括支援センターの創設 (2) 地域包括ケアとは何か (3) 介護予防・日常生活支援総合事業の課題 (4) 医療との連携の形 (5) 地域の見守りネットワーク
第9回	9.10 介護保険制度(4) ☆介護サービス事業の現状と課題 (介護保険外の高齢者ケアの課題は何か・地域ネットワークについて)	発表 D (1) 高齢者虐待・介護放棄 (2) 独居の認知症高齢者 (3) 生活支援の難しさ (4) 精神疾患者の支援
第11回	11.12 介護保険制度(5) ☆施設サービスと地域密着サービス (在宅と施設高齢者サービスの選択)	発表 E (1) 高齢者福祉施設の種類と目的 (2) 特養を利用する人とは (3) ユニット個室化の課題 (4) 地域密着サービスとは (5) 住んでみたい施設づくり
第13回	13.14 高齢者ケア ☆判断能力を欠く状況における権利擁護 (介護保険外の高齢者ケアの課題と地域ネットワークについて)	発表 F (1) 成年後見制度の概要 (2) 成年後見制度利用支援事業・生活支援事業（旧地域福祉権利擁護制度） (3) 市民後見制度の課題 (4) 任意後見制度と法人後見 (5) 判断能力を欠く者の医療侵襲行為の阻却事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。内容としては、テキストを読み問題をまとめる。事後学習は、授業の内容から質問をまとめ、次回の授業時に質問をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、「介護保険制度の強さと脆さ」、鏡論編著、公人の友社刊、2017年4月発行、定価2600円+税を使用する。

さらに適宜参照資料としてプリント配布する。

【参考書】

「総介護社会」岩波新書刊 小竹雅子著

「総括・介護保険の10年～2012年改正の論点～」公人の友社刊 鏡論編著

「自治体現場から見た介護保険」公人の友社刊 鏡論著

【成績評価の方法と基準】

授業での発表及びディスカッションによる総合評価とする。課題発表については、70%以上の配点とする。その他は講義中の発言及び質問、さらにディスカッション等を30%の評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートによる要望に沿うように対応する。また、初回のオリエンテーションの際に、院生からの要望について意見を徴収する。

【学生が準備すべき機器他】

PC。適宜映像資料を活用する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業終了後実施する。

自治体福祉行政に身を置き、介護保険制度の創設及び運営にかかわった実務経験を生かして、現場での知見を基に院生に情報提供していく。

【担当教員の専門分野】

自治体福祉政策、介護保険制度、地方自治

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) :This course introduces We discuss and understand issues and responses based on actual issues in local government sites on the issues of care insurance system and the elderly care of local governments and The social welfare policy in the municipality begins with the history that the benefit is provided to the poor and the anti-poverty as the agency delegation clerical work and measures are limited to the target person to students taking this course.

到達目標 (Learning Objectives) : The goals of this course are to The policy that the elderly can live with peace of mind is about the balance of benefits and burdens between generations, In local Government policy "Benefits and Burdens", and discuss the relationship between.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) : Final grade will be calculated according to the following process in-class report (70%), and in-class contribution.

LAW500P1 - 112

行政法事例研究

牧瀬 稔、橋田 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方創生の時代は、地方自治体の役割が強く求められます。そこで、この授業は自治体行政法（条例）を中心に、条例の「解釈論」ではなく「政策論」という観点から進めます。この授業は、特定分野における既存条例の効果や限界等を紹介しつつ、受講生と意見交換を実施しながら進めます。自治体行政法の視点からの政策づくりという講義を実施します。なお、この講義は対面とオンラインの併用で実施します。詳細は初回の講義時にアナウンスします。

【到達目標】

条例をはじめ地方自治体の政策づくりは、地域により事情等が異なるため、多くの魅力があります。これら事例を知ることで、受講生が政策形成能力を身につけることを目標とします。また、受講生には政策条例の研究を課すことで（中間発表及び最終発表）、政策形成能力を自発的に習得します。政策形成能力とは「問題を発見し、その問題を解決するため、一定の政策目標を立て、それを実現するために必要なしくみ・しかけをつくり上げる能力」と捉えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は講師による概説の後、受講生との意見交換により進めます。毎回の講義は、前半は講師からの講義（問題提起）とし、後半は受講生を交えて討議とします。受講生は政策条例の事例を取り上げます。その事例に関し政策的視点から考察します。授業の最終日（あるいは中間日）に、プレゼンテーションします（詳細は受講生と相談して決定します）。適宜、国や地方自治体の法制担当者、地方議員など条例立案に関わっている者をお招きし、講師と共同で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、講義の概要説明など	シラバスに基づく具体的な講義内容を説明します。
第2回	条例の基本的視点など	条例の基本的意味を把握します。
第3回	条例の意義、特徴的な政策条例の紹介	条例とは何か、政策条例の現状と意義、特徴的な政策条例を例示します。
第4回	条例の役割に関する討議	第3回講義を受けて、履修生と討議を行います。
第5回	国及び自治体の立法過程の現状	国、あるいは自治体の立法過程を理解します。
第6回	立法過程に関する討議	第5回講義を受けて、履修生と討議を行います。
第7回	議会改革と政策条例	議員提案政策条例、議会基本条例の意義・展望などを説明します。
第8回	議会改革と政策条例に関する討議	第7回講義を受けて、履修生と討議を行います。
第9回	政策条例の効果～生活安全条例等を題材に	生活安全条例、迷惑防止条例などの効果を言及します。
第10回	政策条例の効果に関する討議	第9回講義を受けて、履修生と討議を行います。
第11回	政策条例の限界と意義	政策条例の限界や意義について、事例を踏まえながら、考察します。
第12回	政策条例の限界と意義に関する討議	第11回講義を受けて、履修生と討議を行います。
第13回	履修生による発表	履修生が発表します。
第14回	全体のまとめ	全体を振り返り、本講義まとめを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この講義は受講生に政策条例の研究を課しているため、自らの生活している地方自治体の政策条例に関心を持ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。授業は Hoppii を通じて資料を付与します。

【参考書】

牧瀬稔（2022）『市町村議員のための地域創生ガイドブック』中央文化社
 牧瀬稔（2017）『「型」からスラスラ書ける あなたのまちの政策条例』第一法規
 牧瀬稔（2009）『条例で学ぶ政策づくり入門』東京法令出版
 牧瀬稔（2008）『議員が提案政策条例のポイント』東京法令出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、最終発表（プレゼン（35%）とレポート（35%））70%、討議状況30%とします。あるいは、中間発表をする場合は、中間発表（プレゼン）は20%、最終発表（プレゼン（25%）とレポート（25%））50%、討議状況30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去は、学部卒業から進学してきた学生、社会人の学生をはじめ年齢も幅広い状況でした。そのため、この授業は「基本的」な内容を進めるようにしています（過去の授業改善アンケートでは、基本的な内容を希望する意見が多くありました）。

【学生が準備すべき機器他】

対面講義はパソコンとプロジェクターを用いて実施します。オンライン講義は通信環境が確かな状態で参加してください（オンタイムで実施）。

【その他の重要事項】

授業予定は、おおよそ上記の流れを考えています。ただし、受講生と相談し講義内容の変更も考えます（その場合は、授業計画の流れが若干変更・修正されます）。

【担当教員の専門分野等】

<牧瀬稔>

法政大学大学院博士課程修了。博士（人間福祉）。関東学院大学法学部准教授。自治体政策学、地域政策を専門とし、北上市、日光市、新宿区、東大和市、西条市等のアドバイザーを務めています。

<橋田誠>

弘前大学大学院博士課程修了。博士（学術）。行政法、地方自治論を専門とし、地方議会や地方圏と大都市圏の関係を研究テーマに弘前大学客員研究員を務めています。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will proceed from the perspective of "policy theory" rather than "interpretative theory" of local government ordinances. This class will proceed by introducing the effectiveness and limitations of existing ordinances in specific fields, while conducting an exchange of opinions with the students. A lecture on policy making from the perspective of municipal administrative law will be given.

(Learning Objectives) Policy making in local government is fascinating in many ways, as circumstances and other factors differ from region to region. The goal of this course is to help students acquire policy-making skills by learning about these examples. Policy-making ability is defined as "the ability to identify a problem, set a certain policy goal to solve that problem, and create the necessary mechanisms and mechanisms to realize that goal."

(Learning activities outside of classroom) Since this lecture assigns students to study policy ordinances, we encourage you to take an interest in the policy ordinances of the local government in which you live and work.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be 70% for the final presentation (presentation and report) and 30% for the status of discussion (if an interim presentation is given, 50% for the final presentation and 20% for the interim presentation).

POL500P1 - 113

コミュニティ制度論

西谷内 博美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域的まとまりである。という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度を国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】

・「参加」と「協働」、「地域的まとまり」や「都市内分権」といった概念を用いて、現実のさまざまなコミュニティの制度を比較分析することができる。
 ・コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

同時双方型オンライン授業。授業の構成は受講者数に依存しますが、おおよそ、講義が2/3、受講生による課題発表が1/3を予定しています。講義は、think-pair-share等アクティブラーニングの手法を取り入れ、受講生の主体的な参加を促します。課題へのフィードバックは授業内で実施されます。すなわち、課題発表のさいに、発表された内容についてクラス全体で検討・議論をするなかで、課題の取り組みに対する量的・質的なフィードバックが行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回前半	オリエンテーション	授業の内容と進め方を共有する。
第1回後半	コミュニティ制度論の視角	たとえば「参加」と「協働」といった、コミュニティの制度を分析するための本授業におけるキー概念を共有する。
第2回前半	日本におけるコミュニティの制度化	日本におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第2回後半	地域運営の条件	ミルトン・コトラーの地域運営の条件について学習する。
第3回前半	ドイツにおけるコミュニティの制度化	ドイツにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第3回後半	自治会・町内会論	日本の自治会・町内会に関して、民間原理の側面と、制度的な側面について考察する。
第4回前半	フランスにおけるコミュニティの制度化	フランスにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第4回後半	期末課題のためのライティング技法	期末レポートの課題を提示するとともに、英米型のライティングメソッドを共有する。
第5回前半	フィリピンにおけるコミュニティの制度化	フィリピンにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第5回後半	インドにおけるコミュニティの制度化I	インド農村部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。

第6回前半	スコットランドにおけるコミュニティの制度化	スコットランドにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第6回後半	インドにおけるコミュニティの制度化II	インド都市部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第7回前半	期末課題計画の発表	期末レポートの進捗状況、すなわちテーマや方向性などについて確認・議論・検討する。
第7回後半	日本におけるコミュニティ政策の展開	日本におけるコミュニティ政策の展開を概観し、その制度的特徴及び今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を予習・復習し理解を深めてください。とりわけ第1回後半で実施するキー概念の共有は極めて重要です。また、各自、担当課題の報告準備（学習、調査、資料作成）をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

名和田是彦編, 2009, 『コミュニティの自治』日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 35 %、課題報告（レジュメ作成を含む） 35 %、授業内での討論・発言 30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業の序盤で学ぶキー概念の共有が意外に難題です。中盤以降でも、事例分析を進めながら、必要に応じて何度でも丁寧に振り返ってキー概念を復習します。今年度は、その用途に見合うようにレジュメを改善いたします。

【学生が準備すべき機器他】

zoom の設備や環境。
 受講者数にもよりますが、たとえば10名以下の場合は、特別の事情がない限り、授業内でカメラと音声も常にONにしたいだけとやりやすいです。
 その環境が揃わない場合は、大学構内から zoom に入室することもご検討ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、コミュニティ論、国際協力論
 <研究テーマ>廃棄物管理、開発と社会
 <主要研究業績>
 2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。
 2016『開発援助の介入論』東信堂。
 2011『デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策』『国際開発研究』67-80。

【Outline (in English)】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries.
 The goals of this course are to A, B, and C.
 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
 Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end essay: 35%, in class presentation (including reporting regime) : 35%, in class contribution: 30%.

POL500P1 - 115

地方自治論

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。

今日的意味での日本の地方自治制度は、1947年の日本国憲法・地方自治法の同時施行を起点とするが、地方自治の実態は、高度成長期の社会変動のなかで進む「自治体の政府化」によって展開していった。2000年地方分権改革は、この「自治体の政府化」を反映する大きな地方自治制度改革であった。しかし、2020年代の地方自治はなお、この制度改革を実態として生かされていられないように見える。

本講座は、2000年分権改革直前、また2020年間近の2つの地方自治・自治体論を読んで比較し、地方自治の今日的課題を検討する。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。

- ・2000年分権改革における地方自治と自治体改革の到達点を理解する
- ・こんにちの地方自治と自治体の状況と課題を理解する
- ・高度成長期以降の歴史的文脈で地方自治をとらえる視線を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては、「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	高度成長期と「自治体の政府化」	テキストの理解の前提となる内容の講義
第3回	『自治体は変わるか』第1章	テキスト精読と解題
第4回	『自治体は変わるか』第2章	テキスト精読と解題
第5回	『自治体は変わるか』第3章、第4章	テキスト精読と解題
第6回	『自治体は変わるか』第5章	テキスト精読と解題
第7回	『自治体は変わるか』第6章	テキスト精読と解題
第8回	政『自治体は変わるか』第7章	テキスト精読と解題、テキスト全体の振り返り
第9回	『地方自治講義』はじめにと第1章	テキスト精読と解題
第10回	『地方自治講義』第2章	テキスト精読と解題
第11回	『地方自治講義』第3章	テキスト精読と解題
第12回	『地方自治講義』第4章	テキスト精読と解題

第13回 『地方自治講義』第5章 テキスト精読と解題

第14回 『地方自治講義』第6章 テキスト精読と解題、講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

松下圭一『自治体は変わるか』岩波書店、1999年。

今井照『地方自治講義』ちくま新書、2017年。

【参考書】

土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。
石橋章市朗・佐野巨・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が科目の初年度であるため、反映すべき意見を受け取っていない。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Policy is the "foundation of Itonami" for people living in today's society (urban society).

Japanese local governance system of today starts with the simultaneous enforcement of the Constitution Law and the Local Autonomy Law in 1947. However, the actual development of local governance was started with social structure changing during the high-growth period, as "governmentalization of municipality".

The 2000 decentralization reform was a major reform of the local governance system that reflected this "governmentalization of municipality". However, local government in the 2020s still does not seem to make full use of this institutional reform.

In this lecture, we will read and compare the two textbooks of local autonomy / local government theories just before the 2000 decentralization reform and the 2020s. It'll show us the current issues of local governance.

Learning Objectives;

- Understand the goals of local governance/government reform in 2000 decentralization reform

- Understand the situation and issues of today's local autonomy and local governments

- Cultivate a perspective to understand local governance in the historical context of the high-growth period and beyond

Learning activities outside of classroom;

- Completion of textbook and related papers/books

Grading Criteria /Policy;

- Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)

- Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

POL500P1 - 116

自治体経営論

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自治体経営」が意味する領域は幅広い。1990年代以降、自治体において「経営」の概念が積極的に登場したのは、NPM理論の影響が多大である。それらは主に行政改革の側面から、民間企業の経営手法を新たな行政スタイルとして導入を図る動きとして活発化した。また、大都市による「都市経営」や地域開発に伴う「地域経営」など、自治体の事業者的な側面に着目した概念も広義の「自治体経営」と解しうる。加えて、2000年代以降は政策実施を民間セクターが担う例が拡大し、政府セクターと民間セクターとの境界線が曖昧となりつつあることから、近年の自治体経営は「公共経営」としての色彩を強めている。

そこでこの授業では、まず「公共経営」に関連する理論を学び、自治体が政策実施にあたって実際に運用している制度との関連について理解を深める。その上で、21世紀の自治体が直面している「地域の持続可能性」という観点から、自治体経営におけるガバナンスのあり方を中心に、民間セクターとの連携や政策責任・民主的統制の理念も視野に入れつつ、総合的に検討する。

【到達目標】

- ・自治体経営に関わる理論と実際を理解する
- ・制度運用を多角的な観点から研究するスキルを身につける
- ・公共政策に対する理念的な思考力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業で行う。

前半は、受講生で報告を分担してテキストを講読しながら、討議も交えて公共経営に関わる理論についての理解を深める。中盤からは、現実の自治体経営で指摘される論点に理論的考察も交え、多角的な観点で自治体経営の可能性について討議する。

受講者数に応じ、授業内容や取り扱うテーマの順序に変更があり得るので、その際は前半の授業時に変更スケジュールを案内します。発表やレポート等に対する講評は授業内に適宜行い、全体にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー自治体経営と公共経営	授業の進め方についての説明をした上で、テキストの序章を参照しながら、1990年代以降の自治体経営論や公共経営論の視座を俯瞰する
第2回	公式組織の改革	テキスト第1章「公式組織モデル」を参照しながら、公式組織の改革をテーマに討議する
第3回	公的部門改革と「本人＝代理人」	テキスト第2章「情報非対称モデル」を参照しながら、公的部門改革と「本人＝代理人」の枠組みをテーマに討議する
第4回	公共経営と政策の合理性	テキスト第3章「政策モデル」を参照しながら、公共経営と政策の合理性をテーマに討議する

第5回	政策実施とアウトカム	テキスト第4章「実施モデル」を参照しながら、政策実施とアウトカムをテーマに討議する
第6回	公的部門改革とエージェンシー	テキスト第5章「独立エージェンシー」を参照しながら、日本の地方独立行政法人制度の運用の実際を検討する
第7回	政策ネットワークモデル	テキスト第6章「政策ネットワークモデル」を参照しながら、公民連携をテーマに討議する
第8回	民間委託の歴史とパートナーシップへの展開	自治体における民間委託の歴史と展開を学び、公民連携の観点から運用の課題を検討する
第9回	指定管理者制度をめぐる論点	指定管理者制度の運用を通じて提起された課題と影響を先行研究が示した論点を中心に検討する
第10回	戦略としての企業化	テキスト第8章「戦略としての企業化」を参照しながら、公営企業・第三セクターによる事業経営の可能性を検討する
第11回	公営企業・第三セクターによる事業経営	自治体の公営企業のしくみや会計的な特性を確認した上で、外郭団体として設立された第三セクターの活用動向について検討する
第12回	公務従事者の多様化と人材活用	非正規職員や外部人材登用等、有期限の職員任用に関わるしくみを学びつつ、多様な公務人材のマネジメントについて検討する
第13回	政策評価と議会の役割	自治体行政における政策評価制度と二元代表制を担う議会によるガバナンスとの関係性について考察する
第14回	自治体の政策責任と民主的統制	自治体による政策責任や民主的統制についての理念を踏まえ、これからの自治体経営のあり方について、総合的に検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを通読し、複数の参考書を読む。報告や論点提起のための準備を行う。討議の論点事項を中心に追加情報を収集し、精査する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ヤン＝エリック・レーン／稲継裕昭訳(2017)『テキストブック 政府経営論』勁草書房

【参考書】

稲継裕昭(2013)『自治体行政の領域－「官」と「民」の境界線を考える』ぎょうせい
 片木淳・藤井浩司(2012)『自治体経営学入門』一藝社
 曾我謙吾(2019)『日本の地方政府-1700自治体の実態と課題』中央公論新社
 トニー・ボベール、エルク・ラフラー／みえガバナンス研究会訳(2008)『公共経営入門 公共領域のマネジメントとガバナンス』公人の友社
 外山公美ほか(2014)『日本の公共経営－新しい行政』北樹出版
 武藤博己編著(2004)『自治体改革◆第2巻』自治体経営改革』ぎょうせい
 その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内報告 30%、平常点 20%、最終レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの質疑を踏まえ、後日授業で補足説明や追加資料の提供を行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して資料配布を行うことがあります。

【その他の重要事項】

・受講者は、初回授業日からテキストを持参してください。

・授業では、行政や地方自治に関わる基本的な事項を習得していることを前提に討議を行います。受講生には「行政学基礎」や「地方自治論」を履修済み、あるいは、当該科目のテキストを通読していることを求めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』(共著)ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』(2008)『分権改革の動態』(共著)東京大学出版会

『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】

The territory of “management of the local government” is broad. The NPM theory which was introduced to Japan in the 1990s, a new administrative style, were made use of mainly in the aspect of administrative reform, as a movement to introduce the management methods of private companies. Such as “city management” by large cities and “regional management” accompanying regional development, although they are focus on the business aspects of local governments, can also be interpreted as “management of local government” in a broad sense. The phenomenon that private sector and the voluntary sector has been taking charge of policy implementation since the 2000s raised needs of the local governments to work on “public management”.

Therefore, in this class, students will first learn theories related to “public management” and deepen their understanding of the relationship with the systems that local governments actually operate in implementing policies. Then, from the perspective of “regional sustainability” that local governments are facing in the 21st century, we will comprehensively examine governance in local government management, taking into account the principles of collaboration with the private sector, policy responsibility, and democratic control.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To understand the theory and practice of “management of the local government”
- B. To acquire the skill of research the way of public management and enforcement from various point of view
- C. To develop the ability to think based on the philosophy of public policy

Students will be expected to prepare for case reports and for raising issues, besides read through the text in advance and read multiple reference books. After the class meeting to gather and scrutinize additional information, focusing on the issues of discussion. Before/after each class meeting, your study time will be about two hours.

Your overall grade will be decided based on the following Term-end report (50%), in-class presentation (30%), and participation in discussions (20%).

POL500P1 - 119

防災危機管理研究

鍵屋 一

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東日本大震災の発生以後、国土強靱化など防災対策の重要性が叫ばれている。そして、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

【到達目標】

- ①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
- ③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
- ④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。

また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。

授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。PPTおよび中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
第3回	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第7回	災害時の要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。

第9回・防災教育、ボランティア
10回 ア

東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。

第11回 地域防災計画、防災条
例、政策評価
回

東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。

第13回 企業、行政等の事業継
続 (BC)
回

企業や行政等は災害時に災害対応だけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ておいていただきたい。

また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】

鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005年

鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019年令和4年「防災白書」

【成績評価の方法と基準】

質疑への参加 70%（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）

リアクションペーパー等 30%

【学生の意見等からの気づき】

実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

地域防災、危機管理

<研究テーマ>

防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続 (BCP)

<主要研究業績>

・『都市災害を生き残る』『現代用語の基礎知識 2009』2008年、自由国民社

・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020年、東京都福祉保健財団

・『地域防災力強化宣言』2005年、ぎょうせい

【Outline (in English)】

(Course outline) The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30%, in class contribution: 70%

POL500P1 - 120

雇用労働政策研究

濱口 桂一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公労使三者構成の審議会において労使団体と政府（厚生労働省）の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】

現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業を予定している。
各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。
あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第 3.4 回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第 5.6 回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第 7.8 回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第 9.10 回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第 11.12 回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラ・セクハラ	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第 13.14 回	集団的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構（2018 年）
なお、刊行から若干時間が経っているため、アップデートした PDF ファイルを受講者に配布する予定。

【参考書】

濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書（2009 年）
濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫（2011 年）
濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ（2013 年）
濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』ちくま新書（2014 年）
濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書（2015 年）
濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』ちくま新書（2020 年）
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書（2021 年）
なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。
<http://hamachan.on.coocan.jp/>

【成績評価の方法と基準】

参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。レポートの提出先は、次の講師メールアドレスとする。
SGB00231@nifty.com

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >
労働法政策
< 研究テーマ >
日本と EU の労働法政策、日本の個別労働紛争の分析
< 主要研究業績 >
『EU の労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline (in English)】

It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.
The goal of this course is to explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.
: Grading will be decided based on short reports.

POL500P1 - 121

政策過程事例研究

鄭 智允

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、政策過程理論を応用して個別行政分野の政策を考察する。まず、『政策形成の過程：民主主義の公共性』を用いて基本的な理論を確認する。次に事例研究を通じて政策過程についての理解を深める。例えば、市町村合併、防災対策、廃棄物処理などの事例から、各々のアクターが制度の中でどのように責任を負い対応していくのか。また、既存制度の中でアクターが外部もしくは内部の環境要因によって政策をどのように形成・漸進させていくのかを分析する。この過程を通じて政策過程に関する理解を高める。

【到達目標】

既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法で進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第 3.4 回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第 5.6 回	政策と官僚、そして規制	官僚はなぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第 7.8 回	政策事例① 市町村合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことについて、公共施設の統廃合問題から考察する。
第 9.10 回	政策事例② 大都市制度と行政区	政令指定都市を事例として行政区のあり方を考察する。
第 11.12 回	政策事例③ 自治体と廃棄物処理	自治体における廃棄物の処理と課題について考察する。
第 13.14 回	政策事例④ コロナ対策と課題	保健所を軸とするコロナ対策と課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

最初の授業で指示する。

【参考書】

C.E. リンドブロン、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004 年）

ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015 年）
松本三和夫『構造災』（岩波新書、2012 年）
その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的議論参加（60%）、レポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、環境政策
<研究テーマ>国策と地方自治
<主要研究業績>

「合併政令市の引力と遠心力浜松市行政区再編住民投票で問われた行革と自治意識」『自治総研』2020 年（第 499 号 pp.86 - 122）
「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略—浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に—」『年報中部の経済と社会』2019 年（pp.69 - 80）

「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019 年（第 489 号 pp.45 - 82）

「『区内処理の原則』と広域処理」『自治総研』2014 年（第 428 号 pp.29-46、第 429 号 pp.45-65、第 430 号 pp.35-53）

「災害廃棄物の処理をめぐる」『月刊自治研』2012 年（第 637 号 pp.56-65）

「『漂着ごみ』に見る古くて新しい公共の問題」小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ 2011 年（pp.202-216）

「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書 2008 年版』環境自治体会議編 2008 年（pp.40-52）

『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会 2005 年

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge about policy process. First, we confirm the basic theory by using "Policy-Making Process" (Charles E. Lindblom and Edward J. Woodhouse 2004). Next, we will deepen our understanding of policy processes through case studies. We analyze what kind of responsibility is taken care of in the system and how the main actor forms and progresses policies by external or internal environmental factors in existing system. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 40%, in class contribution: 60%.

POL500P1 - 122

政策開発実践論

清水 英弥、富澤 守、高橋 良一、藤原 大

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体の政策・制度設計と行政技術の開発手法を研究します。

【到達目標】

人口減少時代への対応に迫られた自治体政策について、先駆自治体の実践例を考察するとともに、市民本位の政策づくりについて研究します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

自治体政策の実践例を基調に、「対面」（ハイフレックス含む）にて講義を実施します。

受講者からの質疑・討論を含め、授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個人情報保護と情報公開（富澤 守）	個人情報保護・情報公開の法律、条例の意義と課題。
第2回	地方財政（富澤 守）	収入、租税の役割、単年度予算と債務負担。
第3回	自治基本条例と総合計画（藤原 大）	自治体経営における自治基本条例、総合計画の意義、有効な活用方について考察する。
第4回	新たなまちづくりの潮流（藤原 大）	公民連携の取組など自治体における新たなまちづくりの潮流を考察する。
第5回	変わる自治体運営（藤原 大）	コロナ禍が与えた自治体への影響を考察するとともに、これからの自治体運営を展望する。
第6回	自治体の都市政策（清水英弥）	解決策の見えない自治体の都市政策について考察する。
第7回	自治体の環境政策（清水英弥）	自治体の環境政策について、具体例をあげながら考察する。
第8回	自治体の開発政策（清水英弥）	自治体の開発政策について、具体例をあげながら考察する。
第9回	自治体の財産と危機管理（富澤 守）	公有財産管理と損失補。具体的な訴訟や行政救済。
第10回	社会的価値と自治体契約（富澤 守）	法務契約を基点とした公契約条例から契約手法による政策の実現。
第11回	公共政策と財政計画（高橋良一）	様々な市民ニーズに対応するため各々の自治体政策が構築されてきたが、総合計画と表裏一体をなす財政計画について考察する。
第12回	地域づくりと財政の役割（高橋良一）	連携や協働、行財政改革をキーワードにしながら、財政の観点から国と地方自治体、規模が異なる自治体同士などの今後の地域づくりを考える。
第13回	自治体の監査制度①（高橋良一）	自治体の財務や業務の適正性を住民に保証する監査の重要性が注目されている。自治体における監査や内部統制について考察する。

第14回 自治体の監査制度② 自治体の監査制度の今日的な課題や住民訴訟の前置制度としての住民監査請求について、事例を見ながら考察する。
(高橋良一)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

本授業のテーマに関する著書・論文等を可能な限り熟読し、事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業の前に、レジュメを配布します。

【参考書】

富澤守、『自治体改革第8巻 地方財政改革』（共著）平成16年7月、ぎょうせい

富澤守、『自治体政策と訴訟法務』（共著）平成19年5月、学陽書房
富澤守、『法務契約を基点とした公契約条例』、イマジン出版、2017年所収

高橋良一、「自治体監査の現場から－監査委員監査の今日的課題、2」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2017年 Vol. 70（夏号）、71（秋号）所収

高橋良一、「住民監査請求・住民訴訟の諸課題」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2020年 Vol. 81（春号）所収

藤原大、「市町村の総合計画づくり～国分寺市総合ビジョンの紹介」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2016年 Vol. 76（冬号）所収

清水英弥、「人口減少時代における都市計画行政－入間市の取組み事例をみる－」、イマジン出版、『実践自治ビーコンオーソリティ』、2016年 Vol. 65（春号）所収

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的議論への参加（70%）、期末レポート（30%）を総合的に判断して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

内容を検討のうえ、可能なものは授業に反映します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

必要な時は授業で説明します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【富澤 守】

自治体政策（行政法務、財務、契約）
再開発（再開発、まちづくり）

【高橋 良一】

自治体政策（財政計画、行財政改革）
自治体監査（住民監査請求、行政不服審査）

【藤原 大】

自治体経営（総合計画、まちづくり）

【清水 英弥】

自治体政策（都市、開発、建築、環境）

【Outline (in English)】

Study policy and institution design of municipalities and development method of administrative technology.

Regarding local government policies that have been forced to respond to the era of depopulation, we will consider practical examples of pioneering local governments and consider citizen-oriented policy planning.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end reports:30%、in class contribution: 70%.

POL500P1 - 125

公共政策実践論 1 (公共政策研究の基礎)

青木 隆、鈴木 良祐

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・効率的に修士論文を執筆することを意識しながら、公共政策研究の基礎を学び、その特性を理解することを目的とする。授業は「公共政策研究の基礎 (1)」及び「公共政策研究の基礎 (2)」から構成され、オムニバス形式の授業で学ぶ。それぞれの概要は次のとおりである。
 ・「公共政策研究の基礎 (1)」では、公共政策の中核である政策立案プロセス、政府事業の実現を支える行政と企業の関係性を中心に、先行研究や過去の政策転換場面でのエピソードを提供することで、質の高い修士論文を執筆する方法を探っていく。
 ・「公共政策研究の基礎 (2)」では、公共政策の多くを担う国家公務員、地方公務員の人事・給与に関する先行研究を紹介し、先行研究や統計資料などを基に修士論文を執筆する方法を探っていく。

【到達目標】

・政府事業の理想と現状を理解した上で、その課題を指摘し、政策案の創造、制度改革の提案、ビジネスモデルの提案をすることができる。
 ・国家公務員及び地方公務員の人事・給与制度の現状を理解した上で、その課題を指摘し、改革案を提案することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・原則として、対面で授業を実施する。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンライン授業に切り替える。
 ・2人の教員によるオムニバス形式で毎回、教員の準備するレジュメや資料で講義を行う。
 ・毎回の授業テーマについて、学生と教員との意見交換、学生同士の討論を組み入れたアクティブラーニングを織り交ぜた授業とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共政策研究の取組方法について考える。
第2回	公共の目指す社会	公平性、公正性、公益性を確保する制度について考える。
第3回	職能別分業組織	公共を支える官民の組織の特性を考える。
第4回	政府事業のプロセス	政府事業実現のフレームワークを考える。
第5回	政府調達の世界	政府調達の制度と官民それぞれの役割を考える。
第6回	企業力 (競争と協調)	政府事業を支える企業の価値観と行動特性を考える。
第7回	官庁ビジネスの現状	官庁ビジネスの本質と展望について考える。
第8回	イントロダクション	公共政策を担う公務員の人事・給与研究の意義について考える。
第9回	国家公務員の人事 (1)	キャリア官僚の人事について考える。
第10回	国家公務員の人事 (2)	国家公務員の他省庁・自治体・民間との人事交流、女性職員の活躍について考える。
第11回	地方公務員の人事 (1)	地方公務員の人事について考える。

- 第12回 地方公務員の人事 (2) 自治体の任期付職員と臨時・非常勤職員の任用について考える。
 第13回 国家公務員の給与 国家公務員給与の民間準拠について考える。
 第14回 地方公務員の給与 地方公務員給与の国公準拠について考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・毎回、授業の1週間前までにレジュメや資料を学習支援システムにアップするので、準備学習をした上で、授業に出席すること。なお、本授業の準備学習は1時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。毎回、レジュメや資料を配付する。

【参考書】

(公共政策研究の基礎 (1))
 鈴木良祐、(監) 武藤博己法政大学名誉教授 (2021) 『入札改革へのアプローチ 予定価格論 第2版』 太郎丸出版。
 鈴木良祐、(監) 武藤博己法政大学名誉教授 (2021) 『高校生からの公共 適正価格』 太郎丸出版。
 (公共政策研究の基礎 (2))
 青木隆 (2021) 『地方公務員の給与システムに関する研究』 日本評論社。
 稲継裕昭 (1996) 『日本の官僚人事システム』 東洋経済新報社。
 稲継裕昭 (2000) 『人事・給与と地方自治』 東洋経済新報社。
 稲継裕昭 (2005) 『公務員給与序説 — 給与体系の歴史的変遷』 有斐閣。
 大谷基道・河合晃一 (2019) 『現代日本の公務員人事』 第一法規。
 西尾隆 (2018) 『公務員制』 東京大学出版会。
 西村美香 (1999) 『日本の公務員給与政策』 東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

授業中の意見発表や議論の積極性 (80%)
 授業中のレポート (20%)

【学生の意見等からの気づき】

レジュメを分かりやすく改訂するとともに、学生と教員との意見交換を充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや資料、インターネット情報を閲覧するため、PDFを読むパソコンあるいはタブレットを持参願います。

【その他の重要事項】

・「公共政策研究の基礎 (1)」を担当する教員は、官庁ビジネスを専業とする企業人であり、事業化推進制度、官民それぞれの価値観、学術的理論と実践におけるトピックス、歴史的事実を交えて、修士論文執筆のヒントを提供する。
 ・「公共政策研究の基礎 (2)」を担当する教員は、2022年3月まで現職の地方公務員であり、先行研究、統計資料を基に学位論文を執筆した自らの経験を踏まえ、修士論文執筆のヒントを提供する。

【鈴木良祐】

<専門領域>
 政府事業論、政府調達制度論、原価計算制度論、公契約論
 <研究テーマ>
 予定価格 (適正価格決定のメカニズム)、組織における意思決定と行動選択、デジタル・トランスフォーメーション (デジタル・ガバナメント)
 <主要研究業績>
 『入札改革へのアプローチ 予定価格論 第2版』 (2021) 太郎丸出版
 『高校生からの公共 適正価格』 (2021) 太郎丸出版
 「事業プロセスから見た調達改善の課題解決に向けての一考察」『公共政策志林』第8号 (2020) 法政大学大学院公共政策研究科

【青木 隆】

<専門領域>
 地方自治論、行政学、公共政策論
 <研究テーマ>
 地方公務員の人事・給与、地方自治
 <主要研究業績>
 『地方公務員の給与システムに関する研究』 (2021) 日本評論社
 「人事院の官民給与比較方法に関する一考察 — 「民間準拠」の観点から —」『公共政策志林』第8号 (2020) 法政大学大学院公共政策研究科

「地方公務員の給与制度及び給与水準の決定をめぐる一考察 — 給与構造改革以降の状況から —」『自治体学』第 32 巻第 1 号 (2018)
自治体学会

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of public policy research. It also enhances the development of students' skill in writing master's thesis.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of public policy research on Government business, Civil servant personnel and salary.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 80%、Short reports in class : 20%

POL500P1 - 126

公共政策実践論 2 (政府・行政の役割)

宇佐美 淳、栗田 昌之、折田 朋美

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本と世界をめぐる今日の状況は、新型コロナウイルス感染症の蔓延や気候変動による自然災害の激甚化を始めとした国境を超える課題及びウクライナ情勢の影響を受け、複合的危機を迎えていると言える。加えて日本においては、少子高齢化や急速なデジタル化への対応が求められている。これら日本や世界を取り巻く課題は、日本国内の自治体や地域といった細かなコミュニティの現状と密接にかつ複雑に関係している。

そうした状況下において、公共政策はその役割を増しているとともに、新たな政策展開の必要性が高まっている。地域、自治体、国、そして国際社会は、それぞれが新たな公共政策を展開していくことにより、複雑な社会課題の解決に向けた複層的な取り組みを行っている。本講義では、それらの現代的諸課題が、地域・自治体・国・国際社会を通してつながっている構造であること、また、諸課題に対し、各層における政府・行政の役割について、理解・考察することを目的とする。

具体的には、まず、地域コミュニティ及び自治体行政(地方政府)の観点から、宇佐美は、ローカル・ガバナンスが重視される時代の地域コミュニティにおける自治体職員の役割をテーマに、特に、自治体内の最前線の地域コミュニティを現場として活動する自治体職員に着目しつつ、自治体行政(地方政府)と地域コミュニティで活動する各種アクターとの関係性等に関する理解を目指す。

次に、中央政府及び国家行政の観点から、栗田は、危機事態への対処、特に大規模災害への対処における中央政府の各機関と自治体との関係やそれぞれの役割に着目して、阪神淡路大震災と東日本大震災の事例を参照しながら、政府、行政が求められる危機管理体制に関する理解を目指す。

そして折田は、国際社会・途上国にとっての公共政策、同時に日本政府にとっての公共政策としての政府開発援助(ODA)を取り上げる。SDGsの文脈にもからめながら、どのように国際公共政策と日本の公共政策が繋がっているか、今日の課題に対しどのような新たな取り組みが必要とされているのか、それぞれの角度からみた政策実施と取り組みの構造理解を目指す。可能な限り具体事例を挙げながら、宇佐美の考察に呼応し、ODAにおける自治体との最近の新しい連携や、栗田の事例を受け、国際協力における防災と日本の防災との繋がりなど、多様な切り口でひもとくことを試みる。

なお、本講座では全講義を通して、学術論文の技法等について、各担当者より適宜指導説明を行う予定である。

【到達目標】

参加者が、現代社会における諸課題に対し、地域・自治体・国・国際社会における政府・行政の役割を理解することができる。講義全体を通して、参加者がそれぞれの研究対象の背景にある社会の動きについて、自ら主体的に考えを深め、既定概念や固定概念にとらわれず、新たな視点からの研究の展開をもたらすことを目指す。各講師による地域・自治体・国・国際社会という政府・行政の異なった層からの講義内容は、研究対象が多様多様となる各参加者に対し、幅広く有益なものになると考える。そこで、本講義は、修士課程の院生だけでなく、広く博士課程の院生や学部の学生の参加も可能としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式は対面方式を原則とするが、状況によりオンライン併用によるハイフレックス方式もあり得る。各参加者の知識の蓄積状況に応じ、グループディスカッションを行い、プレゼンテーション能力等の育成を図る。また、必要に応じて、各講師から論文作成の技法等についてアドバイスを行う。その他、講義内で適宜、各参加者の研究における関心事項について、講義で得た知見との関係等について発表してもらい、それに各講師が所見を述べることや、レポート作成に関して個別に協議を行うこと等で、各参加者へのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域・自治体・国・国際社会	イントロダクション(3講師から講義の全体構想と担当概要等を説明)
第2回	ローカル・ガバナンスにおける地域コミュニティ概論(宇佐美)	①政策ネットワーク論からのローカル・ガバナンスの視座 ②ガバナンスと地域コミュニティとの関係
第3回	最前線の地域コミュニティを現場とする自治体行政職員の役割(宇佐美)	①「地域担当職員制度」とは何か ②事例分析 ③M. リブスキーによる“Street-Level Bureaucracy” ④“Community-Level Bureaucracy”としての“地域密着型公務員”
第4回	地域コミュニティにおける各種アクターによるネットワーク(宇佐美)	①自治体議会及び議員並びに議会局(事務局)の役割 ②町内会自治会長や民生委員・児童委員等の従来のアクターの役割 ③NPOや地域おこし協力隊等の新たなアクターの役割
第5回	「シェアリング・ソサイエティ」と地域防災(宇佐美・ゲスト講師)	①「シェアリング・ソサイエティ」とは何か ②地域防災の現状と課題 ③共助組織とコミュニケーション
第6回	危機管理と政策(栗田)	①危機管理の基本概念(「危機管理」とは何かについて整理する) ②危機管理と防災政策(行政部門は何をすべきか) ③危機管理(防災)サイクル(危機への備え)
第7回	防災政策の端緒としての災害(栗田)	①災害(自然災害/人為災害)概要(何に立ち向かうのか) ②戦後日本の自然災害 ③防災法制概要
第8回	大規模災害への対処(栗田)	①行政と民間企業の危機管理(防災計画とBCP) ②事例研究：大規模災害(阪神淡路大震災/東日本大震災) ③日本の「大規模災害対処システム」(災害に立ち向かう能力)
第9回	危機管理と政府・行政の「使命」(栗田)	①危機管理、政府行政の使命とその実現 ②危機管理とその限界、政府・行政はどこまで対処できるのか
第10回	国際公共政策としてのODA概説(折田)	①3重の公共政策としてのODA：国際規範と日本の行政 ②なぜ国際協力は必要なのか ③社会課題への対応：SDGsとODA
第11回	国際協力の構造理解：具体事例とともに(折田)	①ステークホルダー構造の理解、パートナーとの連携：民間、市民社会 他 ②地域別戦略、セクター別戦略

- 第12回 テーマ別理解：防災・復興支援（折田）
 ①防災・復興支援概観
 ②国際緊急援助（JDR）概観
 ③人道支援から開発協力の切れ目ない支援のために
- 第13回 社会課題解決へのグローバルな地平（折田）
 ①内外一元化：日本の地域コミュニティと国際の関係
 ②新しい潮流：環流人材、DX
 ③国際協力を日本の文化に
- 第14回 地域・自治体・国・国際社会における政府・行政の役割（宇佐美・栗田・折田）
 まとめ（講義全体の振り返り、各参加者の問題意識の変化、課題提出方法の説明等）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義初回で紹介する参考書等を事前に読むほか、講義資料に関連する案件につき、調査・検索し、まとめる。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜講師が資料配付を行う。

【参考書】

- ・宇佐美淳『ローカル・ガバナンスが重視される時代の地域コミュニティにおける自治体職員の役割に関する研究―“地域密着型公務員”としての地域担当職員制度に関する分析を通して―』博士学位論文、2021年
- ・栗田昌之『危機管理政策の構造と限界 東日本大震災を事例として』博士学位論文、2022年。
- ・折田朋美『日本の政府開発援助（ODA）の目的と国益―ODA大綱を軸とした政策と実施の変遷から―』博士学位論文、2022年。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度である「平常点」50%、「期末試験（レポート）」50%。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、参加学生との双方向で行われることから、学生から寄せられる気付きや所感等から、逐次講義のブラッシュアップを行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義終了後に教室で質問を受け付ける。なお、本講義を担当する講師の宇佐美は市役所に勤務の経験有しており、自治体行政職員として、栗田はコンサルタント（起業支援、許認可申請、BCP策定、人材育成）として、折田は、米国において高校・大学院で学び、フィリピン・スリランカにおける駐在等を含め公私による訪問国70カ国を数え、ODA実施機関（JICA）の職員として幅広い経験を有するなど、各々の経験を踏まえた実務的観点からの内容を交えて講義を行う。

【担当教員の専門分野等】

【宇佐美淳】

- <専門領域>行政学、公共政策学
- <研究テーマ>地方自治論、ガバナンス論、コミュニティ論
- <主要研究業績>
- ①『コミュニティ・ガバナンスにおける自治体職員の役割―“地域密着型公務員”としての「地域担当職員制度」―』公人の友社、2023年。
- ②『コミュニティの活性化』武藤博己・南島和久・堀内匠編著『自治体政策学』法律文化社、2023年（刊行予定）。
- ③『大都市自治体における地域担当職員制度に関する一考察―福岡市、世田谷区、札幌市の比較事例分析を通して―』『都市政策研究』第21号、2020年1月、公益財団法人福岡アジア都市研究所、pp.11-23。

【担当教員の専門分野等】

【栗田昌之】

- <専門領域>行政学、公共政策学、危機管理
- <研究テーマ>危機管理、リスクマネジメント、行政組織研究
- <主要研究業績>
- ①『我が国の災害政策と危機管理研究の一考察～「危機」への認識の変化と「災害政策」の変化』『公共政策志林』第3号 pp.29-45 2015年3月
- ②『危機管理の拡大と行政による危機管理』『安全保障と危機管理』vol.34 2015年冬号 pp.46-49 2015年12月
- ③『危機管理における危機の定義と段階的把握』『安全保障と危機管理』vol.46 2018年冬号 pp.31-34 2018年12月

【担当教員の専門分野等】

【折田朋美】

- <専門領域>行政学、公共政策、国際協力・政府開発援助（ODA）
- <研究テーマ> ODA政策と実施、ガバナンス、国際協力理解
- <主要業績（企画・全体編集・部分執筆）>
- ①国際協力機構（JICA）地球ひろば・国際開発センター（IDCJ）、「文部科学省国立教育政策研究所・JICA地球ひろば共同プロジェクトグローバル化時代の国際教育のあり方国際比較調査（第一文冊、第二分冊）」、東京、2014
- ②国際協力機構、「日本・途上国相互依存度調査（要約、本編、資料編）」、東京、2009
- ③国際協力機構、フィリピン共和国地方分権・地方開発／地方自治体行政能力向上プロジェクト形成調査、東京、2005

【Outline (in English)】

(Course outline)

The current situation surrounding Japan and the world is facing a complex crisis due to the impact of cross-border issues such as the spread of the new coronavirus infection and the intensification of natural disasters due to climate change, as well as the situation in Ukraine. In addition, Japan is required to respond to the declining birthrate, aging population, and rapid digitalization. These issues surrounding Japan and the world are closely and intricately related to the current situation of small communities such as local governments and regions in Japan.

Under such circumstances, the role of public policy is increasing, and the need for new policy development is increasing. Local communities, local governments, the national government, and the international society are each making multi-layered efforts to solve complex social issues by developing new public policies.

The aim of this course is to help students acquire understanding and considering the structure in which these contemporary issues are connected through local communities, local governments, national government, and the international society, and the role of the government and administration at each layer in dealing with these issues.

(Learning Objectives)

Students will be able to understand the role of the government and administration in local communities, local governments, national government, and international society in relation to various issues in modern society. Through the lecture, we aim to encourage participants to independently deepen their thoughts on the social movements behind their respective research subjects, and to bring about the development of research from new perspectives without being bound by preconceived notions or stereotypes. We believe that the content of the lectures given by each lecturer from different layers of government and administration, such as local communities, local governments, the national government, and the international society, will be of wide benefit to each participant, whose research subjects are diverse. Therefore, not only master's course students but also doctoral course students and undergraduate students can participate in this lecture.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (report) (50%), and in-class contribution (50%).

POL500P1 - 127

公共政策実践論 3 (地方自治研究)

渡部 朋宏、伊藤 哲也、小西 真樹

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・地方自治体が政策を進めていくうえで重要な住民論、都市計画行政、地方議会の3つのテーマについて、地方自治体での実務経験のある3名の講師がオムニバス形式で授業を行う。地方自治体にとって不可欠な構成要素である「住民」の概念や制度、「地方議会」の分析を通じてその状況や制度について講義を行うと共に、地方自治体の公共政策の一つである「都市計画行政」について、実例等の紹介により講義を行う。

3つのテーマを通じて、公共政策及び地方自治を研究・分析する視点を学び、研究課題の設定につなげる。

・各テーマの概要は以下の通り。

・住民論：東日本大震災及び福島原発事故により避難生活を余儀なくされた住民をテーマとして「住民論」の基礎を学ぶとともに、自治の現場で発生している課題を研究につなげる手法の修得を目的とする。

・自治体の都市計画行政：都市計画を工学的な専門技術として捉えるのではなく、社会科学としての都市計画の法制度や行政について理解し、その上で、そこで重要な役割を担う自治体の役割や実践について学ぶことを目的とする。

・地方議会の分析：重要な公共政策を決定する地方議会の分析を通じて、地方自治の研究手法としての計量分析の初歩について学ぶとともに、地方議会の状況や制度について理解することを目的とする。

【到達目標】

・住民に関する先行研究、関連する各種判例、地方自治制度・住民登録制度の歴史的経過を踏まえ、住民概念の形成過程を理解する。また、より実践に即した研究課題へのアプローチ、方法論を学び、自己の研究テーマを深化させる。

・自治体を実施する都市政策・公共政策のツールとしての都市計画制度を学び、公共政策における都市計画の役割や効果について学ぶことができる。自治体で都市計画に携わっている方や今後携わりたいと考えている方々に対し、公共政策を実践していくための知識や課題認識の設定につなげる。

・地方議会の分析を通じて、重要な公共政策を決定する地方議会の状況や制度について理解をするとともに、地方自治の研究手法としての計量分析の初歩(統計的推定、統計的仮説検定等)について理解をした上で、必要に応じて自己の研究への活用が行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・原則として対面で授業を実施(新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える)

・3人の講師によるオムニバス形式での講義を行う。原則として、毎回、講師がパワーポイントなどの資料を準備して講義を行い、レジュメを配布する。質問、意見を出すなど積極的な参加が望ましい。適宜、ディスカッションを行うこともある。また、テーマにより、事前に参考書を読んでおくなど、関連する情報を集め、問題意識を高めておくことを推奨する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (渡部・小西・伊藤)	初回はイントロダクションとして、3つのテーマそれぞれの概要を説明し、講義の目的について受講者と共有化を図る。

第2回	東日本大震災と福島原発事故避難の実態(渡部)	本講義の問題意識の原点となる東日本大震災と福島原発事故による全域避難自治体の一つを詳細に検証し、基礎的自治体が直面している様々な行政課題について考察する。
第3回	住民概念の考察(1) (渡部)	住民概念の法的位置づけを整理したうえで、住民の基礎となる「住所」について先行研究や判例をもとに考察を加える。
第4回	住民概念の考察(2) (渡部)	住民概念の先行研究や「住民」についての判例研究を踏まえ、住民の基礎的概念について理解を深めるとともに、原発避難者に対する現行制度の問題点を考察する。
第5回	地方自治制度における住民概念(渡部)	明治期以降の地方自治制度において住民概念がいかにして構築されてきたのかについて考察する。
第6回	住民登録制度の歴史的考察(渡部)	住民登録制度の歴史的経過を踏まえ、今後のあるべき住民登録制度について考察する。また、これまでの講義で取り上げた「住民」についての論点を踏まえ、ディスカッションにより全体のまとめを行う。
第7回	自治体の公共政策としての都市計画(小西)	都市計画の定義から、現代における都市計画の意義・役割や、自治体の都市政策・公共政策としての都市計画について考える。
第8回	都市計画法制度概論(小西)	我が国の都市計画法制度を紹介し、自治体の公共政策のツールとしてどんなことができるのか、あるいはできないのかについて考える。
第9回	都市計画の決定、行政手続き(小西)	都市計画法制度の中心をなす「都市計画の決定」について着目する。その主体や効力、またその行政手続きと「住民」や「議会」との関わりについて紹介し、法制度について考察する。
第10回	自治体都市計画の実践(小西)	これまでの講義をふまえつつ、自治体が公共政策のツールとして実践した都市計画の事例を紹介し、考察する。
第11回	地方自治研究における計量分析の意義、地方議会制度(伊藤)	地方自治の研究における計量分析の意義について理解するとともに、本講義において分析の題材とする地方議会の権限や議員定数などの制度について理解をする。
第12回	議会費の変化の状況とその理由の考察(伊藤)	2000年地方分権改革の前後の一定期間において、地方議会に要する経費である議会費の決算などがどのように変化をしていったかを理解し、その変化の理由について考察をする。
第13回	地方議会の計量分析①(伊藤)	地方議会の分析を通じて、地方自治の研究における計量分析手法の初歩について理解をする。具体的には、記述統計、データの可視化・視覚化、相関分析、回帰分析等について学術論文にどのように用いるかを理解する。

第14回 地方議会の計量分析
②、第11回から第
14回までのまとめ
(伊藤)

第13回に引き続き地方議会の分
析を通じて、地方自治の研究にお
ける計量分析手法の初歩について
理解をする。具体的には、統計的
推定、統計的仮説検定等について
学術論文にどのように用いるかを
理解する。第13回及び第14回
の講義を踏まえ地方自治の計量分
析を受講者が実際に行うととも
に、第11回から第14回までの
講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・準備学習・復習時間は特に必要ないが、時間内は集中し、積極的に
質問や意見提出を行い、ディスカッションに参加する。報告、ディ
スカッションを行う場合は、調査・取りまとめで2時間程度。
・各人が各回のテーマに関連する情報を集め問題意識を高めておく
ことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

・特に指定しない。各回、レジュメや資料を配布する。

【参考書】

(渡部)
・今井照・自治体政策研究会・編著(2016)『福島インサイドスト
リー 役場職員が見た原発避難と震災復興』公人の友社
・渡部朋宏著(2020)『住民論 統治の対象としての住民から自治の
主体としての住民へ』公人の友社
(小西)
・都市計画法制研究会(2018)『よくわかる都市計画法(第二次改訂
版)』ぎょうせい
・橋本隆(2022)『自治体の都市計画担当になったら読む本』学陽
書房
・都市計画法制研究会(2022)『都市計画法令要覧(令和5年版)』
ぎょうせい
(伊藤)
・大森彌(2004)『新版分権改革と地方議会』ぎょうせい
・河村和徳(2015)『政治の統計分析』共立出版
・数理社会学会(監修)筒井淳也・神林博史・長松奈美江・渡邊大
輔・藤原翔(編)(2015)『計量社会学入門—社会をデータでよむ』
世界思想社
・松本英昭(2015)『新版 逐条地方自治法<第8次改訂版>』学
陽書房
・浅野正彦・矢内勇生(2018)『Rによる計量政治学』オーム社

【成績評価の方法と基準】

講義への出席、意見発表や議論の積極性(80%)、レポート提出
(20%)。

【学生の意見等からの気づき】

・学生の論文作成テーマとかかわることから履修する場合もそうで
ない場合も、講義テーマと学生の関心が重なり、様々な質問・意見
から相互に学びあうことができる。講義中の質疑による理解の深ま
りに期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

第14回の講義のみ Excel が使用できるパソコンを準備すること。
その他の回についてはなし。

【その他の重要事項】

・多様な講師による講義であることを活かし、可能な限り、受講者の
学位論文の核となるリサーチクエスチョン等についての問いにも応
えていく。
・住民論及び自治体の都市計画行政の講師は現職の自治体職員であり
、地方議会の分析の講師は元自治体職員でもあることから、地方
自治の研究について問題意識を明確にして授業に臨んでいただけれ
ば、実践的・実務的な情報を得て、議論を交わすことができる。また
、実務の傍ら、自らの問題意識を基に学位論文を執筆した経験を
ふまえ、修士論文執筆のための手がかりを提供する。
・地方議会の分析の講義においては、統計学で扱うような内容につ
いては最小限に留め、地方議会を含めた地方自治の研究において計
量分析をどのように活用するかについて重点的に講義をする。社会
調査法の量的分析に関する科目を履修していることが望ましいが必
須ではない。

【渡部】

≪ 専門領域 ≫
地方自治、公共政策、住民論
≪ 研究テーマ ≫
住民概念、地方自治
≪ 研究業績 ≫
①『住民論 統治の対象としての住民から自治の主体としての住民
へ』公人の友社(2020.12) 自治体学会【研究論文賞受賞】
②「福島原発事故避難の実態と「住民」概念の転換—統治のための
住民から住民による自治へ—」自治体学 vol.31-1(2017.11)
自治体学会【自治体学研究奨励賞受賞】
③「震災復興の現状と課題」地方自治職員研修通巻708号(2018.3)
公職研
④「人口減少社会における「住民」概念の考察—福島原発事故避難
自治体の実態から—」自治実務セミナー 2018年12月 第一法規
⑤「「住民」概念の研究—統治される対象としての住民から自治の主
体としての住民へ—」公共政策志林第7号 2019年3月 法政大
学大学院公共政策研究科

【小西】

≪ 専門領域 ≫
都市計画、都市計画行政、まちづくり、行政制度、地方自治
≪ 研究テーマ ≫
自治体の都市計画・まちづくり行政、都市計画・まちづくり分野の
地方分権
≪ 主要研究業績 ≫
①「日本の都市計画法の分権改革に関する研究」法政大学博士学位
論文(2022.3)
②「都市計画決定に対する国の関与の範囲の縮減化に関する研究：新
都市計画法以降の分権改革の経過について」『都市計画論文集』Vol.47
No.2(2012.10)
③「国と自治体の建築・まちづくり行政における役割分担に関する
考察—建築基準法の指定道路図及び指定道路調書制度を題材として
—」『公共政策研究』第11号(2011.12)

【伊藤】

≪ 専門領域 ≫
地方自治、地方財政、地方議会
≪ 研究テーマ ≫
地方議会の計量分析、地方財政
≪ 主要研究業績 ≫
①「議会費の状況と自治体運営—決算統計等から分析する平成の市
区町村議会—」法政大学博士学位論文(2022.3)
②「市町村における議会事務局の職員数に関する研究」公共政策
志林第9号 2021年3月 法政大学大学院公共政策研究科
③「財政及び人口の観点からみた市区町村の議員定数の決定要因」
自治体学 vol.33-1(2019.11)

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces resident theory, city planning adminis-
tration and local assembly to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to Master the basics of resident
theory, acquire the legal system and administration of city
planning, and Master Local Assembly Analysis.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend
two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the
following:

Attendance at each class, aggressiveness of opinion announce-
ment and discussion:80%, Short report: 20%

POL500P1 - 201

ガバナンス研究

芦立 秀朗

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる「ガバナンス論」の第一人者の著作を英語・日本語で講読し、最終的にはそれらの理論枠組みを用いて学生が実際の政策形成過程を分析し、授業内で発表する。

【到達目標】

近年の行政改革で散見される参加型（住民参加・国民参加）とも関係の深い、「ネットワークによるガバナンス」の議論を自分なりに説明できるようになること。それらの議論を実際の政策形成過程に当てはめて説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面で実施される。この授業では「ガバナンス論」の第一人者の著作を英語・日本語で講読する。受講生は要点を日本語のレジュメにまとめて、発表することが求められる。補足の解説や著作の内容に関する議論も行う。最終的にはそれらの理論枠組みを用いて実際の政策形成過程を分析し、発表してもらう。課題については、次回の授業あるいはメールにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「ガバナンス論」とは何か（1）	この授業の目的と進め方について解説し、到達目標を確認する。
第 2 回	「ガバナンス論」とは何か（2）	「ガバナンス論」について説明した短い文献を講読し、レジュメの作り方について学ぶ。
第 3 回	「政府の道具」の議論	「ガバナンス論」の前提としてフッドらによる「政府の道具」の議論について学ぶ。
第 4 回	行政改革に関する議論	「ガバナンス論」の前提としてガイ・ピーターズによる「政府の道具」の議論や行政改革について学ぶ。
第 5 回	第一世代の「ガバナンス論」（1）	ローズの著作（英書）を講読し、第一世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第 6 回	第一世代の「ガバナンス論」（2）	ガイ・ピーターズの著作（英書）を講読し、第一世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第 7 回	第二世代の「ガバナンス論」（1）	トルフィングの著作（英書・和訳）を講読し、第二世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第 8 回	第二世代の「ガバナンス論」（2）	ソレンセンの著作（英書・和訳）を講読し、第二世代の「ガバナンス論」の内容を理解する。
第 9 回	期末レポートについての構想の中間報告とそれに基づく議論	各自が関心のある問題の一つ取り上げ、各自がその見解を討議する。

第 10 回	「ガバナンス論」の最前線	「ガバナンス論」をはじめとする政治・法律・公共政策のキーコンセプトを理解する。各自が関心のある問題の一つ取り上げ、各自がその見解を討議する。
第 11 回	ローカル・ガバナンスの最前線（1）	各自が関心のある自治体を事例に、地方政治と国政の関係を理解する。
第 12 回	ローカル・ガバナンスの最前線（2）	各自が関心のある自治体を事例に、地方行政について理解する。
第 13 回	具体的な社会問題の検証（1）	これまで学んだ「ガバナンス論」を実際の分析に用いるとどうなるか、担当者が執筆した論文を講読しながら、考える。
第 14 回	具体的な社会問題の検証（2）	現在問題となっている社会問題を取り上げ、各自がその見解を討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間（合計 4 時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

様々な著作の一部を扱うのでテキストは特に指定しない。初回に文献リストを配布するので、図書館で借りる等すること。

【参考書】

岩崎正洋【編著】（2011）『ガバナンス論の現在』東京：勁草書房
村上弘・佐藤満【編著】（2016）『よくわかる行政学 第 2 版』京都：ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 40 % と平常点 60% で評価する。平常点は文献の理解の程度、授業への貢献、報告内容で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度より授業を担当しているが、過年度の受講生からは英語で文献を読む習慣付けになったとコメントを得ている。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後に実施するが、メールでの相談も行う。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 行政学
〈研究テーマ〉 ガバナンス、援助行政
〈主要研究業績〉
・「援助行政への参加と政策への支持の関係-JGSS-2006 データから-」『産大法学』第 48 巻、第 1・2 号、2015 年。
・「幹部人事と政治介入制度」大谷基道・河合晃一編『現代日本の公務員人事』第一法規、2019 年。
・「与野党激突型なき選挙戦における野党勝利一京都市区一六区一」白鳥浩編著『二〇二一年衆院選：コロナ禍での模索と「野党共闘」の限界』法律文化社、2022 年。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this class, students will first learn theories of “governance,” and be asked to apply them to the current policies in Japan.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to be familiar with theories of “governance,” and to understand Japanese politics by using those frameworks.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report : 40%, in class contribution: 60%.

POL500P1 - 202

リージョナリズムと非政府組織

大芝 亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修者は、EU や ASEAN などの地域的国際機関の活動および NGO の活動について学ぶ。次に、こうした非政府組織の活動の意義を、グローバリズム、リージョナリズム、トランスナショナルリズムなどの概念を用いて、考える。具体的には、地域的国際機関および NGO の活動に関する論文を読み、議論する。また、国際秩序論あるいはグローバル・ガバナンス論に関する理論的論文を取り上げ、こうした理論の有用性について議論する。

【到達目標】

履修者が、まず、国際関係における非政府組織（国際組織や NGO）の活動・課題を理解することをめざす。次に、こうした非政府組織の活動の意味をリージョナリズムおよびトランスナショナルリズムという概念に照らして自分なりの考えをもつことをめざす。履修者は、このように国際関係の変容を理解することにより、国際社会の諸問題について、現実的な解決策を考察することができる（講義の意義）。I expect the participants to understand the activity of regional organizations and NGOs to develop their own perspectives on the roles of regional and transnational organizations in the global politics. It is very important for the participants to examine how to improve the problems we face based on their viewpoints of global politics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的に、毎週ごとのテーマについて、簡単に紹介したのち、関連する論文を取り上げ、皆で議論する。一方的な講義形式は採らない。履修者は、論文についての要約と論点提示を行う。履修者による要約と論点提示の回数などは、集中講義であることを配慮して、履修者と協議して決める。実際に対応できるようにする（和文・英文、文献の分量など）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的等の説明
第 2 回	地域（リージョン）とは？	多様なリージョン概念と政治的含意について。 リージョナリズムとは。
第 3 回	グローバリズムとグローバル・ガバナンス	グローバリズムとは。 グローバル・ガバナンス論とは。
第 4 回	経済のグローバル化とグローバル・サプライチェーン	経済のグローバル化現象について。 グローバル・サプライチェーンについて。
第 5 回	プライベート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスについて。 ステークホルダー・ガバナンスとプライベート・ガバナンスについて。
第 6 回	非政府組織と公共	公共の担い手はだれか？ 公と私
第 7 回	NGO の分類	NGO の分類と新しいタイプの登場

第 8 回	NGO と地球環境問題	世界銀行インスペクションパネルの場合
第 9 回	NGO と児童労働問題	東南アジアにおける劣悪労働問題
第 10 回	NGO と人権	英国奴隷法の場合
第 11 回	中国の戦略	一帯一路政策
第 12 回	米中関係と多国籍企業	おもに米国の対中経済政策に焦点を当てて
第 13 回	米中関係と国際 NGO	米中関係と国際 NGO 国際消費者運動を事例として
第 14 回	総括	政府・企業・NGO の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌日、とりあげる文献を事前に目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、1 本の論文を取り上げ、議論する。授業で取り上げる論文については、事前に PDF で送るか、あるいは入手するための URL を連絡する。

【参考書】

・国際関係の理論について、基礎的知識のあることを前提としているが、最初の数回ほど、入門的テキストを使用する。大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の議論、および最終時間に研究発表を行う。これらに基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・実態を示すドキュメント・ビデオも活用する。
・毎週とりあげるテーマに関連して、自主的に、新聞記事なり、国際組織・NGO 等の報告書なりを調べ、授業の際に、簡単に皆に対して報告することを歓迎する。

【その他の重要事項】

対面授業を希望しているが、教員が地方在住のこともあり、コロナ感染状況等に応じてオンライン授業で行うこともありうる。集中講義の具体的な日程については、大学で指定する集中講義期間を想定しているが、履修者が確定した段階で、履修者とメールで日程調整を行い、履修者が参加可能な日程を決定する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係論、国際機構・NGO 研究
<研究テーマ>世界銀行の資金配分
<主要研究業績>大芝亮他『パワーから読み解くグローバル・ガバナンス論』、有斐閣、2016n 年。大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ、2016 年。大芝亮編『日本の外交 対外政策 課題別』岩波書店、2013 年。

【Outline (in English)】

Participants are expected to understand the regional organizations, e.g. EU and ASEAN, as well as NGOs. Participants are also expected to examine the roles of these non-state actors in global politics, using the concepts of globalism, regionalism, and transnationalism. We discuss the non-state actors' activities and the usefulness of globalism, regionalism and transnationalism through the discussion on articles/journal papers.

MAN500P1 - 203

企業論

加藤 寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、受講生が企業に関する正確な理解をもつことにおきます。次のような問い、企業とは何か、企業はなぜ存在するのか、企業は経済活動上どんな役割を果たすのか、への答えを説明します。経済学の企業論は 20 世紀に入って生まれた理論です。その概要を理解することが目的です。

【到達目標】

基礎理論を踏まえつつ、最新の理論的成果と現代企業が直面する主要な活動を学ぶことを通じて、受講生各自が、様々な企業を分析理解できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

個別企業のケースを取り上げながら説明します。そのためパワーポイントを使った説明が主になります。原則対面で実施します。フィードバックは毎回課題を提出してもらい、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	集団と組織と公式組織。システムとは何か。	映画『君の名は。』で考える公式組織とシステム。
第 2 回	階層構造。付加価値と利益。経営する（マネジメント）とは。プロセス分析。	経営者の役割（マネジメント）について、身近な例から考える。設けるとはどういうことかについてプロセス分析を基に具体的に考える。
第 3 回	セグメンテーション。紀伊国屋文左衛門。会社法と株式、株主。	三方良しとセグメンテーションとの関係に考え、三方良しは実は難しいことについて考える。株主＝従業員ではないことについて考える。
第 4 回	出資と資本との関係	株式は出資と資本を結びつけることについて考える。
第 5 回	会社法と株主主権論	法律用語だと従業員は使用人にすぎない。会社は株主のものであり、それはなぜかについて考える。
第 6 回	会社はプロジェクト。日本に株式会社概念をち込んだ福沢諭吉と、株式会社を普及させた渋沢栄一。	新旧の 1 万円札の肖像画の人物達が、日本社会に為した大きな貢献について説明する。
第 7 回	企業価値と株式会社の仕組みについて	現代では会社は期限付きプロジェクトではなくゴーイングコンサーンであること。会社は株主に約束をしていることについて。
第 8 回	タラントのたとえについて	タラントのたとえをファイナンスの観点で解釈すると資本市場の考え方そのものがうかがいあがることについて。

第 9 回 経営組織論

なぜ分業すると階層組織になるのかについて。官僚制や科学的管理法について。企業別組織と事業別組織について。

第 10 回 組織行動論

動機付け理論。キャリア・アンカー。ダイヤログ。心理的安全性。題意バーシティ・&・インクルージョン。リーダーシップの捉え方の変遷について。

第 11 回 戦略・環境・資源

戦略・環境・資源。SWOT 分析。資源と戦略と競争優位の関係について。ビリー・ビーンのエノベーションとそれを阻む者について。キャリア・アンカーについて。

第 12 回 科学的管理法。時間研究。動作研究。財務分析入門。

時間研究・動作研究を実際に行ってみる。なぜ社会学部では科学的管理法が好まれないのかについての歴史的背景について。就活を考慮すると財務分析がいかに重要なのかについて。

第 13 回 平均給与の実態。損益計算書と貸借対照表。創業者利益とキャッシュフロー計算書。黒字倒産。WACC < ROIC。

平均給与の実態を読み解く。実際の企業を事例としながら損益計算書と貸借対照表、キャッシュフロー計算書がいかに重要なかを説明する。

第 14 回 イノベーション。就職活動の実態。均衡を動かす。企業価値の推定。

イノベーションは身近なものであること。社会学部の学生でも貢献予知があること。均衡を動かすには様々なやり方がありその成功例を例示。企業価値の推定を証券アナリスト達がどのようにおこなっているのかを事例を含めて平易に説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に参考文献をいくつか指定するので読んでおくこと。問題意識を持って講義に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いません。プリントを配布します。

【参考書】

毎回の講義の最後に、参考文献をお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、企業の理論を理解し説明できること、に置きます。評価方法は、次の二つの要素の総合です。毎回の簡単な宿題 50 %、授業への貢献度 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の簡単な宿題提出の際に質問や、自分の修論に関係するであろう取り上げてもらいたいテーマについて学生からの反応に応じて授業内容やスタイルをカスタマイズしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

講義では必要に応じてパワーポイントを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域産業論・戦略論・企業論
 <研究テーマ> 造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
 <主要研究業績>
 「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）
 「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）
 「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）
 「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）
 「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】

The theme of this class is for students to have an accurate understanding of corporations. We will explain the answers to the following questions: what is a corporation, why do corporations exist, and what role do corporations play in economic activity? The theory of the firm in economics is a theory that emerged in the 20th century. The purpose of this course is to provide an overview of this theory. To study about modern firms and modern societies. Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

MAN500P1 - 204

グローバル企業戦略論

多田 和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、グローバル企業の経営戦略に関する基本理論を学びます。今日、市場や経済のグローバル化はたしかに進展する一方で、各国・各地域の相違も根強く存在します。このような経営環境において、グローバル企業にはいかなる戦略が必要なのか。この問題に関して、理論的・実践的に分析するための基本概念を学ぶことを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) グローバル企業の戦略に関する基本理論を理解し、活用できる。
- 2) 授業で学んだ知識をもとに、グローバル企業の戦略を論理的かつ実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Understanding of basic theories of International Business,
- 2) Empirical analysis of strategies of MNCs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、教科書を使用し演習形式によって実施します。受講生全員で教科書を輪読していただく予定です。授業に関するお知らせは、学習支援システム上で行います。なお、対面形式を中心に、適宜、ハイフレックスもしくはオンライン形式も取り入れて授業を実施する予定です。また、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション①	オリエンテーション
第2回	イントロダクション②	グローバル企業による戦略の概要
第3回	国際経営環境の分析	CAGE フレーム・ワーク
第4回	グローバル企業の変遷	優位性の命題、内部化理論、OLIパラダイム
第5回	グローバル企業の国際競争の歴史	グローバル企業の変遷
第6回	グローバル企業の組織デザイン	グローバル企業の発展と組織構造
第7回	トランスナショナル経営	グローバル統合とローカル適応
第8回	海外子会社の経営	海外子会社特有の優位性と経営課題
第9回	国際マーケティング	国際的な STP
第10回	ものづくりの国際拠点展開	海外生産ネットワーク
第11回	研究開発の国際化	HBE 型と HBA 型
第12回	国際的な人的資源管理	EPRG プロファイル
第13回	国際パートナーシップ	メリットと留意点
第14回	日本企業のさらなる国際化のために	企業の社会的責任

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。特に、プレゼンテーションを担当する回は入念な準備が必要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

浅川和宏（2003）『グローバル経営入門』日本経済新聞社。
大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2021）『国際経営（第5版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献：50%、期末レポート:50%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contribution: 50% and Term paper: 50%.

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果をはじめ、学生からの意見や要望は、随時、授業改善に活かすように努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
国際経営論
<研究テーマ>
国際研究開発、新興国市場戦略
<主要研究業績>
法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basic of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Basic theory of international business,
- 2) Basic framework of international business,
- 3) Advantages/disadvantages of international business.

SOC500P1 - 210

市民社会とコミュニティ

淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の「市民社会とコミュニティ」と政治学研究科の「コミュニティ論研究 1」との合併開講で、地域コミュニティに関する政策論を学ぶための科目の一つとして設置されている。本科目ではコミュニティ・レベルで展開している諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。

日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間（「市民社会」）側の多様な営為が生活を支えてきたことを論じていく。

【到達目標】

日本のコミュニティの基礎的組織（自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など）や地域で活動するNPOなどについて理解し、その現代的、日本の特徴を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の変容とコミュニティ	福祉国家の形成と変容に伴い、人と人との「つながり」がどのように変化してきたのかを論ずる。
第 2 回	市民社会の概念史	日本人の市民社会意識を考えるため、市民社会の概念史を確認する。
第 3 回	都市化とコミュニティ	都市の発展により、コミュニティにおけるネットワークがどのように変化してきたのかを考える。
第 4 回 前半	日本における自治会・町内会	自治会・町内会の基本的特質と歴史を論ずる。
第 4 回 後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、日本の自治会・町内会に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 5 回 前半	スコットランドの住民組織	スコットランドの地域評議会について説明する。
第 5 回 後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、各国の住民組織に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 6 回 前半	コミュニティにおける「居場所」づくり	近年活発に取り組まれているサロン活動、コミュニティ・カフェなどの事例を検討する
第 6 回 後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティにおける居場所作りに関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。

第 7 回 前半 コミュニティの「再生」

現代におけるコミュニティの「再生」について事例に基づいて検討を行う。

第 7 回 後半 受講者による課題報告

受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティの「再生」に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

市民社会やコミュニティに対する受講生の分析視角が多様であり、その多様性を理解するためにも相互に議論する機会をより多く設けることが必要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
 <主要研究業績>
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

Community governance in many countries has gone through great transformations in the last half century. The course seeks to provide an understanding of these changes in community policy and why they have come about. The course analyses the ideological and political factors which have shaped the development of civil society in industrial countries in the past and are shaping it in the present. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

SOC500P1 - 211

都市ガバナンス論

植木 豊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、公共性と「都市ガバナンス」をテーマに講義を行う。今日、公共的な問題を解決するためには、中央政府といった単独主体だけでは不十分になりつつある。都市の問題を、地方政府・企業・非営利組織・自治会等の連携によって解決する様式が求められつつある。このように、公共的な問題を、地元地域の複数主体連繋（ガバナンス）によって解決していく様式の成立如何を議論していく。

【到達目標】

複数主体間連携による問題解決（ガバナンス型問題解決）の成否要因を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面講義形式。配布資料に基づいて講義を進めていき、合わせて、扱った問題について、議論していく。その際、講義内容に基づいた論文作成／アウトライン作成演習等の課題を課し、返却時に議論を含めたフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	I ガバナンスとは何か—総論— (1) ガバナンスをめぐる様々な議論	ガバナンス論をめぐる概観
第 2 回	(2) 公共性とガバナンスの実際—思考実験による例解—	具体的な事例を基にして、ガバナンス論の分析枠組みの概略を知る。
第 3 回	II ガバナンス論登場の社会的背景 (1) 「制度の失敗」総論	ガバナンス論が登場した背景を「制度の失敗」という観点から捉え返す。
第 4 回	(2) 「市場の失敗」	「市場の失敗」を社会学の観点から考察する。
第 5 回	(3) 「市場の失敗」に対する国家の介入	福祉国家論と「土建国家」論の具体的な事例を理解する。
第 6 回	(4) 「国家の失敗」	福祉国家の失敗と「土建国家」の失敗の要因を把握する。
第 7 回	(5) 「国家の失敗」に対する新自由主義的処方箋の失敗	欧米、日本における新自由主義の登場とその帰結を考察する。
第 8 回	III 中間考察—公共性とガバナンス	ガバナンス論登場の背景を把握した上で、ガバナンス論の課題・分析枠組みを理解する。
第 9 回	(1) ガバナンスにおけるデューイ的公共性とハーバーマスの公共圏の交差—その 1	ガバナンス型問題解決は、デューイ的公共性とハーバーマスの公共圏との交差場面で主題化されることを把握する。
第 10 回	(2) ガバナンスにおけるデューイ的公共性とハーバーマスの公共圏の交差—その 2	デューイ的公共性とハーバーマスの公共圏の分析枠組みを理解する。

第 11 回	IV ガバナンスの実際 規範理論と経験理論	ガバナンス論の現状を、規範理論と経験理論の観点から考察する。
第 12 回	(1) ガバナンスの分析枠組み	具体的な事例を念頭に、何をどう分析すべきかを考察する。
第 13 回	(2) 複数主体間連携による問題解決の実際	具体的事例をガバナンス論の分析枠組みを用いて考察する。
第 14 回	まとめ	ガバナンス型問題解決の行方と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料（専門書・論文・新聞記事等のコピー）を予習・復習に用いること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回、論文・新聞記事等のコピーを配布。

【参考書】

Mark Bevir ed. (2011) The Sage Handbook of Governance, Sage.

マーク・ベヴィア『ガバナンスとは何か』NTT 出版。

【成績評価の方法と基準】

ガバナンスに関する小論文を学期末に提出してもらい、この小論文(2,000 字以上)で成績を評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の問題関心は、理論志向、事例志向など様々であると思われるので、

受講生の要望に適宜応じていく予定。

たとえば、2019年度は事例分析を多くし、2020年度2021年度2022年度は理論分析を多くした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>社会理論、都市論

<主要研究業績>

著書

植木豊『プラグマティズムとデモクラシー— デューイ的公衆と「知性の社会的使用」』ハーベスト社

『社会的プラグマティズムと『探究者たちのコミュニティ』』(吉原直樹ほか編『コミュニティ思想と社会理論』東信堂所収)

訳書

ジョン・デューイ『公衆とその諸問題』ハーベスト社

『プラグマティズム古典集成— パース、ジェイムズ、デューイ』作品社

『G・H・ミード著作集成— プラグマティズム、社会、歴史』作品社

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to provide an analytical framework for urban governance. Given that a single governmental body is not sufficient to solve public problems under today's complicated urban conditions, it is worth noting that co-operations of different kinds of urban associations are emerging as means for solving urban problems. The lecture discusses in what way urban governance can solve them.

The evaluation of learning results will be based on a term-end paper with more than 2,000 characters (100%).

The paper requires research on governance studies and technical writing expertise.

SOC500P1 - 212

まちづくり研究

野口 和雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まちづくりは、日本に特有の多義的言語である。研究者はもとより「まちづくり」を語る主体により、また文脈により、地域により、時代状況により意味が異なる。人口減少地域では、地域の活性化を図るための「まちづくり」が必要であるとして定住人口の確保、子育て環境づくり、高齢者対策、身近な購買機会の確保等を含む概念であると定義され、狭隘な駅前などでは再開発や区画整理が「まちづくり」と同義語で使われている。民間企業による住宅開発、商業施設開発も「まちづくり」とされ、市民による子ども食堂も「まちづくり」と言われるので、固定的な定義はここでは避けたい。

この研究では、人口減少期に突入した現在の日本にもける地域の課題を共有化した上で、その解決手法としての「まちづくり」を、日本のみならず海外の歴史や現在の試みを学びながら、これからの「まちづくり」のあり方を検討したい。なお、講師は、まちづくりの選択肢とプロセスは複数存在し、それをどう提示できるか、まちづくり主体によるアクションをどう引き出せるかが重要だと考えている。

【到達目標】

- ・地域もにおけるまちづくり上の政策課題を分析し整理できる能力を養う。
- ・課題を解決するためのまちづくりの理念とビジョンを策定する思考力を養う。
- ・理念やビジョンを実現する制度手法を見つけ出すことができる提案力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面式で行う。

授業では、授業ごとに、講義形式と講義+ディベート形式を組み合わせで行う。

講義形式では、講義後質疑と意見交換を行う。講義+ディベート形式では、授業の前半は講師が作成したテキストに基づき講義し、後半は質疑と講師からの問題提起を受けての受講者間のディベートにより授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	まちづくり概論	まちづくりの領域と日本における「まちづくり課題」を整理し共有化する。
第2回	近代の都市・まちづくりの起源	都市への集中、高密度とそれに伴う環境、衛生問題からはじまった近代都市におけるまちづくりの系譜を概観する。
第3回	田園都市、近隣住区論と輝く都市	ハウードの「田園都市」、ペリーの「近隣住区」とコルビジェの「輝く都市」の問題提起
第4回	米国の都市・まちづくり	米国のまちづくりマネジメントの思想と方法を学ぶ。
第5回	日本の都市・まちづくり	日本の都市・まちづくりの歴史的経過
第6回	都市規制と緩和の効果	と制度的課題を整理する 都市・まちづくりにおける新自由主義の展開、「光と影」を考える
第7回	人口減少と都市・まちづくりの課題	人口減少時代における都市・まちづくりの課題を考える

第8回	コンパクトシティと都市再生	政府によるコンパクトシティ、都市再生戦略の。効果と課題を考える
第9回	空家問題、所有者不明土地問題と都市・まちづくり	空家問題、所有者不明土地問題と立法措置を整理した上で、課題と解決方策を検討する。
第10回	高層マンションの街の持続可能性	区分所有マンション、特にタワーマンションの実態と法律上の課題を整理した上で、解決方策を検討する。
第11回	公共空間のコモンズ化の方法と課題	地域において公共空間はもとより、かつてあった（都市）コモンズが失われつつある。その一方で、コモンズの再生の試みが行われている。実態と制度、試み等に学びながら、コモンズ再生のあり方を検討する。
第12回	パタンランゲージと日本での実践	まちづくりのオルタナティブとしてパタンランゲージという方法と実践を学ぶ。
第13回	まちづくり条例によるまちづくり	日本では、まちづくり関連法とは別に自治体の独自の制度として多様なまちづくり条例が制定され一定の役割を果たしてきた。その歴史と事例から、まちづくり制度のあり方を考える。
第14回	まちづくりと市民参加	まちづくりの分野における市民参加には、多様な手法が試みられ、参加を実質化する試みが行われていることから、まちづくりにおける市民参加の方法、意味などを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使うテキストはどの都度配布する。

【参考書】

テキスト、参考文献、参考論文、事例等は、適宜受講者に通知する。

【成績評価の方法と基準】

授業内議論参加 40%、最終レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

受講者からの質疑、意見を踏まえ、後日授業で資料配付、補足説明等を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ただし、発表の際にプロジェクターを使用する場合は、PCを持参のこと。

【その他の重要事項】

実務経験

- ・都市再開発、ショッピングセンターづくり、商店街のまちづくり
- ・自治体の条例起案
- ・自治体の都市計画変更起案
- ・都心から過疎地まで、まちづくりの提案、合意形成のコーディネイト
- ・自治体の委員
- ・都市計画・まちづくり関連法議員提案の起案、国会での参考人

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>まちづくり制度、土地利用計画
- <研究テーマ>
- <主要研究業績>

【専門領域】

市民参加、まちづくり制度、土地利用計画

【研究テーマ】

都市関連法改正、人口減少下における都市政策及び土地利用政策、まちづくりにおける市民参加

【主要研究業績】

- 解説と運用法・改正都市計画法
- 都市計画の日米比較 1994年10月財）第一住宅建設協会
- 地方自治体と成長管理 1995年1月都市計画
- 独自のまちづくり体系確立の試み 1997年7月法学セミナー
- 景観法と「美の条例」2008年4月自治体法務ナビ Vol.22
- まちづくり条例の実態と課題 2011年4月日本不動産学会誌 No.95
- 言語基準と実効性 2013年12月日本不動産学会誌 No.106
- まちづくり条例の展望と限界 2013年2月都市問題 Vol.104

空き地・空き家対策における地域社会の役割 2020年3月千葉商科大学
経済研究所 CUC

V I E W & V I S I O N

No49

所有者不明土地解消に向けた民事基本法制の見直しについて 2021年8
月地域開発 vol.638

【Outline (in English)】

The word “MACHIDUKURI” has several meanings.

The word “MACHIDUKURI” is used in different definitions by city planners and researchers , and used in different meanings according to the area or the context by citizen.

So, I the lecture do not use the word in some fixed definition, but support students to find their own definitions.

This class aim to develop the ability to plan a future “MACHIDUKURI” by studying history and practicing “MACHIDUKURI” on present spot.

SOC500P1 - 213

文化政策研究

松本 茂章

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体の文化政策についての理解を深め、論議することをテーマとする。狭義の自治体文化政策は文化施設の設置と運営、文化事業の展開が中心になるだろうが、本授業では広義の自治体文化政策にも話を広げたい。観光振興、まちづくり、産業振興など、文化を通じた地域づくり策に言及する。

【到達目標】

中央政府の文化政策を総括したうえで、近年に展開されている自治体文化行政あるいは文化政策の経緯と現状を修得する。その後、都内を中心とした自治体文化政策の事例を学ぶ。現地を踏査することで、現状把握に努める。視察をもとに、受講生は自らの出身地あるいは現在の居住地のありようについて調べ、討議し、21世紀の地域づくりを考える。

観光振興やまちづくりの政策も取り上げ、受講生の視野を広げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教科書を読みながら進める。積極的に広義の文化政策を取り上げようと考えている。文化による地域活性化、まちづくりである。文化施設の設置あるいは文化事業の実施によって、まちの空気が変わっていく……。そのような先駆的事例を紹介しつつ、都内を歩いて現場を体験したいと想定している。

身近な課題である観光振興、まちづくり等について、具体的な事例を取り上げる予定。受講生とともに、21世紀の文化政策のありようを考える。

しかし、政策は「生きもの」なので、適宜、新しいニュースが入れば、授業計画を変更して、新たなことに言及する可能性があることを了承願いたい。

まち歩き（フィールドワーク、視察）を行う予定にしているが、シラバス作成時で具体的な場所を明記できない。市ヶ谷という都心に立地する法政の地理的利点を生かしたいと考えている。

受講生は自らの関心のある都市、たとえば出身地や居住地の取り組みについて調査を行い、適宜、発表することで、討議の材料を提供する。

感染状況次第で、対面授業にするか、オンライン授業にするか、を詰めていく。

冒頭の数回は対面で行い、その後、感染の状況を丁寧に把握しながら、実施のありようを検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	◆文化芸術基本法の制定	・2017年に制定された文化芸術基本法の意義や特色について説明する。
第2回	◆美術館が仕掛けるインバウンド戦略	・六本木アートナイトを事例に国際観光と美術館のありようについて、教員の説明をもとに論議する。

第3回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪ね、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることをあらかじめ了承する)
第4回	◆都内での現地踏査	・都内のまちをあるき、文化施設を訪ね、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることをあらかじめ了承する)
第5回	◆エコツーリズムの取り組み	・京都府南丹市美山町の取り組みを事例に、かやぶきの里が海外観光客を引き付ける様子を紹介。訪日外国人観光に必要な要素を考える。
第6回	◆伝統工芸の海外展開	・日本の伝統工芸を海外に輸出する現状と課題について、教員の説明をもとに、受講生が論議する。
第7回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する)
第8回	◆都内での現地踏査	・都内のまちを歩き、文化施設を訪れ、実態を把握する。 (シラバス作成時では未定) (交通費、入場料は自己負担であることを、あらかじめ了承する)
第9回	◆地域の商店街をアートの活性化する試み	・商店街衰退の現状を把握し、文化芸術を用いて課題解決する取り組みの可能性を探る。
第10回	◆伝統芸能を用いた地域の誇り形成とまちづくり	・杉並区高円寺の阿波踊りを事例に、商店街振興と文化事業のありようについて、教員の説明をもとに論議する。
第11回	◆空き家対策とアートマネジメント	・鳥取市の取り組みを事例に、空き家を活用した文化事業に言及する。
第12回	◆廃校をアートの現場に変える	・廃校になった小学校校舎をアートセンターに改装した立川市の取り組みを事例に、これからの文化政策のありようを話し合う。
第13回	◆ホスピタルアートの可能性	・病院で文化芸術を展開する取り組み事例を知り、その意義を見つめる。
第14回	◆まとめ	・受講生が自ら関心のある都市の現状を報告して論議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松本茂章編著『文化で地域をデザインする 社会の課題解決と文化をつなぐ現場から』（学芸出版社、2020年）

同書を教科書に用い、受講生と教員が一緒に読みながら授業を進める。

【参考書】

松本茂章著『日本の文化施設を歩く 官民協働のまちづくり』（水曜社、2015年）

松本茂章編著『はじまりのアートマネジメント』（水曜社、2021年）

松本茂章編著『ヘリテージマネジメント 地域を変える文化遺産の活かし方』（学芸出版社、2022年）

など。

必要があれば、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

単位取得には、授業の3分の2以上に参加することが前提となる。不足する場合、学期末レポートの提出資格を得られない。

配布するコメントペーパーへの記入状況 50%

授業中の発言など授業参加の姿勢 20%

期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

公立文化施設等を訪ねるまち歩き（フィールドワーク）は毎年好評なので継続したい。
法政大学公共政策研究科は都心にあり、地理的に恵まれている。この環境を生かして都内各地に足を運ぶ予定である。
感染拡大の状況を注視しながら慎重に実施の可能性を検討。授業中に改めて指示を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

文化政策研究は、市民社会ガバナンスコースの専門科目に含まれているものの、自治体文化政策を主に取り上げるので、ぜひ公共マネジメントコースの院生にも受講していただきたい。自治体職員、自治体文化財団職員、NPO 職員、あるいはこれらを目指す院生にも参考になる、と考えている。

政策は日々動いているので、新たな取り組みが展開したり話題になったりした場合、ニュースとして直近の動きを取り上げる場合がある。視察に関しても、ゲストの都合や天候などを考慮して変更される場合がある。このため、上記の授業計画の内容や順番は変更される可能性があることを事前に了承願いたい。

視察に関しては、交通費、入館料は自己負担であることを、あらかじめ了承して受講すること。

社会人受講生の場合、仕事に追われるため、日々の通学は大変だと思われるが、頑張って出席していただければ……と願う。やる気のある院生の受講を期待する。

講義のなかで、おりをみて、修士論文作成に臨む姿勢や図書館の利用等についても助言する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

政策科学、自治体文化政策、文化施設の管理と運営

<研究テーマ>

自治体文化政策の現状と課題、文化による地域デザイン、文化施設研究、指定管理者制度

(日本アートマネジメント学会や日本文化政策学会などに所属)

<主要研究業績>

◆単著

松本茂章『芸術創造拠点と自治体文化政策 京都芸術センターの試み』(水曜社、2006年)

松本茂章『官民協働の文化政策 人材・資金・場』(水曜社、2011年)

松本茂章『日本の文化施設を歩く 官民協働のまちづくり』(水曜社、2015年)

◆共編著

中川幾郎、松本茂章編『指定管理者は今どうなっているのか』(水曜社、2007年)

など

◆共著

『入門 文化政策』(ミネルヴァ書房、2008年)

『地域の自律的蘇生と文化政策の役割』(学文社、2011年)

『都市自治体の文化芸術ガバナンスと公民連携』(公益財団法人日本都市センター、2018年)

など

【Outline (in English)】

This course is designed for students who want to learn the actual situation and problems of community development with cultural activities in Japan. We are going to focus especially on municipal cultural policies, including tourism promotion, landscape conservation, and revitalization of central urban area. At the same time, however, it is possible to deepen your understanding of governmental cultural policies, with which municipalities have to build a mutually complementary relationship in order to realize these policies. Each of the cities or towns familiar to students is an important subject for our study. The main objective of this course is to extend the whole knowledge of cultural policies through concrete examples enough to discuss with each other and consider together the community development with arts and culture in the 21st century. Sometimes field research in Tokyo will be conducted.

Grading criteria

- ・ Class attendance (50%)
- ・ Attitude in class (20%)
- ・ Term-end examination (30%)

SOC500P1 - 214

シンクタンク論

蒔田 純

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】

・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
 ・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
 ・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家－社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの働きをお話していただく。

授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第2回	シンクタンクとは	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第3回	国家と社会	国家－社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第4回	政策形成とシンクタンク	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第5回	シンクタンクの人材	リボルビングドア、政治任用など
第6回	シンクタンクの資金	フィランソपी、501(C)3 など
第7回	シンクタンクの分類	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど

第8回	海外のシンクタンク①	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第9回	海外のシンクタンク②	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第10回	日本のシンクタンク	日本のシンクタンクについて
第11回	立法補佐機関とシンクタンク	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第12回	団体とシンクタンク	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第13回	自治体シンクタンク	自治体が創設したシンクタンクについて
第14回	まとめ	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

- Alex Abella, 2009. *Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire*, Mariner Books.
 飯尾潤. 2007. 『日本の統治構造』中央公論新社.
 小池洋次（編著）. 2010. 『政策形成』ミネルヴァ書房.
 Shimizu, Mika. 2015 “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.
 Smith, James A. 1991. *The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite*, Free Press.
 鈴木崇弘. 2007. 『日本に民主主義を起業する—自伝的シンクタンク論』第一書林.
 鈴木崇弘. 2011. 「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.
 鈴木崇弘・上野真城子. 1993. 『世界のシンク・タンカー「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.
 鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005. 『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版
 Smith, James, 1993. *The Idea Brokers: ThinkTanks And The Ruse if The New Policy Elite*, Free Press.
 Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.
 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史, 2008 『比較政治制度論』有斐閣.
 横江公美, 2008. 『アメリカのシンクタンク 第五の権力の実相』ミネルヴァ書房.
 横江公美, 2004. 『第五の権力 アメリカのシンクタンク』文藝春秋.
 宮田智之, 2017. 『アメリカ政治とシンクタンク—政治運動としての政策研究機関—』東京大学出版会.
 Weaver, R., 2002. *Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

出席・質疑・討論参加 45 %、レポート 35 %、プレゼンテーション 20 %

<評価基準>

質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力等

レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】

基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】

レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。

やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治過程、議会、官僚機構、利益団体、地域政策

<研究テーマ>政治過程における民間アクターの役割、議会における立法補佐機関の機能、政策形成における政策ネットワークの役割など

<主要研究業績>

"Institutional development of legislative supporting agencies (LSAs) from a perspective of difference between presidential and parliamentary systems,"

Asian Journal of Comparative Politics, 2022 (<https://journals.sagepub.com/doi/pdf/10.1177/20578911221138475>).

"The institutional development of Legislative Supporting Agencies (LSAs) focusing on the differences among parliamentary-system countries," Parliaments, Estates and Representation, 42(3), 2022, pp.324-340.

"A Study of the Functions of Political Appointees from a Comparative Perspective," Asian Journal of Comparative Politics, 7(1), 2022, pp.146-161.

『立法補佐機関の制度と機能－各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013年。

【Outline (in English)】

Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship, nation-society relationship.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class contribution: 45%、Reports : 35%、Presentation: 20%

< Evaluation standards >

Class contribution: positiveness, analytical capability, critical capability

Reports and presentation: analytical capability, logicity, novelty, simplicity

SOC500P1 - 215

行政法研究

天本 哲史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や公共団体の行政活動は社会の中で生きる私たちの市民生活の隅々にまで影響を及ぼします。この授業では、大学院における研究活動に役立つ法的規律の基本的な法理論を学習します。

【到達目標】

- ・行政法の基本的な法理論を理解する。
- ・行政活動の種類と法的統制を理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は少人数での対面形式での実施を予定しています。受講生は指定された学習テーマや判例等について報告をし、それを基に全員で議論してもらいます。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 行政と行政法	この授業の進め方を説明します。 行政と行政法の内容を学習します。
第2回	行政法の法源 法律による行政の原理	行政法の法源とその種類を学習します。法律による行政の原理を学習します。
第3回	行政組織 行政立法	行政主体、行政組織を学習します。行政立法を学習します。
第4回	行政行為①	行政行為を学習します。
第5回	行政行為②	行政行為の行政裁量と附款、瑕疵を学習します。
第6回	行政強制	義務履行強制、即時強制、行政調査を学習します。
第7回	行政上の制裁	行政罰その他の制裁を学習します。
第8回	行政指導	行政指導を学習します。
第9回	行政計画 行政契約	行政計画、行政契約を学習します。
第10回	行政手続法	行政手続法を学習します。
第11回	行政不服審査法	行政不服審査法を学習します。
第12回	行政事件訴訟法	行政事件訴訟法を学習します。
第13回	国家賠償法	国家賠償法を学習します。
第14回	損失補償	損失補償を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』（日本評論社、2019）
 宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）
 大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2018・2019）
 斉藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第8版、2022）
 芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第6版、2017）
 中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）
 山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）

その他、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

この授業は下記のように成績評価をします。
レポート（50%）、平常点（50%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等は Hoppii で行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政法

<研究テーマ> ①行政指導、②行政上の情報過程（収集、管理、提供・公表等）

<主要研究業績>天本哲史『行政による制裁的公表の法理論』（日本評論社、2019）

【Outline (in English)】

(Course outline)

There are various administrative activities, such as regulation and guidance. Students will learn the basic legal theory of legal discipline that is useful for research activities in graduate school.

(Learning Objectives)

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

GDR500P1 - 221

ジェンダー政策研究

中野 洋恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ジェンダーの視点から政策について考察することを目的とする。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されてから様々な分野でジェンダー政策が進められている。しかしGGGI（グローバルジェンダーギャップ指数）で比較すると日本の順位は100位以下が続いている。2022年7月に発表されたランキングは146ヶ国中116位である。政府が出している骨太方針でも男女の賃金格差の是正が課題となっている。また「異次元の少子化対策」も進められ、LGBTQなど多様性に関する議論も進んでいる。本講義では、現在の日本のジェンダー政策の現状と課題を把握し、その要因を分析した上で課題解決の方策についてディスカッションを行う。ディスカッションを通じて考えたことを振り返り、ジェンダー政策の理解を深めるとともに今後を展望する。

【到達目標】

- ・21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられた男女共同参画社会を実現するための基本法である「男女共同参画基本法」と基本法に基づいて5年ごとに定められる「男女共同参画基本計画」について理解する。
- ・2020年12月に策定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている視点、「あらゆる分野における女性の活躍」、「安全・安心な暮らしの実現」、「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備」、「推進体制の整備・強化」について理解する。
- ・現在の政策を理解した上で、国際的な動向も踏まえディスカッションにおいて課題を把握し、今後必要とされる改善策を提案する。特に今年度は「多様性」「異次元の少子化対策」についても言及する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進める。課題ごとのレポートを提出する。提出されたレポートをもとにプレゼンテーションとディスカッションで理解を深める。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定である。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的、進め方を説明する

第2回	国内外の男女共同参画に関する動向を理解する	○第2次世界大戦以降の国際社会の動き 国連女性の地位委員会（CSW）、女子差別撤廃条約（CEDAW）国際婦人年（1975年）以降の世界女性会議 持続可能な開発目標（SDGs）世界経済フォーラムが発表する GGGI などから国際社会の変遷を捉える。 ○国内の動向 1975年に総理府に設置された婦人問題企画推進本部、女子差別撤廃条約の批准、国内行動計画、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、女性の職業生活における活躍推進に関する法律、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律などから国内の変遷を捉える。
第3回	女共同参画基本法と男女共同参画基本計画①	1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つの分野を選んで報告し議論する。
第4回	女共同参画基本法と男女共同参画基本計画②	1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つの分野を選んで報告し議論する。
第5回	ワーク・ライフ・バランス 働き方改革①	勤続年数を重視しがちな年功序列的な処遇、長時間労働や転勤が当然というこれまでの男性中心の働き方を前提とする労働慣行（男性中心型労働慣行）について考える。 また、いわゆる女性のM字カーブ問題等がまだに解決しない要因を考える。
第6回	ワーク・ライフ・バランス 働き方改革②	女性も男性もワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためにはどのような解決策があるのか、実態や政策を踏まえて議論する。特に現在政策的課題として関心が高まっている男性の育児休業についても検討する。
第7回	女性の活躍推進	003年、男女共同参画推進本部は「社会のあらゆる分野において2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する（202030）」との目標を設定した。その後の動向を踏まえて、クオータ制やポジティブアクションについて議論する。
第8回	女性に対する暴力①	重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデートDV、デートレイブドラッグ、JKビジネス、AV出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。

- 第9回 女性に対する暴力② 重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデートDV、デートレイブドラッグ、JKビジネス、AV出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。
- 第10回 教育・メディア① 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にするために学校教育はどうすればいいのか、教育現場をジェンダーの視点で見たときの課題を捉える。理工系を選択する女子学生が少なく研究者、技術者の女性割合が少ない状況を踏まえ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成のための方策を考える。また学校現場の管理職の女性割合が少ない要因についても考える。
- 第11回 教育・メディア② 意識形成にメディアの与える影響は大きい。メディアの中で女性がどのように描かれているかについて広報媒体や映像を見ながら分析し、性別役割分担意識の解消のための広報・啓発のあり方について議論する。
- 第12回 新たな課題①－自然災害やコロナなどのリスクに対応するジェンダー政策 東日本大震災等の経験から、性別、年齢や障害の有無等社会的立場によって影響が異なることが明らかにされたことから女性と男性で災害から受ける影響に配慮し、ジェンダーの視点から防災復興体制を確立することが求められている。何が問題だったのかを踏まえ、解決の方策について議論する。
- 第13回 新たな課題②－多様性に対応するジェンダー政策 選択的夫婦別姓や同性結婚、LGBTQをどのように考えるかが政策的な課題となっている。どのような政策的議論が進んでいるのか、どのような方向性を考えればいいのかを議論する。
- 第14回 ジェンダーと政治 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている。特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>
 ・内閣府男女局 理工チャレンジ (リコチャレ)
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>
 ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進
<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>
 ・初等中等教育における男女共同参画
 国立女性教育会館
<https://www.nwec.jp/research/hqtuvq000002ko2.html>

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (ディスカッションでの発言) と課題ペーパーの提出 (40%) レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

多様な生活経験を持つ受講生がいるので、それぞれの経験を共有することによって、ディスカッションの充実を目指す。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ジェンダー論
 <研究テーマ>ジェンダーと家族
 ジェンダーと教育・学習
 <主要研究業績>

「教育と学習」『男女共同参画データブック 2015』男女共同参画統計研究会編 ぎょうせい 2015
 『国際比較にみる再開の家族と子育て』(編著) ミネルヴァ書房 2010

【Outline (in English)】

Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.

Course outline

This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、in class contribution: 20%

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

・第5次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
 ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>
 ・女性に対する暴力
 若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
 NWECC 実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」
 ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
 ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ

POL500P1 - 222

公共哲学研究

宮川 裕二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。「自由」や「リベラリズム」の概念にかかわる文献の講読を行い、受講生が思想的なアプローチから公共そして公共政策にかかわる現代的な課題を把握し議論できる知見を涵養することを目的とする。

【到達目標】

自由やリベラリズムという思想と概念と「法の支配」や「民主主義」といった社会・政治システムとの関わりを理解し、受講生が公共そして公共政策にかかわる現代的な課題について理論的に考察・探究できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入的講義／文献講読	導入的講義、「法の支配」 ：中村後掲書第 1 章 前半
第 2 回	文献講読：中村後掲書	「法の支配」 第 1 章後半
第 3 回	文献講読：中村後掲書	「民主主義とリベラリズム」 第 2 章前半
第 4 回	文献講読：中村後掲書	「民主主義とリベラリズム」 第 2 章後半
第 5 回	文献講読：中村後掲書	「正義・善・幸福」 第 3 章前半
第 6 回	文献講読：中村後掲書	「正義・善・幸福」 第 3 章後半
第 7 回	文献講読：中村後掲書	「『自由』と『合理性』の限界とそ 第 4 章 の先へ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中村隆文『リベラリズムの系譜学』（みすず書房、2019 年）を文献講読のテキストとする。思想的潮流や諸論点が要領よく整理され、専門書としては取りつきやすいものと思われる。

【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果が得られていないためフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共政策の政治社会学

<研究テーマ>

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

<主要研究業績>

『日本の「新しい公共（空間）」政策言説：新自由主義統治性の視座からの再定位（仮題）』（風行社、2023 年近刊）

『統治性研究を用いた現代日本の実証的研究に関する一考察』（『唯物論研究年誌』第 27 号、2022 年）

『新自由主義ガバナンス』論による『地方創生』実施スキーム分析』（『唯物論研究年誌』第 23 号、2018 年）

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this course is to develop students' ability to understand and discuss contemporary issues related to the public and public policy from an ideological approach by reviewing literature on the concepts of "freedom/liberty" and "liberalism".

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand the relationship between the ideas and concepts of "freedom/liberty" and "liberalism" and the social/political systems such as "rule of law" and "democracy", and to be able to theoretically consider and explore contemporary issues related to the public and public policy.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20 %).

MAN500P1 - 223

イノベーション政策論

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、1）企業におけるイノベーションマネジメントと2）国のイノベーション政策について学びます。イノベーションとは新結合による創造的破壊を意味し、経済発展の原動力となります。しかし、近年、グローバル化とIoT化を背景としてイノベーションをめぐる環境は大きく変容し、こうした変化に対応したマネジメントや政策が求められています。本授業では、こうした比較的新しいトピックスも踏まえつつ、イノベーションに関する理解を深めます。

【到達目標】

- ・イノベーションに対する理解
- ・企業におけるイノベーションマネジメントに関する理解
- ・国のイノベーション政策に関する理解
- ・企業や公共組織においてイノベーションを推進するための実践知

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式は、教員による講義と参加者全員のディスカッションをひとつのセットとして、各回に取り上げたテーマを多面的理解することを目指します。ディスカッションでは主体的な発言が求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は原則対面で実施する予定です。（都合によりオンラインで実施する場合があります）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	イノベーションとは？	イノベーションの定義、類型、課題について
第3回	製品アーキテクチャ論（1）	製品アーキテクチャ（インテグラル型、モジュラー型）の理解、企業におけるアーキテクチャの位置取り戦略、国の競争力
第4回	製品アーキテクチャ論（2）	製品アーキテクチャ（インテグラル型、モジュラー型）の理解、企業におけるアーキテクチャの位置取り戦略、国の競争力
第5回	ビジネスエコシステムとプラットフォーム戦略（1）	企業の枠を超えたビジネスエコシステム（ビジネスの生態系）という発想を理解し、価値獲得のためのプラットフォーム戦略について理解する
第6回	ビジネスエコシステムとプラットフォーム戦略（2）	企業の枠を超えたビジネスエコシステム（ビジネスの生態系）という発想を理解し、価値獲得のためのプラットフォーム戦略について理解する
第7回	ルール形成とイノベーション（1）	ルール形成の基本的意義とイノベーションの関係について理解する
第8回	ルール形成とイノベーション（2）	ルール形成の基本的意義とイノベーションの関係について理解する

第9回	イノベーションの実践（1）	イノベーション活動を実践する上での課題について考える
第10回	イノベーションの実践（2）	イノベーション活動を実践する上での課題について考える
第11回	つながる世界のイノベーション政策（1）	製品やサービスがつながる世界を想定し、具体的なイノベーション政策について理解する
第12回	つながる世界とイノベーション政策（2）	製品やサービスがつながる世界を想定し、具体的なイノベーション政策について理解する
第13回	中小企業政策とイノベーション（1）	中小企業政策の歴史を概観し、中小企業の活性化について考える
第14回	中小企業政策とイノベーション（2）	中小企業政策の歴史を概観し、中小企業の活性化について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

議論に参加するために、予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加：60%、期末レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くの事例を取り上げたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) "Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes," *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) "Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach," *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

This lecture aims to give you a comprehensive understanding of innovation policy in terms of 1)innovation management at a firm level and 2)innovation policy at the national level. Innovation has a meaning of creative destruction by new combinations of technology, market, process, and so on; therefore, innovation is an economic growth engine. However, a circumstance in innovation has been changing rapidly because of globalization and IoT(Internet of Things). It is necessary for management and policy to consider these conditions. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 60%, 2)short reports 40%.

POL500P1 - 225

外交政策論

宮本 悟

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の戦後外交史や領土問題、外交政策理論について学んだうえで、外交政策がどのようにして決定されるのかについて理解していく。重要なことは、国際社会や日本が直面している外交問題や領土問題について知識を深め、国際政治学における外交政策論を理解した上で、現実の外交政策を考察する際に応用できるようになることである。

【到達目標】

外交政策について、(1) 日本の外交政策の歴史的な経緯と現状の説明ができ、(2) 日本が置かれている領土や外交上の問題とその対処について理解を深め、(3) 実際の外交政策の決定過程について学んだうえで、その理論的な知識を実際の問題に応用できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

2021年度は対面で開催する予定である。戦後日本外交史と日本の領土については、全体的に理解していくことが目的であり、基本的には講義形式によって授業を進めていくが、教員側の一方的な講義ではなく、受講者と対話をしながら授業を進めることを重視する。質問があれば、講義の途中でも遠慮なく質問してかまわないし、教員側からも積極的に受講者に問いかける。

対外政策の選択については、受講者側の発表について教師も含めて討議しながら、理解を深めていく。従って、授業が充実したものになるかは、受講者側の積極的な参加にかかっている。受講者の発表に対するフィードバックは、その都度、授業内でコメントすることにする。重要なことは、領土や安全保障上の問題に対して、外交政策が必ずしも合理的に決定されるわけではないことを理解し、実際の外交政策を理解するための応用力をつけることである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後日本外交史 (1)	戦後日本外交史のあらましと占領期における日本とGHQの交渉について学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第2回	戦後日本外交史 (2)	戦後日本外交史について50年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第3回	戦後日本外交史 (3)	戦後日本外交史について60年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第4回	戦後日本外交史 (4)	戦後日本外交史について70年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第5回	戦後日本外交史 (5)	戦後日本外交史について80年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。

第6回	戦後日本外交史 (6)	戦後日本外交史について冷戦後を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第7回	戦後日本外交史 (7)	戦後日本外交史について全体像を議論する。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第8回	日本の領土 (1)	領土の概念や北方領土問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト:芹田健太郎『日本の領土』。
第9回	日本の領土 (2)	竹島問題と尖閣諸島問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト:芹田健太郎『日本の領土』。
第10回	対外政策の選択 (1)	外交とは何かを学ぶ。テキスト:中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第11回	対外政策の選択 (2)	国内政治と対外政策の連関について学ぶ。テキスト:中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第12回	対外政策の選択 (3)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係について学ぶ。テキスト:中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第13回	対外政策の選択 (4)	国際情勢についての認識と行動から戦争が勃発する原因について学ぶ。テキスト:中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第14回	対外政策の選択 (5)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係について学ぶ。テキスト:中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『戦後日本外交史』第三版補訂版、五百旗頭真編、有斐閣、2014年、2,200円
『日本の領土』芹田健太郎、中央公論新社、2010年、755円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は授業でパワーポイントやレジュメで解説します。
『国際政治学』中西寛、石田淳、田所昌幸、有斐閣、2013年、3,520円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は最初の授業で配布する。

【参考書】

『新訂第5版 安全保障学入門』防衛大学校安全保障学研究会編、株式会社亜紀書房。
『決定の本質—キューバ・ミサイル危機の分析』グレアム T. アリソン(著)、宮里 政玄(訳)、中央公論新社、1977年。絶版。

【成績評価の方法と基準】

70%：平常点と、授業における発言内容の充実度
30%：発表：「対外政策の選択」に関して、自分の研究にどのように応用できるのか最後の授業で一人一人発表してもらう。

【学生の意見等からの気づき】

過度な学生の負担はない授業内容にしています。受講者の発表は短い時間でかまいません。勤務後に授業に来られる方がおられたら、時間を考慮しますので、申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では授業支援システムは使いません。オンライン授業ではZOOMを使います。

【その他の重要事項】

大学院の方針によって全てオンライン授業になる可能性があります。対面授業でも第8回の講義ではパワーポイントを使って説明します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際政治学、比較政治学、政軍関係論、安全保障論
<研究テーマ>東アジアの安全保障、経済制裁、北朝鮮研究
<主要研究業績>

"North Korea's Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations" Takashi Inoguchi ed., The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy, Dec. 2019, Sage Publishing.

「北朝鮮流の戦争方法-軍事思想と軍事力、テロ方針」川上高司編『「新しい戦争」とは何か-方法と戦略-』2016年1月、ミネルヴァ書房。

「北朝鮮の軍事・国防政策」木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』2015年6月、岩波書店。

『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？ 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』2013年10月、潮書房光人社。

【Outline (in English)】

The objectives of the class is to understand how foreign policy is decided, while leaning Japanese postwar diplomatic history, territorial issues and foreign policy theory. The important point is the applying foreign policy theory in considering real foreign policy, while deepening the knowledge of the territorial issues and diplomatic issues facing Japan and international society, understanding the foreign policy theory in international politics. The prior learning and review are need each 2 hours. The distribution of score is as follows: class participation remarks: 70%, presentation: 30%

SOC500P1 - 226

国際環境政策の社会学

島田 昭仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に、日本とドイツのエネルギーシフト政策の違いについて学ぶ。違いの要因を知るためにコミュニティや労働に対する考え方の違いを学ばなくてはならない。そしてドイツの政策、次に日本の政策、そしてEUとアジアの違いについて説明する。5Gを活用したスマートシティー等、今後のトピックについても扱う。

【到達目標】

エネルギーシフト政策を通して、ドイツと日本、及びEUとアジアのコミュニティの意識の違いについて理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面式で行う。毎回、テキストと参考書に沿って進め、PPTで解説を行い、ディスカッションを行う。さらに授業でリアクションペーパーを配布し、その結果を授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに EUにおけるドイツとは	EUにおいて緑の党が果たした役割について…なぜ脱炭素なのか？
第2回	脱炭素と労働概念	労働と組合とコミュニティと自由の関り
第3回	独のE政策（福島の影響）	日独「エネルギー転換」比較分析 C1
第4回	独のE政策（草創期）	日独「エネルギー転換」比較分析 C2
第5回	独のE政策（討議主義）	日独「エネルギー転換」比較分析 C3
第6回	独のE政策（核エネルギー）	日独「エネルギー転換」比較分析 C4
第7回	独のE政策（政策の結末）	日独「エネルギー転換」比較分析 C5,6
第8回	独日E政策比較（電力供給）	市民電力とは何か…各地取組の実態
第9回	独日E政策比較（建築）	ZEB、ZEH…ゼロエネルギーとは
第10回	国際E政策（運輸交通）	運輸・航空業界における実態
第11回	国際E政策（都市計画）	スマートシティと5Gで、都市はどのような？
第12回	EU政策分析（資本主義経済とピグー税）	環境税とは何か 経済学におけるピグー税の適用限界
第13回	EU政策分析（世界戦略としての炭素税）	なぜ炭素排出税はあっても森林破壊税はないのか
第14回	まとめ 独日、EUとアジアはなぜちがう	労働とコミュニティの考え方の違いについてディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストは授業内で配布します（購入する必要はありません）。
・『日独「エネルギー転換」の比較分析』2019, 壽福

【参考書】

以下の参考書は授業内で配布します（購入する必要はありません）。
・『資料で見るドイツ「エネルギー転換」の歩み』2019, 壽福
・『ゼックプロジェクト調査・研究報告書』2019, 谷口・島田

【成績評価の方法と基準】

①期末試験期間内に提出するレポート課題によって評価する。
②課題は第14回の授業内で示す。自分の意見を論文形式で記述する。
③評価基準は課題把握の的確さ(30%)、論理一貫性(30%)、論拠の正当性(30%)、誠実性(10%)とする。

【学生の意見等からの気づき】

大事なことは何度も繰り返して説明する。

【学生が準備すべき機器他】

状況によってはZoom環境(端末、Wifi)が必要となる。

【その他の重要事項】

国や自治体の政策に25年間関わった教員が、関連法規や施策の解説を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>都市計画
<研究テーマ>住民の合意形成
<主要研究業績>『住民主権の都市計画』自治体研究社,2019

【Outline (in English)】

Learn about the difference between Japan and German energy shift policy mainly. The goal is to have knowledge of the difference in way of the community and the labor. Students will be expected to read the text book and prepare reporting for the next. Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

SES500P1 - 227

地球環境生態学

鞠子 茂

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学の基礎と応用を教授し、地球環境問題に対する本質的な理解を深める。

【到達目標】

環境問題の適切な解決に向けて行動できる環境力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業をオンデマンド配信し、予習復習の課題を課してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと授業内容の解説	授業の進め方、成績評価、授業内容について説明する
第2回	生態学の理論と応用	生態学の理論を説明し、応用例を紹介する
第3回	生態学的環境論考	環境とは何であるかを講述する
第4回	生物と環境の関わりについて考える	生物の環境適応と進化を中心に解説する
第5回	”ヒト”と”人間”の違いを考える	エネルギーをキーワードにしてヒトと人間の違いを考察する
第6回	生態系の恩恵としつべ返し	生態系サービスと過剰な採取の問題について解説する
第7回	公害という社会問題の本質	水俣病を例に科学リテラシーの必要性を議論する
第8回	地球温暖化のウソホント	地球温暖化問題の是非論を考える
第9回	地球温暖化が生態系に与える有意な影響	温暖化が生態系の分布などに与える確かな影響について解説する
第10回	寄生生物が引き起こす新たな環境問題	感染症パンデミックなどを例にして寄生生物について考える
第11回	紫外線と人類の進化	人類が紫外線との戦いで獲得した機能から人間活動の矛盾を考える
第12回	目に見えない環境汚染	放射能汚染や環境ホルモンについて解説する
第13回	人類の存続のために必要なこと	人間活動の問題を生態学的に考察する
第14回	試験・まとめの授業	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、説明を補助するための資料を授業で配布する。

【参考書】

「面白くてよくわかる！ エコロジー」満田久義、アスペクト（2013）

【成績評価の方法と基準】

課題50%、試験50%の配分で成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を専門としない学生にもわかりやすい授業を行う。

【その他の重要事項】

生態学に関する参考図書を事前に読んでおくこと。

【Outline (in English)】

The students will learn about definitions and need-to-know basics of “environment” and “ecology”, and acquire science literacy from an ecological viewpoint to solve environmental crisis on local to global scales.

POL500P1 - 229

比較公共政策論

桐谷 仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、欧米を中心とする主要 OECD 諸国という一見類似した国々を対象にして、比較の観点から、広義の政治体制の相違が、政策結果や経済実績の各国間の差異にどのように影響を与えているのかという問題を学びます。これによって、これまでの先行研究等の理解が深まり、公共政策への視野が広がります。

【到達目標】

前述の概要と目的に従って、本授業では、比較分析モデルの理論的な側面と経験的側面の両面での認識を深めることが到達目標です。

ひとつは、政治体制 (political regime) の概念をめぐる種々の先行研究についての認識が深まります。もうひとつは、そうした政治体制と政策結果や経済実績との関係をめぐる先行研究について比較の観点からの理解が広がること、この二つが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・毎回、受講者による報告と、教員による説明・解説と、その後の質疑応答や討論という進め方をします。とくに授業内での報告に基づいた討論を方法として重視します。

・期末までに、1回大きな課題でのレポートを作成してもらい、それについてコメントをするというフィードバックの方法を実施する予定です。

・原則対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論（導入）	政治体制と政策結果・経済実績との関係についての比較政治分析に向けての本授業の概要
第 2 回	比較政治体制論（1）	比較分析のための準拠枠組としての政治体制概念とその展開についての概要
第 3 回	比較政治体制論（2）	政治体制の諸類型：多元主義論/コーポラティズム論/「資本主義の多様性論」などについての解説
第 4 回	政策レジーム（1）	政策の立案と執行・実施をめぐる種々の議論の展開（政策フィードバック論等）についてについての概要
第 5 回	政策レジーム（2）	政府能力：政府の抽出能力・転換能力・執行能力についての考察
第 6 回	政治制度（1）	ウェストミンスターモデルとコンセンサスモデルの比較と考察
第 7 回	政治制度（2）	議会－執行府関係/政権形態/政権構成、および選挙制度についての概要
第 8 回	政策・経済実績（1）	所得政策とインフレ・賃金問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 9 回	政策・経済実績（2）	所得格差と所得再分配の問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察

第 10 回	政策・経済実績（3）	雇用規制と失業・就労問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 11 回	政策・経済実績（4）	労働市場政策と技能形成の問題と政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 12 回	政策・経済実績（5）	福祉国家ならびに比較福祉レジーム論についての先行研究の整理と課題についての考察
第 13 回	政策・経済実績（6）	財政・金融政策と経済成長（中央銀行の独立性の問題を含む）政治経済レジームとの関連についての先行研究の整理と考察
第 14 回	総括（まとめと解説）	主要 OECD 諸国の政治体制および政策結果・経済実績の多様性をめぐる議論の課題と展望を議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、①新川敏光・宮本太郎・眞柄秀子『比較政治経済学』（有斐閣）、②田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進『政治経済学』（有斐閣）③建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣）の三冊は事前に読了しておくことが望ましいと考えています。また、できれば④田中拓道『福祉政治史』（勁草書房）にも事前に目を通していただければ幸いです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書としては、前述の
・新川敏光・宮本太郎・眞柄秀子『比較政治経済学』（有斐閣）
・田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進『政治経済学』（有斐閣）の二冊を挙げておきます。この二冊は、毎回の授業で該当箇所を提示します。
また、随時、文献・資料等は提示します。

【参考書】

特定の参考書としては、前述の
・建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣）
・田中拓道『福祉政治史』（勁草書房）の二冊を挙げておきます。
・また随時、文献・資料等は提示します。

【成績評価の方法と基準】

出席 30 %、授業中の討論等への参加と小テスト 20 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

開講時に、受講生の要望等を考慮する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
政治学、比較政治学、比較政治経済学
<研究テーマ>
比較政治体制論/比較コーポラティズム体制論/国家論。
政治体制と政策・経済実績との関係についての比較政治学的研究
<主要研究業績>
<論文>桐谷仁「政策協調から社会協定へ：コーポラティズムの新たな展開？」(1)(2)(3)(4)(5)『法政研究』（静岡大学）第 22・23・24 巻 2018・19・20 年。
<論文>桐谷仁「社会コーポラティズムから政策協調へ」『法政研究』（静岡大学）第 19 巻 2014 年。
桐谷仁「コーポラティズム論から「資本主義の多様性論」へ？」『慶應義塾大学-150 周年記念法学部論文集』（慶應義塾大学出版会）2008 年。
桐谷仁「OECD 諸国の所得格差と政治－制度編成との関係についての比較分析」『法政研究』（静岡大学）第 10 巻、2005 年。
桐谷仁「先進諸国における制度の補完性と調整行為」『法政研究』（静岡大学）第 9 巻 2004 年。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to study the causal relationships between political institutional factors and public policy outcomes or economic performance from comparative political perspectives. The class will begin with reviewing the relevant literature and then argue about the theoretical accounts.

First, we shed light on the elements of political institutional arrangements such as interest organizational configurations, electoral systems, party systems, and parliament government linkages.

Second, we pick up some of public policy areas (ex., industrial policies, financial policies, welfare policies and so on) and compare the differences of economic performance among the main OECD countries, 1960-2015.

Third, the impacts of the above political institutional variable on these policy outcomes and economic performance are examined and assessed by using various quantitative and qualitative methodologies.

Finally, the class will discuss about the comparative methods for explaining political dimensions of the economic-policy results.

The aim of this course is to help students acquire A. After each class meeting, students will be expected to understand the relevant chapters from the texts.

Final grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (50%), Short report(20%), and in-class contribution(30%).

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 1 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】

各自の論文を実際書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	最初に当たって、大学院でのコースワークを経ながら自分固有の研究を論文として著していくことイメージをつかむ。
第 3.4 回	関心のある研究テーマ案の検討	関心のあるテーマを発表する。
第 5.6 回	図書館を利用した資料探索	図書館の利用の仕方、オンラインデータベースの利用の仕方の基礎を学ぶ。
第 7.8 回	論文構成の技法 1 基礎編	論文の構成の仕方の基礎を指導する。
第 9.10 回	論文構成の技法 2 発展編	し、かつ構成のすっきりした良質な学術論文を選定し、これを実際に講読することを通じて、論文の構成の仕方を学ぶ。
第 11.12 回	既往研究リストの作成	関心のあるテーマに関する既往研究リストを作成する。
第 13.14 回	研究計画の確認	研究の進捗状況を発表し、夏季休暇期間の研究計画を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的にこなしておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 1 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	研究進捗状況の報告	夏季休暇期間中の研究活動の進捗状況を発表する。
第 3.4 回	研究スケジュールの検討	1年半後の論文提出に向けたスケジュールを確認する。
第 5.6 回	研究テーマの精査	研究テーマ・論点の絞込みを行う。
第 7.8 回	目次案の作成	論文全体の構成を検討する。
第 9.10 回	調査企画の検討	調査等の作業内容を検討する。
第 11.12 回	研究スケジュールの確認	論文執筆までのスケジュール（特に春季休暇期間の研究活動予定）を検討する
第 13.14 回	中間発表に向けた準備	中間発表の発表内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取り組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60 %) ,and reports (40 %) .

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士過程1年生にむけた、論文作成のための起点となる科目。自身の研究テーマを明確にし、修士論文としての構想を練ることをめざす。また、修士論文作成のために必要な資料や文献をどのように収集し読解していくか、どのようにテーマを章立てしていくかというリテラシーも学ぶ。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。

- ・修士論文のテーマを明確にする
- ・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の検索、収集の技法を学ぶ
- ・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の読解をすすめる
- ・修士論文の章節構成を検討する
- ・秋学期以降の研究計画をたてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の目標や進めかたについて確認する
第2回	テーマを検討する	修士論文のテーマと想定している内容について報告をうけ、議論する
第3回	情報検索を学ぶ	テーマをめぐる情報を検索する方法を学ぶ
第4回	文献検索を学ぶ	テーマをめぐる文献、資料を検索する方法を学ぶ
第5回	テーマを仮定する	修士論文のテーマを仮定したものを報告し、その内容について議論するテーマを仮定する
第6回	テーマを具体化する	修士論文のテーマをより具体化するために、報告を受け、議論する
第7回	テーマをめぐる情報を整理する	修士論文のテーマをめぐる収集した情報を整理し、報告する
第8回	テーマをめぐる事実を確認する	修士論文のテーマをめぐる経緯や状況などを整理し、報告する
第9回	テーマを明確にする	それまでの蓄積をふまえて、修士論文のテーマを明確にする
第10回	テーマについて議論する	修士論文のテーマをめぐる、論の展開などの方向性を議論する
第11回	論文作成の技法の基礎を学ぶ	注のつけかた、参考文献の引用のしかたを学ぶ
第12回	論文作成の技法の基礎を習得する	注のつけかた、参考文献の引用の仕方を習得する
第13回	修士論文の構成を検討する	修士論文のテーマに即し、論文の章・節構成を仮定する
第14回	修士論文の作成に向けて	夏季休暇中の目標を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要なものである。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、
当日報告と説明 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.

Learning Objectives;

- Clarify the topic of the master's thesis.

- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.

- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis

- Review the chapter and section structure of the master's thesis

- Research plans for the autumn term and beyond

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士過程1年生にむけた、論文作成のための起点となる科目。自身の研究テーマを明確にし、修士論文としての構想を練ることをめざす。また、修士論文作成のために必要な資料や文献をどのように収集し読解していくか、どのようにテーマを章立てしていくかというリテラシーも学ぶ。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。

- ・修士論文のテーマを明確にする
- ・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の検索、収集の技法を学ぶ
- ・修士論文の作成に必要な、情報、資料また文献の読解をすすめる
- ・修士論文の章節構成を検討する
- ・秋学期以降の研究計画をたてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の目標や進めかたについて確認する
第2回	テーマを検討する	修士論文のテーマと想定している内容について報告をうけ、議論する
第3回	情報検索を学ぶ	テーマをめぐる情報を検索する方法を学ぶ
第4回	文献検索を学ぶ	テーマをめぐる文献、資料を検索する方法を学ぶ
第5回	テーマを仮定する	修士論文のテーマを仮定したものを報告し、その内容について議論するテーマを仮定する
第6回	テーマを具体化する	修士論文のテーマをより具体化するために、報告を受け、議論する
第7回	テーマをめぐる情報を整理する	修士論文のテーマをめぐる収集した情報を整理し、報告する
第8回	テーマをめぐる事実を確認する	修士論文のテーマをめぐる経緯や状況などを整理し、報告する
第9回	テーマを明確にする	それまでの蓄積をふまえて、修士論文のテーマを明確にする
第10回	テーマについて議論する	修士論文のテーマをめぐる、論の展開などの方向性を議論する
第11回	論文作成の技法の基礎を学ぶ	注のつけかた、参考文献の引用のしかたを学ぶ
第12回	論文作成の技法の基礎を習得する	注のつけかた、参考文献の引用の仕方を習得する
第13回	修士論文の構成を検討する	修士論文のテーマに即し、論文の章・節構成を仮定する
第14回	修士論文の作成に向けて	夏季休暇中の目標を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要なものである。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、
当日報告と説明 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.

Learning Objectives;

- Clarify the topic of the master's thesis.

- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.

- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis

- Review the chapter and section structure of the master's thesis

- Research plans for the autumn term and beyond

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文研究指導 1 A から続く、修士論文作成のための科目。明確になったテーマについて、先行研究の調査、論文で示す事実（fact）の収集、整理、分析をすすめ、論文作成をより具体的なものとする。

【到達目標】

この講義の獲得目標は以下である。

- ・明確になったテーマを章節構成に反映させていく
- ・論文で示すための情報、資料の収集、整理、分析
- ・先行研究の収集と整理
- ・テーマについてのより深い考察
- ・春季休暇と次年度の研究計画の策定

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報告	夏季休暇中の研究活動を報告する
第 2 回	論文構成の検討	章、節構成を検討する
第 3 回	研究テーマを深く考察する	研究テーマについての意見交換
第 4 回	研究テーマの論点を整理する	研究テーマについての意見交換をふまえて、今後検討すべき論点を整理する
第 5 回	研究計画の更新	これまでの検討をふまえ、研究計画を更新する
第 6 回	先行研究の報告	先行研究について報告する
第 7 回	先行研究の検討	先行研究の論旨について検討する
第 8 回	研究テーマをめぐる事実（fact）の整理	研究テーマの現状を示す事実（face）を検討する
第 9 回	研究テーマをめぐる事実（fact）の分析	研究テーマの経緯を示す事実（fact）を検討する
第 10 回	研究テーマをめぐる国内事例を検討する	研究テーマにかんする事例を検討する
第 11 回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第 12 回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第 13 回	論文構成の確認	論文の章節構成を確認し、更新する
第 14 回	春季休暇、次年度にむけての研究計画の作成	春季休暇、次年度にむけて、研究計画を検討し作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、
当日の報告、説明 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聞いた。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】

This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.

Learning Objectives;

- Clarify the topic of the master's thesis.
- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.
- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis
- Review the chapter and section structure of the master's thesis
- Research plans for the autumn term and beyond

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文研究指導 1 A から続く、修士論文作成のための科目。明確になったテーマについて、先行研究の調査、論文で示す事実（fact）の収集、整理、分析をすすめ、論文作成をより具体的なものとする。

【到達目標】

この講義の獲得目標は以下である。

- ・明確になったテーマを章節構成に反映させていく
- ・論文で示すための情報、資料の収集、整理、分析
- ・先行研究の収集と整理
- ・テーマについてのより深い考察
- ・春季休暇と次年度の研究計画の策定

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生との面談を通じて、テーマの明確化、技法の習得、修論の章節構成の作成を指導していく。報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	報告	夏季休暇中の研究活動を報告する
第 2 回	論文構成の検討	章、節構成を検討する
第 3 回	研究テーマを深く考察する	研究テーマについての意見交換
第 4 回	研究テーマの論点を整理する	研究テーマについての意見交換をふまえて、今後検討すべき論点を整理する
第 5 回	研究計画の更新	これまでの検討をふまえ、研究計画を更新する
第 6 回	先行研究の報告	先行研究について報告する
第 7 回	先行研究の検討	先行研究の論旨について検討する
第 8 回	研究テーマをめぐる事実（fact）の整理	研究テーマの現状を示す事実（face）を検討する
第 9 回	研究テーマをめぐる事実（fact）の分析	研究テーマの経緯を示す事実（fact）を検討する
第 10 回	研究テーマをめぐる国内事例を検討する	研究テーマにかんする事例を検討する
第 11 回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第 12 回	研究テーマの論点の一部を検討する	研究テーマの論点のいくつかを検討する
第 13 回	論文構成の確認	論文の章節構成を確認し、更新する
第 14 回	春季休暇、次年度にむけての研究計画の作成	春季休暇、次年度にむけて、研究計画を検討し作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、
当日の報告、説明 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聞いた。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007 年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】

This lecture is designed for first-year students in master course to start writing their thesis. Students aim to clarify their research topic and develop a concept for their master's thesis. They also learn writing techniques, such as how to collect and read the materials and literature necessary for writing a master's thesis and how to formulate chapters.

Learning Objectives;

- Clarify the topic of the master's thesis.

- Learn the techniques of searching and collecting information, documents and literature necessary for writing a master's thesis.

- To read and understand the information, documents and literature necessary for the preparation of a master's thesis

- Review the chapter and section structure of the master's thesis

- Research plans for the autumn term and beyond

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 1 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追究できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローする時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、どんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

原則として対面により行うことを考えている。また、授業で報告をしてもらった場合には、原則としてその場で、場合によっては次回に、コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	一個の研究を作り上げていく心構え	最初に当たって、大学院でのコースワークを経ながら自分固有の研究を論文として著していくことのイメージをつかむ。
第 2 回	図書館を利用した資料探索 その 1 基本編	図書館の利用の仕方、オンラインデータベースの利用の仕方の基礎を学ぶ。
第 3 回	図書館を利用した資料探索 その 2 発展編	図書館の閉架部分を見ながらどんな資料があるかを実感すること、それから、オンラインデータベースの様々な使い方を知ること。
第 4 回	研究企画の立案	さしあたりこの時点で持っている研究テーマ、仮説、それを追究する具体的な方法、理論枠組、先行研究、などをフォーマットに記載してもらい、これに基づいて指導を行なう。
第 5 回	論文構成の技法 その 1 基礎編	論文の構成の仕方の基礎を指導する。
第 6 回	論文構成の技法 その 2 発展編	院生の研究関心にも合致し、かつ構成のすっきりした良質な学術論文を選定し、これを実際に講読することを通じて、論文の構成の仕方を学ぶ。

第 7 回	論文構成の技法 その 3 レジュメの作り方	大学院の授業では、レジュメを作成して発表するという機会が多くあるだろう。論文の構成を読み解き、簡略で分かりやすいレジュメを作成してみることを通じて、論文の構成の仕方を学ぶと同時に、レジュメの上手な作り方も習得できるようにしたい。
第 8 回	フィールド調査の基礎	論文を作成していく上で、様々な形で外に出て人の話を聞いたり資料の提供をお願いしたりする場面があるだろう。このようなフィールド調査の基礎について指導する。
第 9 回	研究企画の推進	第 4 回の研究企画の立案でさしあたり取組むこととした方向に従った結果を報告してもらい、研究の進め方について指導する。
第 10 回	先行研究のフォロー	論文では先行研究をきちんとフォローしてあることが大事である。先行研究の見つけ方、整理の仕方について、具体的に指導する。
第 11 回	先行研究の整理	それぞれの院生がさしあたり設定している研究企画に沿って、できる範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行なう。
第 12 回	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの院生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える。
第 13 回	論文の理論枠組の設定	理論枠組とは、社会認識上の大理論だけではなく、それぞれの研究の基本的な枠組も含めて考えている。さしあたり設定している研究企画に沿って、どんな枠組によって説得的な論文を書こうとしているかを報告してもらい、指導を行なう。
第 14 回	論文の基本ルール	論文を書くことへの意欲が高まった時期を捉えて、論文の形式上のスタイル、例えば、註の付け方とか文献表の作り方、更には学会誌への投稿の際の様々なルールなどについて、一通りの指導を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的にこなしておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

「授業の到達目標」欄に記した 4 つの項目を果たしてまたどの程度身につけたかを評価基準とする（各項目 25 % ずつ）。

【学生の意見等からの気づき】

該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> コミュニティ政策論

<研究テーマ> 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究

<主要研究業績>

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）

単著論文「プレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257～287 頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 ―宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1～88 頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57～104 頁。

【Outline (in English)】

This is part of the research-training program for master course 1st semester students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Every student must give a report of his/her own research at least once a semester. Throughout the semester he/she must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' own research theme and the adequate theoretical framework for it as well as to learn how to construct an academic research paper and how to collect necessary materials, which are also the grading criteria.

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 1 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意をもって取組める研究テーマを発見すること、(2) その研究テーマを追究できる適切な理論枠組や方法を習得すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解すること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、どんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

原則として対面により行うことを考えている。

原則として対面により行うことを考えている。また、授業で報告をしてもらった場合には、原則としてその場で、場合によっては次回に、コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの本格的設定	修士課程でまとめようとしている論文の基本的なテーマを設定する。もちろんあとで変更可能であるし、研究の進展によって微修正していくものであることを前提とする。
第 2 回	研究テーマに即した具体的な研究スケジュールについての検討	前回を受けて、今後ほぼ 1 年半で論文を書き上げていくことを目標に、どんな内容の研究をどんなペースで進めていくかを確認する。
第 3 回	研究の現状の整理	設定した研究テーマについて、現在の学界や実務界での認識の現状がどのようになっているか、先行研究はどんな状態か、を整理してもらい、指導を行なう。
第 4 回	主要な先行研究の検討	研究テーマにとってベーシックな意義を有する著書や論文を取り上げ、その内容を報告してもらう。
第 5 回	主要な資料の検討	研究テーマにとってベーシックな意義を有する資料を取り上げ、その内容を報告してもらう。
第 6 回	研究推進上の悩みの解決	現時点で抱えている研究上の悩みを話してもらい、解決の方策を相談する。

第 7 回	論文の理論的筋道の整理	ベーシックな情報が得られた段階で、あくまで暫定的なものではあるが、論文の全体を貫く仮説となる理論枠組を考えてもらい、指導を行なう。
第 8 回	論文の目次	あくまで暫定的なものだが、論文の目次を作成してみることで、研究テーマに関する認識を整理し深める。
第 9 回	論文の一部を書いてみる	はしがきでもどれか一つの章でもかまわないが、論文の一部分を書いてみる。実際に一定の長さの文章を書くことは多くの人にとってハードルが高い。その経験をこの段階でもらうためのものである。
第 10 回	文章の推敲 その 1 基礎編	書いてみた論文の一部について、論理構成（起承転結）、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて細かく指導する。まず、その 1 として、総括的な指摘を行ない、課題を明確にする。
第 11 回	文章の推敲 その 2 完成編	書いてもらっている論文の一部を素材に、学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるようにする。
第 12 回	英文サマリーの作り方 その 1 基礎編	学会誌への投稿などに際して、英文サマリーの作成を求められることが多い。年度の最後にこの練習をしておく。まず基礎的な事項を指導し、英作文をしてもらう。
第 13 回	英文サマリーの作り方 その 2 実践編	なれない外国語で自分の考えていることの細かいニュアンスを伝えるのは難しいことである。自らの語学力の範囲でそれをどう工夫したらいいかを考えていく。
第 14 回	英文サマリーの作り方 その 3 完成編	自らの研究テーマに即して一応の英文サマリーを完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的にこなしておくべき作業を指示する。例えば、論文の構成の仕方を指導した後は、実際に自分が当面関心と知識を持っているテーマに即して論文の構成案を作ってみるなどである。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

「授業の到達目標」欄に記した 4 つの項目を果たしてまたどの程度身につけたかを評価基準とする（各項目 25 % ずつ）。

【学生の意見等からの気づき】

該当せず。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）

単著論文「プレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257~287 頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性——宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1-88 頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望——高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ~ 104 頁。

【Outline (in English)】

This is part of the research-training program for master course 2nd semester students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Every student must give a report of his/her own research at least once a semester. Throughout the semester he/she must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' own research theme and the adequate theoretical framework for it as well as to learn how to construct an academic research paper and how to collect necessary materials, which are also the grading criteria.

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に、研究の開始に際する指導を行うものである。

【到達目標】

院生は、各自の研究関心に従って適切な研究テーマを確定させるための予備的作業を求められる。この予備的作業とは、(1) 先行研究の調査、(2) 基本的な分析枠組や方法の習得、(2) 社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各自の意識を共有しながら、修士論文とは何か、それに何が期待されているのかを確認する。
第2回	修士論文とは何か	修士論文のイメージを具体化するため、修了生による実際の修士論文を参照しながら学ぶ。
第3回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第4回	資料の探索と調査の基礎	図書館やオンラインデータベースの基本的な利用方法に加え、フィールド調査を行う場合の基礎について学ぶ。
第5回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について理解する。
第6回	先行研究の選定	先行研究の調査とその整理の仕方について学ぶ。
第7回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその概要を報告し、議論する。
第8回	研究テーマの設定	研究テーマを設定するにあたり、それをどのように具体化すべきか学ぶ。
第9回	分析枠組と方法の習得	適切な先行研究を選定し、その輪読により、基本的な分析枠組と方法について学ぶ。
第10回	分析枠組と方法の選定	各自の研究テーマに即して、分析枠組と方法を選定する。
第11回	論文の基本的構成の理解	学術論文の構成について、その基礎を学ぶ。
第12回	論文執筆上の基本的ルールの確認	論文の執筆に際して、引用註や脚注、参考文献リストの作成について理解する。
第13回	研究テーマの報告	各自の研究テーマを報告し、議論する。
第14回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また、授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.

(Learning Objectives) To be ready to set master's thesis research theme.

(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.

(Grading Criteria / Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に、修士論文のリサーチ・デザインを適切に行うための指導を行うものである。

【到達目標】

院生は、論文研究指導 1A で体得した（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、に基づき、各自の研究関心に従った研究テーマを確定させるとともに、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確に設定することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、現時点での研究テーマを設定する。
第2回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第3回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその内容を報告し、議論する。
第4回	先行研究の分析	各自の研究において主要な先行研究が、各研究領域でどのように位置付けられているのかを検討する。
第5回	リサーチ・クエスチョン（問い）の設定	よりリサーチ・クエスチョンとは何かを学ぶ。
第6回	仮説の検討	リサーチ・クエスチョンに対する暫定的な答えをいかに導くかを指導する。
第7回	リサーチ・クエスチョン（問い）と仮説の報告	各自の設定したリサーチ・クエスチョンと仮説について相互に批判的な検討を加える。
第8回	目次の作成	暫定的な論文の目次作成を試みる。
第9回	リサーチ・プロポーザルの作成	用意されたフォーマットに沿って、リサーチ・プロポーザルを作成する。
第10回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自のリサーチ・プロポーザルについて議論する。
第11回	論文の部分的な試作	暫定的に作成した目次に従い、そのうちの1章について執筆を試みる。
第12回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。

第13回 リサーチ・プロポーザルの再検討 前回の報告に基づき各自リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。

第14回 研究課題の明確化 修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018 年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.

(Learning Objectives) To be ready to set master's thesis research theme.

(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に、研究の開始に際する指導を行うものである。

【到達目標】

院生は、各自の研究関心に従って適切な研究テーマを確定させるための予備的作業を求められる。この予備的作業とは、(1) 先行研究の調査、(2) 基本的な分析枠組や方法の習得、(2) 社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各自の意識を共有しながら、修士論文とは何か、それに何が期待されているのかを確認する。
第2回	修士論文とは何か	修士論文のイメージを具体化するため、修了生による実際の修士論文を参照しながら学ぶ。
第3回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第4回	資料の探索と調査の基礎	図書館やオンラインデータベースの基本的な利用方法に加え、フィールド調査を行う場合の基礎について学ぶ。
第5回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について理解する。
第6回	先行研究の選定	先行研究の調査とその整理の仕方について学ぶ。
第7回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその概要を報告し、議論する。
第8回	研究テーマの設定	研究テーマを設定するにあたり、それをどのように具体化すべきか学ぶ。
第9回	分析枠組と方法の習得	適切な先行研究を選定し、その輪読により、基本的な分析枠組と方法について学ぶ。
第10回	分析枠組と方法の選定	各自の研究テーマに即して、分析枠組と方法を選定する。
第11回	論文の基本的構成の理解	学術論文の構成について、その基礎を学ぶ。
第12回	論文執筆上の基本的ルールの確認	論文の執筆に際して、引用註や脚注、参考文献リストの作成について理解する。
第13回	研究テーマの報告	各自の研究テーマを報告し、議論する。
第14回	研究課題の明確化	修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程1年目の院生を対象に、修士論文のリサーチ・デザインを適切に行うための指導を行うものである。

【到達目標】

院生は、論文研究指導 1A で体得した（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（3）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、に基づき、各自の研究関心に従った研究テーマを確定させるとともに、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確に設定することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、現時点での研究テーマを設定する。
第2回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第3回	先行研究の報告	各自の調査に基づいた先行研究についてその内容を報告し、議論する。
第4回	先行研究の分析	各自の研究において主要な先行研究が、各研究領域でどのように位置付けられているのかを検討する。
第5回	リサーチ・クエスチョン（問い）の設定	よいリサーチ・クエスチョンとは何かを学ぶ。
第6回	仮説の検討	リサーチ・クエスチョンに対する暫定的な答えをいかに導くかを指導する。
第7回	リサーチ・クエスチョン（問い）と仮説の報告	各自の設定したリサーチ・クエスチョンと仮説について相互に批判的な検討を加える。
第8回	目次の作成	暫定的な論文の目次作成を試みる。
第9回	リサーチ・プロポーザルの作成	用意されたフォーマットに沿って、リサーチ・プロポーザルを作成する。
第10回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自のリサーチ・プロポーザルについて議論する。
第11回	論文の部分的な試作	暫定的に作成した目次に従い、そのうちの1章について執筆を試みる。
第12回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。

第13回 リサーチ・プロポーザルの再検討 前回の報告に基づき各自リライとしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。

第14回 研究課題の明確化 修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。主な対象は「イノベーション政策」になります。

【到達目標】

修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また、他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第2回	演習	院生の報告と討論
第3回	演習	院生の報告と討論
第4回	演習	院生の報告と討論
第5回	演習	院生の報告と討論
第6回	演習	院生の報告と討論
第7回	演習	院生の報告と討論
第8回	演習	院生の報告と討論
第9回	演習	院生の報告と討論
第10回	演習	院生の報告と討論
第11回	演習	院生の報告と討論
第12回	演習	院生の報告と討論
第13回	演習	院生の報告と討論
第14回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究

自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

This lecture aims to provide you with how to write a master thesis and research policy paper according to your concern. We mainly focus on innovation policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2) short reports 50%.

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行う。主な対象はイノベーション政策になります。

【到達目標】

修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また、他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第2回	演習	院生の報告と討論
第3回	演習	院生の報告と討論
第4回	演習	院生の報告と討論
第5回	演習	院生の報告と討論
第6回	演習	院生の報告と討論
第7回	演習	院生の報告と討論
第8回	演習	院生の報告と討論
第9回	演習	院生の報告と討論
第10回	演習	院生の報告と討論
第11回	演習	院生の報告と討論
第12回	演習	院生の報告と討論
第13回	演習	院生の報告と討論
第14回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本の生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczynski, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

This lecture aims to provide you with how to write a master thesis and research policy paper according to your concern. We mainly focus on Innovation policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

加藤 寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として〔論文研究指導 1A・1B〕と〔論文研究指導 2A・2B〕は存在する。これらは、企業論領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。）

各人の問題関心を大切に、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左・ディスカッション
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左・ディスカッション
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左・ディスカッション
4回	論文構成の基礎的技法	同左・ディスカッション
5回	論文構成の応用的技法	同左・ディスカッション
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左・ディスカッション
7回	研究テーマ企画の立案	同左・ディスカッション
8回	研究テーマ企画の修正	同左・ディスカッション
9回	先行研究の検討	同左・ディスカッション
10回	先行研究の整理	同左・ディスカッション
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左・ディスカッション
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左・ディスカッション
13回	論文の研究対象の確認	同左・ディスカッション
14回	論文の構成の確認	同左・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】

社会人学生が多く、自社の状況を反映した意見交換が活発です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>地域産業論・戦略論・企業論

<研究テーマ>造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
<主要研究業績>

「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）

「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）

「造船産業の競争構図の変容と雇形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）

「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）

「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】

The courses [Thesis Research Guidance 1A and 1B] and [Thesis Research Guidance 2A and 2B] are designed to teach master's students how to write academic papers. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.

Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory,

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. Students will be advised on how to search for necessary materials in relation to their problem interest, narrow down their research theme, and conduct research.

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

加藤 寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として〔論文研究指導 1A・1B〕と〔論文研究指導 2A・2B〕は存在する。これらは、企業論領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。）

各人の問題関心を大切に、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左・ディスカッション
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左・ディスカッション
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左・ディスカッション
4回	論文構成の基礎的技法	同左・ディスカッション
5回	論文構成の応用的技法	同左・ディスカッション
6回	研究報告のレジュメの作成法	同左・ディスカッション
7回	研究テーマ企画の立案	同左・ディスカッション
8回	研究テーマ企画の修正	同左・ディスカッション
9回	先行研究の検討	同左・ディスカッション
10回	先行研究の整理	同左・ディスカッション
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左・ディスカッション
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左・ディスカッション
13回	論文の研究対象の確認	同左・ディスカッション
14回	論文の構成の確認	同左・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席 20%、調査研究活動および報告 80%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>地域産業論・戦略論・企業論

<研究テーマ>造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究
<主要研究業績>

「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性をもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）

「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）

「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）

「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）

「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】

This course is designed to teach master's students how to write an academic paper. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.)

Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. In addition, students are advised on the methods of survey and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. The series of work includes searching for necessary materials in relation to the problem interest, narrowing down the research theme, selecting the research target, creating the research plan, creating the questionnaire and questionnaire items, collecting and organizing the data, and analyzing the data. In principle, the goal of the second year is to complete a master's thesis or policy research paper.

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として〔論文研究指導 1A・1B〕と〔論文研究指導 2A・2B〕は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。）

各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジユメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	研究仮説の確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロツカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として〔論文研究指導 1A・1B〕と〔論文研究指導 2A・2B〕は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐら問題についてのロジックを形成する。（いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。）

各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジユメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	研究仮説の確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進度を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロツカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

多田 和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 1 年次の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】

本授業では、次の 3 点に到達することを目標とします。

- 1) 2 年次修了までに修士論文を完成できる。
- 2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
- 3) 設定された課題について実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	学術論文の作法①	教員による解説とディスカッション
第 3 回	学術論文の作法②	教員による解説とディスカッション
第 4 回	研究の方法論①	院生による発表とディスカッション
第 5 回	研究の方法論②	院生による発表とディスカッション
第 6 回	研究課題の発見①	院生による発表とディスカッション
第 7 回	研究課題の発見②	院生による発表とディスカッション
第 8 回	研究課題の発見③	院生による発表とディスカッション
第 9 回	研究課題の発見④	院生による発表とディスカッション
第 10 回	研究計画①	院生による発表とディスカッション
第 11 回	研究計画②	院生による発表とディスカッション
第 12 回	先行研究の検討①	院生による発表とディスカッション
第 13 回	先行研究の検討②	院生による発表とディスカッション
第 14 回	先行研究の検討②	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。修士論文の完成に向けて、入念な準備と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%，ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Term paper: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

多田 和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】

本授業では、次の3点に到達することを目標とします。

- 1) 2年次修了までに修士論文を完成できる。
- 2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
- 3) 設定された課題について実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	先行研究の課題①	院生による発表とディスカッション
第2回	先行研究の課題②	院生による発表とディスカッション
第3回	理論的枠組①	院生による発表とディスカッション
第4回	理論的枠組②	院生による発表とディスカッション
第5回	実証研究①	院生による発表とディスカッション
第6回	実証研究②	院生による発表とディスカッション
第7回	実証研究③	院生による発表とディスカッション
第8回	実証研究④	院生による発表とディスカッション
第9回	実証研究⑤	院生による発表とディスカッション
第10回	実証研究⑥	院生による発表とディスカッション
第11回	実証研究⑦	院生による発表とディスカッション
第12回	実証研究⑧	院生による発表とディスカッション
第13回	実証研究⑨	院生による発表とディスカッション
第14回	研究報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。修士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
その他、適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士1年の院生を対象とする。院生は、修士論文作成のために必要な資料収集方法や準備作業等について基礎的な知識を身につけ、調査研究計画を作成する。

【到達目標】

- ・ 学術論文の技法や資料収集の方法についての知識を習得する
- ・ 先行研究を踏まえて、研究テーマに関わる論点を提起する
- ・ 論文構成に即した調査研究計画を組み立てる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則対面で行う。

論文作成のための基礎的な情報提供を行いながら、各院生の研究テーマの決定と研究計画作成までの過程を指導する。院生が相互に学び合う機会として適宜、演習を取り入れていく。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文の目的や特質を理解した上で、院生の論文作成目的を確認する
第2回	研究関心の表明	院生各自が現時点で論文テーマと考えている問題について、レジュメを作成して報告する
第3回	研究テーマの仮決定	研究関心事項を整理し研究テーマを仮決定する
第4回	資料探索の基礎	図書館やデータベース等を活用した基本的な資料の探索方法について学ぶ
第5回	資料探索の実践	仮決定した研究テーマに関連する資料を探索し、リストアップする
第6回	主要な先行研究の調査	院生の研究テーマと関連する先行研究を抽出する
第7回	主要な先行研究の報告	主要な先行研究の概要を報告する
第8回	論文構成の基礎	論文の構成や体裁、文章等の基本を学ぶ
第9回	問題認識の文章化	仮決定した研究テーマについて、先行研究を踏まえた問題認識を文章化する
第10回	調査研究事項の整理	調査研究の対象事項を整理する
第11回	研究テーマの決定	各自の研究テーマを決定する
第12回	関連文献リストの作成	論文テーマに関連した文献のリストを作成する
第13回	論文作成の作業整理	論文作成に必要な作業を抽出、整理する
第14回	調査研究計画の確定	調査研究計画を確定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の準備作業を行う。授業内報告のレジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

先行研究調査の必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内報告 40%、討議への参加姿勢 30%、課題提出 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>

中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>『地方自治の責任部局』の研究—その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000] (2019) 公人の友社

『「透明性」・「誠実性」・「戦術性」— “転職” を迫られる地方公務員』(2001) 『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』(2008) 『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダー—神奈川県内の指定都市を題材に』(2016) 『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

【Outline (in English)】

This seminar is intended for the graduate students in the first year of master course. Graduate students acquire basic knowledge on collecting data and on preparation for the master's thesis, then make a research plan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire the knowledge on the technique of a dissertation and the way of collecting materials and data for research
- B. To raise points at research issue on basis of preceding studies
- C. To make a research plan in according to the structure of thesis

Students will be expected to make summary for presentation in class, besides make preparation for your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士1年の院生を対象とする。院生は、修士論文作成のために必要な技法を習得し、先行研究や資料を収集しながら論文の枠組みを構築する。

【到達目標】

- ・ 学術論文作成の技法を習得する
- ・ 修士論文作成に必要な先行研究や資料を収集し、整理する
- ・ 調査研究をもとに修士論文の枠組みをつくる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

春学期に確定した研究計画に沿って、院生が進めている研究内容について報告を受けながら、修士論文の枠組みづくりを指導する。小論文による報告を通じて、文章の指導を行う。院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。

発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	調査研究の報告①	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第2回	論文の枠組みと目次の作成	現時点で予定した素材をもとに修士論文の枠組みと目次を作成する
第3回	先行研究に基づく報告	先行研究や資料から得た知見とともに研究課題を報告する
第4回	小論文の報告①	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第5回	小論文の推敲	実際に書いた小論文を基に論述のスタイルや体裁等を確認する
第6回	調査研究の報告②	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第7回	小論文の報告②	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第8回	調査研究の報告③	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第9回	小論文の報告③	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第10回	調査研究の報告④	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第11回	小論文の報告④	論文の一部を構成する内容について小論文を作成し、報告する
第12回	理論枠組みの検討	ここまで得られた素材をもとに、論文の理論枠組みについて検討する
第13回	研究課題の整理	この時点で不足している調査研究や文献資料収集の状況を整理する
第14回	論文構成の修正	1年次終了時までの進捗を踏まえて、論文の構成を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の作業を進める。調査研究の報告準備や小論文を作成する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

論文作成の必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内報告 40%、討議への参加姿勢 30%、課題提出 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>

中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究—その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・「誠実性」・「戦術性」—「転職」を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』(2008)『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダ—神奈川県内の指定都市を題材に』(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

【Outline (in English)】

This seminar is intended for the graduate students in the first year of master course. Graduate students acquire the techniques necessary for the master's thesis and construct a framework for the thesis while collecting preceding studies and materials.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To master the technique of a dissertation
 - B. To collect and organize materials for research
 - C. To construct the framework of the thesis on your research
- Students will be expected to make summary for presentation in class and to write essay, besides to work on your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc. Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 - 501

論文研究指導 1 A

中筋 直哉

その他属性：

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to prepare student's master thesis by face to face direction and group discussion.(Learning Objectives)The goals of this lecture are the first step of writing the master thesis.(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar.(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆の個別指導

【到達目標】

修士論文の2年間の執筆過程の1年次として、十分な知識と研究能力を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面を実施。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって、地域社会学、都市社会学、農村社会学の立場からみた、公共政策と市民活動、コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	顔合わせ	各自の関心の提示と相互評価
2	1人目の個別指導 1	テーマ設定に関する指導
3	1人目の個別指導 2	文献調査に関する指導
4	1人目の個別指導 3	データ収集に関する指導
5	2人目の個別指導 1	テーマ設定に関する指導
6	2人目の個別指導 2	文献調査に関する指導
7	2人目の個別指導 3	データ収集に関する指導
8	3人目の個別指導 1	テーマ設定に関する指導
9	3人目の個別指導 2	文献調査に関する指導
10	3人目の個別指導 3	データ収集に関する指導
11	4人目の個別指導 1	テーマ設定に関する指導
12	4人目の個別指導 2	文献調査に関する指導
13	4人目の個別指導 3	データ収集に関する指導
14	全員演習	各自の論文テーマに関する討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し、教員にメール等で提出する。事後、指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

【参考書】

各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

個別指導や演習での研究の進展度とその表現 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

各自の問題関心により共感的に接するよう努める

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 地域社会学

< 研究テーマ > 地域社会の構造分析

< 主要研究業績 > 『よくわかる都市社会学』（2013, ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005, 新曜社）

SOS600P1 - 502

論文研究指導 1 B

中筋 直哉

その他属性：

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to prepare student's master thesis by face to face direction and group discussion.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are the first step of writing the master thesis.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,

(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆の個別指導

【到達目標】

修士論文の2年間の執筆過程の1年次として、十分な知識と研究能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面を実施。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって、地域社会学、都市社会学、農村社会学の立場からみた、公共政策と市民活動、コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1人目の個別指導 1	理論に関する指導
2	1人目の個別指導 2	研究方法に関する指導
3	1人目の個別指導 3	政策提言に関する指導
4	2人目の個別指導 1	理論に関する指導
5	2人目の個別指導 2	研究方法に関する指導
6	2人目の個別指導 3	政策提言に関する指導
7	3人目の個別指導 1	理論に関する指導
8	3人目の個別指導 2	研究方法に関する指導
9	3人目の個別指導 3	政策提言に関する指導
10	4人目の個別指導 1	理論に関する指導
11	4人目の個別指導 2	研究方法に関する指導
12	4人目の個別指導 3	政策提言に関する指導
13	全員演習	各自の論文構想をめぐる討論
14	中間報告会での報告	中間報告会での報告に関する討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し、教員にメール等で提出する。事後、指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。さらに年度末に研究計画リポートを提出する。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

【参考書】

各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

個別指導や演習での研究の進捗度とその表現 30 %、中間報告会での報告の完成度 30 %、年度末リポート 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各自の問題関心により共感的に接するよう努める

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 地域社会学

< 研究テーマ > 地域社会の構造分析

< 主要研究業績 > 『よくわかる都市社会学』（2013, ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005, 新曜社）

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の論文研究指導 1 の成果を踏まえて、引き続きの課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを確定すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を確定し習熟すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解しそれを実際に適用できること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解しそれを実際に適用すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	1 年目での成果を確認し、今年度の論文完成までのスケジュールの確認する
第 3.4 回	研究テーマと論文の方向性の確認	論文の方向性の検討する
第 5.6 回	論文の仮説と理論枠組の検討	論文の仮説と理論枠組を検討する
第 7.8 回	論文構成の検討	論文構成の検討する
第 9.10 回	論文の基本ルール	論文の形式上のルール、スタイルを把握する
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究テーマ設定や作業をするための課題を報告する
第 13.14 回	研究計画の再考	研究進捗状況を踏まえて、夏季休暇期間の研究計画を再検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取り組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。特に、締切り間際に慌てるのではなく、11 月あたりで第 1 稿が完成しているように進めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60 %) ,and reports (40 %) .

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に修士論文やリサーチペーパーを各自の設定した研究テーマに即してどのように取りまとめていけばいいかを指導するものである。

【到達目標】

各自の論文を実際に書き切ることがもちろん大きな目標だが、そのまえに、修士課程 1 年目の論文研究指導 1 の成果を踏まえて、引き続きの課題として、(1) それぞれが関心を持ち熱意を持って取組める研究テーマを確定すること、(2) その研究テーマを追求できる適切な理論枠組や方法を確定し習熟すること、(3) 論文というものの構成の仕方を理解しそれを実際に適用できること、(4) 必要な資料を収集したり先行研究をフォローしたり時の技法や留意点を理解しそれを実際に適用すること、を具体的な目標として取組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるけれども、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	本格執筆に向けて	夏休みでの進展を踏まえて、提出までのスケジュールを確認し、論文の中身に関する現時点での考えを確認する。
第 3.4 回	研究推進上の悩みの解決	現時点で抱えている研究上の悩みを話してもらい、解決の方策を相談する。
第 5.6 回	研究進捗状況の報告と指導	研究の進捗状況を発表し、作業の方向性を確認する。
第 7.8 回	研究進捗状況の報告と指導	研究の進捗状況を発表し、作業の方向性を確認する。
第 9.10 回	研究進捗状況の報告と指導	研究の進捗状況を発表し、作業の方向性を確認する。
第 11.12 回	初稿の確認	論文の完成度を高めるための改善報告を確認する。
第 13.14 回	発表の準備	口述試験に向けた発表練習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目の性質からして、まさに各院生が自分の論文に取り組むことそのものであるのだが、具体的には、それぞれの回ごとに、「授業の到達目標」欄に示した 4 つの項目に沿って、具体的に行なっておくべき作業を指示する。特に、締切り間際に慌てるのではなく、11 月あたりで第 1 稿が完成しているように進めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60 %）、研究レポート等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60 %) ,and reports (40 %) .

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

名和田 是彦

その他属性：

Each student should prepare for her/his master paper, collecting and analyzing data and materials, trying to understand the current situation of policy making in the field of her/his own research theme as well as trying to propose her/his own solution. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her master paper, which is also the grading criterion.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文研究指導 1 に引き続き、修士論文の完成を目指して、各自のテーマに則して現実の諸問題に関するデータ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題状況を総合的に把握すること、および、その解決策を検証することを課題とする。

【到達目標】

修士論文の構想と章構成の確定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の問題関心を大切に、調査やデータ分析の手法について研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。

なお原則として、論文研究指導 1 の受講を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題設定	問題意識の再確認、研究スケジュール
2	研究計画	計画案の報告と質疑
3～13	調査研究の実施	必要な助言等
14	中間報告	成果の報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【テキスト（教科書）】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【参考書】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20%）、論文執筆のための調査活動および報告（80%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞コミュニティ政策、公共哲学、法社会学
 ＜研究テーマ＞都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。「領域団体」及び「市民社会」の概念史。

＜主要研究業績＞

単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著論文「プレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性——宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望——高松市を素材として～」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

【Outline (in English)】

Students in the third semester should subscribe to this subject.

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文指導 1 に引き続いて、修士論文の完成を目指して、各自のテーマに則して現実の諸問題に関するデータ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題状況を総合的に把握すること、および、その解決策を検証することを課題とする。

【到達目標】

十分な水準の修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の問題関心を大切に、調査やデータ分析の手法について研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。

なお原則として、論文研究指導 2 A を履修していることを前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究評価（3回目）	到達状況の確認と課題の明確化
2-12	調査研究の実施	必要な助言等
13	論文報告	報告と質疑
14	研究評価（最終）	成果の確認と残された課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【テキスト（教科書）】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【参考書】

各人のテーマと論文作成過程に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20%）、論文執筆のための調査活動および報告（80%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> コミュニティ政策、公共哲学、法社会学

<研究テーマ> 都市内分権。地域法人制度。コミュニティカフェ。「領域団体」及び「市民社会」の概念史。

<主要研究業績>

単著『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257~287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1~88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望—高松市を素材として—」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57~104頁。

【Outline (in English)】

Students in the fourth semester should subscribe to this subject.

Each student should prepare for, and at the end of the semester complete, her/his master paper, collecting and analyzing data and materials, trying to understand the current situation of policy making in the field of her/his own research theme as well as trying to propose her/his own solution. The goal is that each student completes his/her master paper. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria.

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に、修士論文の執筆を着実に進めるための指導を行うものである。

【到達目標】

院生は、1 年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしなが、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、リライトされたリサーチ・プロポーザルを共有する。
第 2 回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第 3 回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第 4 回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 5 回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について演習形式で学ぶ。
第 6 回	論文の部分的な試作	暫定的に設定された目次に従い、そのうちの 1 章について執筆を試みる。
第 7 回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 8 回	概要（要旨）の作成	草稿の執筆に先立ち、現時点における構想を元に、1,000 文字程度で修士論文の概要を表すことを試みる。
第 9 回	概要（要旨）の推敲	各自が執筆した概要を報告し、相互に検討しながら推敲する。
第 10 回	英文サマリー作成の基礎	英文サマリーの作成に関する基本的事項を学ぶ。
第 11 回	英文サマリーの執筆	各自の修士論文の概要を英文で執筆する。英文サマリーの推敲
第 12 回	英文サマリーの推敲	各自が執筆した英文サマリーを報告し、相互に検討しながら推敲する。
第 13 回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自の研究の進捗に基づき、リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。

第 14 回 研究課題の明確化 修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。

オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018 年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.

(Learning Objectives) To be ready to start writing master's thesis.

(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.

(Grading Criteria / Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に、修士論文の執筆を完成させるための指導を行うものである。

【到達目標】

院生は、1 年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深め、修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、提出までのスケジュールを確認する。
第 2 回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第 3 回	主要な資料の報告	論文を作成する上で最も重要な資料について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 4 回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 5 回	論文の目次の確認	現時点における論文の構成について報告する。
第 6 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 7 回	第 1 稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第 8 回	第 1 稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 9 回	第 2 稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第 10 回	第 2 稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 11 回	要旨の推敲	修士論文の要旨を推敲する。
第 12 回	進捗の確認	修士論文の提出に向けた事務的な諸注意を行う。
第 13 回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第 14 回	論点に関する質疑	口述試験のための準備として、重要な論点について質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。

オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018 年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy.

(Learning Objectives) To be ready to complete master's thesis.
(Learning activities outside of classroom) Several hours a week at least.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に、修士論文の執筆を着実に進めるための指導を行うものである。

【到達目標】

院生は、1 年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスション（問い）を明確にしなが、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、リライトされたリサーチ・プロポーザルを共有する。
第 2 回	研究スケジュールの確認	今後の研究に向けたスケジュールを設定し、共有する。
第 3 回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第 4 回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 5 回	研究倫理の理解	研究を遂行する上で留意すべき研究倫理について演習形式で学ぶ。
第 6 回	論文の部分的な試作	暫定的に設定された目次に従い、そのうちの 1 章について執筆を試みる。
第 7 回	文章の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 8 回	概要（要旨）の作成	草稿の執筆に先立ち、現時点における構想を元に、1,000 文字程度で修士論文の概要を表すことを試みる。
第 9 回	概要（要旨）の推敲	各自が執筆した概要を報告し、相互に検討しながら推敲する。
第 10 回	英文サマリー作成の基礎	英文サマリーの作成に関する基本的事項を学ぶ。
第 11 回	英文サマリーの執筆	各自の修士論文の概要を英文で執筆する。英文サマリーの推敲
第 12 回	英文サマリーの推敲	各自が執筆した英文サマリーを報告し、相互に検討しながら推敲する。
第 13 回	リサーチ・プロポーザルの報告	各自の研究の進捗に基づき、リライトしたリサーチ・プロポーザルについて、相互に批判的な検討を加える。

第 14 回 研究課題の明確化 修士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、修士課程 2 年目の院生を対象に、修士論文の執筆を完成させるための指導を行うものである。

【到達目標】

院生は、1 年目に設定した各自の研究テーマに基づき、リサーチ・クエスチョン（問い）を明確にしながら、引き続き（1）先行研究の調査、（2）基本的な分析枠組や方法の習得、（2）社会科学一般における論文執筆上の作法の理解、のそれぞれを深め、修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	これまでの進捗を報告するとともに、提出までのスケジュールを確認する。
第 2 回	資料の所在の確認	文献リストを整理し、執筆に際して必要な資料の所在を明らかにする。
第 3 回	主要な資料の報告	論文を作成する上で最も重要な資料について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 4 回	主要な先行研究の報告	論文を作成する上で最も重要な先行研究について、修士論文においてどのような位置付けで用いるのかを報告する。
第 5 回	論文の目次の確認	現時点における論文の構成について報告する。
第 6 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 7 回	第 1 稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第 8 回	第 1 稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 9 回	第 2 稿の執筆	修士論文全体を通して執筆を行う。
第 10 回	第 2 稿の推敲	執筆した文章について、構成、論理的整合性、文章表現などについて詳細な指導を行う。
第 11 回	要旨の推敲	修士論文の要旨を推敲する。
第 12 回	進捗の確認	修士論文の提出に向けた事務的な諸注意を行う。
第 13 回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第 14 回	論点に関する質疑	口述試験のための準備として、重要な論点について質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

各院生の関心や資質、到達度などに応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権 <主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』 pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』 pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』 pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。主な対象は「イノベーション政策」になります。

【到達目標】

修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また、他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第2回	演習	院生の報告と討論
第3回	演習	院生の報告と討論
第4回	演習	院生の報告と討論
第5回	演習	院生の報告と討論
第6回	演習	院生の報告と討論
第7回	演習	院生の報告と討論
第8回	演習	院生の報告と討論
第9回	演習	院生の報告と討論
第10回	演習	院生の報告と討論
第11回	演習	院生の報告と討論
第12回	演習	院生の報告と討論
第13回	演習	院生の報告と討論
第14回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、研究報告 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究

自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』
糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

this lecture aims to provide you with how to write a master thesis and research policy paper according to your concern. We mainly focus on Innovation policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行う。主な対象はイノベーション政策になります。

【到達目標】

修士論文または政策研究論文を完成させ、修士の学位取得に結実させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式で行います。受講生は与えられた課題を準備して臨み、積極的にディスカッションに参加してください。また、他の受講生の発表に対するコメントも求められます。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の確認
第2回	演習	院生の報告と討論
第3回	演習	院生の報告と討論
第4回	演習	院生の報告と討論
第5回	演習	院生の報告と討論
第6回	演習	院生の報告と討論
第7回	演習	院生の報告と討論
第8回	演習	院生の報告と討論
第9回	演習	院生の報告と討論
第10回	演習	院生の報告と討論
第11回	演習	院生の報告と討論
第12回	演習	院生の報告と討論
第13回	演習	院生の報告と討論
第14回	演習	院生の報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究

自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

研究

日本的生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

This lecture aims to provide you with how to write a master thesis and research policy paper according to your concern. We mainly focus on Innovation policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2)short reports 50%.

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として〔論文研究指導 1A・1B〕と〔論文研究指導 2A・2B〕は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。）

各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、報告、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジユメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進捗を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程の学生に対して学術的な論文を、どう書いていくかを目的とする科目として〔論文研究指導 1A・1B〕と〔論文研究指導 2A・2B〕は存在する。これらは、公共政策における政治学領域の修士論文執筆に役立つ、データ収集とその分析を行い、政策的課題をめぐる問題についてのロジックを形成する。（いずれも、1は1年次、2は2年次に対応する。）

各人の問題関心を大切にし、それぞれのテーマに最も適した教員が指導を担当するとともに、調査やデータ分析の手法についても、研究テーマとの適合性を重視しながら助言する。問題関心との関連で必要な資料の検索、調査テーマのしぼり込み、調査対象の選定、調査計画の作成、質問票・質問項目の作成、データ収集と整理、データ解析といった一連の作業を行う。原則として2年次においては、修士論文もしくは政策研究論文の完成を到達目標とする。

【到達目標】

アカデミックな修士論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各院生の修士論文研究テーマを考慮して、以下に挙げるようなトピックを念頭に置いて、それぞれの進度に応じた指導、に最もふさわしい研究方法を選択し、組み合わせて実施することを促進する。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	研究テーマ設定	同左
2回	テーマを中心とした基礎的理解	同左
3回	テーマを中心とした標準的理解	同左
4回	論文構成の基礎的技法	同左
5回	論文構成の応用的技法	同左
6回	研究報告のレジユメの作成法	同左
7回	研究テーマ企画の立案	同左
8回	研究テーマ企画の修正	同左
9回	先行研究の検討	同左
10回	先行研究の整理	同左
11回	リサーチ・クエスチョンの確定	同左
12回	論文の理論的フレームワークの提示	同左
13回	論文の研究対象の確認	同左
14回	論文の構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文作成上有益な情報、準備に関しては、担当教員が進捗を確認しながら指示する。

【テキスト（教科書）】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【参考書】

各人のテーマに応じて、担当教員が提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席 20 %、調査研究活動および報告 80 %

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

多田 和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】

本授業では、次の 3 点に到達することを目標とします。

- 1) 修士論文を完成できる。
- 2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
- 3) 設定された課題について実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス
第 2 回	実証分析①	院生による発表とディスカッション
第 3 回	実証分析②	院生による発表とディスカッション
第 4 回	実証分析③	院生による発表とディスカッション
第 5 回	実証分析④	院生による発表とディスカッション
第 6 回	実証分析⑤	院生による発表とディスカッション
第 7 回	実証分析⑥	院生による発表とディスカッション
第 8 回	実証分析⑦	院生による発表とディスカッション
第 9 回	考察①	院生による発表とディスカッション
第 10 回	考察②	院生による発表とディスカッション
第 11 回	考察③	院生による発表とディスカッション
第 12 回	考察④	院生による発表とディスカッション
第 13 回	考察⑤	院生による発表とディスカッション
第 14 回	中間報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。修士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
その他、適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

多田 和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次の院生を対象に、修士論文または政策研究論文を作成するための研究指導を行います。

【到達目標】

本授業では、次の 3 点に到達することを目標とします。

- 1) 修士論文を完成できる。
- 2) 厳密な研究の方法論にもとづき学術論文を執筆できる。
- 3) 設定された課題について実証的に分析できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の執筆と報告①	院生による発表とディスカッション
第 2 回	修士論文の執筆と報告②	院生による発表とディスカッション
第 3 回	修士論文の執筆と報告③	院生による発表とディスカッション
第 4 回	修士論文の執筆と報告④	院生による発表とディスカッション
第 5 回	修士論文の執筆と報告⑤	院生による発表とディスカッション
第 6 回	修士論文の執筆と報告⑥	院生による発表とディスカッション
第 7 回	修士論文の執筆と報告⑦	院生による発表とディスカッション
第 8 回	修士論文の執筆と報告⑧	院生による発表とディスカッション
第 9 回	修士論文の執筆と報告⑨	院生による発表とディスカッション
第 10 回	修士論文の執筆と報告⑩	院生による発表とディスカッション
第 11 回	修士論文の執筆と報告⑪	院生による発表とディスカッション
第 12 回	修士論文の執筆と報告⑫	院生による発表とディスカッション
第 13 回	修士論文の執筆と報告⑬	院生による発表とディスカッション
第 14 回	最終報告	院生による発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。修士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。
その他、適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a master's thesis.

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士 2 年の院生を対象とする。院生は、調査研究内容の報告と指導教員との討議を通じて考察を深めながら修士論文を執筆する。

【到達目標】

- ・ 修士論文作成に必要な調査研究資料を収集し、整理する
- ・ 調査研究内容を文章化し、修士論文を構成する
- ・ 論理的思考力を高める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

1 年次に作成した修士論文の構成に沿って院生が進める研究内容について報告を受けながら、修士論文の内容について指導を行う。提出された小論文に対し文言や文章の体裁を指導する。また、院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文構成と作業スケジュールの作成	1 年次最後に作成した論文構成の確認とともに、春学期の研究・執筆スケジュールを作成する
第 2 回	調査研究の報告①	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第 3 回	小論文の報告①	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第 4 回	小論文の推敲①	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第 5 回	調査研究の報告②	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第 6 回	小論文の報告②	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第 7 回	小論文の推敲②	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第 8 回	調査研究の報告③	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第 9 回	小論文の報告③	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する
第 10 回	小論文の推敲③	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第 11 回	調査研究の報告④	研究テーマに即した調査研究内容について、院生が報告し、全体で討議する
第 12 回	小論文の報告④	前回報告内容を基に論文の一部をなす小論文を作成し報告、提出する

第 13 回	小論文の推敲④	前回提出した小論文を推敲し、加筆・修正を行う
第 14 回	進捗の確認と追加調査等の洗い出し	春学期の執筆状況を踏まえて、夏休み中に必要な追加作業等を洗い出し、その準備を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成に必要な調査、資料や文献の収集等の作業を進める。調査研究の報告準備や小論文の作成・加筆修正作業等を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

論文執筆の必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内報告 40 %、討議への参加姿勢 30%、課題提出 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>

中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・「誠実性」・「戦術性」－「転職」を迫られる地方公務員』(2001) 『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による「上から」の自治体統制の持続と変容』(2008) 『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の「区民会議」と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』(2016) 『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】

This seminar is intended for the graduate students in the second year of master course. Graduate students write thesis while considering the idea from your research deeply and discussing to teacher.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To collect and organize materials and data for research

-B. To construct the framework of the thesis by writing

-C. To improve the skill of a logical thinking

Students will be expected to make summary for presentation in class and to write essay and correct them, besides to work on your thesis by research, collecting materials, the literature, and data etc.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士 2 年の院生を対象とする。院生は、調査研究内容の報告と指導教員との討議を通じて考察を深めながら修士論文を完成する。

【到達目標】

- ・ 修士論文作成に必要な調査研究資料を収集・整理する
- ・ 論理的思考力を高める
- ・ 調査研究をもとに修士論文を完成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

修士論文の構成に沿って、院生が執筆中の論文について報告を受けながら、修士論文の完成に向けた指導を行う。論文に使用する文言や文章の体裁等について指導する。院生相互が学び合う機会として適宜、演習を取り入れる。

発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文構成の再検討	夏休み中に獲得した新たな知見を用いて、論文の構成を再検討する
第 2 回	論文の執筆と報告①	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 3 回	論文の執筆と報告②	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 4 回	論文の執筆と報告③	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 5 回	論文の執筆と報告④	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 6 回	論文の執筆と報告⑤	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 7 回	論文の執筆と報告⑥	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 8 回	論文の執筆と報告⑦	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 9 回	論文の執筆と報告⑧	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 10 回	論文の執筆と報告⑧	執筆の進捗状況に応じ、討議と指導を行う
第 11 回	修士論文の推敲①	仕上げに向けた推敲を行う
第 12 回	修士論文の推敲②	仕上げに向けた推敲を行う
第 13 回	修士論文の推敲③	仕上げに向けた推敲を行う
第 14 回	修士論文の最終確認	提出までに必要な修正について指示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の完成に向けて計画的に執筆を進める。
論文審査に必要な報告資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

論文執筆の必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内報告 40 %、討議への参加姿勢 30%、課題提出 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>

中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『地方自治の責任部局』の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・「誠実性」・「戦術性」－“転職”を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』(2008)『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】

This seminar is intended for the graduate students in the second year of master course. Graduate students finish thesis while considering the idea from your research deeply and discussing to teacher.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To collect and organize materials for research
- B. To improve the skill of a logical thinking
- C. To finish the thesis on your research

Students will be expected to make summary for presentation in examination, besides to write thesis while keeping your plan.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (40%), participation in discussions (30%), and the task of assignment (30%).

SOS600P1 - 503

論文研究指導 2 A

中筋 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆の個別指導

【到達目標】

修士論文の2年間の執筆過程の2年次として、十分な知識と研究能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって、地域社会学、都市社会学、農村社会学の立場からみた、公共政策と市民活動、コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	顔合わせ	各自の関心の提示と相互評価
2	1人目の個別指導 1	論文の構成に関する指導
3	1人目の個別指導 2	論文の展開に関する指導
4	1人目の個別指導 3	論文の結論に関する指導
5	2人目の個別指導 1	論文の構成に関する指導
6	2人目の個別指導 2	論文の展開に関する指導
7	2人目の個別指導 3	論文の結論に関する指導
8	3人目の個別指導 1	論文の構成に関する指導
9	3人目の個別指導 2	論文の展開に関する指導
10	3人目の個別指導 3	論文の結論に関する指導
11	4人目の個別指導 1	論文の構成に関する指導
12	4人目の個別指導 2	論文の展開に関する指導
13	4人目の個別指導 3	論文の結論に関する指導
14	中間報告会	各自の中間報告会原稿の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し、教員にメール等で提出する。事後、指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。オンラインを活用し、授業時間変更で2回減った分のし同時間を確保するよう努める。

【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

【参考書】

各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

個別指導や演習での研究の進展度とその表現 60%、中間報告会での報告の完成度 40%。

【学生の意見等からの気づき】

各自の問題関心により共感的に接するよう努める

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 地域社会学

< 研究テーマ > 地域社会の構造分析

< 主要研究業績 > 『よくわかる都市社会学』（2013, ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005, 新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar aims to prepare student's master thesis by face to face direction and group discussion.

(Learning Objectives) The goals of this lecture are the second step of writing the master thesis.

(Learning activities outside of classroom) Preparing original reports for presentation in seminar,

(Grading Criteria / Policy) Positivity to seminar: 100%.

SOS600P1 - 504

論文研究指導 2 B

中筋 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆の個別指導

【到達目標】

修士論文の2年間の執筆過程の2年次として、十分な知識と研究能力を習得し、修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面を実施（予定）。個別面談と履修者全員による演習形式の授業の組み合わせによって、地域社会学、都市社会学、農村社会学の立場からみた、公共政策と市民活動、コミュニティ形成の連携に関する研究と論文制作の方法を指導する。提出物については個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1人目の個別指導 1	文献調査に関する確認
2	1人目の個別指導 2	データ分析に関する確認
3	1人目の個別指導 3	政策提言に関する確認
4	2人目の個別指導 1	文献調査に関する確認
5	2人目の個別指導 2	データ分析に関する確認
6	2人目の個別指導 3	政策提言に関する確認
7	3人目の個別指導 1	文献調査に関する確認
8	3人目の個別指導 2	データ分析に関する確認
9	3人目の個別指導 3	政策提言に関する確認
10	4人目の個別指導 1	文献調査に関する確認
11	4人目の個別指導 2	データ分析に関する確認
12	4人目の個別指導 3	政策提言に関する確認
13	全員演習 1	修士論文の最終調整
14	全員演習 2	修士論文の最終調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回指導の材料となるレジュメを事前に準備し、教員にメール等で提出する。事後、指導に基づく研究の修正状況を教員にメール等で報告する。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

【参考書】

各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

修士論文の出来 100 %

【学生の意見等からの気づき】

各自の問題関心により共感的に接するよう努める

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域社会学

<研究テーマ> 地域社会の構造分析

<主要研究業績> 『よくわかる都市社会学』（2013, ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005, 新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar aims to prepare student's master thesis by face to face direction and group discussion.

(Learning Objectives) The goals of this lecture are the second step of writing the master thesis.

(Learning activities outside of classroom) Preparing original reports for presentation in seminar,

(Grading Criteria /Policy) Master thesis:100%.

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に1年春学期は、研究テーマの絞込みとそれに関連する既往研究の把握することを主眼とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	博士研究の進めるためのスケジュール・手法等を確認する。
第 3.4 回	研究関心の発表	研究活動に着手する前の問題関心等を発表する。
第 5.6 回	研究計画の立案	当面の研究の進め方・手法等を検討する。
第 7.8 回	既往研究の把握	関心のあるテーマに関する既往研究のリストを作成する
第 9.10 回	既往研究の整理	関心のあるテーマに関する既往研究論文等を読み込む
第 11.12 回	研究テーマ案の検討	研究テーマに関する論点整理を踏まえた研究テーマ案の発表
第 13.14 回	ふりかえり	研究進捗状況の発表と夏季休暇期間の研究活動予定の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>都市計画、市民参加手法

<研究テーマ>公共的意思決定における市民参加のあり方、住民主体のまちづくりを支える支援システム、まちづくりの現代史
<主要研究業績>『住民主体の都市計画』（分担執筆）学芸出版社、2009年

「まちづくりセンターを取り巻く課題」『季刊まちづくり』2011年3年

「参加のプロセスマネジメント」『地方自治職員研修』2013年9月号

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを到達目標とする。特に博士課程1年次の秋学期は、引き続き既往研究の把握を踏まえた研究テーマの絞込みと2年次の学会論文投稿に向けた作業を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	夏季休暇期間の進捗状況の報告と研究計画の検討を行う。
第 3.4 回	既往研究の把握	関心のあるテーマに関する既往研究論文等を読み込む
第 5.6 回	理論枠組みの設定	既往研究を踏まえたテーマに関する理論枠組みを検討する。
第 7.8 回	研究テーマ案の検討	研究テーマ案の絞込みを行う。
第 9.10 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	投稿論文構成の検討	学会論文投稿に向けた目次構成、調査計画を検討する。
第 13.14 回	ふりかえり	研究進捗状況の発表と春季休暇期間の研究活動予定を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の1年めにあたり、博士論文作成のためのテーマを念頭において、研究計画をたて、そのテーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査をすすめる、テーマについての知見を醸成し、自らの独創性を模索していく。

【到達目標】

この講義は以下を到達目標とする。

- ・博士論文のテーマを念頭に置いて、3年間の研究計画を立てる
- ・テーマをめぐる情報、資料、文献の収集と調査を進める
- ・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の進めかた、博士論文の指導の方法の確認
第2回	博士論文のテーマの検討	博士論文テーマとして検討しているものについて報告する
第3回	博士論文のテーマの構想	博士論文テーマについて、検討をふまえた構想を報告する
第4回	意見交換	意見交換と今後の作業の確認
第5回	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究について収集し、状況を報告する
第6回	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究について収集し、状況を報告する
第7回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実 (fact)、先行研究をふまえて議論し、考察を深める
第8回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実 (fact)、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第9回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実 (fact)、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第10回	研究計画を更新する	これまでの講義をふまえて、博士論文の研究計画を更新する
第11回	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究について収集し、状況を報告する
第12回	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究の収集	博士論文のテーマをめぐる事実 (fact)、先行研究について収集し、状況を報告する
第13回	博士論文のテーマについて考察を深める	博士論文のテーマについて、事実 (fact)、先行研究をふまえての議論、考察をさらに深める
第14回	研究計画を更新する	夏季休暇中の研究計画を検討し、研究計画を更新する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐる、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。

【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、
報告と説明 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】

専門領域) 公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

This lectures would be taken by first-year doctor-course students.

Students will make a research plan with a theme for their doctoral thesis in mind. Students collect information, materials, papers and studies on the theme, develop their knowledge of the theme and search for their own originality.

Learning Objectives;

- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.

- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.

- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の1年めの後期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。博士論文作成のためのテーマをめぐり知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめる、ひきつづき情報、資料、文献の収集と調査し、自らの独創性を模索していく。

【到達目標】

この講義は以下を到達目標とする。

- ・博士論文のテーマを念頭に置いて、研究計画を進める
- ・テーマをめぐり情報、資料、文献の収集と調査を進める
- ・テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報告	夏季休暇までの研究活動の到達点を報告する
第2回	後期の研究計画を立てる	これまでの研究の進捗をふまえ、研究計画を更新する
第3回	テーマについて報告	テーマについて報告する
第4回	テーマについて議論	テーマについての報告を踏まえ、議論し、次回の目標を設定する
第5回	テーマをめぐり論点の検討	テーマをめぐり論点を検討する
第6回	テーマをめぐり論点の整理	テーマをめぐり論点を整理し、それら論点の検討スケジュールをたてる
第7回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐり論点について報告する
第8回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐり論点について議論する
第9回	研究計画の更新	これまでの講義をふまえ、研究計画を見直す
第10回	論文テーマとその独創性	論文のテーマを前提に、研究の独創性について議論する
第11回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐり論点について報告する
第12回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐり論点について報告する
第13回	論点（の一部）について検討	テーマをめぐり論点について報告する
第14回	春季休暇中、来年度の研究計画を更新する	研究計画を見直し、更新する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、
報告と説明 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Course outline;

In this lecture, students will make the necessary research progress in the second semester of the first year of the doctor-course.

Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.

The students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.

Learning Objectives;

- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.

- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.

- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程一年目の院生を対象に、学界に新しい知見をもたらすオリジナルな研究を行なって博士論文にまとめていくために、一年目になすべきことを自ら考え、実行することを目的とする。

【到達目標】

博士論文の完成と博士号の取得という究極の目的を見据え、まずは一年目に幅広い文献研究とフィールド調査を行ない、博士論文に向けた研究テーマを設定すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の研究は、博士論文の執筆をはじめとして、学界に新たな知見をもたらすオリジナルな研究であるから、各院生の個性を十分に発揮してもらう必要がある。定まった進め方や方法はないと言ってもよく、院生相互の及び教員との議論から学ぶことが、授業としては本来的なあり方である。

原則として対面により行うことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究関心とさし当りの作業の確認	最初の時点での研究関心を言葉に出してみ、さしあり 2、3 ヶ月程度の間の研究作業を試行的に設定してみる。
第 2 回	試行的研究作業の報告	さしあり試行的に行なう研究作業を逐次報告し、討論の中で必要な軌道修正をしていく。
第 5 回	と討論	
第 6 回	中間総括	試行的な研究作業を総括し、秋までに追究していくテーマを確認する。
第 7 回	研究の推進	各自テーマに沿った研究を推進していく。
第 13 回		
第 14 回	春学期の総括と今後の研究計画の確認	夏休み中の研究計画を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士後期課程の院生としての自覚を持って、それぞれの研究テーマを追究していくこと。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書は特になし。

【参考書】

各自の研究テーマが設定された時点で、さらに研究が深化した時点で、それぞれに対して指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究テーマの設定や研究状況の報告などによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論
 < 研究テーマ > 都市内分権 (特に日本とドイツ)、自治会・町内会の研究
 < 主要研究業績 >
 編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）

単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257～287 頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性—宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1～88 頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望—高松市を素材として—」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57～104 頁。

【Outline (in English)】

This is part of the research-training program for Ph.D research students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程一年目の院生を対象に、学界に新しい知見をもたらすオリジナルな研究を行なって博士論文にまとめていくために、一年目になすべきことを自ら考え、実行することを目的とする。

【到達目標】

博士論文の完成と博士号の取得という究極の目的を見据え、まずは一年目に幅広い文献研究とフィールド調査を行ない、博士論文に向けた研究テーマを設定すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の研究は、博士論文の執筆をはじめとして、学界に新たな知見をもたらすオリジナルな研究であるから、各院生の個性を十分に発揮してもらう必要がある。定まった進め方や方法はないと言ってもよく、院生相互の及び教員との議論から学ぶことが、授業としては本来的なあり方である。

原則として対面により行うことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期までの研究の到達点の確認	研究テーマと研究仮説をどのくらい深めることができたかを確認する。
第 2 回	研究テーマに関する先行研究	これまでに参照した先行研究の中で特に重要なものを紹介・報告し、討論する。
第 5 回	研究の到達点に学ぶ	
第 6 回	一年目の研究の中間総括	研究のプロセスにおいて行なったフィールド調査や思索を取りまとめて報告し、討論する。今後の研究作業の計画を設定する。
第 10 回		
第 11 回	研究の推進	各自テーマに沿った研究を推進していく。
第 13 回		
第 14 回	秋学期の総括と今後の研究計画の確認	一年目の研究の成果を振り返り、二年目に向けての展望を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士後期課程の院生としての自覚を持って、それぞれの研究テーマを追究していくこと。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書は特になし。

【参考書】

各自の研究テーマが設定された時点で、さらに研究が深化した時点で、それぞれに対して指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究テーマの設定や研究状況の報告などによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）

単著論文「プレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』日本評論社、2018年、257～287頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性——宮崎市の地域自治区制度の運用を素材として」『法学志林』第118巻第3号、2020年、1～88頁。

単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望——高松市を素材として～」『法学志林』第119巻第2号、2021年、57～104頁。

【Outline (in English)】

This is part of the research-training program for Ph.D research students working in the area of public policy studies. The workshop's principal objective is to foster intellectual exchange by showcasing work from leading and emerging scholars. The workshop will provide a forum in which research students can present their work, discuss the theoretical and methodological problems involved, discuss common challenges in conducting research in this area and obtain feedback on their work. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程 1 年次の院生を対象に、博士論文の準備のための研究計画の立案を学生の個別の研究テーマに応じて指導する。

【到達目標】

受講生に自らの研究テーマに関連する先行研究の徹底的な読解を通して専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ、専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたうえで、原則として最短 3 年間で博士論文を完成させることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の博士論文の研究テーマに応じて学際性と専門性のバランスに配慮しながら指導する。原則として、1 回に 1 人その都度の研究の進展に応じた報告をさせ、それにもとづいて講義と討論を織り交ぜながら指導する。

各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によって Zoom によるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録した Google Classroom を設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。

学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士研究へのイントロダクション	各自の研究テーマと博士論文完成に向けたスケジュールの確認、研究倫理の基本
第 2 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 3 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 4 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 5 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 6 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 7 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 8 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 9 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 10 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 11 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 12 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論

第 13 回 演習 院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論

第 14 回 演習 院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の調査研究を進めつつ、その成果をまとめて演習に参加することが原則である。平均して 1 日数時間程度の研究時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。

オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018 年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】

(Course outline) For graduate students in the first year of the doctoral course, the instructor will guide the formulation of a research plan for the preparation of the doctoral dissertation according to the individual research theme of the student.

(Learning Objectives) To be ready to start dissertation research.

(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.

(Grading Criteria / Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士後期課程 1 年次向けの論文指導科目として、博士号取得に向けた研究を開始するに当たっての指導を行う。

【到達目標】

公共政策のさまざまな領域や、研究課題の設定に応じた分析枠組、手法について広く概観することによって、博士論文執筆のテーマを具体化していくために必要な知識を得たうえで、自身の博士論文のための研究活動をスタートさせるための準備を完了させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における博士論文の作成を目指す研究指導を行う。学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて予備作業をおこなったうえで授業において報告し、その報告を相互に検討することによって、博士論文に求められる研究能力の水準に到達することを目指す。あわせて、論文作成に関する個別指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習	博士論文研究への準備状況の共有と一年次秋学期の課題の確認
第 2 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 3 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 4 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 5 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 6 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 7 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 8 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 9 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 10 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 11 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 12 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 13 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論
第 14 回	演習	院生の研究成果に関する報告とそれをめぐる討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある分析枠組の渉猟と選定など。平均して 1 日数時間必要である。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版局、2018 年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】

(Course outline) For graduate students in the first year of the doctoral course, the instructor will guide the formulation of a research plan for the preparation of the doctoral dissertation according to the individual research theme of the student.

(Learning Objectives) To be ready to start dissertation research.

(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文は概ね3本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

【到達目標】

- ・学術論文を書けるようになること
- ・学会発表を行えるようになること
- ・博士論文を完成させること
- ・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、論文の進捗状況について報告し、必要な論点について議論します。議論の内容をもとに、調査分析を進めてください。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文とは何か	学問研究の観点から博士論文の意味を考えます。
第2回	先輩の意見を聞く	すでに博士号を取得した先輩に意見を聞きます。
第3回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第4回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第5回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第6回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第7回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第8回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第9回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第10回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第11回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第12回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第13回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第14回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

必要に応じて指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本の生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) "Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes," *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) "Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach," *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互惠性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

The dissertation usually consists of 3 academic papers. This seminar provides you with how to write an academic paper, then brush up on your research through continuous discussions. The final goal is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2) short reports 50%.

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文は概ね3本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

【到達目標】

- ・学術論文を書けるようになること
- ・学会発表を行えるようになること
- ・博士論文を完成させること
- ・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第2回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第3回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第4回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第5回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第6回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第7回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第8回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第9回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第10回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第11回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第12回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第13回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第14回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。

【参考書】

討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本の生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互恵性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

The dissertation usually consists of 3 academic papers. This seminar provides you with how to write an academic paper, then brush up on your research through continuous discussions. The final goal is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2) short reports 50%.

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

加藤 寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程として博士論文に近い将来に執筆できるようになるように基礎的な力を養います。

【到達目標】

経営学・地域産業論・経営学におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

経済学・地域産業論・経営学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理解	同左
3 回	研究テーマの標準的理解	同左
4 回	研究テーマの高度な理解	同左
5 回	研究テーマに基づく研究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確認	同左
13 回	論文の理論的なフレームワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスションの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域産業論・戦略論・企業論

<研究テーマ> 造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究

<主要研究業績>

「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性ももたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）

「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）

「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）

「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）

「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】

This course is designed to teach master's students how to write an academic paper. In these courses, students collect and analyze data to help them write their master's theses in the area of corporate theory, and formulate a logic for the issues surrounding policy problems. (In both cases, 1 corresponds to the first year and 2 to the second year.)

Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. In addition, students are advised on the methods of survey and data analysis, emphasizing their compatibility with the research theme. The series of work includes searching for necessary materials in relation to the problem interest, narrowing down the research theme, selecting the research target, creating the research plan, creating the questionnaire and questionnaire items, collecting and organizing the data, and analyzing the data. In principle, the goal of the second year is to complete a master's thesis or policy research paper.

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

加藤 寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程として博士論文に近い将来に執筆できるようになるように基礎的な力を養います。

【到達目標】

経営学・地域産業論・経営学におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

経営学・地域産業論・経営学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理	同左
	解	
3 回	研究テーマの標準的理	同左
	解	
4 回	研究テーマの高度な理	同左
	解	
5 回	研究テーマに基づく研	同左
	究企画の立案	
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの	同左
	作成	
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解	同左
	の確認	
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確	同左
	認	
13 回	論文の理論的なフレー	同左
	ムワークの設定	
14 回	論文の研究企画構成の	同左
	確認	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域産業論・戦略論・企業論<研究テーマ> 造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究<主要研究業績> 「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】

This course is designed to teach master's students how to write an academic paper. In Students will be guided by a faculty member who is most appropriate for each theme, and will be advised on the methods of research and data analysis, emphasis

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理 解	同左
3 回	研究テーマの標準的理 解	同左
4 回	研究テーマの高度な理 解	同左
5 回	研究テーマに基づく研 究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの 作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解 の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確 認	同左
13 回	論文の理論的なフレー ムワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の 確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理 解	同左
3 回	研究テーマの標準的理 解	同左
4 回	研究テーマの高度な理 解	同左
5 回	研究テーマに基づく研 究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの 作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解 の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確 認	同左
13 回	論文の理論的なフレー ムワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の 確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," Revue française de science politique, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

多田 和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程 1 年次の院生を対象に、博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが、1 年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また、必要に応じて研究調査にも着手します。

【到達目標】

本授業では、次の 3 点に到達することを目標とします。

- 1) 博士課程修了までに博士論文を完成できる。
- 2) 博士論文の完成に向けて、適切な研究計画を立案できる。
- 3) 研究計画にもとづいて調査を実施し、研究データを収集できる。

The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第 2 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 3 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 4 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 5 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 6 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 7 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 8 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 9 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 10 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 11 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 12 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 13 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 14 回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。博士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。

その他、適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

多田 和美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程 1 年次の院生を対象に、博士論文を作成するための研究指導を行います。個々の院生の研究テーマおよび研究の進捗状況に応じて指導しますが、1 年次は主に研究計画の立案と理論研究を実施します。また、必要に応じて研究調査にも着手します。

【到達目標】

本授業では、次の 3 点に到達することを目標とします。

- 1) 博士課程修了までに博士論文を完成できる。
 - 2) 博士論文の完成に向けて、適切な研究計画を立案できる。
 - 3) 研究計画にもとづいて調査を実施し、研究データを収集できる。
- The goals of this course are the followings.

- 1) Writing of your thesis,
- 2) Empirical analysis on your research theme.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習形式を中心に実施し、各院生の研究テーマと研究の進捗状況に応じて指導します。院生による研究報告とそれにもとづく院生間および教員とのディスカッションにより、研究を深化させていきます。なお、授業中に提示した課題や論点は、随時、解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	院生による報告とディスカッション
第 2 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 3 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 4 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 5 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 6 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 7 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 8 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 9 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 10 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 11 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 12 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 13 回	演習	院生による報告とディスカッション
第 14 回	演習	院生による報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。博士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

多田和美（2014）『グローバル製品開発戦略』有斐閣。

この他、適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況：80%、ディスカッションへの貢献度：20%で評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

your thesis: 80 % and in class contribution: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

随時、院生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

博士論文の完成に向けて、入念な準備学習と復習といった日常的な学習・研究の積み重ねが重要です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営論

<研究テーマ>

国際研究開発、新興国市場戦略

<主要研究業績>

法政大学学術研究データベースの担当教員のサイトを参照してください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/107/0010650/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide research guidance for writing a doctoral dissertation.

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程1年目の院生を対象とする。院生は、自ら研究材料を獲得し、教員の指導と演習を通して研究の知見を積み重ねながら、博士論文のテーマ設定とフレーム構築をすすめる。

【到達目標】

- ・博士論文の研究テーマを確定する
- ・先行文献研究に着手する
- ・研究構想案を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生の研究関心や調査研究の成果等についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。

発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	当初の研究関心を表明し、その問題認識や研究のフレームについての討議を行う
第2回	研究ストックの報告	修士論文または現時点での研究関心に即した自身の研究成果を報告し、研究課題を整理する
第3回	研究構想の検討(1)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想(案)を練る
第4回	研究構想の検討(2)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想(案)を練る
第5回	研究構想の検討(3)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想(案)を練る
第6回	研究構想の検討(4)	当初の問題関心に沿って、主要な先行研究のリサーチを進め、研究構想(案)を練る
第7回	研究構想(案)の報告	構想案の報告を受け、研究の意義や実現可能性を検討する
第8回	研究テーマの検討	研究テーマの変更も視野に入れながら、テーマ設定の方向性を確認する
第9回	研究の推進(1)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第10回	研究の推進(2)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第11回	研究の推進(3)	構想案に沿って、各自の研究作業を進める
第12回	研究成果の中間報告	研究作業で獲得した内容を報告し、討議を行う
第13回	研究成果の整理	春学期に獲得した研究成果について、リサーチペーパーをまとめる

第14回 研究作業計画の作成 春学期の研究作業状況を踏まえて、今年度後半の研究行程について計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定したテーマに即し、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告 70%、討議への参加姿勢 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制
<主要研究業績>

『『地方自治の責任部局』の研究-その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』(2019) 公人の友社

『『透明性』・『誠実性』・『戦術性』- “転職”を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』(共著)ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』(2008)『分権改革の動態』(共著)東京大学出版会

『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダー-神奈川県内の指定都市を題材に』(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第67巻第1号

【Outline (in English)】

For graduate students in the first year of doctoral course. Graduate students acquire the research materials themselves, accumulate their research knowledge through the guidance and exercises of faculty members, and advance the theme setting and frame construction of doctoral dissertations.

By the end of the course students, should be able to do the followings:

- A. To decide the research theme
- B. To set about the research on preceding studies
- C. To design your research plan

Students will be expected to work on the research spontaneously.

Your overall grade will be decided based on the following

Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程 1 年目の院生を対象とする。院生は、自ら研究材料を獲得し、教員の指導と演習を通して研究の知見を積み重ねながら、博士論文の素材を蓄積し、フレームを構築する。

【到達目標】

- ・先行文献研究のリサーチペーパーを作成する
- ・予備的現地調査等を行う
- ・1 年次に探索した文献や資料の検討を通じ論点を提起する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生が獲得した研究成果についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて、博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの成果の確認	夏休みまでに獲得した研究成果を確認する
第 2 回	主要な先行研究の検証 (1)	研究テーマに不可欠な重要な先行研究を題材に議論する
第 3 回	主要な先行研究の検証 (2)	研究テーマに不可欠な重要な先行研究を題材に議論する
第 4 回	文献と資料の探索と要点整理 (1)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第 5 回	文献と資料の探索と要点整理 (2)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第 6 回	文献と資料の探索と要点整理 (3)	研究テーマに関連する文献や資料を探索し、それぞれの要点を整理する
第 7 回	探索からの論点提起	既存の文献や資料の整理により導き出された論点を報告する
第 8 回	研究の推進 (1)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第 9 回	研究の推進 (2)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第 10 回	研究の推進 (3)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第 11 回	研究の推進 (4)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第 12 回	研究の推進 (5)	構想案に沿った研究作業や現地予備調査等を進める
第 13 回	研究成果の報告	秋学期に獲得した研究成果について、リサーチペーパーにまとめて報告する
第 14 回	1 年次の総括と次年度研究作業計画の作成	初年度に獲得した研究成果を踏まえ、次年度の研究計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定したテーマに即して、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告 70 %、討議への参加姿勢 30 % の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ> 中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『地方自治の責任部局』の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000] (2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性』・『戦術性』－“転職”を迫られる地方公務員 (2001) 『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』(2008) 『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダ－神奈川県内の指定都市を題材に』(2016) 『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】

For graduate students in the first year of doctoral course. Graduate students acquire research materials themselves, accumulate research knowledge through the guidance and exercises of faculty members, and build frames while examining information and data for doctoral dissertations.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. To make the research paper on preceding studies

-B. To do preliminary survey on field or case study

-C. To raise issues from the research in the first year

Students will be expected to work on the research spontaneously.

Your overall grade will be decided based on the following

Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 001

公共政策学特殊研究 1 A

中筋 直哉

その他属性：

(Learning Objectives)The goals of this lecture are the first step of writing the doctoral thesis.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,

(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】

博士論文の研究計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月1回程度行う。提出物には個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	履修者の顔合わせ	各自の研究計画発表と自己紹介
2	1人目の個別指導 1	研究計画の検討 1
3	2人目の個別指導 1	研究計画の検討 1
4	3人目の個別指導 1	研究計画の検討 1
5	文献講読演習 1	専門文献の講読と討論
6	1人目の個別指導 2	文献調査の検討 1
7	2人目の個別指導 2	文献調査の検討 1
8	3人目の個別指導 2	文献調査の検討 1
9	文献講読演習 2	専門文献の講読と討論
10	1人目の個別指導 3	データ収集の検討 1
11	2人目の個別指導 3	データ収集の検討 1
12	3人目の個別指導 3	データ収集の検討 1
13	文献講読演習 3	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房。

【参考書】

文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】

指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】

より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学

〈研究テーマ〉地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』（2005、新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to prepare student's doctoral thesis by face to face direction and group discussion.

SOS700P1 - 002

公共政策学特殊研究 1 B

中筋 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】

博士論文の研究計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。履修生ごとに個別指導する他、全履修生
による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物については個別に
フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献講読演習 4	専門文献の講読と討論
2	1 人目の個別指導 4	研究計画の検討 2
3	2 人目の個別指導 4	研究計画の検討 2
4	3 人目の個別指導 4	研究計画の検討 2
5	文献講読演習 5	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 5	文献調査の検討 2
7	2 人目の個別指導 5	文献調査の検討 2
8	3 人目の個別指導 5	文献調査の検討 2
9	文献講読演習 6	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 6	データ収集の検討 2
11	2 人目の個別指導 6	データ収集の検討 2
12	3 人目の個別指導 6	データ収集の検討 2
13	文献講読演習 7	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は
各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネル
ヴァ書房。

【参考書】

文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】

指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが
成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演
習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、
その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】

より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学

〈研究テーマ〉地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』（2005、新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to prepare student's
doctoral thesis by face to face direction and group discussion.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are the first step
of writing the doctoral thesis.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original
reports for presentation in seminar,

(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS700P1 - 003

公共政策学特殊研究 2 A

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の2年め前期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、博士論文作成のためのテーマをめぐり知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめる、ひきつづき情報、資料、論文、文献の収集と調査により考察を深め、自らの独創性を模索する。

【到達目標】

この講義は以下を到達目標とする。

- ・ 研究計画を確認、必要があれば調整し、計画に沿って研究を進める
- ・ テーマをめぐり情報、資料、論文、文献の収集と調査を進める
- ・ テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の確認	研究計画を確認し、必要であれば調整を加える
第 2 回	知見の整理	先行研究や資料収集の状況を確認する
～ 第 5 回		
第 6 回	執筆を進める	研究計画や論文の基本的方向い基
～ 第 13 回		づいて執筆を進める
第 14 回	春学期の総括、秋学期の構想	計画とその進捗を振り返り、夏季休暇と秋学期の研究計画を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要なものである。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

研究の進展に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Course outline;

In this lecture, students will make the necessary research progress in the spring semester of the 2nd year of the doctor-course.

Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.

Students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.

Courses to check the development of research activities required in the first semester of the second year of the doctoral programme.

Students will review their research plan, make adjustments if necessary, and carry out their research in accordance with the plan.

Gathering and researching information, documents, materials, studies and literature on the subject

Discussing the topic, fostering knowledge and seeking their own originality approach to the thesis

Learning Objectives;

- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.

- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.

- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

SOS700P1 - 004

公共政策学特殊研究2 B

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の2年め後期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、博士論文作成のためのテーマをめぐり知見の涵養、研究計画にそった研究活動の展開をすすめる、ひきつづき情報、資料、論文、文献の収集と調査により考察を深め、自らの独創性を模索する。

【到達目標】

この講義は以下を到達目標とする。

- ・ 研究計画を確認、必要があれば調整し、計画に沿って進める
- ・ テーマをめぐり情報、資料、文献の収集と調査を進める
- ・ テーマについて議論し、知見を醸成し、独創性を模索する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の確認	研究の進捗を振り返り、調整し、計画に沿って秋学期のタスクを確認する
第2回	研究活動の展開について報告	研究活動を進め、進捗を報告する
第13回	総括と研究計画の確認	秋学期の研究の到達点を確認し、今後の進め方を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

院生が集めるべき資料、読むべき文献については、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、
報告と説明 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かした。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。
〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Course outline;

In this lecture, students will make the necessary research progress in the autumn semester of the 2nd year of the doctor-course.

Students will cultivate their knowledge on the topic for the preparation of their doctoral thesis.

Students will continue their research activities according to their research plan and will continue to collect and research information, materials, studies and literature and to search for their own originality.

Courses to check the development of research activities required in the first semester of the second year of the doctoral programme.

Students will review their research plan, make adjustments if necessary, and carry out their research in accordance with the plan.

Gathering and researching information, documents, materials, studies and literature on the subject

Discussing the topic, fostering knowledge and seeking their own originality approach to the thesis

Learning Objectives;

- Students develop a three-year research plan with the topic of their doctor thesis in mind.

- Students will collect and research information, materials, studies and literature on the topic.

- Students discuss the topic, foster knowledge and explore originality.

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis

Grading Criteria /Policy;

Advance preparation 50%.

Report and presentation 50%.

SOS700P1 - 003

公共政策学特殊研究 2 A

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 2 年目の院生を対象に、公共政策学に新たな知見を与え得る博士論文を執筆すべく指導を行うものである。

【到達目標】

受講生に自らの研究テーマに関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ、専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたくて、最終的に博士論文を完成させるに足る研究力量を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によって Zoom によるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録した Google Classroom を設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。

学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第 3 回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第 4 回	研究報告 1	3 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 5 回	研究報告 2	2 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 6 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究計画の作成	1 年目の研究計画を振り返り、2～3 年目の研究計画を定める。
第 8 回	先行研究の整理	先行研究のレビューに関する章の執筆を試みる。
第 9 回	現地調査の整理 1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第 10 回	現地調査の整理 2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第 11 回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。

第 12 回 研究報告 4

3 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

第 13 回 研究報告 5

2 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。

第 14 回 研究報告 6

1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究、地域集会所の施設の研究。

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257～287 頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性 —宮崎市の地域自治制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1～88 頁。単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57～104 頁。

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 004

公共政策学特殊研究 2 B

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 2 年目の院生を対象に、公共政策学に新たな知見を与え得る博士論文を執筆すべく指導を行うものである。

【到達目標】

受講生に自らの研究テーマに関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ、専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたくて、最終的に博士論文を完成させるに足る研究力量を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によって Zoom によるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録した Google Classroom を設定する予定であり、発表資料等はそのを使って共有する。

学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	資料の収集	研究対象とする資料にアクセスする。
第 3 回	基本的な文献の検討	基本的な文献を批判的に検討する。
第 4 回	文献報告 1	3 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 5 回	文献報告 2	2 年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 6 回	文献報告 3	1 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 8 回	理論枠組みの明確化	論文の基本的な理論枠組みを検討する。
第 9 回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第 10 回	リサーチ・プロポーザルの作成	プロポーザルを更新する。
第 11 回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第 12 回	研究報告 1	3 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

第 13 回 研究報告 2

2 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。

第 14 回 研究報告 3

1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論
< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257 ~287 頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性——宮崎市の地域自治制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1 ~88 頁。単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望 ~高松市を素材として~」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57 ~104 頁。

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 003

公共政策学特殊研究2 A

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程2年目の院生を対象に、公共政策学に新たな知見を与え得る博士論文を執筆すべく指導を行うものである。

【到達目標】

受講生に自らの研究テーマに関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ、専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたくて、最終的に博士論文の執筆を開始できる準備を整えることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によってZoomによるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録したGoogle Classroomを設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。

学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	博士課程2年目の到達目標を確認し、各自の現状を認識する。
第2回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第3回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第4回	研究報告1	3年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第5回	研究報告2	2年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第6回	研究報告3	1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第7回	研究計画の作成	1年目の研究計画を振り返り、2～3年目の研究計画を定める。
第8回	先行研究の整理	先行研究のレビューに関する章の執筆を試みる。
第9回	現地調査の整理1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第10回	現地調査の整理2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第11回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。

第12回 研究報告4

3年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

第13回 研究報告5

2年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。

第14回 研究報告6

1年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。

オンラインでおこなう場合にはZoomに参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によってZoomによるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】

(Course outline) For graduate students in the second year of the doctoral course, the instructor will guide the preparation of the doctoral dissertation according to the individual research theme of the student.

(Learning Objectives) To be ready to start writing dissertation.

(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 - 004

公共政策学特殊研究 2 B

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 2 年目の院生を対象に、公共政策学に新たな知見を与え得る博士論文を執筆すべく指導を行うものである。

【到達目標】

受講生に自らの研究テーマに関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得させ、専門的な学会や学術雑誌での発表や投稿を経験させたくて、博士論文の執筆を開始できる準備を整えることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。

各履修者の学習・研究の進捗に応じて進めていく。下に示す「授業計画」はあくまで目安であるが、まさに目安として、1 年間にどんなことを身につけたらいいかをあらかじめ知っておくために活用してもらいたい。

基本的には対面で行うことを予定しているが、感染状況によって Zoom によるオンラインに切りかえて行う場合がある。指導学生を登録した Google Classroom を設定する予定であり、発表資料等はそれを使って共有する。

学生へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	資料の収集	研究対象とする資料にアクセスする。
第 3 回	基本的な文献の検討	基本的な文献を批判的に検討する。
第 4 回	文献報告 1	3 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 5 回	文献報告 2	2 年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 6 回	文献報告 3	1 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 8 回	理論枠組みの明確化	論文の基本的な理論枠組みを検討する。
第 9 回	論文のオリジナリティの確認	各自の研究における独自性について議論する。
第 10 回	リサーチ・プロポーザルの作成	プロポーザルを更新する。
第 11 回	英文によるサマリーの試作	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第 12 回	研究報告 1	3 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

第 13 回 研究報告 2

2 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。

第 14 回 研究報告 3

1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。
オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】
2023 年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 行政学、地方自治
＜研究テーマ＞ 二元代表制の理念と実態
＜主要研究業績＞
編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018 年）
編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009 年～ 2016 年）

【Outline (in English)】
(Course outline) For graduate students in the second year of the doctoral course, the instructor will guide the preparation of the doctoral dissertation according to the individual research theme of the student.
(Learning Objectives) To be ready to start writing dissertation.
(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.
(Grading Criteria / Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 - 003

公共政策学特殊研究 2 A

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程 2 年目の院生を対象とする。院生は、自ら博士論文の研究材料を獲得・蓄積した上で、教員の指導と演習を通して論理的思考力を高めつつ、研究テーマに関わる素材の分析・考察をすすめて、論文のフレームを構築する。

【到達目標】

- ・文献調査を通じ考察に必要な知見を獲得する
- ・現地調査等により分析に必要なデータを収集し、蓄積する
- ・論理的思考力を高める
- ・博士論文の章立てを形成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生の研究関心や調査研究の成果等についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。

発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究構想の洗練	1 年次に予定した構想案について教員と討議しながら、ブラッシュアップする
第 2 回	研究スケジュールの作成	春学期の研究スケジュールを作成する
第 3 回	研究の推進 (1)	構想案に沿って研究作業を進める
第 4 回	研究の推進 (2)	構想案に沿って研究作業を進める
第 5 回	研究の推進 (3)	構想案に沿って研究作業を進める
第 6 回	研究の経過報告と討議 (1)	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う
第 7 回	研究の推進 (4)	構想案に沿って研究作業を進める
第 8 回	研究の推進 (5)	構想案に沿って研究作業を進める
第 9 回	研究の推進 (6)	構想案に沿って研究作業を進める
第 10 回	研究の経過報告と討議 (2)	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う
第 11 回	研究の推進 (7)	構想案に沿って研究作業を進める
第 12 回	研究の推進 (8)	構想案に沿って研究作業を進める
第 13 回	研究の推進 (9)	構想案に沿って研究作業を進める
第 14 回	研究の経過報告と討議 (3)	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定したテーマに即し、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告 70%、討議への参加姿勢 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性」・『戦術性」－“転職”を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』(2008)『分権改革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダー－神奈川県内の指定都市を題材に』(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】

For graduate students in the second year of doctoral course. Graduate students acquire the research materials themselves, improve the skill of logical thinking through the guidance and exercises of faculty members, and frame construction of doctoral dissertations while analyzing and considering material.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire the knowledge necessary for consideration through literature research
- B. To collect and accumulate data necessary for analysis through field surveys, etc.
- C. To improve logical thinking ability
- D. To form a chapter for a doctoral dissertation

Students will be expected to work on research subjects voluntarily according to the theme set by the graduate students themselves.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 004

公共政策学特殊研究2 B

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程 2 年目の院生を対象とする。院生は、自ら博士論文の研究材料を獲得・蓄積した上で、教員の指導と演習を通して論理的思考力を高めつつ、研究テーマに関わる素材の分析・考察を進め、論文のフレームを構築する。

【到達目標】

- ・文献調査を通じ考察に必要な知見を獲得する
- ・現地調査等により分析に必要なデータを収集し、蓄積する
- ・論理的思考力を高める
- ・博士論文において章に相当する程度の小論文を執筆する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生が獲得した研究成果についての報告を受けながら、研究の進捗に応じて、博士論文執筆に必要な指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	夏季休暇中研究成果の確認と構想案の検討	夏季休業中に獲得した研究成果や知見を確認し、構想案を再検討する
第 2 回	研究の推進 (1)	構想案に沿って研究作業を進める
第 3 回	研究の推進 (2)	構想案に沿って研究作業を進める
第 4 回	研究の推進 (3)	構想案に沿って研究作業を進める
第 5 回	研究の推進 (4)	構想案に沿って研究作業を進める
第 6 回	研究の経過報告と討議 (1)	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う
第 7 回	研究の推進 (5)	構想案に沿って研究作業を進める
第 8 回	研究の推進 (6)	構想案に沿って研究作業を進める
第 9 回	研究の推進 (7)	構想案に沿って研究作業を進める
第 10 回	研究の推進 (8)	構想案に沿って研究作業を進める
第 11 回	研究の経過報告と討議 (2)	研究作業で獲得した内容を報告し、教員と討議を行う
第 12 回	章立ての検討 (1)	ここまでの研究成果を軸に教員と討議し、論文の章立てを検討する
第 13 回	章立ての検討 (2)	ここまでの研究成果を軸に教員と討議し、論文の章立てを検討する
第 14 回	2 年次の総括と 3 年次の研究作業・執筆計画の検討	2 年次に獲得した研究成果を踏まえ、3 年次に追加する研究作業と執筆計画を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定したテーマに即して、自主的に研究課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告 70 %、討議への参加姿勢 30 %の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性」・『戦術性」－「転職」を迫られる地方公務員』(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会

「大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダー 神奈川県内の指定都市を題材に」(2016)『横浜市立大学論叢 人文科学系列』第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】

For graduate students in the second year of doctoral course. Graduate students acquire the research materials themselves, improve the skill of logical thinking through the guidance and exercises of faculty members, and frame construction of doctoral dissertations while analyzing and considering material.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire the knowledge necessary for consideration through the literature research
 - B. To collect and accumulate data necessary for analysis through field surveys, etc.
 - C. To improve logical thinking ability
 - D. To write a chapter-equivalent essay in your dissertation
- Students will be expected to work on research subjects voluntarily according to the theme set by the graduate students themselves.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 003

公共政策学特殊研究 2 A

中筋 直哉

その他属性：

(Learning Objectives)The goals of this lecture are the second step of writing the doctoral thesis.
(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,
(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】

博士論文につながる学会投稿論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。履修生ごとに個別指導する他、全履修生
による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物については個別に
フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	履修者の顔合わせ	各自の論文テーマの発表
2	1 人目の個別指導 1	論文構想の検討
3	2 人目の個別指導 1	論文構想の検討
4	3 人目の個別指導 1	論文構想の検討
5	文献講読演習 1	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 2	先行研究の検討
7	2 人目の個別指導 2	先行研究の検討
8	3 人目の個別指導 2	先行研究の検討
9	文献講読演習 2	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 3	データ分析の検討
11	2 人目の個別指導 3	データ分析の検討
12	3 人目の個別指導 3	データ分析の検討
13	文献講読演習 3	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は
各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネル
ヴァ書房。

【参考書】

文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】

指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが
成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演
習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、
その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】

より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学

〈研究テーマ〉地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』（2005、新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to prepare student's
doctoral thesis by face to face direction and group discussion.

SOS700P1 - 004

公共政策学特殊研究 2 B

中筋 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】

博士論文につながる学会投稿論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。履修生ごとに個別指導する他、全履修生
による文献講読演習を月 1 回程度行う。提出物については個別に
フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献講読演習 4	専門文献の講読と討論
2	1 人目の個別指導 4	論文構成の確認
3	2 人目の個別指導 4	論文構成の確認
4	3 人目の個別指導 4	論文構成の確認
5	文献講読演習 5	専門文献の講読と討論
6	1 人目の個別指導 5	結論の確認
7	2 人目の個別指導 5	結論の確認
8	3 人目の個別指導 5	結論の確認
9	文献講読演習 6	専門文献の講読と討論
10	1 人目の個別指導 6	政策提言の確認
11	2 人目の個別指導 6	政策提言の確認
12	3 人目の個別指導 6	政策提言の確認
13	文献講読演習 7	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の到達度の確認と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は
各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネル
ヴァ書房。

【参考書】

文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】

指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが
成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演
習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、
その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】

より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学

〈研究テーマ〉地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』（2005、新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to prepare student's
doctoral thesis by face to face direction and group discussion.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are the second
step of writing the doctoral thesis.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original
reports for presentation in seminar,

(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

SOS700P1 - 003

公共政策学特殊研究2 A

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に3年春学期は、博士論文本論執筆に向けて、学会論文等の投稿を行うこととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	春季休暇期間の進捗状況の報告をし、研究計画を検討する。
第 3.4 回	論文投稿の準備	学会等への論文投稿のための報告を行い、指導をする。
第 5.6 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 7.8 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 9.10 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 13.14 回	ふりかえり	夏季休暇期間中の研究計画の検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを目標とする。特に3年春学期は、博士論文本論執筆に向けて、学会論文等の投稿を行うこととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	春季休暇期間の進捗状況の報告をし、研究計画を検討する。
第 3.4 回	論文投稿の準備	学会等への論文投稿のための報告を行い、指導をする。
第 5.6 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 7.8 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 9.10 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 11.12 回	研究進捗状況の報告	研究進捗状況の報告を行う。
第 13.14 回	ふりかえり	夏季休暇期間中の研究計画の検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 004

公共政策学特殊研究2 B

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成する能力を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	夏季休暇期間中の進捗状況の報告、今後の研究計画を検討する。
第 3.4 回	都市政策セミナー大学院生セッションの投稿	都市政策セミナー大学院生セッションに投稿する論文の確認をする。
第 5.6 回	博士論文執筆状況の報告	都市政策セミナー大学院生セッションにおける発表の練習をする。
第 7.8 回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第 9.10 回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第 11.12 回	博士論文の提出確認	博士論文の提出に向けた、作業報告を行い、指導をうける。
第 13.14 回	博士論文口述試験の準備	口述試験に向けた発表準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

杉崎 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究構想の練り方や論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】

都市政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成する能力を獲得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本的には個別の研究進捗状況に合わせて、報告、ディスカッション、指導を行う。これらの過程は、個別ではなく、受講生全体で行う。課題については、授業の中で発表、討論を行い、その中で講評を行う。授業は原則「対面」で行うが、一部「リアルタイムオンライン授業」を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	夏季休暇期間中の進捗状況の報告、今後の研究計画を検討する。
第 3.4 回	都市政策セミナー大学院生セッションの投稿	都市政策セミナー大学院生セッションに投稿する論文の確認をする。
第 5.6 回	博士論文執筆状況の報告	都市政策セミナー大学院生セッションにおける発表の練習をする。
第 7.8 回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第 9.10 回	博士論文執筆状況の報告	博士論文の執筆状況について、報告をし、指導をうける。
第 11.12 回	博士論文の提出確認	博士論文の提出に向けた、作業報告を行い、指導をうける。
第 13.14 回	博士論文口述試験の準備	口述試験に向けた発表準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文執筆のための調査、分析作業は各自行う。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と貢献（60%）、研究レポート等（40%）

【学生の意見等からの気づき】

論文研究指導科目については、授業改善アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

「法政大学学術研究データベース」の下記を参照してください。 <https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/32/0003173/profile.html>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is to create research ideas and to write articles.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, participants are expected to set a research question, operate the survey method, and write a paper.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to engage in research activities outside of class hours. In the class, faculty members will guide research activities. Students are expected to complete the required tasks after class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Class attendance and attitude in class (60%) ,and reports (40%) .

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

土山 希美枝

その他属性：

- The student proceeds with the thesis concept in accordance with the research plan.
Learning activities outside of classroom;
Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their master's thesis
Grading Criteria /Policy;
Advance preparation 50%.
Report and presentation 50%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程の3年め春学期に求められる研究活動の展開を確認するための科目。学生は、論文の完成を視野において執筆を進める。

【到達目標】

学生は、研究計画に沿って、論文構想に基づいて、論文執筆を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究計画と進捗の確認	執筆の完成に向けて、タスクを整理する
2-6	先行研究、歴史的展開などの fact 部分の論述	執筆を進める
7-11	分析、考察部分の論述	執筆を進める
12 - 14	独自性の確認、補強	執筆を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要なものである。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前準備 50%、
報告と説明 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かす。

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学
〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力で作る政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Course outline;

This lecture is designed to develop of research activities in the spring semester of the 3rd year student of the doctor-course. Students proceed with their writing with a view to completing their dissertation.

Learning Objectives;

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

土山 希美枝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士後期課程 3 年次向けの論文指導科目として、博士論文の完成を図る。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下である：

- ・ 秋学期の早い時期に博士論文の第一稿を提出する
- ・ 必要な修正を行い、博士論文を完成させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生の報告をベースに、論文作成のための意見交換やコメント、作業内容などがフィードバックされる。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	論文第一稿の検討、修正点の確認	全体を通読し、審査委員会の指摘も踏まえ、必要な修正点を確認する
3-7	修正作業を進める	博士論文第一稿の修正作業を進める
8	論文修正稿の検討、追加修正や補完点の確認	全体を通読し、審査委員会の指摘を踏まえ、必要な修正や補完点を確認する
9-13	修正作業を進める	修正作業を進める
14	完成原稿の確認	博士論文の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生が自らのテーマをめぐって、調べ、学び、考察し、その結果について報告を受けて指導することが本講義の基本スタイルなので、求められている報告をていねいに用意し、指導を受けて次回のための研究活動にとりくむことが講義時間外に必要である。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

博士論文の第一稿から完成までの内容 100%

【学生の意見等からの気づき】

講義外に個別面談を行い、運営や指導の形態について意見を聴き、科目運営に生かす

【担当教員の専門分野】

〈専門領域〉 公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉 社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉 『高度成長期「都市政策」の政治過程』 日本評論社、2007 年。『質問力で作る政策議会』 公人の友社、2017 年。

【Outline (in English)】

Course outline;

This lecture is designed to develop of research activities in the autumn semester of the 3rd year student of the doctor-course. Students are expected to complete a doctor thesis.

Learning Objectives;

- Students submit the first draft of their doctor thesis early in the autumn term.

- The student completes the doctoral thesis by making revisions to the submitted draft.

Learning activities outside of classroom;

Students are expected to proceed with the necessary preparation for writing their doctor thesis

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 3 年日以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第 3 回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第 4 回	研究報告 1	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 5 回	研究報告 2	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 6 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3 年目の研究計画を定める。
第 8 回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第 9 回	現地調査の整理 1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第 10 回	現地調査の整理 2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第 11 回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第 12 回	研究報告 4	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 5	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 6	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究、地域集会施設の研究。

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）単著論文「ブレイメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257～287 頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性——宮崎市の地域自治制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1～88 頁。単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57～104 頁。

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student obtains the outline and conception of his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

名和田 是彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 3 年日以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。授業方式は原則として対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	章立てに沿った執筆 1	執筆を進める。
第 3 回	章立てに沿った執筆 2	執筆した原稿の推敲を進める。
第 4 回	文献報告 1	3 年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 5 回	文献報告 2	2 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 6 回	文献報告 3	1 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 8 回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第 9 回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第 10 回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第 11 回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第 12 回	研究報告 1	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 2	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > コミュニティ政策論

< 研究テーマ > 都市内分権（特に日本とドイツ）、自治会・町内会の研究、地域集会施設の研究。

< 主要研究業績 >

編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009 年）単著論文「ブレーメン市の地域評議会法の新展開に見る「参加」と「協働」」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civil の思想と制度』日本評論社、2018 年、257～287 頁。

単著論文「日本型都市内分権の限界と可能性——宮崎市の地域自治制度の運用を素材として」『法学志林』第 118 巻第 3 号、2020 年、1～88 頁。単著論文「日本型都市内分権の完成形・限界・展望～高松市を素材として～」『法学志林』第 119 巻第 2 号、2021 年、57～104 頁。

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students are expected to contribute to the discussion and to give a report of his/her own research project at least once a semester, which are also the grading criteria. Throughout the semester each student must of course pursue his/her own research project both before and after reporting. The goal of the seminar is to find students' research theme of their own and the adequate theoretical framework for it. The goal is that each student completes his/her doctoral dissertation.

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関連する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として本講義は、論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになることを目的とする。

【到達目標】

論文テーマの設定、調査の進め方、論文執筆のプロセス等について受講者が理解を深め、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告、受講者自身の研究テーマに関連する報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究論文の構造	研究論文の構造に関する著作の一部を報告する。
第 3 回	研究テーマおよび研究上の問いの設定	研究テーマおよび研究上の問いの設定に関する著作の一部を報告する。
第 4 回	研究のタイプ	研究のタイプに関する著作の一部を報告する。
第 5 回	記述的な研究	記述的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 6 回	因果的な研究	因果的な研究に関する著作の一部を報告する。
第 7 回	研究の評価基準	研究の評価基準に関する著作の一部を報告する。
第 8 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。官僚制に関する論文を予定している。
第 9 回	研究構想	自らの研究構想について報告を行う。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。比較行政論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。 Public Service Motivation に関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。政策類型に関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。政策上の価値に関する論文を予定している。
第 14 回	研究の進捗報告	自らの研究進捗について報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、指定する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with an overview of the research process, including the development of a research topic, how to conduct research, and writing a research paper. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士後期課程3年次向けの論文指導科目として、博士論文の完成に向けて研究のとりまとめを図る。

【到達目標】

春学期終了時に博士論文のおおよその完成を図り、夏期休暇中に完成稿のとりまとめと9月の論文提出を展望できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における博士論文の完成を目指す研究指導を行う。学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて予備作業をおこなったうえで授業において報告し、その報告を相互に検討することによって、博士論文に求められる研究能力の水準に到達することを目指す。あわせて、論文作成に関する個別指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	先行研究の整理の完了	確定した博士論文のテーマ設定と構成に照らして、必要な補完を施したうえで先行研究の整理を完了する。
第2回	研究の背景の整理	ここまでの調査、検討によって得られた知見も加味して、あらためて博士論文にとっての研究の背景を整理し文章化する。
第3回	実体的な章の組み込み構成を確定する	独立した章として前年度までに執筆してきた研究成果をとりまとめ、博士論文全体のなかに収めるにあたっての構成を確定する。
第4回	実体的な章の確定	実体的な章を博士論文のなかに収録して確定する。
第5回	総合的な検討	実体的な分析について、全体を通して振り返り、総合的な検討を行う。
第6回	意義と限界の確認	総合的な分析の結果の意義と限界を確認し、研究成果の積極的な意義を明示するとともに、限界を明確に検証したうえで、論文全体の防御線を確定する。
第7回	補論の検討と準備	分析結果の意義の積極的な説明や、限界についての検討を明示するために効果的と想定される補論を準備する。
第8回	補論の執筆	補論を執筆し、博士論文の適切な箇所を組み込む。
第9回	方法や枠組の確認	博士論文の分析方法や枠組についてメタレベルで検討して位置づけを確認する章を執筆する。
第10回	全体構成と論文各部の確認	全体構成と論文の各部分が完成形となり得る水準に到達していることを改めて確認し、足りない要素を補う。

第11回	得られた成果と残された課題の考察	ここまでの研究結果を振り返り、得られた成果と残された課題について考察し、整理する。
第12回	結論の章の完成	実体的な部分の第一稿をふまえて、博士論文全体を通しての結論を確定する。
第13回	序章の完成	実体的な部分の第一稿をふまえて、問題関心の説明と研究全体の意義を整理しながら序章を完成する。
第14回	得られた成果と残された課題の確認	博士論文の完成に向けて、得られた成果をとりまとめるとともに、残された課題を明示的に確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある分析枠組の渉猟と選定など、1日平均数時間程度の研究時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】

(Course outline) As a dissertation guidance class for the third year of the doctoral program, we will organize research toward the completion of the doctoral dissertation.

(Learning Objectives) To be ready to complete the dissertation research.

(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

廣瀬 克哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士後期課程3年次向けの論文指導科目として、博士論文の完成を図る。

【到達目標】

秋学期冒頭に博士論文を提出し、修正指示への対応を行いながら博士論文を最終的に完成し、確定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における博士論文の完成を目指す研究指導を行う。学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて予備作業をおこなったうえで授業において報告し、その報告を相互に検討することによって、博士論文に求められる研究能力の水準に到達することを目指す。あわせて、論文作成に関する個別指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文各部の確認	梗概、文献リストや注、付属資料など本文以外の部分も含めた論文各部の完成を確認する。
第2回	提出稿の完成	博士論文の提出稿を完成させる。
第3回	提出版の報告	博士論文提出版について口頭で報告を行い、講評を受ける。
第4回	修正指示の整理	審査委員会からの修正指示を整理、検討する。
第5回	修正指示への対応方法の検討	修正指示への対応方法について具体的に検討し、作業計画をたてる。
第6回	修正指示への対応	修正指示への対応作業をおこなう。
第7回	第一修正稿の検討	修正指示に対応した第一修正稿の仕上げ方を検討する。
第8回	第一修正稿の完成	第一修正稿を完成させる。
第9回	第二次修正指示の整理	審査委員会からの二次的な修正指示を整理する。
第10回	第二次修正指示への対応	第二次の修正指示への対応作業をおこなう。
第11回	第二修正稿の検討	修正指示に対応した第二修正稿の仕上げ方を検討する。
第12回	第二修正稿の完成	第二修正稿を完成させる。
第13回	公表手段の構想	完成した博士論文の、審査修了後の公表手段を構想し、必要に応じて論文投稿の予定の確認や、出版助成申請の準備を進める。
第14回	公開審査、口述試験への対応	博士論文審査の公開審査、口述試験への対応を準備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提出メ契に合わせた博士論文の完成と、審査過程での修正指示への対応など。1日平均数時間程度。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60%）、議論への貢献（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

資料共有のため、Google Classroom を利用できる環境。

オンラインでおこなう場合には Zoom に参加できる情報機器や通信手段。

【その他の重要事項】

2023年度は対面を基本とすることを予定しているが、状況により、また授業内容との適合性によって Zoom によるオンラインで行う場合がある。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 行政学、地方自治、公共政策学

<研究テーマ> 二元代表制の理念と実態

<主要研究業績>

編著『自治体議会改革の固有性と普遍性』（法政大学出版社、2018年）

編著『議会改革白書 各年度版』（生活社、2009年～2016年）

【Outline (in English)】

(Course outline) As a dissertation guidance class for the third year of the doctoral program, we will organize research toward the completion of the doctoral dissertation.

(Learning Objectives) To complete the dissertation research.

(Learning activities outside of classroom) A few hours a day.

(Grading Criteria /Policy) The content of the report (60%) and the degree of contribution to the discussion (40%) in the class.

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 3 年日以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	研究関心の報告	各自の研究関心についてその概要を報告し、議論する。
第 3 回	課題の明確化	博士論文の執筆を進める上での課題を明確化する。
第 4 回	研究報告 1	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 5 回	研究報告 2	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 6 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究計画の作成	これまでの研究を振り返り、3 年目の研究計画を定める。
第 8 回	先行研究の整理	先行研究のレビューを完成させる。
第 9 回	現地調査の整理 1	フィールド・ワークの資料をまとめる。
第 10 回	現地調査の整理 2	フィールド・ワークの成果を分析する。
第 11 回	専門分野の研究動向の理解	各自の専門分野の研究動向について報告する。
第 12 回	研究報告 4	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 5	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 6	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』 pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』 pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』 pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の論文指導科目として、博士後期課程 3 年日以降の院生を対象に、独立した研究者としての能力を得ることを目的に、博士論文の執筆に関する総合的な指導を行う。

【到達目標】

院生は、博士論文の初稿を仕上げることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の研究の進展に応じて、研究報告を行い、相互に議論を深めることを基本とする。報告に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の到達目標を提示し、各自の現状を認識する。
第 2 回	章立てに沿った執筆 1	執筆を進める。
第 3 回	章立てに沿った執筆 2	執筆した原稿の推敲を進める。
第 4 回	文献報告 1	3 年目の院生として文献報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 5 回	文献報告 2	2 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 6 回	文献報告 3	1 年目の院生による文献報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 7 回	研究遂行上の問題点の解決	各自の研究遂行上の悩みを共有し、解決をはかる。
第 8 回	理論枠組みの明確化	論文の理論枠組みを深める。
第 9 回	論文のオリジナリティの明確化	各自の研究における独自性について議論する。
第 10 回	論点の整理	口述試験に向けた論点の整理を試みる。
第 11 回	英文によるサマリーの執筆	思考の明確化・訓練のために英文による文章作成を試みる。
第 12 回	研究報告 1	3 年目の院生として研究報告を行い、その内容について相互に論評する。
第 13 回	研究報告 2	2 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。
第 14 回	研究報告 3	1 年目の院生による研究報告を受け、その内容について相互に論評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。各自の研究関心に基づいて主体的に研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

研究報告（60 %）、議論への貢献（40 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

＜研究テーマ＞ ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

＜主要研究業績＞ 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』 pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』 pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』 pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

This is a supervised course in which you work autonomously and independently under the guidance of your supervisor. The course helps to situate one's own work within the broader debates in the social sciences through discussions on some key concepts, theories and methods used in the field of public policy. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文は概ね3本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

【到達目標】

- ・学術論文を書けるようになること
- ・学会発表を行えるようになること
- ・博士論文を完成させること
- ・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、論文の進捗状況について報告し、必要な論点について議論します。議論の内容をもとに、調査分析を進めてください。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学問研究の観点から博士論文の意図を考えます。
第2回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第3回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第4回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第5回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第6回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第7回	これまでの研究の蓄積状況を報告する。	報告を元に議論をし、論点をつめる。
第8回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第9回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第10回	論文の全体像と細部を検討する。	細部について全体の観点から検討する。
第11回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第12回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第13回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。
第14回	論文を検討し細部をつめる。	全体と細部を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

必要に応じて指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象としたIoT化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本の生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) "Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes," *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) "Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach," *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互惠性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

The dissertation usually consists of 3 academic papers. This seminar provides you with how to write an academic paper, then brush up on your research through continuous discussions. The final goal is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2) short reports 50%.

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

糸久 正人

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文は概ね3本の学術論文から構成されます。本講義では、学術論文を書くためのアカデミックな作法を学び、ディスカッションを通じて研究のブラッシュアップを行います。最終的なゴールは、博士論文を完成させることです。

【到達目標】

- ・学術論文を書けるようになること
- ・学会発表を行えるようになること
- ・博士論文を完成させること
- ・研究者として自立すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。講義の最後にフィードバックを行います。なお、講義は対面とオンラインの併用で実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の現在の進捗状況について報告する。	報告と討論。
第2回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第3回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第4回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第5回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第6回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第7回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第8回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第9回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第10回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第11回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第12回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第13回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第14回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。

【参考書】

討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、研究報告 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

Technology & Innovation Management

Operation Management

<研究テーマ>

集合行為としてのコンソーシアムベースの標準化に関する研究
自動車産業を対象とした IoT 化に伴う技術ベースの変遷に関する研究

日本の生産システムの海外移転と進化に関する研究

<主要研究業績>

糸久正人（2020）「次世代モビリティに向けたエコシステム間競争：IoT 化に伴う価値創造と配分のジレンマ」『世界経済評論』

糸久正人（2020）「自動車産業に破壊的イノベーションは起きるのか？」『赤門マネジメントレビュー』

Olejniczak, T., Miszczyński, M., and Itohisa, M. (2019) “Between closure and Industry 4.0: strategies of Japanese automotive manufacturers in Central and Eastern Europe in reaction to labour market changes,” *International Journal of Automotive Technology and Management*.

公文博・糸久正人（2019）『アフリカの日本企業—日本的経営生産システムの移転可能性』時潮社。

糸久正人・安本雅典（2018）「コンセンサス標準をめぐる企業行動：知識量が標準アーキテクチャの導入に及ぼす影響」『組織科学』

糸久正人（2018）「自動運転をめぐる技術知識とエコシステムの拡大」『日本機械学会誌』

Olejniczak, T. and Itohisa, M. (2017) “Hybridization revisited: New insights from the Evolutionary Approach,” *Journal of Management and Business Administration*, vol.25, No.2.

糸久正人（2016）「複雑性の増大とコンセンサス標準：標準化活動がもたらす競争優位」『研究技術計画』

富田純一・糸久正人（2015）『コア・テキスト生産管理』新世社

糸久正人（2012）「標準化に対するユーザーとサプライヤーのコンセンサス：コンフリクトを克服した互惠性の達成」『研究技術計画』

【Outline (in English)】

The dissertation usually consists of 3 academic papers. This seminar provides you with how to write an academic paper, then brush up on your research through continuous discussions. The final goal is to complete your dissertation. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1) in-class contribution 50%, 2) short reports 50%.

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

加藤 寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を作成することが受講生の課題である。博士論文の中間報告について討論しながら作成する。

4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

到達目標は大学院生が論文を作成することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の現在の進捗状況	報告と討論。
		について報告する。
第2回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第3回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第4回	調査研究の課題について。	議論を補足する調査研究の課題をみる。
第5回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第6回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第7回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第8回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第9回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告する。
第10回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第11回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第12回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第13回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論
第14回	博士論文の全体像を報告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査研究を着実にを行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。

【参考書】

討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、論文の進捗状況と討論への参加をもとに行います。成績評価は出席 40 % と議論への参加 40 %、論文進捗状況 20 % で 100 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

各学生の研究テーマや研究の進捗具合に応じて指導をカスタマイズしていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域産業論・戦略論・企業論

<研究テーマ> 造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究

<主要研究業績>

「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性がもたらす複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有斐閣）

「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争力比較研究』（三星経済研究所）

「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『アジア経営研究』）

「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）

「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】

To publish your papers, you must understand research methods and you must make time for writing.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%)

Content of the final submission (30%)

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

加藤 寛之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成を指導するのがこの講義の目的です。

4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

到達目標は大学院生が論文を作成することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

論文の進捗状況を報告すること、必要な論点について議論すること、
議論の結果を元に再度調べて報告すること、この繰り返しです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の現在の進捗状況 について報告する。	報告と討論。
第2回	調査研究の課題につい て。	議論を補足する調査研究の課題を みる。
第3回	調査研究の課題につい て。	議論を補足する調査研究の課題を みる。
第4回	調査研究の課題につい て。	議論を補足する調査研究の課題を みる。
第5回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告す る。
第6回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告す る。
第7回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告す る。
第8回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告す る。
第9回	論文の中間報告と討論	調査研究の成果について報告す る。
第10回	博士論文の全体像を報 告する	報告と討論
第11回	博士論文の全体像を報 告する	報告と討論
第12回	博士論文の全体像を報 告する	報告と討論
第13回	博士論文の全体像を報 告する	報告と討論
第14回	博士論文の全体像を報 告する	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査研究を着実にやること。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。

【参考書】

討論の中で必要な文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、論文の進捗状況と討論への参加をもとに行います。
成績評価は出席 40 % と議論への参加 40 %、論文進捗状況 20 % で
100 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

各学生の研究テーマや研究の進展具合に応じて指導をカスタマイズ
していきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域産業論・戦略論・企業論

<研究テーマ> 造船産業各社の戦略・国際分業・産業集積の研究

<主要研究業績>

「船舶開発と造船産業——ビジネス・システムの不確実性がもたら
す複雑性へのマネジメント」藤本隆宏編『人工物複雑化の時代』（有
斐閣）

「日本の造船産業における企業競争力の変動とその要因分析—国際競
争力構図の変化と新たな取り組み—」柳町功他編著『韓日産業競争
力比較研究』（三星経済研究所）

「造船産業の競争構図の変容と雁行形態論・塩路モデルの再検討」（『ア
ジア経営研究』）

「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」（『組織科学』）

「資源蓄積の機能不全—成熟・衰退期への適応が再成長期の制約に化
けるメカニズム」（『経営学論集』）

【Outline (in English)】

To hand in your doctoral paper, you must make time for
writing. We brush up your paper many times.

Learning Objectives: To help each student become an industrial
research man or research woman corporate strategy planner.
Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the
content and frequency of presentations and contributions to
the management during the exercises. Degree of commitment
to the assignment you set (30%)

Content of the final submission (30%)

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理 解	同左
3 回	研究テーマの標準的理 解	同左
4 回	研究テーマの高度な理 解	同左
5 回	研究テーマに基づく研 究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの 作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解 の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確 認	同左
13 回	論文の理論的なフレー ムワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の 確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスションの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の政治学、国際政治学領域における博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究論文の作成について、受講者の問題関心に応じて指導していく。

【到達目標】

公共政策研究の一部としての、政治学、国政政治学領域におけるそれぞれの研究対象となる政策領域について、必要となる専門的な知見や研究方法、さらには理論的なフレームワークや、論文執筆の技術を学び、最終的に、要求されるスタンダードをクリアした博士論文を、作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

公共政策研究の領域における政治学、国際政治学の博士論文の作成を、最終的に目指す研究指導を行う。基本的には、教員と学生全員による演習方式で、研究課題の設定、方法論の選定、資料の収集・検討・分析について、参加者各自が自分の研究テーマについて報告し、研究を進める。そして、その報告をもとに博士論文に求められるアカデミック・スタンダードに到達することを目指す。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの設定	同左
2 回	研究テーマの基礎的理 解	同左
3 回	研究テーマの標準的理 解	同左
4 回	研究テーマの高度な理 解	同左
5 回	研究テーマに基づく研 究企画の立案	同左
6 回	論文作成の基礎的技法	同左
7 回	論文作成の標準的技法	同左
8 回	論文報告のレジュメの 作成	同左
9 回	先行研究の基礎的検討	同左
10 回	先行研究の標準的理解 の確認	同左
11 回	先行研究の整理	同左
12 回	研究テーマの意義の確 認	同左
13 回	論文の理論的なフレー ムワークの設定	同左
14 回	論文の研究企画構成の 確認	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各受講生の研究対象についての先行研究のリサーチ、入手可能な研究資料の探索、テーマとの整合性がある理論的フレームワークの検討など。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下のものは目安であるが、とりあえず博士課程1年目においては、研究テーマの設定とその領域の先行研究の検討を中心として、その研究の進展を勘案して評価する。つづく2年目においては、1年目の研究を基礎としながら研究対象についてのリサーチ・クエスチョンの再設定とその研究の進展、そのロジックの卓越性を中心として評価する。最終学年となる3年目においては、博士学位論文の完成を到達目標とし、その準備の達成度を総合的に評価する。望むらくは、学生におかれましては、その執筆の過程での成果を世に問うことを目的として、一年に1本ほど短い論文を発表することを目指してもらいたい。学会への参加、研究の進捗の報告などの平常点100%。

【学生の意見等からの気づき】

双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to help student's thesis writing from the point of view of an academic standard. It offers many suggestions and insights on thesis writings of each student.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on reports 80%, and class contribution 20%.

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程 3 年次以上の院生を対象とする。院生は、自らの論文構想に沿って執筆作業をすすめ、教員に成案を提出する。

【到達目標】

博士論文の成案を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生から論文草稿の報告を受け、教員が進捗に応じた指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。

報告に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	執筆スケジュールの確認	各自の論文構想に従い、年間の論文執筆スケジュールを作成する
第 2 回	論文草案の執筆 (1)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 3 回	論文草案の執筆 (2)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 4 回	論文草案の執筆 (3)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 5 回	論文草案の執筆 (4)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 6 回	論文草案の報告と討議 (1)	論文草案を報告し、教員と討議を行う
第 7 回	論文草案の執筆 (5)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 8 回	論文草案の執筆 (6)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 9 回	論文草案の執筆 (7)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 10 回	論文草案の報告と討議 (2)	論文草案を報告し、教員と討議を行う
第 11 回	論文草案の執筆 (8)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 12 回	論文草案の執筆 (9)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 13 回	論文草案の執筆 (10)	構想に沿って論文執筆作業を進める
第 14 回	草案の報告・討議と成案作成工程の確認	論文草案の報告、教員との討議を行った上で、成案作成工程を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定した論文構想・スケジュールに沿って、自主的に論文執筆に取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告 70%、討議への参加姿勢 30%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ>中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-

2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性」・『戦術性」－“転職”を迫られる地方公務員』

(2001)『分権社会と協働』（共著）ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』（2008）『分権改革の動態』（共著）東京大学出版会

『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダー 神奈川県内の指定都市を題材に』（2016）『横浜市立大学論叢 人文科学系列』

第 67 巻 第 1 号

【Outline (in English)】

For graduate students in and over the third year of doctoral course. Graduate students advance the writing work according to their thesis concept and submit a draft to the faculty member.

By the end of the course, students should be able to draft of doctoral dissertation.

Students will be expected to work on research subjects voluntarily according to the schedule set by the graduate students themselves.

Your overall grade will be decided based on the following Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

谷本 有美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程 3 年次以上の院生を対象とする。院生は、自らの論文構想に沿って博士論文を仕上げる。

【到達目標】

博士論文を完成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は原則対面で行う。

院生が提出した論文成案についての報告を受け、適宜修正等の指導を行う。院生間の討議を行い、相互に学び合う場も設定する。院生の自発性を重視する授業である。

発表に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文仕上げに必要な諸事項の確認	夏休みに提出した論文成案について、修正事項や仕上げまでの作業を確認する
第 2 回	論文の仕上げ (1)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 3 回	論文の仕上げ (2)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 4 回	論文の仕上げ (3)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 5 回	論文の仕上げ (4)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 6 回	討論 (1)	執筆済みの論文内容について教員と討論する
第 7 回	論文の仕上げ (5)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 8 回	論文の仕上げ (6)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 9 回	論文の仕上げ (7)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 10 回	論文の仕上げ (8)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 11 回	討論 (2)	執筆済みの論文内容について教員と討論する
第 12 回	論文の仕上げ (9)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 13 回	論文の仕上げ (10)	論文成案の修正・推敲作業を進める
第 14 回	討論 (3)	論文完成稿に基づき教員と討論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生自身が設定したスケジュールに沿って、自主的に論文執筆に取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

院生の研究テーマと段階に応じ、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究状況の報告 70 %、討議への参加姿勢 30 % の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況に応じて、適宜、文献等の情報提供を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、市民自治

<研究テーマ> 中央政府における地方自治、国による自治体統制、人口減少時代の自治体政策と市民自治、大都市行政区の民主的統制

<主要研究業績>

『「地方自治の責任部局」の研究－その存続メカニズムと軌跡 [1947-

2000]』(2019) 公人の友社

『「透明性」・『誠実性」・『戦術性」－ “転職” を迫られる地方公務員』

(2001) 『分権社会と協働』(共著) ぎょうせい

『国による『上から』の自治体統制の持続と変容』(2008) 『分権改

革の動態』(共著) 東京大学出版会

『大都市行政区の『区民会議』と市民参加のアジェンダー 神奈川県

の指定都市を題材に』(2016) 『横浜市立大学論叢 人文科学系列』

第 67 巻第 1 号

【Outline (in English)】

For graduate students in and over the third year of doctoral course. Graduate students complete a doctoral dissertation according to the concept of one's own thesis.

By the end of the course, students should be able to complete the thesis.

Students will be expected to work on research subjects voluntarily according to the schedule set by the graduate students themselves.

Your overall grade will be decided based on the following

Presentation (70%), participation in discussions (30%).

SOS700P1 - 005

公共政策学特殊研究 3 A

中筋 直哉

その他属性：

(Learning Objectives)The goals of this lecture are the final step of writing the doctoral thesis.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original reports for presentation in seminar,

(Grading Criteria /Policy)Positivity to seminar:100%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】

博士論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。履修生ごとに個別指導する他、全履修生による文献講読演習を月1回程度行う。提出物には個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	履修者の顔合わせ	各自の博士論文構想の発表
2	1人目の個別指導 1	論文テーマの検討
3	2人目の個別指導 1	論文テーマの検討
4	3人目の個別指導 1	論文テーマの検討
5	文献講読演習 1	専門文献の講読と討論
6	1人目の個別指導 2	論文構成の検討
7	2人目の個別指導 2	論文構成の検討
8	3人目の個別指導 2	論文構成の検討
9	文献講読演習 2	専門文献の講読と討論
10	1人目の個別指導 3	文献調査の検討
11	2人目の個別指導 3	文献調査の検討
12	3人目の個別指導 3	文献調査の検討
13	文献講読演習 3	専門文献の講読と討論
14	全員演習	博論中間報告会原稿の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房。

【参考書】

文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】

指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが成績評価の条件。研究計画通り研究を進められれば C、文献講読演習等において貢献すれば B、学会査読論文など成果を挙げれば A、その内容が学術的に顕著なものであれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】

より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学

〈研究テーマ〉地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』（2005, 新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to prepare student's doctoral thesis by face to face direction and group discussion.

SOS700P1 - 006

公共政策学特殊研究 3 B

中筋 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会学を知的基盤とする公共政策研究の博士論文の完成。

【到達目標】

博士論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。履修生ごとに個別指導する他、全履修生
による文献講読演習を月1回程度行う。提出物には個別にフィード
バックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献講読演習 4	専門文献の講読と討論
2	1人目の個別指導 4	データ分析の検討
3	2人目の個別指導 4	データ分析の検討
4	3人目の個別指導 4	データ分析の検討
5	文献講読演習 5	専門文献の講読と討論
6	1人目の個別指導 5	結論の検討
7	2人目の個別指導 5	結論の検討
8	3人目の個別指導 5	結論の検討
9	文献講読演習 6	専門文献の講読と討論
10	1人目の個別指導 6	政策提言の検討
11	2人目の個別指導 6	政策提言の検討
12	3人目の個別指導 6	政策提言の検討
13	文献講読演習 7	専門文献の講読と討論
14	全員演習	履修者の博士論文の合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究計画に沿った調査研究活動。本授業の準備・復習時間は
各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中筋直哉・五十嵐泰正編著,2013,『よくわかる都市社会学』ミネル
ヴァ書房。

【参考書】

文献講読演習にて指示する

【成績評価の方法と基準】

指定された日程で個別指導を受け、文献講読演習に参加することが
成績評価の条件。研究計画通り研究を進めて博士論文完成までの目
処がつけば C、博士論文を完成できれば B、論文の内容が学術的に
優れていれば A、とくに優れていれば A+、とする。

【学生の意見等からの気づき】

より専門性の高い指導を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉地域社会学

〈研究テーマ〉地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉上記教科書、『群衆の居場所』（2005, 新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline)This seminar aims to prepare student's
doctoral thesis by face to face direction and group discussion.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are the final step
of writing the doctoral thesis.

(Learning activities outside of classroom)Preparing original
reports for presentation in seminar,

(Grading Criteria /Policy)doctoral thesis:100%.

POL700P1 - 101

公共政策ワークショップ（公共） 1 A

淵元 初姫

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共マネジメントコースの全教員による集团的論文研究指導の科目である。所属するゼミの指導教員のみならず、コースにおける他の専任教員や院生などからのコメントを受けながら、博士論文の完成に向けて作業を進める。

【到達目標】

1年目については、テーマの決定と論文構想の大枠にたどり着くことが目標となろう。少なくとも1章分について執筆をはじめることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生1の報告	院生1の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生2の報告	院生2の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生3の報告	院生3の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生4の報告	院生4の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生5の報告	院生5の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生6の報告	院生6の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生7の報告	院生7の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生8の報告	院生8の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生9の報告	院生9の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第10回	院生10の報告	院生10の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生11の報告	院生11の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生12の報告	院生12の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第13回	院生13の報告	院生13の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第14回	院生14の報告	院生14の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OBとして参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】
【淵元初姫】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
<主要研究業績>
「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】
All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.
A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.
Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.
Students will be Assessed by;
Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 - 102

公共政策ワークショップ（公共） 1 B

淵元 初姫

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共マネジメントコースの全教員による集团的論文研究指導の科目である。所属するゼミの指導教員のみならず、コースにおける他の専任教員や院生などからのコメントを受けながら、博士論文の完成に向けて作業を進める。

【到達目標】

1年目の秋学期については、テーマの決定と論文構想の大枠にたどり着き、洗練させることが目標となろう。少なくとも1章分について執筆の目処をつけることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生1の報告	院生1の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生2の報告	院生2の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生3の報告	院生3の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生4の報告	院生4の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生5の報告	院生5の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生6の報告	院生6の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生7の報告	院生7の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生8の報告	院生8の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生9の報告	院生9の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第10回	院生10の報告	院生10の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生11の報告	院生11の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生12の報告	院生12の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第13回 院生13の報告

院生13の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第14回 院生14の報告

院生14の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OBとして参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】

【淵元初姫】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.

A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 - 103

公共政策ワークショップ（公共）2A

淵元 初姫

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共マネジメントコースの全教員による集团的論文研究指導の科目である。所属するゼミの指導教員のみならず、コースにおける他の専任教員や院生などからのコメントを受けながら、博士論文の完成に向けて作業を進める。

【到達目標】

2年目については、テーマの決定と論文構想の大枠にたどり着くことが目標となろう。少なくとも複数章分について執筆を開始することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生1の報告	院生1の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生2の報告	院生2の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生3の報告	院生3の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生4の報告	院生4の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生5の報告	院生5の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生6の報告	院生6の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生7の報告	院生7の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生8の報告	院生8の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生9の報告	院生9の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第10回	院生10の報告	院生10の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生11の報告	院生11の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生12の報告	院生12の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第13回 院生13の報告

院生13の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第14回 院生14の報告

院生14の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OBとして参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】

【淵元初姫】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.

A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 - 104

公共政策ワークショップ（公共）2B

淵元 初姫

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共マネジメントコースの全教員による集团的論文研究指導の科目である。所属するゼミの指導教員のみならず、コースにおける他の専任教員や院生などからのコメントを受けながら、博士論文の完成に向けて作業を進める。

【到達目標】

2年目については、テーマの決定と論文構想の大枠にたどり着き、それをさらに洗練させながら、少なくとも複数章分について執筆していることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生1の報告	院生1の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生2の報告	院生2の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生3の報告	院生3の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生4の報告	院生4の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生5の報告	院生5の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生6の報告	院生6の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生7の報告	院生7の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生8の報告	院生8の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生9の報告	院生9の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第10回	院生10の報告	院生10の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生11の報告	院生11の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生12の報告	院生12の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第13回 院生13の報告

院生13の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第14回 院生14の報告

院生14の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OBとして参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】

【淵元初姫】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
 <主要研究業績>
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.

A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 - 105

公共政策ワークショップ（公共）3A

淵元 初姫

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共マネジメントコースの全教員による集团的論文研究指導の科目である。所属するゼミの指導教員のみならず、コースにおける他の専任教員や院生などからのコメントを受けながら、博士論文の完成に向けて作業を進める。

【到達目標】

3年目については、博士論文全体の完成を目標とする。3月に博士号を取得するためには9月末までに博士学位申請を行う必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生1の報告	院生1の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生2の報告	院生2の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生3の報告	院生3の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生4の報告	院生4の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生5の報告	院生5の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生6の報告	院生6の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生7の報告	院生7の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生8の報告	院生8の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生9の報告	院生9の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第10回	院生10の報告	院生10の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生11の報告	院生11の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生12の報告	院生12の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第13回 院生13の報告

院生13の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第14回 院生14の報告

院生14の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OBとして参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】

【淵元初姫】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.

A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

POL700P1 - 106

公共政策ワークショップ（公共）3B

淵元 初姫

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共マネジメントコースの全教員による集团的論文研究指導の科目である。所属するゼミの指導教員のみならず、コースにおける他の専任教員や院生などからのコメントを受けながら、博士論文の完成に向けて作業を進める。

【到達目標】

博士学位の申請を行った後は、公開審査会と口述試験のための準備を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

院生の報告に対して、参加院生との質疑、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評、という方法で進めることによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	院生1の報告	院生1の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第2回	院生2の報告	院生2の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第3回	院生3の報告	院生3の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第4回	院生4の報告	院生4の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第5回	院生5の報告	院生5の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第6回	院生6の報告	院生6の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第7回	院生7の報告	院生7の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第8回	院生8の報告	院生8の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第9回	院生9の報告	院生9の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第10回	院生10の報告	院生10の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第11回	院生11の報告	院生11の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評
第12回	院生12の報告	院生12の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第13回 院生13の報告

院生13の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

第14回 院生14の報告

院生14の報告、参加院生との質疑応答、指導教員以外の教員からのコメント、指導教員からの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

テーマに応じて、その都度必読文献を指摘する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容（60%）及びワークショップでの質疑や討論における発言（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

所属するゼミを超えた交流や議論を通じて、院生同士が互いに刺激を与え合う場となっています。OBとして参加する博士号取得者も増えてきており、論文執筆に際する体験談なども交えながら研究をバックアップしてくれています。

【担当教員の専門分野等】

【淵元初姫】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策

<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権

<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クオータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クオータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

All PhD students in Public Management are required to attend this compulsory course.

A series of workshops encourage doctoral students to reflect on the wider context of their research, publishing their research and preparing for the viva voce exam. Discussion with tutors and fellow students will stimulate you to think critically about societal issues.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Seminar presentation 60%, Class contribution 40%

SOC700P1 - 201

公共政策ワークショップ（政策研究） 1 A

加藤 寛之、中筋 直哉

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】

1. 博士後期課程第1年度は、博士論文で取り組むべきテーマの決定と論文構想の大枠を決定する。
2. 学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者による応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(70%)を中心に、討論への参加(30%)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOC700P1 - 202

公共政策ワークショップ（政策研究） 1 B

加藤 寛之、中筋 直哉

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】

1. 博士後期課程第1年度は博士論文で取り組むべきテーマの決定と論文構想の大枠を決定する。
2. 学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(70%)を中心に、討論への参加(30%)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class are the finding theme of doctoral thesis and planning to make it. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOC700P1 - 203

公共政策ワークショップ（政策研究）2A

加藤 寛之、中筋 直哉

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】

1. 博士後期課程第2年度は博士論文で扱うテーマに関する体系的な文献の再検討を行い、またデータの収集および分析をする。
2. 引き続き、学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。オンラインを活用し、授業回数2回減分の学習時間の挽回に努める。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(70%)を中心に、討論への参加(30%)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class is critical exploring books and thesis about theme of doctoral thesis. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOC700P1 - 204

公共政策ワークショップ（政策研究） 2B

加藤 寛之、中筋 直哉

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】

1. 博士後期課程第2年度は博士論文で扱うテーマに関する体系的な文献の再検討を行い、またデータの収集および分析をする。
2. 引き続き、学会発表および論文投稿を積極的に行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で開催（予定）。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(70%)を中心に、討論への参加(30%)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aims of this class is critical exploring books and thesis about theme of doctoral thesis. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOC700P1 - 205

公共政策ワークショップ（政策研究）3A

加藤 寛之、中筋 直哉

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】

1. 博士後期課程第3年度は博士論文を完成させる。
2. 学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施（予定）。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教授による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(70%)を中心に、討論への参加(30%)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aim of this class is completing doctoral thesis. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

SOC700P1 - 206

公共政策ワークショップ（政策研究） 3 B

加藤 寛之、中筋 直哉

備考（履修条件等）：隔週授業

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策研究コースに所属する全教員が参加し集団的研究指導を行う。受講者は研究発表を行い、指導教授以外の教員および参加者からのコメントをもらうことで、博士論文執筆に向けて研究内容の向上を目指す。

【到達目標】

1. 博士後期課程第3年度は博士論文を完成させる。
2. 学会発表および論文投稿を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施（予定）。授業は院生の報告に対して、教員および参加院生等による質疑、報告者の応答、指導教授以外の教員からのコメント、指導教員による総評という形で進めていく。受講者は原則として半期1回程度の報告を行う。報告は内容を(1)学会発表プロポーザル (proposal)、(2)博士論文プロポーザル (proposal) に区分して実施する。報告については授業中に参加教員からフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と到達目標の確認
第2回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第3回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第4回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第5回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第6回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第7回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第8回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第9回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第10回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第11回	博士論文中間報告会	過年度博士課程院生も含めた報告、質疑応答、教員からのコメント・総評
第12回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第13回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評
第14回	研究報告	院生の報告と参加者との質疑応答、教員からのコメント・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容(70%)を中心に、討論への参加(30%)を目途に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

政策研究コース各教員の記載頁を参照のこと。

【Outline (in English)】

This seminar discuss students' doctoral theses each other to promote their qualities. The aim of this class is completing doctoral thesis. Grade Criteria is reporting(70%) and discussing(30%).

POL500P2 - 001

行政学基礎

林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

【到達目標】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第2回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第3回	「論文の報告①」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第4回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報告
第5回	「論文の報告②」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第6回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報告
第7回	「論文の報告③」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第8回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報告
第9回	「論文の報告④」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第10回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報告
第11回	「論文の報告⑤」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第12回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報告
第13回	「論文の報告⑥」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行う
第14回	まとめ	これまで扱った論文について振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解 60 分、論文報告資料準備 120 分で、合計 180 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 4290 円
曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 2970 円

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーの提出（50%）

論文の報告（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

行政や政策に関するニュースを見る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500P2 - 002

比較行政研究

申 龍徹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較行政研究の学際的理解及び比較研究手法の習得

【到達目標】

- ①比較行政研究の理論展開を分析することにより、比較行政研究の理論的背景を理解できる（比較行政運動の展開）。
- ② OECD 加盟国における多様な行政現象の中から事例分析を行い、国際比較の方法論を体系的に習得できる（主要国の行政システムの展開と特徴）。
- ③実際の行政活動の改善に役立つ政策案が提案できる専門能力の習得ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

国際化の深化という現代社会の行政現象を分析する上で欠かせない比較行政研究を研究対象とするこの授業は、講義と発表で進める。講義では、比較行政研究の学際的な発展過程について理解を深めるとともに、OECD 加盟国の行政制度及び行政過程、個別行政の特徴に関する国際比較を通じて、現在の行政課題に対する政策対案の作成を可能とする政策形成能力の向上を目指す。前半は講義を中心に、後半は受講者の発表と討論で構成する。発表では、受講者が設定したテーマ（行政課題）に対し、国内や OECD 諸国との事例の比較・分析を通じて、もっとも有効と思われる対案の作成を目指す。原則として対面で授業を実施すること、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、十分な安全性が確保されないと判断された場合には、オンラインに切り替える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	授業の概要説明	個人課題の設定、発表スケジュールの調整
2 回目	比較行政の概念と歴史的展開及び比較行政と発展行政の理論統合	形成期、沈滞期、転換期、跳躍期の比較行政研究 比較行政研究と発展行政論の関係、理論的統合
3 回目	行政システムの国際比較 A	英米独仏の行政システムの比較分析
4 回目	行政システムの国際比較 B	北欧諸国の行政システムの比較分析
5 回目	行政システムの国際比較 C	NICs の行政システム及び日韓の行政システムの比較分析
6 回目	比較行政研究事例分析 A	受講者の事例発表・討論
7 回目	比較行政研究事例分析 B	受講者の事例発表・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前に講義レジュメ及び参考資料などをアップする。

- ・ Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
- ・ Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【参考書】

特に限定しないが、主に参考している資料は、以下の通り。

- ・ Eric E. Otenyo & Nancy S. Lind (2006). Comparative Public Administration: The Essential Readings (Research in Public Policy Analysis and Management Vol.15), New York, Elsevier.
- ・ Heady Ferrel (2001). Public Administration: A Comparative Perspective, New York, Marcel Dekker.

【成績評価の方法と基準】

質問力（25%）、調査力（25%）、構成力（25%）、プレゼンテーション（25%）の 4 つによる絶対評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

受講者には関心のあるテーマの発表が課題として課されるので、事前準備が必要です。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 行政学、比較行政

<研究テーマ> 自治行政の国際比較

<主要研究業績>

『現代日本の公務員人事—政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』（執筆分担、第一法規、2019）

『公務員制度改革という時代』（執筆分担、敬文堂、2017）

『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）

『アジアの中の日本官僚：歴史と現在』（執筆分担、勉誠出版、2010）

『韓国行政・自治入門』（単著、公人社、2006）

『自治体経営改革』（執筆分担、公人社、2006）

【Outline (in English)】

Interdisciplinary understanding of comparative administrative research and acquisition of comparative research method

Understand the theoretical development of comparative administrative research and understand the theoretical background of comparative administrative research (development of comparative administrative movement)

Required reading references

Absolute evaluation (100%) based on four questions: questioning ability (25%), research ability (25%), composition ability (25%), and presentation ability (25%).

PHL500P2 - 003

公共哲学基礎

宮川 裕二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの相関について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的講義／文献講読	導入的講義、「社会思想とは何か」、「マキアヴェリの社会思想」1章
第2回	文献講読：坂本後掲書第2章・第3章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第3回	文献講読：坂本後掲書第4章・第5章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第4回	文献講読：坂本後掲書第6章・第7章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想——保守から改革へ」
第5回	文献講読：坂本後掲書第8章・第9章	「近代自由主義の批判と継承——後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第6回	文献講読：坂本後掲書第10章・第11章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第7回	文献講読：坂本後掲書第12章・第13章・終章	「『全体主義』批判の社会思想——フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベラリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共政策の政治社会学

<研究テーマ>

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

<主要研究業績>

『日本の「新しい公共（空間）」政策言説：新自由主義統治性の視座からの再定位（仮題）』（風行社、2023年近刊）

『統治性研究を用いた現代日本の実証的研究に関する一考察』（『唯物論研究年誌』第27号、2022年）

『「新自由主義ガバナンス」論による『地方創生』実施スキーム分析』（『唯物論研究年誌』第23号、2018年）

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.

(Learning Objectives) The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20%).

POL500P2 - 004

政策学基礎

渊元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

【到達目標】

政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては、ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第 2 回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第 3 回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第 4 回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第 5 回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第 6 回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第 7 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 8 回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第 9 回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第 10 回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。

第 11 回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。

第 12 回 政策をめぐる価値の対立 政策がめぐるべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。

第 13 回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。

第 14 回 まとめ 講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
 <主要研究業績>
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』 pp.81-118、日本評論社
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』 pp.203-26、明石書店
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』 pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500P2 - 005

現代政治分析研究

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治の総合的理解を目指す。

【到達目標】

同上。詳細は【授業の進め方と方法】に記載。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

①現代政治の今日的展開の姿を主に研究者を志望とする学生を対象とし、デモクラシーの視点及び脱冷戦時代の視点から分析し、現代政治分析の理念と手法を明らかにする

②具体的には、国際・国内・地域社会における公的課題の解決に向けて、自治体と住民・市民組織との新たな関係の再構築

③国際・国内のガバナンスの理念に立脚した政治システムと機構の改革方向

④冷戦後の構造変化と政府の新たなあり方などの課題を具体的に考え、そのための仕組みや政策のあり方を設計することを目的とする

⑤さらに、将来のデモクラシーについて履修した学生諸君と共に考える

⑥対面により講義を行う。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義、報告のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	現代政治分析とは	同左
第2回	現代政治学の基礎	同左
第3回	政治学の基礎概念	同左
第4回	政治学の理論	同左
第5回	現代日本政治の基礎	同左
第6回	現代日本政治の変動	同左
第7回	日本政治の現在	同左
第8回	日本政治の構造	同左
第9回	構造的視座による理解	同左
第10回	国際的視座の中の日本	同左
第11回	国民国家の国際化	同左
第12回	比較の中の日本政治	同左
第13回	多様なデモクラシー	同左
第14回	日本政治の理論的解明	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜指示。

【参考書】

①白鳥浩『都市対地方の日本政治』芦書房、2009年

【成績評価の方法と基準】

試験、レポートと講義への積極性による総合評価（100%）。(講義への貢献度50%、期末50%を目安とする)。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course aims to attain student's understanding of modern politics. In order to reach that goal, it is needed to study modern politics in a systematic way. It starts out from clarification of the definitions of important notions which appears on literatures of political science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and decision-making process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

POL500P2 - 006

公共政策とジャーナリズム

白鳥 浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における政策とジャーナリズムの総合的理解。

【到達目標】

本講座の目的は、「新聞が行っている報道、論説、提言などの実際を現役記者等が紹介し、新聞メディアの機能、影響力、課題について解説・分析することで、大学院生の視野を広げ、新聞など活字文化への関心を高める」こととする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義は読売新聞特別講座である。第一線のジャーナリストをお招きし、新聞社の調査、分析と報道の実際と、論説提言のあり方を学ぶ。講義は、毎回異なるジャーナリストのオムニバス講義によって行う。以下は予想される講義のトピックであるが、変更もありうる。また講義計画は対面を中心とするが、講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	新聞とジャーナリズム	同左
(2)	政治とジャーナリズム	同左
(3)	安全保障政策とジャーナリズム	同左
(4)	外交政策とジャーナリズム	同左
(5)	社会保障政策とジャーナリズム	同左
(6)	医療政策とジャーナリズム	同左
(7)	経済政策とジャーナリズム	同左

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義当日の読売新聞朝刊を必ず持参して、講義に臨む事。

【参考書】

講義時に適時指示。

【成績評価の方法と基準】

出席、毎回の講義で課される課題への取り組み、毎回の感想文、さらにレポートなどを総合的に考慮して評価（100%）。(講義への貢献度 50%、期末 50%を目安)。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッカンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

【Outline (in English)】

This course offers advanced understanding of the public policy on each policy fields, international politics, domestic politics, public administration, local government, international economy and so on. Lecturers are all distinguished journalists from the Yomiuri Shinbun, Yomiuri News Paper Company.

The goals of this course are to realize relationship between journalism and policy process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 50%, and class contribution 50%.

ECN500P2 - 008

財政学基礎

其田 茂樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、財政学全般の概要と日本の財政制度の理解に重点を置く。政策の遂行や評価において密接に関係する財政であるため、これらの理解は研究の進展に資するものと思われる。

【到達目標】

受講者自身の研究に対して財政の理論や制度を位置づけながら研究の進捗を図ること、日本の財政制度の持つ課題を認識し、自らの見解を形成・確立することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面授業で行う予定である。受講者数にもよるが、授業計画に従い財政学の基本的な素養を確認しつつ、受講者各自の問題意識と財政との関連等について授業内で報告を求める予定である。受講者の疑問点などは授業内で質疑の時間を設けるとともに、その場での回答が難しい場合は、後日対応する。なお、受講者の要望を反映して授業計画等は柔軟に見直す予定である。可能な限り初回の授業への参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの内容について共有し、授業の進め方や授業計画に関する意見交換を行う。
第2回	財政と財政学	各自の研究テーマや問題関心を確認しつつ財政との関係を意識してみる。
第3回	市場の失敗と政府の失敗	財政運営を行う政府の必要性について経済学的に考察する。
第4回	予算と予算原則	予算に関する理論と日本の制度を理解する。
第5回	経費論	経費に関する理論と日本における運用の特質を理解する。
第6回	租税論	租税理論や租税原則を学ぶ。
第7回	日本の主な税目	所得税、法人税、消費税について理解を深める。
第8回	公債論	公債に関する理論、制度を学ぶ。
第9回	財政投融资	財政投融资制度の概要を理解する。
第10回	国と地方の財政関係	税収や歳出における国と地方の関係を理解する。
第11回	国庫支出金	国から地方への財源移転のうち、原則として用途が特定された国庫支出金を理解する。
第12回	地方交付税	一般補助金としての性格をもつ地方交付税の重要性を理解する。
第13回	口頭報告	各自の問題意識と財政の関係等をまとめてみる。

第14回 まとめ

報告に対する受講者相互の質疑等をおこないつつ授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。学術書・専門書による学習もさることながら、財政や地域経済にまつわる報道等についても各授業計画に掲げた項目に応じて目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

1. 佐藤進・関口浩『新版財政学入門』同文館出版、2019年
 2. 佐々木伯朗編『財政学制度と組織を学ぶ』有斐閣、2019年
 3. 高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020年
- その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

口頭報告の内容（70%）、平常点（30%）による。平常点の内訳は、授業内でのコメント（15%）、相互討論への参画（15%）で評価する。口頭報告の機会は、原則として最終回に用意する予定であるが、初回や途中の授業における発言等も加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業による受講者相互のコミュニケーションへの期待が大きいと考えていたが、意外に、ハイフレックスの授業を求める声も多かった。第1回の授業において意見交換しつつ柔軟に対応する必要性を感じた。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、都合によりオンライン参加等になる場合には必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

受講者の研究内容や関心に応じて授業の進め方や授業計画は柔軟に対応する予定である。すなわち、授業計画における授業形態は対面としてあるが、受講者が参加しやすい形態を柔軟に検討する。そのため、第1回・第2回の授業には特に積極的にご参加いただきたい。一方で、担当者の都合でオンラインに変更されることがある旨、ご留意いただきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
財政学、地方財政論、経済政策論
<研究テーマ>
国と地方の財政関係、地方税における法定外税と超過課税、公共交通政策と財政
<主要研究業績>
『自治から考える自治体DX』（編者）公人の友社、2021年
『国税森林環境税』（共著）公人の友社、2021年
『生活を支える社会のしくみを考える』（共著）日本経済評論社、2019年
『地方自治論（第2版）』2018年、弘文堂 など

【Outline (in English)】

This course focuses on an overview of Public Finance and fiscal system in Japan.

In addition to reference books, you need to be interested in the websites and press of ministries and agencies to understand the administrative and financial system of Japan.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Research presentation:70%,Partipation&Contribution:30%.

ECN500P2 - 009

経済学基礎

芦谷 典子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎の部分は、ミクロ経済学とマクロ経済学の二つから構成されます。このうちミクロ経済学は、個々の経済主体、消費者や企業の行動を分析する学問です。消費者と企業が出会う場である市場についての分析も対象で、国をまたいだ取引である貿易も、ミクロ経済学の対象です。これに対して、マクロ経済学は、ひとつの国の経済活動の成果、パフォーマンスを分析する学問です。どのような政策を実行すれば、結果として国民の所得が増えるのか、失業が減るのか、物価が安定するのかといった、暮らし直結の政策論議も含まれるので、マクロ経済学の方が、より身近に感じられる受講生がいらっしゃるかもしれません。これらを踏まえ、いくつかのトピックを選びながら、講義形式で授業を進行してゆきます。

【到達目標】

- ①経済学の基礎を理解し、②それを使って現実の経済状況を把握し、③求められる政策が何かについて考える力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義1時間、受講者によるディスカッション1時間、振り返り1時間を基礎に、1日（2回分）の授業で1つのトピックを完結します。受講者の希望に応じて、eラーニングを取り入れますが、希望の場合は教科書の購入が必要になります。準備時間1~2時間以内の宿題を各日出題し、予習復習および期末試験の代替とします。講義資料は配布を基本としますが、復習時は教科書の熟読を推奨します。宿題の作成にあたっては、教科書は特に必要ありません。代わりに参照できる文献を適宜紹介し、宿題の作成方法について講義の最後に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方/自己紹介/研究テーマ・関心領域の紹介
第2回	経済学の原理と方法	経済学の原理と実践；経済学の方法と問い；最適化；需要と供給、均衡
第3回	ミクロ経済学の基礎1	消費者と生産者、需要曲線、供給曲線、需要の価格弾力性、長期競争均衡
第4回	ミクロ経済学の基礎2	市場の構造、完全競争、産業間の資源配分、公平性と効率性
第5回	マクロ経済学の基礎1	経済全体の俯瞰、国民経済計算、GDPでは測定されないもの、実質と名目
第6回	マクロ経済学の基礎2	所得、失業、物価、景気、金融市場
第7回	貿易1	生産可能曲線、絶対優位、比較優位
第8回	貿易2	国際貿易、貿易体制、保護貿易
第9回	国際金融1	国際貿易と国際金融、経常収支、金融収支

第10回	国際金融2	為替相場制度、外国為替市場、為替レートと輸出
第11回	開発経済1	経済成長のパターン、不平等、貧困
第12回	開発経済2	経済制度と経済発展、対外援助
第13回	経済政策1	財政政策
第14回	経済政策2	金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習・宿題に要する時間は各回毎に2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』 東洋経済新報社、2020年
『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』 東洋経済新報社、2019年
※購入は不要です。ただしeラーニングの活用希望者は購入が必要です。eラーニングの実施の有無については、初回の講義で受講生の希望を伺います。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常授業の活動状況：60%
- ②宿題：40%

【学生の意見等からの気づき】

社会人受講生が多い傾向にあることから、欠席時にもフォローがしやすくやるように、講義は1日（2回分）に1トピックを完結する方法で実施します。本年度は講義を主体とする進行になりますが、日頃の疑問や仕事に生かせる考え方、論文に生かせる考え方など、受講者の間の楽しみにもなる意見交換を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

非対面 zoom 授業へのアクセスが可能な PC の準備が必要です。また、zoom アプリのインストールが必要です。

【その他の重要事項】

初回および最終回は対面、その他は非対面 zoom によるリアルタイム・オンライン授業となります。アクセス先は講義ページに掲載します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済理論および経済統計
<研究テーマ> 不動産と国際経済（金融、貿易、開発、環境、補償）
<主要研究業績> "The Modified Phillips Curve as a Possible Answer to Japanese Deflation," *Advances in Economics and Business*, 5 (10), 2017; "Determinants of Potential Seller/Lessee Benefits in Sale-Leaseback Transactions," *International Real Estate Review*, 18 (1), 2015; "Perfect' Real Estate Liquidity and Adjustment Paths to Long-run Equilibrium," *Journal of International Economic Studies*, 27 (5), 2013; "The Robustness of Cartels Facilitated by Anti-dumping Regulations," *Australian Economic Papers*, 43 (3), 2004 ほか。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This economics lecture introduces basic theories on microeconomics and macroeconomics. Microeconomics views individual actors of the economy, such as consumers, households and firms and the market economics of larger scale producers. Cross-border transaction is considered trade, as we know, and it can also be explained using microeconomic theory. Through the study of macroeconomics theory, on the other hand, we take an overall look at the economy starting with measuring economic performance, followed by learning the model of circular flow. Everyday issues like unemployment, inflation, and salaries are usually seen as key targets of economic policies, and therefore seem familiar to us, and thus a good choice for the focus of our lecture. So, at least one current economic issue will be discussed in each lecture to illustrate what we study in the class.

【Learning Objectives】

This lecture has three objectives as follows and we will approach them cumulatively, building on the concepts one by one.

1. First objective - to understand the basic concepts of Economics
2. Second objective - to utilize them to analyze real economic issues
3. Third objective - to derive the appropriate policy to tackle these issues

【Learning activities outside of classroom】

As a review each class, students will be asked to write an answer to a question to submit by the next lecture. For this you will be given reference and other study materials including lecture notes at the end of each lecture. Students will be asked to read through the reference and find related issues including business issues around you to discuss in class. Your answers and corresponding activities will be graded as a replacement of the final exam.

【Grading Criteria /Policy】

This lecture puts more weight on the in-class activities, up to 60%. The remainder of your grade will be allocated to what you study at home prior to the every lecture, consisting of 40% of the total grade.

Class participation and in-class contribution: 60%

Reports and assigned tasks: 40%

PHL500P2 - 011

環境哲学・倫理学

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者は環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握する。あわせて発表を行い、自身の問題意識を他者に伝えることができる。

【到達目標】

受講者は、環境哲学・環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの考えを文章で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で行う。環境哲学・倫理学の文献の解説と、参加者による発表を中心に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
第2回	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
第3回	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理の基本文献を紹介する
第4回	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理に関する文献を紹介する
第5回	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理に関する文献を紹介する
第6回	科学技術の倫理	科学技術の倫理を論じた文献を紹介する
第7回	公害と環境正義	公害と環境正義に関する文献を紹介する
第8回	自然保護から生物多様性保全へ	自然保護・生物多様性保全に関する文献を紹介する
第9回	意見交換会（1）	授業内容に関する意見交換を行う
第10回	環境問題と社会科学	社会科学の視点から環境問題を論じた文献を紹介する
第11回	地域環境保全と市民の力	地域環境や市民運動に関する文献を紹介する
第12回	場所論と風土論	場所論と風土論の基本文献を紹介する
第13回	景観保全と都市環境	景観保全と都市環境に関する文献を紹介する
第14回	意見交換会（2）	授業内容に関する意見交換を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【成績評価の方法と基準】

授業内の意見交換での発言（20%）と期末の書評レポート（80%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やすことにしました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境倫理学

<研究テーマ>都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire environmental reading and presentation. At the end of the course, students are expected to writing a book review. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following book review : 80%,in class contribution: 20%.

LAW500P2 - 012

環境法基礎

永野 秀雄、立松 美也子、野村 撰雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の皆さんは、本授業で、環境問題に関する民法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶことができます。授業は、皆さんが、法律の素人であることを前提にして授業を行います。

【到達目標】

環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。

最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特質を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における紛争解決の仕組み、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ検討し、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。

また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1） （永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2） （永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1）（野村撰雄）	環境行政法の展開
8	環境行政法（2）（野村撰雄）	公害規制法
9	環境行政法（3）（野村撰雄）	自然保護法

10	環境行政法（4）（野村撰雄）	環境行政訴訟・行政組織
11	国際環境法（1）（立松美也子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（2）（立松美也子）	国際環境問題における国家責任法とその限界
13	国際環境法（3）（立松美也子）	国際環境条約と国内法
14	国際環境法（4）（立松美也子）	判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。プリントを適宜配布する。

【参考書】

北村喜宣『環境法（第5版）』（有斐閣ストゥディア、2020年）。
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度 30%、期末レポート 70%。

評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【担当教員の専門分野等】

永野 秀雄

<専門領域>日米比較法（特に、環境法、労働法、先端技術法）

<研究テーマ>「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」

<主要研究業績>（環境関連のもの）

①単著「電磁波訴訟の判例と理論—米国の現状と日本の展望」（三和書籍、2008年）。

②「気候変動と企業統治」鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉—社会科学からのアプローチ』（文真堂、2008年）171-184頁。

③「米国における高レベル放射性廃棄物の処分と問題点」人間環境論集6巻2号（2006年）1-21頁。

野村撰雄

<専門領域>

環境法・海事法

<研究テーマ>

地球温暖化、海洋環境法、環境条約の国内実施

<主要研究業績>

①『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）。

②「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究14号（2022年）1頁以下。

③「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年）175頁以下。

立松美也子

<専門領域>国際法（国際人権法、条約法、国際環境法）

<研究テーマ> 国際法の履行確保、国内実施、難民、出入国管理

<主要研究業績>

（共著） Chapter8 人権を国際的に保護する、Chapter10 国境を越えるモノ、サービス、資本、Chapter11 地球規模の環境問題に取り組む 加藤信行、植木俊哉、森川幸一、真山全、酒井啓巨、立松美也子編『ビジュアルテキスト国際法第3版』（有斐閣、2022年）。
単著

「難民をめぐる国際制度：UNHCRと難民条約」国際法外交雑誌117巻3号（2018年）。

「環境問題と少数者を文化を享受する権利—ボマ対ヘルー事件（自由権規約委員会2009年3月27日見解）」国際人権21号122-124頁、（2010年）。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.

< Learning Objectives >

The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.

< Learning Activities outside of Classroom >

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P2 - 013

地球環境学基礎

塚本 直也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心しつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】

- 以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。
- 人口増加と減少パターンの発生理由。
- オゾンホールが南極上空にできる理由。
- 温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。
- 日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。
- 生物多様性を保全しなければならない理由。
- 資源のもつ意味。
- 淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	地球環境問題をとりまく諸状況
第 2 回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第 3 回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウイーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第 4 回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第 5 回	気候変動②	I P C C、国際社会、国際交渉、パリ協定
第 6 回	気候変動③	緩和策と適応策
第 7 回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第 8 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源
第 9 回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第 10 回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題
第 11 回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第 12 回	エネルギー資源①	化石燃料
第 13 回	エネルギー資源②	原子力、新エネルギー

第 14 回 金属資源

ベースメタル、レアメタル、リサイクル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文科系のための環境科学入門』 有斐閣

【参考書】

斎藤幸平 『人新生の「資本論」』 集英社

【成績評価の方法と基準】

最終回に行う試験(70%)またはレポート(70%)と平時の授業への貢献(質問、意見の発表)(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【担当教員の専門分野等】

環境科学全般
サステナビリティ学
国際環境交渉
援助プロジェクトの環境セーフガード
気候変動
廃棄物管理

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource problems such as energy and freshwater. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be based on the final exam (100%) or report (100%).

POL500P2 - 014

国際政治学基礎

大中 真

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、政治学「国際政治の基礎理論1」、公共政策学・サステイナビリティ学「国際政治学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学（国際関係論）とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻で国際秩序が大きく動揺していると言われますが、今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。同時に、学生による授業内発表を推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学への誘い	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	国際社会論	英国学派の国際関係論を手掛かりに、我々の生きる国際社会の特質を考えます。
3	西欧国際体系	「ウェストファリアの神話」を考えつつ、西欧国際体系の特徴を探ります。
4	東アジア国際体系	華夷秩序を中心とした東アジアの国際体系を考察します。
5	イスラーム国際体系	イスラーム世界における国際体系の思想を考えます。
6	国際関係思想	国際関係を理解するための思想類型を提示します。
7	ナショナリズム	近代以降の国際関係を動かしてきたナショナリズムについて考えます。
8	外交	外交の基本概念と実践について解説を加えます。
9	国際法	国際法の基礎と国際政治との関連に重点を置いて解説します。
10	国際連合	国際連合の基本的構造と機能について考察します。
11	戦争論	人類の歴史の中で戦争はどのように変遷してきたか、探究します。
12	冷戦とポスト冷戦の国際関係	冷戦を知らずして現在の国際関係を理解することはできません。

- | | | |
|----|-------------|----------------------------------|
| 13 | 現在の国際政治の諸問題 | ロシアのウクライナ軍事侵攻など、現在の国際問題について考えます。 |
| 14 | 学習のまとめ | 半期の学習を振り返り、まとめます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに2時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細は、講義内で紹介します。

E. H. カー『危機の二十年—理想と現実』原彬久訳（岩波文庫、2011年）
ジョセフ・S. ナイ『国際紛争—理論と歴史、原書第10版』田中明彦、村田晃嗣訳（有斐閣、2017年）

中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013年）
バリー・ブザン『英国学派入門—国際社会論へのアプローチ』大中真、佐藤誠、池田丈佑、佐藤史郎ほか訳（日本経済評論社、2017年）
ヘドリー・ブル『国際社会論—アナーキカル・ソサイエティ』臼杵英一訳（岩波書店、2000年）

マーティン・ホワイト『国際理論—三つの伝統』佐藤誠、安藤次男、龍澤邦彦、大中真、佐藤千鶴子訳（日本経済評論社、2007年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義終了後に小テストを行います。（50%）

また最後に学期末試験を行います。（50%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業の最後に電子小テストを実施します。スマートフォンでも構いませんが、ノート型パソコンの用意を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics / international relations. The impact of Russian aggression against Ukraine is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

SES500P2 - 016

サステナビリティ研究入門

杉戸 信彦、杉野 誠、高田 雅之、高橋 五月、松本 倫明、湯澤 規子、吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義はサステナビリティと関連する問題を研究するための学際的なアプローチを学ぶための入門コースである。学生は、今後のサステナビリティ研究の出発点として、サステナビリティ学専攻を構成する様々な研究分野の基本概念と方法論の概要を理解する。また、これらの分野において、サステナビリティという概念がどのように扱われているかを理解することを目的としている。

【到達目標】

学生はサステナビリティ研究を行っていく上での出発点として、サステナビリティ学専攻を構成するさまざまな研究領域において、その基礎概念や方法論について概観を得るとともに、それらの領域においてサステナビリティの概念はどのように扱われているのかについて理解する。

講義は7名の教員がオムニバス方式で担当する。学生はこの講義を2年連続して受講することにより、本専攻に所属する専任教員全員の講義を受けることが可能となり、サステナビリティ学における幅広い基礎知識を身に付け、多角的な視野を持つことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP2」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

サステナビリティ学専攻の専任教員が各1回、合計7回を担当するオムニバス形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：サステナビリティとは何か（吉永）	サステナビリティとはどのような概念なのかを説明する。
第2回	自然資源の持続可能な利用（高田）	持続可能な自然資源利用について、生物多様性との関わりから現状の課題を考える。
第3回	海と人のサステナビリティ（高橋）	海と人との共存について、文化人類学的な視点から課題と可能性について考察する。
第4回	気候変動対策としての政策オプション（杉野）	カーボンプライシングが持続可能な社会構築にどのような役割を果たすかを考察する。
第5回	食と農のサステナビリティ研究（湯澤）	私たちが生きていくうえで欠かせない「食」をめぐる諸課題について考える。
第6回	地球惑星科学から考えるサステナビリティ（松本）	地球の歴史における地球環境の不可逆な進化を考え、サステナビリティについて考察する。
第7回	ハザードとレジリエンスー地震・土地条件を中心にー総括（杉戸）	自然災害リスクを考慮したサステナビリティとは何かを考える。授業内容についてのディスカッション・レポート課題の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

その都度教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業最終回に提示するテーマからひとつを選択し、それにもとづくレポートを作成する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

"Introduction to Sustainability Studies" is an introductory course to learn interdisciplinary approaches to study sustainability and related issues. As a starting point for future research on sustainability, students will gain an overview of the basic concepts and methodologies of the various research areas that make up Major in Sustainability Studies. In addition, students will gain an understanding of how the concept of sustainability is treated in these fields. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Choose one of the themes presented in the last class and write a final report based on the theme (100%).

POL500P2 - 015

公共政策と持続可能な社会づくり

林 嶺那、加藤 寛之、杉崎 和久、谷本 有美子、土山 希美枝、中筋 直哉、淵元 初姫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科が運営している SDGs Plus 履修証明プログラムを強化するために、公共政策学専攻が提供している入門的科目である。公共政策研究の立場からいくつかの主要な分野を選び、専攻の教員によるオムニバス形式で構成する。

【到達目標】

SDGs に関連するさまざまな政治的活動、行政施策、経済活動、市民運動を、いくつかの分野に即して理解し、それぞれの受講者が SDGs について体系的なイメージを獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う。回によっては、外部講師を招いての講義や対談形式を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入的説明、及び「原子力と持続可能な社会づくり」	林嶺那教授担当。この科目に関する導入を簡単にしたあと、「原子力と持続可能な社会づくり」について考える。福島第一原子力発電所事故の傷跡が未だ癒えない中、ウクライナ戦争に端を発するエネルギー危機に伴い原子力に対する注目が高まっている。原子力は持続可能な社会づくりに貢献できるのか。エネルギー経済研究所或いは日本原子力研究開発機構等の原子力の専門家を招き、受講者とのディスカッションも交えて、この問題について皆さんと一緒に考えていきたい。
第 2 回	「原子力と持続可能な社会づくり」・続き	同上
第 3 回	「都市型社会の政策主体とその関係性」	土山希美枝教授担当。公共政策を展開する主体は市民社会セクター、政府セクター、企業セクターとセクターをこえて存在し、その主体間関係が重要視されている。各主体の特徴、境界領域での新しいとりくみを取りあげ、論じる。
第 4 回	「都市型社会の政策主体とその関係性」・続き	同上
第 5 回	「コミュニティ政策と多様な地域づくり」	淵元初姫教授担当。地域社会における人と人とのつながりの再構築は、現代における政策課題のひとつです。本講義では、コミュニティ政策の視点から、このつながりづくりに関する様々な取り組みを検討し、多様な地域づくりの現状と展望を考えていきます。

第 6 回 「コミュニティ政策と多様な地域づくり」・

続き

第 7 回 「都市計画」

同上

杉崎和久教授担当。都市計画制度は、限られた都市空間において、機能的な都市活動と健康で文化的な都市生活を確保するために、土地利用の適正な制限を行う仕組みです。講義では、基本となる都市計画法の概要と成熟型社会における課題について解説します。

第 8 回 「都市計画」・続き

同上

第 9 回 「まちづくりと地域社会学」

中筋直哉教授担当。持続可能なまちづくりに対して社会学はどのように貢献できるか。日本の地域社会学の主要な成果を紹介しつつ、その生かし方をめぐって議論したい。前半 1 時間は講義、後半は 1 時間はディスカッション形式で実施する。

第 10 回 「まちづくりと地域社会学」・続き

同上

第 11 回 「農山村地域の環境と自治の持続可能性」

谷本有美子准教授担当。農山村地域の環境に関わる取組みを題材に、諸外国の例も交えてゲストスピーカーからの問題提起を受け、日本の自治の持続可能性や都市と農山村との関係形成のあり方について、討議を行う。

第 12 回 「農山村地域の環境と自治の持続可能性」・

同上

続き

第 13 回 「産業組織」

加藤寛之教授担当。現代の企業組織と SDGs の関わりを考える。

第 14 回 「産業組織」・続き

同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

各回の担当者から、事前に、または講義中に、指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の討論への参加状況（20%）と期末レポート（80%）により成績を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

新設科目なので該当せず。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to the SGDs Plus Certificate Program from a viewpoint of the public policy studies in various fields.

Students are expected to understand the outline of political, administrative, economic, social activities related to SGDA.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end report (80%), and in-class contribution (20%).

SES500P1-020

SDGs への招待

小島 聡、(一社)SDGs 市民社会ネットワーク (新田英理子、長島美紀)

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2030 年までの国際目標である「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」(以下 SDGs)について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGs についての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。SDGs Plus 履修証明プログラムの入り口として設置されているものである。なお、この科目は(一社)SDGs 市民社会ネットワークとの連携科目として開講する。

【到達目標】

グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだ SDGs については、主に国際機関、政府や NGO / NPO が主体的に活動するものと思われがちである。しかし SDGs では、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ受講生として、① SDGs に関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、② SDGs にあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、SDGs に関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者の SDGs や現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー(講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの)の記入と提出が求められる。

同時に可能な範囲で参加者によるアクティブラーニングの要素を取り入れ、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。

最終回には各受講者にショートプレゼンテーションを実施してもらう予定である。

なお、本講義は対面開催を予定するが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと SDGs 総論	講義の目的、進め方等の説明。講義の全体像の確認。SDGs の動向に関する解説
第 2 回	セミナー	外部講師による講義
第 3 回	セミナー	外部講師による講義
第 4 回	セミナー	外部講師による講義
第 5 回	セミナー	外部講師による講義
第 6 回	セミナー	外部講師による講義
第 7 回	プレゼンテーションと総括	受講者によるショートプレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント(資料)が配布される。

【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点(参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など)40%、プレゼンテーション30%、期末レポート30%の総合評価による。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン実施の経験も踏まえ、参加者のコミュニケーションのバリエーションや方法の工夫に努める。

【その他の重要事項】

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および研究科ウェブサイトで発表する。

【実務経験のある教員による授業】

財団法人における行政研究等の実務及び自治体行政のコンサルティングの経験者と、SDGs の専門組織である社団法人の理事が協働で、コーディネーターを担当する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course is to introduce and give basic understandings of the Sustainable Development Goals, which is internationally agreed goals and strategies toward sustainable societies. Each class will consist of lecture, discussion among participants and guest speaker's lectures.

【Learning Objectives】

The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the SDGs recognize the importance of the private sector and citizens as key players. As students learning about sustainable society, the goals of this lecture are (1) to have a basic knowledge of the SDGs and be able to explain them to others, and (2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that they can see the various issues listed in the SDGs as their own.

【Learning Activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be based on a composite evaluation of 40% contribution points (attitude toward participation, content of comment papers, comments made in class, etc.), 30% presentation, and 30% final report.

LAW500P2 - 051

政策法務論

神崎 一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

特に 2000 年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者間で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

【授業目的】

現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステイナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。
- ②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。
- ③本講義の最後の 2 回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1. はじめに～「政策法務」とは？ 2. 自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府と GHQ の攻防	1. GHQ 民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2. 日本側草案の起草～民政局案との対比 3. チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1. 基本法・基本条例の法規規範的性格の稀薄性 2. 法体系上の位置づけ 3. 自治基本条例の意義 4. 民主的契機としての住民投票 5. 議会基本条例の意義

7-8	条例論	1. 条例の定義 2. 条例の類型 3. 法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1. 分権改革前の判例 2. 比例原則 3. 分権改革後の判例 4. 違憲審査基準論と合理性の基準 5. 合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
神崎一郎『「政策法務」試論～自治体と国のパララックス (1)(2)』（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学
<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論
<主要研究業績>
①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
②「『政策法務』試論～自治体と国のパララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】

Course outline;
Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.
Learning Objectives;
To get an idea of "policy legal affairs".
To understand the key points of drafting ordinances.
Grading Criteria/Policy;

The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.

Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500P2 - 052

立法学研究

神崎 一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和 21 年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。

【授業目的】

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

【到達目標】

- ・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
- ・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
- ・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- ①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。
 - ②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせる。
 - ③本講義の最大の特徴は、最後の 2 回に行う立法演習である。講義において会得した発想法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。
- ※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1. 序論～立法学とは 2. 現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など

3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1. 内閣による法案提出プロセス 2. 政党内の意思決定システム 3. 議員立法のプロセスの特徴 4. 民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1. 国会審議過程の現状と課題 2. 内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3. ねじれ国会下における立法傾向 4. ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1. 「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法 41 条の解釈まで 2. 現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3. 「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方 第 2 版』有斐閣（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域> 立法学
- <研究テーマ> 立法過程論・自治体政策法務論・条例論
- <主要研究業績>
- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
- ②「『政策法務』試論～自治体と国のバララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性―議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】

Course outline;
Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.

Learning Objectives;

To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.

To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.

Grading Criteria/Policy;

The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.

The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500P2 - 053

政策評価論

南島 和久

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方について議論する。その際、歴史を踏まえた理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウントビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。サステナビリティ学専攻においては、ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

オンラインにて行う予定である。授業は1回2コマで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形式での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系的、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に関して、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価

- 第5回 業績測定と自治体①：事務事業評価、総合計画の評価
自治体評価がどのように組み込まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。
- 第6回 業績測定と自治体②：計画と評価、マニフェストと評価
自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。
- 第7回 業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。
- 第8回 業績測定と独立行政法人②：地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価とその課題について議論する。
- 第9回 国の府省の評価①：中央省庁等改革と評価、総務省の政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。
- 第10回 国の府省の評価②：国の府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
- 第11回 アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。
- 第12回 アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。
- 第13回 評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。
- 第14回 評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020年。

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』晃洋書房、2020年。
馬場健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。
山谷清志監修、大島巖、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021年。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、**najima ■ policy. ryukoku.ac.jp**（「■」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、政策学

<研究テーマ>政策評価の制度運用

<主要研究業績>『政策評価の行政学』（単著、晃洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、晃洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、晃洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、晃洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、晃洋書房）など

【Outline (in English)】

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

SOC500P2 - 054

社会調査法 1

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 社会調査法の入門科目として、社会調査の基本的な事項を学ぶ。
2. 社会調査の全体像、社会調査の歴史的経緯について概説する。
3. 社会調査の様々な手法について検討する。
4. 質的調査と量的調査双方の基本事項を理解する。
5. 調査倫理など調査に伴う問題を学ぶ。

【到達目標】

1. 社会調査の基本事項、歴史を簡潔に説明できる。
2. 量的調査と質的調査の相違を識別できる。
3. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に調査を始めることができる。
4. 倫理違反といった概念について具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

社会調査の基本事項を理解し、全体像を把握するために、次のように授業を進めていく。

1. 社会調査の歴史的経緯を学びつつ、様々な社会調査の手法を説明する。
2. 質・量双方の調査研究の特性について、調査の企画・実施、成果の発表に至るまでの流れを具体的に解説する。
3. 調査倫理の問題を踏まえつつ、社会調査の意義についての理解を促す。

授業は原則対面で実施する講義形式によって進められるが、必要に応じて、グループ討議などの形式をとることがある。授業への学生の積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会調査の基本的な考え方 1	・社会調査の諸定義と目的 ・社会調査の諸類型
第 2 回	社会調査の基本的な考え方 2	・量的調査と質的調査 ・成果の公表
第 3 回	社会調査の歴史 1	・社会調査の源流：人口調査、貧困調査 ・民族誌の系譜：文化人類学、シカゴ学派社会学
第 4 回	社会調査の歴史 2	・日本の社会調査：国勢調査、都市及び農村調査、SSM 調査等
第 5 回	社会調査の設計 1	・社会調査の全過程：着想から成果の公表まで ・問いと対象の設定
第 6 回	社会調査の設計 2	・調査・分析手法の選択 ・手法による手順の違い：研究における「仮説」の位置
第 7 回	量的調査の方法と実例 1	量的調査のステップ：仮説の操作化、調査票の作成、サンプリング、実施、データの入力と分析

第 8 回	量的調査の方法と実例 2	・実例に基づく量的調査実施過程の追体験
第 9 回	質的調査の方法と実例 1	・質的調査のステップ：関連資料の収集、参与観察、聞き取り調査の実施、データの整理と分析
第 10 回	質的調査の方法と実例 2	・実例に基づく質的調査実施過程の追体験
第 11 回	理論と調査との関係 1	・理論命題と理論枠組 ・先行理論の位置づけ
第 12 回	理論と調査との関係 2	・認識の深まりと問いの洗練
第 13 回	調査倫理	・調査者と被調査者との関係 ・学問としての倫理、調査における倫理
第 14 回	調査の社会的意義	・社会調査と価値判断の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

論文作成と社会調査との関係性、たとえば論文作成において社会調査はどのような位置づけにあり、どのような役割を果たしているかなどについて、より理解が深まるように授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 2～8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014 年、新曜社。
共著『よくわかる都市社会学』2013 年、ミネルヴァ書房。
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質的なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号、2021 年。

【Outline (in English)】

This course deal with basic matters of social research. It also enhances the development of students' skill in considering various methods of social research.

By the end of the course, students should be able to explain basic matters of social research, especially about the difference of quantitative and qualitative research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P2 - 055

社会調査法2

中筋 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の社会調査法のうち、統計学の応用による、大人数の社会意識や集合行動の構造の解明を目的とするサーベイ型の調査法について概説する。まずこの調査法の成立の歴史的経緯と基本的な論点を踏まえた上で、調査計画から結果の統計解析までのプロセスを概観するとともに、その時々を生じる実践的課題について詳論する。さらに、社会意識調査を政策形成に活用する方途についても考察したい。

【到達目標】

サーベイ型の社会調査に関する基本的知識、特に調査の計画から報告書の作成までの一連の流れを理解し、知識として習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室で対面を実施（予定）。実習的な作業をとまなう、各回2時限の連続講義。課題やレポートについては事後に全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論 1	社会科学的認識と計量的社会調査の関係について
2	概論 2	近代日本における計量的社会調査の展開と課題
3	調査の設計 1	調査票調査の企画・設計（質問文案をレポートとして提出）
4	調査の設計 2	質問文と選択肢の構成（調査票作成作業を実習形式で行う）
5	サンプリング 1	サンプリングの統計学的基礎
6	サンプリング 2	サンプリングの種類と実施上の問題
7	調査の実際 1	計量的社会調査における調査者と被調査者の関係
8	調査の実際 2	調査票の配布・回収をめぐる諸問題
9	データの集計と整理 1	コーディングとデータクリーニングの方法
10	データの集計と整理 2	コーディングから度数分布表作成までの過程（仮想的な調査データを用いて実習形式で行う）
11	調査データの読み方	基本統計量とデータ分布の概説
12	展開的講義	政策形成と社会意識調査
13	まとめ 1	社会調査を政策形成に活用する方途について（講義）
14	まとめ 2	社会調査を政策形成に活用する方途について（討論）別途レポート提出および筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示した課題を指示された期日までに自宅で用意し、提出すること。授業終了後参考書を手入・熟読して、重要箇所を復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 30 %、課題提出 15 % ×2 回、筆記試験 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

最近の現場での社会調査の応用についての批評的講義を増やす

【学生が準備すべき機器他】

各自自宅でパソコンを使用した作業が必要。学習支援システムへのアクセスが必須。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 地域社会学

〈研究テーマ〉 地域社会の構造分析

〈主要研究業績〉『よくわかる都市社会学』（2013、ミネルヴァ書房）、『群衆の居場所』（2005、新曜社）

【Outline (in English)】

(Course outline) This lecture aims to study basic methods of social research by statistical sampling and questionnaires. (Learning Objectives) The goals of this lecture are understanding the basics of social research by statistical sampling and questionnaires. (Learning activities outside of classroom) Writing reports and Reading directed books. (Grading Criteria / Policy) Positivity to classwork: 30%, Reports: 15%*2, Final Exam: 40%

SOC500P2 - 056

社会調査法3

見田 朱子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学における統計データの利用法。

「統計データ」を読み、書（描）き、利用するための基本概念や方法を理解する。具体的には、統計資料の整理の仕方、基本的な統計量の読み方、図表の読み方、作成方法について。また、変数間の関係を記述する方法やその読み取り方についても解説するので身に付けてほしい。

さらに「非統計（質的）データ」を読むときの基本事項の学習を踏まえ、社会調査におけるデータ活用方法についての理解を促す。技術的には、Excel および無料の統計ソフト R 等を用いた実習を通じてデータ分析の実践的理解を深める。

【到達目標】

統計データの形式を整えたり、変数を操作化することができる。
 統計データの情報を要約することができる。
 統計ソフトを用いて変数間の相関や連関を調べることができる。
 統計ソフトを用いて推定や仮説検定を行うことができる。
 統計データをグラフや表によって可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC 操作の可能な学習室を利用予定。
 「社会統計」と「社会調査」の仕組みを根本的に理解するための講義を行う。また Excel や統計ソフト R の技術的な習得が一つの重要な目標であるため、PC 操作の実習は必須である。発表や課題提出は社会調査の結果報告に欠かせないため、Word や PowerPoint 等の扱い方を含めた、基本的なレポート（論文）の書き方についても指導する。

クラスの親睦を深め、具体的なテーマに接するため、授業内発表の機会も設ける予定である。また、リアクションペーパーではなく、都度の質問や対話やメールでの補足を受け付ける予定。

成績は、受講人数にもよるが、授業内での小課題と発表、レポートによる予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	1 統計データの基本事項 2 統計データの基本概念	・統計データの目的と種類 ・社会（学）理論とデータとの関係 ・測定と変数の種類 ・記述統計と推測統計 ・データの解釈
第 2 回	3 統計資料の整理 4 度数分布	・統計資料の整理 ・データファイルの作成 ・2 次資料と公開データ・単純集計と度数分布表 ・図の種類 ・相対度数による表示の機能と問題

第 3 回	5 分布と統計量 1 6 分布と統計量 2	・平均 ・分散 ・標準偏差 ・中央値 ・分位数 ・標準化 ・（標準）正規分布
第 4 回	7 検定の基礎知識 8 クロス表 1	・母集団と標本データ ・仮説 ・独立変数と従属変数 ・因果関係 ・クロス表の作成と読み取りの一般原則 ・DK と NA ・情報の圧縮
第 5 回	9 クロス表 2 10 相関 1	・関連性の読み取り：オッズ比とリスク比 ・第 3 変数とエラボレーション ・散布図 ・相関係数
第 6 回	11 相関 2 12 復習と補足	・相関関係と因果関係 ・擬似相関 ・結果の解釈と提示の方法 ・作図のオプション
第 7 回	13 非統計データについて 14 総括	・「量のデータ」への変換と利用の方法 ・テキスト（化）データの扱い方 ・社会調査の基本事項に関するまとめと成績評価に関わる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉野勇『入門・社会統計学: 2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社、2017 年。（データ資料を利用します。web 上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布する予定。初回授業では未購入で構いません。）

【参考書】

G.W. ボーンシュテット / D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。
 石川淳志他編、1998、『見えないものを見る力—社会調査という認識』八千代出版
 『入門・社会統計学』サポートウェブ (<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>)
 R Tips (<http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html>)
 他（授業中に適宜紹介）

【成績評価の方法と基準】

課題提出によって評価。
 課題は、複数回ある小課題（合計 40%）、期末の発表（30%）および期末レポート課題（30%）を指す。
 ただし、オンライン授業の取入れなどによって「小課題」や「発表」の内容や方法に変更が有り得る。
 また、授業期間中の授業貢献度（クラス全体の理解を助ける質問や意欲的な取り組みなど）を 10-20% 程度取り入れる場合がある。
 ※出席が 2/3 に満たない場合は無条件に「不可」となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向性のある授業を心がけたい。
 また授業時間外の学習に取り組みやすいよう、オンライン資料等の活用を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや授業システム等を利用予定。
 必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコン等の演算機器が必要になる。自宅に用意できない場合は登校して学習する必要が出てくる。

【その他の重要事項】

社会調査士資格認定のためのカリキュラム「C」科目に相当する。オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。

その他の機会については初回授業でお知らせする。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 社会意識、比較社会学

＜研究テーマ＞ 「幸福」の社会学

＜主要研究業績＞

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series — World Values Survey (世界価値観調査)を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

【Outline (in English)】

Learning how to use statistical data in social science research: Beginner level.

Understand basic concepts and methods for reading, writing and drawing statistical data. Specifically, how to organize statistical data, how to read basic statistics, and how to understand and create tables and graphs. Then, also we learn how to know and describe (and read) relationships between variables. Furthermore, based on the learning about basic non-statistical (qualitative) data, encourage understanding of "data" analysis in social survey research.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on tasks: assignments 40%,presentation 30% and end-term report 30%. Maybe in-class contribution also will be considered (20% max.and in case, assignments 30% and presentation 20%).

*We use Windows PC; Excel and statistical package "R".

SOC500P2 - 057

社会調査法 4

見田 朱子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の、あるいはオリジナルに収集されたデータセットについて、基礎的な統計処理を経てレポートを作成するまでのスキルを身につけることを目的とする。

主な内容は、既存の統計調査の検討、学術的調査と実務的調査の違い、統計の理論的背景、R の使用方法などである。あわせて、数値データの解釈に必要な現代社会の諸相についての知識も得る。大きな前提として、本講義は社会調査について学ぶ中にある。したがって、「社会調査」というもののあり方や、その中での定量的調査・分析の位置づけといったものの理解もうながす目的もつ。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の4点である。

- ①定量的社会調査の基礎知識を得る
- ②定量的社会調査をとまなう学術論文を理解できるようになる
- ③自身の論文作成において定量的社会調査を活用できるようになる
- ④行政、ビジネス等の実務においても定量的社会調査を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義と演習をとりまぜて進める。PC 操作の可能な学習室を利用予定。

2 コマ連続のクラスだが、1 コマずつ別の単元で区切る場合と、連続して1つの単元に取り組む場合、あるいは前半と後半を講義と実習に振り分けることなどがある。講義もだが、特に実習は遅刻や欠席によって進行についていけなくなるので留意されたい。

リアクションペーパーを兼ねた小課題、期末にはレポートと発表を兼ねた課題を出す予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	イントロダクション 社会調査と社会統計学の歴史
第2回	統計ソフト R の扱い方	R の紹介と基本的な使い方 復習を兼ねて、基本統計量の算出などを確認。
第3回	確率論の基礎	確率分布の考え方 正規分布の意味と性質
第4回	R 実習 1	基本操作方法～確率と確率分布に関するコマンド
第5回	統計的（量的）分析の基本	データセットの取り扱いとデータクレンジングについて
第6回	R 実習 2	データ操作の基本・データ取得～データクレンジング
第7回	分布と確率	正規分布の意味と性質～二項分布
第8回	R 実習 3	表の作成と解説 正規分布曲線をはじめとしたグラフィックの基本（図の作成）
第9回	統計的検定の基礎	推測統計と、帰無仮説の考え方

第10回	検定の手順	検定の手順を確認しつつ、R を使って例題を解き、結果を解釈し文章化する。
第11回	各種の検定 独立性の検定 2群間の差の検定	検定の種類外観 カイ二乗検定と t 検定
第12回	R 実習	カイ二乗検定と t 検定
第13回	回帰分析	回帰分析の考え方と手順
第14回	R 実習 まとめ	回帰分析の実習 成績評価にかかわるまとめ作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習は Windows パソコンで無料の統計ソフト R を使用して行う。このため、特別なスキルは必要ないが、エクセルやワードをごく一般的なレベルで使える程度のスキルが必要である。できれば R を予めダウンロードしておくこと。またパソコンスキルに自信のない受講者は事前に Windows パソコンに十分に慣れておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しないが、下記の書籍を適宜参照すると理解の助けとなる。この書籍の公開データなどを利用してもらう予定である。また、R の操作方法については Web 上に公開されている参考ページなどを交えて適宜紹介する。

杉野勇『入門・社会統計学：2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社、2017 年。

【参考書】

石川淳志他編 1998、『見えないものを見る力——社会調査という認識』八千代出版。

G.W. ボーンシュテット／D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。

【成績評価の方法と基準】

実習的な小課題 30 %

授業中の理解・貢献状況 10 %

期末レポート・発表 60 %

ただし、受講人数やオンライン回の活用状況などによって、評価の方法や内容は変更になることもありうる（このような場合には受講生への確認と周知をする）。

【学生の意見等からの気づき】

・実習の進行について、パソコンに慣れていないと「早すぎる」と感じられるかもしれない。不安を感じる場合は、受講までにパソコンにできるだけ慣れておくことが望ましい。エクセルが一応使えるというレベルを念頭においている。

・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。

・社会調査法1～3（特に3）は、必須ではないが既習であることが望ましい。例年、「3」より先に本講「4」を履修したいという相談がある。履修予定等さまざまな事情はあるだろうから、できる限り対応したいと思うが、理解度としてはやはり難しいところがあると感じている。「3」からは積み重ねの関連性が非常に高い科目なので、非常な努力の覚悟が必要になる。履修相談に来るのは構わない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Windows）および周辺機器。Mac や Linux でも履修可能だが、授業は Windows を前提として行う。iPad 等のタブレット端末は使用できない。

Excel もしくはこれと同等に使用できる表計算ソフト。ただし Excel 以外のソフトを使用する場合、それに合わせた特別な指導や補助はできない。

できれば R をインストールしておくこと（講義予定の教室 PC にはインストール済み。初回授業で案内予定）。

【その他の重要事項】

・本講義の受講前に、社会調査法の1～3あるいはそれに相当する内容を受講済みであることが望ましい。カリキュラム上はこれらの受講順は強制されることはないし、相談にも応じるが、特に社会調査法3（記述統計）からの積み重ねがないと相当に難しいだろうと忠告する（例えるなら、四則計算を学ばずに面積や体積の計算方法を学ぼうとするようなもの）。

・質問等はメール（akiko.mita.86@hosei.ac.jp）でも受け付ける。

・講義開始後、授業内容にかかわる質問はクラス全体で共有したい。そのため極力「その場で」の質問を推奨し、メール等でいただいた質問もプライバシーの問題等がない範囲で公開の回答とする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会意識、比較社会学

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

「『幸福の基準』及びその設定における『近代化』の影響」『SSJDA Research Paper Series — World Values Survey (世界価値観調査)を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

【Outline (in English)】

This course introduces the skill of quantitative research data.

We will study about technics to analyze statistical data and social research plan. At the end of the course, participants are expected to understand the difference between academic and practical research, theoretical background of social statistics, and be able to analyze statistical data using R.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on assignments 30%,end-term report and presentation 60% and in-class contribution 10%.

SOC500P2 - 058

社会調査法5

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的な調査と分析の方法についてより深く学び、基本的な質的調査計画が設計できることを目指す。そのために、さまざまな質的データの収集と分析の具体的方法について理解を深め、実践に役立つ知識を身に付ける。とくにフィールドワークに必要な技法や倫理的な問題についての知識を習得する。

【到達目標】

1. 質的調査におけるデータ収集の基本手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析について、各手法の利点と問題点を説明できる。
2. 質的調査の分析技法である、インタビュー分析、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析、内容分析、ビジュアルデータ分析について、各技法の内容を説明できる。
3. 質的調査の実施に向け、基本的な調査計画が設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

1. まず、質的調査の考え方や設計の仕方について解説する。
2. つぎに、フィールドワークの基本的な質的調査手法である、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析の各項目について、事例を使って具体的な解説を行い、質的データの収集・分析方法について理解を深める。
3. さらに、分析結果の提示（論文・報告書の発表）を念頭におき、被調査者との関係など倫理的な問題についての理解を促す。授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論 1：社会調査の全体像	・社会調査と質的調査の定義／目的 ・質的調査と量的調査の定義／種類／特徴
2	総論 2：方法論的スタンスの識別	・方法論的スタンス（個人主義／集団主義）の自己把握と客観性問題
3	総論 3：質的研究の意義と特性	・質的研究の現代的特徴と意義 ・帰納的研究および「中範囲の理論」の重要性
4	質的調査の設計—調査研究のプロセス	・質的調査のプロセス ・「問い」「仮説」の設定の重要性と問題点 ・先行研究との関連性
5	フィールドワーク 1—社会的生活の記述	・質的調査におけるフィールドワークの流れ ・フィールドワークの論点
6	フィールドワーク 2—事例の俯瞰的把握	・先行研究事例の構造とプロセス ・事例の評価と限界

7	質的データの収集 1—聞き取り調査	・聞き取り調査の意義と境界 ・インタビューの種類 ・聞き取り調査のプロセス
8	質的データの収集 2—参与観察	・参与観察の利点と問題点 ・「問い」の設定時期
9	質的データの収集 3—ドキュメント分析	・ドキュメント分析の様々な材料 ・分析によって明らかにされるものの
10	質的調査の分析技法	・カテゴリー分析の特徴と理論的背景 ・シークエンス分析の特徴と理論的背景
11	質的データの分析 1—ライフヒストリー分析	・ライフヒストリー分析の特徴と意義 ・先行研究の解説
12	質的データの分析 2—内容分析、会話分析	・内容分析の特性と具体例 ・会話分析の内容と先端的意義
13	調査結果のまとめ方と発表での活用	・論文／報告書の作成 ・発表での活用事例の検証
14	調査倫理—成果の公表とその問題	・調査倫理規定 ・プライバシー保護 ・被調査者保護をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

学界の現代的潮流のなかでの質的調査の位置づけと重要性について、より理解が深まるように授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・6・8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014年、新曜社。
共著『よくわかる都市社会学』2013年、ミネルヴァ書房。
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号、2021年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about specific methods of collecting and analyzing qualitative data.
By the end of the course, students should be able to explain specific methods of qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P2 - 059

社会調査法6

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学および政策科学の研究の実際場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する調査の方法論と有機的に結びついたかたちで、調査をデザインしてデータを収集／分析する思考法を実践的に習得する。とくに調査企画・設計のプロセスに軸をおいた、量的調査と質的調査の両面からの実習体験を通じて、さまざまな社会調査手法の利点／欠点、意義／限界について理解する。そして最終的に、受講者が各自の問題関心に対して、マルチメソッド法や混合研究法の方法論に基づいて調査デザインが立案できる構想力を習得する。

【到達目標】

1. 社会調査の実施に向け、社会データを収集／分析するための実践的な思考法を身につけている。
2. 量的調査の基本的な企画・設計ができ、それに基づいて比較的簡単な量的分析とグラフ作成を行える。
3. 社会調査の方法論的立場を認識して、質的調査の基本的な企画・設計ができる。
4. 受講生各自の問題関心に基づく調査計画、およびその調査に基づく修士論文の執筆計画を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

1. 総論として、社会学および政策科学の社会調査について、そして社会調査のプロセス・諸類型・倫理について解説する。
2. グループワークによる実習を中心にして、量的調査の基本的な企画・設計と簡単な量的分析を行う。
3. グループワークおよび個別単位での実習を中心に、質的調査の基本的な企画・設計と方法論的立場の違う質的先行研究の分析を行う。
4. 受講者各自の問題関心に対して、マルチメソッド的な調査デザインを構想する。

授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で実施する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論 1：社会学・政策科学と社会調査	・調査背景、調査目的、意義と限界
2	総論 2：社会調査のプロセス	・企画から報告書の作成まで
3	総論 3：社会調査の諸類型	・データの収集と分析
4	総論 4：社会調査の倫理と真正性	・量的調査／質的調査、混合研究法、デジタル・サーベイ
5	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計 1	・ラポールの構築 ・調査に特有の倫理
6	グループの問題関心に基づく量的調査の企画・設計 2	・調査テーマの設定 ・仮説構成 ・サンプリングの対象・方法 ・調査票の作成 ・ワーディング、プリテスト ・企画・設計内容の発表

7	調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析 1	・調査データの整理 ・度数分布表・ヒストグラム・円グラフの作成
8	調査票調査の既存データを利用しての簡単な量的分析 2	・クロス集計分析 ・分析結果の発表
9	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計 1	・データの収集方法 ・聞き取り調査 ・社会構造主義／構築主義
10	事例の映像データから構想する質的調査の企画・設計 2	・ライフストーリー分析 ・会話分析 ・企画／設計策定結果の発表
11	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較 1	・研究目的の相違 ・先行研究の批判的視点 ・調査手法の組合せと限界
12	質的調査の方法論的アプローチが相違する事例研究の比較 2	・方法論的個人主義／集団主義 ・参与観察の利点 ・マルチメソッド法の効用
13	マルチメソッド的な方法による社会調査デザインの構想 1	・混合研究法の方法論の特徴と意義の把握
14	マルチメソッド的な方法による社会調査デザインの構想 2	・マルチメソッド法・混合研究法の方法論に基づく調査デザインの実践的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

社会調査の企画・設計時に、マルチメソッド法や混合研究法の手法を活用して立案できるように注力していく。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回目の講義時に確認する。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・5・8」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014 年、新曜社。
共著『よくわかる都市社会学』2013 年、ミネルヴァ書房。
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件—異質なコミュニティ・ピロングの確立論」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号、2021 年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about planning and design of social research by practical training.
By the end of the course, students should be able to make a research plan based on each student's interests in problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report(60%), short report(20%) and in class contribution(20%).

SOC500P2 - 050

社会調査法7

見田 朱子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、定量的社会調査の結果をデータとして用いる多変量解析の技術を学ぶものである。しかし、昨今、統計パッケージの普及によって、複雑な統計解析も容易に行えるようになってきた反面、それぞれの統計手法の基礎や特徴を理解しないまま分析がされることも少なくない。本講義では、技術そのものとしての習得と同程度あるいはそれ以上に、その技術が社会調査のなかでどのように利用されるのか、社会調査結果の分析と考察の過程にどのように位置づけられるのかといった理解を重視する。

具体的には、統計学の基礎を確認しつつ、まずは分散分析と線形回帰モデルの学習を通じて、交互作用項を中心とした多変量解析の基本的な考え方を学ぶ。さらに線形回帰モデルとの差異に注目しながら、ロジスティック回帰分析について学習する。また、探索的分析手法としてクラスター分析、主成分分析、因子分析を紹介し、その概要を学習する。

これらの分析手法は、統計パッケージ R による実習を通じて、実践的に修得することが目指される。またその際には、統計パッケージの単なる使用方法の習得ではなく、各手法の考え方やその結果の意味を理解することに重点を置く。

【到達目標】

本講義の目標は、線形回帰モデルなどの学習を通じて、多変量解析の基本的な考え方を修得することである。座学と実習を通じて各分析手法の考え方や仮定について理解し、自ら説明できるようになることが目標である。それと同時に、統計パッケージ R を用いた実習によって、実際に分析するための技術の修得も目指す。

また、本講義はあくまでも社会調査法の一環としてあることを前提とし、社会調査の中で、またその結果を分析・考察・発表する過程において、これらの技術がどのように利用できるか、できないかを理解することも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講では、対面の講義と実習を通じて多変量解析の考え方や仮定について学習する。各回の授業は講義とともに適宜統計パッケージの操作実習をはさむことで理解を深める形でおこなう予定である。表計算ソフト Excel のほか、統計ソフトとしては無料の R を用いる。R については基本的な操作方法から確認するので初見でも構わないが、統計的（量的）分析については社会調査法3、4などで推測統計の基礎までは学んでいることが望ましい（必須ではない）。

履修人数にもよるが、都度の質問や対話やメール・学習支援システムの機能等によって補足をしていきたい。リアクションペーパーは対面の場合のみ予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多変量解析に向けた準備 1	社会学と多変量解析、R 紹介と復習を兼ねて、基本統計量の算出方法。標準化、共分散と相関係数について。

2	多変量解析に向けた準備 2	R の操作に慣れつつ、統計的推測と仮説検定、検定の全体図を確認。
3	分散分析	多変量解析の基本的な考え方。分散分析の基本。級内平均と級間平均、一元配置、多元配置、実習
4	線形回帰分析と最小二乗法（OLS）	線形回帰分析における仮定
5	基本統計量と OLS 推定量の関係	分散分析表の読み方や決定係数について学習
6	重回帰分析	統制・偏相関、多重共線性、修正済み決定係数、結果の t 検定・F 検定
7	実習と補足：分析の準備～結果の解釈	ダミー変数とその作り方、直接効果と間接効果、交互作用
8	ロジスティック回帰分析の基礎	オッズとロジット、回帰係数の解釈、回帰係数とモデルの検定
9	分析方法の整理	仮説検定のための分析と、探索的分析
10	クラスター分析	クラスター分析の紹介と基本的な方法
11	主成分分析と因子分析	考え方の基礎、主成分、潜在因子と観測因子、因子負荷量、寄与率
12	因子分析と主成分分析の実習	因子分析、主成分分析表の図示と解釈
13	データの選び方、分析方法の選択方法、補足	「データ」とは、どのように考えるべきなのか。選び方、利用の仕方
14	まとめ	まとめと成績評価にかかわる作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉野勇『入門・社会統計学：2 ステップで基礎から [R で] 学ぶ』法律文化社、2017 年。
（データ資料を利用します。web 上にも公開部分があり、授業プリント・資料も配布するので、初回授業では未購入で構いません。）

【参考書】

G.W. ボーンシュテット / D. ノーキ著、海野道郎・中村隆監訳、1992、『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社。
石川淳志他編 1998、『見えないものを見る力—社会調査という認識』八千代出版。
盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。
『入門・社会統計学』サポートウェブ (<http://sgn.sakura.ne.jp/text/textbook.html>)
R Tips (<http://cse.naro.affrc.go.jp/takezawa/r-tips/r.html>)
他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献と理解度（20 %）
課題（80 %）
授業への貢献と理解度とは、クラス全体の理解を促す質問、意欲的な取り組みなどを指す。
課題は授業期間中の複数回の小課題、および期末レポートとする。受講人数によっては、発表も取り入れる。
これらの内容は、オンライン回の有無等によっても変更の可能性がある。何らかの変更がある場合には必ず受講生に確認と周知をする。
※出席が 2/3 に満たない場合は自動的に「不可」となります。

【学生の意見等からの気づき】

・学生の反応をみながら講義と実習のバランスを工夫する。双方向の授業を心がけたい。
・本講義参加者は、学生である以外に仕事を持っていることが多い。授業の進行速度や課題提出、遅刻や早退などについては初回授業で相談のうえクラス運営をする予定である。

【学生が準備すべき機器他】

実習演習・資料配布・課題提出等のためにメールや学習支援システム等を利用予定。
必ず準備すべきものは特にないが、自習のためにはパソコンおよび周辺機器、Excel と R のインストールが必須となる。インターネット通信のできる環境も必要になる。自宅にこれらを準備できない場合は学校の設備を利用するために登校するなどの必要がある。

授業予定の教室には、R インストール済みのパソコンが準備される予定。各自のパソコンへの R のインストールは授業での案内後でもよい。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格認定のためのカリキュラム「I」科目に相当する。シラバス内容にある通り、多変量解析とその応用を扱う。社会調査法1～4あるいはそれ相当の内容を学習済みであることが望ましい。特に推測統計の基礎（社会調査法4相当）については理解していること、少なくとも履修済みのものとして授業を進めるため、未履修あるいは同時並行して学習することは望ましくない。ただし、自信がない程度であれば本講を是非履修して、分析技術を実用的なものとしてほしい。

オフィスアワーについては、基本的に授業中に質問時間を設ける。その他の機会については初回授業でお知らせします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会意識、比較社会学

<研究テーマ> 「幸福」の社会学

<主要研究業績>

『「幸福の基準」及びその設定における『近代化』の影響』『SSJDA Research Paper Series — World Values Survey（世界価値観調査）を用いた実証研究：労働・幸福・リスク』SSJDA - 40, 東京大学社会科学研究所, pp.96-117, 2009年.

【Outline (in English)】

Advanced class: Social statistical analysis (multivariate data analysis)

We learn:

Interaction term through variance analysis and linear regression model, then logistic regression analysis, at last, exploratory analysis method – principal component analysis and factor analysis.

It is a practical class using a statistical package soft "R".

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the assignments. Your required study time is at least 2-3hours for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution 20% and on tasks 80%; including assignments and end-term report, and maybe presentation (depends on class size).

SOC500P2 - 051

社会調査法 8

竹元 秀樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査に関する基礎的理解を踏まえた上で、様々な質的データの分析法を疑似体験を通じて理解する。特にグループワークにより、インタビュー分析、アートベースリサーチ分析、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、混合研究法等における実践的な分析能力を、意識と感性の両レベルから習得する。

また、質的データの収集方法から分類化される、それぞれの質的調査手法の分析局面における限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てる能力を獲得する。そして、最後に質的調査を行う上で重要な論点となりうることに付いて、実践的な観点から考察し議論する。

【到達目標】

1. 質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について概要を説明できる。
2. インタビュー分析、会話分析、内容分析、グラウンデッド・セオリー分析の特性を理解の上実践できる。
3. 質的データの分析結果を、中範囲の理論の構築へとつなげることができる。
4. 質的調査の各手法の限界を理解して、その限界を乗り越えるためのマルチメソッドな調査手法を組み立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

1. 総論として、質的調査の意義・目的、調査／分析技法、倫理問題について解説する。
2. グループワークによる実習を中心にして、フィールドワークの映像データやアートベースリサーチを活用しての質的分析を行う。
3. グループワークの実習を中心にして、ドキュメント分析、内容分析、会話分析、マルチメソッド分析を行う。
4. 最後に、質的分析という研究作業の仕組みを実践的な観点から議論・総括する。

授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の人数や問題関心によって若干変更する可能性がある。授業は原則対面で開催する。授業への積極的参加を促すためリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 1:質的調査とは何か	・社会調査／質的調査の意義・目的、量的調査との違い
第 2 回	総論 2:質的調査の調査技法—質的データの収集とプロセス	・フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析
第 3 回	総論 3:質的調査の分析法—質的データの分析と知見の抽出	・インタビュー分析、内容分析、ライフヒストリー分析、会話分析、アートベースリサーチ
第 4 回	総論 4:質的調査の倫理問題	・聞き取り調査でのラポール形成、参与観察での立ち位置
第 5 回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析 1	・聞き取り調査／参与観察の疑似体験、フィールドノートの作成、収集したデータの把握

第 6 回	フィールドワークの映像データを活用しての質的分析 2	・KJ 法によるデータの整理と分析、分析結果の発表と討論
第 7 回	アートベースリサーチを活用しての質的分析 1	・他者の語りをなぞる演技—意識レベルから感性レベルでの体験からの把握
第 8 回	アートベースリサーチを活用しての質的分析 2	・他者の語りをなぞる作画—作画意識の相対化から主体化への変容からの把握
第 9 回	質的研究の代表的論考を活用しての質的分析 1	・質的分析法の有効性と意義の考察—質的データと量的データの見せ方の工夫
第 10 回	質的研究の代表的論考を活用しての質的分析 2	・質的研究における調査事例の典型性と研究成果の普遍性の事後的獲得の理解
第 11 回	会話分析の実践	・社会構築主義に基づく論文—会話データから見えてくるもの
第 12 回	マルチメソッド分析の実践	・混合研究法による研究事例—研究デザインのデータから見えてくるもの
第 13 回	総合討論 1	・受講者各自の問題関心に基づく質的調査デザインの発表と討論
第 14 回	総合討論 2	・質的調査の分析における実践的課題と取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業 1 回につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の内容が多岐にわたるため、特に指定しない。なお、授業で分析する文献については、事前に伝える。

【参考書】

都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、リアクションペーパー 20 %、レポート課題 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

質の高い論文作成のための質的研究の活用の仕方について、より理解が深まるように授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格「社会調査士」「専門社会調査士」
関連科目「社会調査法 1・2・3・5・6」

【専門領域】

地域社会学、都市社会学、社会調査法

【研究テーマ】

現代社会および地域社会の社会構造分析
二大価値観（個人／集団）の関係構築問題

【主要研究業績】

単著『祭りと地方都市—都市コミュニティ論の再興』2014 年、新曜社。
共著『よくわかる都市社会学』2013 年、ミネルヴァ書房。
直近論文「現代社会における集団形成の規範的条件」『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 2 号、2021 年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a performance in their qualitative research.
By the end of the course, students should be able to acquire the practical skills and knowledge in their qualitative research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report(50%), short report(20%) and in class contribution(30%).

POL500P2 - 052

政策分析評価技法

阿部 一知

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ① 公的主体が実施する経済政策の効果について、経済学的な分析方法の枠組と手順を理解
- ② 日本あるいは海外の経済政策のいくつかの例を取り上げ、目的・効果の分析方法と結果を議論
- ③ 政策・プロジェクト評価手法の概略について理解

【到達目標】

公共経済学に基づいた政策評価の基本的枠組を入門的に理解する。代表的手法として費用便益分析の基本的考え方を学ぶ。政策評価の手順に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

全体 7 回程度の講義において、最初の 4 回程度は、公共的な政策の分析の枠組と手順について教科書に沿って紹介する。基本となるのは、厚生経済学を適用した公共経済学に基づいた理論である。また、その応用分野として、費用便益分析などのプロジェクト評価や、政策の評価手順などについても触れる。これらは講義と質疑を中心とする。

残り 3 回程度は、実際の政策を取り上げて、ディスカッションを行いながら事例研究する。具体事例は、学生の希望を取りながら選択する。原則として、1 週間前に材料を示すので、それに基づいた準備があることを前提に講義する。

講義は原則対面で行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。講義はオンラインで行う。毎回の講義で、学生の理解の確認のため課題を提示し、ディスカッションすることで理解を深める。また、フィードバックとして、メールで直接学生と質問応答や追加説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、政策分析の基本的な考え方	科目の全般的な内容、講義の進め方、教科書の説明。
第 2 回	分析の手順	ストーリー教科書第 1 章
第 3 回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明。政策決定モデルの紹介。ストーリー教科書第 2～3 章、第 6 章。
第 4 回	政策分析の手法（外部性モデル、選好の定義など）	厚生経済学の基礎の説明（続き）政策決定モデルの紹介。ストーリー教科書第 2～3 章、第 6 章。
第 5 回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明。ストーリー教科書 8～10 章。
第 6 回	政策分析の手法（費用便益分析入門など）	費用便益分析一般の説明（続き）ストーリー教科書 8～10 章。

第 7 回	政策分析の手順、公共選択、公共主体が政策を実施する根拠	公共選択理論の説明。ストーリー教科書 11～13 章。
第 8 回	事例研究の準備	事例研究のテーマ希望聴取など準備。
第 9 回	政策分析の手順など確認。	政策分析の手順（問題確定、選択肢提示、効果分析、評価）
第 10 回	事例研究 (1)	事例研究：具体的な政策（教員が提示）を取り上げて研究
第 11 回	事例研究 (2-1)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第 12 回	事例研究 (2-2)	事例研究：具体的な政策を取り上げて研究
第 13 回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。
第 14 回	まとめ、補足的なディスカッション	全体のまとめ。レポートの作成についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で、指示された資料・教科書該当ページを事前に読む。また、必要に応じて参考資料を参照する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ストーリー、ゼックハウザー「政策分析入門」 勁草書房

【参考書】

指定教科書よりも網羅的・体系的でないが、より新しい教科書として、バーダック「政策立案の技法」東洋経済新報社、を勧める（講義でも一部使用する）。その他の資料は、授業中に適宜指示する。配布できる資料は、ウェブで公開する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の参加（20％）と、レポート（80％）

【学生の意見等からの気づき】

事例研究をより幅広く行うため、課題の学生からの希望聴取を、第 2 回目から口頭でも行うこととした。

【担当教員の専門分野】

経済政策（貿易投資の経済効果、マクロ経済対策など）、応用経済学（応用計量経済モデルを含む）。研究者データベース参照 <https://ra-data.dendai.ac.jp/tduhp/KgApp?kyoinId=ymkkgkysggy>

【Outline (in English)】

【Course outline and Objectives】

The students are:

1. to understand the framework and procedures to analyze the economic effects of public policies,
2. to discuss several examples of economic policies in Japan and other countries, on their objectives and scope,
3. to understand policy/project evaluation methods.

As the goal, the students are to understand the basic framework of the policy evaluation, based on the public enconomics, including the cost-benefit analysis. In addition, the students are to be accustomed with the procedures of policy evaluation.

【Learning activities outside of classroom】

None

【Grading Criteria /Policy】

Participation in the class (20%), submission of a research report(80%)

COS500P2 - 054

数理モデル概論

松本 倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、コンピュータシミュレーションを用いた現状分析と将来予測のためのモデル化の手法について研究することを目的とする。

【到達目標】

はじめに代表的なシミュレーション事例を概観し、シミュレーションがどのように自然科学あるいは社会科学に寄与しているかを理解する。前半は、限りある資源（有限な資源）のもとで人間社会や生態系の動向を、システムダイナミクスを用いて定量的にモデル化する。これを通して環境問題を考える上での基本的な概念を考察していく。後半は、新型コロナウイルス感染症と関連する SIR モデルを学び、シミュレーションがどのように社会に役立っているかを考える。前半は Excel、後半は Python を用いる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP2」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。

本授業は、講義とコンピュータ実習を織り交ぜながら進める。コンピュータ実習によって、受講生は授業を深く理解することができる。また高度な数学的知識は必要とはしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと環境モデル概論	本講義を受講するためのガイダンスを行う。環境モデルと環境シミュレーションを概観する。
第 2 回	システムダイナミクスによる環境モデル 1	人口爆発と指数関数的成長の数理モデル。
第 3 回	システムダイナミクスによる環境モデル 2	有限世界における成長の限界の数理モデルを用いた人口爆発モデル。
第 4 回	システムダイナミクスによる環境モデル 3	有限世界における成長の限界とフィードバックによる系の応答を考慮した人口爆発モデル。生態系モデル・COVID-19 への応用。
第 5 回	SIR モデル 1	Python の基本的な文法を学ぶ。
第 6 回	SIR モデル 2	Python のプログラミングを習得する。
第 7 回	SIR モデル 3	SIR モデルを計算し、新型コロナウイルス感染症への応用を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。資料を授業時に配布する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点ならびに討論への参加状況 60 %、実習課題 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では情報実習室を使用する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論天文学

<研究テーマ> 星形成、太陽圏と宇宙天気

<主要研究業績>

- ① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123
- ② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77
- ③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this course is to study modeling methods for analyzing the current situation and predicting the future using computer simulation.

(Learning Objectives) The introduction will review representative simulation cases to understand how simulation contributes to the natural or social sciences. The first half of the course will use system dynamics to quantitatively model trends in human society and ecosystems under limited resources (finite resources). Through this, the basic concepts of environmental issues will be discussed. In the second half, students will learn about novel coronavirus infections and the related SIR model, and consider how the simulations are useful to society. In the the first half of the course, the studnets will use Excel and in the second half, the studnets will use Python. (Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) The percentage of regular marks and participation in discussions will be 60%, and 40% for practical assignments.

SOS500P2 - 055

地域コンサルティング論

佐谷 和江

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①本講義では地域コンサルティングの具体的なケースについて、発意・背景、コンサルティングの過程、成果・課題を分析・評価して提示する。
- ②また、コンサルティングに関する手法の演習を行う。
- ③さらに、地域自治やローカルガバナンスという枠組みの中で、実現のための体制やシステムのあり方、その中の地域コンサルティングの位置づけなどについて、方向性を示す。

【到達目標】

- ①地域コンサルティングの理論や方法論を実践的に学び、それを踏まえて、他事例について説明することができる。
- ②基礎的な地域コンサルティング能力を習得することができる。加えて、コンサルティングという職種研究を通じてキャリアデザインの一助とすることができる。
- ③地域コンサルティングの位置づけやシステムのあり方について、討論を重ねる。その結果、ローカルガバナンスについての自説を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」「DP4」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

コンサルティングとは、専門性を活かして、企業や行政などに対して外部から客観的に現状を把握し、問題点を指摘し、対策案を提示する業務を行うことである。地域コンサルティングは、自治体や住民に対して行うことが多い。ローカルガバナンスの主体である住民、NPO、行政、企業とは異なり、意志決定に参画するものではないが、それらに与える影響は小さくない。

本講義ではケーススタディや手法のスタディ・演習を行う中で、地域コンサルティングに関する理論や方法論を実践的に学ぶ。

授業形式（対面）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概論	授業の概要や地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを紹介する。手法としては「話し方」を学ぶ。
2	全市レベルの計画作成を支援するコンサルティング	練馬区や港区をケースに全市レベルの計画作成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション」を学ぶ。
3	地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティング	新宿区落合三世代モデル事業をケースに地域施設の運営組織形成を支援するコンサルティングを学ぶ。手法としては「ファシリテーション・グラフィックス」を学ぶ。
4	地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティング	横浜市まち普請事業や川崎市の区民会議等をケースに地縁型・テーマ型コミュニティ組織のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ロールプレイング」を学ぶ。

- 5 地域活性化（コミュニティビジネス）のコンサルティング 墨田区玉の井地区をケースに地域活性化のためのコミュニティビジネスへのコンサルティングを学ぶ。手法としては「プロセス・デザイン」を学ぶ。
- 6 社会貢献する人材育成のコンサルティング 江戸川総合人生大学をケースに社会貢献する人材育成のコンサルティングを学ぶ。手法としては「ワークショップのプログラム作成」を学ぶ。
- 7 講義の総括とレポート発表 これまでの講義の総括を行う。また、各自レポートを発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。

- 第2回：練馬区都市計画マスタープラン改定支援/12～15年度
<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/>
港区まちづくりマスタープラン改定支援/15～16年度
<https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/master-plan.html>
- 第3回：新宿区落合三世代モデル事業/06年度～08年度
<http://wp.3sedai.com/>
- 第4回：横浜市まち普請事業 左近山地区/07年度
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/machibusin.html>
- 第5回：墨田区玉の井地区/08～11年度
<https://teratama.tokyo/>
<http://ameblo.jp/tamanoicafe/>
- 第6回：江戸川総合人生大学/04年度～現在
<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】

- ①都市のイメージ/ケヴィン・リンチ/1960、翻訳1968、新版2007/岩波書店
- ②アメリカ大都市の死と生/ジェイン・ジェイコブス/1961、翻訳2010/鹿島出版会
- ③人間の街：公共空間のデザイン/ヤン・ゲール/2014/鹿島出版会
- ④都市計画とまちづくりがわかる本/2017/彰国社
- ⑤稼ぐまちが地方を変える 誰も言わなかった10の鉄則/木下 斉/2015/NHK出版新書

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：地域コンサルティングに関する理論や方法論を積極的に学んでいるか。

討論への参加40%：基礎的なコンサルティング能力の習得のための演習等に積極的に取り組んでいるか。

レポート・発表30%：地域コンサルティングの位置づけなどについて、具体的なケースを踏まえて方向性を検討し、発表してもらうが、その際、適切なケースを把握し、十分に考察を行っているか。

【学生の意見等からの気づき】

紹介する事例を更新するとともに、それぞれのケースにおいて、各主体の関わり方をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
都市計画、地域計画、コミュニティマネジメント
- <研究テーマ>
自治体の都市政策、コミュニティのエンパワーメント、地区計画制度
- <主要研究業績>
○「パンデミック×デジタル空間・グローバル社会」で続けるべきこと/2021/建築ジャーナル
- 都市計画の構造転換 整・開・保からマネジメントまで/2021/鹿島出版会

○ BIOCITY No.74 特集 エコロジカル・デモクラシーのデザインー
世界をつなぐ 15 の原則 / 2018 /ブックエンド

【Outline (in English)】

● Course outline

- ① In this lecture, you will learn specific examples of regional consulting.
- ② We will also practice consulting methods.
- ③ In addition, we will discuss the structure of the system and the role of regional consulting within the framework of local autonomy and local governance.

● Learning Objectives

The first goal is to learn the theory and methodology of regional consulting in a practical manner and be able to explain about other cases based on this learning.

The second goal is to acquire basic regional consulting skills. In addition, students will be able to consider their own career design by researching the consulting profession.

The third goal is to discuss the positioning of regional consulting and how the system should be. As a result, students will be able to explain their own theory of local governance.

● Learning activities outside of classroom

You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.

The standard preparation and review time for this class is 2hours each.

● Grading Criteria /Policy

Ordinary points (30%)

Evaluate by actively learning theory and methodology

Participation in discussion (40 %)

Evaluate whether you are actively engaged in exercises for acquiring basic consulting skills

Report and presentation (30%)

The report will be considered based on specific cases of regional consulting. At that time, evaluate whether it is an appropriate case and whether it is sufficiently considered.

SOS500P2 - 056

ファシリテーション演習

徳田 太郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複雑化・多様化する社会における政策プロセスに必要なスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本科目においては、政策過程における参加や熟議の位置づけ、その中でのファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の合意形成や課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・政策過程における参加や協働の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、多様な人々の個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

- 対面授業にて実施する。各回とも、講義と演習を織り交ぜながら進める。
- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
 - ・第2回：講義と質疑応答を中心に、政策過程と参加・熟議の関連を学習する。
 - ・第3～4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
 - ・第5回～第10回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
 - ・第11回～第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
 - ・第14回：まとめの講義を行う。
- *各回とも、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回 (1-前)	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第2回 (1-後)	政策過程と参加・熟議	政策過程におけるファシリテーションの位置づけを確認する（講義）

第3回 (2-前)	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第4回 (2-後)	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第5回 (3-前)	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第6回 (3-後)	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第7回 (4-前)	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第8回 (4-後)	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第9回 (5-前)	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第10回 (5-後)	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
第11回 (6-前)	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第12回 (6-後)	ファシリテーション実践①	参加型の場（ミーティング）の運営を体験する（演習）
第13回 (7-前)	ファシリテーション実践②	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第14回 (7-後)	まとめ	全体のまとめを行う（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にする。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理する。（予習・復習各120分程度）
- ・第5回～第10回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるように準備する。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめる。（予習・復習各120分程度）
- ・第11回～第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨む。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解する。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』（北樹出版、2021年、1,600円＋税、978-4-7793-0652-5）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、各回の振り返りシートの質と量（約50%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約50%）から、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でファシリテーター（進行役）を体験する機会を、より多く持てるように工夫する。

【その他の重要事項】

受講者同士の話しあいを中心とした体験型の授業です。受講希望者は、必ず第1回授業に出席してください。やむを得ない事情で第1回授業に出席できない場合には、事前にメールにて担当教員にご連絡ください（宛先：taro.tokuda.83@hosei.ac.jp、件名：法政大学大学院ファシリテーション演習）。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
- 政治理論（デモクラシー論）／ファシリテーション論
- <研究テーマ>
- 熟議デモクラシーの理論と実践／その中でのファシリテーションの位置づけ

<主要研究業績>

- ・「アイルランドの憲法改正における熟議と直接投票」『法學志林』118 卷 3-4 号、2020-2021 年
- ・「対話／熟議の場を生成するファシリテーション」『総合人間学』14 号、2020 年
- ・『はじめての地域づくり実践講座：全員集合！ を生み出す 6 つのリテラシー』（分担執筆）北樹出版、2018 年

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets necessary for the policy process in an increasingly complex and diverse society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this class, you will understand and acquire the position of participation and deliberation in the policy process, the significance of facilitation in this process, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered consensus building and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to participation and collaboration in the policy process.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of diverse people and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 50%, in class contribution: 50%.

POL501P2 - 057

政策研究概論（外国語）※韓国語

申 龍徹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における公共政策の仕組みと運用に関する理解

【到達目標】

この授業は、主に韓国からの留学生を対象とし、母語語（韓国語）により、日韓比較の視点から、日本の政治行政システムの基礎的な知識を説明し、日本の公共政策の制度的基盤や基本的な仕組みなどに関する基礎的知識の理解を目指す。この知識の活用により、より効果的な比較分析を行い、完成度の高い論文執筆ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、日本の政治行政に関する基礎的な知識の習得を目指し、政治体制・行政システム・地方自治制度・公務員制度・公共事業などテーマごとに基本的な仕組みと現況を説明し、受講者の質疑に回答する形式で進める。受講者の登録状況を勘案し、日本語と韓国語を兼用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
(1)	歴史	明治維新および戦後改革の内容を紹介し、その特徴を理解する
(2)	体制	日本国憲法の主な内容を紹介し、議院内閣制など政治体制の特徴を理解する
(3)	国会	国会の構成と政党制の内容を説明し、理解する
(4)	選挙	選挙制度の仕組みと現況（国・地方）について説明し、理解する
(5)	55年体制	55年体制による自民党の長期政権の形成と意思決定の特徴を説明し、理解する
(6)	行政	行政組織の構成と役割について事例を交えて説明し、理解する
(7)	行政改革 A	行政改革の歴史と内容を説明し、理解する
(8)	行政改革 B	省庁再編と行政改革の内容を紹介し、主な特徴を理解する
(9)	自治制度	地方自治法の構成内容と自治体改革の内容を説明し、理解する
(10)	地方分権	地方分権改革の内容と特徴について説明し、理解する
(11)	少子高齢化社会	少子高齢化の現況とその政策的対応について説明し、理解する
(12)	政策過程	公共政策の政策決定と執行のプロセスについて事例を交えて説明し、理解する
(13)	公共事業	公共事業の仕組みと内容、特徴について説明し、理解する

(14) 公務員制度

国家公務員・地方公務員の制度の主な内容と特徴について説明し、理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に限定しない。開講時に参考文献リストを配布する。毎回、レジюмеや参考資料を配布する。

【参考書】

特に限定しない。リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

質問力などの参加度（50%）と理解度（50%）による絶対評価

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントや資料による講義を基本に、受講者との質疑応答を交えながら進める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、比較行政

<研究テーマ> 自治行政の国際比較

<主要研究業績>

- ①『東アジアの公務員制度』（共編著、法政大学出版局、2013）
- ②『韓国行政自治入門』（単著、公人社、2006）
- ③「日韓の地方公務員制度比較に関する予備的考察—＜民主性＞と＜能率性＞の交差」『法學志林』（105 - 1、法政大学、2007）
- ④「住民参加制度の日韓比較」『自治総研』（33-6、通号 344、地方自治総合研究所、2007）
- ⑤「市民活動の法制度と支援に関する日韓比較」『自治総研』（33 - 4、通号 342、地方自治総合研究所、2007）

【Outline (in English)】

Understanding of Japanese public policy mechanism and operation

POL502P2 - 057

政策研究概論（外国語）※中国語

毛 桂榮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策に関する基礎文献を中国語で講読することを中心に勉強し、院生が政策分析の基礎を修得できるように教授します。文献は、日本語、中国語、英語のものですが、履修者と相談しながら、適宜変更もします。しかし、基礎文献を理解することが大事で、じっくり資料を理解するように心がけていきます。なお、この科目は公共政策論を中国語を利用して勉強しながら勉強するものです。公共政策論の専門知識を勉強するようにカリキュラムを設定しており、中国語を勉強することを目的にした授業ではありません。この点に関しては、十分理解してください。

【到達目標】

以下の内容、提示する基礎文献を基本にじっくり「読解」します。資料・論文を要約した上で議論をする形で進めます。半年、基本文献15本以上を熟読するようにします。政策研究の手法を修得することを目指します。言葉・概念の問題だけではなく、社会科学における議論の仕方、論文の書き方も含めて、資料を利用して、解説し討論します。ゼミの最終回（この予定は履修者の数により適宜調整）に関しては、学生が関心する政策課題を事例として、研究発表を行う予定にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

基本は、対面授業です。
 (1) 新型コロナウイルスの流行により、一部オンライン授業はあるが、本ゼミは、法政大学の方針に則り、「対面」を基本とする予定です。
 (2) もちろん、柔軟に「オンライン」も必要に応じて調整します。
 (3) また、ゼミの進め方は：基本文献の要約からスタートし、議論を深めていきます。資料の事前予習、また関連文献の復習・勉強も必要です。基本文献を中心に、関連する分野の研究資料なども、ある程度把握できるようにしていきます。最後は、各自の発表をもって基礎修得の確認をおこないます。
 (4) 勉強に関する質問は、(本システム、あるいはLINEを通じて)常時受付ます。また、ゼミでは質疑応答の時間も用意します。さらに、報告、提出するレポートに関しても、随時、コメントを返しますので、利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ。また大学院の勉強方法についても相談。	文献「若い大学院生へ」を事前配布、当日討論、勉強についての相談。学生のフィールドワークに関して相談も可能。
第2回	行政学の研究史、公共政策論の先行研究について	配布資料（システムにアップ）の講読を中心に議論：資料「行政学の歴史」など資料を配布、中国語資料もある。
第3回	行政学の歴史における公共政策研究	西尾行政学第4章、日本語と中国語を講読。資料は事前配布。

第4回	さらにもう一つ専門文献を読む	西尾『行政学の基礎概念』所収「行政と組織」論文など行政、政策と管理などの論文を読む。今村『組織と行政』も必要文献。
第5回	USA PA 歴史。英文資料を読む。	英文資料をもって勉強。公共政策研究の歴史も確認。
第6回	公共政策論研究の歴史、並びにガバナンス概念に関する英文資料一つ読解	資料「アメリカ公共政策論の台頭」を講読。また英文：Reflections on governance。状況に応じて、この勉強を2回に分けて進めることも可能
第7回	日本の行政学研究と教育	中国語資料「日本行政学史」（公開資料論文、毛）
第8回	日本の公共政策研究の歴史	「日本の公共政策研究」論文を読む。日本公共政策学会の機関誌に掲載された論文に関する分析論文、中国語論文も参照。
第9回	「公共性」概念の研究	論文「公共性」に関する論文、または、「公共政策とは何か」を読む。
第10回	decision theory 「非決定」、「権力の3つの顔」の概念	英文資料、日本語資料を講読。
第11回	政策形成における政治家と官僚	Bureaucrats and Politicians in Western...1981の終章を読む。また、毛「政府と行政」も参照。
第12回	官僚制の概念	資料「官僚制への視点」今村「行政学の基礎理論」所収を読む。西尾「新版・行政学」官僚制論2章も参照。
第13回	政策リサーチ手法	東大出版「政策リサーチ入門」の文章2つ：事例研究
第14回	学生の研究発表。フィールドワーク調査がある場合、結果を踏まえて	研究発表。学生が関心する課題について分析・発表。修士論文などの検討・相談も可能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西尾『行政学の基礎概念』（東大出版）。この本は、(毛が参加した)中国語訳があり、法政大学の図書館にも所蔵あります。一部資料は配布する予定です。また、今村『行政学の基礎理論』（三領書房）、秋吉ほか「公共政策学の基礎」（有斐閣、最新版）、伊藤修一郎「政策リサーチ入門」（東大出版）のほか、配布する資料を必ず読むこと。

【参考書】

日本公共政策学会の機関誌を読むこと

【成績評価の方法と基準】

授業での報告40%、討論60%を基本に、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

事前の予習をしない場合、内容理解に困難を来すことがあります。全員は、予習するようにしてほしい。相談により、講読の資料を適宜調整します。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料は、基本的にデータPDFの形式で渡します。本システムにアップした資料を確認してください。電子メールへの送信も可能ですが、別途相談の上、決めます。

【その他の重要事項】

- 1、授業の担当者は、本務校が法政大学ではないので、連絡は、maoguirong@gmail.comを利用します。必要があれば、ラインも利用します。
- 2、注意：新型コロナウイルスの流行もあり、以上の予定は、適宜変更をします。履修者と相談しながら、やっています。
- 3、少人数のクラスですので、読書の負担がかなりあります。
- 4、成績は、討論、報告などを踏まえて総合判断します。

【担当教員の専門分野等】

行政学、日本行政などを研究。著書「日本の行政改革」「比較の中の日中行政」があり、また「行政の概念」、「公務員の用語と概念」の論文（中国語、日本語）などがあります。最近は、中国の公務員制度などを研究中、複数論文を公表しています。論文のほとんどは、ネットで検索・入手可能です。参考にしてください。

【Outline (in English)】

This course introduces students the basic literatures and knowledge on public policy and policy analysis. The literatures are papers and books on Japanese, Chinese and English. This course will enhance students' skill in policy analysis.

Students will be expected to have completed the required assignments (read papers and prepare class report and so on) before each class meeting and then participate in discussions on each topic. Your study time will be more than three hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: (1)class reports 40%, (2) and in-class contribution (discussions) 60%.

SOS500P2 - 058

公共政策論文技法 1

白鳥 浩、塚崎 裕子、筈米地 真理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策科学の先端的研究の現場に触れる。

【到達目標】

政策科学分野における学術論文の作法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP2」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP1」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

博士号を取得した政策研究を行っている研究者による、先端的研究の紹介を中心として、政策科学が抱えている現代の問題をアカデミックに理解することを目指す本講義は、複数教員による分担講義として展開される。そこでは、現代の政策科学が抱える、アクチュアルな問題が提示される。学術的な価値の高い修士論文の執筆を目指す大学院生に、専門研究者レベルのスタンダードを明示することとなる。講義は対面を中心とする。講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

変更の可能性もあるが対面講義を基本とする。また、学生へのフィードバックにおいては、適宜、講義のたびに行うものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	政策科学の最先端と政策へのアカデミックなアプローチ（白鳥）	政策科学の定義と歴史、政策と学術研究の関係
2	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析 1(筈米地)	問題提起と分析
3	理論的フレームワークとデータの収集 1(筈米地)	フレームワークの提示、データへのアクセス
4	分析結果と学会内での研究上の位置 1(筈米地)	分析の位置、研究の意義
5	ケーススタディの問題関心と先行研究の分析 2(塚崎)	問題提起と分析
6	理論的フレームワークとデータの収集 2(塚崎)	フレームワークの提示、データへのアクセス
7	分析結果と学会内での研究上の位置 2(塚崎)	分析の位置、研究の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中適宜指示

【参考書】

講義中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

出席および毎回の講義への取り組み 30 %、レポート 70 %。レポートについては、各自の研究テーマの学術的価値を的確に表現できているかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

論文執筆過程でのテーマ設定、データの収集、その他の課題をより具体的に解説する。

【担当教員の専門分野等】

白鳥 浩

<専門領域>

現代政治分析（国際・国内比較）・政治理論

<研究テーマ>

1. 日本の現代政治
2. グローバリズムと国民国家の変容
3. 地方政治研究
4. 政党に関する理論
5. 現代政治のデモクラシー

<主要研究業績>白鳥浩『都市対地方の政治学』芦書房、2004年
白鳥浩『市民・選挙・国家—シュタイン・ロッキンの政治理論—』東海大学出版会、2002年

Hiroshi Shiratori, "Le mouvement référendaire au Japon après la Guerre froide. Une analyse comparative inspirée de Rokkan," *Revue française de science politique*, vol.51, Numero.4, 2001.

塚崎 裕子

<専門領域>労働政策、ジェンダー政策

<研究テーマ>外国人雇用、ダイバーシティと雇用、地方移住と雇用

<主要業績>

塚崎裕子 (2008)「外国人専門職・技術職の雇用問題—職業キャリアの観点から」、明石書店

塚崎裕子 (2012)「日本の職場風土と外国人高度人材のキャリア」、こころと文化・第 11 巻・第 2 号, pp.163-168

塚崎裕子 (2013)「グローバル人材の多様性—国を問わず働く人材と二国間をつなぐ人材を中心に—」、日本労務学会誌・第 14 巻・第 2 号, pp.27-51

Yuko Tsukasaki, "Impact of Spousal Violence on Employment at the Post-Leaving Stage in Japan", *Violence and Victims*, forthcoming

【担当教員の専門分野】

筈米地真理

<専門領域>政策過程。国際政治。

<研究テーマ>国際化時代の東アジアの分析。

<主要研究業績>

筈米地真理『尖閣問題 政府見解はどう変遷したのか』柏書房、2020年。ほか。

【担当教員の専門分野】

塚崎 裕子

<専門領域>労働政策、ジェンダー政策

<研究テーマ>外国人雇用、ダイバーシティと雇用、移動とキャリア

<主要業績>

塚崎裕子 (2008)「外国人専門職・技術職の雇用問題—職業キャリアの観点から」、明石書店

塚崎裕子 (2013)「グローバル人材の多様性—国を問わず働く人材と二国間をつなぐ人材を中心に—」、『日本労務学会誌』第 14 巻・第 2 号, pp.27-51

塚崎裕子 (2020)「キャリアによる国内人口移動の違いと世代効果」『人口問題研究』第 76 巻第 3 号, pp.375-393

Yuko Tsukasaki, "Impact of Spousal Violence on Employment at the Post-Leaving Stage in Japan", *Violence and Victims*, forthcoming

【Outline (in English)】

This course offers our Ph.D. holder's knowledge on tips to write a thesis. The lecture is mainly on the framework of writing academic paper.

The goals of this course are to realize relationship between theory, research, and thesis.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end report 70%, and class contribution 30%.

LAW500P2 - 104

環境私法

永野 秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまで環境法を学んだことのない大学院生のために、環境私法を概説することを目的としている。この環境私法では、環境被害を受けた人々が、国や企業などに損害賠償を求めたり、その環境被害のもととなる汚染原因等を排出しないように求めたりする訴訟を扱う。具体的には、学生は民法に規定されている不法行為という考え方が、大気汚染訴訟、水質汚濁訴訟といった様々な形の訴訟の中で、どのように機能するかを学んでいく。

【到達目標】

この授業の到達目標は、受講生の所属する組織または生活する地域が、環境にかかわる紛争に直面したときに、どのような法的なルールが適用されるのかを理解することにある。言い換えれば、受講生が、法の専門家（弁護士や企業法務部等）と協同してこのような問題に対処しえる知的枠組みを獲得することを目指している。修士の方は、この視点で受講して頂きたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

まず、環境私法で最も基本となる民法に規定された「不法行為」という考え方を学ぶ。そして、この不法行為に関する理論が、環境紛争にどのように適用されるのかを概説する。

これに続いて、具体的な環境汚染原因ごとに、不法行為を中心とする法理論が適用されるのかについて解説する。大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、日照、景観といった問題ごとに個別のルールが形成されているので、これを学んでいくことにする。

最後に、総合的な問題を扱う環境監査において、どのような法的規制が必要であり、今後どのように運営されるべきかを検討する。

また、本授業は、オンライン授業により実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	不法行為の基礎（1）	①環境法とは何か、②環境紛争と環境私法
2	不法行為の基礎（2）	不法行為法とは何か
3	不法行為の基礎（3）	共同不法行為とは何か
4	不法行為の基礎（4）	複合汚染と共同不法行為
5	公害紛争処理制度等	①公害紛争処理制度、②協定による紛争解決
6	大気汚染訴訟の基礎	①共同不法行為理論の適用、②大気汚染訴訟の難しさ
7	大気汚染訴訟の展開	大気汚染訴訟の展開と現状
8	水質汚濁訴訟	水質汚濁訴訟の分析
9	悪臭訴訟、騒音・振動訴訟	①悪臭訴訟、②騒音・振動訴訟
10	日照・通風・風害訴訟	日照・通風・風害訴訟の分析
11	眺望訴訟、景観訴訟	①眺望訴訟、②景観訴訟
12	風評被害訴訟	風評被害訴訟の分析
13	嫌悪施設訴訟（1）	原子力関連の民事訴訟
14	嫌悪施設訴訟（2）	廃棄物処理場関連の民事訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を Hoppi から配布します。

【参考書】

大塚直・北村喜宣編集『環境法判例百選（第3版）』（有斐閣、2018年）。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表、議論への参加・貢献度 30%、期末レポート 70%。期末レポートは、環境私法のテーマの中から1つを取り上げ、法律論文等を3つ以上参照して、その問題に関するレポート（A4で10頁程度）を作成すること。

【学生の意見等からの気づき】

今後も、わかりやすい解説に努めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日米比較法（特に、環境法、先端技術法）

<研究テーマ>「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」

<主要研究業績>（近年のもの）

「米国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証（CMMC）の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」 CISTEC journal186号 200頁以下（2020年3月）。

「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」 CISTEC journal185号 223頁以下（2020年1月）。

「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制（上）」人間環境論集 19巻1号 13頁以下（2018年12月）。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course provides a basic introduction of environmental civil litigation for graduate students. The course focuses on lawsuits in which people suffering from environmental damage sued the government of Japan and companies for damages and for the injunction of the pollutions and nuisances. Specifically, students will learn how the idea of torts in the Civil Code works in various forms of litigation, such as air pollution and water pollution cases.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to understand which legal rules should apply when a student's organization or area of residence faces an environmental conflict. In other words, this course will help students work with lawyers and other legal professionals to solve environmental problems.

< Learning Activities outside of Classroom >

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, you can take one of the themes of private environmental law, referring to three or more legal papers, and write a report on the theme (about 10 pages in A4).

LAW500P2 - 110

環境政策法務と条例

朝賀 広伸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境政策法務における条例の果たすべき役割は大きく、市民の身近な生活の実態に基づいた施策によって、環境行政はよりよく発展することができます。本講義では、環境政策法務における条例の果たすべき役割を現実の条例制度を通して、環境政策と条例に係る基本的知識を学びます。

受講される学生の皆様が、環境政策法務における条例の果たす役割を理解し、条例の現状を分析し、条例制度の課題を発見し、施策の検討を行い、改善のための新たな対策の提案などができるようになることを目的とします。

【到達目標】

本講義では、環境政策と条例に係る基本的知識を学習し、条例と法律との関係、条例規制の実効性、条例における計画の役割などについて説明できる力を身につけていただきます。

上記の目標を達成するために、各学生の皆様が、関心のある環境政策に係るテーマについて研究し、①課題設定、②現状分析、③対策手法の提案を授業内で報告し、双方向の議論を通して、到達度を測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

・環境政策と条例に関する基礎的知識を修得するために、テキストを中心に演習形式で進めます。テーマを割り振り、簡単なレジュメを作成し、授業内で報告をしていただきます。

・授業内での双方向の議論を通して、理解を深めていきます。

・授業形式：対面授業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	都道府県の位置づけと権限
	都道府県と条例	地方自治体が定める条例
第2回	地球温暖化対策条例の制度と運用	温暖化防止に関する法律と条例 温暖化対策条例の全国的動向と特徴
第3回	廃棄物条例の制度と運用（1）	廃棄物処理法と条例との関係
第4回	廃棄物条例の制度と運用（2）	都道府県の廃棄物条例の動向と全体的な特徴
第5回	自然環境保全条例の制度と運用	自然環境保全等の法制度
第6回	環境影響評価条例の制度と運用（1）	環境影響評価法の手続および条例との関係
第7回	環境影響評価条例の制度と運用（2）	都道府県等における環境影響評価条例の概要
第8回	公害防止条例の制度と運用（1）	公害防止に関する条例制度 大気汚染防止に係る規制対策
第9回	公害防止条例の制度と運用（2）	水質汚濁防止に係る規制対策
第10回	公害防止条例の制度と運用（3）	条例による水質規制の事例
第11回	公害防止条例の制度と運用（4）	土壌汚染対策に係る規制・対策
第12回	公害防止条例の制度と運用（5）	騒音防止に係る規制対策

第13回 公害防止条例の制度と運用（6） 振動防止、地盤沈下防止、悪臭防止に係る規制対策

第14回 再生可能エネルギーの導入促進と規制対策 再生可能エネルギーの普及と法制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『環境条例の制度と運用』, 田中充編, 信山社 2015年, 2600円

【参考書】

環境法政策を理解するための書として、

『コンパクト環境法政策』, 柳憲一郎著, 清文社 2015年

【成績評価の方法と基準】

授業貢献度（80%）：授業時のディスカッション及びレジュメ

レポート課題（20%）：関心のある環境政策に係るテーマを選び、①課題設定、②現状分析、③対策手法の提案について研究し、授業内で報告する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心テーマに近づけた授業運営に心掛けたと考えております。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

行政法および環境法に関連が深い授業となりますが、初学者にも理解できるように進めていきたいと考えております。気軽に質問できる雰囲気づくりに努めてまいります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境法

<研究テーマ>

環境法政策に係る総合研究

<主要研究業績>

・『環境法研究第13号』大塚直編, 信山社 2021年

・「イギリスにおける気候変動への適応法制」環境管理第57巻第5号, 産業環境管理協会 2021年

・『司法試験の問題と解説』「環境法」（日本評論社 2020年・2019年・2018年・2017年

・『環境法判例百選 第3版』有斐閣 2018年

・「最新の環境アセスメント法の動向と課題」人間環境問題研究会編, 有斐閣 2015年

・『新司法試験論文式問題と解説』中央大学真法会編, 法学書院 2018年・2012年

・『演習ノート環境法』浅野直人・柳憲一郎編, 法学書院 2010年

・「英国における土壌汚染法の概要」商事法務研究会 2009年

・「Legislation related to groundwater in the EU:

background and current status

」 UNESCO2009年

・「英国のリスク管理と予防原則」季刊環境研究 No.154, 2009年

・「EU及び英国の地下水管理制度」明治大学法科大学院論集 第3号, 2008年

・『多元的環境問題論』柳憲一郎編, ぎょうせい 2006年

・『オランダ環境法』国際比較環境法センター 2004年

・『環境法辞典』有斐閣 2002年

・『京都議定書』シュプリンガーフェアラーク 2001年

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this lecture, students will learn about environmental policy legislation and ordinance. For example, students will acquire basic knowledge on the role of ordinance in environmental policies, the actual ordinance system, environmental policies and ordinance.

(Learning Objectives)

Students will acquire basic knowledge about environmental policy and ordinances and be able to explain the relationship between ordinances and laws, the effectiveness of regulations by ordinances, and the role of planning in ordinances.

(Method)

In order to acquire basic knowledge of environmental policies and regulations, the class will be conducted in an exercise format with a focus on the textbook. Students will be assigned a topic, prepare a simple resume, and report it in class.

We will deepen our understanding through interactive discussions in the class.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

- Class contribution (80%): Class discussions and resumes.
- Brief report assignment (20%): Select a theme related to local environmental policy, and conduct research on (1) problem setting, (2) analysis of the current situation, and (3) proposals for countermeasure methods, and make a brief report in class.

LAW500P2 - 127

国際環境法

岡松 暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成・発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際社会における環境問題の本質を国際法的側面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。判例については、受講者による発表と全体討論も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の形成と展開	国際環境法へのアプローチの仕方、国際環境問題の特徴の変遷とそれに対応した国際環境法の生成について概観する。
2	国際環境法の性質、国際環境法の制度化	国際環境法の性質とそれに対応した定立形式、制度化について検討する。
3	国際環境法の手続的義務、国際環境法上の義務の履行確保	国際環境法に特徴的に見られる手続的義務と、国際環境法上の義務の履行確保制度について考察する。
4	受講者による発表と討論①	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
5	受講者による発表と討論②	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
6	受講者による発表と討論③	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
7	日本と国際環境問題	日本に大きな影響のある国際環境問題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2023 年。（旧版でも可）

その他、適宜講読文献を指示する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020 年。

森川幸一他編『国際法判例百選 [第 3 版]』有斐閣、2021 年。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50%）、発表（30%）、討論（20%）

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

受講者の人数により、授業の方法を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法

<主要研究業績>

『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所の ALPS 処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022 年）、「ロンドン条約 96 年議定書の遵守手続」（2022 年）、「SDGs と生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022 年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017 年）等。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before and after the class.

The course grade will be based on final paper (50%), presentations (30%), and discussions (20%).

POL500P2 - 138

外交政策論

宮本 悟

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の戦後外交史や領土問題、外交政策理論について学んだうえで、外交政策がどのようにして決定されるのかについて理解していく。重要なことは、国際社会や日本が直面している外交問題や領土問題について知識を深め、国際政治学における外交政策論を理解した上で、現実の外交政策を考察する際に応用できるようになることである。

【到達目標】

外交政策について、(1) 日本の外交政策の歴史的な経緯と現状の説明ができ、(2) 日本が置かれている領土や外交上の問題とその対処について理解を深め、(3) 実際の外交政策の決定過程について学んだうえで、その理論的な知識を実際の問題に応用できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP4」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

2021年度は対面で開催する予定である。戦後日本外交史と日本の領土については、全体的に理解していくことが目的であり、基本的には講義形式によって授業を進めていくが、教員側の一方的な講義ではなく、受講者と対話をしながら授業を進めることを重視する。質問があれば、講義の途中でも遠慮なく質問してかまわないし、教員側からも積極的に受講者に問いかける。

対外政策の選択については、受講者側の発表について教師も含めて討議しながら、理解を深めていく。従って、授業が充実したものになるかは、受講者側の積極的な参加にかかっている。受講者の発表に対するフィードバックは、その都度、授業内でコメントすることにする。重要なことは、領土や安全保障上の問題に対して、外交政策が必ずしも合理的に決定されるわけではないことを理解し、実際の外交政策を理解するための応用力をつけることである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後日本外交史 (1)	戦後日本外交史のあらましと占領期における日本とGHQの交渉について学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第2回	戦後日本外交史 (2)	戦後日本外交史について50年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第3回	戦後日本外交史 (3)	戦後日本外交史について60年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第4回	戦後日本外交史 (4)	戦後日本外交史について70年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第5回	戦後日本外交史 (5)	戦後日本外交史について80年代を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。

第6回	戦後日本外交史 (6)	戦後日本外交史について冷戦後を学ぶ。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第7回	戦後日本外交史 (7)	戦後日本外交史について全体像を議論する。テキスト:五百旗頭真編『戦後日本外交史』第三版補訂版。
第8回	日本の領土 (1)	領土の概念や北方領土問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第9回	日本の領土 (2)	竹島問題と尖閣諸島問題についての歴史的経緯やその問題点を探る。テキスト: 芹田健太郎『日本の領土』。
第10回	対外政策の選択 (1)	外交とは何かを学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第11回	対外政策の選択 (2)	国内政治と対外政策の連関について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第12回	対外政策の選択 (3)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第13回	対外政策の選択 (4)	国際情勢についての認識と行動から戦争が勃発する原因について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。
第14回	対外政策の選択 (5)	ゲーム理論で国家間の戦略的依存関係について学ぶ。テキスト: 中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『戦後日本外交史』第三版補訂版、五百旗頭真編、有斐閣、2014年、2,200円
『日本の領土』 芹田健太郎、中央公論新社、2010年、755円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は授業でパワーポイントやレジュメで解説します。
『国際政治学』 中西寛、石田淳、田所昌幸、有斐閣、2013年、3,520円。ただし、授業で使用するのは一部分なので、その部分は最初の授業で配布する。

【参考書】

『新訂第5版 安全保障学入門』防衛大学校安全保障学研究会編、株式会社亜紀書房。
『決定の本質—キューバ・ミサイル危機の分析』グレアム T. アリソン(著)、宮里 政玄(訳)、中央公論新社、1977年。絶版。

【成績評価の方法と基準】

70%：平常点と、授業における発言内容の充実度
30%：発表：「対外政策の選択」に関して、自分の研究にどのように応用できるのか最後の授業で一人一人発表してもらう。

【学生の意見等からの気づき】

過度な学生の負担はない授業内容にしています。受講者の発表は短い時間でかまいません。勤務後に授業に来られる方がおられたら、時間を考慮しますので、申し出てください。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では授業支援システムは使いません。オンライン授業ではZOOMを使います。

【その他の重要事項】

大学院の方針によって全てオンライン授業になる可能性があります。対面授業でも第8回の講義ではパワーポイントを使って説明します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際政治学、比較政治学、政軍関係論、安全保障論
<研究テーマ>東アジアの安全保障、経済制裁、北朝鮮研究
<主要研究業績>

"North Korea's Foreign Policy: A Non-isolated Country with Expanding Relations" Takashi Inoguchi ed., The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy, Dec. 2019, Sage Publishing.

「北朝鮮流の戦争方法-軍事思想と軍事力、テロ方針」川上高司編『「新しい戦争」とは何か-方法と戦略-』2016年1月、ミネルヴァ書房。
「北朝鮮の軍事・国防政策」木宮正史編『朝鮮半島と東アジア』2015年6月、岩波書店。

『北朝鮮ではなぜ軍事クーデターが起きないのか？ 政軍関係論で読み解く軍隊統制と対外軍事支援』2013年10月、潮書房光人社。

【Outline (in English)】

The objectives of the class is to understand how foreign policy is decided, while leaning Japanese postwar diplomatic history, territorial issues and foreign policy theory. The important point is the applying foreign policy theory in considering real foreign policy, while deepening the knowledge of the territorial issues and diplomatic issues facing Japan and international society, understanding the foreign policy theory in international politics. The prior learning and review are need each 2 hours. The distribution of score is as follows: class participation remarks: 70%, presentation: 30%

LAW500P2 - 145

環境ガバナンスⅡ

野村 摂雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府以外の主体も一定の役割を担う環境保全のあり方について、その必要性と課題とを実際の環境問題に照らしつつ学ぶ。

【到達目標】

環境問題について客観的に理解できる。
関連文献を読み、その内容を分析できる。
自身の理解を論理立てて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

関連文献の講読、担当者による報告、参加者によるディスカッション、課題（レポート）の作成。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、報告の分担、概論など。
第2回	環境ガバナンスの理論（1）	邦語文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第3回	環境ガバナンスの理論（2）	邦語文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第4回	環境ガバナンスの理論（3）	邦語文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第5回	環境ガバナンスの理論（4）	英字文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第6回	環境ガバナンスの理論（5）	英字文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第7回	環境ガバナンスの理論（6）	英字文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第8回	日本の環境問題（1）	日本の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第9回	日本の環境問題（2）	日本の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第10回	日本の環境問題（3）	日本の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第11回	地球規模の環境問題（1）	地球規模の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第12回	地球規模の環境問題（2）	地球規模の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第13回	地球規模の環境問題（3）	地球規模の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第14回	総括	環境ガバナンスの総括として今後の展望を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指示

【参考書】

授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（報告及びディスカッション）60% + 期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境法、行政法、海事法

<研究テーマ>

国際法の国内的实施

<主要研究業績>

『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）

『欧州連合（EU）における海洋環境保全法制』環境法研究14号（2022年）1頁以下

資源管理法としての環境法』小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年）175頁以下

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the theory, necessity and challenges of the environmental governance through some environmental issues both in Japan and the world.

Learning objectives are:

-to understand environmental issues from objective point of view;

to read related articles and analyze those contents; and

-to explain your thoughts logically.

Learning outside of class hours

-Normally you need two hours for preparation and review respectively.

Grading criteria are:

-reporting and discussion at class (60%); and

-term-end essay (40%).

SOC500P2 - 101

環境社会論

藤田 研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を説明するとともに、現代の環境問題を対象とした環境社会学の研究動向を紹介する。現代の環境問題解決では、「地域住民・市民のかかわり」「多様な主体による連携」が、重要な論点となっている。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、今日的な環境問題解決のあり方について学ぶ。

【到達目標】

環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴、解決のために必要な行動を指摘できるようになる。今日的な環境問題解決のあり方を提案し、問題解決に向けた課題を整理できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の流れを、主に 1980 年代までの歴史編と 1990 年代以降の現代編に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業冒頭でフィードバックを行う。またそのなかで、授業内容にもとづく簡単な課題を出すこともある。大学の行動方針レベルに変更があった場合、それに応じた授業形態の詳細は学習支援システムで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義と種類、環境社会学のアプローチ、地域住民・市民のかかわりと多様な主体の連携による環境問題解決について学ぶ。
第 2 回	歴史編①	戦後から 1980 年代までの産業公害、都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第 3 回	歴史編②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造について学ぶ。
第 4 回	歴史編③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏について学ぶ。
第 5 回	歴史編④	マスクー法の自動車排ガス規制とエンジン開発を事例に、生産の踏み車とエコロジカル近代化について学ぶ。
第 6 回	歴史編⑤	自然資源管理を事例に、コモングスの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第 7 回	現代編①	1990 年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第 8 回	現代編②	環境 NGO・NPO、ボランティアについて、理論と課題を学ぶ。
第 9 回	現代編③	白神山地の保護、森は海の恋人運動を事例に、森林保全について学ぶ。
第 10 回	現代編④	河川法改正を事例に、ローカル知の役割について学ぶ。

第 11 回 現代編⑤

環境保全型農業について、みどりの食料システム戦略までの対策の展開、協同組合の役割を学ぶ。獣害問題と対策を事例に、内発的発展、コミュニティ・ビジネスについて学ぶ。

第 12 回 現代編⑥

第 13 回 現代編⑦

温暖化対策の展開について、東日本大震災以降の再生可能エネルギーの促進、パリ協定以降の脱炭素の動向を学ぶ。

第 14 回 現代編⑧

日本のエネルギー転換をめぐる課題、環境正義の観点について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回 PowerPoint と配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第 2 版』ミネルヴァ書房。
環境社会学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) + 期末レポート (70%)、を想定。
平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

博士課程「環境社会論 D」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性
<研究テーマ>
環境問題解決に向けた住民・市民の活動と行政との連携
農村の課題解決と地域環境保全の両立を考える
<主要研究業績>
藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスと NGO の社会学』ナカニシヤ出版。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This class will introduce the theories of environmental sociology and the recent research trends, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on the ways that residents and citizens are engaged in the process of environmental problems and the partnerships among diverse actors, which is important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and the contemporary ways and the essential issues for solving environmental problems based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives) Being able to point out the characteristics of environmental problems and to propose actions for solving the problems based on the theories of environmental sociology. Being able to propose the contemporary ways of solving environmental problems and to identify issues for solving problems.

(Learning Activities Outside of Classroom) Students should pay attention to news about environmental problems and policies and collect information daily. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Regular Work (30%) + Final Report (70%). Regular work will be submitting reaction papers or assignments.

EVN500P2 - 111

地域環境文化研究

梶 裕史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化的景観」の可能性の考察

地域の生活文化資産の価値をサステナビリティの観点から掘りおこすものさしである「文化的景観」という概念をテーマとし、その特色と、環境共生型の人間形成・地域形成に活かし得る可能性について、様々な具体的事例の紹介を通じて考察します。

【到達目標】

「文化的景観」が、従来の文化財の考え方は一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教室対面の授業を基本とします。講義では PPT を多用しますが「景観」は視覚的なものに限らないので、写真や絵を見ることが授業の中心だと思わないで下さい。また少人数を活かして、「最終回」の受講生発表以外にも、気軽に双方向の対話ができる授業としたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：「文化的景観」とは何か	世界遺産事業に「文化的景観」という新登録基準が導入された経緯、定義、類型／日本の対応
第 2 回	「文化的景観」保全の多面的効用（1）	自然環境、生物多様性保全につながる事例を通じて
第 3 回	「文化的景観」保全の多面的効用（2）	持続可能な地域形成に資する「日本型エコツーリズム」の素材として
第 4 回	事例紹介（1）	「重要文化的景観」第 1 号・近江八幡の「風景」づくり
第 5 回	事例紹介（2）：文化的景観Ⅱ類保全の具体例	宗教・信仰の聖地、古典文芸の名所として守られてきた場所。「無形」の価値
第 6 回	生きて変化する文化財として	「五感」で体感される周期変化／「有機的に進化する景観」（「伝統」の非固定性、新たな創造）
第 7 回	「有機的に進化する景観」の意味／受講者の研究発表	四万十川、竹富島の事例を通じて／各自で「文化的景観」の具体例を探し、考察の結果を小発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載するスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『『文化的景観』の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第 2 版）第 1 部第 6 章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の感想等 50 %、研究小発表 50 %

【学生の意見等からの気づき】

例年、少人数のために、受講生の興味関心に応じて適宜授業の材料を選ぶことも可能です。今後もそうした柔軟な対応が有効な場合もあるだろうと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 上代日本文学、民俗学、景観論

< 研究テーマ > 地域固有の文化資産を活かした日本型エコツーリズム、観光文化の可能性

< 主要研究業績 >

・「庭園宴遊と『自然』詠と一大伴家持『布勢水海遊覧』歌群の一考察」（『万葉古代学研究所年報』第 5 号、2007）

・「竹富島の『文化的景観』を支えるもの—その無形要素の特色についての考察」『人間環境論集』第 15 巻 2 号（2015 年 3 月）法政大学人間環境学会

・「『文化的景観』の特質と可能性」『フィールドから考える地域環境』（第 2 版）第 1 部第 6 章、ミネルヴァ書房、2021）

【Outline (in English)】

Consideration of the Possibility of "Cultural Landscape"

With the theme of the concept of "cultural landscape", which is a yardstick for unearthing the value of local lifestyle and cultural assets from the perspective of sustainability, we will discuss its characteristics and the possibility of utilizing it for the formation of human beings and communities that coexist with the environment. We will discuss this through the introduction of various concrete examples.

The goal of the course is for participants to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment," which is distinct from the conventional concept of cultural properties.

Work to be done outside of class : Be sure to prepare and review using materials introduced in each lecture.

We also encourage students to visit nearby fields to stimulate their learning. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading criteria : 50% impressions, etc., 50% small research presentations

HIS500P2 - 141

サステナビリティ学事例研究 I

辻 英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ社会国家の発展の歴史を、ボランティアの観点から学ぶ。社会福祉史においては、国家による上からの社会政策だけでなく、民間の中間団体や個人的なエージェントの下からの活動を重視し、現代の社会保障体制を両者が一体となった「福祉の複合体」として理解する見方が注目されている。

この授業では、ドイツの社会福祉の歴史を、その「福祉の複合体」の担い手としてのボランティアに注目しながら再構成していく。国家が独占的に社会保障の担い手となった時期はかなり遅く、ドイツにおいてはようやく 20 世紀初頭のことにすぎない。それまで社会福祉のかなり部分は都市自治の枠内で行われ、またそれは市民の自発的なボランティアな活動に大部分依存していたのである。また 20 世紀の末以降、社会福祉のみならず民主主義の発展や社会的課題の解決におけるボランティアの役割への再評価が進み、市民参加を拡大しようとする政策が大々的に展開されている。

このようにボランティアを軸としてドイツ社会国家を検証することから、現在社会保障制度改革が急務となっている日本社会の現状と課題の分析にとって有意義な情報が得られるだろう。

【到達目標】

ドイツの社会福祉の歴史と現状を理解し、自分の研究への示唆を得る。

1. ドイツ社会国家の歴史的形成過程について理解する。
関連する法律や制度だけでなく、政治、行政、サービス提供者（企業、第三セクター）、福祉専門職やボランティア、そしてクライアントなどの相互作用をふくむダイナミックな関係として浮かび上がらせる。
2. ドイツ社会国家の現在の姿について理解する。
1990 年代末以降の改革で大きく変化しつつある全体像を理解したうえで、いくつかの分野について詳細に検討する。
3. 日本および他国・他地域との比較をおこなう（ディスカッション）。
ドイツ社会国家の歴史的発展のそれぞれのステージをその問題点を含めて検討した上で、さらに参加者の関心のある地域や国との比較をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、時代順に並べた 7 つのモジュールにより構成される。モジュールごとに講義と資料講読、文献講読を組み合わせるほか、参加者とディスカッションをおこない、その中で情報を補足し理解を深めていく。その際、他の国や地域とくに日本の状況との比較について、参加者からの問題提起・知識提供を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ボランティアを中心に社会国家を考えることの意味について。
第 2 回	モジュール①ボランティアの誕生	中世から近世までの都市自治や市民のあいだの協会活動について。
第 3 回	モジュール② 19 世紀ドイツにおけるボランティアの展開 その 1	19 世紀初頭のドイツにおける都市自治の再編と市民社会の成立について。

第 4 回	モジュール② 19 世紀ドイツにおけるボランティアの展開 その 2	市民衛兵や救済行政など公的な領域や、協会や結社など民間の領域における 19 世紀市民層の活動について。
第 5 回	モジュール③ 20 世紀国家とボランティア その 1	第 1 次世界大戦をきっかけにした社会政策の局面転換と社会国家概念の登場について。
第 6 回	モジュール③ 20 世紀国家とボランティア その 2	ヴァイマル時代からナチ期にかけて、国家への権力集中が進行した時代のボランティアのあり方について。
第 7 回	モジュール④戦後ドイツ社会における社会国家の構築とボランティア その 1	戦後西ドイツにおける国家主導下の社会福祉の整備について。
第 8 回	モジュール④戦後ドイツ社会における社会国家の構築とボランティア その 2	戦後ドイツ社会国家のメカニズム内にボランティアがどのように組み込まれていったのかを扱う。
第 9 回	モジュール⑤戦後西ドイツ社会の価値変容と「新しい名誉職」	高度経済成長がもたらした物質的繁栄が人びとの生活や価値観の変化を通じてボランティアのあり方にいかに影響を与えたか。
第 10 回	モジュール⑥社会国家の危機 その 1	1970 年代の経済不況を背景にそれまでの西ドイツ社会国家体制への批判が強まった。その批判内容を分析する。
第 11 回	モジュール⑥社会国家の危機 その 2	1980 年代になると社会国家の危機脱出のシナリオとしてのボランティア活動が注目されるようになる。その経緯を分析する。
第 12 回	モジュール⑦統一ドイツにおける参加政策と「市民的参加」 その 1	1990 年代末から本格化した連邦政府によるボランティア活性化政策の展開について。
第 13 回	モジュール⑦統一ドイツにおける参加政策と「市民的参加」 その 2	「市民的参加」とよばれる統一ドイツにおける各種ボランティア活動の実情を明らかにする。
第 14 回	結論 現代ドイツ市民参加の課題と展望	2016 年の難民危機、2020 年以降のコロナ危機の対応、さらには 2022 年に始まったウクライナ戦争に、ドイツのボランティア組織はいかに関与しているのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読み、ディスカッションに参加する準備をすること。また、自分の研究や経験をふまえてディスカッションに参加し貢献することができるよう、準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜コピーを配布する。

【参考書】

辻英史／川越修編著『歴史のなかの社会国家』山川出版社、2016 年。
池田浩士『ボランティアとファシズム—自発性と社会貢献の近現代史』人文書院、2019 年。
近藤正基『現代ドイツ福祉国家の政治経済学』ミネルヴァ書房、2009 年。
坂井晃介『福祉国家の歴史社会学—19 世紀ドイツにおける社会・連帯・補完性』勁草書房、2021 年。
西田慎／近藤正基編著『現代ドイツ政治』ミネルヴァ書房、2014 年。
福澤直樹『ドイツ社会保険史—社会国家の形成と展開』名古屋大学出版会、2012 年。
福田直人『ドイツ社会国家における「新自由主義」の諸相——赤緑連立政権による財政・社会政策の再編』明石書店、2021 年。
ほか、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加（40%）、学期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 歴史学（ドイツ近現代史）

<研究テーマ> 市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史

<主要研究業績> 『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008年。

【Outline (in English)】

The course deals with the historical development of the German welfare state (Sozialstaat), from its beginning in the late 19th to the 21th century. Main focus will be laid on its character as "welfare mixture", which means dynamic cooperative interactions between governmental authorities, welfare organizations, and actors of the civil society (Volunteers) in building and reforming the social security system.

The class consists of seven modules arranged in chronological order.

Each module will consist of a combination of lectures, readings, and literature readings, as well as discussions with participants to supplement the information and deepen understanding.

Participants are expected to raise questions and provide knowledge about comparisons with the situation in other countries and regions, especially Japan.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be decided based on participation in discussions (40%) and term-end report (60%).

MAN500P2 - 102

環境経営論

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経営学および会計学の視点から、現在国内外で注目されている企業や地域における環境経営またはサステナビリティ経営の理論的方法を明らかにしつつ、それに関連する先進的な取組事例も考慮に入れながら、将来企業や地域において、有効かつ効率的に実施すべき環境経営やサステナビリティ経営の新たな方法を検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、国内外で刊行されたマルチステークホルダーの視点からの環境経営またはサステナビリティ経営に関する文献（理論研究の論文）を多面的に分析・検討し、その結果を論理的に整理し、報告していくための能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義は対面で実施する（新型コロナウイルスの感染状況に応じてオンラインでの実施方法も検討する）。第1回は、環境経営やサステナビリティ経営に関する研究論文とそれに関係する著書や報告書を紹介しつつ、講義内で履修者に分析し、検討してもらう内容やポイントについて講義を行う。第2回以降、履修者には、研究テーマに関係する、あるいは関心のある研究論文を1つ選択してもらい、その内容を企業や地域の取組事例や関連研究などを加味しながら多面的に分析・検討し、その結果を報告してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の流れとその内容、講義で使用する文献の紹介、その文献を分析・検討していくための方法やポイントを説明する。
第2回	環境・社会問題に対応する組織①	環境・社会問題に対応する組織のあり方に触れた論文（例えば、プラハロードやロザベス＝テュナの論文）の内容を考察し、報告する。
第3回	環境・社会問題に対応する組織②	第2回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第4回	環境・社会問題解決のための経営戦略①	企業が環境重視から持続可能性に展開していくために検討し、策定すべき経営戦略に関する研究論文（例えば、ハートやアンルーの論文）の内容を考察し、報告する。
第5回	環境・社会問題解決のための経営戦略②	第4回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第6回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略①	企業が経済的価値と環境・社会的価値を同時実現していくための新たな経営戦略に関する研究論文（例えば、クリステンセンやポーター＝クラマーの論文）の内容を考察し、報告する。

第7回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略②	第6回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第8回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント①	第2回から第7回で取り上げられた経営戦略を実現していくための組織編成・マネジメント（サプライチェーン、コレクティブ・インパクト、コラボレーション）に関する研究論文（例えば、カナ＝クラマー、アドラー、リー、ペロニカ＝デニスの論文）の内容を整理し、報告する。
第9回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント②	第8回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第10回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例①	第8回と第9回で取り上げられた組織編成・マネジメントに関するガイドや先進事例（例えば、国連グローバルコンパクトやパタゴニアの取組み）の内容を整理し、その結果を報告する。
第11回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例②	第10回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第12回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム①	組織（第2回、第3回）の戦略策定（第4回～第7回）と組織編成・マネジメント（第8回～第11回）を支援する会計システムに関する論文（例えば、キャプラン、エクセル、セラフェイムの論文）の内容を整理し、報告する。
第13回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム②	第12回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第14回	講義のまとめ	第13回までの検討内容を整理しつつ、その内容をもとに新たな方法論も検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容の理解および文献の分析・検討にあたっては、少なくとも次の3点について行ってください。
 ・経営学および会計学の基礎的知識を事前に学習し、身につけること（担当しない資料も事前に読み、検討すべき点を考えておくこと）
 ・毎回の講義内容を復習すること
 ・本講義に関連する新聞・雑誌記事やホームページなどの内容をチェックすること本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義では、テキストは使用せず、テーマごとに配布した資料を使用します。
 ・報告では、配布資料の内容を整理したレジюмеの作成および配布をお願いします。

【参考書】

講義中に配布資料や報告内容に関連する著書・論文・雑誌・URLなどを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。
 ・報告用配布レジюмеの内容（20%）
 ・報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
 ・討論への参加（発言内容）（30%）
 ・レポートの内容（報告内容に基づくレポート）（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

- ・講義はワードあるいはパワーポイントを用いて進めていきますので、報告およびそのレジュメもワードか、パワーポイントを使用してください。
- ・質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・金藤正直 (2015) 「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・金藤正直 (2016) 「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・金藤正直 (2018) 「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・金藤正直 (2021) 「健康経営の展望-どう評価・開示するか? -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・金藤正直、岡照二 (2021) 「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・金藤正直 (2021) 「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・金藤正直 (2022) 「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn the management method for solving environmental and social issues in companies and regions.

② Learning Objectives

Thought this lecture, graduate students are able to logically understand a new sustainability management and accounting system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Content of the resume : 20%
- 2) Content of the presentation : 30%
- 3) Participation in the discussion : 30%
- 4) Report based on the presentation : 20%

MAN500P2 - 107

サステナビリティ・レポーティング

八木 裕之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業のサステナビリティ情報は、サステナビリティ報告、統合報告、ガバナンス報告、有価証券報告書などのさまざまな方法によって開示されるようになっていきます。履修者は、世界および日本で展開されているサステナビリティ情報開示基準に関するさまざまな動向、先進企業の実践について理論と実践を学び、サステナビリティ情報開示のあり方や利用方法についてディスカッションを通して理解を深めます。

【到達目標】

履修者は、サステナビリティ・レポーティングの国際的な動向および企業のサステナビリティ情報開示の実践を学び、開示されたサステナビリティ情報を経営的視点をはじめとする様々な視点から分析する能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

サステナビリティ社会における企業経営のためには、企業活動のサステナビリティに関わる戦略を経営戦略に組み込むことももちろんのこと、その状況を投資家などのステークホルダーに情報開示し、ステークホルダーとのエンゲージメントを図っていくことが必要不可欠です。本講義では、世界的に大きな変動期にある企業のサステナビリティ・報告制度や企業実践について解説すると同時に、今後のサステナビリティレポーティング、サステナビリティ・マネジメント、サステナブル投資などのあり方などについて議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サステナビリティ・レポーティングの系譜	講義の進め方とサステナビリティ・レポーティングの歴史的発展の経緯を解説する。
2	サステナビリティ・レポーティングの発展	サステナビリティ社会におけるレポーティングの役割について考える。
3	環境マネジメントとレポーティング	環境マネジメントの仕組みとレポーティングについて、EUの動向、ガイドラインなどに基づいて考える。
4	サステナビリティ・マネジメントとレポーティング	サステナビリティ・マネジメントの仕組みとレポーティングについてガイドラインなどに基づいて考える。
5	サステナビリティ・レポーティングとサステナブル投資	サステナブル投資におけるサステナビリティ評価やサステナビリティ情報の利用について考える。
6	SDGs と企業戦略	SDGs と企業のサステナビリティ戦略および SDGs ビジネスの関係について考える。
7	環境戦略と環境会計	環境会計情報のレポーティングについてガイドラインを中心に考える。
8	企業のサステナビリティ戦略の分析	履修者による企業のサステナビリティ戦略分析に基づいてディスカッションする。

9	サステナビリティ・レポーティングと財務報告	サステナビリティ・レポーティングと財務報告との関係を国際的な制度化の動向を踏まえて考える。
10	サステナビリティ・レポーティングと統合報告	統合報告とサステナビリティ・レポーティングの関係性について考える。
11	サステナビリティ・レポーティングと気候変動	気候変動に関する経営戦略と情報開示の状況を TCFD 提言などを中心に考える。
12	サステナビリティ・レポーティングと自然資本	サステナビリティ・レポーティングにおける自然資本情報について考える。
13	自治体のサステナビリティ・レポーティング	自治体のためのサステナビリティ・レポーティングの仕組みと機能について考える。
14	サステナビリティ・レポーティング分析プレゼン	履修者が行ったサステナビリティ・レポーティング分析の結果を発表し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業のサステナビリティ情報に関する、サステナビリティ・レポート、環境レポート、統合報告、有価証券報告書、各種調査資料などを読んで分析します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

主に配布プリントを教材として用います。テキストは特に使用しません。読む必要がある文献や資料は講義時に適宜指示します。

【参考書】

八木他『サステナビリティ社会のための会計 生態会計入門』森山書店、2013 年
 環境省『環境報告ガイドライン 2018 年版』環境省、2018 年
 環境省『環境会計ガイドライン 2005 年版』環境省、2005 年
 Task Force on Climate-related Financial Disclosures, Implementing the Recommendations of the Task Force on Climate-related Financial Disclosures, TCFD, 2021
 IIRC, International <IR> Framework, IIRC, 2021
 GRI, GRI Standard 2021, GRI, 2021

【成績評価の方法と基準】

プレゼン（30%）・ディスカッション（40%）・レポート（30%）に基づいて評価します。ディスカッションを重視するため、講義回数の 3 分の 2 以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

講義の教材、ケーススタディの対象企業などについては、できるだけ履修者の要望に対応して選択しますので、積極的にディスカッションに参加してください。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

サステナビリティ会計、サステナビリティ・レポーティング、サステナビリティマネジメント、ソーシャルビジネス、環境会計、カーボン会計、自然資本会計、バイオマス環境会計

【サステナビリティ会計】

八木裕之「非財務情報と統合報告」『会計』199 巻第 1 号、森山書店、2021 年
 八木裕之「環境戦略と自然資本会計」『会計』196 巻 4 号、森山書店、2019 年
 八木裕之「気候変動情報開示とカーボン会計」『会計』194 巻 4 号、森山書店、2018 年

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students study basic theory and practices of sustainability reporting and utilization of sustainability information.

【Learning Objectives】

The goals of this course are acquisition of sustainability analytical capabilities.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read sustainability reports related to each lecture at least two hours.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: presentation (30%), term-end report (30%), and in-class contribution(40%).

ECN500P2 - 119

環境経済論

杉野 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。本授業では、以下の2つを最終目的とする。
① 環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に経済学を応用できるようにする。
② 日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解し、必要とされる政策について理解を深める。なお、環境経済学を学ぶうえでミクロ経済学の基礎的な知識が必要となる。本授業では、関連するミクロ経済学を適宜説明しながら講義を行う。

【到達目標】

経済学の基礎知識と環境問題に対する理解を深めることができる。また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面での講義形式を基本とする授業を行います。毎回、講義と関連する課題（小テスト）を実施します。課題（小テスト）の解説を次の授業の冒頭に行います。また、コメントや質問に対する回答も授業の冒頭に行います。

なお、一部の授業ではゲームを行い、学んだ理論と現実の差を体感します。

また、グループディスカッションを通じて、政策の方向性などを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境経済学とは ミクロ経済学①（市場とは）	環境経済学を学ぶ際に必要最低限の経済学的知識を解説します。 需要曲線と供給曲線の意味および、市場の機能を解説します。
第2回	ミクロ経済学②（余剰分析） ミクロ経済学③（市場の効率性）	消費者余剰、生産者余剰、社会的総余剰について解説します。 市場の効率性・万能性について解説します。
第3回	公共財とは 外部性（様々な費用）	公共財の定義およびどのような問題があるのかを解説します。 平均費用、平均可変費用、限界費用など費用の概念を解説します。
第4回	外部経済（余剰分析） 外部不経済（余剰分析）	正の外部性について解説し、市場にどのような影響をもたらすかを解説します。 負の外部性について解説し、市場にどのような影響をもたらすかを解説します。
第5回	外部不経済の内部化	外部不経済が存在する場合、社会的に望ましい状態は何かを解説します。
第6回	コースの定理	当事者間の交渉によって環境問題が解決することができることを解説します。
第7回	政策による環境問題の解決 効率的な削減（ピグー税と排出量取引）	どのような環境政策が有効かを解説する。また、それぞれの政策の利点・欠点について議論する。

第8回	ゲーム①：排出量取引制度を理解する ゲーム②：排出量取引制度におけるプレーヤーを理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の基本的な制度設計について学ぶ。
第9回	ゲーム③：排出量取引制度における費用軽減措置を理解する ゲーム④：排出量取引制度のまとめ	ゲームを通じて排出量取引制度の導入がもたらす様々な問題に対処する応用的な制度設計について学ぶ。
第10回	地球温暖化①：問題の所在 地球温暖化②：京都議定書	温暖化政策の基礎的な知識を解説する。また、京都議定書第1約束期間までの状況を解説する。
第11回	地球温暖化③：ポスト京都 地球温暖化④：各国の対策および事前評価	ポスト京都議定書（パリ協定まで）について解説し、各国の気候変動政策および事前評価について解説する。
第12回	廃棄物問題①：ごみ処理有料化政策 廃棄物問題②：自治体の取り組み	ごみ処理有料化政策が何故必要なのか、何を意図しているのかを解説する。また、自治体の取り組みと理論を比較する。
第13回	放射性廃棄物問題①：低レベル放射性廃棄物 放射性廃棄物問題②：高レベル放射性廃棄物	放射性廃棄物の最終処分問題について米国の取り組みを紹介しながら解説する。また、日本に必要な方策を考える。
第14回	大気汚染①：固定排出源の規制 大気汚染②：移動排出源の規制	日本における大気汚染対策を紹介し、今後の方策について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。指定したテキストおよび参考書の該当する箇所を事前に読み、授業の準備を行ってください。また、課題を行い、内容の理解度を深めてください。

【テキスト（教科書）】

『入門 環境経済学－環境問題解決へのアプローチ』, 日引聡・有村俊秀, 中央公論新社 (2002)

【参考書】

Richard Porter The Economics of Waste, Routledge, 2002.

【成績評価の方法と基準】

小テストおよび最終課題を総合的に評価します。具体的には、小テスト 45%、最終課題 55%の合計 100%点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の理解を深めるため、排出量取引制度のゲームを引き続き実施します。また、練習問題の難易度を複数準備する。例えば、公務員試験の過去問など。また、オンライン対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

電子ファイル（講義資料や追加資料など）を配布いたします。パソコン（タブレット）などをインターネットに接続できるようにしてください。

【その他の重要事項】

特定の時間帯にオフィスアワーを設定していませんが、授業等がなければいつでも対応いたします。事前アポをメールで取ってください (makoto.sug@gmail.com)。質問などがあった場合、連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学
<研究テーマ>環境経済学
<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】

【Course outline】

Economic growth has increased the burden of environmental impacts in various dimensions. In this course, we will apply microeconomic theory to environmental issues and consider what kind of policy/regulations are needed to address these issues from the theoretical perspective.

【Learning Objectives】

Students will be able to 1) understand the “nature” of environmental issues and apply economics to counter these issues and 2) understand Japanese environmental policies/regulations and consider further, what kind of actions are needed in the future.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than two hours for each class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in class will be decided based on the following:

Take-home test 45%, Term-end assignment 55%.

LAW500P2 - 124

環境と知的財産権

中里 妃沙子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産権の基礎を押さえた後、知的財産権の現代社会における重要性を学び、さらに工業的分野だけでなく、知的財産権が、自然及び環境問題とどのように関連しているか、知的財産権の種類にわけて、幅広く事例を挙げて講義する。

知的財産権の法的理解を深めるために、必要に応じて、民法などの法的問題についても、講義を行う。

特に、特許権、音楽著作権、商標権など、知的財産権の新しい動向についても解説するとともに、一般にはなじみがない種苗法も取り上げ、環太平洋パートナーシップ（TPP）の農業分野に対する影響、知的財産権に対する影響について解説する。

ほかに、生物多様性条約が知的財産権についても関連の深い条約であることを概説し、知的財産権の現代社会における広がりについて学ぶ。

【到達目標】

特に、特許権、音楽著作権、商標権など、知的財産権の新しい動向についても解説するとともに、一般にはなじみがない種苗法も取り上げ、環太平洋パートナーシップ（TPP）の農業分野に対する影響、知的財産権に対する影響について解説する。

ほかに、生物多様性条約が知的財産権についても関連の深い条約であることを概説し、知的財産権の現代社会における広がりについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で開催予定である。講師作成のパワーポイントレジュメを使用し、判例の紹介、その他新聞記事などを適宜配布しながら、知的財産権の内容及び知的財産権と自然との関係について概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	知的財産権が属地的権利であることを確認したのち、グローバル化した社会の中で、条約などを通じて、どのように保護されていくかを論じる。	・知的財産権とはどのような権利の呼称か ・知的財産権の法的性質（「独占」）について ・知的財産権の種類 ・知的財産権の国際性（条約を中心にして）
第2回	工業所有権の中心的権利である特許権を概説し、工業分野だけでなく、自然及び環境との関係でも、関連の深い権利であることに触れる。	・特許法1：特許法についての概説及び特許権の具体的事例の説明
第3回	特許法のつづき 実用新案権についての概説	・特許法2：特許権に対する制限について ・実用新案法の解説及び実用新案権の具体的事例の説明 ・意匠法の解説及び意匠権の具体的事例の説明

第4回	工業所有権のひとつである意匠権の概説 農業分野で重要な権利であり、自然と直接関わりのある育成者権保護する種苗法を中心に概説する。	・意匠権に対する制限について ・種苗法1：種苗法についての解説
第5回	種苗法についての概説の続き	・種苗法2：指定種苗制度についての解説
第6回	著作権について概説する。	・著作権法1：著作権法の概説
第7回	著作権についての概説の続き	・著作権法2：著作権に対する制限
第8回	商標法について概説し、特許権と同じく、工業分野だけではなく、農業分野など、自然とも深く関わってくる権利であることに触れる。	・商標法1：商標権について概説する
第9回	商標についての概説の続き	・商標法2：新しい商標について概説
第10回	不正競争防止法について概説し、知的財産権分野だけでなく、農業分野など、自然とも深く関わってくる権利であることに触れる。	・不正競争防止法
第11回	自然及び環境と知的財産権の関わりについて、特許権を中心に論ずる。特に、遺伝子特許、生物特許など新しい問題についても扱う。また、特許権と育成者権の二重保護についても触れる。	・自然と特許権 ・特許権と育成者権との関係（二重保護）
第12回	農林水産分野における知的財産権の保護についてのこれまでの講義の総まとめを行う。	・農林水産分野における知的財産権 ・地域団体商標 ・TPP 交渉の農業及び知的財産権に対する影響
第13回	生物多様性条約が、知的財産権をも扱っている点について解説し、さらに今後の知的財産権の方向性についても概説する。	・生物多様性条約（知的財産権に関連して）
第14回	まとめ	学生による研究発表・レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業終了後、授業内容を理解することが求められます。

【テキスト（教科書）】

講師作成のパワーポイントレジュメ

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% レポート課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

毎年、知的財産権について最新の話題を取り入れてお話ししようとありますが、今年は特に TPP に関連する事柄について、折に触れてお話しする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

離婚・相続などの家事分野

景表法、薬機法、特商法などを踏まえた広告規制全般

<研究テーマ>

特になし

<主要研究業績>

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts and principles of Japanese Intellectual Property Rights such as Patent Act, Utility model right Law, Design Act, Plant Variety Protection and Seed Act, Copy right Act, Trademark Act, and Unfair Competition Prevention Act. It also introduces the International Intellectual Property including several global conventions, such as Paris Convention, Berne Convention, Agreement on Trade-Related Aspects of Intellectual Property Rights and Convention, and Convention on Biological Diversity.

At the end of the course, participants are expected to understand the Japanese Law system and social phenomena from the view of legal perspective by learning Japanese Civil Code which is the most important and basic law in Japanese law system as well.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grating Criteria/Policy】

Aggressiveness such as attendance and question in classes 50%
Submission of reports 50%

ECN500P2 - 146

環境ガバナンスⅡ

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」と「農」と「地域」をキーワードとして、その関係性を歴史的、社会的に検討します。「自然環境」、「社会環境」の両側面から「環境」を捉え、具体的な事例から持続可能な社会のしくみについて考えます。

【到達目標】

食と農と地域の歴史を理解し、環境を論じる基礎的知識と視角を身につけます。文献講読および具体的な事例を通して、現代社会の課題と今後の展望を考察することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義を中心としつつ、ディスカッションペーパーにもとづく議論を適宜織り交ぜて、考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	食と農を論じる視点
第2回	問題提起	食と農を論じた近年の研究成果の検討
第3回	文献講読（1）	食と農に関わる文献講読と討論
第4回	文献講読（2）	食と農に関わる文献講読と討論
第5回	文献講読（3）	食と農に関わる文献講読と討論
第6回	文献講読（4）	食と農に関わる文献講読と討論
第7回	総括と展望	各自の研究課題との関連について総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。具体的には、課題文献を事前に予習し、報告後のディスカッションの準備をしてください。報告者は事前にレジュメを作成し、報告当日は全体に共有できるように準備して下さい。

【テキスト（教科書）】

今のところ、下記の文献を候補としているが、参加者との相談で決定する。

- ・河上睦子『「人間とは食べるところのものである」―「食の哲学」構想』社会評論社、2022年
- ・キャロル・ヘルストスキー著、小田原琳、秦泉寺友紀、山手昌樹訳『イタリア料理の誕生』人文書院、2022年

【参考書】

- ・内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書、1971年
 - ・鶴見和子『内発的発展論の展開』筑摩書房、1996年
 - ・カール・ポランニーほか『経済の文明史』ちくま学芸文庫、2003年
 - ・宇沢弘文『人間の経済』新潮新書、2017年
 - ・矢ヶ崎典隆・森島齊・横山智編『トビックス地誌3 サステイナビリティ』2018年、朝倉書店
 - ・湯澤規子『胃袋の近代―食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
 - ・湯澤規子『「おふくろの味」幻想―誰が郷愁の味をつくったのか』光文社新書、2023年
- その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告（50%）と最終レポート（50%）で評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。具体的には主体性、独自性、堅実性に基づいて評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者それぞれの問題意識を深められるように、ディスカッションの時間を活用したいと思います。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞地域経済学、日本近現代史、人文地理学
＜研究テーマ＞地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史

＜主要研究業績＞

- ・『「おふくろの味」幻想―誰が郷愁の味をつくったのか』（単著、光文社新書、2023年）
- ・『7袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
- ・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
- ・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will examine this relationship from a historical point of view using "food", "agriculture" and "region" as keywords. We will consider the "environment" from both the "natural environment" and "social environment" and think about the structure of a sustainable society from various cases.

◆ Learning Objectives

Students will gain an understanding of the history of food, agriculture, and local communities, and acquire the basic knowledge and perspectives to discuss the local environment. The course aims to examine the issues and future prospects of contemporary society through literature reading and specific case studies.

◆ Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, please read the assigned literature carefully, prepare a resume, and discuss the issues.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on lecture participation and report (50%) and final report (50%). Specifically, evaluation will be based on initiative, originality, and solidity. The theme will be presented at the beginning of the lecture.

MAN500P2-133

グローバル環境経営論

白鳥 和彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、企業経営においては、公害対策から廃棄物対策、温暖化防止や生物多様性保全など幅広く地球環境問題への対応が求められている。また、それが同時に企業の持続可能な発展につながるものが求められている。日本および海外企業の環境経営の現状と今後の課題について、その本質と企業の対応について検討する。

【到達目標】

先進的な環境経営を行っている企業等の事例をもとに、環境経営の基本的考え方、基礎的な目標や達成手法などに関する基本的な知識を習得し、持続可能な社会に向けた企業の環境経営の在り方等について自ら考察出来る能力を涵養する。
ディプロマポリシーの「DP1」と「DP2」に関連している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業で行う。リアルタイム型（Zoomを利用した双方向型）とする。

授業ごとに設定したテーマについて、社会や環境問題の現状、法規制、企業の取組みなど、基本的な事項を講義したのち、具体的な企業の事例を分析・検討し、受講者からの報告や教員と受講者との意見交換等を通じて理解を深めていく。
連続した2時限授業であることを活かし、講義と意見交換を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	環境経営の概念 環境経営とは何か	・環境経営の概観 ・企業理念、環境方針、トップコミットメント ・環境先進企業がどう取り組んできたか 等
第2回	エネルギー政策とエネルギー関連ビジネス	・エネルギーと環境負荷、エネルギー政策、パリ協定 ・既存エネルギー企業、再生可能エネルギー企業、IT関連企業の取組み 等
第3回	資源循環・サーキュラーエコノミー	・日本および欧州の関連政策 ・製造業の資源循環の取組み（ex自動車業界） ・プラスチックリサイクル企業、リサイクルメジャー企業の取組み 等
第4回	環境経営の評価：社会やステークホルダーからどう評価されるか	・環境経営度ランキング、環境・CSR関連のインデックス 等
第5回	環境経営の指標化：自社のなかでどう評価・指標化し進めるか	・エコラベル、カーボンフットプリント ・環境会計とその進化（社会価値の定量化） 等
第6回	地域循環共生圏：環境基本計画と地域の環境対応	・地域エネルギー、街づくり ・コンパクトシティ ・地域企業の取組み例 等

第7回 環境対応と社会課題解・シェアリング・エコノミー等
決に繋がる新しいビジョン・全授業を通してのまとめ、発表
ネスモデル
講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地球環境問題、企業の環境・社会的責任に関する活動に関心を持ち、自己学習に努めること。各回に次回の事前・事後学習の内容を指示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて資料配布する。

【参考書】

授業テーマに応じて資料・文献などを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：80%

討議への関与度、発表：20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なパソコンおよび通信環境を準備してください。

（通信環境は通信量無制限の契約が望ましい）

【その他の重要事項】

受講者の関心事・理解度により講義内容や取り上げる事例を変更することがある。

学生からの積極的な発言や議論を期待する。

【実務経験のある教員による授業】

製造業で、ゼロエネルギー住宅の開発、居住環境・生活エネルギーに関する研究開発など環境領域での研究開発に従事。その後、環境経営およびCSR経営の立ち上げから全社の施策立案・推進に従事。環境マネジメントシステムの全社展開、LCAや環境会計手法の活用と展開、環境レポート・CSRレポートをはじめとした環境コミュニケーション、環境教育、社会貢献活動（特に次世代向け）の企画・立案・推進等、環境経営・CSR経営に関するほぼ全ての事項や手法に携わってきた。理論だけでなく企業での施策や手法など実践的な内容を盛り込んだ講義を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営・CSR経営、環境イノベーション、環境マーケティング
<研究テーマ>

・企業の環境・CSR経営の取り組みに関する研究
・環境・CSR対応と企業価値に関する研究
・持続可能な社会に向けた経営指標に関する研究

<主要研究業績>

①『環境企業家と環境経営の新展開』（単著、税務経理協会、2009年）
②『マーケティングにおける現場理論の展開』（共著、創成社、2018年）

【Outline (in English)】

Course outline:

Considers the current efforts and future issues of environmental management of Japanese and overseas companies, for the sustainable society.

Learning Objectives:

Based on examples of companies that are conducting advanced environmental management, acquire basic understanding about the basic concept of environmental management, basic goals and achievement methods, etc. Cultivate the ability to think independently about how environmental management should be.

Learning activities outside of classroom:

Students are required to be interested in activities related to global environmental issues and corporate environmental and social responsibility. Preparatory study and review for this class are 2 hours each.

Grading criteria:

participation and attitude 20% / final report 80%

ECN500P2 - 126

開発経済論

山田 英嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済学は、開発途上国での貧困や不平等に着目し、どうすればそれらの問題を解決できるかを考察する実践的な分野である。本講義の目的は、現代の開発途上国が直面する主要な課題を把握し、開発経済学がどのような課題解決策を提示してきたのかを理解することである。特に、理論的なアプローチだけでなく、データによる実証分析も活用して開発途上国の諸課題について議論する力を習得することを目指す。

【到達目標】

本講義の到達目標は以下の3点である。

- (1) 開発経済学がどのように貧困や不平等をとらえてきたのか、主要な指標の考え方や計測方法について、基本的な知識を習得し、アジア・アフリカなどの開発途上諸国の実態を把握すること。
- (2) 貧困や低開発の原因やその解決方法について、開発経済学が提示してきた理論の概要を理解すること。
- (3) 政策の効果を統計的に評価するために定量分析の手法（特にインパクト評価）の概念を理解し、現実の実証例を通じて、開発政策実務への活用方法を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義はすべてオンライン授業で行う。各回の講義は、①教員による講義、②参考文献に関する学生の報告、③基礎的なデータ分析課題、④ディスカッションで構成する。講義内容は、ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学等、経済学の基礎的な知識は前提としない。理論的な説明では数式はなるべく使用せず、グラフなどを使った直観的な理解を優先する。実証分析を理解するための統計学の基礎知識については、講義内で補足説明を行う。ただし、講義の方法や内容については、受講者の数や関心などに応じて変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/ 開発経済学の変遷と経済成長論	第二次世界大戦以降、開発経済学がどのように変遷してきたのか、開発途上国の発展の歴史を踏まえつつ概観する。併せて、経済成長論の概要を理解する。
第2回	貧困と不平等	開発経済学が解決の対象とする中心的課題が貧困と不平等である。貧困と不平等に関する諸概念を整理し、主要な指標の計測方法を習得する。開発経済学および開発の実務でよく使われるデータ（オープンデータ）の使い方についても紹介する。
第3回	貧困層のミクロ経済学	途上国の貧困層は、労働者・起業家・消費者としての役割を持つ経済主体である。ミクロ経済学モデルにより、経済主体としての貧困層の行動を分析するアプローチを学ぶ。

- 第4回 開発政策を実証分析する手法（インパクト評価）

近年の開発経済学において、現実の政策の効果をデータを使って実証的に分析し知見を得る「インパクト評価」が大切なツールとなっている。効果の測定に必要なデータや主要な手法について、基礎的な知識を得る。
- 第5回 教育・保健医療と開発

開発途上国における教育や保健医療の実情を主要な統計から把握する。教育や医療へのアクセスを改善するための様々な施策に関して、インパクト評価による主要な研究を概説し、どのような施策が有効なのか議論する。
- 第6回 出稼ぎ移民/環境問題

前半では、現代の開発途上国に幅広くみられる出稼ぎ移民（国内・海外）について扱う。出稼ぎの動機や故郷への送金をもたらす影響などについて考察する。後半では、近年特に深刻となっている環境問題について、開発途上国の現状と各国政府、国際社会の取り組みを経済学的に解釈する。
- 第7回 国際協力と開発経済学

開発経済学は、開発途上国の政策や援助にどのように役立てられているのか。国際協力の歴史・最近の動向を概観しつつ、実際の開発協力事業を例に、政策策定やプロジェクトの実施における開発経済学の知見の活用例を紹介し、開発経済学の有用性・課題について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 各回で講読する参考文献について、発表担当の学生は発表準備を、その他の学生は予習をする。学期中、各学生が1-2回発表できるようにする。参考文献には英語のものも含まれる予定。
- (2) 全体で2回程度、講義内容に関連する簡単なデータ分析課題を課す。講義開始前までにメールで提出、講義時間中に学生からの発表とディスカッションを行う。課題は、オープンデータ（オンラインでアクセス可能な公開データ）を使い、エクセル等の表計算ソフトで実施可能な基礎的なもので、統計分析ソフトウェア等は必要としない。
- (3) 期末レポートの詳細については、講義中にガイダンスする。
- (4) 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「開発経済学—貧困削減へのアプローチ」黒崎卓・山形辰史、日本評論社、2017年
 「テキストブック開発経済学（第3版）」ジェトロ・アジア経済研究所・黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史、有斐閣、2016年
 「貧困の経済学（上・下）」マーティン・ラヴァリオン（柳原透 監訳）、日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、参考文献の発表（30%）、データ分析課題（20%）、授業やディスカッションへの貢献（30%）、期末レポート（20%）、を総合的に判断して行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>空間経済学・都市経済学・ミクロ計量経済学
 <研究テーマ>①海外出稼ぎ移民の要因・海外送金の開発効果②インフラ事業のインパクト分析③空間経済学による環境問題の分析
 <主要研究業績>

Y Shimamura, S Shimizutani, E Yamada, H Yamada (2022), "The Gendered Impact of Rural Road Improvement on Schooling Decisions and Youth Employment in Morocco" The Journal of Development Studies, 1-17.

S Shimizutani, E Yamada (2022), "Long-term Consequences of Civil War in Tajikistan: The Gendered Impact on Education and Labor Market Outcomes" *Defence and Peace Economics*, 1-14.

S Shimizutani, E Yamada (2022), "Transformation of international migrants in head wind: Evidence from Tajikistan in the 2010s", *Review of Development Economics*.

E Yamada, S Shimizutani (2022), "The COVID 19 pandemic, daily mobility and household welfare: Evidence from Tajikistan", *Transportation Research Interdisciplinary Perspectives* 15, 1006412.

E YAMADA, S SHIMIZUTANI, E MURAKAMI (2022), "Remittances, Household Welfare, and the COVID-19 Pandemic in Tajikistan" *Asian Development Review* 39 (2), 147-174.

Satoshi Shimizutani, Eiji Yamada (2021), "Resilience against the pandemic: The impact of COVID-19 on migration and household welfare in Tajikistan," *PLoS ONE* 16(9): e0257469.

Enerelt Murakami, Eiji Yamada, Erica Paula Sioson, "The impact of migration and remittances on labor supply in Tajikistan," *Journal of Asian Economics*, Volume 73, 2021, 101268.

Eiji Yamada, Satoshi Shimizutani, Enerelt Murakami, "The COVID-19 pandemic, remittances, and financial inclusion in the Philippines," *Philippines Review of Economics*, Vol 57, No. 1 (2020)

Murakami, E., Shimizutani, S. & Yamada, E. "Projection of the Effects of the COVID-19 Pandemic on the Welfare of Remittance-Dependent Households in the Philippines". *Economics of Disasters and Climate Change* (2020).

Eiji Yamada, "A Spatial Equilibrium Analysis of Air Pollution in China", JICA Research Institute Working Paper 211, 2020.

Mai Seki and Eiji Yamada, "Heterogeneous Effects of Urban Public Transportation on Employment by Gender: Evidence from the Delhi Metro", JICA Research Institute Working paper 207, 2020.

Mahmud, Minhaj, Yasuyuki Sawada, and Eiji Yamada, "Willingness to Pay for Mortality Risk Reduction from Air Quality Improvement: Evidence from Urban Bangladesh", JICA Research Institute Working Paper 190, 2019.

[Outline (in English)]

[Course Outline]This course aims at providing basic knowledge on the Development Economics, in terms of its major topics and key methodological approaches. The lecture covers the concept and measurements of poverty/inequality, microeconomic models of poor households, the basics of quantitative impact evaluation, and economic interpretation of specific development issues such as education, healthcare, migration, and environment.

[Learning Objectives] We have major three objectives. First is to overview the key concepts and measurement for poverty and inequality. Second is to understand basic theories in Development Economics that have proposed explanations on the cause and solutions for poverty and underdevelopment. Third is to learn about impact evaluation, the set of methodology to statistically quantify the impact of policy interventions.

[Preparation and homework outside of the class] Every week, after the lecture, one or two student(s) present a reference article followed by an open class discussion. In addition, students are required to submit short works of data analysis (graphing, tabulation, etc.) related to the contents of the lecture.

[Grading criteria and policy] The following items will be evaluated with the weight given in the parentheses. Presentation of reference materials(30%), Data analysis homework(20%), Contribution to the discussion during the lecture(30%), term paper(20%)

ARSI500P2 - 128

国際環境協力論

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発途上国が持続可能な開発を達成するために、日本や国際機関はどのような支援を実施しているのか、また、今後、どのように支援を行うべきなのかを学ぶ。将来、国際協力の分野に進んだ学生には、援助のあり方を考える基礎を習得する。

【到達目標】

インフラ開発に伴う社会環境配慮と環境プロジェクトの相違を理解したうえで、世界銀行やアジア開発銀行、日本のODAがどのような仕組みで動いているかを理解する。その上で、以下の事例について学習する。

- ・過去に行われたダム建設に伴う住民移転から得られた教訓
- ・工業化に伴う公害対策の先例としての日本の公害経験
- ・開発途上国の資源環境問題の実例としての中国の諸問題
- ・気候変動対策における援助の方向性

これらをベースにして、持続可能な開発に向けた援助の方向性を見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントはHoppiiにアップする。

国際協力の現場で働く数名の実務家にプレゼンテーションを行って頂く予定である。海外勤務の方にはオンラインで行って頂く。日程はプレゼンターの都合によるので、授業の全体スケジュールはそれに応じて変更される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	国際協力とODAの仕組み
第2回	日本の環境協力の歴史	1970年代以降の日本の環境協力の歩み
第3回	開発途上国の環境政策の進展	開発途上国で環境政策がどのように進展してきたか。
第4回	開発途上国の環境政策の課題	開発途上国の環境政策にどのような課題が残されているか。
第5回	日中環境技術協力	JICAを通じた協力事例の紹介
第6回	中国の資源と環境	水資源、エネルギー、公害などについて
第7回	アジアの事例	バングラディッシュなどの事例研究
第8回	気候変動緩和策	事例研究
第9回	気候変動に関連する技術協力	緩和策に関連する事例
第10回	気候変動適応策	事例研究
第11回	日本の公害経験	大気汚染対策を例にとつて
第12回	日本の地方公共団体の公害経験	横浜市、北九州市、大阪市の事例
第13回	環境配慮	セーフガードポリシー
第14回	住民移転	ダムによる住民移転と生活再建の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読むなどの、本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準である。

【テキスト（教科書）】

講義中に資料を指示する。

【参考書】

井村秀文・松岡俊二・下村恭民編著 『環境と開発』 日本評論社

【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くの事例を紹介することとする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業は対面で行うが、オンラインで同時配信するので、学生は各自の都合に合わせて受講されたい。

【担当教員の専門分野等】

環境システム科学、国際環境協力

【担当教員の関連する業績】

1.Ryo Fujikura (2022) Financing in Climate Change Adaptation, Chapter 2, (Ed: Ishiwatari M. and Sasaki D.) Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation - Asian Perspectives, Springer, Singapore, 19-36, https://doi.org/10.1007/978-981-19-2924-3_2

2.Taro Katsurai, Daisuke Sasaki, and Ryo Fujikura (2022) What Determines the Time Efficiency of the Purchasing Phase of Public Procurement in Developing Countries: Evidence from Japanese ODA Loans, Working Paper No.229, March 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_229.html

3.Masato Kawanishi, Nela Anjani Lubis, Hiroyuki Ueda, Junko Morizane and Ryo Fujikura (2021) From Project to Outcome: the Case of the National Greenhouse Gas Inventory in Indonesia, Working Paper No.225, December 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_225.html

4. 川西正人、藤倉良、加藤真、森實順子 (2021) 国家温室効果ガスインベントリ実施体制の比較研究—日本・インドネシア・ベトナム・タイの事例から—、環境科学会誌 34 (3)、124- 138、10.11353/sesj.34.124

5. 土岐典広、藤倉良 (2021) 国際協力機構と中国政府機関による日中企業の連携促進事例—日本の ODA 出口戦略に向けた示唆—、公共政策志林、第 9 号、217-236

6.Masato Kawanishi, Makoto Kato, Ryo Fujikura (2021) Analysis of the Factors Affecting the Choice of Whether to Internalize or Outsource the Task of Greenhouse Gas Inventory Calculations: The Cases of Indonesia, Vietnam, and Thailand, International Journal of Sustainable Development and Planning, Vol. 16, No. 1, February, 2021, pp. 145-154, doi: 10.18280/ijstdp.160115

【Outline (in English)】

Students will learn international cooperation is being implemented by Japan or international organizations in order for developing countries to achieve sustainable development and how to support them in the future. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on a report or the final exam.

ARSI500P2 - 129

社会開発論

新村 恵美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、SDGsの枠組みを援用しつつ、国際社会共通の課題を網羅的に概観し、考察する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

1. SDGsに関連づけながら、各回テーマについて、理論と実践の両方を往復することで発展的な知識を習得する。
2. SDGsにこめられた「誰一人取り残さない」「変革」といったメッセージを包括的に理解する。
3. SDGsが掲げる「共通だが差異のある責任（CBCR）」の理念を踏まえて、日本がとるべき方策を模索する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

第1回と第2回は、講義形式で学んだ上でディスカッションを行う。第3回から第14回は、①学生による文献資料報告、②教員による講義、③ディスカッションで構成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	SDGsとMDGs	MDGs、SDGsの概要と達成状況を概観する。【SDGs全体】
第2回	人間開発	アマルティア・センの「人間開発指数」について学ぶ。【SDGs全体】
第3回	貧困と飢餓①	国際的な貧困の定義と現状を学ぶ。【SDGs目標1&2】
第4回	貧困と飢餓②	先進国における貧困の定義と日本の現状を学ぶ。【SDGs目標1&2】
第5回	健康・保健	開発・人口政策に肝要なプロダクティブライツ、家族計画を中心に学ぶ。【SDGs目標3】
第6回	教育	「識字」の意義を確認し統計から世界の現状を検討する。【SDGs目標4】
第7回	ジェンダーと開発①	ジェンダー関連指標と世界・日本の課題を検討する。【SDGs目標5】
第8回	ジェンダーと開発②	多くを女性が担っているケア労働について検討する。【SDGs目標5】
第9回	働きがいと経済成長①	ディーセントワークの定義と世界の現状を学ぶ。【SDGs目標8】
第10回	働きがいと経済成長②	マイクロレジット（小規模金融）や銀行口座保有の意義と現状を検討する。【SDGs目標8】
第11回	インフラとイノベーション	社会開発に欠かせないインフラ、産業基盤を概観する。【SDGs目標9】
第12回	格差と不平等	国連の報告書から、近年の格差と不平等の推移と現状を概観する。【SDGs目標10】
第13回	平和・パートナーシップ①	政府による国際協力（ODA）の枠組みを概観する。【目標16&17】

第14回 平和・パートナーシップ② NGOによる国際協力を概観する。【目標16&17】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の【参考書】を基本として、各回で使用する箇所を事前に指示します。

【参考書】

新村恵美（2023）「SDGsとは何か：起源と概要、達成状況」、佐藤龍三郎・松浦司編『SDGsの人口学』人口学ライブラリー No.23、第2章

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者

蟹江憲史（2020）『SDGs（持続可能な開発目標）』中央公論新社。高柳彰夫・大橋正明編（2018）『SDGsを学ぶ—国際開発・国際協力入門』法律文化社。

南博・稲場雅紀（2020）『SDGs—危機の時代の羅針盤』岩波書店。

United Nations(2022) Sustainable Development Goals Report 2022, (<https://unstats.un.org/sdgs/report/2022>)

Sachs, J., Lafortune, G., Kroll, C., Fuller, G., Woelm, F., (2022) Sustainable Development Report 2022: From Crisis to Sustainable Development: the SDGs as Roadmap to 2030 and Beyond. Cambridge: Cambridge University Press.

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：40%

プレゼンテーション：30%

授業内での貢献：30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため、フィードバックはありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, we will provide a comprehensive overview and discussion of issues common to the international community with the aid of the SDG framework. The following three objectives are to be achieved.

1. To acquire a developed knowledge of the concept of social development and the themes to be addressed, by going back and forth between theory and practice, while relating them to the SDGs.

2. To comprehensively understand the messages of the SDGs, such as "leave no one behind" and "change".

3. Search for measures that Japan should take based on the principle of "common but differentiated responsibilities (CBCR)" set forth in the SDGs.

【Learning activities outside of classroom】

not applicable

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on

1. Mid-term report(40%),

2. Presentation(30%), and

3. contribution to the class(30%).

ARSI500P2 - 130

国際協力フィールドスタディ

岡松 暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際組織を訪問し、インタビュー調査、国際裁判の傍聴等を通して、国際協力の実体を考察する。

【到達目標】

国際協力の理論と現地調査の手法を、文献や実践を通して習得する。報告書の作成を通じて、論文執筆の基礎となる文書作成能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

文献講読と現地調査によって、国際協力のあり方を検討する。事前学習では、理論に関する文献講読、事前学習の発表、現地調査準備、報告書作成準備を行う。現地調査では、在外日本公館や国際機関を訪問する。帰国後に受講者による報告書を作成する。オランダ・ハーグとドイツ・ハンブルクを予定しているが、受講者の関心によって変更もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	授業の趣旨、現地調査先、スケジュールの確認
第 2 回	事前講義	理論についての講義
第 3 回	事前準備	文献解題
第 4 回	事前準備	文献解題
第 5 回	事前準備	事前発表
第 6 回	事前準備	事前発表
第 7 回	現地調査準備 1	スケジュールの確認 質問票の作成
第 8 回	現地調査準備 2	事後報告書作成の分担
第 9 回	現地調査 1	関係機関の訪問
第 10 回	現地調査 2	関係機関の訪問
第 11 回	現地調査 3	関係機関の訪問
第 12 回	現地調査 4	関係機関の訪問
第 13 回	現地調査 5	関係機関の訪問
第 14 回	現地調査 6	調査結果のとりまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地事情の調査と発表、事後報告書の作成。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前・事後授業への参加状況（50%）と報告書（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指示する。

【その他の重要事項】

受講者が一定数以上の場合に開講する最少受講者数を設けることがある。詳しくは秋学期までに Hoppii 等で周知する。講義及び現地調査の日程は、初回の講義時に受講者と相談の上決定する。

現地調査に必要な英語力を必要とする。

【費用負担】

現地調査に必要な旅費（往復航空運賃、宿泊費、食事代等）はすべて自己負担となる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際海洋法、国際原子力法、国際環境法

<主要研究業績>

『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所の ALPS 処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022 年）、「ロンドン条約 96 年議定書の遵守手続」（2022 年）、「SDGs と生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022 年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017 年）等。

【Outline (in English)】

Participants will visit international organizations and examine the nature of international cooperation through interviews and hearing of international trials.

Participants will acquire the theory of international cooperation and field research methods through literature and practice.

Participants will improve their writing skills as well.

Participants are required to study at least 2 hours before and after the class.

The course grade will be based on final paper (50%), presentations (30%), and discussions (20%).

CUA500P2 - 132

ヒューマン・エコロジー

高橋 五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒューマン・エコロジーは環境に関する文化的、社会的側面について学ぶ領域である。授業では、主に文化人類学的研究をもとに理論および事例を学びながら、環境と人間の関係について意見交換し、検討する。本授業の目的は、文化人類学及び関連分野による先行研究を参考にしながら、学生が自らリサーチクエストを立て、リサーチペーパーを作成することである。

【到達目標】

本授業の到達目標は、文化人類学及び関連分野の先行研究を講読し、意見交換を行うこと、また各自が授業で講読する文献を参考にしながらリサーチクエストを立て、リサーチペーパーを作成するという大学院生として必要なアカデミックスキルを獲得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド形式を用いつつ、アクティブラーニングを取り入れた方式で進める。具体的には、学生は講義録画を視聴することに加え、必須講読文献や講義内で出題される質問に対するコメントを Hoppii 掲示板にて提出することにより、履修者間の意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	環境人類学の系譜 (1)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第 2 回	環境人類学の系譜 (2)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第 3 回	環境人類学の系譜 (3)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第 4 回	環境人類学の系譜 (4)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第 5 回	環境人類学の事例研究 (1)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする
第 6 回	環境人類学の事例研究 (2)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする
第 7 回	環境人類学の事例研究 (3)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業時間外の学習には、文献を事前に読む、リアクションペーパーを書く、発表準備、授業内で示される課題（レポート、演習問題）に取り組むことを含みます。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業支援システムにて配布する。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー（40%）、発表（20%）、期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

講義、掲示板、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て Hoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 - 23 (2014)、他

【Outline (in English)】

"Human Ecology" is a graduate seminar to learn cultural and social dimensions of environmental issues through working with literatures in environmental anthropology and related studies. The main goal of this seminar is to help student to obtain basic knowledge of environmental anthropology and related areas and their contributions to our understanding of human-environment relations.

Students will be expected to proactively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on weekly commentaries (40%), presentation (20%), and research paper (40%).

SOC500P2 - 139

国際環境政策の社会学

島田 昭仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に、日本とドイツのエネルギーシフト政策の違いについて学ぶ。違いの要因を知るためにコミュニティや労働に対する考え方の違いを学ばなくてはならない。そしてドイツの政策、次に日本の政策、そしてEUとアジアの違いについて説明する。5Gを活用したスマートシティー等、今後のトピックについても扱う。

【到達目標】

エネルギーシフト政策を通して、ドイツと日本、及びEUとアジアのコミュニティの意識の違いについて理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP1」「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面式で行う。毎回、テキストと参考書に沿って進め、PPTで解説を行い、ディスカッションを行う。さらに授業でリアクションペーパーを配布し、その結果を授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに EUにおけるドイツとは	EUにおいて緑の党が果たした役割について…なぜ脱炭素なのか？
第2回	脱炭素と労働概念	労働と組合とコミュニティと自由の関り
第3回	独のE政策（福島の影響）	日独「エネルギー転換」比較分析 C1
第4回	独のE政策（草創期）	日独「エネルギー転換」比較分析 C2
第5回	独のE政策（討議主義）	日独「エネルギー転換」比較分析 C3
第6回	独のE政策（核エネルギー）	日独「エネルギー転換」比較分析 C4
第7回	独のE政策（政策の結末）	日独「エネルギー転換」比較分析 C5,6
第8回	独日E政策比較（電力供給）	市民電力とは何か…各地取組の実態
第9回	独日E政策比較（建築）	ZEB、ZEH…ゼロエネルギーとは
第10回	国際E政策（運輸交通）	運輸・航空業界における実態
第11回	国際E政策（都市計画）	スマートシティと5Gで、都市はどのような？
第12回	EU政策分析（資本主義経済とピグー税）	環境税とは何か 経済学におけるピグー税の適用限界
第13回	EU政策分析（世界戦略としての炭素税）	なぜ炭素排出税はあっても森林破壊税はないのか
第14回	まとめ 独日、EUとアジアはなぜちがう	労働とコミュニティの考え方の違いについてディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストは授業内で配布します（購入する必要はありません）。
・『日独「エネルギー転換」の比較分析』2019, 壽福

【参考書】

以下の参考書は授業内で配布します（購入する必要はありません）。
・『資料で見るドイツ「エネルギー転換」の歩み』2019, 壽福
・『ゼックプロジェクト調査・研究報告書』2019, 谷口・島田

【成績評価の方法と基準】

①期末試験期間内に提出するレポート課題によって評価する。
②課題は第14回の授業内で示す。自分の意見を論文形式で記述する。
③評価基準は課題把握の確さ(30%)、論理一貫性(30%)、論拠の正当性(30%)、誠実性(10%)とする。

【学生の意見等からの気づき】

大事なことは何度も繰り返して説明する。

【学生が準備すべき機器他】

状況によってはZoom環境(端末、Wifi)が必要となる。

【その他の重要事項】

国や自治体の政策に25年間関わった教員が、関連法規や施策の解説を行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>都市計画
<研究テーマ>住民の合意形成
<主要研究業績>『住民主権の都市計画』自治体研究社,2019

【Outline (in English)】

Learn about the difference between Japan and German energy shift policy mainly. The goal is to have knowledge of the difference in way of the community and the labor. Students will be expected to read the text book and prepare reporting for the next. Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

SES500P2 - 116

環境工学の基礎

浦野 真弥

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

過去から現在の環境問題を俯瞰し、環境科学と環境工学の違い、環境工学の役割を学んだ後、私たちの生活に関連の深い個別の分野について、環境工学の視点から学びます。

学生は、本授業によって、身のまわりの種々の環境問題が何故起きているのかを理解し、それらがどのような要素を含むかを学ぶことができます。また、それを解決する手法としての環境技術やシステムの概略を学びます。

【到達目標】

環境工学の基礎として、大気や室内環境、水環境、土壌環境、廃棄物、悪臭、騒音、振動、化学物質に関わる問題と関連技術や制度について学びます。

授業では特に身近な環境問題を取り巻く要素を理解し、問題が相互に関係し、多面的であることを学びます。また、過去の問題がどのような技術や制度の導入によって解決されたのかが理解できます。さらに現在の状況と課題を理解し、新たな環境問題を捉える方法や解決するための視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業では環境に関わる諸問題について、分野を分けて一コマもしくは二コマを目的にパワーポイントを用いて説明します。なお、講義の内容は進行状況によって、変更になることがあります。

資料は前日の夕方までに Hoppii にアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境問題の背景と種類、環境工学の位置づけ、環境管理の方法、基準、環境技術
第2回	大気汚染と室内汚染	歴史、大気汚染物質の原因、健康影響、対策、室内汚染
第3回	水環境、上水道、下水道	水資源、水循環、水道水の製造、水質と健康、費用、下水道、下水処理、富栄養化
第4回	水質汚染、土壌汚染と管理	有害物質による水、土壌の汚染と管理
第5回	悪臭、騒音、振動、資源利用	悪臭、騒音、振動の基礎、測定、対策、資源利用の実態
第6回	廃棄物処理とリサイクル	一般廃棄物、産業廃棄物、リサイクル技術
第7回	化学物質の利用と管理	化学物質による環境汚染と健康影響、管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備：次回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して概要を掴み、どこかに問題があるか、その原因はどこにあるかを考えてみる。

前回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して、今から出来る対策や改善策を考えてみる。

調査では必ず複数の情報に当たる。考察では他の要素（例えば、経済活動や他の環境要素への影響）についても考える。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

花木啓祐監修、環境工学入門、実教出版

藤倉良、藤倉まなみ著、文系ための環境科学入門 新版、有斐閣
浦野紘平、浦野真弥著、地球環境問題がよくわかる本 改訂版、オーム社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末レポート（100%）で行います。

評価は問題への基礎的な理解度、テーマに対する多角的視点からの要点整理と考察の程度によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境工学

<研究テーマ>

環境計測、化学物質挙動、廃棄物処理、化学物質安全、リスク評価、におい

<主要研究業績>

投稿論文

- 1) 浦野真弥、太宰久美子、加藤研太、家庭用柔軟剤等の使用に伴う揮発成分挙動に関する研究、室内環境、25(1)、pp.85-97 (2022)
- 2) 浦野真弥、浦野紘平、各種低濃度 PCB 廃棄物の量とそれらの PCB 量の推計、環境科学会誌、28 (5)、pp.359-368 (2015)
- 3) 浦野真弥、加藤研太、浦野紘平、石井誠治、奥村浩、TOC・BOD・COD 測定の種類簡易法の評価と活用、用水と廃水、57 (10)、pp757-764 (2015)

等

学会発表

- 1) 浦野真弥、太宰久美子、家庭用柔軟剤使用に伴う有機化合物揮発挙動、室内環境学会 2022 年学術大会 (2022)
- 2) 浦野真弥、太宰久美子、洗濯用製品の連続使用に伴う揮発性物質の挙動解析、第 33 回におい・かおり環境学会 (2020)
- 3) 浦野真弥、加藤研太、小口正弘、谷川昇、化学物質の大気放出量推計のための産業廃棄物焼却飛灰中重金属と焼却物の関係解析、第 29 回廃棄物資源循環学会研究発表会 (2018)

等

書籍

- 1) 浦野紘平、浦野真弥、地球環境問題がよくわかる本 改訂版、オーム社 (2023)
- 2) 浦野紘平、浦野真弥、身近な環境・生活のホントがよくわかる本、オーム社 (2021)
- 3) 日本水環境学会(編)、水環境の事典(一部執筆)、朝倉書店 (2021)
- 4) 浦野紘平、浦野真弥、日本の環境・人・暮らしがよくわかる本、オーム社 (2019)
- 5) 浦野紘平、浦野真弥、えっ! そうなの?! 私たちを包み込む化学物質、コロナ社 (2017)

【Outline (in English)】

(Course outline)

After learning an outline current environmental issues and a role of environmental engineering, we will learn about individual fields that are deeply related to our lives from the perspective of environmental engineering.

Through this class, students will understand why various environmental problems are occurring around them, and learn what factors they contain. Students will learn environmental technologies and systems as a method to solve it.

(Learning Objectives)

In class, students will understand the factors surrounding environmental issues that are particularly familiar to them, and will learn that issues are interrelated and multifaceted.

Environmental science is the foundation for solving environmental problems. By taking this course, students will be able to understand the environment around them, learn how past problems were solved, and learn about the current situation and challenges.

By understanding past problems and approaches to solving them, students will be able to acquire new perspectives on how to perceive new problems and how to solve them.

(Learning activities outside of classroom)

- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

For the next class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about whether there is a problem somewhere and where the cause lies.

For the previous class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about what you can do from now on.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be done by term-end report (100%).

Evaluation is based on the degree of basic comprehension of the item, and the degree of summary and consideration of the theme from multiple perspectives.

SOM500P2 - 121

公衆衛生研究

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公衆衛生学は、疾病の治療を目的とする臨床医学とは異なり、疾病の予防を目的とし、さらに健康増進を図る科学技術である。人々を病気から守り、肉体的・精神的に健康な状態で社会生活を送れることを目的としている。これは人類が求める最も基本的かつ重要なサステナビリティである。現代社会には、ありとあらゆる健康問題が山積している。私たちが21世紀を健康に生き抜いていくためには、これらの健康問題について、適切な知識を持ち、情報の取捨選択を行っていく必要がある。

本講義では、学生が健康意識を高め、よい生活習慣、予防のためのノウハウを学び、健康寿命の延長を目的として公衆衛生の立場から幅広い知識を身に付けていく。

【到達目標】

本講義では、超高齢社会を生きる社会人にとって必要な健康知識と問題解決能力の習得を目的としている。予防医学、疫学の基礎を学び、様々な領域の専門家を招いて最先端の知識を得るとともにディスカッションを行ってさらに学生が理解を深める。

疫学、統計学的、社会的手法を用いた実態調査についても実例から方法論を学び、実際の研究調査の質を判断することができるようになる。学生はメディアにおいて氾濫している誤った健康情報から適切な情報を得ることが可能となる。学生は、将来健康問題に直面した際に正しい道を選択できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

少子高齢社会において多様化する健康問題、医療費高騰、各種保健行動などについて議論するとともに、疫学、統計学的、社会的手法を用いた実態調査の例を論文より学び、対策を講じていく過程を学習する。また、疫学調査、産業保健、などさまざまなテーマを取り上げて専門家を招き、最先端の知識を得ると同時にディスカッションを行って、現代社会における健康、生命についての問題点を浮き彫りにしていく。また、医療関係の映画を視聴し、問題点を指摘してディスカッションを行う。課題は最終回に発表する形とし、時間内に講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 予防医学について	講義を受講するための心構え。 現代社会において必要とされる予防医学の基礎的知識を学ぶ。
第2回	分子整合栄養療法と水素療法	健康の基本は栄養であり、細胞内の栄養バランスを適切に整えることにより、からだどこの健康を保つことができることを学ぶ。 さらに、栄養療法の効果を高めるための水素療法について学ぶ
第3回	外部講師講義（曼荼羅ワークショップ）	ファシリテーションの専門家を招き、曼荼羅ワークショップを行う。
第4回	外部講師講義（日本の医療の問題点について）	個の医療から集団の医療へというテーマで学ぶ。
第5回	外部講師講義（死生学について）	死について考えることはいかに生きるかを見つめることである。死生学の専門家を招き、話を聴く。

第6回 医療と倫理

医療界に発生する様々な事件を参照し、生命倫理の問題点について学ぶ。
映画の視聴。

第7回 研究発表、まとめ

受講者による健康に関わるテーマの研究発表・ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

講師により事前配布されるテキストや資料、健康に関連した文献を事前に読むこと、さらに講義の後にも学習内容を復習し、自己の健康管理に役立てるよう努力することをお願いします。

【テキスト（教科書）】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子 三恵書房

【参考書】

こころの超整理法 宮川路子、青柳浩明

【成績評価の方法と基準】

出席、講義中の発言、参加態度、修士課程の学生に対するコメント、最終回の発表とレポートによる。

平常点：50%

発表：30%

レポート：20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書に基づく基本的な知識の習得範囲を広げるとともに、専門家の講義とディスカッションをさらに充実させていく。

【学生が準備すべき機器他】

最終回の発表時にレジュメを準備する。発表にパワーポイントを利用する場合には、教室からパソコンを借りて準備をする。

【その他の重要事項】

外部講師の講義については、依頼する講師の都合により、変更することがある。

【担当教員の専門分野等】

公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学

<研究テーマ> 栄養と健康、就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)

The European Journal of Public Health 2012年

ビタミンDの健康効果 人間環境論集 19巻号 79-101

日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか 人間環境論集 20巻1号 1-17

<https://eiyouyohou.com/>

【Outline (in English)】

【Course outline】 Public health, unlike clinical medicine aimed at treating diseases, is science and technology aiming at the prevention of diseases and promoting health. It aims to protect people from diseases and to live social life in a physical and mental healthy state. This is the most fundamental and important sustainability that mankind desires. In modern society, all kinds of health problems are piled up. In order to live healthy, it is necessary for us to have appropriate knowledge about these health problems, and to select information.

【Learning Objectives】 In this lecture, students learn about healthy lifestyle and know-how for disease prevention, and wear broad knowledge from the viewpoint of public health for the purpose of prolonging healthy life span.

【Learning activities outside of classroom】 Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria】 Based on attendance, discussion during the lecture, presentation and report at the final session.

Attendance points: 50%.

Presentation: 30%.

Reports: 20%.

SES500P2 - 115

大気人間環境論

北川 徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気は人間生活圏を覆っており、人が呼吸し、生存するために必要なものである。一方で、時には脅威となる存在であり、またある時は心地よさやエネルギーをもたらすものでもある。本講義においては、大気の動きと人間生活、社会、都市、環境との関係について多角的に学ぶ。

【到達目標】

1. 大気運動のスケールと性質、ならびに大気と都市環境との関係を説明できる。
2. 大気による災害の種類と、それらの人と社会への影響を説明できる。
3. 気流の人間生活への寄与について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で進められる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大気の動きと時空間スケール	地球の気流, ENSO
2	大スケールの気象による強風と人間環境	季節風, 台風, 風災害
3	局地風と人間環境	海陸風, おろし・だし, フェーン, 日本各地・世界各地の局地風
4	小スケールの気象による強風と人間環境	竜巻, ダウンバースト
5	気流の渦と人間環境	気流の乱れ, 気流の渦と構造物の振動
6	強風の統計的性質	大気観測, 最大風速, 再現期待値, 再現期間
7	ビル風と人間環境, 風騒音と人間環境	高層建物周辺の風環境, 住環境や風力発電施設における風騒音

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のノートや資料などを用いて予習・復習し、後半に出題される課題に取り組み、レポートにまとめること。

本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100 %）：大気と人間生活、社会、都市あるいはエネルギーに関する課題に対し、到達目標 1～3 に要求される知識がレポートに展開されているか、また、適切かつ詳細な論述がなされているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体, 気象社会論, 流体関連振動

<研究テーマ>強風の社会への影響と対策, 気象リスク

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析, 第 25 回風工学シンポジウム論文集, 2018, pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.73, No.3, 2017, pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察, 第 23 回風工学シンポジウム論文集, 2014, pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み, 日本風工学会論文集, Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The boundary layer of the atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments. In this course, firstly we study about fundamentals on various types of atmospheric phenomena such as ENSO, the typhoon, and the sea breeze, the mountain and valley breeze, the downburst and the tornado, and about their effects on cities and people. Secondly, as an example of the air flow significantly related to the human health, the characteristics of the indoor air are focused on. While causing the pollution contaminant advection, the indoor air flow performs to remain the room environment safe and comfortable.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn the time-space characteristics of various types of atmospheric phenomena,
- B. to study about the wind effects on cities and people, and
- C. to understand the system of the indoor air ventilation.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to understand the course content after each class, and to have completed a required assignment. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

SES500P2 - 140

地球環境生態学

鞠子 茂

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学の基礎と応用を教授し、地球環境問題に対する本質的な理解を深める。

【到達目標】

環境問題の適切な解決に向けて行動できる環境力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻公共マネジメントコースにおいては「DP3」に関連している。ディプロマポリシーのうち、公共政策学専攻政策研究コースにおいては「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連、特に「DP3」は特に強く関連している。ディプロマポリシーのうち、サステイナビリティ学専攻においては「DP2」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業をオンデマンド配信し、予習復習の課題を課してフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと授業内容の解説	授業の進め方、成績評価、授業内容について説明する
第2回	生態学の理論と応用	生態学の理論を説明し、応用例を紹介する
第3回	生態学的環境論考	環境とは何であるかを講述する
第4回	生物と環境の関りについて考える	生物の環境適応と進化を中心に解説する
第5回	”ヒト”と”人間”の違いを考える	エネルギーをキーワードにしてヒトと人間の違いを考察する
第6回	生態系の恩恵としつべ返し	生態系サービスと過剰な採取の問題について解説する
第7回	公害という社会問題の本質	水俣病を例に科学リテラシーの必要性を議論する
第8回	地球温暖化のウソホント	地球温暖化問題の是非論を考える
第9回	地球温暖化が生態系に与える有意な影響	温暖化が生態系の分布などに与える確かな影響について解説する
第10回	寄生生物が引き起こす新たな環境問題	感染症パンデミックなどを例にして寄生生物について考える
第11回	紫外線と人類の進化	人類が紫外線との戦いで獲得した機能から人間活動の矛盾を考える
第12回	目に見えない環境汚染	放射能汚染や環境ホルモンについて解説する
第13回	人類の存続のために必要なこと	人間活動の問題を生態学的に考察する
第14回	試験・まとめの授業	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、説明を補助するための資料を授業で配布する。

【参考書】

「面白くてよくわかる！ エコロジー」満田久義、アスペクト（2013）

【成績評価の方法と基準】

課題50%、試験50%の配分で成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を専門としない学生にもわかりやすい授業を行う。

【その他の重要事項】

生態学に関する参考図書を事前に読んでおくこと。

【Outline (in English)】

The students will learn about definitions and need-to-know basics of “environment” and “ecology”, and acquire science literacy from an ecological viewpoint to solve environmental crisis on local to global scales.

GEO500P2 - 142

サステナビリティ学事例研究Ⅱ

杉戸 信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地震災害は、相対的に低頻度ではあるが発生した場合の影響が大きく、地域社会の持続可能性を考える重要な鍵のひとつとなる。本事例研究では、土地条件評価と地震発生予測の現状と課題を検討し、今後の土地利用や社会基盤のあり方を考える。

【到達目標】

日本列島における土地条件評価と地震発生予測を説明できる。
土地利用や社会基盤の課題を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式。一部で図上作業も実施する。
リアクションペーパー等からポイントを選定し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地形と災害	日本列島の地形環境について自然地理学的な視点から概観する。地理院地図の概要を理解する。
第 2 回	地形調査法と実習	変動地形と古地震の調査法を概観したのち、活断層の位置情報を知るための地形判読実習を実施する。
第 3 回	土地条件評価と実習	地形と地質、災害脆弱性、地域危険度などについて検討を行い、理解を深めるため机上作業を行う。
第 4 回	地震発生予測	地震発生繰り返しモデルや長期評価について検討を行う。
第 5 回	地震と活断層	活断層分布とその地域性、歴史地震、予測などについて検討を行う。
第 6 回	プレート境界の地震	プレート境界の地震に関し、地域性、歴史地震、予測などについて検討を行う。
第 7 回	土地利用と社会基盤	災害危険区域や高台移転、防潮堤、建築基準など、土地利用および社会基盤に関わる話題について検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）・期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学、自然災害

<研究テーマ>変動地形、活断層、地震、土地条件

<主要研究業績>

1) 杉戸信彦, 2014, 大地震の歴史とメカニズムを捉えるー活断層への地理学的アプローチー, 木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編, 「災害フィールドワーク論」, FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5, 古今書院, 212p, 132-149.

2) 杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘, 2015, 津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布, 地学雑誌, 124, 157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157

3) Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】

Risk management for recurrent earthquake disasters is a key to improve social resilience, which supports future sustainable society, because earthquakes cause serious damages although their frequency is not high. We examine land-condition evaluation and long-term earthquake prediction, in order to propose future land use as well as to suggest how to use social infrastructures.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain land-condition evaluation and long-term earthquake prediction in the Japanese islands, and (2) to explain issues for land use and social infrastructures. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (40%) and a final report (60%).

SOS500P2 - 050

学術的文章作成演習

淵元 初姫、西谷内 博美、中筋 直哉、宮川 路子、林 嶺那

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文を執筆する上でのポイントとなる事項について、各専攻及びコースの教員によるオムニバス講義と修士論文執筆者（修了生）の報告という形式で展開します。修士論文の執筆に向けた心構えや作法のほか、身につけておくべき基本的なスキルについて学ぶことを目的とします。具体的には、学術的文章を作成するための考え方や社会調査の基礎、研究倫理に関する事柄などについて取り上げます。修士課程1年生のうちに履修することをお勧めしますが、2年次以上、また、博士後期課程在籍者の履修も可能です。

【到達目標】

- (1) 修士論文を執筆する上で求められる事柄について理解する。
- (2) 学術的文章とはどのようなものであるか理解する。
- (3) 文章をわかりやすく構成し、引用と出典の明記を適切に出来る。
- (4) 社会調査に関する基本的知識を習得する。
- (5) 責任ある研究活動を行うための研究倫理について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

公共マネジメントコース、政策研究コース、サステナビリティ学専攻の教員によりオムニバス形式で授業を行います。授業方式（対面またはオンライン）は各回によって異なります。Hoppi（授業支援システム）を通して事前にお知らせを致しますので各回の教員の指示に従ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：研究へのいざない（淵元）	講義の全体概要を示しながら修士論文の執筆に際して求められる基準や考え方について説明する。
第2回	修士論文の執筆に向けて（淵元）	研究テーマの選定や、先行研究の調査等について説明する
第3回	論文の定義と構成（西谷内）	論文の必須要素と基本的な構成を知識のレベルで学ぶ。
第4回	論証エクササイズ1（西谷内）	第3回で学んだ知識を元に、論証の技術練習をする。具体的には、マインドマップを用いて思考を整理する。
第5回	論証エクササイズ2（西谷内）	第4回に引き続きマインドマップを用いて、文章を組み立てる練習をする。
第6回	引用とスタイルガイド（西谷内）	引用の原理と基本ルールを学ぶ。特定のスタイルガイドに則して引用処理の練習をする。
第7回	修士論文の執筆に向けて（中筋）	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第8回	公共政策研究科修士課程修了者による報告（1）	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。
第9回	修士論文の執筆に向けて（宮川）	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第10回	公共政策研究科修士課程修了者による報告（2）	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。

第11回	修士論文の執筆に向けて（林）	修士論文の執筆に際して習得すべき知識やスキル、作法について教授する。
第12回	公共政策研究科修士課程修了者による報告（3）	修士論文執筆に際する自身の経験に基づいた報告を行い、その内容について質疑・討論を行う。
第13回	修士論文のプロポーザル（仮）に関する検討（淵元）	これまでの講義と報告に基づき、各自の研究における「問い」を明らかにし、それについて検討を加える
第14回	まとめ（淵元）	総括討論を行い、各自の課題を明確にする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。教員・テーマによっては、授業当日までに予め指示された課題を行うなどの準備学習が必要となります。また、授業中に課題を指示された場合は、期日までに提出してください。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定は特にありません。必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

参考書については必要に応じて授業内に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の質疑や討論における参加（30%） 課題の提出（30%）、期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

専攻やコースを超えた複数の教員や修了生から学ぶ機会のひとつとして活用されているようです。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppi（授業支援システム）およびオンライン講義（zoom）へ接続するインターネット環境が必要となります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

MA or PhD students in their first year are welcome to sign up to this course. Each lecture will provide students with an understanding of writing a Masters dissertation or PhD thesis. The course will be able to help students raise their academic related competency in writing. Upon completion of this course, students should be able to develop good academic practice. Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting. Students will be Assessed by; Reaction paper 30%, Reporting paper 40%, Class contribution 30%

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

岡松 暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講者の関心のあるテーマにつき、修士論文執筆のための指導を行う。文献解題以外はすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況により異なる。

【到達目標】

修士論文執筆のための土台となる情報を収集し、1年次終了までに論文のテーマと仮説を設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士課程1年生を対象とし、国際問題をめぐる法的諸問題につき文献講読、判例研究を行いながら、テーマの絞り込みを行う。続いて、テーマに関連する判例や学術論文などの文献を蒐集し、講読と分析を行いつつ、仮説の設定とその実証方法の検討を行う。

文献解題以外は原則としてすべて個別指導となるため、各回のテーマは各自の進捗状況による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマの選定	各自の関心のあるテーマの候補について、議論の方向をさぐる。
2	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
3	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
4	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
5	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
6	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
7	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
8	テーマの設定（暫定テーマ）	暫定的にテーマと仮説を設定する。
9	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
10	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
11	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
12	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
13	文献購読	各自の関心のあるテーマにつき、文献を蒐集して解題する。
14	研究計画書の提出	論文執筆のための研究計画書を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。

【テキスト（教科書）】

受講者の関心に合わせて推薦する。

【参考書】

受講者の関心に合わせて推薦する。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際海洋法、国際原子力法、国際環境法

<主要研究業績>

『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022年）、「ロンドン条約96年議定書の遵守手続」（2022年）、「SDGsと生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017年）等。

【Outline (in English)】

This course provides guidance for writing the master thesis on the theme of students' interests.

Participants are required to study at least 2 hours before and after the class.

The course grade will be based on presentations (50%), and discussions (50%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文の作成を有効的に進めていくために必要とされる研究・調査の方法論を習得していくことを目的とする。

【到達目標】

本演習では、①研究の目的や視点の設定方法と、②先行研究の分析方法（文献調査の方法）、といった修士課程で行っていくための研究・調査の基礎的な方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、本演習で研究・調査の方法論を習得し、これに基づいて研究・調査報告を行ってもらうとともに、小論文（研究計画書）を作成してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文のフレームワークを講義するとともに、その中でこの授業で取り扱う内容について確認する。また、履修者がこれまでに取り組んできた（学部時の）研究・調査（卒業論文）の内容を報告し、その内容をこの回で講義したフレームワークに当てはめながら再確認する。
第 2 回	研究の目的と視点の設定方法①	研究の目的と視点の設定方法を講義する。
第 3 回	研究の目的と視点の検討	関心のある研究テーマに関する「著書」、「研究論文」、「報告書」、「新聞・雑誌記事など」の中からいくつか紹介し、その内容を報告する。
第 4 回	研究の目的と視点の検討	第 3 回から第 6 回までの報告内容の検討から、修士論文における研究の目的と視点を報告する。
第 5 回	先行研究の分析方法①	第 7 回で設定された研究の目的と視点に基づく先行研究の分析方法を講義する。
第 6 回	先行研究の分析	研究の目的と視点に関する「著書」、「研究論文」、「報告書」、「新聞・雑誌記事など」の中からいくつか紹介し、その内容を報告する。
第 7 回	先行研究の分析	第 9 回から第 12 回までの報告内容に基づいて、先行研究の分析内容をリスト化し、それを報告する。
第 8 回	先行研究の分析方法②	第 9 回から第 12 回までの報告内容に基づいて、先行研究の分析方法を講義する。
第 9 回	先行研究の分析	第 13 回までの内容を加味した小論文（研究計画書）の作成方法を講義する。
第 10 回	先行研究の分析	
第 11 回	先行研究の分析	
第 12 回	先行研究の分析	
第 13 回	先行研究の分析	
第 14 回	小論文の作成方法	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などから、研究の目的と視点の検討やこれらに基づく先行研究の調査・分析を計画的に行うとともに、その結果を報告に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・報告用配布レジュメの内容（20 %）
- ・報告内容（プレゼンテーション能力）（20 %）
- ・討論への参加（発言内容）（20 %）
- ・小論文（研究計画書）の内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
 - 環境経営論、地域経営論、人的資本経営論
- <研究テーマ>
 - 企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究
- <主要研究業績>
 - ・金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
 - ・金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
 - ・金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性ーフードバレーとかちの取組みを中心としてー」『経済学論叢』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
 - ・金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？-」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
 - ・金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
 - ・金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
 - ・金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the methodology of research and survey for writing a master thesis.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Content of the resume : 20%
- 2) Content of the presentation : 20%
- 3) Participation in the discussion : 20%
- 4) Short thesis based on the research : 40%

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文の完成度を高めていくために必要とされる研究・調査の方法論について習得していくことを目的とする。

【到達目標】

本演習では、論文研究指導 1A での取組みを加味しながら、次の方法論を習得することを目指していく。

- ① 修士論文の基盤となる理論モデルの検討方法
- ② アンケート調査およびヒアリング調査とこれらの調査結果の分析方法
- ③ 企業や地域の事例研究（ケーススタディ）の方法
- ④ 論文研究指導 1A と①～③の検討結果のまとめ方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、本演習で研究・調査の方法論を習得し、これに基づいて研究・調査報告を行ってもらうとともに、その結果を参考にしながら小論文（研究計画書）を作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文のフレームワークとその中で 1 年次春学期までの研究・調査の内容を再確認する。
第 2 回	理論モデルの検討方法 ①	論文研究指導 1 A の内容に基づいて、修士論文の基盤になる理論モデルの検討方法を講義する。
第 3 回	理論モデルの検討 ～ 第 4 回	論文の基盤になると考えられる理論モデルを「著書」、「研究論文」、「報告書」から検討し、その内容を報告する。
第 5 回	理論モデルの検討方法 ②	第 3 回から第 4 回までに検討した理論モデルを整理し、修士論文に適したモデルを決定する。
第 6 回	アンケート調査の方法	アンケート調査票の作成から調査結果の分析方法までの流れを講義する。
第 7 回	アンケート調査票の作 ～ 第 8 回	アンケート調査票（案）を作成し、その内容について報告する。
第 9 回	ヒアリング調査の方法	ヒアリング調査票の作成から調査結果の分析方法までの流れを講義する。
第 10 回	ヒアリング調査票の作 成	ヒアリング調査票（案）を作成し、その内容について報告する。
第 11 回	事例研究の方法	企業や地域の取組事例の研究・調査（ケーススタディ）の意義とその方法について講義する。
第 12 回	ケーススタディの報告 ～ 第 13 回	ケーススタディの結果を報告する。

第 14 回 修士論文の構想

第 13 回までの内容を加味して、修士論文の構想について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

著書、研究論文、報告書から、修士論文の基盤になると考えられる理論モデルの検討や、アンケート調査やヒアリング調査のための調査票の作成・分析方法を計画的に学習するとともに、その結果を報告や小論文（研究計画書）に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（20 %）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（20 %）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（20 %）
- ・ 修士論文の構想（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

< 研究テーマ >

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

< 主要研究業績 >

- ・ 金藤正直 (2015) 「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』 Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・ 金藤正直 (2016) 「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・ 金藤正直 (2018) 「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・ 金藤正直 (2021) 「健康経営の展望－どう評価・開示するか?－」『企業会計』 Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・ 金藤正直、岡照二 (2021) 「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・ 金藤正直 (2021) 「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・ 金藤正直 (2022) 「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the methodology of research and survey for writing a master thesis.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Content of the presentation : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Participation in the discussion : 20%
- 4) Submission of master thesis plan:40%

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

北川 徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】

1. 課題を設定する。
2. 既往の研究に関する文献調査を行う。
3. 課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

調査とディスカッションを通じて、研究方針の策定と修士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現状分析	文献調査, 整理, 理解
2	現状分析	文献調査, 整理, 理解
3	現状分析	文献調査, 整理, 理解
4	現状分析	文献調査, 整理, 理解
5	現状分析	文献調査, 整理, 理解
6	現状分析	文献調査, 整理, 理解
7	第1～6回のとりまとめ	文献調査, 整理, 理解
8	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
9	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
10	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
11	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
12	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
13	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
14	第8～13回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全回：研究の実施、資料およびスライドの作成。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

資料およびスライド（70%：論述の適切さ、到達目標1～3への到達度）、議論（30%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体, 気象社会論, 流体関連振動
<研究テーマ>強風の社会への影響と対策, 気象リスクヘッジ, 数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析, 第25回風工学シンポジウム論文集, 2018, pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.73, No.3, 2017, pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察, 第23回風工学シンポジウム論文集, 2014, pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み, 日本風工学会論文集, Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Studies, investigations and discussions on the research issue for the master thesis.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to deliberate on the research objective and plan,
- B. to obtain basic knowledges to proceed the master research and
- C. to consider the methodology to analyze the data required in the master research.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average. (Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (70%) and the discussion (30%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

北川 徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】

1. 課題を設定する。
2. 既往の研究に関する文献調査を行う。
3. 課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

調査とディスカッションを通じて、研究方針の策定と修士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
2	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
3	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
4	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
5	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
6	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
7	第1～6回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討
8	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
9	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
10	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
11	解決方法の具体化, 中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
12	解決方法の具体化, 中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
13	解決方法の具体化, 中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
14	第8～13回のとりまとめ	解決方法のインプリメンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全回：研究の実施，資料およびスライドの作成。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

資料ならびにスライド（50%：論述の適切さ，到達目標1～3への到達度），議論（50%：説明の正確さ，質疑応答の適切さ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体，気象社会論，流体関連振動

<研究テーマ>強風の社会への影響と対策，気象リスクヘッジ，数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析，第25回風工学シンポジウム論文集，2018，pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成，土木学会論文集 A1（構造・地震工学），Vol.73，No.3，2017，pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察，第23回風工学シンポジウム論文集，2014，pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み，日本風工学会論文集，Vol.32，No.2，2007，pp.87-92.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Studies, investigations and discussions on the research issue for the master thesis.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to deliberate on the research objective and plan,
- B. to obtain basic knowledges to proceed the master research and
- C. to consider the methodology to analyze the data required in the master research.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

小島 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、修士課程の1年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①研究テーマを決めるためのブレインストーミング
- ②研究計画の案の作成

【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ・修士論文に関する調査研究の設計図をデザインする。
- ・調査研究の基本的な技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文の作成に向けて、参加学生の問題意識を明確化した上で、具体的なテーマ、調査研究対象の設定について指導し、さらに調査研究計画の作成と関連文献の収集・講読などに関する指導、調査研究の遂行に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーにはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究の進捗状況から学びあう場とする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	調査研究や論文作成に関する基礎的な理解と工程管理を促す。
2	問題意識の報告	研究テーマの選択に向けて問題意識を報告する。
3	問題意識の具体化	研究テーマの選択のために、報告した問題意識を具体化する。
4	研究テーマの候補づくり	研究テーマの候補を作成、提示し選定する。
5	研究テーマの検討	複数のテーマの中から研究対象について検討する。
6	研究テーマの再検討	複数のテーマの中から研究対象について再検討する。
7	研究テーマの確定	複数のテーマの中から研究対象を確定する。
8	研究テーマに関する構図の作成	研究テーマについて主題を設定し、分析の構図を作成する。
9	研究テーマに関する構図の修正	研究テーマについて分析の構図を修正する。
10	調査研究計画の作成	調査研究計画を作成し工程とポイントを確認する。
11	調査研究計画の修正	調査研究計画を修正し工程とポイントを確認する。
12	調査研究計画の再修正	調査研究計画を再修正し工程とポイントを確認する。
13	関連文献リストの作成	研究テーマに関する関連文献リストを作成し検討する。
14	関連文献リストの修正	研究テーマに関する関連文献リストを修正し検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。

- ・修士論文のテーマを確定し調査研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

調査研究の進め方や論文作成の方法に関する文献、演習参加者の個別のテーマに関する文献は、演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論

<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション

<主要研究業績>

「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）

「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）

「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）

「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）

「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）

「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）

「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）

「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the first year of the master's program.

Students work on the following contents:

(1)Brainstorm for deciding research theme.

(2)Make the draft of research plan on based individual interest.

Students aim at achieving the following goals:

(1)Design the blueprint for research on master's thesis.

(2)Acquire the basic skills of academic research.

Students need to determine the theme of master's thesis ,and to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

小島 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、修士課程の1年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①研究テーマに関する具体的な内容の検討
- ②既存研究の調査
- ③小論文の執筆

【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ①調査研究の設計図をブラッシュアップする。
- ②参考文献やその他の資料を作成する。
- ③論文の執筆能力を身につける。
- ④テーマについての的確に説明できる力を身につける。
- ⑤調査研究の基本的な技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文の作成に向けて、論文研究指導1Aに続いて、参加学生の研究テーマについて、調査研究計画の再調整と関連文献の収集・講読などに関する指導、調査研究の遂行に関する指導、修士論文の練習として小論文の作成に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーや小論文はその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究の進捗状況から学びあう場とする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	関連文献の報告	関連文献の学習状況に関する報告を行う。
2	フィールド調査プランの検討	ヒアリング等のフィールド調査プランについて検討する。
3	フィールド調査プランの確定	ヒアリング等のフィールド調査プランについて確定する。
4	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
5	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
6	研究テーマに関する構図の修正	研究テーマに関する分析の構図の修正作業を行う。
7	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
8	小論文の課題設定と執筆方法の学習	研究テーマに関連する小論文の課題を設定し、また論文の執筆方法について学ぶ。
9	フィールド調査の結果の報告と検討	フィールド調査の結果について報告し、論文への反映について検討する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。

12	小論文の報告	研究テーマに関する小論文を提出し、内容を報告する。
13	小論文からの発展方向性についての検討	小論文をふまえて、どのように発展させるか、次のステップについて検討する。
14	調査研究計画の再調整	次年度の調査研究計画について再調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。

- ・調査研究を進めること。
- ・小論文を書くこと。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

調査研究の進め方や論文作成の方法に関する文献、演習参加者の個別のテーマに関する文献は、演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論
 <研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション
 <主要研究業績>
 『アカウントビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－』『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
 『参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－』『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
 『自治体環境政策の軌跡と持続可能性』『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
 『自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性』『地域開発』（vol.574,2012）
 『上下流連携とサステイナビリティ』『自治体学』（vol.33-2,2020）
 『人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－』『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
 『グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想』『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
 『縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ』『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the first year of the master's program.

Students work on the following contents:

- (1)Examine concrete contents about research theme.
- (2)Survey of existing research.
- (3)Write the short report on research theme.

Students aim at achieving the following goals:

- (1)Brush up the blueprint for research.
- (2)Make the list of references and other resources.
- (3)Acquire the ability to write research paper.
- (4)Acquire the ability to explain research theme accurately.
- (5)Acquire the basic skills of academic research.

Students need to proceed with research, and to write research paper. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

杉戸 信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】

修士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究の方向性を決め、文献レビュー等を行いながら研究テーマを具体的に定める。そのうえで、文献レビュー等をすすめながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の方向性の検討 (1)	研究の方向性について検討を行う。
第 2 回	研究の方向性の検討 (2)	研究の方向性について検討を行い決定する。
第 3 回	関連文献のレビュー (1)	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 4 回	関連文献のレビュー (2)	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 5 回	研究テーマの検討	研究の方向性についてあらためて検討を行い、研究テーマを具体的に定める。
第 6 回	関連文献のレビュー (3)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 7 回	関連文献のレビュー (4)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 8 回	調査計画の立案 (1)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 9 回	調査計画の立案 (2)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 10 回	調査結果のまとめ (1)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 11 回	調査結果のまとめ (2)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案 (3)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ (3)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

応用力や思考力、スキルなどの涵養心がける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学、自然災害
<研究テーマ>変動地形、活断層、地震、土地条件
<主要研究業績>

1) 杉戸信彦, 2014, 大地震の歴史とメカニズムを捉えるー活断層への地理学的アプローチ, 木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編, 「災害フィールドワーク論」, FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5, 古今書院, 212p, 132-149.

2) 杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘, 2015, 津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布, 地学雑誌, 124, 157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157

3) Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】

We conduct research and discussion for the master's thesis. The goal of this course is to complete a final report for the master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

杉戸 信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】

修士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマを具体的に定め、文献レビュー等を行いながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの検討	研究テーマについて検討を行い、具体的に定める。
第 2 回	関連文献のレビュー (1)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 3 回	関連文献のレビュー (2)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 4 回	調査計画の立案 (1)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 5 回	調査計画の立案 (2)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 6 回	調査結果のまとめ (1)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 7 回	調査結果のまとめ (2)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 8 回	関連文献のレビュー (3)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 9 回	関連文献のレビュー (4)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 10 回	調査計画の立案 (3)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 11 回	調査結果のまとめ (3)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案 (4)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ (4)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学、自然災害
＜研究テーマ＞変動地形、活断層、地震、土地条件
＜主要研究業績＞

1) 杉戸信彦, 2014, 大地震の歴史とメカニズムを捉えるー活断層への地理学的アプローチ, 木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編, 「災害フィールドワーク論」, FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5, 古今書院, 212p, 132-149.

2) 杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘, 2015, 津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布, 地学雑誌, 124, 157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157

3) Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】

We conduct research and discussion for the master's thesis. The goal of this course is to complete a final report for the master's thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

杉野 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文を含む研究論文の作成に必要な研究の進め方、調査方法の習得を目的とする。

【到達目標】

受講生が適切なテーマ設定し、文献のレビューを通じて、研究テーマの位置づけを明確にする。また、データ分析に必要な手法を学び、修士論文の作成を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者全体で対面形式の演習を行う。具体的には、受講者が進めている研究の報告や関連する研究の報告をもとに議論・指導を行う。この議論・指導を通じて、各々の研究の理解を深め、研究進化を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文のテーマ	修士論文作成のためのテーマ決定および学期のスケジュール決め
第 2 回	文献の紹介①	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 3 回	文献の紹介②	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 4 回	文献の紹介③	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 5 回	文献の紹介④	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 6 回	文献の紹介⑤	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 7 回	文献の紹介⑥	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 8 回	文献の紹介⑦	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 9 回	分析手法の紹介①	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第 10 回	分析手法の紹介②	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第 11 回	分析手法の紹介③	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第 12 回	分析手法の紹介④	先行研究で使われる分析手法を学ぶ
第 13 回	文献のまとめ方①	先行研究および分析手法を論文形式にまとめる方法を学ぶ
第 14 回	文献のまとめ方②	先行研究および分析手法を論文形式にまとめる方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

割り当てられた論文を読み、

【テキスト（教科書）】

登録者と相談のうえ決定する

【参考書】

有村、片山、松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社

【成績評価の方法と基準】

平常点 10%、報告 40%、最終課題 50%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度を受講生がいなかったため、フィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学

<研究テーマ>環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries". Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course aims to prepare students for their master thesis, starting with setting the theme of the thesis. Throughout the course, participants will be expected to read and present papers that are related to their master thesis. All participants will also be expected to join the discussion which will help to improve their thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have read the text and prepared for every class. Your study time will be more than two hours for each class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in class will be decided based on the following:

Term-end assignment 50%, Presentation 40%, in class contribution 10%.

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

杉野 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の分析に必要なデータ収集方法や分析方法を学ぶ。

【到達目標】

各自で設定した研究テーマのデータ分析および関連する箇所の執筆を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面形式での議論を行う。まず、各受講者の進捗状況の報告を行い、議論を行う。必要に応じて、データ分析に必要なテキストの報告も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献の紹介 1	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 2 回	文献の紹介 2	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 3 回	文献の紹介 3	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 4 回	文献の紹介 4	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 5 回	文献の紹介 5	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 6 回	文献の紹介 6	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 7 回	文献の紹介 7	修士論文に関連する先行研究の報告を行う
第 8 回	中間報告	研究の進捗状況を報告
第 9 回	分析手法の紹介 1	各自の研究テーマにあった分析手法を解説する
第 10 回	分析手法の紹介 2	各自の研究テーマにあった分析手法を解説する
第 11 回	分析手法の紹介 3	各自の研究テーマにあったデータ分析を行う
第 12 回	分析手法の紹介 4	各自の研究テーマにあったデータ分析を行う
第 13 回	論文のまとめ方 1	修士論文の執筆
第 14 回	論文のまとめ方 2	修士論文の執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ決定する。

【参考書】

受講者の研究テーマや関心に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

報告（PPT 資料の作成および準備）50%、レポート 50%を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生がいなかったためフィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学

<研究テーマ>環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students will start collecting and analyzing their data for their master thesis. We will start with where and how to collect relevant data. This will include making appropriate questionnaires. Then, we will learn how to analyze the data using statistical software packages. Finally, we will learn how to write the analysis part of the master thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have read the text and prepared for every class. Your study time will be more than two hours for each class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in class will be decided based on the following:

Term-end assignment 50%, Presentation 50%.

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

高田 雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】

修士課程 1 年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2 年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 2 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 3 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 4 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 5 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 6 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 7 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 8 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 9 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 10 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 11 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 12 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 13 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習
第 14 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連テーマに関する学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.

The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

高田 雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】

修士課程 1 年生を対象として、研究設計と計画作成、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2 年目の修士論文執筆に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 2 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 3 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 4 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 5 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連学習
第 6 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 7 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 8 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 9 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 10 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連学習
第 11 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第 12 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第 13 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習
第 14 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for master's thesis including theme setting and study methodology.

The goals of this class are to reach the research design and planning, collect necessary data, and promote these.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

高橋 五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生はエスノグラフィーの研究手法を学びながら、それぞれの修士論文研究のテーマを絞り、リサーチプロポーザルを作成することを通して、修士論文を書き上げるための準備を行う。授業ではこれらの目標を達成するために、購読文献やリサーチプロポーザルの発表およびディスカッションを行い、学生は授業で得たフィードバックをもとにリサーチプロポーザルの完成を目指す。

【到達目標】

学生の到達目標は、1) 修士論文のテーマを絞る、2) テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3) エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、4) 事前調査を含む現地調査を実施する、5) リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、リサーチプロポーザルを作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	研究テーマを絞る (1)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 3 回	研究テーマを絞る (2)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 4 回	研究テーマを絞る (3)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 5 回	研究テーマを絞る (4)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 6 回	研究テーマを絞る (5)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 7 回	研究テーマを絞る (6)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 8 回	研究テーマを絞る (7)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 9 回	研究テーマを絞る (8)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 10 回	現地調査計画と準備 (1)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 11 回	現地調査計画と準備 (2)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 12 回	現地調査計画と準備 (3)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 13 回	現地調査計画と準備 (4)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う

第 14 回 リサーチプロポーザル リサーチプロポーザルの進捗状況進捗状況発表 を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、プレリサーチの実施、リサーチプロポーザルの文献レビュー作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、リサーチプロポーザル（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 - 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】

Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to create a research proposal and to prepare for accomplishing master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing their research proposal. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their research proposals (70%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

高橋 五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生はエスノグラフィーの研究手法を学びながら、それぞれの修士論文研究のテーマを絞り、リサーチプロポーザルを作成することを通して、修士論文を書き上げるための準備を行う。授業ではこれらの目標を達成するために、購読文献やリサーチプロポーザルの発表およびディスカッションを行い、学生は授業で得たフィードバックをもとにリサーチプロポーザルの完成を目指す。

【到達目標】

学生の到達目標は、1) 修士論文のテーマを絞る、2) テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3) エスノグラフィーの研究手法を学ぶ、4) 事前調査を含む現地調査を実施する、5) リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、リサーチプロポーザルを作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	研究テーマを絞る (1)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 3 回	研究テーマを絞る (2)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 4 回	研究テーマを絞る (3)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 5 回	研究テーマを絞る (4)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 6 回	研究テーマを絞る (5)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 7 回	研究テーマを絞る (6)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 8 回	研究テーマを絞る (7)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 9 回	研究テーマを絞る (8)	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第 10 回	現地調査計画と準備 (1)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 11 回	現地調査計画と準備 (2)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 12 回	現地調査計画と準備 (3)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う
第 13 回	現地調査計画と準備 (4)	研究テーマに沿って、現地調査の計画と準備を行う

第 14 回 リサーチプロポーザル リサーチプロポーザル発表
発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、プレリサーチの実施、リサーチプロポーザルの文献レビュー作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、リサーチプロポーザル（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 - 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】

Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for students to create a research proposal and to prepare for accomplishing master's degree thesis. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing their research proposal. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their research proposals (70%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

辻 英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 1 年の大学院生に対し、歴史学研究の基礎を身につけることを通じて、修士論文執筆の準備作業を支援する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な歴史学研究の理論的方法論的基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の関心に応じて毎回課題を出すので、次回に各自が作業した結果を報告する。さらに参加者全員のディスカッションにより理解を深める。

2023 年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究関心の確認	参加者各自が自分のテーマについて考えていることや現状を報告する。
第 2 回	先行研究の把握 ①和文文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第 3 回	先行研究の把握 ②欧文文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第 4 回	先行研究の把握 ③同時代文献	各種の先行研究について、参加者各自の関心にもとづいて作業をおこない、判明した研究状況を報告する。
第 5 回	研究動向の把握①	重要と考えられる先行研究を読み込み、研究動向を把握し、その問題点を指摘する。
第 6 回	研究動向の把握②	重要と考えられる先行研究を読み込み、研究動向を把握し、その問題点を指摘する。
第 7 回	問題提起の検証	研究動向を踏まえ、独自性のある論文のテーマを導き出す作業をおこなう。
第 8 回	史料の調査① 文献史料 (1)	新聞、雑誌、書籍、パンフレットなど、刊行された文献史料について、どのようなものがあるかを調査し、その概要を報告する。
第 9 回	史料の調査① 文献史料 (2)	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。
第 10 回	史料の調査② 統計史料 (1)	統計集など数量データについて、どのような史料があるのかを調査し、その概要を報告する。
第 11 回	史料の調査② 統計史料 (2)	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。

第 12 回	史料の調査③ 文書館史料 (1)	公文書、未刊行史料など文書館史料について、どのような史料があるのかを調査し、その概要を報告する。
第 13 回	史料の調査③ 文書館史料 (2)	上記の史料について、できる限り内容を精査し、解釈の可能性を検討する。
第 14 回	仮説の検証	問題提起をふまえ、論文執筆の前提となる仮説の構築と、それに基づいた行論を組み立てる作業を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題をしっかりとこなすだけでなく、各自がさらに工夫して修士論文の内容を向上させていく姿勢が必要である。

とくに、欧文の同時代文献を読解するために必須となる語学能力、史料分析能力については授業内では十分なトレーニングをおこないえないので、各自に必要な能力を身につけるよう努力すること。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要に応じて指示する。

【参考書】

授業内でその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（40%）とレポート（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 歴史学（ドイツ近現代史）

<研究テーマ> 市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史

<主要研究業績> 『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016 年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版社、2008 年。

【Outline (in English)】

Small group workshop for master student to improve methodological knowledge and to advance research plan.

It is necessary for each student to not only do well in each assignment, but also to improve the content of his/her master's thesis by making further efforts.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

辻 英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 1 年の大学院生に対し、歴史学研究の基礎を身につけることを通じて、修士論文執筆の準備作業を支援する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な歴史学研究の実践的実証の基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の関心に応じて毎回課題を出すので、次回に各自が作業した結果を報告する。さらに参加者全員のディスカッションにより理解を深める。

2023 年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	作業状況の確認	参加者各自が現在の問題関心と作業状況について報告する。
第 2 回	論文構成の検討①	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第 3 回	論文構成の検討②	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第 4 回	論文構成の検討③	春学期に調査した先行研究と史料にもとづき、修士論文の主たる論点と構成を決めていく。
第 5 回	研究史の分析①	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第 6 回	研究史の分析②	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第 7 回	研究史の分析③	修士論文の対象とする地域や時代について、重要と考えられる先行研究を読み込み、その問題点を指摘する。
第 8 回	他事例研究の分析① 同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。
第 9 回	他事例研究の分析② 同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。
第 10 回	他事例研究の分析③ 同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。	構想中の修士論文と同様のテーマを扱った他地域や他時代の研究を収集し、分析する。

第 11 回 史料分析の準備①

修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。

第 12 回 史料分析の準備②

修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。

第 13 回 史料分析の準備③

修士論文で使用する史料を決定し、その形態や所蔵を調査し、収集の準備作業をおこなう。

第 14 回 論文中間報告

修士論文のテーマ、章立て、中心となる仮説を提示し、全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題をしっかりとこなすだけでなく、各自がさらに工夫して修士論文の内容を向上させていく姿勢が必要である。

とくに、欧文の同時代文献を読解するために必須となる語学能力、史料分析能力については授業内では十分なトレーニングをおこなえないので、各自で必要な能力を身につけるよう努力すること。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要に応じて指示する。

【参考書】

授業内でその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（40 %）とレポート（60 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 歴史学（ドイツ近現代史）

<研究テーマ> 市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史

<主要研究業績> 『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016 年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版社、2008 年。

【Outline (in English)】

Small group workshop for master students to expand their abilities to research and analyze historical documents and to write their master's thesis.

It is necessary for each student to not only do well in each assignment, but also to improve the content of his/her master's thesis by making further efforts.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

永野 秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の研究テーマを設定するための基礎となるリサーチ方法や、分析手法についても、一緒に検討いたします。

【到達目標】

修士論文の研究テーマを設定し、できるだけ早い時期に研究に着手することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

社会科学系の環境問題等について議論し、方法を指導し、個々の研究を進めます。

また、授業は、対面授業を予定しておりますが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業といたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	修士論文テーマ	学生の方の修士論文構想について、意見を聞きます。
2	修士論文レベルのリサーチ方法（1）	修士論文レベルの先行論文等の検索方法の指導。
3	修士論文レベルのリサーチ方法（2）	仮の修士論文テーマに関して、WEB上またはデータベース上の先行論文等の検索と確認。
4	修士論文レベルのリサーチ方法（3）	仮の修士論文テーマに関して、文献ベースでの先行論文等の検索と確認。
5	修士論文の書き方（1）	修士レベルの論文の執筆方法の基礎について学ぶ。
6	修士論文の書き方（2）	修士レベルの論文に関する論理展開、立証、脚注における引用方式等を学ぶ。
7	修士論文執筆計画の策定	具体的な修士論文のテーマを話し合い、執筆計画を策定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講師により前回指導された点について、必要なりサーチ、検討、起案を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

リサーチの状況（50%）、リサーチの結果（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当科目ではありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日米比較法（特に、環境法、先端技術法）

<研究テーマ>「環境監査と法」、「軍事基地騒音問題」、「サイバーセキュリティと法」

<主要研究業績>（近年のもの）

「米国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証（CMMC）の導入：現行のNIST SP 800-171の遵守制度を超えて」CISTEC journal186号200頁以下（2020年3月）。

「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185号223頁以下（2020年1月）。

「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制（上）」人間環境論集19巻1号13頁以下（2018年12月）。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the master thesis.

< Learning Objectives >

The goals of this course are to set the theme of the master thesis and to start research as soon as possible

< Learning Activities outside of Classroom >

Students are expected to conduct necessary research, examination, and drafting the thesis.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your research (50%) and its results (50%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

永野 秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の研究テーマを設定するための基礎となるリサーチ方法や、分析手法についても、一緒に検討いたします。

【到達目標】

修士論文の研究テーマを設定し、できるだけ早い時期に研究に着手することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

社会科学系の環境問題について議論し、方法を指導し、個々の研究を進めます。

また、授業は、対面授業を予定していますが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	先行文献の調査（1） （春学期の続き）	先行文献の調査を行い、その報告を受け、検証する（法令、判例、その他データ等）。
2	先行文献の調査（2）	その他、先行文献や英語文献等の調査が必要であれば、その報告を受け、検証する。
3	中間報告骨子案の テーマ、論旨の検証	先行文献調査から、受講者が選んだテーマが、これまで検証されたものではなく、かつ、立証可能なものか否かを検討する。
4	中間報告骨子案の理論 展開の検証	中間報告骨子案における、本文の理論展開の整合性について検証する。
5	中間報告骨子案の立証 責任の検証	中間報告骨子案における、本文の立証可能性について検証する。
6	中間報告骨子案に関する 話し合い	受講者から、中間報告骨子案に関する報告を受け、話し合い、最終案を検討する。
7	中間報告骨子案の画定	中間報告骨子案を検討し、内容を画定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講師により前回指導された点について、必要なりサーチ、検討、起案を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

先行論文の調査（20%）、中間報告骨子案（80%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当科目ではありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日米比較法（特に、環境法、先端技術法）

<研究テーマ>「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」

<主要研究業績>（近年のもの）

「米国国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証（CMMC）の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」 CISTEC journal186 号 200 頁以下（2020 年 3 月）。

「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」 CISTEC journal185 号 223 頁以下（2020 年 1 月）。

「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制（上）」人間環境論集 19 巻 1 号 13 頁以下（2018 年 12 月）。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the master thesis.

< Learning Objectives >

The goals of this course are to set the theme of the master thesis and to start research as soon as possible

< Learning Activities outside of Classroom >

Students are expected to conduct necessary research, examination, and drafting the thesis.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on the survey of previous papers (20%) and the draft of interim report (80%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、修士論文の完成に向けて、テーマ設定、先行研究のサーベイ、調査方法（フィールド調査を含む）、執筆要領などについて指導を行います。

【到達目標】

修士論文の執筆を通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な知見に基づく問題解決能力を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

履修者の関心領域や調査の可能性を踏まえ、教員と院生の自由なディスカッションを通じて、研究計画の作成と先行研究の収集・分析に関する指導を行います。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げて、フィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの検討①	履修者による研究テーマの発表と討議
第 2 回	研究テーマの検討②	研究テーマの確定
第 3 回	研究計画の作成①	履修者による研究計画の発表と討議
第 4 回	研究計画の作成②	研究計画の確定
第 5 回	先行研究のサーベイ①	履修者による先行研究リストの発表と討議
第 6 回	先行研究のサーベイ②	修士論文に関係する先行研究の発表と討議
第 7 回	先行研究のサーベイ③	修士論文に関係する先行研究の発表と討議
第 8 回	フィールド調査の検討①	履修者によるフィールド調査計画の発表と討議
第 9 回	フィールド調査の検討②	フィールド調査計画の確定
第 10 回	修士論文のテーマに関する文献購読①	基本文献の購読と討議
第 11 回	修士論文のテーマに関する文献購読②	基本文献の購読と討議
第 12 回	修士論文のテーマに関する文献購読③	基本文献の購読と討議
第 13 回	修士論文のテーマに関する文献購読④	基本文献の購読と討議
第 14 回	修士論文の構想発表とディスカッション	履修者による論文構想の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文のテーマに沿ってフィールド調査を行い、オリジナルデータの収集と分析を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

受講者のテーマに応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学生による研究報告：100 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー
<研究テーマ>
企業と社会のサステナビリティ
<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①~⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日~12日)』2020年

「社会課題と企業経営-企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this seminar, I will provide guidance on the following topics necessary for writing a master's thesis.

(1) theme setting, (2) survey of previous research, (3) analysis methods (including field research), and (4) writing guidelines.

This seminar aims to help students determine the theme of their master's thesis through a survey of previous research.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the student's presentation (100%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は博士論文の執筆に必要な先行研究について検討を行いません。参加者は博士論文の構想や論点に関係する先行研究のリストを作成し、先行研究の内容を報告して下さい。本授業は博士論文で取り上げるテーマの研究史上での位置づけを明確にすることを目指します。

【到達目標】

この授業では、博士論文のテーマの絞り込みを行う上で必要となる先行研究の到達点（論点）や研究方法を理解し、オリジナリティある博士論文のフレームワークを作り上げることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

履修者は博士論文に関係する主要な先行研究の報告を行います。報告内容を踏まえ、博士論文のテーマや研究方法について討議を行います。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げて、フィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第 2 回	これまでの研究実績の報告	修士論文を中心とする研究実績の報告と討議
第 3 回	研究計画の検討①	履修者による研究計画の発表と討議
第 4 回	研究計画の検討②	研究テーマ・研究方法の確定
第 5 回	フィールド調査の検討	履修者によるフィールド調査計画の発表と討議
第 6 回	博士論文に関係する研究実績の整理	履修者による先行研究リストの発表と討議
第 7 回	先行研究のサーベイ① [国内文献]	博士論文に関係する国内の先行研究の発表と討議
第 8 回	先行研究のサーベイ② [国内文献]	博士論文に関係する国内の先行研究の発表と討議
第 9 回	先行研究のサーベイ③ [国内文献]	博士論文に関係する国内の先行研究の発表と討議
第 10 回	先行研究のサーベイ④ [国内文献]	博士論文に関係する国内の先行研究の発表と討議
第 11 回	先行研究のサーベイ① [海外文献]	博士論文に関係する海外の先行研究の発表と討議
第 12 回	先行研究のサーベイ② [海外文献]	博士論文に関係する海外の先行研究の発表と討議
第 13 回	先行研究のサーベイ③ [海外文献]	博士論文に関係する海外の先行研究の発表と討議
第 14 回	先行研究のサーベイ④ [海外文献]	博士論文に関係する海外の先行研究の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者には博士論文のテーマに関係する主要な先行研究を事前に整理しておくことが求められます。授業で指摘された点を復習し論点の整理を行いません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

受講者のテーマに応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告・討議：100%

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する場合があります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

CSR・企業倫理・ESG 投資

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this class, we will discuss prior research necessary for writing a doctoral dissertation. Students are expected to prepare a list of previous research related to the theme of the doctoral dissertation and report on the contents of the previous research. This class aims to clarify the position of the doctoral dissertation topic in the history of research.

This class aims to provide students with the basic knowledge of sustainability necessary to write a doctoral dissertation.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the student's presentation (100%).

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は博士論文のテーマに関係する国内外の政策動向や企業経営の最新事例について検討を行ないます。履修者は博士論文に関係する政策と企業事例について報告を行い、今後の研究方針や調査方法について討議します。

【到達目標】

経営学分野におけるサステナビリティに関する専門知識、国内外の研究成果、研究方法、データ解析スキルを体得し、博士論文の執筆に必要な研究のフレームワークを確立することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業では、修士論文の執筆を通じて蓄積してきた知見と国内外の政策や企業事例に基づいて、実証研究とその理論化に関するスキルを身につけるよう指導します。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げて、フィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針・進め方
第2回	サステナビリティを巡る政策動向のサーベイ① [国内]	博士論文に関係する国内の政策動向の発表と討議
第3回	サステナビリティを巡る政策動向のサーベイ② [国内]	博士論文に関係する国内の政策動向の発表と討議
第4回	サステナビリティを巡る政策動向のサーベイ③ [海外]	博士論文に関係する海外の政策動向の発表と討議
第5回	サステナビリティを巡る政策動向のサーベイ④ [海外]	博士論文に関係する海外の政策動向の発表と討議
第6回	サステナビリティを巡る企業事例のサーベイ① [国内]	博士論文に関係する国内企業の事例発表と討議
第7回	サステナビリティを巡る企業事例のサーベイ② [国内]	博士論文に関係する国内企業の事例発表と討議
第8回	サステナビリティを巡る企業事例のサーベイ③ [海外]	博士論文に関係する外国企業の事例発表と討議
第9回	サステナビリティを巡る企業事例のサーベイ④ [海外]	博士論文に関係する外国企業の事例発表と討議
第10回	実証調査の検討①	実施調査の目的と方法論の検討
第11回	実証調査の検討②	実施調査の目的と方法論の確定
第12回	査読論文の内容検討①	博士論文執筆の前提条件となる査読論文の報告と討議
第13回	査読論文の内容検討②	博士論文執筆の前提条件となる査読論文の報告と討議
第14回	博士論文中間構想の発表	博士論文の構成（章立てと方向性）についての発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は博士論文の執筆に必要な最新研究を事前に整理しておくことが求められます。授業で指摘された点を復習し論点の整理を行ないます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

受講者のテーマに応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告・討議：100%

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this class, we will examine domestic and international policy trends and the latest examples of corporate management related to the theme of the doctoral dissertation.

Students will report on policies and corporate cases related to their doctoral thesis, and discuss future research policies and methods.

This class aims to provide students with the basic knowledge of sustainability necessary to write a doctoral dissertation.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the student's presentation (100%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では修士論文の完成に向けて、データの分析方法、分析結果に基づく論文執筆の指導を行います。

【到達目標】

修士論文の執筆を通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な知見に基づく問題解決能力を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

履修者の関心領域や調査の可能性を踏まえ、教員と院生の自由なディスカッションを通じて、データ分析の手法や学術論文に必要な執筆ルール等について指導を行います。受講者から提起された意見や質問からいくつかポイントを取り上げて、フィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	調査報告と討議①	アンケートやヒアリング調査等の結果報告
第 2 回	調査報告と討議②	データ分析から抽出した知見に関する報告と討議
第 3 回	調査報告と討議③	データ分析から抽出した知見に関する報告と討議
第 4 回	修士論文執筆構想の検討①	履修者による執筆構想の発表と討議
第 5 回	修士論文執筆構想の検討②	履修者による執筆構想の発表と討議
第 6 回	修士論文執筆構想の検討③	履修者による執筆構想の発表と討議
第 7 回	先行研究の再検討①	修士論文に関係する先行研究の再検討
第 8 回	先行研究の再検討②	修士論文に関係する先行研究の再検討
第 9 回	学術論文の執筆技法①	過去の修士論文を教材にして学術論文の書き方を指導
第 10 回	学術論文の執筆技法②	過去の修士論文を教材にして学術論文の書き方を指導
第 11 回	修士論文中間構想の発表①	修士論文の構成（章立てと方向性）についての発表と討議
第 12 回	修士論文中間構想の発表②	修士論文の構成（章立てと方向性）について発表と討議
第 13 回	M1 中間発表に向けての指導①	中間報告の内容と発表資料に関する指導
第 14 回	M1 中間発表に向けての指導②	中間報告の内容と発表資料に関する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文のテーマに沿ってフィールド調査等を行い、オリジナルデータの収集と分析を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

受講者のテーマに応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学生による研究報告：100 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスストーリー
<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021

「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this seminar, I give guidance to graduate students on how to analyze data and write their thesis based on the results of the analysis, in order to help them complete their master's thesis. Students will analyze both quantitative and qualitative data, and aim to find academic significance in the analysis results as the core of their master's thesis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the student's presentation (100%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための研究指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連
している。

【授業の進め方と方法】

院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論
する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表す る。
第 2 回	関心テーマの絞り込み	関心テーマの概要をとりまとめ、 修士論文の落としどころを考え る。
第 3 回	関心テーマの実現可能 性	関心テーマを主題とした場合に、 それを修士論文に至らしめること ができるかを検討する。
第 4 回	修士論文の主題案	修士論文の主題案を決める。
第 5 回	関連情報の収集	修士論文に関連する情報を収集す る。
第 6 回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する。
第 7 回	修士論文の実現可能性	関連情報の分析結果から、設定し た修士論文テーマで研究遂行が可 能か否かを再検討する。
第 8 回	修士論文のテーマ再確 認	前回の検討に基づき、修士論文の テーマが妥当であることを再確認 する。
第 9 回	研究テーマの検討	研究テーマについて発表し議論す る。
第 10 回	研究枠組みの検討	研究を実施するための枠組みを検 討する。
第 11 回	作業仮説の設定	作業仮説を設定し、妥当性や実施 可能性について議論する。
第 12 回	方法論の設定	方法論を設定して発表し、議論す る。
第 13 回	周辺情報の再収集	作業仮説や方法論に基づいて、関 連する周辺情報を再収集する。
第 14 回	先行研究の収集	先行研究を収集する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成
し、発表の準備を行う。

【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

【参考書】

指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【担当教員が執筆した参考文献】

1. 藤倉良 (2021) 長い文章の書き方 人間環境論集, 第 22 巻, 第 1 号, pp.23-37
2. 藤倉良 (2007) 研究報告ということ, 人間環境論集, 第 7 巻, 第 2 号, pp.95-102
3. 藤倉良 (2006) 研究をするということ, 人間環境論集, 第 6 巻, 第 2 号, pp.37-48
4. 藤倉良 (2005) 論文を書くということ, 人間環境論集, 第 6 巻, 第 1 号, pp.81-87
法政大学リポジトリからダウンロード可能

【Outline (in English)】

Research guidance for writing master thesis. Student will learn how to write thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the final report.

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】

修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連
している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、
報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第 2 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 3 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 4 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 5 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 6 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 7 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 8 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 9 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 10 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 11 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 12 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 13 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 14 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、
発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を
標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

【参考書】

指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline (in English)】

Students will learn how to write thesis and practice. Students
are required to prepare and review every lecture for two hours.
Assessment will be based on the participation.

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

松本 倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】

修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第 2 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 3 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 4 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 5 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 6 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 7 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 8 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 9 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 10 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 11 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 12 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 13 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 14 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

【参考書】

指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【その他の重要事項】

受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、プログラミング（Python など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>理論天文学

<研究テーマ>星形成、宇宙天気

<主要研究業績>

① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123

② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77

③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】

(Course outline) Seminar for master thesis.

(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

松本 倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】

修士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連
している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、
報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第 2 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 3 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 4 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 5 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 6 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 7 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 8 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 9 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 10 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 11 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 12 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 13 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 14 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

【参考書】

指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【その他の重要事項】

受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>理論天文学
<研究テーマ>星形成、宇宙天気
<主要研究業績>

① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123

② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77

③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】

(Course outline) Seminar for master thesis.

(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy) Research progress (100%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文および研究論文作成のための演習指導を行う。

学生はテーマを選定し、先行論文の調査を行い、それらをまとめて課題を見つけ、仮説をたて、課題解決のための方法を探り、論文を執筆することを最終的な目標とする。

【到達目標】

学生は修士論文執筆のために、まず研究テーマの設定を行う。関心のある分野の学術的な背景を先行研究を調査することにより明らかにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究の進め方について
第 2 回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第 3 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 4 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 5 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 6 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 7 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 8 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 9 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 10 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 11 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 12 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 13 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 14 回	修士論文作成準備	研究報告と修士論文作成のための検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者それぞれが自分の問題関心に合わせて文献調査を行い、報告する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容（60%）、研究の準備状況（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養医学、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 栄養と健康、就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)

The European Journal of Public Health 2012 年

ビタミン D の健康効果 人間環境論集 19 巻号 79-101

日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか 人間環境論集 20 巻 1 号 1-17

<https://eiyouyohou.com/>

【Outline (in English)】

【Course outline】 Practice for preparing master's thesis and research paper.

Students will select a topic, conduct a survey of previous papers, summarize them, find a problem, formulate a hypothesis, and explore ways to solve the problem. Students are expected to write a master's thesis at the end of the course.

【Learning Objectives】 To write a master's thesis, students must first establish a research topic. The academic background of the area of interest is clarified by surveying previous studies.

【Learning activities outside of classroom】 Each participant will conduct and report on a literature review according to his or her own problematic interests.

【Grading Criteria】 The content of the report in the exercise (60%) and the state of preparation for the research (40%) will be comprehensively evaluated.

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けた問題意識の醸成、文献検索の方法、調査、解析方法などを身につけ、論文作成に必要な能力を身につける。学生は先行研究を調査し、自分の研究テーマを決定する。課題発見、仮説の設定、先行研究を交えながら論を展開し、考察し、結論を導き出し、最終的に論文を執筆する。

【到達目標】

学生が適切なテーマを選択し、文献検索を行って自身の研究テーマの先行研究における位置づけを明確にする。必要な調査を明らかにすることにより、調査方法を決定する。得られたデータを適切に分析するための解析方法を学ぶ。論文作成を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 2 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 3 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 4 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 5 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 6 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 7 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 8 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 9 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 10 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 11 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 12 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 13 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討
第 14 回	修士論文作成の準備	研究報告と修士論文作成のための検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は研究テーマについて調査、研究を継続して行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

研究の進捗状況に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、発表 10 %、研究内容 60 % で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当無し。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養医学、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 栄養と健康、就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)

The European Journal of Public Health 2012 年

ビタミン D の健康効果 人間環境論集 19 巻号 79-101

日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における

課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか

人間環境論集 20 巻 1 号 1-17

<https://eiyouyohou.com/>

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will develop an awareness of the issues involved in writing a master's thesis. Students will investigate previous research and determine their own research topic. Students discover issues, formulate hypotheses, and develop and discuss their arguments with previous research. Students are expected to draw a final conclusion and write a paper.

【Learning Objectives】 Students will select an appropriate topic and conduct a literature search to clarify the position of their own research topic in previous studies. Determine the research method by identifying the necessary research. Students will learn how to analyze the data obtained in an appropriate manner. Students will start writing a paper.

【Learning activities outside of classroom】 Students will continue to investigate their research topic.

【Grading Criteria】 Evaluation will be made on the basis of 30% of normal points, 10% of presentations, and 60% of research content.

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】

学生は修士論文を作成するために、次の3つを目標にします。

- ①研究の核心となる「問い」を明確にする。
- ②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
- ③実証研究の実施と報告。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の「問い」を共有、テーマと文献の選定
第2回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第3回	「問い」の設定と先行研究レビュー（1）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第1回）
第4回	「問い」の設定と先行研究レビュー（2）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第2回）
第5回	「問い」の設定と先行研究レビュー（3）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第3回）
第6回	「問い」の設定と先行研究レビュー（4）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第4回）
第7回	「問い」の設定と先行研究レビュー（5）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第5回）
第8回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（1）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第1回）
第9回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（2）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第2回）
第10回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（3）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第3回）
第11回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（4）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第4回）
第12回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（5）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第5回）
第13回	修士論文のテーマ設定（1）	2回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する（第1回）

第14回 修士論文のテーマ設定（2） 2回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する（第2回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は自分の問題関心に合わせて参考文献を選定したうえで熟読し、報告してください。かならず1度はフィールドワークに取り組み、その報告をして下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容（60%）、研究の準備状況（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域経済学、日本近現代史、人文地理学
 <研究テーマ> 地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
 <主要研究業績>
 ・『おふくろの味』幻想—誰が郷愁の味をつくったのか』（単著、光文社新書、2023年）
 ・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
 ・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
 ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
 ・『ジェンダーから再考する地域と人間』『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
 ・『地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市』『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.

◆ Learning Objectives

Students will have the following three goals for their master's thesis

- (1) Clarify the "question" that is the core of the research.
- (2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
- (3) Conduct and report on empirical research.

◆ Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】

学生は、修士論文を作成するために、次の3つを目標にします。

- ①研究の核心となる「問い」を洗練する。
- ②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
- ③研究計画を立て、調査を実施し、報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の報告と検討 (1)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第 1 回)
第 2 回	研究計画の報告と検討 (2)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第 2 回)
第 3 回	研究計画の報告と検討 (3)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第 3 回)
第 4 回	研究計画の報告と検討 (4)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第 4 回)
第 5 回	研究計画の報告と検討 (5)	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する (第 5 回)
第 6 回	フィールドワークの報告と検討 (1)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第 1 回)
第 7 回	フィールドワークの報告と検討 (2)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第 2 回)
第 8 回	フィールドワークの報告と検討 (3)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第 3 回)
第 9 回	フィールドワークの報告と検討 (4)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第 4 回)
第 10 回	フィールドワークの報告と検討 (5)	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する (第 5 回)
第 11 回	研究計画のブラッシュアップ (1)	2 回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する (第 1 回)

第 12 回	研究計画のブラッシュアップ (2)	2 回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する (第 2 回)
第 13 回	研究計画のブラッシュアップ (3)	2 回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する (第 3 回)
第 14 回	研究計画のブラッシュアップ (4)	2 回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する (第 4 回)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれらを集積整理、熟読することをすすめます。2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容 (60%)、研究の準備状況 (40%) を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>地域経済学、日本近現代史、人文地理学
<研究テーマ>地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史

<主要研究業績>

- ・『「おふくろの味」 幻想—誰が郷愁の味をつくったのか』(単著、光文社新書、2023 年)
- ・『7 袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』(単著、晶文社、2019 年)
- ・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』(単著、名古屋大学出版会、2018 年)
- ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』(単著、古今書院、2009 年)
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18 年、104-113 頁
- ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016 年、57-72 頁

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.

◆ Learning Objectives

Students will have the following three goals for their master's thesis

- (1) Clarify the "question" that is the core of the research.
- (2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
- (3) Conduct and report on empirical research.

◆ Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学に関するレポート・論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】

環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で行う。環境倫理学のレポートや論文を書くためには文献を読む必要がある。この授業では、参加者の問題関心に応じた文献購読をまず行い、そこから受講者が各自のテーマを決定し、レポートを作成し、それを添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理学の方法論	倫理学の論文に固有の方法論について解説する。
第 2 回	環境倫理学の概要	環境倫理学の問題意識とこれまでの議論を紹介する。
第 3 回	環境問題に関するディスカッション	関心のある環境問題について話し合い、購読する本を決める。
第 4 回	レポート・論文の書き方	レポート・論文の書き方を紹介する。
第 5 回	文献購読（1）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 6 回	文献購読（2）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 7 回	文献購読（3）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 8 回	文献購読（4）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 9 回	文献購読（5）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 10 回	文献購読（6）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 11 回	文献購読（7）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 12 回	文献購読（8）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 13 回	レポートの添削指導（1）	提出されたレポートを添削し、問題点を共有する。
第 14 回	レポートの添削指導（2）	再提出されたレポートを添削し、改善点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘、寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

そのほか、授業内で購読する文献を決定する。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

作成したレポートについて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境倫理学

<研究テーマ>都市の環境倫理、災後と人新世時代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire how to write reports and papers on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to writing report. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following final reports : 100%.

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学に関する研究発表の仕方を学ぶ。

【到達目標】

環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを研究発表できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で行う。環境倫理学の研究発表を行うためには文献を読む必要がある。この授業では、参加者の問題関心に応じた文献購読をまず行い、そこから受講者が各自のテーマを決定し、発表資料を作成し、パワーポイント等を用いて発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理学の方法論	倫理学の論文に固有の方法論について解説する。
第 2 回	環境倫理学の概要	環境倫理学の問題意識とこれまでの議論を紹介する。
第 3 回	環境問題に関するディスカッション	関心のある環境問題について話し合い、購読する本を決める。
第 4 回	研究発表のしかた	研究発表のしかたを説明する。
第 5 回	文献購読（1）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 6 回	文献購読（2）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 7 回	文献購読（3）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 8 回	文献購読（4）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 9 回	文献購読（5）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 10 回	文献購読（6）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 11 回	文献購読（7）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 12 回	文献購読（8）	話し合いの上、決定した文献を購読する。
第 13 回	研究発表（1）	各自のテーマについて発表し、コメントしあう。
第 14 回	研究発表（2）	コメントをふまえて修正したものを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の準備を各自ですること。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

期末の発表（60%）と授業内での作業（40%）をあわせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>環境倫理学

<主要研究業績>都市の環境倫理、災後と人新世代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

いずれも勁草書房より刊行

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire how to make research presentations on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to make research presentations on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end presentation: 60%, in class contribution: 40%.

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

藤田 研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO 論などの基礎的な文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究テーマについて報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】

環境社会学、NPO 論の基礎的な知識をもち、最近の研究動向を理解している。修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを設定できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

文献レビュー、研究テーマの報告とディスカッションを中心とする。大学の行動方針レベルに変更があった場合、それに応じた授業形態の詳細は学習支援システムで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容、文献レビューの進め方、環境社会学、NPO 論などの概要を示す。
第 2 回	研究の基礎	研究のプロセスを示す。研究テーマの候補を設定する。
第 3 回	文献レビュー①	環境社会学の基礎的な文献を購読し、ディスカッションする。
第 4 回	文献レビュー②	環境社会学の基礎的な文献を購読し、ディスカッションする。
第 5 回	文献レビュー③	環境運動論の文献を購読し、ディスカッションする。
第 6 回	文献レビュー④	環境運動論の文献を購読し、ディスカッションする。
第 7 回	文献レビュー⑤	NPO 論の文献を購読し、ディスカッションする。
第 8 回	文献レビュー⑥	NPO 論の文献を購読し、ディスカッションする。
第 9 回	文献レビュー⑦	行政との連携に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 10 回	文献レビュー⑧	行政との連携に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 11 回	文献レビュー⑨	順応的ガバナンスに関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 12 回	文献レビュー⑩	順応的ガバナンスに関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 13 回	文献レビュー⑪	水環境に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 14 回	文献レビュー⑫	水環境に関する文献を購読し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の購読。自身の研究テーマ、対象とする事例について検討し、報告に向けて準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購読する文献は、参加者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第 2 版』ミネルヴァ書房。

環境社会学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

【成績評価の方法と基準】

文献レビュー（60%）+ 研究テーマの報告（40%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。また PC を使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】

博士課程「サステイナビリティ特殊研究」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

<研究テーマ>

環境問題解決に向けた住民・市民の活動と行政との連携
農村の課題解決と地域環境保全の両立を考える

<主要研究業績>

藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスと NGO の社会学』ナカニシヤ出版。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This class will provide students with research guidance for writing their master thesis. Students will review the basic literature and recent research trends in environmental sociology and NPO theory, as well as report and discuss the students' research themes.

(Learning Objectives) Learning the basic knowledge of environmental sociology and NPO theory and understanding the recent research trends. Setting the research themes for writing their master thesis.

(Learning Activities Outside of Classroom) Reading literature. Preparing for presentations of a case study. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Literature Review (60%) + Presentation of Research Theme (40%).

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

藤田 研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO 論などの基礎的な文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究テーマについて報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】

環境社会学、NPO 論の基礎的な知識をもち、最近の研究動向を理解している。修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを設定できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

文献レビュー、研究テーマの報告とディスカッションを中心とする。大学の行動方針レベルに変更があった場合、それに応じた授業形態の詳細は学習支援システムで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の授業内容、文献レビューの進め方を示す。
第 2 回	文献レビュー①	森林に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 3 回	文献レビュー②	森林に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 4 回	文献レビュー③	環境問題の社会学の文献を購読し、ディスカッションする。
第 5 回	文献レビュー④	環境問題の社会学の文献を購読し、ディスカッションする。
第 6 回	文献レビュー⑤	生活環境主義に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 7 回	文献レビュー⑥	生活環境主義に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 8 回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定し、検討すべき先行研究のリストを作成する。
第 9 回	研究テーマの設定②	研究テーマ、先行研究のリストを報告し、ディスカッションする。
第 10 回	事例の選定①	研究テーマにもとづき、事例を選定する。
第 11 回	事例の選定②	選定した事例の概要を報告し、ディスカッションする。
第 12 回	文献レビュー⑦	研究テーマに応じた文献を購読し、ディスカッションする。
第 13 回	文献レビュー⑧	研究テーマに応じた文献を購読し、ディスカッションする。
第 14 回	文献レビュー⑨	研究テーマに応じた文献を購読し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の購読。自身の研究テーマ、対象とする事例について検討し、報告に向けて準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購読する文献は、参加者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第 2 版』ミネルヴァ書房。

環境社会学学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

【成績評価の方法と基準】

文献レビュー（60%）+ 研究テーマの報告（40%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。また PC を使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】

博士課程「サステイナビリティ特殊研究」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

<研究テーマ>

環境問題解決に向けた住民・市民の活動と行政との連携
農村の課題解決と地域環境保全の両立を考える

<主要研究業績>

藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスと NGO の社会学』ナカニシヤ出版。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This class will provide students with research guidance for writing their master thesis. Students will review the basic literature and recent research trends in environmental sociology and NPO theory, as well as report and discuss the students' research themes.

(Learning Objectives) Learning the basic knowledge of environmental sociology and NPO theory and understanding the recent research trends. Setting the research themes for writing their master thesis.

(Learning Activities Outside of Classroom) Reading literature. Preparing for presentations of a case study. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Literature Review (60%) + Presentation of Research Theme (40%).

SES600P2 - 201

論文研究指導 1 A

渡邊 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この論文研究指導では修士論文の作成に向けて、テーマ選定、先行研究の調査、分析手法・技法を含めた研究方法、結果の評価と検証などの考え方について検討する。これにより受講者は研究活動を遂行するための基礎力を修得する。ここでは概ねテーマの選定から先行研究の調査に関わる内容を中心に研究する。

【到達目標】

研究遂行のための基礎力を身につけることを目指す。受講者は各々の問題意識と関心事を確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文を執筆するための基礎的事項を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行う。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。以下の【授業計画】は、各回の授業に含める予定の検討項目を示したものである。実際には各授業において受講者のモチベーション確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、進め方などについての説明
第 2 回	テーマの検討 (問題意識の報告と検討)	問題意識の確認と研究テーマに関する概要の検討
第 3 回	テーマの検討 (リサーチクエッションへの発展)	問題意識の確認と研究テーマに関する詳細検討
第 4 回	テーマの検討 (研究テーマの妥当性の検討)	論点整理とテーマのもつ社会的意義に関する検討
第 5 回	テーマの検討 (研究テーマの選定)	論点整理と課題整理
第 6 回	研究活動の設計 (概要設計)	研究活動の概要の設計・計画、調査方針などの検討
第 7 回	研究活動の設計 (詳細設計)	研究活動の詳細設計・計画、調査方法などの検討
第 8 回	先行研究の調査 (情報検索)	文献の収集と調査、図書館における文献検索
第 9 回	先行研究の調査 (文献収集)	文献の収集と調査、図書館における文献収集
第 10 回	先行研究の調査 (論点整理)	関連文献の講読と精査、論点整理
第 11 回	先行研究の調査 (課題整理)	関連文献の講読と精査、課題整理
第 12 回	先行研究の調査 (研究計画のさらなる検討)	関連文献の講読と精査、論点整理・課題整理と研究計画への反映

第 13 回 研究活動の設計
(詳細設計の検討) 研究テーマの確認と研究活動の詳細設計

第 14 回 研究活動の設計
(詳細設計のさらなる検討) 研究テーマの確認と研究活動の詳細設計の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。テーマの考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者間のコミュニケーションがさらに深まるよう考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a guidance seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. Here we will mainly learn the process for planning of themes and examination of previously reported works.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the bases for research execution of each theme including paper-writing skills.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES600P2 - 202

論文研究指導 1 B

渡邊 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「論文研究指導 1 A」に引き続き、ここでは修士論文の作成に向けて、テーマ選定、先行研究の調査、分析手法・技法を含めた研究方法、結果の評価と検証などの考え方について検討する。これにより受講者は研究活動を遂行するための基礎力を修得する。ここでは概ね分析手法・技法の検討、結果の評価・検証等に関わる内容を中心に研究する。さらに論文作成へ発展させるために必要な事項について検討する。

【到達目標】

研究遂行のための基礎力をさらに身に付けることを目指す。受講者は各々の問題意識と関心事を確認し、情報収集、論点整理、分析手法の検討、さらには結果の解釈と検証などができるようになることを目標とする。また論文を執筆するための基礎的事項を幅広く修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

教員を含めた参加者による討論を繰り返していく。これにより、受講者は各々のテーマに関して柔軟かつ複眼的な見方ができるようになる。参加者は授業時に各々の研究の進捗状況の報告を行う。この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。以下の【授業計画】は、各回の授業に含める予定の検討項目を示したものである。実際には各授業において受講者のモチベーション確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの確認と研究計画	研究内容についての確認 (研究計画の概要確認)
第 2 回	テーマの確認と研究計画	研究計画についての詳細な検討 (研究計画の詳細検討)
第 3 回	テーマの確認と研究計画	先行研究の論点確認 (先行研究の確認)
第 4 回	テーマの確認と研究計画	先行研究の論点確認と研究計画のさらなる検討 (研究計画の再検討)
第 5 回	分析手法・技法の検討	分析手法・技法、評価・検証の方法 (情報収集)
第 6 回	分析手法・技法の検討	分析手法・技法、評価・検証の方法とその考察 (検討)
第 7 回	分析手法・技法の検討	分析手法・技法、評価・検証の方法と妥当性の検討 (選定)
第 8 回	分析手法・技法の検討	分析手法・技法、評価・検証の方法の確認 (確認)
第 9 回	研究遂行状況の報告と検討	研究遂行状況報告と検討 (報告)
第 10 回	研究遂行状況の報告と検討	研究遂行状況報告と討論 (検討)

第 11 回	研究遂行状況の報告と検討 (論点整理)	研究遂行状況報告と論点整理および検討
第 12 回	研究遂行状況の報告と検討 (課題整理)	研究遂行状況報告と課題整理および検討
第 13 回	論文作成法 (基礎的事項)	進捗度の確認、論文執筆のためのスキル研究
第 14 回	プレゼンテーション法 (資料作成法と報告)	進捗度の確認、プレゼンテーション資料作成のためのスキル研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。研究内容の考察、先行研究（文献等）に関する情報収集、プレリサーチ、報告の準備などの作業を進めることにする。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

開講時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参加者間のコミュニケーションがさらに深まるよう考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学
<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス、
<主要研究業績> Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a guidance seminar to accomplish research projects for each member of this class in the master's course. Here we will mainly learn the methodology of analysis, evaluation techniques, and presentation methods of works. This seminar is a developed subject from 1A.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the bases for research execution of each theme including paper-writing skills.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours for preparation before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES600P2 - 203

論文研究指導 2 A

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）の内容、そして、修士論文の構想に基づいて、研究・調査内容を報告するとともに、その報告結果を参考にしながら完成度の高い修士論文を作成していくことを目的とする。

【到達目標】

本演習では、修士論文の中間報告書（粗原稿）を作成していくために、論文研究指導 1A・B よりも論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）、修士論文の構想に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	1 年次までに行った研究・調査とそれに基づく今後の取組みについて確認する。
第 2 回	修士論文の構成（案）の検討	修士論文を構成する章や節の設定方法を講義するとともに、その案について報告する。
第 3 回 ～ 第 11 回	研究・調査の成果報告	第 2 回の構成（案）に基づいて、研究・調査を進めていくとともに、その成果を報告する。
第 12 回	修士論文の体裁	修士論文の体裁を整えていくための方法を講義する。
第 13 回	修士論文の構成（案）の再検討	これまでの講義に基づいて、章や節の構成（案）を再検討する。
第 14 回	修士論文の中間報告書（粗原稿）の作成	第 13 回の構成に基づいて作成される修士論文の全体内容を報告するとともに、その内容の粗原稿を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を修士論文の中間報告書（粗原稿）に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10 %）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10 %）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
- ・ 修士論文（粗原稿）の内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか? -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to study the details of a master thesis.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a master thesis.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Content of master thesis (rough draft) : 50%

SES600P2 - 204

論文研究指導 2 B

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、小論文（研究計画書）の内容、修士論文の構想、そして、論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）の内容に基づいて、研究・調査を進め、その結果を報告するとともに、その報告内容を参考にしながら完成度の高い修士論文を作成していくことを目的とする。

【到達目標】

本演習では、論文研究指導 1A・B や論文研究指導 2A での学習内容を参考にしながら、修士論文を作成していくための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、論文研究指導 1A・B で習得した研究・調査の方法論、作成した小論文（研究計画書）の内容、修士論文の構想、論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査から明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査の進展について報告するとともに、完成から提出までのスケジュールを確認する。
第 2 回 ～ 第 5 回	追加的作業の確認	修士論文の完成のために必要不可欠となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 6 回 ～ 第 13 回	修士論文の作成	論文研究指導 2A で作成した修士論文の中間報告書（粗原稿）に、これまでに行ってきた研究・調査内容を反映させた（加筆修正した）部分、また、内容調整した部分について報告する。
第 14 回	修士論文の最終版の調整	修士論文の形式と内容の最終調整を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その内容を修士論文に反映させ、完成度の高い論文にしてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10 %）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10 %）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
- ・ 修士論文（提出前原稿）の内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直 (2015) 「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・ 金藤正直 (2016) 「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・ 金藤正直 (2018) 「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・ 金藤正直 (2021) 「健康経営の展望-どう評価・開示するか? -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・ 金藤正直、岡照二 (2021) 「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・ 金藤正直 (2021) 「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・ 金藤正直 (2022) 「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to study the details of a master thesis.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a master thesis.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Content of master thesis : 50%

SES600P2 - 203

論文研究指導 2 A

小島 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、修士課程の2年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①研究テーマの細部の再調整
- ②追加的な調査研究
- ③修士論文の草稿の執筆

【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ・修士論文の執筆能力を身につける。
- ・学術論文の技法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文の草稿執筆に向けて、章構成に関する指導、調査研究の遂行に関する指導、調査研究から得た知見の評価と修士論文への反映に関する指導、修士論文の論理展開や技術・作法に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究および論文執筆の進捗状況から学び合う場とする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1年間の調査研究成果の報告	M1の調査研究成果について報告し、今後の方向性について確認する。
2	修士論文完成までの工程確認	修士論文作成までの工程と具体的な調査研究課題を確認する。
3	修士論文の構造と技法の学習	修士論文の論理展開の重要性、章構成、技法について学ぶ。
4	章節構成案の報告	章節構成案を報告し、論文の構造について検討する。
5	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
6	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
7	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
8	章節構成案の再検討	調査研究の進展をふまえて、章節構成案を再検討する。
9	草稿執筆の準備作業の報告	草稿執筆に向けた準備作業について報告し、工程を確認する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	草稿執筆に関する報告と検討	執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。

- | | | |
|----|---------------|-------------------------------------|
| 13 | 草稿執筆に関する報告と検討 | 執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。 |
| 14 | 草稿執筆に関する報告と検討 | 執筆中の草稿の進捗状況について報告し、今後の作業課題について検討する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。

- ・調査研究を進めること。
- ・修士論文の草稿を執筆すること。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

修士論文の作業の進捗状況に応じて、適宜、関連文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論

<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション

<主要研究業績>

「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）

「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）

「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）

「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）

「上下流連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）

「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）

「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）

「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版社、2023）

【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the second year of the master's program.

Students work on the following contents:

- (1)Readjust the details of the research theme.
- (2)Work on additional research.
- (3)Write the draft of master's thesis.

Students aim at achieving the following goals:

- (1)Acquire the ability to write master's thesis.
- (2)Acquire the techniques of academic paper.

Students need to proceed with research, and to write the draft of master's thesis. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 - 204

論文研究指導 2 B

小島 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、修士課程の2年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ① 修士論文の草稿の検討と修正
- ② 研究成果と今後の研究課題の確認

【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下の通りである。

- ・ 修士論文を完成させる。
- ・ 修士論文についての的確に説明できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文の完成に向けて、草稿修正に関する指導、追加的な調査研究の遂行に関する指導、そこから得た知見の評価と修士論文への反映に関する指導、修士論文の論理展開や技術・作法に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、修士論文の草稿については、添削とコメントを行う。演習は、参加学生が、互いに他者の調査研究および論文執筆の進捗状況から学び合う場とする。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	修士論文の草稿に関する報告	草稿について報告し、今後の修正課題について検討する。
2	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
3	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
4	追加的な調査研究の報告	追加的な調査研究の進捗状況について報告する。
5	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
6	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
7	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
8	修士論文の章ごとの報告	修士論文の章ごとに内容を報告し精査する。
9	修士論文の参考文献・資料に関する報告	修士論文の参考文献・資料について報告し精査する。
10	修士論文の全章に関する構成の最終確認	修士論文の全章に関する構成を最終確認し、重要な箇所について内容を精査する。
11	修士論文（案）の提出と報告	修士論文（案）を提出し、内容について報告する。
12	修士論文（案）の修正状況の報告	修士論文（案）の修正状況について報告する。
13	修士論文（案）の修正状況の報告	修士論文（案）の修正状況について報告する。
14	修士論文の最終案の報告と形式的調整	修士論文の最終案の報告と論文形式に関する調整を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。

- ・ 調査研究を進めること。
- ・ 修士論文を執筆すること。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

修士論文の作業の進捗状況に応じて、適宜、関連文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域> 行政学、地方自治論、自治体政策論
- <研究テーマ> 持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション
- <主要研究業績>
- 「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
- 「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
- 「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
- 「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
- 「上下連携とサステイナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
- 「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－（私）と（社会）の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
- 「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
- 「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the second year of the master's program.

Students work on the following contents:

- (1) Review and revise the draft of master's thesis.
- (2) Confirm of research results and future research issues.

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Complete the master's thesis.
 - (2) Acquire the ability to explain the master's thesis accurately.
- Students need to proceed with research, and to write the master's thesis. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:50%,Assignments:50%

SES600P2 - 203

論文研究指導 2 A

高田 雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を通して、修士論文を完成させます。

【到達目標】

修士課程 2 年生が、収集した資料及び取得したデータの分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を明らかにした上でこれらを手入し、解析評価をとおして修士論文を完成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、修士論文の完成に到達します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 2 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 3 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 4 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 5 回	中間成果の評価と検証	中間成果の評価と検証に関する論議と指導、関連学習
第 6 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 7 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 8 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 9 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 10 回	追加的な研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 11 回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第 12 回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第 13 回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習
第 14 回	追加的な情報収集と分析	追加的な情報収集と分析に関する論議と指導、関連学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の取りまとめに向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students complete the master's thesis through research direction including theme setting, study methodology and analysis.

The goals of this class are to reach the analysis and evaluation of acquired data, additional research and to complete master's thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 - 204

論文研究指導 2 B

高田 雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む修士論文の作成に向けた研究指導を通して、修士論文を完成させます。

【到達目標】

修士課程 2 年生が、収集した資料及び取得したデータの分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を明らかにした上でこれらを手し、解析評価をとおして修士論文を完成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をとおして研究指導を行い、修士論文の完成に到達します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 2 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 3 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 4 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 5 回	成果に向けた解析評価	成果に向けた解析評価に関する論議と指導、関連学習
第 6 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 7 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 8 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 9 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 10 回	最終成果のまとめ	最終成果のまとめに関する論議と指導
第 11 回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第 12 回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第 13 回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導
第 14 回	修士論文のまとめ	修士論文のまとめに関する論議と指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の取りまとめに向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students complete the master's thesis through research direction including theme setting, study methodology and analysis.

The goals of this class are to reach the analysis and evaluation of acquired data, additional research and to complete master's thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES600P2 - 203

論文研究指導 2 A

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文研究指導 1 A・1 Bでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】

学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ学術的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じてデータ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の執筆計画の検討①	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第 2 回	修士論文の執筆計画の検討②	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第 3 回	修士論文の執筆計画の検討③	履修者による修士論文の執筆計画の報告と討議
第 4 回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第 5 回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第 6 回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第 7 回	修士論文の進捗状況報告④	執筆部分の報告と討議
第 8 回	修士論文の進捗状況報告⑤	執筆部分の報告と討議
第 9 回	修士論文の進捗状況報告⑥	執筆部分の報告と討議
第 10 回	修士論文の進捗状況報告⑦	執筆部分の報告と討議
第 11 回	修士論文の進捗状況報告⑧	執筆部分の報告と討議
第 12 回	修士論文中間発表①	修士論文の全体像についての報告
第 13 回	修士論文中間発表②	修士論文に対する修正点の討議
第 14 回	修士論文中間発表③	修士論文に対する修正点の討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の取組状況：80 %

発表・討議：20 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this seminar, I will guide students to complete their master's thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 1A and 1B.

This seminar aims to help students acquire multifaceted and academic problem-solving skills through the writing of their master's thesis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the content of the master's thesis (80%) and the presentation (20%).

SES600P2 - 204

論文研究指導 2 B

長谷川 直哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、論文研究指導 2 Aでの学習を踏まえて、修士論文を完成するための指導を行います。

【到達目標】

学術的に完成度の高い修士論文を執筆することを通じて、高度職業人として多面的かつ科学的な問題解決能力を涵養することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

修士論文のテーマや研究対象を踏まえ、履修者とのディスカッションを通じて、データ解析と学術論文の執筆に関する指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の進捗状況報告①	執筆部分の報告と討議
第 2 回	修士論文の進捗状況報告②	執筆部分の報告と討議
第 3 回	修士論文の進捗状況報告③	執筆部分の報告と討議
第 4 回	プレ最終発表①	執筆済み修士論文の発表と討議
第 5 回	プレ最終発表②	執筆済み修士論文の発表と討議
第 6 回	修士論文の修正点の討議①	履修者と修士論文の修正点について討議
第 7 回	修士論文の修正点の討議②	履修者と修士論文の修正点について討議
第 8 回	修士論文の修正点の討議③	履修者と修士論文の修正点について討議
第 9 回	修正論文の報告と討議①	履修者による修正論文の報告と討議
第 10 回	修正論文の報告と討議②	履修者による修正論文の報告と討議
第 11 回	修正論文の報告と討議③	履修者による修正論文の報告と討議
第 12 回	修士論文の最終報告①	完成した修士論文の発表と討議
第 13 回	修士論文の最終報告②	修正を反映した修士論文の発表と討議
第 14 回	最終プレゼンテーション	口述試験におけるプレゼンテーションの予行演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

収集したデータの解析と修士論文の執筆を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の内容： 90 %

発表・討議： 10 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生からの意見を聴取し、授業や論文指導に随時反映させています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてプロジェクターとパソコンを使用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・責任投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319』2021年

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this seminar, I will guide students to complete their master's thesis based on their learning in Thesis Research Guidance 2A. This seminar aims to help students complete a high quality master's thesis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the content of the master's thesis (90%) and the presentation (10%).

SES600P2 - 203

論文研究指導 2 A

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための個別指導

【到達目標】

論文研究指導 1 B で収集したデータの解析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
2	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
3	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
4	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
5	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
6	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
7	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
8	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
9	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
10	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
11	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
12	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
13	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導
14	報告及び議論	収集データの解析結果に関する報告とそれに対する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が報告用レジュメと P P T ファイルを事前に準備する。また、ゼミでの指摘事項を踏まえた対応の実施。疑問点などについては適宜メールで教員と連絡をとりあう。

【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

【参考書】

各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

データ解析の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談で対応する。

【Outline (in English)】

Students will draft thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES600P2 - 204

論文研究指導 2 B

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための個別指導

【到達目標】

論文研究指導 2 A までに行った調査研究結果のとりまとめと修士論文作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎週実施するゼミで、関心事項の報告や他の院生の報告を通して議論し、必要に応じて研究テーマを修正しながら、データ収集を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
2	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
3	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
4	報告及び議論	修士論文の骨子に関する指導
5	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
6	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
7	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
8	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
9	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
10	報告及び議論	修士論文の本文に関する指導
11	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
12	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
13	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導
14	報告及び議論	修士論文報告会に関する指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が報告用レジュメと P P T ファイルを事前に準備する。また、ゼミでの指摘事項を踏まえた対応の実施。疑問点などについては適宜メールで教員と連絡をとりあう。

【テキスト（教科書）】

各回指導中に適宜指示

【参考書】

各回指導中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

データ解析の進捗状況 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに出席できない場合は電子メールや時間外の個人面談で対応する。

【Outline (in English)】

Completion of master thesis. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on the thesis.

SES600P2 - 203

論文研究指導 2 A

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のステップとして修士課程 2 年生を対象として、修士論文作成のための研究調査活動、論文執筆の指導を行う。学生は定めたテーマについて先行研究をまとめ、課題を提示し、仮説を設定して考察を行うことを目的とする。

【到達目標】

学生が適切なテーマについて、調査、分析、考察を行い、仮説を検証していく過程を指導する。

学生は論理を組み立てる能力、データを解析する能力、そして結果について考察、説明する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の作成	先行研究について
第 2 回	修士論文の作成	これまでの研究、調査結果の報告、問題点の把握
第 3 回	修士論文の作成	問題点の解決について
第 4 回	修士論文の作成	調査についての報告
第 5 回	修士論文の作成	調査の問題点について
第 6 回	修士論文の作成	調査結果の解析
第 7 回	修士論文の作成	調査結果解析についての課題検討
第 8 回	修士論文の作成	解析結果の課題検討と考察
第 9 回	修士論文の作成	解析結果の課題検討と考察
第 10 回	修士論文の作成	これまでに得られた結果の総括と新知見の再確認
第 11 回	修士論文の作成	論文執筆の開始
第 12 回	修士論文の作成	論文執筆についての報告と内容の確認
第 13 回	修士論文の作成	追加的調査、文献検索についての検討
第 14 回	修士論文の作成	論文ドラフトの提出と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の完成に向けてテーマについての調査、研究を継続的に行う。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

研究、執筆の状況に応じて必要に応じ提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、指示した課題の消化状況 40 %、研究内容 30 %として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012 年

ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー 労働安全衛生広報 2010 年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010 年

【Outline (in English)】

【Course outline】 As a step toward the completion of the master's thesis, research and survey activities for the preparation of the master's thesis and guidance in writing the thesis are provided. Students are expected to summarize previous research on a defined topic, present a problem, set a hypothesis, and conduct a study.

【Learning Objectives】 Students will be guided through the process of researching, analyzing, and discussing an appropriate topic and testing hypotheses. Students will develop the ability to formulate logic, analyze data, and discuss and explain the results.

【Learning activities outside of classroom】 Students will continue to investigate and research on the topic to complete their master's thesis.

【Grading Criteria】 The evaluation will be based on 30% of the normal score, 40% of the completion of the assigned tasks, and 30% of the research content.

SES600P2 - 204

論文研究指導 2 B

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のための最終段階として、論文執筆の指導を行う。
学生は修士論文を仕上げることを目標とする。

【到達目標】

学生が適切なテーマについて、調査、分析、考察を行い、仮説を検証していく過程を指導する。
学生は論理を組み立てる能力、データを解析する能力、そして結果について考察、説明する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連
している。

【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が
進めている研究内容について報告し、参加者全員で質疑・討論を行
う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュア
ップされ、理解度が深まることを狙っている。個別指導においては、研
究の進捗状況に応じて報告し、研究深化のための議論を行う。論
を展開するうえで必要となる参考文献を選び、論理を構築する。
執筆に際しては、表現技法、論文形式についての指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の作成	論文ドラフトの提出と修正
第2回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第3回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第4回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第5回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第6回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第7回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第8回	修士論文の作成	論文ドラフトの検討と修正
第9回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第10回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第11回	修士論文の作成	論文完成にむけて検討
第12回	修士論文の作成	論文を完成させる
第13回	修士論文の作成	論文を完成させる
第14回	修士論文の作成	論文を完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の完成に向けてテーマについての調査、研究を継続的に行う。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

研究、執筆の状況に応じて必要に応じ提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、指示した課題の消化状況 40%、研究内容 30%とし
て評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、
水素療法）、統計学
<研究テーマ> 就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and
association with health in the Swedish working population (the
SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012
年

ソフト面から考える快適職場—職場のメンタルヘルス対策の一環と
して— 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010年

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students will receive guidance in writing
their paper as the final step in preparing their master's thesis.
Students are expected to complete their master's thesis.

【Learning Objectives】 Students will be guided the process of
researching, analyzing, and discussing an appropriate topic
and testing hypotheses. Students will develop the ability to
formulate logic, analyze data, and discuss and explain the
results.

【Learning activities outside of classroom】 Students will
continue to investigate and research on the topic to complete
their master's thesis.

【Grading Criteria】 The evaluation will be based on 30% of the
normal score, 40% of the completion of the assigned tasks, and
30% of the research content.

SES600P2 - 203

論文研究指導 2 A

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】

学生は修士論文を作成するために、次の3つを目標にします。

- ①研究の核心となる「問い」を明確にする。
- ②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
- ③実証研究の実施と報告。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の「問い」を共有、テーマと文献の選定
第2回	研究とは何か	研究を進めていくための基礎的な知識とスキルを習得する
第3回	「問い」の設定と先行研究レビュー（1）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第1回）
第4回	「問い」の設定と先行研究レビュー（2）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第2回）
第5回	「問い」の設定と先行研究レビュー（3）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第3回）
第6回	「問い」の設定と先行研究レビュー（4）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第4回）
第7回	「問い」の設定と先行研究レビュー（5）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第5回）
第8回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（1）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第1回）
第9回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（2）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第2回）
第10回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（3）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第3回）
第11回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（4）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第4回）
第12回	「問い」の再設定とプレフィールドワークの報告（5）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、予備調査を実施した結果を報告し、議論する（第5回）
第13回	修士論文のテーマ設定（1）	2回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する（第1回）

第14回 修士論文のテーマ設定（2） 2回の報告を総括し、修士論文のテーマについて報告し、議論する（第2回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は自分の問題関心に合わせて参考文献を選定したうえで熟読し、報告してください。かならず1度はフィールドワークに取り組み、その報告をして下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容（60%）、研究の準備状況（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域経済学、日本近現代史、人文地理学
 <研究テーマ> 地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
 <主要研究業績>
 ・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
 ・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
 ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
 ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
 ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.

◆ Learning Objectives

Students will have the following three goals for their master's thesis

- (1) Clarify the "question" that is the core of the research.
- (2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
- (3) Conduct and report on empirical research.

◆ Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2 - 204

論文研究指導 2 B

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は修士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】

学生は、修士論文を作成するために、次の3つを目標にします。

- ①研究の核心となる「問い」を洗練する。
- ②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
- ③研究計画を立て、調査を実施し、報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の報告と検討（1）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第1回）
第2回	研究計画の報告と検討（2）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第2回）
第3回	研究計画の報告と検討（3）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第3回）
第4回	研究計画の報告と検討（4）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第4回）
第5回	研究計画の報告と検討（5）	①研究テーマ、②研究方法、③先行研究をふまえたオリジナリティの提示を「研究計画」として報告し、検討する（第5回）
第6回	フィールドワークの報告と検討（1）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第1回）
第7回	フィールドワークの報告と検討（2）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第2回）
第8回	フィールドワークの報告と検討（3）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第3回）
第9回	フィールドワークの報告と検討（4）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第4回）
第10回	フィールドワークの報告と検討（5）	研究計画にもとづいて実施したフィールドワークの結果を報告し、議論する（第5回）
第11回	研究計画のブラッシュアップ（1）	2回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第1回）

第12回	研究計画のブラッシュアップ（2）	2回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第2回）
第13回	研究計画のブラッシュアップ（3）	2回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第3回）
第14回	研究計画のブラッシュアップ（4）	2回の報告をふまえて、修士論文の研究計画を確定し、報告する（第4回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを取集整理、熟読することをすすめます。2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容（60%）、研究の準備状況（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>地域経済学、日本近現代史、人文地理学
<研究テーマ>地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史

<主要研究業績>

- ・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
- ・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
- ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will learn analytical and thesis writing techniques for the preparation of master's theses and research papers.

◆ Learning Objectives

Students will have the following three goals for their master's thesis

- (1) Clarify the "question" that is the core of the research.
- (2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
- (3) Conduct and report on empirical research.

◆ Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to actively access, collect, organize, and read articles, literature, and other materials related to their own problem consciousness. The standard preparation and review time is 2 hours.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the content of the reports in the exercises (60%) and the preparation of the research (40%).

SES600P2 - 203

論文研究指導 2 A

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学の課題に関する修士論文を作成する。

【到達目標】

修士課程 2 年生を対象として、収集した資料の分析と評価を行い、追加的に必要となる情報や知見等を入手し、それらを分析・評価して修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究課題に関して意見交換を行うとともに、関連する文献資料や事例を題材とした学習をおして研究指導を行い、修士論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中間発表の評価をふまえた論文の再検討	中間発表の評価をふまえた論議と指導
第 2 回	中間発表の評価をふまえた論文の再検討	中間発表の評価をふまえた論議と指導
第 3 回	中間発表の評価をふまえた論文の再検討	中間発表の評価をふまえた論議と指導
第 4 回	中間発表の評価をふまえた論文の再検討	中間発表の評価をふまえた論議と指導
第 5 回	中間発表の評価をふまえた論文の再検討	中間発表の評価をふまえた論議と指導
第 6 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 7 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 8 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 9 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 10 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 11 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 12 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 13 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習
第 14 回	追加の調査研究	追加的な研究に関する論議と指導、関連学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の取りまとめに向けて、文献調査などの研究作業に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
環境倫理学
<研究テーマ>
都市の環境倫理
<主要研究業績>
『都市の環境倫理』勁草書房

【実務経験のある教員による授業】

特になし

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Regarding issues related to environmental ethics, the students complete the master's thesis through research direction.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to complete the master's thesis.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to improve the master's thesis.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on the master's thesis progress.

SES600P2 - 204

論文研究指導 2 B

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学に関わる課題に関する修士論文を作成する。

【到達目標】

修士課程 2 年生を対象として、各自の修士論文を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究発表を重ねる中で研究指導を行い、修士論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の進捗状況の発表	各自の修士論文の進捗状況を発表し得意見交換する
第 2 回	論文の進捗状況の発表	各自の修士論文の進捗状況を発表し得意見交換する
第 3 回	論文の進捗状況の発表	各自の修士論文の進捗状況を発表し得意見交換する
第 4 回	論文の進捗状況の発表	各自の修士論文の進捗状況を発表し得意見交換する
第 5 回	論文の進捗状況の発表	各自の修士論文の進捗状況を発表し得意見交換する
第 6 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する
第 7 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する
第 8 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する
第 9 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する
第 10 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する
第 11 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する
第 12 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する
第 13 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する
第 14 回	修士論文の完成に向けて	修士論文の完成に向けて指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の完成に向けて、各自の研究作業に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
環境倫理学
<研究テーマ>
都市の環境倫理
<主要研究業績>
『都市の環境倫理』勁草書房

【実務経験のある教員による授業】

特になし

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Regarding issues related to environmental ethics, the students complete the master's thesis through research direction.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to complete the master's thesis.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to improve the master's thesis.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on the master's thesis progress.

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

岡松 暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自の設定したテーマにつき、博士論文執筆のための指導を行う。

【到達目標】

博士論文の提出に向けて、文献解題、問題点に関する討論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

博士課程 1 年生を対象とし、国際問題をめぐる法的諸問題につき設定したテーマにそった博士論文の作成を行う。毎回行われる論文執筆の進捗状況報告に対する指導を行う。また、設定されている中間報告や最終報告に向けたプレゼンテーションについても指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
2	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
3	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
4	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
5	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
6	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
7	目次案提出	初稿を提出し、検討する。
8	中間報告会のための指導	中間報告に向け、要点を簡潔にま とめ、目指す方向を明確に示す。
9	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
10	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
11	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
12	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
13	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討
14	進捗状況の報告と指導	文献解題を含むテーマに関する論 点の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の関心に沿って文献の講読、分析等を行う。
論文の執筆を進める。

【テキスト（教科書）】

受講者の関心に合わせて推薦する。

【参考書】

受講者の関心に合わせて推薦する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際海洋法、国際原子力法、国際環境法

<主要研究業績>

『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所の ALPS 処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022 年）、「ロンドン条約 96 年議定書の遵守手続」（2022 年）、「SDGs と生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022 年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017 年）等。

【Outline (in English)】

This course provides guidance for writing the doctoral dissertation on the theme of students' interests.

Participants will acquire the theory of international cooperation and field research methods through literature and practice.

Participants will improve their writing skills as well.

Participants are required to study at least 2 hours before and after the class.

The course grade will be based on final paper (50%), presentations (30%), and discussions (20%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文の作成を通じて習得してきた研究・調査の方法論と、修士論文の内容に基づいて、博士論文の構成・内容（素案）を検討し、報告するとともに、その結果を参考にしながら小論文（研究計画書）を作成していくことを目的とする。

【到達目標】

本演習では、博士論文の作成で行っていく高度な研究・調査に必要なとされる論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、修士課程で習得した研究・調査の方法論と、修士論文の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルの特長や問題点、そして、実践適用可能性をさらに深く検討してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士課程までに行った研究・調査の内容（修士論文の内容）とそれに基づく今後の取組みについて確認する。
第 2 回	博士論文の構成・内容	博士論文の章・節の構成・内容
第 3 回	（案）の検討	（案）について検討する。
第 4 回	研究・調査の成果報告	第 2 回～第 3 回の構成・内容（案）に基づいて、研究・調査の成果を報告する。
第 12 回	研究・調査の成果報告	第 2 回～第 3 回の構成・内容（案）に基づいて、研究・調査の成果を報告する。
第 13 回	博士論文の構成・内容	これまでの研究・調査に基づいて、章・節の構成・内容（素案）を検討する。
第 14 回	小論文の作成	第 13 回の構成・内容（素案）に基づいて、博士論文の方向性を報告するとともに、その報告内容に基づく小論文（研究計画書）を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を博士論文のための小論文（研究計画書）の作成に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（20 %）

- ・ 報告用配布レジュメの内容（20 %）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（20 %）
- ・ 小論文（研究計画書）の内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性—フードバレーとかちの取組みを中心として—」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか? -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to consider the composition of a doctoral thesis and its contents.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically discuss and summarize their research.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Content of the presentation : 20%
- 4) Short thesis based on the research : 40%

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文の作成を通じて習得してきた研究・調査の方法論、修士論文の内容、サステナビリティ特殊研究 1 A で作成した小論文（研究計画書）の内容に基づいて、博士論文の構成・内容（素案）を再検討し、報告するとともに、その報告内容を参考にしながら、博士論文の中間報告と博士論文の内容を検討していくこと（学会誌（研究誌）などへの投稿論文や学会報告も含む）を目的とする。

【到達目標】

本演習では、博士論文の中間報告と博士論文の作成で行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、修士課程で習得した研究・調査の方法論、修士論文の内容、博士論文のための小論文（研究計画書）の内容に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査の進展について報告するとともに、博士論文の中間報告および博士論文（投稿論文も含む）の作成までのスケジュールを確認する。
第 2 回 ～第 11 回	追加的作業の確認	博士論文の中間報告および博士論文の作成のために必要な作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 12 回 ～第 13 回	博士論文の構成・内容（素案）の再検討・調整	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文の構成・内容（案）に反映させ、論文内容を再検討し、調整する。
第 14 回	博士論文の構成・内容（素案）の決定	博士論文の構成・内容（素案）を再調整し、決定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を博士論文の中間報告や、博士論文の中間報告書に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10 %）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10 %）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
- ・ 博士論文の中間報告、投稿論文を含む博士論文（中間報告書）の構成・内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直 (2015) 「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・ 金藤正直 (2016) 「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・ 金藤正直 (2018) 「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性—フードバレーとかちの取組みを中心として—」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・ 金藤正直 (2021) 「健康経営の展望—どう評価・開示するか?—」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・ 金藤正直、岡照二 (2021) 「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・ 金藤正直 (2021) 「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・ 金藤正直 (2022) 「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to consider the composition of a doctoral thesis and its contents.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a paper.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Structure and content of doctoral thesis or research paper : 50%

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

北川 徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】

1. 課題を設定する。
2. 既往の研究に関する文献調査を行う。
3. 課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

調査とディスカッションを通じて、研究方針の策定と博士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現状分析	文献調査, 整理, 理解
2	現状分析	文献調査, 整理, 理解
3	現状分析	文献調査, 整理, 理解
4	現状分析	文献調査, 整理, 理解
5	現状分析	文献調査, 整理, 理解
6	現状分析	文献調査, 整理, 理解
7	第1～6回のとりまとめ	文献調査, 整理, 理解
8	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
9	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
10	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
11	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
12	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
13	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
14	第8～13回のとりまとめ	抽出された課題の解決方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全回：研究の実施、資料とスライドの作成。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

資料とスライド（50%：論述の適切さ、到達目標1～3への到達度）、議論（50%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体, 気象社会論, 流体関連振動
<研究テーマ>強風の社会への影響と対策, 気象リスクヘッジ, 数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析, 第25回風工学シンポジウム論文集, 2018, pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.73, No.3, 2017, pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察, 第23回風工学シンポジウム論文集, 2014, pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み, 日本風工学会論文集, Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Studies, investigations and discussions on the research issue for the doctor thesis.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to deliberate on the research objective and plan,
- B. to obtain basic knowledges to proceed the doctor research and
- C. to consider the methodology to analyze the data required in the doctor research.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average. (Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

北川 徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究方針の決定と知識の吸収

【到達目標】

1. 課題を設定する。
2. 既往の研究に関する文献調査を行う。
3. 課題解決への手段を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

調査とディスカッションを通じて、研究方針の策定と博士論文の執筆の準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
2	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
3	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
4	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
5	解決方法の探索	抽出された課題の解決方法の検討
6	解決方法の探索、中間報告会の準備	抽出された課題の解決方法の検討
7	第1～6回のとりまとめ、中間報告会の準備	抽出された課題の解決方法の検討
8	解決方法の具体化、中間報告会の準備	解決方法のインプリメンテーション
9	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
10	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
11	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
12	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
13	解決方法の具体化	解決方法のインプリメンテーション
14	第8～13回のとりまとめ	解決方法のインプリメンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全回：研究の実施、資料とスライドの作成。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

資料とスライド（50%：論述の適切さ、到達目標1～3への到達度）、議論（50%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体、気象社会論、流体関連振動

<研究テーマ>強風の社会への影響と対策、気象リスクヘッジ、数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析、第25回風工学シンポジウム論文集、2018、pp.121-126。平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成、土木学会論文集 A1（構造・地震工学）、Vol.73、No.3、2017、pp.579-592。淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察、第23回風工学シンポジウム論文集、2014、pp.19-24。Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699。自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み、日本風工学会論文集、Vol.32、No.2、2007、pp.87-92。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Studies, investigations and discussions on the research issue for the doctor thesis.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to deliberate on the research objective and plan,
- B. to obtain basic knowledges to proceed the doctor research and

C. to consider the methodology to analyze the data required in the doctor research.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

小島 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、博士課程の1年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①修士論文の成果の確認
- ②博士過程における研究テーマの検討

【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ①博士論文のテーマを決定する。
- ②博士論文に関する調査研究の設計図をデザインする。
- ③高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

参加学生のこれまでの研究成果の報告と次の段階における問題意識を明確化した上で、具体的なテーマ、調査研究計画の作成と遂行に関する指導を行う。毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoomによる双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	これまでの研究ストックの確認と、現在の問題意識や構想に関するブレインストーミングを行う。
2	修士論文の報告	修士論文の詳細な内容とそこから浮かび上がった研究課題について報告する。
3	研究構想の具体化への着手	博士課程における研究テーマについて、代替案をいくつか提示しながら、その意義や実行可能性などについて比較検討する。
4	研究テーマの候補の検討	引き続き、複数の研究テーマを比較検討する。
5	研究テーマの確定	博士課程における研究テーマを確定する。
6	調査研究計画の作成	調査研究計画を報告しロードマップや研究のポイントを検討する
7	調査研究計画の精査	調査研究計画を精査し、ブラッシュアップを図る。
8	先行研究のリサーチ	選定したテーマに関する先行研究のリサーチを行い、その水準、自分のテーマのニッチ・意義・方向性について検討する。
9	先行研究のリサーチ	選定したテーマに関する先行研究のリサーチを行い、その水準、自分のテーマのニッチ・意義・方向性について検討する。
10	先行研究のリサーチ	選定したテーマに関する先行研究のリサーチを行い、その水準、自分のテーマのニッチ・意義・方向性について検討する。

11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
13	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
14	調査研究計画の修正	調査研究の進捗をふまえて調査研究計画を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする）。
・博士論文のテーマを決定し調査研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50%）、課題への取り組み（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論
<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション
<主要研究業績>
『アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－』『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
『参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－』『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
『自治体環境政策の軌跡と持続可能性』『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
『自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性』『地域開発』（vol.574,2012）
『上下流連携とサステナビリティ』『自治体学』（vol.33-2,2020）
『人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－（私）と（社会）の世代間継承可能性を手がかりとして－』『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
『グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想』『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
『縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ』『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the first year of the doctoral program.

Students work on the following contents:

(1)Examine the results of master’s thesis and future research issues.

(2)Consider the research theme in the doctoral program.

Students aim at achieving the following goals:

(1)Determine the theme of doctoral dissertation

(1)Design the blueprint for research on doctoral dissertation

(2)Acquire advanced research ability.

Students need to determine the theme of doctoral dissertation and to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:50%,Assignments:50%

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

小島 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、博士課程の1年生の学生に対して調査研究の指導を行う。学生は、演習を通して、以下の内容に取り組む。

- ①研究テーマの細部の検討
- ②既存研究の調査
- ③フィールド調査の計画と実施

【到達目標】

この演習に参加する学生の到達目標は、以下のとおりである。

- ①調査研究の設計図をブラッシュアップする。
- ②参考文献やその他の資料のリストを作成する。
- ③フィールド調査から知見を得る。
- ④高度な研究能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

サステナビリティ特殊研究 1 A に続いて、参加学生の研究テーマについて、毎回、自ら作成したペーパーに基づいて発表することをもとめる。提出したペーパーはその場でコメントするとともに、必要に応じて、後日、添削や追加コメントを行う。なお、この授業は、対面授業を基本としつつも、社会情勢や参加者の体調等の事情に応じて、Zoom による双方向型授業の実施についても柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
2	調査研究計画の調整	調査研究の内容の細部と工程を調整する。
3	先行研究の調査	先行研究について文献調査を行い、リストを作成する。
4	先行研究の調査	テーマに関して重要な先行研究をピックアップして報告する。
5	先行研究の調査	テーマに関して重要な先行研究をピックアップして報告する。
6	先行研究の調査	先行研究に関するリサーチペーパーを作成し報告する。
7	研究テーマに関する新たな文献や関連資料の探索	研究テーマに関する新たな文献や関連資料を探索し、リストを作成して報告する。
8	フィールド調査プランの提示	研究テーマに関するヒアリング等のフィールド調査プランについて報告し検討する。
9	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
10	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
11	調査研究の報告	調査研究の進捗状況について報告する。
12	フィールド調査の報告	フィールド調査の進捗状況について報告する。
13	調査研究計画の再調整	次年度の調査研究計画について再調整する。
14	調査研究計画の再調整	次年度の調査研究計画について再調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加学生は、以下の時間外学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）。

- ・調査研究を進めること。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。

【参考書】

演習実施期間中に適宜、提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極的な参加姿勢）（50 %）、課題への取り組み（50 %）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、地方自治論、自治体政策論
<研究テーマ>持続可能性と自治体政策、地域環境ガバナンス、ソーシャルイノベーション
<主要研究業績>
「アカウンタビリティと自治体政策－説明責任の体系と再編－」『自治体経営改革』（共著）、（ぎょうせい、2004）
「参加手法のイノベーション－自治体政策への活用に向けて－」『新しい自治のしくみづくり』（共著）、（ぎょうせい、2006）
「自治体環境政策の軌跡と持続可能性」『分権時代の地方自治』（共著）、（三省堂、2007）
「自治体の参加型政策システムと市民討議会の可能性」『地域開発』（vol.574,2012）
「上下流連携とサステナビリティ」『自治体学』（vol.33-2,2020）
「人口減少社会における地域の持続可能性と政策論－〈私〉と〈社会〉の世代間継承可能性を手がかりとして－」『自治研かながわ月報』（NO.183,2020）
「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と構想」『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして（第2版）』（共編著）（ミネルヴァ書房、2021）
「縮小都市の時代におけるまちの世代間継承とコモンズ」『新・江戸東京研究の世界』（共著）（法政大学出版局、2023）

【Outline (in English)】

This seminar provides research guidance to students in the first year of the doctoral program.

Students work on the following contents:

- (1) Consider the details of research theme.
- (2) Survey of existing research.
- (3) Plan and carry out field surveys.

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Brush up the blueprint for research.
- (2) Make the list of references and other resources.
- (3) Gain insights from field research
- (4) Acquire advanced research ability.

Students need to proceed with research. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:50%,Assignments:50%

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

杉戸 信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】

博士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究の方向性を決め、文献レビュー等を行いながら研究テーマを具体的に定める。そのうえで、文献レビュー等をすすめながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の方向性の検討 (1)	研究の方向性について検討を行う。
第 2 回	研究の方向性の検討 (2)	研究の方向性について検討を行い決定する。
第 3 回	関連文献のレビュー (1)	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 4 回	関連文献のレビュー (2)	研究予定内容に関する文献のレビューを行う。
第 5 回	研究テーマの検討	研究の方向性についてあらためて検討を行い、研究テーマを具体的に定める。
第 6 回	関連文献のレビュー (3)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 7 回	関連文献のレビュー (4)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 8 回	調査計画の立案 (1)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 9 回	調査計画の立案 (2)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 10 回	調査結果のまとめ (1)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 11 回	調査結果のまとめ (2)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案 (3)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ (3)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学、自然災害
<研究テーマ>変動地形、活断層、地震、土地条件
<主要研究業績>

1) 杉戸信彦, 2014, 大地震の歴史とメカニズムを捉えるー活断層への地理学的アプローチ, 木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編, 「災害フィールドワーク論」, FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5, 古今書院, 212p, 132-149.

2) 杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘, 2015, 津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布, 地学雑誌, 124, 157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157

3) Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】

We conduct research and discussion for the doctoral thesis. The goal of this course is to complete a final report for the doctoral thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

杉戸 信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成に向け、研究および議論を行う。

【到達目標】

博士論文の作成に向け、課題を発見し、解決に向けた調査を実施して、その成果を期末レポートとしてとりまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマを具体的に定め、文献レビュー等を行いながら調査計画を立案し、調査を実施してとりまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの検討	研究テーマについて検討を行い、具体的に定める。
第 2 回	関連文献のレビュー (1)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 3 回	関連文献のレビュー (2)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 4 回	調査計画の立案 (1)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 5 回	調査計画の立案 (2)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 6 回	調査結果のまとめ (1)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 7 回	調査結果のまとめ (2)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 8 回	関連文献のレビュー (3)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 9 回	関連文献のレビュー (4)	研究テーマに関する文献のレビューを行い、研究内容を検討する。
第 10 回	調査計画の立案 (3)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 11 回	調査結果のまとめ (3)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 12 回	調査計画の立案 (4)	研究内容に応じた独自の調査計画を検討する。
第 13 回	調査結果のまとめ (4)	調査結果を報告し、まとめに向けた検討を行う。
第 14 回	レポートの発表	発表および質疑応答・議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査や準備、とりまとめ作業等に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

応用力や思考力、スキルなどの涵養を心がける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学、自然災害
<研究テーマ>変動地形、活断層、地震、土地条件
<主要研究業績>

1) 杉戸信彦, 2014, 大地震の歴史とメカニズムを捉えるー活断層への地理学的アプローチ, 木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編, 「災害フィールドワーク論」, FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5, 古今書院, 212p, 132-149.

2) 杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘, 2015, 津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布, 地学雑誌, 124, 157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157

3) Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】

We conduct research and discussion for the doctoral thesis. The goal of this course is to complete a final report for the doctoral thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

杉野 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のテーマを設定し、骨子案を作成する。

【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回ゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去の進捗状況
を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	論文の方向性を報告する
第 2 回	関心テーマの設定	関心のあるテーマの概要をとりま とめる
第 3 回	関心テーマの実現可能 性	関心のあるテーマが実施できるか を検討する
第 4 回	関連情報の収集	論文に関連する情報を収集する
第 5 回	関連情報の収集	論文に関連する情報を収集する
第 6 回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する
第 7 回	関連情報の分析	収集した関連情報を分析する
第 8 回	論文の実現可能性	論文の実現可能性を再検討し、論 文の内容を確定する
第 9 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手 法・データを理解する
第 10 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手 法・データを理解する
第 11 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手 法・データを理解する
第 12 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手 法・データを理解する
第 13 回	先行研究のレビュー	分析結果および先行研究の分析手 法・データを理解する
第 14 回	春学期報告	論文の進捗状況を報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ決定する

【参考書】

適宜、関連する文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

報告（PPT 資料の作成および準備）40%とレポート 60%を総合的
に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者がいないため、フィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境経済学、応用ミクロ経済学

<研究テーマ> 環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard
Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation
Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267,
2013 年

【Outline (in English)】

(Course outline) Prepare for dissertation by setting the theme
and making the overall outline.

(Learning Objectives) Writing the dissertation.

(Learning activities outside of classroom) Collect, analyze, and
writing the doctor dissertation.

(Grading Criteria /Policy) Grades will be based on 1)Presenta-
tion 40% and 2) term report 60%.

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

杉野 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の分析および論文を執筆する。

【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回ゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去の進捗状況
を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究方針の確認	設定した研究テーマを確認する
第 2 回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第 3 回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第 4 回	データ収集	データの収集方法などを検討する
第 5 回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第 6 回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第 7 回	分析手法の解説	先行研究に用いられている分析手法の理解を深める
第 8 回	分析結果の報告	分析結果を報告し、追加的な分析の必要を検討する
第 9 回	分析結果の報告	分析結果を報告し、追加的な分析の必要を検討する
第 10 回	追加データ収集・分析	追加的なデータ収集およびヒアリング調査の結果を報告
第 11 回	論文の執筆	論文をまとめる
第 12 回	論文の執筆	論文の書き方
第 13 回	論文の執筆	論文の書き方
第 14 回	秋学期報告	論文の進捗状況を報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談のうえ決定する

【参考書】

適宜、関連する文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

報告（PPT 資料の作成および準備）40%とレポート 60%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者がいないため、フィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境経済学、応用ミクロ経済学

<研究テーマ> 環境経済学

<主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy. 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】

(Course outline) Data collecting, data analysis and writing the dissertation.

(Learning Objectives) Writing the dissertation.

(Learning activities outside of classroom) Collect, analyze, and writing the doctor dissertation.

(Grading Criteria /Policy) Grades will be based on 1)Presentation 40% and 2) term report 60%.

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

高田 雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】

博士課程 1 年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2 年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 2 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 3 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 4 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 5 回	課題設定	課題設定に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 6 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 7 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 8 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 9 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 10 回	研究設計	研究設計に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 11 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究
第 12 回	研究計画作成	研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究

第 13 回 研究計画作成

研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究

第 14 回 研究計画作成

研究計画作成に関する論議と指導、関連するテーマに関する先行論文研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。適宜資料を配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著
Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.

The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

高田 雅之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境保全に関わる課題に関して、テーマ設定、研究手法の検討、分析評価などを含む博士論文の作成に向けた研究指導を受けます。

【到達目標】

博士課程 1 年生を対象として、研究設計と計画作成、先行研究の調査、並びに手法と必要なデータのリストアップ、これらに沿った研究の推進を行い、2 年目の投稿論文作成に至る中間成果をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

研究課題の進捗に関する資料をもとに意見交換を行うとともに、先行研究論文や関連する文献資料・事例を題材として研究指導を行い、中間成果への到達を目指します。また、指導においては適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 2 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 3 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 4 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 5 回	情報・資料収集	収集した情報・資料に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 6 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 7 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 8 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 9 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 10 回	情報・資料分析	情報・資料分析に関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 11 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 12 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 13 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査
第 14 回	中間成果のまとめ	中間成果のまとめに関する論議と指導、関連する先行研究調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文への中間成果作成に向けて、情報や知識の収集、データ分析、解析評価などの研究作業に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：研究の進捗状況、毎回の学習意欲、課題への対応などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

自然環境政策、湿地生態学、景観生態学、自然環境地理学、保全生態学

<研究テーマ>

湿地における自然資源の持続的活用、生物多様性と生態系サービスの評価、湿原生態系の構造と人為的影響の評価、生物多様性オフセット

<主要研究業績>

「図説日本の湿地」（朝倉書店、2017）編集・共著

「湿地の科学と暮らし」（北大出版会、2017）共著

「湿地の博物誌」（北大出版会、2014）編者

「サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群」（北大出版会、2014）共著

Combined burning and mowing for restoration of abandoned semi-natural grasslands, Appl Veg Sci 20, 2017.

Tropical Peat Formation, Tropical Peatland Ecosystems, Springer, 2016.

Effects of the expansion of vascular plants in Sphagnum-dominated bog on evapotranspiration, Agricultural and Forest Meteorology 220, 2016.

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

Regarding issues related to nature conservation, the students receive research direction for doctoral dissertations including theme setting and study methodology.

The goals of this class are to reach the research design and planning, find related paper/methodology, collect necessary data and promote these.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including research progress, motivation for learning and response to issues.

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

高橋 五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は博士課程1年生を対象とした演習科目であり、学生は修士論文を振り返りつつ、博士論文研究に必要な文献調査および現地調査を実行することを目標とする。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに研究計画を立て、博士論文研究を進める。

【到達目標】

学生の到達目標は、1) 博士論文のテーマを絞る、2) テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3) 事前調査を含む現地調査を実施する、4) リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、博士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	文献講読と先行研究レビュー（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	文献講読と先行研究レビュー（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	文献講読と先行研究レビュー（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	文献講読と先行研究レビュー（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	文献講読と先行研究レビュー（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	文献講読と先行研究レビュー（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	文献講読と先行研究レビュー（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	文献講読と先行研究レビュー（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第10回	民族誌の記述（1）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第11回	民族誌の記述（2）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第12回	民族誌の記述（3）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第13回	民族誌の記述（4）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第14回	博士論文進捗状況報告	博士論文進捗状況報告をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、文献レビュー作成、現地調査、博士論文の作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、プロポーザル（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、3・11後の世界に生きる）』（共編 The New Pacific Press, 2014）、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 - 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】

Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for doctorate students to carry out their dissertation research. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing up their dissertations. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their dissertation proposals (70%).

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

高橋 五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は博士課程1年生を対象とした演習科目であり、学生は修士論文を振り返りつつ、博士論文研究に必要な文献調査および現地調査を実行することを目標とする。授業では、文献レビュー、現地調査をもとにした民族誌の記述について発表および意見交換を行い、学生は授業で得たフィードバックをもとに研究計画を立て、博士論文研究を進める。

【到達目標】

学生の到達目標は、1) 博士論文のテーマを絞る、2) テーマに関連する学術文献の講読し、先行研究レビューを作成する、3) 事前調査を含む現地調査を実施する、4) リサーチプロポーザルを完成させることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者の研究テーマに合わせた事例研究を講読する。演習形式によって、博士論文を作成するための指導をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	文献講読と先行研究レビュー（1）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第3回	文献講読と先行研究レビュー（2）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第4回	文献講読と先行研究レビュー（3）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第5回	文献講読と先行研究レビュー（4）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第6回	文献講読と先行研究レビュー（5）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第7回	文献講読と先行研究レビュー（6）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第8回	文献講読と先行研究レビュー（7）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第9回	文献講読と先行研究レビュー（8）	研究テーマに関連する文献を講読し、文献レビューを作成しながら研究テーマを具体的に絞り込む
第10回	民族誌の記述（1）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第11回	民族誌の記述（2）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第12回	民族誌の記述（3）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第13回	民族誌の記述（4）	現地調査をもとに民族誌を記述し、発表する。
第14回	博士論文進捗状況報告	博士論文進捗状況報告をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、文献レビュー作成、現地調査、博士論文の作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

受講者の研究テーマに沿った文献を選択する

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、プロポーザル（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World（星の降るとき、3・11後の世界に生きる）』（共編 The New Pacific Press, 2014）、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 - 23 (2014)、福島沖に浮かぶ「未来」とその未来『文化人類学』83(3):441-458、他

【Outline (in English)】

Through writing a literature review and conducting field research, this course is designed for doctorate students to carry out their dissertation research. Students are expected to conduct both archival research and fieldwork outside classroom in addition to writing up their dissertations. Students will be graded based on participation in class discussions and assignments (30%) as well as their dissertation proposals (70%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

辻 英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究（ヨーロッパ史）に興味をもつ博士課程の大学院生を対象に、博士論文執筆のための支援をおこなう。

【到達目標】

3年間で博士論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

第1年は入学時の研究テーマをさらに推敲し、博士論文の内容として構築する。春学期では、独創性のある論文のテーマを設定するため、隣接学問領域を含めた幅広く知識を吸収することで問題意識を広げていく。

第2年は、史料収集をおこなう。先行研究および問題設定を踏まえて、必要な史料を探索・収集し、さらにそれを整理する方法を学ぶ。春学期ではまず刊行文献を扱うことから始める。

第3年は論文を執筆し、その進捗状況について報告する。

2023年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	各自のテーマと現在の状況の報告。
第2回	文献紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第3回	文献紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第4回	文献紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第5回	文献紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第6回	史料紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第7回	史料紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第8回	史料紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第9回	史料紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第10回	史料紹介③前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第11回	史料紹介③後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第12回	論文執筆状況報告①前半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第13回	論文執筆状況報告①後半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第14回	論文執筆状況報告②	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告箇所を準備しつつ論文執筆を進める。

【テキスト（教科書）】

授業中に必要に応じて指示する。

【参考書】

授業中にその都度個別に指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（40%）、レポート（60%）により評価する。3年生はレポートに代えて博士論文執筆の進捗状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 歴史学（ドイツ近現代史）

<研究テーマ> 市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史

<主要研究業績> 『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版社、2008年。

【Outline (in English)】

Small group workshop for doctoral candidates to improve methodological knowledge and to advance research plan.

The goals of this course is to write a doctoral dissertation in three years.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%). Third-year doctoral students will be evaluated based on the progress of writing the doctoral dissertation instead of the report.

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

辻 英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究（ヨーロッパ史）に興味をもつ博士課程の大学院生を対象に、博士論文執筆のための支援をおこなう。

【到達目標】

3年間で博士論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

第1年は入学時の研究テーマをさらに推敲し、博士論文へ拡大深化させていく。秋学期は論文の内容をさらに掘り下げるため、論文で扱う分野に限定して先行研究を徹底的に読み込む作業をおこなう。

第2年は、必要な史料を収集する。先行研究および問題設定を踏まえて、必要な史料を探索・収集し、それを整理する方法を学ぶ。必要に応じて統計や文書館史料に取り組む。

第3年は論文を執筆し、その進捗状況について報告する。

2023年度は対面を基本とし、場合によってはオンラインにより授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	各自のテーマと現在の状況の報告。
第2回	文献紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第3回	文献紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第4回	文献紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第5回	文献紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する文献を報告する。
第6回	史料紹介①前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第7回	史料紹介①後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第8回	史料紹介②前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第9回	史料紹介②後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第10回	史料紹介③前半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第11回	史料紹介③後半	各自が自分の研究テーマに関連する史料を報告する。
第12回	論文執筆状況報告①前半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第13回	論文執筆状況報告①後半	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。
第14回	論文執筆状況報告②	各自が書き上げた部分を報告し、参加者と議論しつつ検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告箇所を準備しつつ論文執筆を進める。

【テキスト（教科書）】

授業中に必要に応じて指示する。

【参考書】

授業中にその都度個別に指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（40%）、レポート（60%）により評価する。3年生はレポートに代えて博士論文執筆の進捗状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 歴史学（ドイツ近現代史）

<研究テーマ> 市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史

<主要研究業績> 『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版社、2008年。

【Outline (in English)】

Small group workshop for doctoral candidates to expand their abilities to research and analyze historical documents and to write their dissertations.

The goals of this course is to write a doctoral dissertation in three years.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on participation in discussions (40%) and reports (60%). Third-year doctoral students will be evaluated based on the progress of writing the doctoral dissertation instead of the report.

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

永野 秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究テーマ設定の検討、基礎となるリサーチ方法、論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】

米国法又は米国の公共政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

米国法又は米国の公共政策に一定の知識があり、英語論文・法令・判例等がある程度読みこなせる能力をもち、かつ修士号を取得した者を主たる対象とする。これまでに本人が蓄積してきた知識・能力と、本講義を通じて収集する最新情報に基づいて、米国法又は同国の公共政策を分析・検討する博士論文の作成を目指す。なお、米国法等の分析にとどまらず、わが国との比較検討ができれば優れた博士論文になると考える。

また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	博士論文のテーマ	学生の方の博士論文構想について、意見を聞きます。
2	博士論文レベルのリサーチ（1）	博士論文レベルの先行論文等の検索方法の指導。
3	博士論文レベルのリサーチ（2）	仮の博士論文テーマに関して、WEB上またはデータベース上の先行論文等の検索方法の指導。
4	博士論文レベルのリサーチ（3）	仮の博士論文テーマに関して、文献ベースでの先行論文等の検索方法の指導
5	博士論文の書き方（1）	博士論文レベルの執筆方法の基礎について学ぶ。
6	博士論文の書き方（2）	博士論文レベルの論文に関する理論展開、立証、脚注における引用方式等を学ぶ。
7	博士論文執筆計画の策定	具体的な博士論文の構成と、執筆計画を策定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生と相談し、進め方を決定していく。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

参加30%、進捗状況70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も、博士号論文の執筆に関する進捗状況を確認し、学会発表等への推薦等を継続して行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット検索、法令・判例検索、学会発表練習のためのコンピュータ。

【担当教員の専門分野等】

専門領域は、日米比較法（環境法、防衛法、先端技術法など）。現在の研究テーマは、「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」など。近年の論文は、以下のとおり。

「米国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証（CMMC）の導入：現行のNIST SP 800-171の遵守制度を超えて」CISTEC journal186号200頁以下（2020年3月）。

「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185号223頁以下（2020年1月）。

「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制（上）」人間環境論集19巻1号13頁以下（2018年12月）。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

As a research and writing instruction course of the Graduate School of Public Policy and Social Governance, this course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the doctoral dissertation.

< Learning Objectives >

Students are expected to gain expertise, advanced research methods, and dissertation writing skills in US law or public policy. The goal is for students to finally complete their doctoral dissertation.

< Learning Activities outside of Classroom >

The instructor consults with the students and decides how to proceed with the learning.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (30%) and paper progress (70%).

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

永野 秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の博士論文指導科目として、博士号取得に向けた研究テーマ設定の検討、基礎となるリサーチ方法、論文のまとめ方等について、個別の状況に応じて指導していく。

【到達目標】

米国法又は米国の公共政策に関する専門知識や高度な研究方法、論文執筆の力を体得し、最終的に博士論文を作成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

米国法又は米国の公共政策に一定の知識があり、英語論文・法令・判例等がある程度読みこなせる能力をもち、かつ修士号を取得した者を主たる対象とする。これまでに本人が蓄積してきた知識・能力と、本講義を通じて収集する最新情報に基づいて、米国法又は同国の公共政策を分析・検討する博士論文の作成を目指す。なお、米国法等の分析にとどまらず、わが国との比較検討ができれば優れた博士論文になると考える。

また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	先行文献の調査	先行文献の調査に関する報告を受け、検証する。
2	学会における発表状況の報告	テーマに関連する学会における発表状況につき、報告を受ける。
3	今後の学会における発表テーマの検討	今年度中に発表可能な論文について、特定の学会における報告可能性を検討する。
4	博士論文の構成に関する検証	これまで行ってきた学会発表論文と博士号論文の章立てとの検討を行う。
5	博士号論文の構成の確定	博士号論文の構成を確定する。
6	博士号論文の本文校正	博士号論文の本文に関する校正を行う。
7	博士号論文のサイテーションに関する校正	博士号論文のサイテーションにつき、米国法の引用方式であるブルーブックに基づく校正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生と相談し、進め方を決定していく。

【テキスト（教科書）】

適宜、推薦する。

【参考書】

適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】

参加30%、進捗状況70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も、博士号論文の執筆に関する進捗状況を確認し、学会発表等への推薦等を継続して行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット検索、法令・判例検索、学会発表練習のためのコンピュータ。

【担当教員の専門分野等】

専門領域は、日米比較法（環境法、防衛法、先端技術法など）。現在の研究テーマは、「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」など。最近の論文は、以下のとおり。

「米国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証(CMMC)の導入：現行のNIST SP 800-171の遵守制度を超えて」CISTEC journal186号200頁以下（2020年3月）。

「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」CISTEC journal185号223頁以下（2020年1月）。

「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制(上)」人間環境論集19巻1号13頁以下（2018年12月）。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

As a research and writing instruction course of the Graduate School of Public Policy and Social Governance, this course provides a basic introduction of the research method and analytical method as the basis for setting the research theme of the doctoral dissertation.

< Learning Objectives >

Students are expected to gain expertise, advanced research methods, and dissertation writing skills in US law or public policy. The goal is for students to finally complete their doctoral dissertation.

< Learning Activities outside of Classroom >

The instructor consults with the students and decides how to proceed with the learning.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (30%) and paper progress (70%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、
報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第 2 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 3 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 4 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 5 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 6 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 7 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 8 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 9 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 10 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 11 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 12 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 13 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 14 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

【参考書】

指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline (in English)】

This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a doctoral thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、
報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第 2 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 3 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 4 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 5 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 6 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 7 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 8 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 9 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 10 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 11 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 12 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 13 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 14 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

【参考書】

指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline (in English)】

This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a doctoral thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. Students are required to prepare and review every lecture for two hours. Assessment will be based on participation.

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

松本 倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、
報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講生の関心の方向性を発表する。
第 2 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 3 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 4 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 5 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 6 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 7 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 8 回	文献調査	文献調査の結果を発表し議論する。
第 9 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 10 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 11 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 12 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 13 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。
第 14 回	研究テーマの設定	研究テーマについて発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

【参考書】

指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【その他の重要事項】

受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>理論天文学

<研究テーマ>星形成、宇宙天気

<主要研究業績>

① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123

② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77

③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】

(Course outline) Seminar for doctoral thesis.

(Learning Objectives) This class is designed for obtaining knowledge and skills to write a master thesis. Students will survey the previous works and make their themes for research. They will give talks about progress in their research. The students need to have experience in programming, e.g., Python, and computer skills in Linux OS in advance. The students are also encouraged to have basic knowledge of physics, mathematics, and writing and reading skills of English.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Research progress (100%).

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

松本 倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文のための研究指導を目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためにテーマを設定し、研究するノウハウを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。院生は文献調査や研究の進捗状況について報告し、
報告内容を議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後のロードマップを確認する。
第 2 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 3 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 4 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 5 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 6 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 7 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 8 回	研究の方法	研究方法について指導する。
第 9 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 10 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 11 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 12 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 13 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。
第 14 回	研究進捗の発表	研究進捗について発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は発表のためのレジュメやパワーポイントのスライドを作成し、
発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を
標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導中に適宜指示する。

【参考書】

指導中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況を基準にする（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【その他の重要事項】

受講生は、数学、物理学、コンピュータ（Linux など）、英語の読み
書きに関するある程度の能力は必要である。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論天文学

<研究テーマ> 星形成、宇宙天気

<主要研究業績>

① "An origin of arc structures deeply embedded in dense
molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K.,
& Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123

② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with
Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura,
T. 2015, ApJ, 801, 77

③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores:
Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto,
T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】

(Course outline) Seminar for a doctoral thesis.

(Learning Objectives) This class is designed for obtaining
knowledge and skills to write a master thesis. Students will
survey the previous works and make their themes for research.
They will give talks about progress in their research. The
students need to have experience in programming, e.g., Python,
and computer skills in Linux OS in advance. The students
are also encouraged to have basic knowledge of physics,
mathematics, and writing and reading skills of English.

(Learning activities outside of classroom) Preparation for
presentation. The standard preparation and review time for
this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy) Research progress (100%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科における博士論文指導科目として、博士号取得に向け、研究構想とテーマの選定、基礎となる資料収集、先行研究の調査、論点整理と分析、仮説の設定と検証、論文のまとめ方などについて個々の受講者の状況に応じて指導していく。博士号取得可能な専門性と研究能力を獲得し、論文執筆する能力を養うことを目標とする。

【到達目標】

博士論文を仕上げるための過程で必要とされるスキルを身に付けることが目標である。

研究構想とテーマの選定、基礎となる資料収集、先行研究の調査、論点整理と分析、仮説の設定と検証を行い、論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について話し合う
第 2 回	研究及び文献講読 (1)	研究構想を練り、テーマを選定する。文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 3 回	研究及び文献講読 (2)	研究構想を練り、テーマを選定する。文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 4 回	研究及び文献講読 (3)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 5 回	研究及び文献講読 (4)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 6 回	研究及び文献講読 (5)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 7 回	研究及び文献講読 (6)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 8 回	研究及び文献講読 (7)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 9 回	研究及び文献講読 (8)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 10 回	研究及び文献講読 (9)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 11 回	研究及び文献講読 (10)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 12 回	研究及び文献講読 (11)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 13 回	研究及び文献講読 (12)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。
第 14 回	研究及び文献講読 (13)	文献を収集し先行研究を調査、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマについて調査、研究を進める。報告のためにレジュメ、資料等を作成する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、発表 10 %、研究内容 80 %で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を反映させながらニーズに応じて対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012 年

ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー 労働安全衛生広報 2010 年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010 年

【Outline (in English)】

As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.

The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.

Learning Objectives

The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.

Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.

Learning activities outside of classroom

Students will conduct research on their research topic. Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.

Grading Policy

Evaluation will be made on the basis of 10% of normal score, 10% of presentation, and 80% of research content.

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科における博士論文指導科目として、博士号取得に向け、研究構想とテーマの選定、基礎となる資料収集、先行研究の調査、論点整理と分析、仮説の設定と検証、論文のまとめ方などについて個々の受講者の状況に応じて指導していく。博士号取得可能な専門性と研究能力を獲得し、論文執筆する能力を養うことを目標とする。

【到達目標】

博士論文を仕上げるための過程で必要とされるスキルを身に付けることが目標である。

研究構想とテーマの選定、基礎となる資料収集、先行研究の調査、論点整理と分析、仮説の設定と検証を行い、論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。講義の方法は対面で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究及び文献購読 (14)	文献収集し、先行研究を調査、検討する。
第 2 回	研究及び文献購読 (15)	文献収集し、先行研究を調査、検討する。
第 3 回	研究及び文献購読 (16)	文献収集し、先行研究を調査、検討する。
第 4 回	研究テーマの選定	先行研究の調査をふまえて研究テーマを選定する
第 5 回	研究テーマの選定	先行研究の調査をふまえて研究テーマを選定する
第 6 回	研究テーマの選定	先行研究の調査をふまえて研究テーマを選定する
第 7 回	論文構想について	論文構想を練る
第 8 回	論文構想について	論文構想を練る
第 9 回	論点整理	論文の論点を整理し、課題を設定する
第 10 回	論点整理	論文の論点を整理し、課題を設定する
第 11 回	研究中間検討	これまでの進捗状況を振り返り、まとめる
第 12 回	研究中間検討	先行研究との照らし合わせを行い、テーマ、論の展開などについて検討を行う
第 13 回	調査について	実施する調査についての検討を行う
第 14 回	1年のまとめ	先行研究の調査と検討 論文構想と執筆法 論点整理と課題の設定 分析・解析法とその選定 研究結果等の検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者各人の研究テーマについて研究を進める。報告担当の授業時のためにレジュメ、資料等を作成する。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

自身の研究の進捗状況（報告内容）と質疑応答などの平常点：30%
論文執筆状況：70%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見を聞きながら柔軟に対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場－職場のメンタルヘルス対策の一環として－ 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健 21 2010年

【Outline (in English)】

As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.

Learning Objectives

The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.

Students will write their dissertation by selecting a research concept and theme, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and setting and testing hypotheses.

Learning activities outside of classroom

Each student will conduct research on his/her own research theme. Students will prepare resumes, materials, etc. for the class to which they are assigned.

Grading Policy

Progress of research (content of report) and normal points such as questions and answers: 30%.

Paper writing: 70%.

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は博士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】

学生は博士論文を作成するために、次の3つを目標にします。

- ①研究の核心となる「問い」を明確にする。
- ②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
- ③実証研究の実施と報告。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の「問い」を報告し、議論する。
第2回	研究を進めるにあたって	博士論文作成に向けてのスキルと、キャリア形成について情報を共有し、議論する。
第3回	「問い」の設定と先行研究レビュー（1）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第1回）
第4回	「問い」の設定と先行研究レビュー（2）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第2回）
第5回	「問い」の設定と先行研究レビュー（3）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第3回）
第6回	「問い」の設定と先行研究レビュー（4）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第4回）
第7回	「問い」の設定と先行研究レビュー（5）	演習参加者の「問い」を提示し、関連する先行研究のレビューを行い議論する（第5回）
第8回	研究論文作成に向けて（1）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第1回）
第9回	研究論文作成に向けて（2）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第2回）
第10回	研究論文作成に向けて（3）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第3回）
第11回	研究論文作成に向けて（4）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第4回）
第12回	研究論文作成に向けて（5）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第5回）
第13回	研究論文作成に向けて（6）	前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第6回）

第14回 研究論文作成に向けて（7） 前回の議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第7回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを取集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。学内外の研究会への積極的な参加をすすめます。準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における出席と報告内容（60%）、研究の準備状況（40%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域経済学、日本近現代史、人文地理学
 <研究テーマ> 地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
 <主要研究業績>
 ・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
 ・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
 ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
 ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
 ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will learn analytical and thesis writing techniques for preparing doctoral dissertations and research papers.

◆ Learning Objectives

Students will have the following three goals for their doctoral dissertation

- (1) Clarify the "question" that is the core of the research.
- (2) To understand the relevant academic background through literature review and other means.
- (3) Conduct and report on empirical research.

◆ Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to have active access to articles, literature, and materials, to collect, organize, and peruse them independently, and to become aware of their originality. Students are encouraged to actively participate in research groups both on and off campus. Standard preparation and review time is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on attendance and reported content in the exercises (60%) and research preparation (40%).

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は博士論文および研究論文作成のための分析手法、論文執筆手法を学ぶ。

【到達目標】

学生は博士論文を作成するために、次の3つを目標にします。

- ①研究の核心となる「問い」を洗練にする。
- ②それと関連する学術的背景を文献講読などにより把握する。
- ③研究論文を作成し、その公表を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

演習参加者の報告とそれに対する議論、コメントを中心に進めます。実証研究については各進捗状況に対応して指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究論文作成に向けて（1）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第1回）
第2回	研究論文作成に向けて（2）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第2回）
第3回	研究論文作成に向けて（3）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第3回）
第4回	研究論文作成に向けて（4）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第4回）
第5回	研究論文作成に向けて（5）	これまで議論を踏まえて「問い」を再設定し、調査を実施した結果を報告し、議論する（第5回）
第6回	調査の報告と検討（1）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第1回）
第7回	調査の報告と検討（2）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第2回）
第8回	調査の報告と検討（3）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第3回）
第9回	調査の報告と検討（4）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第4回）
第10回	調査の報告と検討（5）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第5回）
第11回	調査の報告と検討（6）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第6回）
第12回	調査の報告と検討（7）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第7回）
第13回	調査の報告と検討（8）	博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第8回）

第14回 調査の報告と検討（9）

博士論文作成に向けて調査に着手し、その報告と検討を進める（第9回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを取集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。学内外の研究会への積極的な参加をすすめます。準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習における報告内容（60%）、研究の準備状況（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 地域経済学、日本近現代史、人文地理学

<研究テーマ> 地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史

<主要研究業績>

- ・『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
- ・『胃袋の近代—食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
- ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will learn analytical and thesis writing techniques for preparing doctoral dissertations and research papers.

◆ Learning Objectives

Students will have the following three goals for their doctoral dissertation

- (1) Refine the "question" that is the core of the research.
- (2) To understand the relevant academic background through literature reading and other means.
- (3) Prepare a research paper and aim to publish it.

◆ Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to have active access to articles, literature, and materials, to collect, organize, and peruse them independently, and to become aware of their originality. Students are encouraged to actively participate in research groups both on and off campus. Standard preparation and review time is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on attendance and reported content in the exercises (60%) and research preparation (40%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学に関する博士論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】

環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で行う。演習形式で、各自の問題関心を文章の読み上げ形式で発表し、添削する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理学と環境倫理学	倫理学と環境倫理学について概説する。
第 2 回	修士論文の概要紹介	受講者の修士論文の概要を共有する。
第 3 回	博士論文の書き方	博士論文の書き方について解説する。
第 4 回	研究経過の報告（1）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 5 回	研究経過の報告（2）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 6 回	研究経過の報告（3）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 7 回	研究経過の報告（4）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 8 回	研究経過の報告（5）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 9 回	研究経過の報告（6）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 10 回	研究経過の報告（7）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 11 回	研究経過の報告（8）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 12 回	研究経過の報告（9）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 13 回	研究経過の報告（10）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 14 回	これまでの研究のまとめ	各自の研究の現時点でのまとめをレポートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要な文献収集を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年

吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017 年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年

【成績評価の方法と基準】

研究経過の報告（40 %）と最終レポート（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境倫理学

<研究テーマ> 都市の環境倫理・災害と人新世時代の環境倫理

<主要研究業績>

『都市の環境倫理』

『ブックガイド 環境倫理』

『未来の環境倫理学』

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire how to write a doctoral dissertation on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports : 60%,in class contribution: 40%.

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学に関する博士論文の書き方を学ぶ。

【到達目標】

環境倫理学の考え方を理解し、自分なりの問題意識をもって、それを文章化できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面で行う。演習形式で、各自の問題関心を文章の読み上げ形式で発表し、添削する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の共有	受講者の問題意識を表明しあう。
第 2 回	博士論文の書き方	博士論文の書き方を復習する。
第 3 回	研究経過の報告（1）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 4 回	研究経過の報告（2）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 5 回	研究経過の報告（3）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 6 回	研究経過の報告（4）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 7 回	研究経過の報告（5）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 8 回	研究経過の報告（6）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 9 回	研究経過の報告（7）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 10 回	研究経過の報告（8）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 11 回	研究経過の報告（9）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 12 回	研究経過の報告（10）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 13 回	研究経過の報告（11）	各自の研究経過を報告し、議論する。
第 14 回	これまでの研究のまとめ	各自の研究の現時点でのまとめをレポートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が必要な文献収集を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
 吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017 年
 吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年
 吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年

【成績評価の方法と基準】

研究経過の報告（40 %）と最終レポート（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境倫理学
 <研究テーマ>都市の環境倫理・災害と人新世時代の環境倫理
 <主要研究業績>
 『都市の環境倫理』
 『ブックガイド 環境倫理』
 『未来の環境倫理学』

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire how to write a doctoral dissertation on environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end reports : 60%, in class contribution: 40%.

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

藤田 研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、博士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO 論などの基礎的な文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究テーマについて報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】

環境社会学、NPO 論の発展的な知識をもち、最近の研究動向を批判的に検討している。博士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを深掘りできている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

文献レビュー、研究テーマの報告とディスカッションを中心とする。大学の行動方針レベルに変更があった場合、それに応じた授業形態の詳細は学習支援システムで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の授業内容、文献レビューの進め方、環境社会学、NPO 論などの概要を示す。
第 2 回	研究の基礎	研究のプロセスを示す。研究テーマの候補を設定する。
第 3 回	文献レビュー①	環境社会学の基礎的な文献を購読し、ディスカッションする。
第 4 回	文献レビュー②	環境社会学の基礎的な文献を購読し、ディスカッションする。
第 5 回	文献レビュー③	環境運動論の文献を購読し、ディスカッションする。
第 6 回	文献レビュー④	環境運動論の文献を購読し、ディスカッションする。
第 7 回	文献レビュー⑤	NPO 論の文献を購読し、ディスカッションする。
第 8 回	文献レビュー⑥	NPO 論の文献を購読し、ディスカッションする。
第 9 回	文献レビュー⑦	行政との連携に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 10 回	文献レビュー⑧	行政との連携に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 11 回	文献レビュー⑨	順応的ガバナンスに関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 12 回	文献レビュー⑩	順応的ガバナンスに関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 13 回	文献レビュー⑪	水環境に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 14 回	文献レビュー⑫	水環境に関する文献を購読し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の購読。自身の研究テーマ、対象とする事例について検討し、報告に向けて準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購読する文献は、参加者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編, 2017, 『よくわかる環境社会学 第 2 版』ミネルヴァ書房。

環境社会学学会編, 2023, 『環境社会学事典』丸善出版。

【成績評価の方法と基準】

文献レビュー（40%）+ 研究テーマの報告（60%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。また PC を使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】

修士課程「論文研究指導」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

<研究テーマ>

環境問題解決に向けた住民・市民の活動と行政との連携
農村の課題解決と地域環境保全の両立を考える

<主要研究業績>

藤田研二郎, 2019, 『環境ガバナンスと NGO の社会学』ナカニシヤ出版。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This class will provide students with research guidance for writing their doctor thesis. Students will review the basic literature and recent research trends in environmental sociology and NPO theory, as well as report and discuss the students' research themes.

(Learning Objectives) Learning the advanced knowledge of environmental sociology and NPO theory and critically reviewing the recent research trends. Developing the research themes for writing their doctor thesis.

(Learning Activities Outside of Classroom) Reading literature. Preparing for presentations of a case study. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Literature Review (40%) + Presentation of Research Theme (60%).

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

藤田 研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、博士論文執筆に向けた研究指導を行う。環境社会学、NPO 論などの基礎的な文献、最近の研究動向をレビューするとともに、各自の研究テーマについて報告し、ディスカッションを行う。

【到達目標】

環境社会学、NPO 論の発展的な知識をもち、最近の研究動向を批判的に検討している。博士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマを深掘りできている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

文献レビュー、研究テーマの報告とディスカッションを中心とする。大学の行動方針レベルに変更があった場合、それに応じた授業形態の詳細は学習支援システムで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の授業内容、文献レビューの進め方を示す。
第 2 回	文献レビュー①	森林に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 3 回	文献レビュー②	森林に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 4 回	文献レビュー③	環境問題の社会学の文献を購読し、ディスカッションする。
第 5 回	文献レビュー④	環境問題の社会学の文献を購読し、ディスカッションする。
第 6 回	文献レビュー⑤	生活環境主義に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 7 回	文献レビュー⑥	生活環境主義に関する文献を購読し、ディスカッションする。
第 8 回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定し、検討すべき先行研究のリストを作成する。
第 9 回	研究テーマの設定②	研究テーマ、先行研究のリストを報告し、ディスカッションする。
第 10 回	事例の選定①	研究テーマにもとづき、事例を選定する。
第 11 回	事例の選定②	選定した事例の概要を報告し、ディスカッションする。
第 12 回	文献レビュー⑦	研究テーマに応じた文献を購読し、ディスカッションする。
第 13 回	文献レビュー⑧	研究テーマに応じた文献を購読し、ディスカッションする。
第 14 回	文献レビュー⑨	研究テーマに応じた文献を購読し、ディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の購読。自身の研究テーマ、対象とする事例について検討し、報告に向けて準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購読する文献は、参加者の関心を考慮しながら選定する。

【参考書】

環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第 2 版』ミネルヴァ書房。

環境社会学学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

【成績評価の方法と基準】

文献レビュー（40%）+ 研究テーマの報告（60%）、を想定。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。また PC を使う回があるため、各自用意すること。

【その他の重要事項】

修士課程「論文研究指導」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

< 研究テーマ >

環境問題解決に向けた住民・市民の活動と行政との連携
農村の課題解決と地域環境保全の両立を考える

< 主要研究業績 >

藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスと NGO の社会学』ナカニシヤ出版。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This class will provide students with research guidance for writing their doctor thesis. Students will review the basic literature and recent research trends in environmental sociology and NPO theory, as well as report and discuss the students' research themes.

(Learning Objectives) Learning the advanced knowledge of environmental sociology and NPO theory and critically reviewing the recent research trends. Developing the research themes for writing their doctor thesis.

(Learning Activities Outside of Classroom) Reading literature. Preparing for presentations of a case study. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Literature Review (40%) + Presentation of Research Theme (60%).

SES700P2 - 001

サステナビリティ特殊研究 1 A

渡邊 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項について学ぶ。本科目では、受講者が研究者になるために必要な高度な研究力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、論文技法と表現法などについて、まずはその基礎的な内容を修得する。ここでは概ねテーマ選定から研究計画を検討するまでの事項を中心に議論する。

【到達目標】

研究を遂行するための力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、学会発表を行うために必要な事柄について修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。以下の【授業計画】は、各回の授業に含める予定の検討項目を示したものである。実際には各授業において受講者のモチベーション確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第 2 回	テーマの検討 (実現性・妥当性などの確認)	課題の発掘とテーマ選定のための検討
第 3 回	テーマの検討 (新規性・社会的意義などの確認)	課題の発掘とテーマ選定
第 4 回	先行研究の調査と分析 (先行研究の確認)	文献の調査と読み込み
第 5 回	先行研究の調査と分析 (論点整理)	文献の調査と読み込み、論点整理
第 6 回	分析・評価手法の考察 (検討)	分析手法・技法などの検討
第 7 回	分析・評価手法の考察 (選択)	分析手法・技法などの検討と選択
第 8 回	研究の企画と設計・ 計画 (概要設計)	研究の概要設計と計画などの検討
第 9 回	研究の企画と設計・ 計画 (詳細設計)	研究の詳細設計と計画などの検討
第 10 回	研究の企画と設計・ 計画 (計画の再検討)	研究の設計と計画、分析手法・技法、評価手法などのさらなる検討
第 11 回	研究と表現 (報告資料作成方法の 検討)	文章表現、プレゼンテーション法の 検討
第 12 回	研究と表現 (文章表現の検討)	文章表現、論文執筆法の検討

第 13 回 報告とディスカッション
(研究遂行状況の報告)

テーマに関する調査・検討内容の
報告と討論

第 14 回 報告とディスカッション
(研究遂行状況の検討)

テーマに関する調査・検討内容の
討論と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ、報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論参加の充実度 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学
<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス
<主要研究業績> Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: decision of research theme, analysis of previous works, research planning, derivation of the points at issue, and other points required. This seminar deals with the basic aspects in preparing doctor's thesis.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the active understanding for research execution of each theme and paper completion with writing skills.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2 - 002

サステナビリティ特殊研究 1 B

渡邊 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「サステナビリティ特殊研究 1 A」に引き続き、研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項について学ぶ。本科目では、受講者が研究者になるために必要な高度な研究力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、論文技法と表現法などについて、1 A に続いてその基礎的内容を修得する。ここでは概ね調査内容の報告をもとに研究遂行の進捗確認を含めた検討を中心に行う。

【到達目標】

研究を遂行するための力をさらに身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、学会発表を行うために必要な事柄について修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。以下の【授業計画】は、各回の授業に含める予定の検討項目を示したものである。実際には各授業において受講者のモチベーション確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第 2 回	研究テーマ確認（検討）	論点整理と視点の検討、研究テーマの確認
第 3 回	研究テーマ確認（考察）	論点整理と視点の考察、研究テーマの再確認
第 4 回	研究報告と討論（報告）	調査内容の報告と討論
第 5 回	研究報告と討論（考察）	調査内容の報告と検討
第 6 回	研究報告と討論（論点整理）	調査内容の報告と論点の確認
第 7 回	研究報告と討論（主張の検討）	調査内容の報告、主張内容の提示とその検討
第 8 回	研究報告と討論（主張の整理）	調査内容の報告、主張内容の整理と妥当性検討
第 9 回	研究報告と討論（論理性の確認）	調査内容の報告、論理性の確認と検討
第 10 回	研究報告と討論（課題整理）	調査内容の報告、新たな課題の発掘と整理
第 11 回	研究の総合的評価（新規性確認）	報告内容の新規性などの検討
第 12 回	研究の総合的評価（有効性確認）	報告内容の有効性、社会的意義などの検討
第 13 回	論文執筆の手法・技法（論文表現法の検討）	論文執筆法と表現の検討
第 14 回	論文執筆の手法・技法（論文表現法の確認）	論文執筆法と表現の更なる検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論参加の充実度 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進捗を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: report and discussion for research themes, evaluation of results derived from the research, the presentation methods, and other points required. This seminar is a developed subject from 1A.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the active understanding of research execution for each theme and paper completion with writing skills.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2 - 005

サステナビリティ特殊研究3A

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、サステナビリティ特殊研究 1A・1B および 2A・B で作成した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、論文内容を具体的に検討し、また、その検討結果を報告していく。また、その報告内容を参考にしながら、研究報告（学会報告や博士論文の中間報告）、博士論文の作成（学会誌（研究誌）などへの投稿論文も含む）を進めていくことを目的とする。

【到達目標】

本演習では、研究報告と博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、サステナビリティ特殊研究 1A・1B および 2A・2B で作成した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ヒアリング調査、ケーススタディから明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、研究報告や、博士論文の作成までのスケジュールを確認する。
第 2 回	追加的作業の確認	研究報告や、博士論文の作成のために必要となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 7 回	博士論文の構成・内容	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討し、再調整する。
～第 6 回		
～第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10 %）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10 %）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）

・ 研究報告、博士論文の内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

< 研究テーマ >

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

< 主要研究業績 >

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性—フードバレーとかちの取組みを中心として—」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「健康経営の展望—どう評価・開示するか?—」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to write a doctoral thesis based on the results of previous research.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Content of research report and doctoral thesis : 50%

SES700P2 - 006

サステナビリティ特殊研究3B

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、サステナビリティ特殊研究3Aで再調整した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、論文内容を具体的に再検討し、また、その結果を報告する。さらに、その報告内容に基づいて、博士論文の作成を進め、完成することを目的とする。

【到達目標】

本演習では、研究報告や、博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本演習は対面で実施する（ただし、新型コロナウイルスの感染状況に応じて実施方法を検討する）。履修者には、サステナビリティ特殊研究3Aで再調整した博士論文の構成・内容（原案）に基づいて、「博士論文に関する報告⇒内容の作成⇒作成した内容の加筆修正」というプロセスを繰り返し、同論文を完成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、博士論文の作成および完成までのスケジュールを確認する。
第2回	博士論文の構成・内容	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討する。
第3回	（原案）の再検討	
第4回	博士論文の構成・内容の決定（決定案）	博士論文の構成を最終調整し、内容を決定する。
第5回	博士論文の構成・内容	第4回に基づいて、博士論文の構成・内容に関する報告とともに、その報告を参考にしながら内容を作成し、加筆修正を行う。
第13回	の報告、作成、加筆修正	
第14回	博士論文の微調整と完成	博士論文の構成・内容を微調整し、同論文を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10%）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10%）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（20%）
- ・ 博士論文の内容（60%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72 頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取り組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？-」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66 頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to complete a doctoral thesis.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 20%
- 4) Content of doctoral thesis : 60%

SES700P2 - 005

サステナビリティ特殊研究3A

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマに基づいて文献調査を行い、論文執筆を開始する。また、博士課程中間報告会に向け準備を行う。

【到達目標】

博士論文の完成を目指してより内容を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。講義の方法は対面で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆(1)	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆(2)	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆(3)	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆(4)	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆(5)	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆(6)	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆(7)	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆(8)	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆(9)	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆(10)	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆(11)	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆(12)	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	論文の執筆を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

お互いにしっかりと連絡を取り、報告を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場—職場のメンタルヘルス対策の一環として— 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健21 2010年

【Outline (in English)】

As a doctoral dissertation instruction subject in the Graduate School of Public Policy and Social Governance, devise research topics and select themes for doctor's degree acquisition. We will provide guidance according to the situation of individual students regarding basic data collection, survey of prior research, discussion and analysis of issues, setting and verification of hypothesis, summary of the thesis etc.

The goal for students is to acquire expertise and research skills that will enable them to obtain a doctoral degree and to develop the ability to write a dissertation.

Learning Objectives

The goal of this course is to provide students with the skills needed in the process of completing a doctoral dissertation.

Students will write their dissertation by selecting a research concept and topic, collecting basic materials, surveying previous research, organizing and analyzing issues, and formulating and testing a hypothesis.

Learning activities outside of classroom

Students will conduct research on their research topic.

Students will prepare resumes, materials, etc. for their reports.

Grading Policy: Depends on the progress of the paper(100%).

SES700P2 - 006

サステナビリティ特殊研究3B

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を完成させる。

【到達目標】

博士論文を完成させ、審査で合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

個別と受講者全体が集まる二つの形態による指導を行う。受講者が進めている研究内容について、その進捗状況を報告し、参加者全員で質疑・討論を行う。受講者全員が検討に参加することにより、研究がブラッシュアップされ、理解度が深まることを狙っている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の提出
第8回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第9回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第10回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第11回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第12回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第13回	審査会にむけた準備	審査会の準備を行う。
第14回	審査会	審査会で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文執筆を進める。ゼミで報告するためのレジュメを作成する。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況による（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 公衆衛生学、産業保健、統合医療（分子整合栄養療法、水素療法）、統計学

<研究テーマ> 就労者のストレスと健康

<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study), The European Journal of Public Health 2012年

ソフト面から考える快適職場ー職場のメンタルヘルス対策の一環としてー 労働安全衛生広報 2010年

マネジメントシステムによる産業保健活動産業保健21 2010年

【これまで指導した博士論文】

1名

【Outline (in English)】

Outline and Learning Objectives: Complete doctoral dissertation.

Learning activities outside of classroom: Proceed with writing the paper. Prepare a resume to present in the seminar.

Grading policy: Depends on the progress of the paper (100%)

SES700P2 - 003

サステナビリティ特殊研究 2 A

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、サステナビリティ特殊研究 1A・B で作成した博士論文の構成・内容（素案）に基づいて、論文内容を具体的に検討し、また、その検討結果を報告していく。また、その報告内容を参考にしながら、研究報告（学会報告や博士論文の中間報告）、博士論文（学会誌（研究誌）などへの投稿論文を含む）の作成を進めていくことを目的とする。

【到達目標】

本演習では、研究報告と博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のために必要な論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

履修者には、サステナビリティ特殊研究 1A・B で作成した博士論文の構成・内容（素案）に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査から明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、研究報告や、博士論文の作成までのスケジュールを確認する。
第 2 回 ～第 12 回	追加的作業の確認	研究報告や、博士論文の作成のために必要となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第 13 回 ～第 14 回	博士論文の構成・内容（素案）の再検討・再調整	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討し、再調整する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10 %）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10 %）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30 %）
- ・ 研究報告、博士論文（案）の内容（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取り組みを中心として－」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？ -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to study the details of a doctoral thesis.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Content of research report and doctoral thesis : 50%

SES700P2 - 004

サステナビリティ特殊研究2B

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、サステナビリティ特殊研究2Aで再調整した博士論文の構成・内容（素案）に基づいて、論文内容を具体的に再検討し、また、その結果を報告していく。さらに、その報告内容を参考にしながら、研究報告（学会報告や博士論文の中間報告）や、博士論文（学会誌（研究誌）などへの投稿論文も含む）の作成を進めていくことを目的とする。

【到達目標】

本演習では、研究報告や、博士論文の作成に行われる高度な研究・調査のための論理力、分析・調査力、執筆力、説明力、質問力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

履修者には、サステナビリティ特殊研究2Aで再調整した博士論文の構成・内容（素案）に基づいて、特定主体（家計、企業、自治体、地域、国など）における経営あるいは会計のモデルを検討してもらうとともに、このモデルの特長や問題点をアンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査から明らかにすることにより、同モデルの実践適用可能性や新たな見解を提案してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	これまでに行ってきた研究・調査について報告するとともに、研究報告や、博士論文の作成までのスケジュールを確認する。
第2回 ～第11回	追加的作業の確認	研究報告や、博士論文の作成のために必要となる作業（アンケート調査、ケーススタディ、ヒアリング調査の実施など）を確認する。
第12回 ～第13回	博士論文の構成・内容（素案）の再検討	これまでに行ってきた研究・調査の成果を、検討中の博士論文に反映させ、その内容を再検討する。
第14回	博士論文の構成・内容の決定（原案）	博士論文の構成を再調整し、内容を決定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究内容に関係する著書・論文・報告書・新聞・雑誌記事などを読み、その分析・検討を計画的に行うとともに、その結果を研究報告や、博士論文の作成に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告ではワードあるいはパワーポイントを使用しますので、履修者はその報告レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

履修者の研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、研究論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（10%）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（10%）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ・ 研究報告、博士論文の内容（粗原稿）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・ 金藤正直（2015）「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63頁。
- ・ 金藤正直（2016）「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第37巻第2号、55-72頁。
- ・ 金藤正直（2018）「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性－フードバレーとかちの取り組みを中心として－」『経済学論纂』第58巻第2号、65-84頁。
- ・ 金藤正直（2021）「健康経営の展望-どう評価・開示するか？-」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90頁。
- ・ 金藤正直、岡照二（2021）「包括的成長戦略のためのBSCの適用可能性」『人間環境論集』第21巻第2号、1-26頁。
- ・ 金藤正直（2021）「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第53号、45-66頁。
- ・ 金藤正直（2022）「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第43巻第1号、273-287頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to study the details of a doctoral thesis.

② Learning Objectives

Thought this seminar, graduate students are able to learn how to logically summarize their research and write a doctoral thesis.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to systematically study before and after the seminar, using the materials on their research.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 10%
- 2) Content of the resume : 10%
- 3) Content of the presentation : 30%
- 4) Content of research report and doctoral thesis : 50%

SES700P2 - 003

サステナビリティ特殊研究3A

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文を執筆し、博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去1
週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第10回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第11回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第12回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第13回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第14回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

密接に連絡を取り合う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This class is the second year of the doctoral dissertation writing process. Based on the information collected up to the last year, students will prepare a draft outline of their dissertation to be presented at the interim report meeting.

SES700P2 - 003

サステナビリティ特殊研究2 A

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文を執筆し、博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

【到達目標】

論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去 1
週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文骨子案の確定	論文の骨子案を確定する。
第 2 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 3 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 4 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 5 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 6 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 7 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 8 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 9 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 10 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 11 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 12 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 13 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 14 回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

密接に連絡を取り合う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This class is the second year of the doctoral dissertation writing process. Based on the information collected up to the last year, students will prepare a draft outline of their dissertation to be presented at the interim report meeting.

SES700P2 - 004

サステナビリティ特殊研究3B

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

【到達目標】

博士課程中間報告会の準備を完了し、中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去1
週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第2回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第3回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第4回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第5回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第6回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第7回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第8回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第9回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第10回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第11回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第12回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第13回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の 執筆を行う。
第14回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の 執筆を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100%）

【学生の意見等からの気づき】

密接に連絡を取り合う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This class corresponds to the second half of the second year of the doctoral dissertation writing process. The outline of the doctoral dissertation will be finalized based on the suggestions given by the faculty members at the interim debriefing session.

SES700P2 - 004

サステナビリティ特殊研究2B

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士課程中間報告会に向けて準備を行う。

【到達目標】

博士課程中間報告会の準備を完了し、中間報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

毎週土曜日のゼミに出席し、他の院生の報告を聞くと共に、過去 1
週間の進捗状況を報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 2 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 3 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 4 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 5 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 6 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 7 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 8 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 9 回	論文執筆	論文の執筆を行う。
第 10 回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第 11 回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第 12 回	中間報告会の準備	中間報告会の準備を行う。
第 13 回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の 執筆を行う。
第 14 回	論文執筆	中間報告会の評価を受け、論文の 執筆を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のゼミまでに指示された作業を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文の進捗状況（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

密接に連絡を取り合う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This class corresponds to the second half of the second year of the doctoral dissertation writing process. The outline of the doctoral dissertation will be finalized based on the suggestions given by the faculty members at the interim debriefing session.

SES700P2 - 003

サステナビリティ特殊研究2 A

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を作成する。

【到達目標】

博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の進捗状況に従って進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第2回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第3回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第4回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第5回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第6回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する。
第7回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第8回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第9回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第10回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第11回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第12回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第13回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第14回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文は基本的に課外学習として行うので、計画的に進めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This is a course for writing dissertation. Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to complete the dissertation.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to improve the dissertation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on the dissertation progress.

SES700P2 - 004

サステナビリティ特殊研究2B

吉永 明弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を作成する。

【到達目標】

博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各自の進捗状況に従って進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第2回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第3回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第4回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第5回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第6回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第7回	論文の進捗状況の発表	論文の進捗状況を発表して意見交換する
第8回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第9回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第10回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第11回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第12回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第13回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する
第14回	追加の調査研究の指導	追加すべき調査研究について指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文は基本的に課外学習として行うので、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This is a course for writing dissertation. Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

【到達目標（Learning Objectives）】

The goals of this course are to complete the dissertation.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to improve the dissertation.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on the dissertation progress.

SES700P2 - 003

サステナビリティ特殊研究3A

渡邊 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項について学ぶ。本科目では、受講者が研究者になるために必要な高度な研究力と実践力を修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、論文技法と表現法、研究発表法などについて、その発展的な内容を修得し再確認する。ここでは概ね遂行研究の論点整理、先行研究の精査、および結果の検証と考察などを中心に行う。

【到達目標】

研究を遂行するための高度な力を身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、学会発表を行うために必要な事柄について修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。以下の【授業計画】は、各回の授業に含める予定の検討項目を示したものである。実際には各授業において受講者のモチベーション確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	視点・論点整理 (研究目的の確認)	リサーチクエスションと研究目的などの確認
第3回	視点・論点整理 (テーマ意義の確認)	研究意義と社会的インパクトの確認および再検討
第4回	視点・論点整理 (主張事項の確認)	結論の整理と主張内容の評価と検証
第5回	視点・論点整理 (論文構成の確認)	章および節の構造とその妥当性の検討
第6回	先行研究の整理 (研究課題の点検)	先行研究の概要確認、課題整理
第7回	先行研究の整理 (論点の確認)	先行研究の精査と詳細検討、論点整理
第8回	分析・評価手法の確認 (研究手法の整理)	分析・評価手法の整理と再検討
第9回	分析・評価手法の確認 (妥当性確認)	分析・評価手法の妥当性確認
第10回	結論の整理 (主張事項の確認)	主張内容の再確認と考察
第11回	結論の整理 (妥当性確認)	結論内容の再確認、社会的インパクトの考察
第12回	総合討論 (研究報告とディスカッション)	研究報告と質疑応答、意見交換、討論
第13回	総合討論 (新規課題の確認)	研究報告と討論、新規課題の把握と検討
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論参加の充実度 100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進捗を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: analysis of previous works, derivation of the points at issue, evaluation of results derived from the research, and other points required. This seminar deals with the developed aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have completion of research execution for each theme. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

SES700P2 - 004

サステナビリティ特殊研究3B

渡邊 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[サステナビリティ特殊研究3A]に引き続き、研究を遂行し専門学会への投稿論文および博士論文の作成を完成させるために必要な事項について学ぶ。本科目では、受講者が研究者になるために必要な高度な研究力と実践力をさらに修得することを念頭に置いている。研究テーマの選定と資料収集、先行研究の調査と分析、論点の整理と検証、論文技法と表現法、研究発表法などについて、その発展的な内容を修得し再確認する。ここでは概ね研究報告と討論を行いながら、各種研究報告および博士論文の執筆に必要な表現と構成法などについて学ぶ。

【到達目標】

研究を遂行するための高度な力をさらに身につけることを目標とする。専門学会等への投稿論文および博士論文の執筆、学会発表を行うために必要な事柄について修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

受講者はあらかじめ準備してきた内容について報告する。それをもとに参加者全員で検討を行っていく。受講者は各々の進捗状況に応じて個別指導も受けることになる。

この授業では受講者が進めている研究について助言指導していく。以下の【授業計画】は、各回の授業に含める予定の検討項目を示したものである。実際には各授業において受講者のモチベーション確認から論文作成までの広範囲にわたる内容に触れることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針、進め方について
第2回	研究の概要確認 (リサーチチェックエ ション)	研究概要の報告とリサーチクエ ションの再確認
第3回	研究の概要確認 (論点整理)	研究概要の報告と論点確認
第4回	研究報告と表現 (口頭報告と資料作成)	口頭報告のための資料作成研究
第5回	研究報告と表現 (口頭報告とプレゼ ンテーション)	プレゼンテーション研究
第6回	研究報告と表現 (論文における文章表 現)	論文表現法研究
第7回	研究報告と表現 (アカデミックライ ティング)	論文記述と論理的表現法の研究
第8回	研究報告と表現 (論文構成)	論文構成法の研究
第9回	学位論文作成 (論文構造)	学位論文構成の検討について
第10回	学位論文作成 (論文表現)	学位論文表現の検討について
第11回	総合討論 (論文報告とデスカ ッション)	論文報告と討論、意見交換
第12回	総合討論 (論文報告と論点確認)	論文報告と討論、論点と主張内容 の確認

第13回 総合討論 論文報告と討論、新規課題の確認
(論文報告と課題確認)

第14回 総括 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。各々のテーマについて調査・検討をすすめ報告の準備を行う。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論参加の充実度100%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各々の研究の進捗状況を勘案しながら進度を柔軟に考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

対面形式で授業を進めていく予定ですが、状況によりオンライン授業とすることもあります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>非線形力学、物性理論、計算科学

<研究テーマ>カオスとフラクタル、交通流のダイナミクス

<主要研究業績> Dynamics of group motions controlled by signal processing: A cellular-automaton model and its applications, Communications in Nonlinear Science and Numerical Simulation 11(2006)pp.624-634. An extension of optimal-velocity model and dynamical transition in congested phase (I & II), Far East Journal of Dynamical Systems 16(2011)pp.71-86 & 17(2011)pp.1-15.

【Outline (in English)】

(Course outline) This is a seminar to accomplish research projects for each member of this class in the doctor's course. We will mainly discuss the following processes: report and discussion for research themes, the presentation methods, and other points required. This seminar deals with the developed aspects in preparing doctor's thesis or research articles contributed to an attached society. This seminar is an expanded subject from 3A.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have completion of research execution for each theme. They will acquire the skills for writing and oral reports in this subject.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 100%.

LAW500P2 - 007

環境法基礎 D

永野 秀雄、立松 美也子、野村 撰雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の皆さんは、本授業で、環境問題に関する民法、行政法、国際法について、その基礎を学ぶことができます。授業は、皆さんが、法律の素人であることを前提にして授業を行います。

【到達目標】

環境法の知識のない学生が、その全体像を把握することが、到達目標である。環境分野で仕事をする上で不可欠な知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

まず、環境法がどのような法律分野から構成されており、環境問題に対して、どのような機能を果たしているのかについて概観する。また、基本的な文献リサーチ方法についても説明する。次に、環境私法について、私人間の環境紛争で、民法に規定された不法行為という考え方がどのように機能するのかを学ぶ。そして、最後に、実際に起こった公害事案をもとにしながら、判例法の妥当性を検証する。次に、環境行政法について、日本における環境行政法の展開を学んだ後、個別規制法として公害規制法や自然保護法、環境行政訴訟と環境行政組織を概観する。

最後に、国際的な環境問題を検討するにあたり必要となる国際法の基本理論を学ぶ。国際社会の基本単位である国家の役割、国際法の特徴を概観した後、受講者の関心がある国際環境問題を取り上げながら、国際社会における紛争解決の仕組み、国家責任等について適宜判例を紹介しつつ検討し、国際環境問題への国際法からのアプローチの仕方を習得する。

また、授業は、対面授業を予定しているが、コロナウイルスの感染が拡大した場合には、リアルタイムのライブ型配信授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	環境法の概観（1） （永野秀雄）	環境問題と環境法
2	環境法の概観（2） （永野秀雄）	①環境法とは何か、②環境法の構成
3	環境私法（1）（永野秀雄）	①環境私法とは何か、②不法行為の基礎理論
4	環境私法（2）（永野秀雄）	損害賠償請求と差止請求
5	環境私法（3）（永野秀雄）	①環境訴訟における因果関係の立証、②複合汚染と共同不法行為
6	環境私法（4）（永野秀雄）	公害事案に基づく議論
7	環境行政法（1）（野村撰雄）	環境行政法の展開
8	環境行政法（2）（野村撰雄）	公害規制法
9	環境行政法（3）（野村撰雄）	自然保護法
10	環境行政法（4）（野村撰雄）	環境行政訴訟・行政組織
11	国際環境法（1）（立松美也子）	国際法の基本原則と国際環境問題
12	国際環境法（2）（立松美也子）	国際環境問題における国家責任法とその限界

- 13 国際環境法（3）（立松美也子） 国際環境条約と国内法
- 14 国際環境法（4）（立松美也子） 判例研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを適宜配布する。

【参考書】
北村喜宣『環境法（第5版）』（有斐閣ストウディア、2020年）。
黒川哲志・奥田進一編『環境法へのフロンティア』（成文堂、2015年）。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦他編著『ケースブック国際環境法』（東信堂、2020年）。

【成績評価の方法と基準】
配分：授業内での発表、議論への参加・貢献度 30%、期末レポート 70%。
評価基準：3人の講師が、授業中に、それぞれ2つのテーマを提示する。この合計6つのテーマの中からレポートを1つ作成し、担当講師に提出する。選択したテーマにつき、判例や法律論文等を最低5つ以上参照して、レポートを書くこと。論点、構成、内容の理解度から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン。

【担当教員の専門分野等】
永野 秀雄
＜専門領域＞日米比較法（特に、環境法、労働法、先端技術法）
＜研究テーマ＞「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」
＜主要研究業績＞（環境関連のもの）
①単著『電磁波訴訟の判例と理論—米国の現状と日本の展望』（三和書籍、2008年）。
②「気候変動と企業統治」鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉—社会科学からのアプローチ』（文真堂、2008年）171-184頁。
③「米国における高レベル放射性廃棄物の処分と問題点」人間環境論集6巻2号（2006年）1-21頁。

野村撰雄
＜専門領域＞
環境法・海事法
＜研究テーマ＞
地球温暖化、海洋環境法、環境条約の国内実施
＜主要研究業績＞
①『演習ノート環境法』（法学書院、2010年）。
②「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究14号（2022年）1頁以下。
③「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022年）175頁以下。
立松美也子
＜専門領域＞国際法（国際人権法、条約法、国際環境法）
＜研究テーマ＞ 国際法の履行確保、国内実施、難民、出入国管理
＜主要研究業績＞
（共著） Chapter8 人権を国際的に保護する、Chapter10 国境を越えるモノ、サービス、資本、Chapter11 地球規模の環境問題に取り組む 加藤信行、植木俊哉、森川幸一、真山全、酒井啓巨、立松美也子編『ビジュアルテキスト国際法第3版』（有斐閣、2022年）。
単著
「難民をめぐる国際制度：UNHCRと難民条約」国際法外交雑誌117巻3号（2018年）。
「環境問題と少数者を文化を享受する権利—ボマ対ペルー事件（自由権規約委員会2009年3月27日見解）」国際人権21号122-124頁、（2010年）。

【Outline (in English)】
＜ Course Outline ＞
Students will learn the basics of civil, administrative, and international law on environmental issues in this class. The class will be taught on the assumption that you are a layman in the law.

< Learning Objectives >

The goal of this course is for students who have no knowledge of environmental law to grasp the whole picture. Students are expected to acquire essential knowledge for working in the environmental field.

< Learning Activities outside of Classroom >

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, three instructors will each present two themes during these classes. You can take one of the themes, referring to five or more legal cases or papers, write a report on the theme, and submit it to the instructor in charge. Your report will be evaluated based on issues, structure, and understanding of the content.

SES500P2 - 008

地球環境学基礎 D

塚本 直也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用である。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせない。本講義では気候変動を中心しつつ、オゾン層保護、酸性雨など環境問題や、エネルギーや淡水などの資源問題について、発生メカニズムと対処に関する科学の基礎を修得し、地球規模や国境を超える環境問題に対処する基礎力を養うことを目指す。

【到達目標】

以下を説明できるだけの科学的基礎力を養う。

- 人口増加と減少パターンの発生の理由。
- オゾンホールが南極上空にできる理由。
- 温室効果のメカニズムと気候変動の科学の不確実性。
- 日本では酸性雨の生態影響が顕在化していない理由。
- 生物多様性を保全しなければならない理由。
- 資源のもつ意味。
- 淡水、土壌、金属などの資源のもつ役割。

加えて、博士課程においては、以下の社会的要素についても達成を目指す。

矛盾する情報が錯綜する中で、信頼性の高い情報を取捨選択する能力の向上

地球規模の環境問題と経済発展のトレードオフに係る理解度の向上

CBDR（差異化された責任）に関する理解の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

中学卒業レベルの理科の知識を習得していることを前提にして、パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。なお講義の順番は状況によって変更になることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	地球環境問題を取りまく諸状況
第 2 回	人口	人口が増加する要因、都市の人口問題
第 3 回	オゾン層	オゾン層が破壊されるメカニズム、オゾン層破壊物質、ウィーン条約、モントリオール議定書、国内対策
第 4 回	気候変動①	地球温暖化のメカニズム、将来予測
第 5 回	気候変動②	I P C C、国際社会、国際交渉、パリ協定
第 6 回	気候変動③	緩和策と適応策
第 7 回	越境する大気汚染	酸性雨、光化学オキシダント、PM2.5
第 8 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、生態系サービス、遺伝資源
第 9 回	資源とは何か	「資源」の持つ意味、「資源の呪い」、資源に関する楽観論と悲観論
第 10 回	水資源	世界の水資源、国際流域の課題

第 11 回	土壌資源、窒素とリン	土壌の成り立ち、機能、窒素とリンの循環、リン資源
第 12 回	エネルギー資源①	化石燃料
第 13 回	エネルギー資源②	原子力、新エネルギー
第 14 回	金属資源	ベースメタル、レアメタル、リサイクル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文科系のための環境科学入門』 有斐閣

【参考書】

斎藤幸平 『人新生の「資本論」』 集英社

【成績評価の方法と基準】

最終回に行う試験(70%)またはレポート(70%)と平常の授業への貢献(質問、意見の発表)(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学校卒業程度の理科の知識があれば理解できるように心がけるが、高校卒業程度の知識が必要な場合もある。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【担当教員の専門分野等】

環境科学全般
サステナビリティ学
国際環境交渉
援助プロジェクトの環境セーフガード
気候変動
廃棄物管理

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource problems such as energy and freshwater. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on final exam (100%) or report (100%)

COS500P2 - 011

数理モデル概論 D

松本 倫明

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、コンピュータシミュレーションを用いた現状分析と将来予測のためのモデル化の手法について研究することを目的とする。

【到達目標】

はじめに代表的なシミュレーション事例を概観し、シミュレーションがどのように自然科学あるいは社会科学に寄与しているかを理解する。前半は、限りある資源（有限な資源）のもとで人間社会や生態系の動向を、システムダイナミクスを用いて定量的にモデル化する。これを通して環境問題を考える上での基本的な概念を考察していく。後半は、新型コロナウイルス感染症と関連する SIR モデルを学び、シミュレーションがどのように社会に役立っているかを考える。前半は Excel、後半は Python を用いる。

また、博士課程の学生には自らの研究課題において Python のプログラムを活用する方法を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。

本授業は、講義とコンピュータ実習を織り交ぜながら進める。コンピュータ実習によって、受講生は授業を深く理解することができる。また高度な数学的知識は必要とはしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと環境モデル概論	本講義を受講するためのガイダンスを行う。環境モデルと環境シミュレーションを概観する。
第 2 回	システムダイナミクスによる環境モデル 1	人口爆発と指数関数的成長の数理モデル。
第 3 回	システムダイナミクスによる環境モデル 2	有限世界における成長の限界の数理モデルを用いた人口爆発モデル。
第 4 回	システムダイナミクスによる環境モデル 3	有限世界における成長の限界とフィードバックによる系の応答を考慮した人口爆発モデル。生態系モデル・COVID-19 への応用。
第 5 回	SIR モデル 1	Python の基本的な文法を学ぶ。
第 6 回	SIR モデル 2	Python のプログラミングを習得する。
第 7 回	SIR モデル 3	SIR モデルを計算し、新型コロナウイルス感染症への応用を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。資料を授業時に配布する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点ならびに討論への参加状況 60 %、実習課題 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では情報実習室を使用する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論天文学

<研究テーマ> 星形成、太陽圏と宇宙天気

<主要研究業績>

① "An origin of arc structures deeply embedded in dense molecular cloud cores", Matsumoto, T., Onishi, T., Tokuda, K., & Inutsuka, S.-i. 2015, MNRAS, 449, L123

② "Star Formation in Turbulent Molecular Clouds with Colliding Flow", Matsumoto, T., Dobashi, K., & Shimoikura, T. 2015, ApJ, 801, 77

③ "Protostellar Collapse of Magneto-turbulent Cloud Cores: Shape During Collapse and Outflow Formation", Matsumoto, T., & Hanawa, T. 2011, ApJ, 728, 47

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this course is to study modeling methods for analyzing the current situation and predicting the future using computer simulation.

(Learning Objectives) The introduction will review representative simulation cases to understand how simulation contributes to the natural or social sciences. The first half of the course will use system dynamics to quantitatively model trends in human society and ecosystems under limited resources (finite resources). Through this, the basic concepts of environmental issues will be discussed. In the second half, students will learn about novel coronavirus infections and the related SIR model, and consider how the simulations are useful to society. In the the first half of the course, the studnets will use Excel and in the second half, the studnets will use Python. (Learning activities outside of classroom) Preparation for presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) The percentage of regular marks and participation in discussions will be 60%, and 40% for practical assignments.

SOC500P2 - 012

環境社会論 D

藤田 研二郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を説明するとともに、現代の環境問題を対象とした環境社会学の研究動向を紹介する。現代の環境問題解決では、「地域住民・市民のかかわり」「多様な主体による連携」が、重要な論点となっている。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、今日的な環境問題解決のあり方について学ぶ。

【到達目標】

環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴、解決のために必要な行動を指摘できるようになる。今日的な環境問題解決のあり方を提案し、問題解決に向けた課題を整理できるようになる。環境社会学の研究動向を批判的にレビューし、新たな論点を提起できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の流れを、主に 1980 年代までの歴史編と 1990 年代以降の現代編に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業冒頭でフィードバックを行う。またそのなかで、授業内容にもとづく簡単な課題を出すこともある。

大学の行動方針レベルに変更があった場合、それに応じた授業形態の詳細は学習支援システムで案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義と種類、環境社会学のアプローチ、地域住民・市民のかかわりと多様な主体の連携による環境問題解決について学ぶ。
第 2 回	歴史編①	戦後から 1980 年代までの産業公害、都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第 3 回	歴史編②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造について学ぶ。
第 4 回	歴史編③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏について学ぶ。
第 5 回	歴史編④	マスクー法の自動車排ガス規制とエンジン開発を事例に、生産の踏み車とエコロジカル近代化について学ぶ。
第 6 回	歴史編⑤	自然資源管理を事例に、コモンズの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第 7 回	現代編①	1990 年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第 8 回	現代編②	環境 NGO・NPO、ボランティアについて、理論と課題を学ぶ。
第 9 回	現代編③	白神山地の保護、森は海の恋人運動を事例に、森林保全について学ぶ。

第 10 回 現代編④

河川法改正を事例に、ローカル知の役割について学ぶ。

第 11 回 現代編⑤

環境保全型農業について、みどりの食料システム戦略までの対策の展開、協同組合の役割を学ぶ。

第 12 回 現代編⑥

獣害問題と対策を事例に、内発的発展、コミュニティ・ビジネスについて学ぶ。

第 13 回 現代編⑦

温暖化対策の展開について、東日本大震災以降の再生可能エネルギーの促進、パリ協定以降の脱炭素の動向を学ぶ。

第 14 回 現代編⑧

日本のエネルギー転換をめぐる課題、環境正義の観点について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習としては、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回 PowerPoint と配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとしては、例えば次のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第 2 版』ミネルヴァ書房。

環境社会学会編、2023、『環境社会学事典』丸善出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15%）+ 期末レポート（85%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

期末レポートでは、環境社会学の研究動向への批判的なレビューを重視する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度は授業担当者の変更により、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

修士課程「環境社会論」と合同で開講。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

環境社会学、環境ガバナンス、NGO・NPO、農業協同組合、生物多様性

< 研究テーマ >

環境問題解決に向けた住民・市民の活動と行政との連携
農村の課題解決と地域環境保全の両立を考える

< 主要研究業績 >

藤田研二郎、2019、『環境ガバナンスと NGO の社会学』ナカニシヤ出版。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This class will introduce the theories of environmental sociology and the recent research trends, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on the ways that residents and citizens are engaged in the process of environmental problems and the partnerships among diverse actors, which is important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and the contemporary ways and the essential issues for solving environmental problems based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives) Being able to point out the characteristics of environmental problems and to propose actions for solving the problems based on the theories of environmental sociology. Being able to propose the contemporary ways of solving environmental problems and to identify issues for solving problems. Being able to critically review research trends in environmental sociology and propose new theoretical issues.

(Learning Activities Outside of Classroom) Students should pay attention to news about environmental problems and policies and collect information daily. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) Regular Work (15%) + Final Report (85%). Regular work will be submitting reaction papers or assignments. The final report will focus on a critical review of research trends in environmental sociology.

MAN500P2 - 013

環境経営論 D

金藤 正直

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経営学および会計学の視点から、現在国内外で注目されている企業や地域における環境経営またはサステナビリティ経営の理論的方法を明らかにしつつ、それに関連する先進的な取組事例も考慮に入れながら、将来企業や地域において、有効かつ効率的に実施すべき環境経営やサステナビリティ経営の新たな方法を検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、国内外で刊行されたマルチステークホルダーの視点からの環境経営またはサステナビリティ経営に関する文献（理論研究の論文）について、直接的または間接的に関係する他の理論や事例（ケース）を加えながら、また、博士論文のテーマとも関係づけながら多面的に分析・検討し、その結果を論理的に、わかりやすく整理し、報告していくための能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

本講義は対面で実施する（新型コロナウイルスの感染状況に応じてオンラインでの実施方法も検討する）。第1回は、環境経営やサステナビリティ経営に関する研究論文とそれに関係する著書や報告書を紹介しつつ、講義内で履修者に分析し、検討してもらう内容やポイントについて講義を行う。第2回以降、履修者には、研究テーマに関係する、あるいは関心のある研究論文を1つ選択してもらい、その内容を企業や地域の取組事例や関連研究などを加味しながら多面的に分析・検討し、その結果を報告してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の流れとその内容、講義で使用する文献の紹介、その文献を分析・検討していくための方法やポイントを説明する。
第2回	環境・社会問題に対応する組織①	環境・社会問題に対応する組織のあり方に触れた論文（例えば、ブラハラードやロザベス＝テュナの論文）の内容を考察し、報告する。
第3回	環境・社会問題に対応する組織②	第2回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第4回	環境・社会問題解決のための経営戦略①	企業が環境重視から持続可能性に展開していくために検討し、策定すべき経営戦略に関する研究論文（例えば、ハートやアンルーの論文）の内容を考察し、報告する。
第5回	環境・社会問題解決のための経営戦略②	第4回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第6回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略①	企業が経済的価値と環境・社会的価値を同時実現していくための新たな経営戦略に関する研究論文（例えば、クリステンセンやポーター＝クラマーの論文）の内容を考察し、報告する。

第7回	環境・社会問題解決のための新たな経営戦略②	第6回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第8回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント①	第2回から第7回で取り上げられた経営戦略を実現していくための組織編成・マネジメント（サプライチェーン、コレクティブ・インパクト、コラボレーション）に関する研究論文（例えば、カナ＝クラマー、アドラー、リー、ペロニカ＝デニスの論文）の内容を整理し、報告する。
第9回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメント②	第8回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域の取組事例などを参考にしながら検討し、報告する。
第10回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例①	第8回と第9回で取り上げられた組織編成・マネジメントに関するガイドや先進事例（例えば、国連グローバルコンパクトやパタゴニアの取組み）の内容を整理し、その結果を報告する。
第11回	経営戦略を実現するための組織編成・マネジメントの先進事例②	第10回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第12回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム①	組織（第2回、第3回）の戦略策定（第4回～第7回）と組織編成・マネジメント（第8回～第11回）を支援する会計システムに関する論文（例えば、キャプレン、エクセル、セラフェイムの論文）の内容を整理し、報告する。
第13回	戦略策定や組織編成・マネジメントを支援する会計システム②	第12回で出された質問などへの回答を、関連する論文や、企業または地域における取組事例を参考にしながら検討し、報告する。
第14回	講義のまとめ	第13回までの検討内容を整理しつつ、その内容をもとに新たな方法論も検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容の理解および文献の分析・検討にあたっては、少なくとも次の3点について行ってください。
 ・経営学および会計学の基礎的知識を事前に学習し、身につけること（担当しない資料も事前に読み、検討すべき点を考えておくこと）
 ・毎回の講義内容を復習すること
 ・本講義に関連する新聞・雑誌記事やホームページなどの内容をチェックすること本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義では、テキストは使用せず、テーマごとに配布した資料を使用します。
 ・報告では、配布資料の内容を整理したレジюмеの作成および配布をお願いします。

【参考書】

講義中に配布資料や報告内容に関連する著書・論文・雑誌・URLなどを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。
 ・報告用配布レジюмеの内容（20%）
 ・報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
 ・討論への参加（発言内容）（20%）
 ・レポートの内容（報告内容に基づくレポート）（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

- ・講義はワードあるいはパワーポイントを用いて進めていきますので、報告およびそのレジュメもワードか、パワーポイントを使用してください。
- ・質問などについては電子メールで連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境経営論、地域経営論、人的資本経営論

<研究テーマ>

企業や地域の持続的成長を実現するための経営・会計手法に関する研究

<主要研究業績>

- ・金藤正直 (2015) 「食料産業クラスターマネジメントを支援するバランス・スコアカードの構想」『産業経理』Vol.75 No.1、53-63 頁。
- ・金藤正直 (2016) 「サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントの実践的展開モデル」『横浜経営研究』第 37 巻第 2 号、55-72 頁。
- ・金藤正直 (2018) 「フードバレーの戦略的マネジメントを支援するバランス・スコアカードの適用可能性-フードバレーとかちの取組みを中心として-」『経済学論纂』第 58 巻第 2 号、65-84 頁。
- ・金藤正直 (2021) 「健康経営の展望-どう評価・開示するか? -」『企業会計』Vol.73 No.2、87-90 頁。
- ・金藤正直、岡照二 (2021) 「包括的成長戦略のための BSC の適用可能性」『人間環境論集』第 21 巻第 2 号、1-26 頁。
- ・金藤正直 (2021) 「日本における健康経営評価の制度的特徴と課題」『中央大学経済研究所年報』第 53 号、45-66 頁。
- ・金藤正直 (2022) 「労働安全衛生マネジメントシステムを考慮に入れた健康経営評価システムの展開」『横浜経営研究』第 43 巻第 1 号、273-287 頁。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn the management method for solving environmental and social issues in companies and regions.

② Learning Objectives

Thought this lecture, graduate students are able to logically understand a new sustainability management and accounting system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Graduate students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Content of the resume : 20%
- 2) Content of the presentation : 30%
- 3) Participation in the discussion : 30%
- 4) Report based on the presentation : 20%

LAW500P2 - 015

環境私法 D

永野 秀雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまで環境法を学んだことのない大学院生のために、環境私法を概説することを目的としている。この環境私法では、環境被害を受けた人々が、国や企業などに損害賠償を求めたり、その環境被害のもととなる汚染原因等を排出しないように求めたりする訴訟を扱う。具体的には、学生は民法に規定されている不法行為という考え方が、大気汚染訴訟、水質汚濁訴訟といった様々な形の訴訟の中で、どのように機能するかを学んでいく。

【到達目標】

この授業の到達目標は、受講生の所属する組織または生活する地域が、環境にかかわる紛争に直面したときに、どのような法的なルールが適用されるのかを理解することにある。言い換えれば、受講生が、法の専門家（弁護士や企業法務部等）と協同してこのような問題に対処しえる知的枠組みを獲得することを目指している。修士の方は、この視点で受講して頂きたい。また、博士課程の方は、日本における環境私法が果たしている役割と、その限界を判例法理を中心に理解して頂き、御自身の論文を執筆する際の参考にして頂ければ幸いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

まず、環境私法でも基本となる民法に規定された「不法行為」という考え方を学ぶ。そして、この不法行為に関する理論が、環境紛争にどのように適用されるのかを概説する。

これに続いて、具体的な環境汚染原因ごとに、不法行為を中心とする法理論が適用されるのかについて解説する。大気汚染、水質汚濁、騒音・振動、日照、景観といった問題ごとに個別のルールが形成されているので、これを学んでいくことにする。

最後に、総合的な問題を扱う環境監査において、どのような法的規制が必要であり、今後どのように運営されるべきかを検討する。また、本授業は、オンライン授業により実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	不法行為の基礎（1）	①環境法とは何か、②環境紛争と環境私法
2	不法行為の基礎（2）	不法行為法とは何か
3	不法行為の基礎（3）	共同不法行為とは何か
4	不法行為の基礎（4）	複合汚染と共同不法行為
5	公害紛争処理制度等	①公害紛争処理制度、②協定による紛争解決
6	大気汚染訴訟の基礎	①共同不法行為理論の適用、②大気汚染訴訟の難しさ
7	大気汚染訴訟の展開	大気汚染訴訟の展開と現状
8	水質汚濁訴訟	水質汚濁訴訟の分析
9	悪臭訴訟、騒音・振動訴訟	①悪臭訴訟、②騒音・振動訴訟
10	日照・通風・風害訴訟	日照・通風・風害訴訟の分析
11	眺望訴訟、景観訴訟	①眺望訴訟、②景観訴訟
12	風評被害訴訟	風評被害訴訟の分析
13	嫌悪施設訴訟（1）	原子力関連の民事訴訟
14	嫌悪施設訴訟（2）	廃棄物処理場関連の民事訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を Hoppi から配布します。

【参考書】

大塚直・北村喜宣編集『環境法判例百選（第3版）』（有斐閣、2018年）。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発表、議論への参加・貢献度 30%、期末レポート 70%。期末レポートは、環境私法のテーマの中から1つを取り上げ、法律論文等を3つ以上参照して、その問題に関するレポート（A4で10頁程度）を作成すること。

【学生の意見等からの気づき】

今後も、わかりやすい解説に努めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日米比較法（特に、環境法、先端技術法）

<研究テーマ>「環境監査と法」、「サイバーセキュリティと法」

<主要研究業績>（近年のもの）

「米国防総省によるサイバーセキュリティ成熟度モデル認証（CMMC）の導入：現行の NIST SP 800-171 の遵守制度を超えて」 CISTEC journal186 号 200 頁以下（2020年3月）。

「米国におけるセキュリティクリアランス制度の大改革」 CISTEC journal185 号 223 頁以下（2020年1月）。

「米国の重要インフラに関するサイバーセキュリティとセキュリティ・クリアランス法制（上）」人間環境論集 19 巻 1 号 13 頁以下（2018年12月）。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course provides a basic introduction of environmental civil litigation for graduate students. The course focuses on lawsuits in which people suffering from environmental damage sued the government of Japan and companies for damages and for the injunction of the pollutions and nuisances. Specifically, students will learn how the idea of torts in the Civil Code works in various forms of litigation, such as air pollution and water pollution cases.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to understand which legal rules should apply when a student's organization or area of residence faces an environmental conflict. In other words, this course will help students work with lawyers and other legal professionals to solve environmental problems.

< Learning Activities outside of Classroom >

Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contribution (30%) and term-end report (70%). For the term-end report, you can take one of the themes of private environmental law, referring to three or more legal papers, and write a report on the theme (about 10 pages in A4).

SES500P2 - 018

大気人間環境論 D

北川 徹哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気は人間生活圏を覆っており、人が呼吸し、生存するために必要なものである。一方で、時には脅威となる存在であり、またある時は心地よさやエネルギーをもたらすものでもある。本講義においては、大気の動きと人間生活、社会、都市、環境との関係について多角的に学ぶ。

【到達目標】

1. 大気運動のスケールと性質、ならびに大気と都市環境との関係を説明できる。
2. 大気による災害の種類と、それらの人と社会への影響を説明できる。
3. 気流の人間生活への寄与について説明できる。
4. 上記1～3のうち、少なくとも一つについて定量的に評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で進められる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気の動きと時空間スケール	地球の気流, ENSO
第2回	大スケールの気象による強風と人間環境	季節風, 台風, 風災害
第3回	局地風と人間環境	海陸風, おろし・だし, フェーン, 日本各地・世界各地の局地風
第4回	小スケールの気象による強風と人間環境	竜巻, ダウンバースト
第5回	気流の渦と人間環境	気流の乱れ, 気流の渦と構造物の振動
第6回	強風の統計的性質	大気観測, 最大風速, 再現期待値, 再現期間
第7回	ビル風と人間環境, 風騒音と人間環境	高層建物周辺の風環境, 住環境や風力発電施設における風騒音

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のノートや資料などを用いて予習・復習し、後半に出題される課題に取り組み、レポートにまとめること。

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）：大気と人間生活、社会、都市あるいはエネルギーに関するレポート課題に対し、到達目標1～4に要求される知識がレポートに展開されているか、また、適切かつ詳細な論述がなされているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境流体, 気象社会論, 流体関連振動

<研究テーマ>強風の社会への影響と対策, 気象リスクヘッジ, 数値流体解析

<主要研究業績>屋外イベント入場者数を対象とする気象と日程に関する複合要因分析, 第25回風工学シンポジウム論文集, 2018, pp.121-126. 平均回帰 Ornstein-Uhlenbeck 過程による日最大風速の模擬データの作成, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.73, No.3, 2017, pp.579-592. 淡路花博 2000 に導入された天候デリバティブについての一考察, 第23回風工学シンポジウム論文集, 2014, pp.19-24. Numerical investigation on flow around circular cylinders in tandem arrangement at a subcritical Reynolds number, Journal of Fluids and Structures, Vol.24, No.5, 2008, pp.680-699. 自動車励起ガストエネルギーを利用した発電の試み, 日本風工学会論文集, Vol.32, No.2, 2007, pp.87-92.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The boundary layer of the atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments. In this course, firstly we study about fundamentals on various types of atmospheric phenomena such as ENSO, the typhoon, and the sea breeze, the mountain and valley breeze, the downburst and the tornado, and about their effects on cities and people. Secondly, as an example of the air flow significantly related to the human health, the characteristics of the indoor air are focused on. While causing the pollution contaminant advection, the indoor air flow performs to remain the room environment safe and comfortable.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn the time-space characteristics of various types of atmospheric phenomena,
- B. to study about the wind effects on cities and people,
- C. to understand the system of the indoor air ventilation and
- D. to learn a statistical evaluation on atmospheric environments.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to understand the course content after each class, and to have completed a required assignment. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

SES500P2 - 019

環境工学の基礎 D

浦野 真弥

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

過去から現在の環境問題を俯瞰し、環境科学と環境工学の違い、環境工学の役割を学んだ後、私たちの生活に関連の深い個別の分野について、環境工学の視点から学びます。

学生は、本授業によって、身のまわりの種々の環境問題が何故起きているのかを理解し、それらがどのような要素を含むかを学ぶことができます。また、それを解決する手法としての環境技術やシステムの概略を学びます。

【到達目標】

環境工学の基礎として、大気や室内環境、水環境、土壌環境、廃棄物、悪臭、騒音、振動、化学物質に関わる問題と関連技術や制度について学びます。

授業では特に身近な環境問題を取り巻く要素を理解し、問題が相互に関係し、多面的であることを学びます。また、過去の問題がどのような技術や制度の導入によって解決されたのかが理解できます。さらに現在の状況と課題を理解し、新たな環境問題を捉える方法や解決するための視点を身につけることを目指します。

特に博士後期課程では、基礎的事項の理解に加えて、要素間のトレードオフ関係などの把握から、現在解決されていない環境問題や、今後新たに発生する環境問題に対して、どのようなアプローチが考えられるのかなど、より広い視点で考察ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業では環境に関わる諸問題について、分野を分けて一コマもしくは二コマを目的にパワーポイントを用いて説明します。なお、講義の内容は進行状況によって、変更になることがあります。

資料は前日の夕方までに Hoppii にアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題の背景と種類、環境工学の位置づけ、環境管理の方法、基準、環境技術
第 2 回	大気汚染と室内汚染	歴史、大気汚染物質の原因、健康影響、対策、室内汚染
第 3 回	水環境、上水道、下水道	水資源、水循環、水道水の製造、水質と健康、費用、下水道、下水処理、富栄養化
第 4 回	水質汚染、土壌汚染と管理	有害物質による水、土壌の汚染と管理
第 5 回	悪臭、騒音、振動、資源利用	悪臭、騒音、振動の基礎、測定、対策、資源利用の実態
第 6 回	廃棄物処理とリサイクル	一般廃棄物、産業廃棄物、リサイクル技術
第 7 回	化学物質の利用と管理	化学物質による環境汚染と健康影響、管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備：次回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して概要を掴み、どこかに問題があるか、その原因はどこにあるかを考えてみる。

前回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して、今から出来る対策や改善策を考えてみる。

調査では必ず複数の情報に当たる。考察では他の要素（例えば、経済活動や他の環境要素への影響）についても考える。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

花木啓祐監修、環境工学入門、実教出版

藤倉良、藤倉まなみ著、文系ための環境科学入門 新版、有斐閣
浦野紘平、浦野真弥著、地球環境問題がよくわかる本 改訂版、オーム社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末レポート（100%）で行います。

評価は問題への基礎的な理解度、テーマに対する多角的視点からの要点整理と考察の程度によって行います。

講義は博士前期課程と共通で行いますが、博士後期課程の学生においては、レポートのテーマ条件を変更します。

具体的には、環境に関係するレポートテーマについて、博士前記過程で求める要素の整理、相互の関係の整理に加えて、社会的、経済的、資源的制約などの要素を加えた上で、レポートの作成を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境工学

<研究テーマ>

環境計測、化学物質挙動、廃棄物処理、化学物質安全、リスク評価、におい

<主要研究業績>

投稿論文

1) 浦野真弥、太宰久美子、加藤研太、家庭用柔軟剤等の使用に伴う揮発成分挙動に関する研究、室内環境、25(1)、pp.85-97 (2022)

2) 浦野真弥、浦野紘平、各種低濃度 PCB 廃棄物の量とそれらの PCB 量の推計、環境科学会誌、28 (5)、pp.359-368 (2015)

3) 浦野真弥、加藤研太、浦野紘平、石井誠治、奥村浩、TOC・BOD・COD 測定の種類簡易法の評価と活用、用水と廃水、57 (10)、pp757-764 (2015)

等

学会発表

1) 浦野真弥、太宰久美子、家庭用柔軟剤使用に伴う有機化合物揮発挙動、室内環境学会 2022 年学術大会 (2022)

2) 浦野真弥、太宰久美子、洗濯用製品の連続使用に伴う揮発性物質の挙動解析、第 33 回におい・かおり環境学会 (2020)

3) 浦野真弥、加藤研太、小口正弘、谷川昇、化学物質の大気放出量推計のための産業廃棄物焼却飛灰中重金属と焼却物の関係解析、第 29 回廃棄物資源循環学会研究発表会 (2018)

等

書籍

1) 浦野紘平、浦野真弥、地球環境問題がよくわかる本 改訂版、オーム社 (2023)

2) 浦野紘平、浦野真弥、身近な環境・生活のホントがよくわかる本、オーム社 (2021)

3) 日本水環境学会 (編)、水環境の事典 (一部執筆)、朝倉書店 (2021)

4) 浦野紘平、浦野真弥、日本の環境・人・暮らしがよくわかる本、オーム社 (2019)

5) 浦野紘平、浦野真弥、えっ! そうなの?! 私たちを包み込む化学物質、コロナ社 (2017)

等

【Outline (in English)】

(Course outline)

After learning an outline current environmental issues and a role of environmental engineering, we will learn about individual fields that are deeply related to our lives from the perspective of environmental engineering.

Through this class, students will understand why various environmental problems are occurring around them, and learn what factors they contain. Students will learn environmental technologies and systems as a method to solve it.

(Learning Objectives)

In class, students will understand the factors surrounding environmental issues that are particularly familiar to them, and will learn that issues are interrelated and multifaceted.

Environmental science is the foundation for solving environmental problems. By taking this course, students will be able to understand the environment around them, learn how past problems were solved, and learn about the current situation and challenges.

By understanding past problems and approaches to solving them, students will be able to acquire new perspectives on how to perceive new problems and how to solve them.

(Learning activities outside of classroom)

- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

For the next class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about whether there is a problem somewhere and where the cause lies.

For the previous class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about what you can do from now on.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be done by term-end report (100%).

Evaluation is based on the degree of basic comprehension of the item, and the degree of summary and consideration of the theme from multiple perspectives.

ECN500P2 - 021

環境経済論 D

杉野 誠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。本授業では、以下の3つを最終目的とする。
 ① 環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に経済学を応用できるようにする。
 ② 日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解し、必要とされる政策について理解を深める。
 ③ 博士論文を環境経済学の文脈の中での位置づけられるようになる。なお、環境経済学を学ぶうえでミクロ経済学の基礎的な知識が必要となる。本授業では、関連するミクロ経済学を適宜説明しながら講義を行う。

【到達目標】

経済学の基礎知識と環境問題に対する理解を深めることができる。また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。さらに、博士論文を環境経済学の文脈の中に位置づけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

対面での講義形式を基本とする授業を行います。毎回、講義と関連する課題（小テスト）を実施します。課題（小テスト）の解説を次の授業の冒頭に行います。また、コメントや質問に対する回答も授業の冒頭に行います。

なお、一部の授業ではゲームを行い、学んだ理論と現実の差を体感します。

また、グループディスカッションを通じて、政策の方向性などを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・環境経済学とは ミクロ経済学①（市場とは）	環境経済学を学ぶ際に必要最低限の経済学的知識を解説します。 需要曲線と供給曲線の意味および、市場の機能を解説します。
第 2 回	ミクロ経済学②（余剰分析） ミクロ経済学③（市場の効率性）	消費者余剰、生産者余剰、社会的総余剰について解説します。 市場の効率性・万能性について解説します。
第 3 回	公共財とは 外部性（様々な費用）	公共財の定義およびどのような問題があるのかを解説します。 平均費用、平均可変費用、限界費用など費用の概念を解説します。
第 4 回	外部経済（余剰分析） 外部不経済（余剰分析）	正の外部性について解説し、市場にどのような影響をもたらすかを解説します。 負の外部性について解説し、市場にどのような影響をもたらすかを解説します。
第 5 回	外部不経済の内部化	外部不経済が存在する場合、社会的に望ましい状態は何かを解説します。
第 6 回	コースの定理	当事者間の交渉によって環境問題が解決することができることを解説します。

第 7 回	政策による環境問題の解決 効率的な削減（ビッグ税と排出量取引）	どのような環境政策が有効かを解説する。また、それぞれの政策の利点・欠点について議論する。
第 8 回	ゲーム①：排出量取引制度を理解する ゲーム②：排出量取引制度におけるプレーヤーを理解する	ゲームを通じて排出量取引制度の基本的な制度設計について学ぶ。
第 9 回	ゲーム③：排出量取引制度における費用軽減措置を理解する ゲーム④：排出量取引制度のまとめ	ゲームを通じて排出量取引制度の導入がもたらす様々な問題に対処する応用的な制度設計について学ぶ。
第 10 回	地球温暖化①：問題の所在 地球温暖化②：京都議定書	温暖化政策の基礎的な知識を解説する。また、京都議定書第 1 約束期間までの状況を解説する。
第 11 回	地球温暖化③：ポスト京都 地球温暖化④：各国の対策および事前評価	ポスト京都議定書（パリ協定まで）について解説し、各国の気候変動政策および事前評価について解説する。
第 12 回	廃棄物問題①：ごみ処理有料化政策 廃棄物問題②：自治体の取り組み	ごみ処理有料化政策が何故必要なのか、何を意図しているのかを解説する。また、自治体の取り組みと理論を比較する。
第 13 回	放射性廃棄物問題①：低レベル放射性廃棄物 放射性廃棄物問題②：高レベル放射性廃棄物	放射性廃棄物の最終処分問題について米国の取り組みを紹介しながら解説する。また、日本に必要な方策を考える。
第 14 回	大気汚染①：固定排出源の規制 大気汚染②：移動排出源の規制	日本における大気汚染対策を紹介し、今後の方策について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。指定したテキストおよび参考書の該当する箇所を事前に読み、授業の準備を行ってください。また、課題を行い、内容の理解度を深めてください。

【テキスト（教科書）】

『入門 環境経済学－環境問題解決へのアプローチ』, 日引聡・有村俊秀, 中央公論新社 (2002)

【参考書】

Richard Porter The Economics of Waste, Routledge, 2002.

【成績評価の方法と基準】

小テストおよび最終課題を総合的に評価します。具体的には、小テスト 45%、最終課題 55%の合計 100%満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

理論の理解を深めるため、排出量取引制度のゲームを引き続き実施します。また、練習問題の難易度を複数準備する。例えば、公務員試験の過去問など。

【学生が準備すべき機器他】

電子ファイル（講義資料や追加資料など）を配布いたします。パソコン（タブレット）などをインターネットに接続できるようにしてください。

【その他の重要事項】

特定の時間帯にオフィスアワーを設定していませんが、授業等がなければいつでも対応いたします。事前アポをメールで取ってください（makoto.sug@gmail.com）。質問などがあつた場合、連絡ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境経済学、応用ミクロ経済学
 <研究テーマ>環境経済学
 <主要研究業績> Makoto Sugino, Toshi H. Arimura, Richard Morgenstern "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries", Energy Policy, 62 1254-1267, 2013 年

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

Economic growth has increased the burden of environmental impacts in various dimensions. In this course, we will apply microeconomic theory to environmental issues and consider what kind of policy/regulations are needed to address these issues. This course has three objectives; 1) understand the “nature” of environmental issues and apply economics to counter these issues, 2) understand Japanese environmental policies/regulations and consider further, what kind of actions are needed and 3) position doctoral dissertations within environmental economics context. This course will also discuss microeconomic theory because it is essential in understanding environmental economics.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after class. Your study time will be more than two hours for each class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in class will be decided based on the following:

Take-home test 45%, Term-end assignment 55%.

SOM500P2 - 023

公衆衛生研究 D

宮川 路子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公衆衛生学は、疾病の治療を目的とする臨床医学とは異なり、疾病の予防を目的とし、さらに健康増進を図る科学技術である。人々を病気から守り、肉体的・精神的に健康な状態で社会生活を送れることを目的としている。これは人類が求める最も基本的かつ重要なサステナビリティである。現代社会には、ありとあらゆる健康問題が山積している。私たちが 21 世紀を健康に生き抜いていくためには、これらの健康問題について、適切な知識を持ち、情報の取捨選択を行っていく必要がある。

本講義では、学生が健康意識を高め、よい生活習慣、予防のためのノウハウを学び、健康寿命の延長を目的として公衆衛生の立場から幅広い知識を身に付けていく。

【到達目標】

本講義では、超高齢社会を生きる社会人にとって必要な健康知識と問題解決能力を習得する。すべての社会問題は人の健康と密接な関係がある。地球上における持続可能性は結局のところ人類が健康に生活していくことを目的としたものがある。

博士課程における研究において人と関わりを考慮する際、予防医学、疫学の知識を持つことは非常に重要である。たとえ、研究テーマが医学と直接かわかりがないものであったとしても、視点を変えてみると新たな問題点、解決策の発見につながる可能性がある。

本講義では、幅広い知識を身につけるため、様々な領域の専門家を招いて最先端の知識を得るとともにディスカッションを行って理解を深める。医療倫理についての問題をはらむ映画を視聴し、ディスカッションを行う。

疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査についても実例から方法論を学び、研究に活用する手法、更に自分自身が健康に生きて行くための知識、能力を身につけていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

少子高齢社会において多様化する健康問題、医療費高騰、各種保健行動などについて議論するとともに、疫学、統計学的、社会学的手法を用いた実態調査の例を論文より学び、対策を講じていく過程を学習する。また、疫学調査、産業保健、などさまざまなテーマを取り上げて専門家を招き、最先端の知識を得ると同時にディスカッションを行って、現代社会における健康、生命についての問題点を浮き彫りにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 予防医学について	講義を受講するための心構え。 現代社会において必要とされる予防医学の基礎的知識を学ぶ。
第 2 回	分子整合栄養療法とメンタルヘルスケア、水素療法	健康の基本は栄養であり、細胞内の栄養バランスを適切に整えることにより、からだどころの健康を保つことができることを学ぶ。さらに、栄養療法の効果を高めるための水素療法について学ぶ
第 3 回	外部講師講義（曼荼羅ワークショップ）	人生の曼荼羅で自分の今までを振り返り、今後に生かすワークショップを行う

第 4 回	外部講師講義（日本の医療の問題点について）	個の医療から集団の医療へというテーマで学ぶ。
第 5 回	外部講師講義（死生学について）	人の死について考えることはいかに生きるかを考えることである。死生学の専門家による話を聴く。
第 6 回	医療と倫理	医療界に発生する様々な事件を参照し、生命倫理の問題点について学ぶ。映画の視聴。
第 7 回	研究発表、まとめ	受講者による健康に関わるテーマの研究発表・ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。講師により事前配布されるテキストや資料、健康に関連した文献を事前に読むこと、さらに講義の後にも学習内容を復習し、自己の健康管理に役立てるよう努力することをお願いします。

【テキスト（教科書）】

人生 100 年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子 サンライズパブリッシング

【参考書】

こころの超整理法 宮川路子、青柳浩明

【成績評価の方法と基準】

出席、講義中のディスカッション、最終回の発表とレポートによる。
平常点：50%
発表：30%
レポート：20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書に基づく基本的な知識の習得範囲を広げるとともに、専門家の講義とディスカッションをさらに充実させていく。

【学生が準備すべき機器他】

最終回の発表時にレジュメを準備する。

【その他の重要事項】

外部講師の講義については、依頼する講師の都合により、変更することがある。

【担当教員の専門分野等】

公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学、統合医療、統計学
<研究テーマ> 栄養と健康、就労者のストレスと健康
<主要研究業績> Subjective social status: its determinants and association with health in the Swedish working population (the SLOSH study)
The European Journal of Public Health 2012 年
ビタミン D の健康効果 人間環境論集 19 巻号 79-101
日本の医療を含むサービス産業における過重労働の軽減化における課題：国民はサービスの質・量の低下を甘受することができるか
人間環境論集 20 巻 1 号 1-17
<https://eiyouryohou.com/>

【Outline (in English)】

【Course outline】 Public health, unlike clinical medicine aimed at treating diseases, is science and technology aiming at the prevention of diseases and promoting health. It aims to protect people from diseases and to live social life in a physical and mental healthy state. This is the most fundamental and important sustainability that mankind desires. In modern society, all kinds of health problems are piled up. In order to live healthy, it is necessary for us to have appropriate knowledge about these health problems, and to select information.

【Learning Objectives】 In this lecture, students learn about healthy lifestyle and know-how for disease prevention, and wear broad knowledge from the viewpoint of public health for the purpose of prolonging healthy life span.

【Learning activities outside of classroom】 Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria】 Based on attendance, discussion during the lecture, presentation and report at the final session.

Attendance points: 50%.
Presentation: 30%.
Reports: 20%.

LAW500P2 - 026

国際環境法 D

岡松 暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成・発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。博士論文執筆のために必要な先行研究や方法論についても検討する。

【到達目標】

国際社会における環境問題の本質を国際法的側面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。判例については、受講者による発表と全体討論も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の形成と展開	国際環境法へのアプローチの仕方、国際環境問題の特徴の変遷とそれに対応した国際環境法の生成について概観する。
2	国際環境法の性質、国際環境法の制度化	国際環境法の性質とそれに対応した定立形式、制度化について検討する。
3	国際環境法の手続的義務、国際環境法上の義務の履行確保	国際環境法に特徴的に見られる手続的義務と、国際環境法上の義務の履行確保制度について考察する。
4	受講者による発表と討論①	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
5	受講者による発表と討論②	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
6	受講者による発表と討論③	受講者の関心のある国際環境条約についての報告と、それについての全体での討論を行う。
7	日本と国際環境問題	日本に大きな影響のある国際環境問題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2023 年。（旧版でも可）

その他、適宜講読文献を指示する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020 年。

森川幸一他編『国際法判例百選 [第 3 版]』有斐閣、2021 年。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

個別課題の発表、討論への参加、期末レポートによる。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

受講者の人数により、授業の方法を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際法の履行確保、国際環境法、国際原子力法

<主要研究業績>

『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所の ALPS 処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022 年）、「ロンドン条約 96 年議定書の遵守手続」（2022 年）、「SDGs と生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022 年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017 年）等。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases. In order to write the Ph. D. thesis, students are required to consider the prior researches and methodology.

Students are required to study at least 2 hours before and after the class.

The course grade will be based on final paper (50%), presentations (30%), and discussions (20%).

ARS500P2 - 027

国際環境協力論 D

藤倉 良

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発途上国が持続可能な開発を達成するために、日本や国際機関はどのような支援を実施しているのか、また、今後、どのように支援を行うべきなのかを学ぶ。これに基づいて、開発援助の実践的戦略を検討する。

【到達目標】

下記の事例について学習し、インフラ開発に伴う社会環境配慮と環境プロジェクトの相違を理解したうえで、世界銀行やアジア開発銀行、日本のODAがどのような仕組みで動いているかを理解する。その上で、今後の開発援助戦略について議論し、方向性を見定める。

- 過去に行われたダム建設に伴う住民移転から得られた教訓
- 工業化に伴う公害対策の先例としての日本の公害経験
- 開発途上国の資源環境問題の実例としての中国の諸問題
- 気候変動対策における援助の方向性

これらをベースにして、持続可能な開発に向けた援助の方向性を見据える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を進める。パワーポイントは Hoppii にアップする。

国際協力の現場で働く実務家にプレゼンテーションを行って頂く予定である。海外勤務の方にはオンラインで行って頂く。このため、日程はプレゼンターの都合によるので、授業の全体スケジュールはそれに応じて変更される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	国際協力とODAの仕組み
第2回	日本の環境協力の歴史	1970年代以降の日本の環境協力
第3回	開発途上国の環境政策1	開発途上国で環境政策がどのように進展してきたか。
第4回	開発途上国の環境政策2	開発途上国の環境政策にどのような課題が残されているか。
第5回	日中環境技術協力	JICAを通じた協力事例
第6回	中国の資源と環境	水資源、エネルギー、公害などについて
第7回	アジアの事例	バングラディッシュなどの事例研究
第8回	気候変動対策1	緩和
第9回	気候変動に関連する技術協力	緩和策に関連する事例
第10回	気候変動対策2	適応
第11回	日本の公害経験1	国の政策
第12回	日本の公害経験2	地方公共団体の政策
第13回	環境配慮	セーフガードポリシー
第14回	住民移転	ダムによる住民移転と生活再建の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読むなどの、本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準である。

【テキスト（教科書）】

講義中に資料を指示する。

【参考書】

井村秀文・松岡俊二・下村恭民編著 『環境と開発』 日本評論社

【成績評価の方法と基準】

講義中の議論（30%）及びレポート（70%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くの事例を紹介することとする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

環境システム科学、国際環境協力

【担当教員の関連する業績】

- Ryo Fujikura (2022) Financing in Climate Change Adaptation, Chapter 2, (Ed: Ishiwatari M. and Sasaki D.) Financing Investment in Disaster Risk Reduction and Climate Change Adaptation - Asian Perspectives, Springer, Singapore, 19-36, https://doi.org/10.1007/978-981-19-2924-3_2
- Taro Katsurai, Daisuke Sasaki, and Ryo Fujikura (2022) What Determines the Time Efficiency of the Purchasing Phase of Public Procurement in Developing Countries: Evidence from Japanese ODA Loans, Working Paper No.229, March 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_229.html
- Masato Kawanishi, Nela Anjani Lubis, Hiroyuki Ueda, Junko Morizane and Ryo Fujikura (2021) From Project to Outcome: the Case of the National Greenhouse Gas Inventory in Indonesia, Working Paper No.225, December 2021, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/workingpaper/wp_225.html
- 川西正人、藤倉良、加藤真、森實順子 (2021) 国家温室効果ガスインベントリ実施体制の比較研究—日本・インドネシア・ベトナム・タイの事例から—、環境科学会誌 34 (3)、124-138、10.11353/sesj.34.124
- 土岐典広、藤倉良 (2021) 国際協力機構と中国政府機関による日中企業の連携促進事例—日本のODA 出口戦略に向けた示唆—、公共政策志林、第9号、217-236
- Masato Kawanishi, Makoto Kato, Ryo Fujikura (2021) Analysis of the Factors Affecting the Choice of Whether to Internalize or Outsource the Task of Greenhouse Gas Inventory Calculations: The Cases of Indonesia, Vietnam, and Thailand, International Journal of Sustainable Development and Planning, Vol. 16, No. 1, February, 2021, pp. 145-154, doi: 10.18280/ijstdp.160115

【Outline (in English)】

Students will learn what kind of assistance Japan and international organizations are providing to developing countries to help them achieve sustainable development, and how such assistance should be provided in the future. Based on this, practical strategies for development assistance will be examined.

ARS500P2 - 028

国際協力フィールドスタディ D

岡松 暁子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際組織を訪問し、インタビュー調査、国際裁判の傍聴等を通して、国際協力の実体を考察する。

【到達目標】

国際協力の理論と現地調査の手法を学び、実践を通して習得する。報告書の作成を通じて、論文執筆の基礎となる文書作成能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

文献講読と現地調査によって、国際協力のあり方を検討する。事前学習では、理論に関する文献講読、事前学習の発表、現地調査準備、報告書作成準備を行う。現地調査では、在外日本公館や国際機関を訪問する。帰国後に受講者による報告書を作成する。オランダ・ハーグとドイツ・ハンブルクを予定しているが、受講者の関心によって変更もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	授業の趣旨、現地調査先、スケジュールの確認
第 2 回	事前講義	理論についての講義
第 3 回	事前準備	文献解題
第 4 回	事前準備	文献解題
第 5 回	事前準備	事前発表
第 6 回	事前準備	事前発表
第 7 回	現地調査準備 1	スケジュールの確認 質問票の作成
第 8 回	現地調査準備 2	事後報告書作成の分担
第 9 回	現地調査 1	関係機関の訪問
第 10 回	現地調査 2	関係機関の訪問
第 11 回	現地調査 3	関係機関の訪問
第 12 回	現地調査 4	関係機関の訪問
第 13 回	現地調査 5	関係機関の訪問
第 14 回	現地調査 6	調査結果のとりまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地事情の調査と発表、事後報告書の作成。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

事前・事後授業への参加状況（50%）と報告書（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指示する。

【その他の重要事項】

受講者が一定数以上の場合に開講する最少受講者数を設けることがある。詳しくは秋学期までに Hoppii 等で周知する。講義及び現地調査の日程は、初回の講義時に受講者と相談の上決定する。

現地調査に必要な英語力を必要とする。

【費用負担】

現地調査に必要な旅費（往復航空運賃、宿泊費、食事代等）はすべて自己負担となる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際法

<研究テーマ>国際海洋法、国際原子力法、国際環境法

<主要研究業績>

『ケースブック国際環境法』（東信堂、共編著）、「福島第一原子力発電所の ALPS 処理水の海洋放出にかかる諸問題」（2022 年）、「ロンドン条約 96 年議定書の遵守手続」（2022 年）、「SDGs と生物多様性：海洋資源に焦点を当てて」（2022 年）、「国際原子力機関の保障措置」（2017 年）等。

【Outline (in English)】

Participants will visit international organizations and examine the nature of international cooperation through interviews and hearing of international trials.

Participants are required to study at least 2 hours before and after the class.

The course grade will be based on final paper (50%), participation (30%), and discussions (20%).

CUA500P2 - 029

ヒューマン・エコロジー D

高橋 五月

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒューマン・エコロジーは環境に関する文化的、社会的側面について学ぶ領域である。授業では、主に文化人類学的研究をもとに理論および事例を学びながら、環境と人間の関係について意見交換し、検討する。本授業の目的は、文化人類学及び関連分野による先行研究を参考にしながら、学生が自らリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成することである。

【到達目標】

本授業の到達目標は、文化人類学及び関連分野の先行研究を講読し、意見交換を行うこと、また各自が授業で講読する文献を参考にしながらリサーチクエスチョンを立て、リサーチペーパーを作成するという大学院生として必要なアカデミックスキルを獲得することである。加えて、博士課程の履修者においては、本授業での学びを博士論文研究に効果的に反映させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド形式を用いつつ、アクティブラーニングを取り入れた方式で進める。具体的には、学生は講義録画を視聴することに加え、必須講読文献や講義内で出題される質問に対するコメントを Hoppii 掲示板にて提出することにより、履修者間の意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	環境人類学の系譜 (1)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第 2 回	環境人類学の系譜 (2)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第 3 回	環境人類学の系譜 (3)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第 4 回	環境人類学の系譜 (4)	環境に関する人類学的研究についての歴史的流れと理論を学び、ディスカッションで理解を深める
第 5 回	環境人類学の事例研究 (1)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする
第 6 回	環境人類学の事例研究 (2)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする
第 7 回	環境人類学の事例研究 (3)	最近の事例研究を読み、ディスカッションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業時間外の学習には、文献を事前に読む、リアクションペーパーを書く、発表準備、授業内で示される課題（レポート、演習問題）に取り組むことを含みます。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

随時、授業支援システムにアップする。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー (40%)、発表 (20%)、リサーチペーパー (40%)。リサーチペーパーは各自の博士論文の 1 章にあたる論文を想定して執筆すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

講義、掲示板、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て Hoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境人類学、海洋人類学、震災人類学

<研究テーマ> 日本の沿岸漁業と近代化、震災と未来論、水族館の人類学

<主要研究業績> 『To See Once More the Stars: Living in a Post-Fukushima World (星の降るとき、3・11後の世界に生きる)』(共編 The New Pacific Press, 2014)、Hatchery Flounder Going Wild: Authenticity, Aesthetics, and Fetishism of Fish in Japan. Food and Foodways 22:5 - 23 (2014)、他

【Outline (in English)】

"Human Ecology" is a graduate seminar to learn cultural and social dimensions of environmental issues through working with literatures in environmental anthropology and related studies. The main goal of this seminar is to help student to obtain basic knowledge of environmental anthropology and related areas and their contributions to our understanding of human-environment relations. For students of the doctor program, the main goal is also to appropriately apply the knowledge that they learn through this seminar for their own dissertation research projects.

Students will be expected to proactively participate in class and to prepare for and review classwork daily. An expected weekly study time for this seminar is four hours on average. A final grade will be based on weekly commentaries (40%), presentation (20%), and research paper (40%).

HIS500P2 - 030

サステナビリティ学事例研究 D I

辻 英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ社会国家の発展の歴史を、ボランティアの観点から学ぶ。
 社会福祉史においては、国家による上からの社会政策だけでなく、民間の中間団体や個人的なエージェントの下からの活動を重視し、現代の社会保障体制を両者が一体となった「福祉の複合体」として理解する見方が注目されている。
 この授業では、ドイツの社会福祉の歴史を、その「福祉の複合体」の担い手としてのボランティアに注目しながら再構成していく。国家が独占的に社会保障の担い手となった時期はかなり遅く、ドイツにおいてはようやく 20 世紀初頭のことにすぎない。それまで社会福祉のかなり部分は都市自治の枠内で行われ、またそれは市民の自発的なボランティアな活動に大部分依存していたのである。また 20 世紀の末以降、社会福祉のみならず民主主義の発展や社会的課題の解決におけるボランティアの役割への再評価が進み、市民参加を拡大しようとする政策が大々的に展開されている。
 このようにボランティアを軸としてドイツ社会国家を検証することから、現在社会保障制度改革が急務となっている日本社会の現状と課題の分析にとって有意義な情報が得られるだろう。

【到達目標】

ドイツの社会福祉の歴史と現状を理解し、自分の研究への示唆を得る。

- ドイツ社会国家の歴史的形成過程について理解する。
 関連する法律や制度だけでなく、政治、行政、サービス提供者（企業、第三セクター）、福祉専門職やボランティア、そしてクライアントなどの相互作用をふくむダイナミックな関係として浮かび上がらせる。
- ドイツ社会国家の現在の姿について理解する。
 1990 年代末以降の改革で大きく変化しつつある全体像を理解したうえで、いくつかの分野について詳細に検討する。
- 日本および他国・他地域との比較をおこなう（ディスカッション）。
 ドイツ社会国家の歴史的発展のそれぞれのステージをその問題点を含めて検討した上で、さらに参加者の関心のある地域や国との比較をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、時代順に並べた 7 つのモジュールにより構成される。
 モジュールごとに講義と資料講読、文献講読を組み合わせるほか、参加者とディスカッションをおこない、その中で情報を補足し理解を深めていく。その際、他の国や地域とくに日本の状況との比較について、参加者からの問題提起・知識提供を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ボランティアを中心に社会国家を考えることの意味について。
第 2 回	モジュール①ボラン ティアの誕生	中世から近世までの都市自治や市民のあいだの協会活動について。
第 3 回	モジュール② 19 世紀 ドイツにおけるボラン タリズムの展開 その 1	19 世紀初頭のドイツにおける都市自治の再編と市民社会の成立について。

第 4 回	モジュール② 19 世紀 ドイツにおけるボラン タリズムの展開 その 2	市民衛兵や救済行政など公的な領域や、協会や結社など民間の領域における 19 世紀市民層の活動について。
第 5 回	モジュール③ 20 世紀 国家とボランティア その 1	第 1 次世界大戦をきっかけにした社会政策の局面転換と社会国家概念の登場について。
第 6 回	モジュール③ 20 世紀 国家とボランティア その 2	ヴァイマル時代からナチ期にかけて、国家への権力集中が進行した時代のボランティアのあり方について。
第 7 回	モジュール④戦後ドイ ツ社会における社会 国家の構築とボラン ティア その 1	戦後西ドイツにおける国家主導下の社会福祉の整備について。
第 8 回	モジュール④戦後ドイ ツ社会における社会 国家の構築とボラン ティア その 2	戦後ドイツ社会国家のメカニズム内にボランティアがどのように組み込まれていったのかを扱う。
第 9 回	モジュール⑤戦後西ド イツ社会の価値変容と 「新しい名誉職」	高度経済成長がもたらした物質的繁栄が人びとの生活や価値観の変化を通じてボランティアのあり方にいかに影響を与えたか。
第 10 回	モジュール⑥社会国家 の危機 その 1	1970 年代の経済不況を背景にそれまでの西ドイツ社会国家体制への批判が強まった。その批判内容を分析する。
第 11 回	モジュール⑥社会国家 の危機 その 2	1980 年代になると社会国家の危機脱出のシナリオとしてのボランティア活動が注目されるようになる。その経緯を分析する。
第 12 回	モジュール⑦統一ドイ ツにおける参加政策と 「市民的参加」 その 1	1990 年代末から本格化した連邦政府によるボランティア活性化政策の展開について。
第 13 回	モジュール⑦統一ドイ ツにおける参加政策と 「市民的参加」 その 2	「市民的参加」および統一ドイツにおける各種ボランティア活動の実情を明らかにする。
第 14 回	結論 現代ドイツ市民 参加の課題と展望	2016 年の難民危機、2020 年以降のコロナ危機の対応に、ドイツのボランティア組織はいかに関与しているのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読み、ディスカッションに参加する準備をすること。また、自分の研究や経験をふまえてディスカッションに参加し貢献することができるよう、準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜コピーを配布する。

【参考書】

辻英史／川越修編著『歴史のなかの社会国家』山川出版社、2016 年。
 池田浩士『ボランティアとファシズム—自発性と社会貢献の近現代史』人文書院、2019 年。
 近藤正基『現代ドイツ福祉国家の政治経済学』ミネルヴァ書房、2009 年。
 坂井晃介『福祉国家の歴史社会学—19 世紀ドイツにおける社会・連帯・補完性』勁草書房、2021 年。
 西田慎／近藤正基編著『現代ドイツ政治』ミネルヴァ書房、2014 年。
 福澤直樹『ドイツ社会保険史—社会国家の形成と展開』名古屋大学出版会、2012 年。
 福田直人『ドイツ社会国家における「新自由主義」の諸相——赤緑連立政権による財政・社会政策の再編』明石書店、2021 年。
 ほか、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加（40%）、学期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 歴史学（ドイツ近現代史）

<研究テーマ> 市民社会の歴史、ドイツ社会国家の歴史

<主要研究業績> 『歴史のなかの社会国家』（川越修と共編著）山川出版社、2016年；『社会国家を生きる』（川越修と共編著）法政大学出版局、2008年。

【Outline (in English)】

The course deals with the historical development of the German welfare state (Sozialstaat), from its beginning in the late 19th to the 21th century. Main focus will be laid on its character as "welfare mixture", which means dynamic cooperative interactions between governmental authorities, welfare organizations, and actors of the civil society (Volunteers) in building and reforming the social security system.

The class consists of seven modules arranged in chronological order.

Each module will consist of a combination of lectures, readings, and literature readings, as well as discussions with participants to supplement the information and deepen understanding.

Participants are expected to raise questions and provide knowledge about comparisons with the situation in other countries and regions, especially Japan.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be decided based on participation in discussions (40%) and term-end report (60%).

GEO500P2 - 031

サステナビリティ学事例研究 D II

杉戸 信彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地震災害は、相対的に低頻度ではあるが発生した場合の影響が大きく、地域社会の持続可能性を考える重要な鍵のひとつとなる。本事例研究では、土地条件評価と地震発生予測の現状と課題を検討し、今後の土地利用や社会基盤のあり方を考える。

【到達目標】

日本列島における土地条件評価と地震発生予測を説明できる。
土地利用や社会基盤の課題を具体的に記述し、解決案を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連している。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式。一部で図上作業も実施する。
リアクションペーパー等からポイントを選定し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地形と災害	日本列島の地形環境について自然地理学的な視点から概観する。地理院地図の概要を理解する。
第 2 回	地形調査法と実習	変動地形と古地震の調査法を概観したのち、活断層の位置情報を知るための地形判読実習を実施する。
第 3 回	土地条件評価と実習	地形と地質、災害脆弱性、地域危険度などについて検討を行い、理解を深めるため机上作業を行う。
第 4 回	地震発生予測	地震発生繰り返しモデルや長期評価について検討を行う。
第 5 回	地震と活断層	活断層分布とその地域性、歴史地震、予測などについて検討を行う。
第 6 回	プレート境界の地震	プレート境界の地震に関し、地域性、歴史地震、予測などについて検討を行う。
第 7 回	土地利用と社会基盤	災害危険区域や高台移転、防潮堤、建築基準など、土地利用および社会基盤に関わる話題について検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末レポート（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学、自然災害

<研究テーマ>変動地形、活断層、地震、土地条件

<主要研究業績>

1) 杉戸信彦, 2014, 大地震の歴史とメカニズムを捉えるー活断層への地理学的アプローチー, 木村周平・杉戸信彦・柄谷由香編, 「災害フィールドワーク論」, FENICS100 万人のフィールドワーカーシリーズ 5, 古今書院, 212p, 132-149.

2) 杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘, 2015, 津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布, 地学雑誌, 124, 157-176. doi: 10.5026/jgeography.124.157

3) Sugito, N., H. Sawa, K. Taniguchi, Y. Sato, M. Watanabe, and Y. Suzuki, 2019, Evolution of Riedel-shear pop-up structures during cumulative strike-slip faulting: A case study in the Misayama-Godo area, Fujimi Town, central Japan, Geomorphology, 327, 446-455. doi: 10.1016/j.geomorph.2018.11.026

【Outline (in English)】

Risk management for recurrent earthquake disasters is a key to improve social resilience, which supports future sustainable society, because earthquakes cause serious damages although their frequency is not high. We examine land-condition evaluation and long-term earthquake prediction, in order to propose future land use as well as to suggest how to use social infrastructures.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain land-condition evaluation and long-term earthquake prediction in the Japanese islands, and (2) to explain issues and propose ideas for land use and social infrastructures. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final report (70%).

LAW500P2 - 034

環境ガバナンス D II

野村 摂雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府以外の主体も一定の役割を担う環境保全のあり方について、その必要性と課題とを実際の環境問題に照らしつつ学ぶ。

【到達目標】

環境問題について客観的・多面的に理解し、自身の知見を踏まえて解決案を構築できる。

日本語及び英語の関連文献を読み、その内容を分析・評価できる。自身の理解を論理立てて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

関連文献の講読、担当者による報告、参加者によるディスカッション、課題（レポート）の作成。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、報告の分担、概論など。
第 2 回	環境ガバナンスの理論 (1)	邦語文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第 3 回	環境ガバナンスの理論 (2)	邦語文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第 4 回	環境ガバナンスの理論 (3)	邦語文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第 5 回	環境ガバナンスの理論 (4)	英字文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第 6 回	環境ガバナンスの理論 (5)	英字文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第 7 回	環境ガバナンスの理論 (6)	英字文献より環境ガバナンスの理論及び実践例を学ぶ。
第 8 回	日本の環境問題 (1)	日本の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第 9 回	日本の環境問題 (2)	日本の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第 10 回	日本の環境問題 (3)	日本の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第 11 回	地球規模の環境問題 (1)	地球規模の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第 12 回	地球規模の環境問題 (2)	地球規模の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第 13 回	地球規模の環境問題 (3)	地球規模の環境問題を取り上げ、環境ガバナンスの観点から考察を行う。
第 14 回	総括	環境ガバナンスの総括として今後の展望を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Normally you need two hours for preparation and review respectively.

【テキスト（教科書）】

授業時に指示

【参考書】

授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（報告及びディスカッション）50 % + 期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

環境法、行政法、海事法

<研究テーマ>

国際法の国内的実施

<主要研究業績>

『演習ノート環境法』（法学書院、2010 年）

「欧州連合（EU）における海洋環境保全法制」環境法研究 14 号（2022 年）1 頁以下

「資源管理法としての環境法」小賀野晶一・黒川哲志編『環境法のロジック』（成文堂、2022 年 175 頁以下

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the theory, necessity and challenges of the environmental governance through some environmental issues both in Japan and the world.

Learning objectives are:

-to understand environmental issues from objective and multilaterally point of view, and construct a possible solution based upon your own knowledge;

-to read related articles written in Japanese/ English and analyze/ evaluate those contents; and

-to explain your thoughts logically.

Learning outside of class hours are:

-Normally you need two hours for preparation and review respectively. Grading criteria are:

-reporting and discussion at class (50%); and

-term-end essay (50%).

ECN500P2 - 035

環境ガバナンス D III

湯澤 規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」と「農」と「地域」をキーワードとして、その関係性を歴史的、社会的に検討します。「自然環境」、「社会環境」の両側面から「環境」を捉え、具体的な事例から持続可能な社会のしくみについて考えます。

【到達目標】

食と農と地域の歴史を理解し、環境を論じる基礎的知識と視角を身につけます。文献講読および具体的な事例を通して、現代社会の課題と今後の展望を考察することを目指します。以上を通して、各自の研究テーマを相対化し、幅広い視野から議論できる力を身につけることを最終的な到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連している。

【授業の進め方と方法】

講義を中心としつつ、ディスカッションペーパーにもとづく議論を適宜織り交ぜて、考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	食と農を論じる視点
第2回	問題提起	食と農を論じた近年の研究成果の検討
第3回	文献講読（1）	食と農に関わる文献講読と討論
第4回	文献講読（2）	食と農に関わる文献講読と討論
第5回	文献講読（3）	食と農に関わる文献講読と討論
第6回	文献講読（4）	食と農に関わる文献講読と討論
第7回	総括と展望	各自の研究課題との関連について総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。具体的には、課題文献を事前に予習し、報告後のディスカッションの準備をしてください。報告者は事前にレジユメを作成し、報告当日は全体に共有できるように準備して下さい。

【テキスト（教科書）】

今のところ、下記の文献を候補としているが、参加者との相談で決定する。

- ・河上睦子『「人間とは食べるところのものである」―「食の哲学」構想』社会評論社、2022年
- ・キャロル・ヘルスとスキー著、小田原琳、秦泉寺友紀、山手昌樹訳『イタリア料理の誕生』人文書院、2022年

【参考書】

- ・内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書、1971年
 - ・鶴見和子『内発的発展論の展開』筑摩書房、1996年
 - ・カール・ポランニーほか『経済の文明史』ちくま学芸文庫、2003年
 - ・宇沢弘文『人間の経済』新潮新書、2017年
 - ・矢ヶ崎典隆・森島齊・横山智編『トピックス地誌3 サステイナビリティ』2018年、朝倉書店
 - ・湯澤規子『胃袋の近代―食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
 - ・湯澤規子『「おふくろの味」幻想―誰が郷愁の味をつくったのか』光文社新書、2023年
- その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告（50%）と最終レポート（50%）で評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。具体的には主体性、独自性、堅実性に基づいて評価します。テーマについては、講義の初回で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者それぞれの問題意識を深められるように、ディスカッションの時間を活用したいと思います。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域> 地域経済学、日本近現代史、人文地理学
- <研究テーマ> 地域づくりの理論と実践、食と農と暮らしの地域経済学、女性と家族の近現代史
- <主要研究業績>
 - ・『「おふくろの味」幻想―誰が郷愁の味をつくったのか』（単著、光文社新書、2023年）
 - ・『7袋のポテトチップス―食べるを語る胃袋の戦後史』（単著、晶文社、2019年）
 - ・『胃袋の近代―食と人びとの日常史』（単著、名古屋大学出版会、2018年）
 - ・『在来産業と家族の地域史―ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
 - ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ―地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
 - ・「地域づくりの系譜―山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will examine this relationship from a historical point of view using "food", "agriculture" and "region" as keywords. We will consider the "environment" from both the "natural environment" and "social environment" and think about the structure of a sustainable society from various cases.

◆ Learning Objectives

Students will gain an understanding of the history of food, agriculture, and local communities, and acquire the basic knowledge and perspectives to discuss the local environment. The course aims to examine the issues and future prospects of contemporary society through literature reading and specific case studies.

◆ Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, please read the assigned literature carefully, prepare a resume, and discuss the issues.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on lecture participation and report (50%) and final report (50%). Specifically, evaluation will be based on initiative, originality, and solidity. The theme will be presented at the beginning of the lecture.

